

手縫いで作る

HAND SEWING LEATHER CRAFT
FOR BIKER

男の革小物

[バイカー編]

STUDIO TAC CREATIVE

手縫いで作る HAND SEWING LEATHER CRAFT
FOR BIKER

男の革小物 [バイカー編]

C

7

8

10

14 草

CONTENTS

7 革の基本と工具

8 革についての基礎知識

- 8 部位の名称と繊維方向／革の単位
- 9 色の変化について／保管方法について／購入時のポイント
芯通し着色について

10 革の種類と主な用途

10 牛 革

スペシャルレザー／ノーベルレザー

11 ティーポ／サドルレザー／グレージングベンズ

ライダーレザー／ラティゴロールコート

グローブレザー／色牛バルケッタ

12 鹿 革

鹿革スモーク／鹿革ヌバック

鹿革エルクスキン

12 その他の革

スティングレイ／スティングレイ(連石エイ)

スティングレイ(吟スリ)／蛇

13 オーストレッグ／うさぎ

13 なめしについて

13 焼き印やシワについて

14 革細工に必要な工具と材料

25 レザークラフトの基本技法

26 製作技法の基本

26 ①型紙の製作

27 ②革の準備

28 ③裁断線を引く

29 ④革を裁断する

32 ⑤ヘリを落とす

34 ⑥コバと床面の処理

36 ⑦マチの製作

38 ⑧革の接着

40 ⑨縫い線を付ける

42 ⑩ヒシ目打ちを打つ

45 ⑪パーツの縫い合わせ

50 ⑫ハトメ抜きで穴を空ける

52 ⑬縫い合わせと仕上げ処理

54 ⑭コンチョと鹿ヒモの取り付け

57 その他の技法

58 4本編みロープ

60 読者プレゼント

61 実践アイテム製作

62 ウォッチバンブル

72 携帯ケース

86 タバコ＋ライターケース

94 ドリンクホルダー

104 鹿革ポーチ

116 ミドルウォレット

133 工具類の紹介

134 サドルバッグ

155 工具・材料ショップリスト

159 レザーアイテムカタログ



1 2
3



1 メディスンバッグ MEDICINE BAG

デニムやレザーパンツの腰回りに、ワンポイントを与えるメディスンバッグ。3枚の革を使用するシンプルな作りには、レザークラフトの基本技法がぎっしり詰まっている

作り方 ● P26～

2 ウォッチバングル WATCH BANGLE

生成りに栄える、ターコイズブルーとシルバーのコントラスト。ハンドル周りに取り付けても様になるウォッチバングルは、パーリーーの製作キットを使ってワンランク上の仕上がりを目指す

作り方 ● P62～

3 携帯ケース MOBILE CASE

今や生活に欠かせない携帯電話。バイクに乗っているときでも邪魔にならない携帯ケースは、バイカーにとって必需品だ。今回は蓋の部分にヘビ革を挟んでアレンジを加える

作り方 ● P72～

4 タバコ+ライターケース CIGARETTE+LIGHTER CASE

携帯ケースと同じく、グランドゼロの手によるタバコケース。サドルレースでかがるだけで比較的容易に作れ、オイルライターも一緒に収納できるため、人気の高いアイテムだ 作り方 ● P86～

5 ドリンクホルダー DRINK HOLDER

ノーベルが作るドリンクホルダーは、カシメを打ち付けて組み立てるシンプルなデザイン。十字型のストラップベルトにより、縦、横、斜めと車体の様々な部分に取り付けることができる 作り方 ● P94～

6 鹿革ポーチ DEER SKIN POUCH

柔らかくて触り心地の良い鹿革。開口部は大きく、携帯電話やタバコなど、様々なアイテムを気軽に入れることができる。オイルレザーを使用したパイピングもアクセントになっている 作り方 ● P104～



4

5 6



7 ミドルウォレット&真鍮チェーン

MIDDLE WALLET & BRASS CHAIN

上品でおしゃれなミドルウォレットは、アウエイクの手による物。プロならではのネジ捻と飾り捻を使った造形は、必ず技術のレベルアップに繋がるはずだ。今回は合わせて真鍮製のチェーンキットも組み立てていく

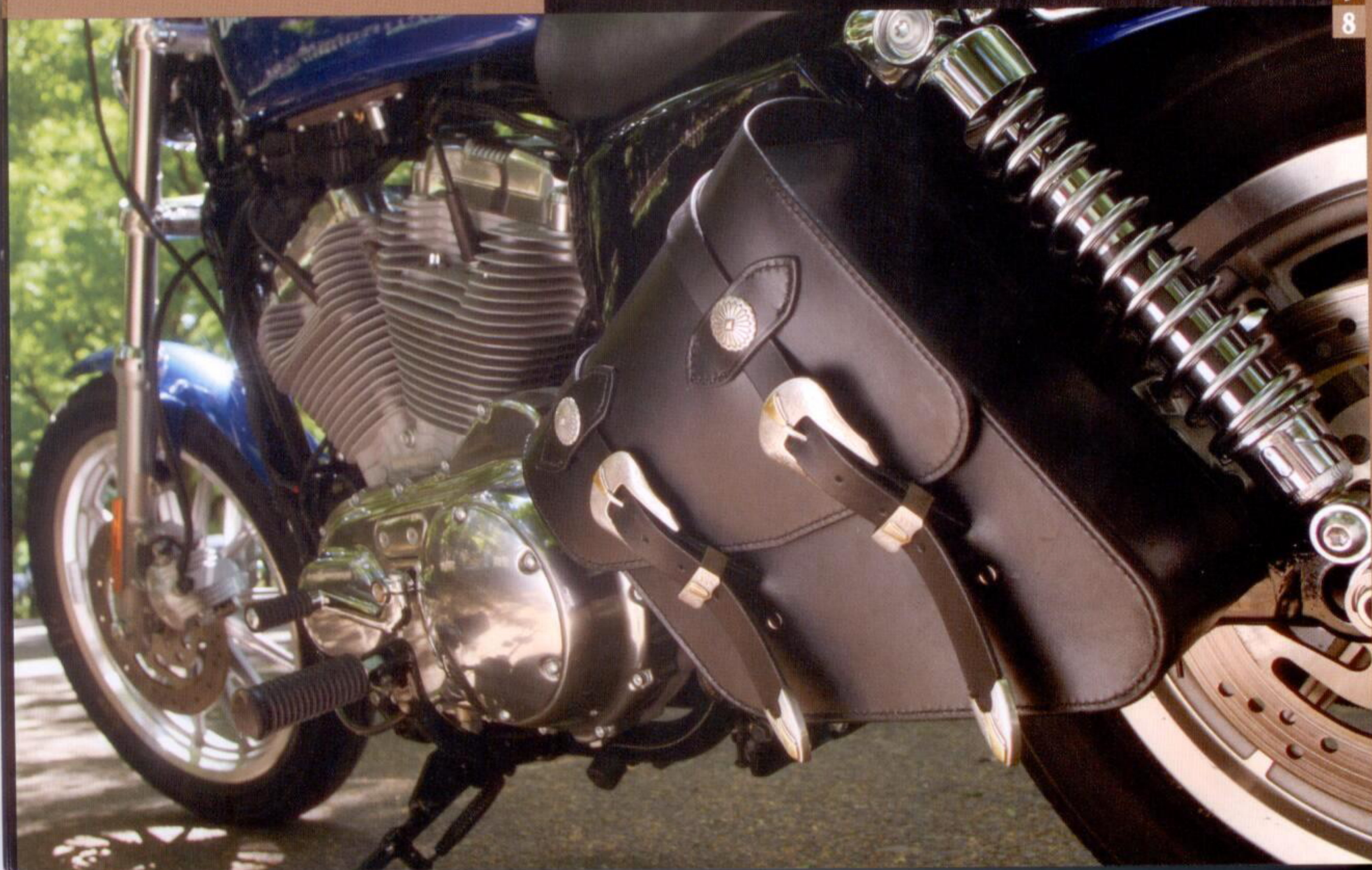
作り方 ● P116～

8 サドルバッグ SADDLE BAG

バイクに装着するレザーアイテムの定番と言えばサドルバッグだ。レザークラフトマックでは、車両に合わせて設計しているため相性は抜群。愛車にピッタリのオリジナルサドルバッグを作ってみよう 作り方 ● P134～

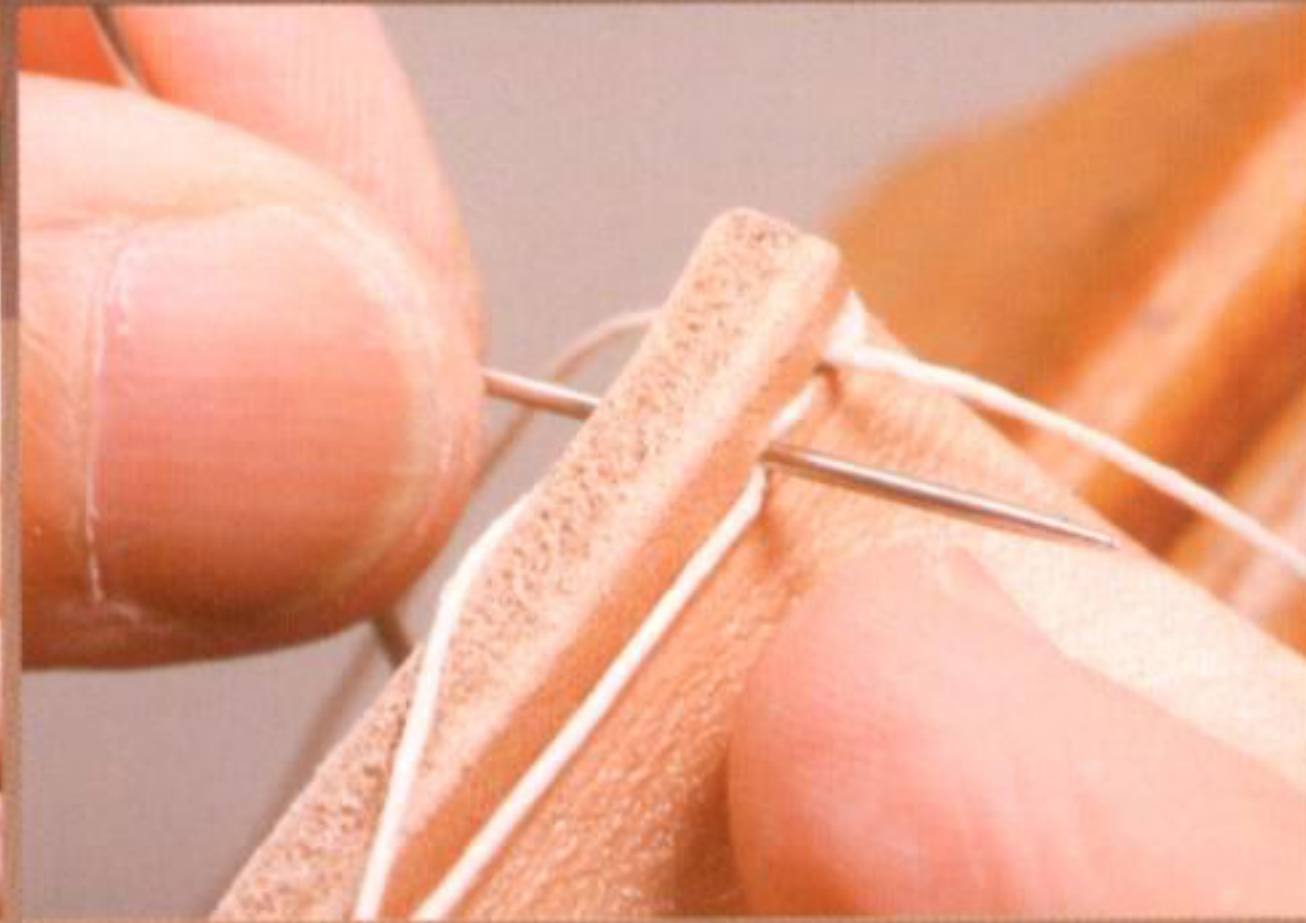


7
8



レザークラフトの基本技法

革を裁断する、縫い穴を空ける、糸で縫うなどの工程を経て作り上げるレザークラフト。ここでは基本となるこれらの技法を、実際にアイテムを作りながら紹介していく。基本を習得すれば、自分のアイデア次第でどんなアイテムでも作り出せるのが、レザークラフトの面白さだ。



警告

WARNING

本書に記載されている内容は、プロフェッショナルによって行なわれた作業を記事として再構成したものです。改造や加工の成功、作業を行なう上での安全性等はすべてそれを行なう個人の技量や注意深さに委ねられるものです。よって、本書の内容に準じた作業であっても、出版する当社、株式会社スタジオ タック クリエイティブ、および取材先各社では作業の結果は一切保証いたしかねます。またその作業上、使用上において発生した事故や器物の破損、損壊についても、当社では一切の責を負いかねます。すべての作業におけるリスクは、作業を行なうご本人に負っていただくことになりますので、充分にご注意ください。

BASIC TECHNIC

製作技法の基本

ここでは革の裁断方法からヘリやコバの処理、縫い線の付け方、ヒシ目打ちの打ち方、縫製など、レザークラフトの基本となる技法を、メディスンバッグを作りながら紹介していく。

レザークラフトの基本は、大きく分けて革の裁断、ヘリや床面の処理、縫製、金具の取り付けなどの工程がある。ここではメディスンバッグを作りながらその工程と技法を紹介していくが、これらはあくまでも基本中の基本。まずはこの基本をしっかり学びながら「物を作る喜び」を感じて欲しい。

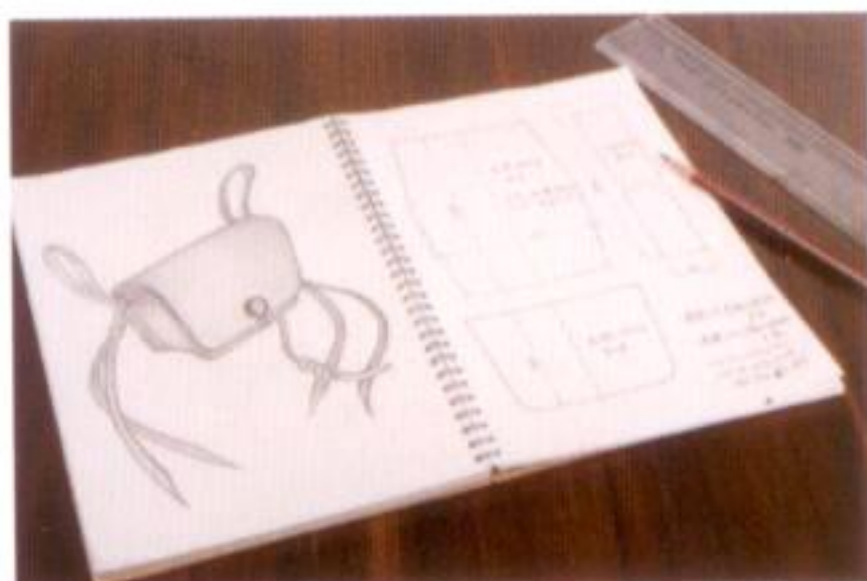
い。ちなみに、今回はクラフト社からリリースされているクラフトキットを元に行っているため、キットを購入して製作すればより簡単に作業を進めることができる。基本技法を学んだら、62ページからのプロショップによる製作を参考に、様々なアイテム製作に挑戦してみよう。

1 型紙の製作

まずは自分が作りたいと思うアイテムのデザインとその寸法を書いてみる。デザインは160ページからのカタログや雑誌などを参考にすると良いだろう。

必要な物

- 紙 ●鉛筆 ●工作用紙
- 定規 ●カッター ●ハサミ など

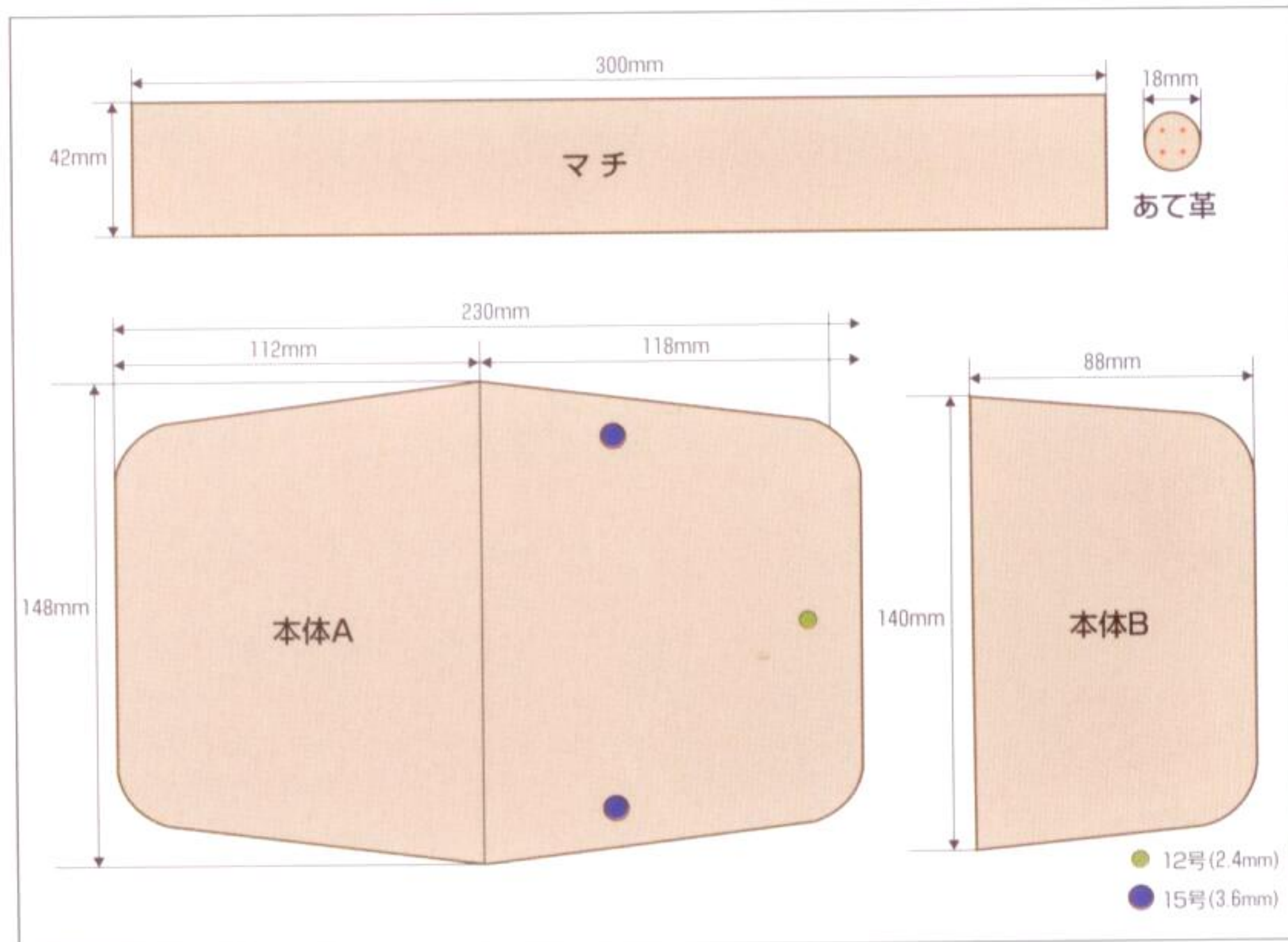


まずは自分の思い描くデザインをスケッチして、寸法を考えてみる

POINT 型紙は固めの紙で作る



型紙はコピー用紙でも良いが、はじめは線を引きやすい工作用紙がお勧め

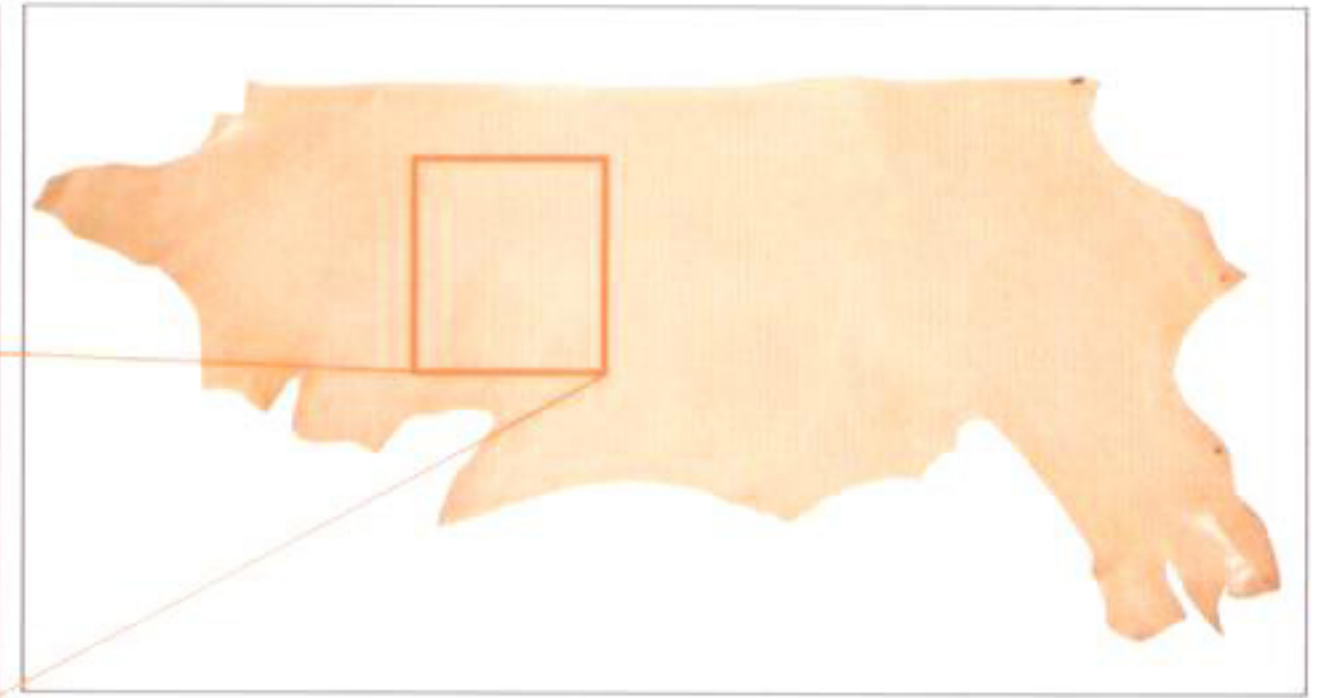
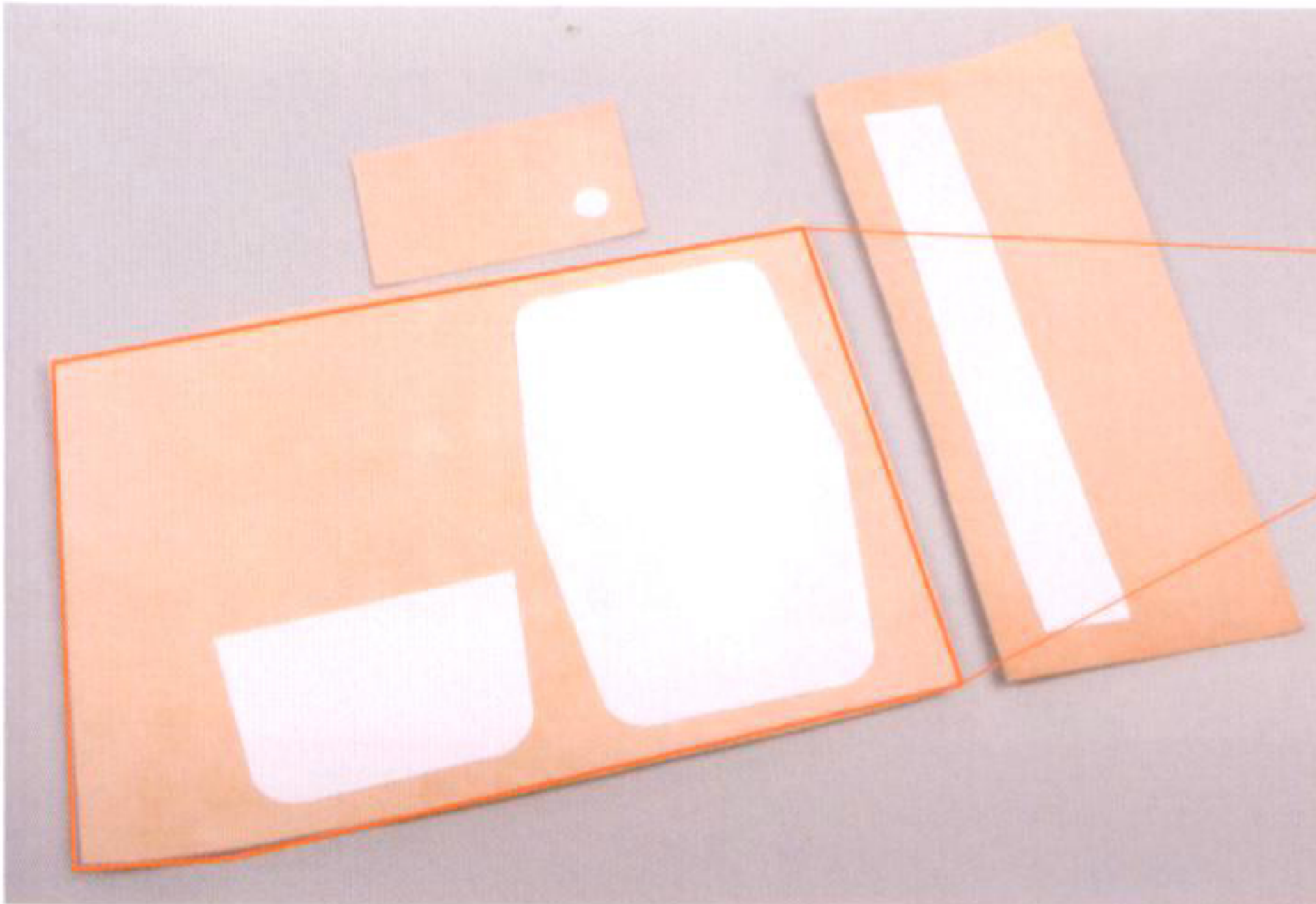


2 革の準備

型紙をおこしたら、革を用意してどのように裁断していくか決める。今回は、厚みの異なる3枚のサドルレザー(裁断済み)を使用して製作していく。

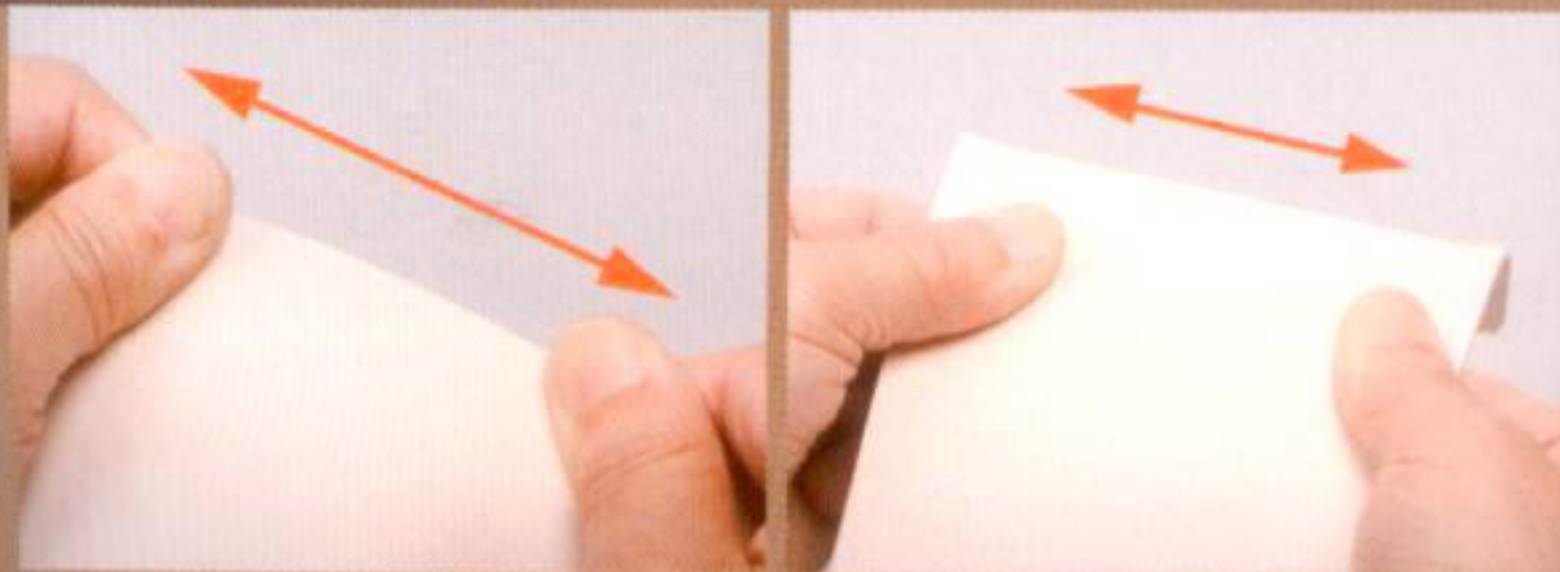
必要な物

- サドルレザー(3mm厚・12デシ程度、2mm厚・6デシ程度、1mm厚・3デシ程度)



革からパーツを取る場合、革の伸び方向に気を付けたい。革には伸びやすい方向と伸びにくい方向があり、パーツを曲げて使用する場合は、その部分に伸びる方向をあてる。半裁の革では、ベンズは横、ベリーは縦方向に伸びやすいことを覚えておけばよいが、ある程度の大きさにカットされている裁断済みの革の場合は、繊維方向がわかりにくいのでポイント1の方法を試してみると良い。また、型紙を裁断面ギリギリに置くのではなく、ある程度余裕を持って並べる

POINT 1 革を引っ張って伸びやすい方向を調べる



革を縦、横の両方向へ引っ張ると、伸びやすい方向と伸びにくい方向がわかる。特に裁断済みの革を購入した場合は、この方法が有効だ



今回製作するメディスンバッグは、蓋を曲げて使用する。このように曲がる部分は、曲がる方向と革の伸びる方向を合わせるとスムーズに曲がり、使い勝手も良くなる。これはウォレットなどの他のアイテムにも共通することで、伸び方向を逆にすると、革の繊維に負担がかかり、傷みも早くなることもある

POINT 2 革の厚みを変える



マチを使用するアイテムや、ウォレットのようにパーツを重ねて作るアイテムの場合、全て同じ厚さの革で作ると、加工しにくくなったり、ボリュームが出過ぎてしまうことがある。そのため、部分部分で革の厚みを変えると、仕上がりも美しく、使い勝手も良くなるのだ。ここでは、本体は型くずれしないように3mm厚、マチは折り曲げやすいように2mm厚の革を使用する

3 裁断線を引く

パーツの切り出す位置を決めたら、型紙を置いて周りをけがく。タンニンなめしの革には丸ギリを、クロムなめしには銀ペンを使って裁断線を引いていく。

必要な物

●丸ギリ ●銀ペン など

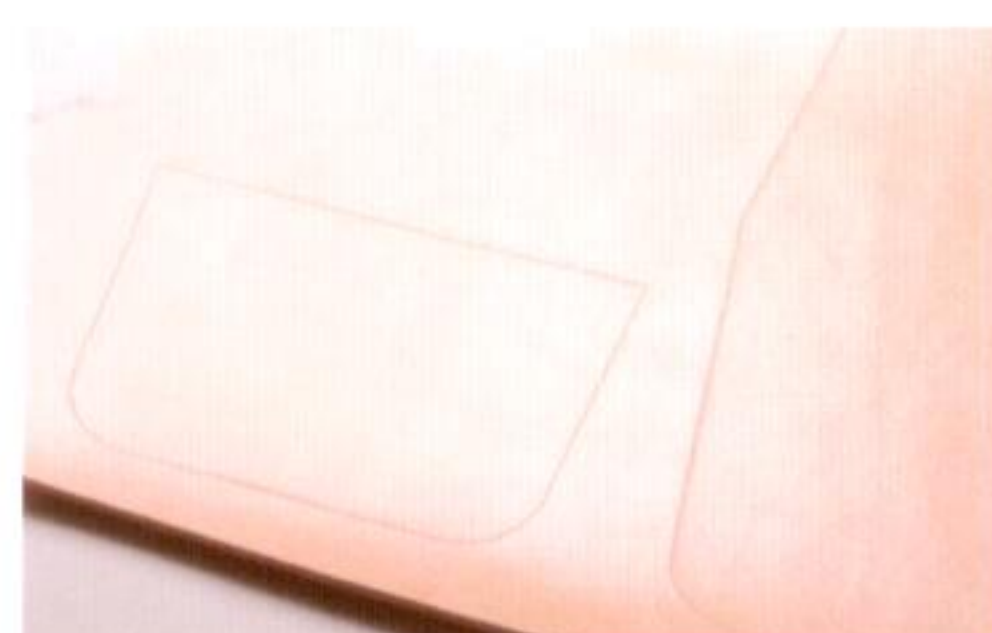
丸ギリで裁断線をけがく



1 型紙が動かないようにウェイトを載せ、丸ギリで裁断線を引く



2 カーブしている部分は、型紙から離れないようにゆっくり動かす



3 マチやあて革も同じように線を引く。強くけがきすぎないように注意

POINT 1 丸ギリは立てた状態で引く



丸ギリを寝かしてしまうと、型紙と革の間に入り込んで線がずれてしまう。そのため、丸ギリで線をけがく場合はしっかりと立てて引くこと。特にコピー用紙などの薄い紙で型紙を作った場合は注意したい。また、革が薄い場合や柔らかい場合は、丸ギリを引くと革も伸びやすいので、指でしっかりと抑えておくこと

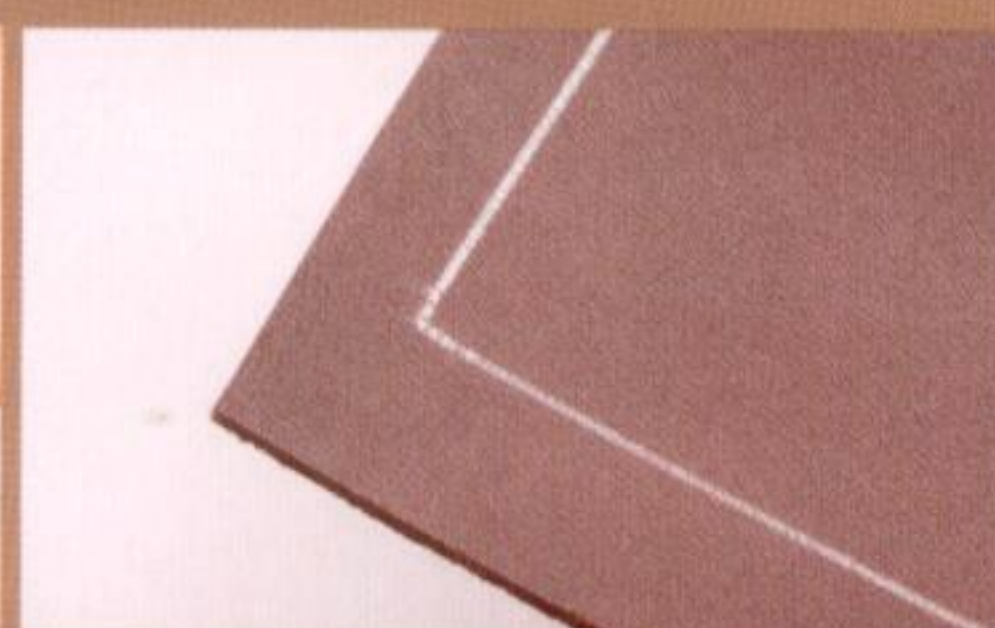
POINT 2 クロムなめしの革には銀ペンを使う



銀ペンは、丸ギリでは跡が付きにくいクロムなめしの革や、色の濃い革に適している



使い方は丸ギリと同じように、型紙に沿わせて線を引いていく。ボールペンなので、引いた線は太くはっきりと見える。銀ペンで書いた線は擦れば消すこともできる



4 革を裁断する

裁断線に沿って革を裁断していく。基本の道具は革包丁だが、慣れるまでは少々難しいかもしれない。まずは思い通りに裁断できるように、何度も練習してみよう。

必要な物

●革包丁 ●定規 ●別たち ●カッター など

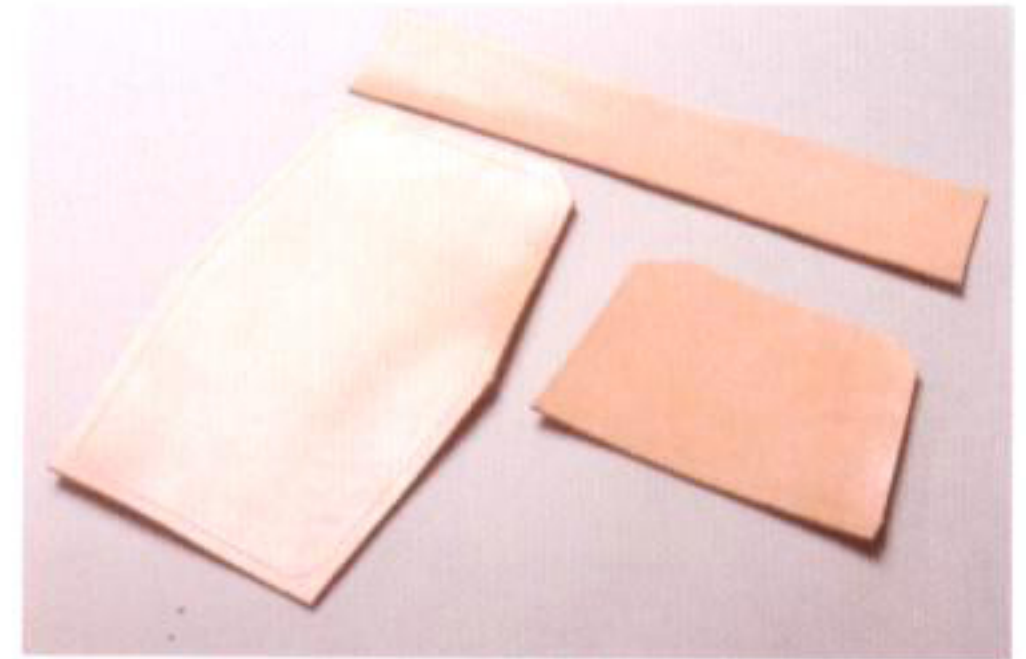
粗裁ち



1 まずは、丸ギリでけがいた裁断線よりも1cm程外側を裁断する



2 革包丁の刃を立てたまま、まっすぐ手前に引いて裁断する



3 このように、全てのパーツを裁断線よりも外側でカットする

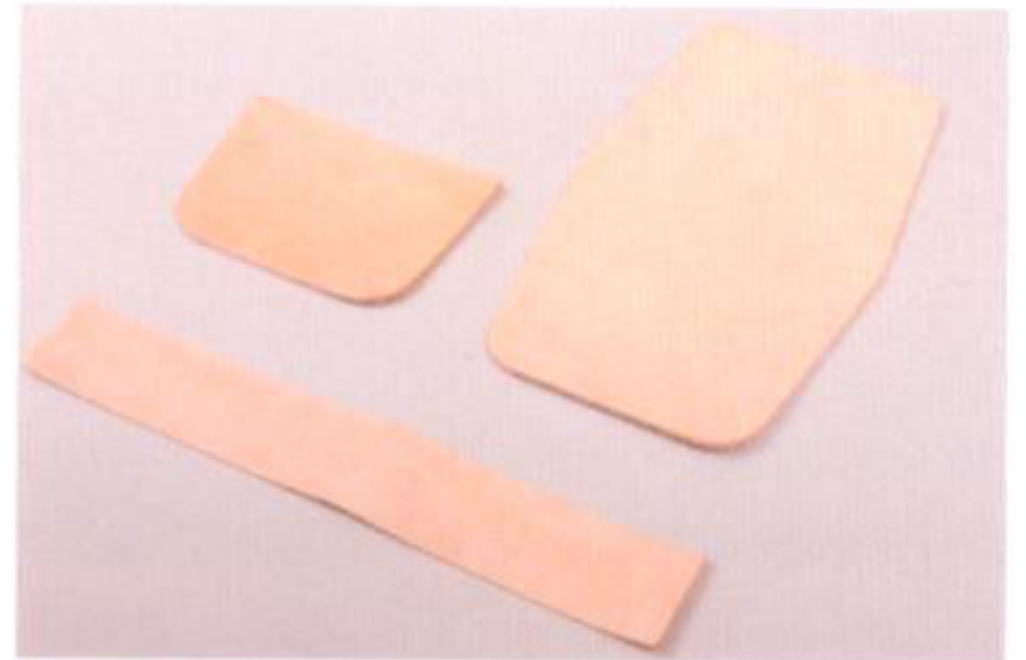
本裁ち



4 粗裁ちしたパーツを裁断線に沿ってカットしていく

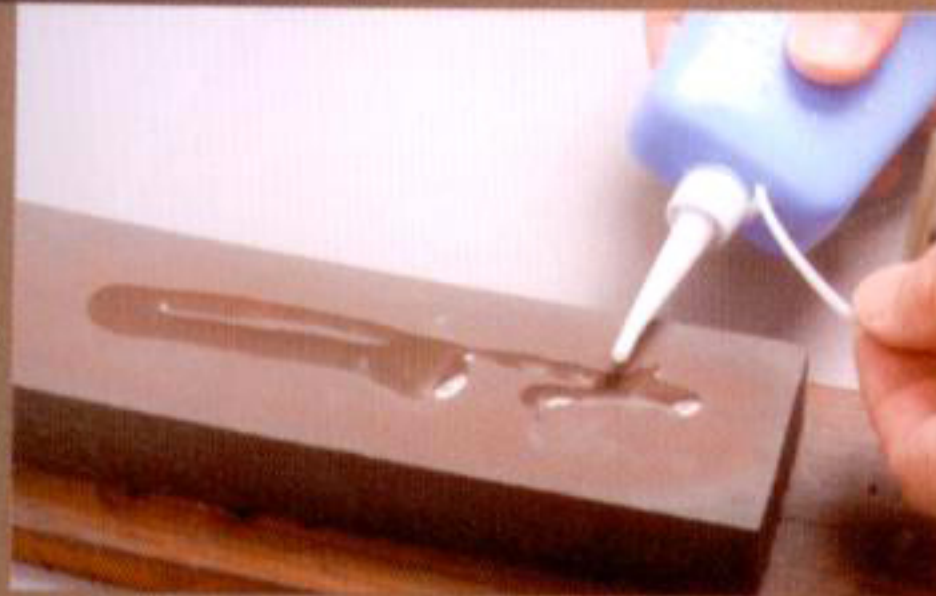


5 カーブは革を回しながら少しずつカットする



6 パーツを裁断した状態

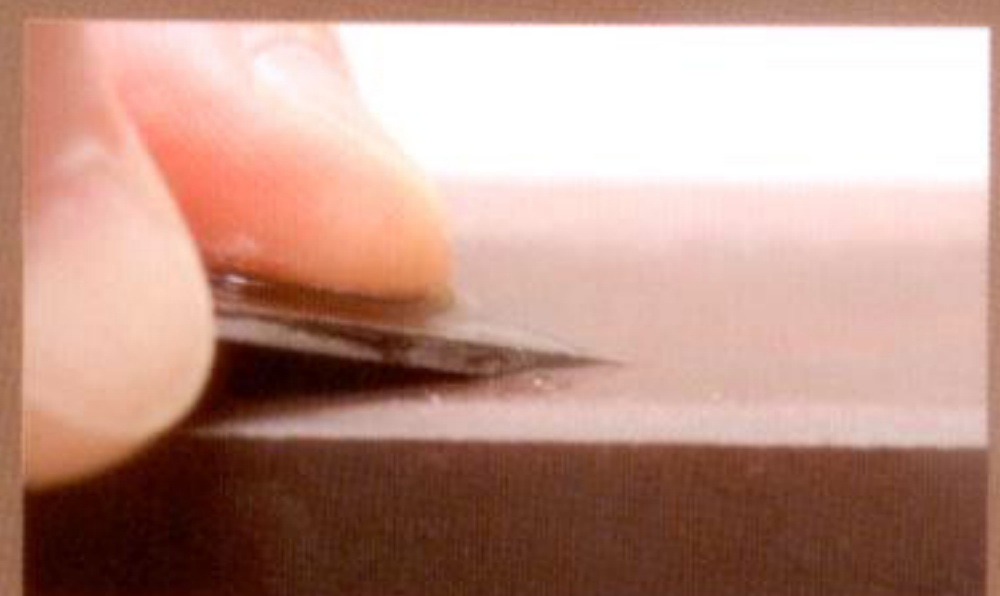
POINT 1 まずは切れ味を良くすることが大切。切れ味が良ければ裁断面もきれいになり、仕上げもうまくいく



砥石の上にシャープナーオイルを垂らす。砥石は料理包丁用が良い

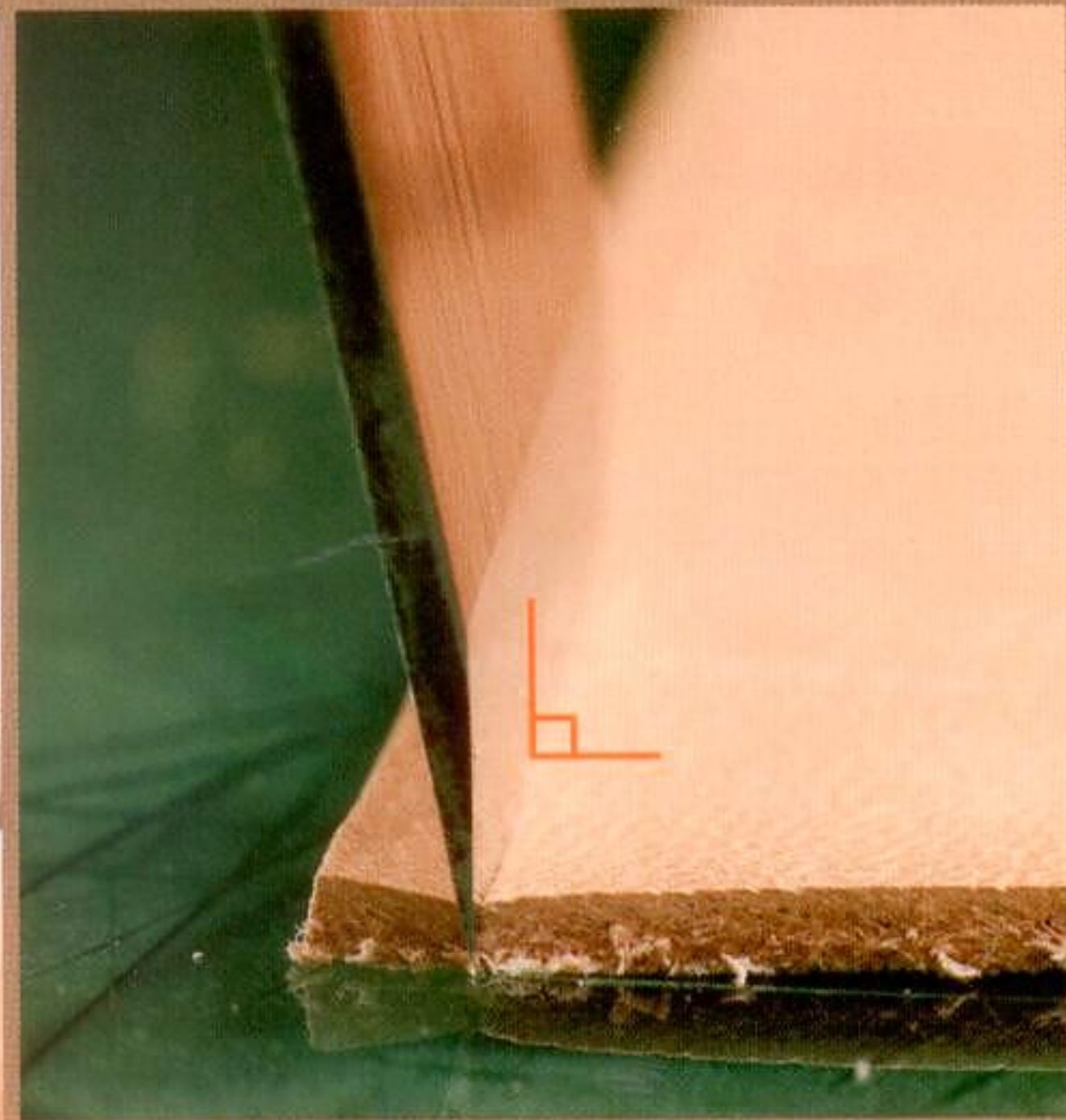


包丁を少し斜めにした状態で刃の角度に合わせ、前後にスライドさせる

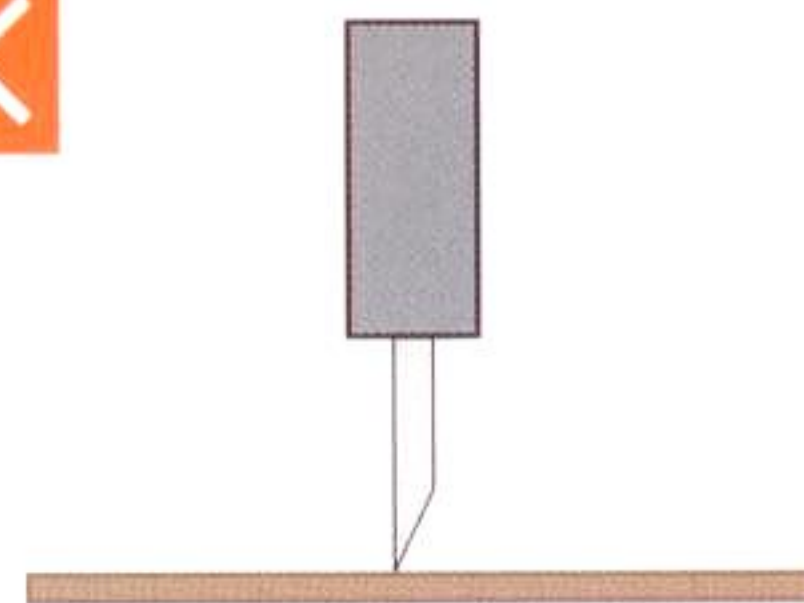
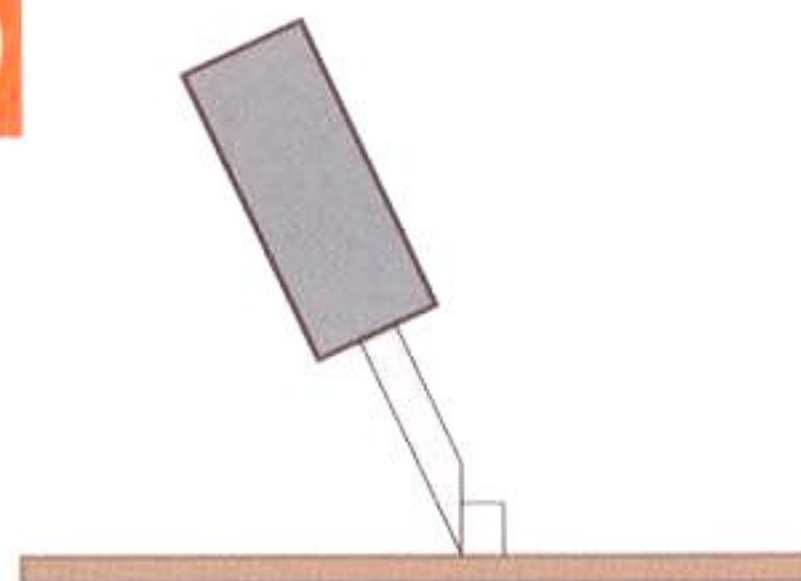


角度を合わせて刃をピッタリ合わせないと、切れ味は良くならない。裏も研ぐこと

POINT 2 革包丁の刃は、革に対して直角になるように構える



革包丁は刃表だけが切刃の片刃になっている。そのため、革包丁自体を垂直に立てて切ると、刃が斜めに入り込んで、裁断面が斜めになってしまう。わざと斜めに切る手法もあるが、右の図のように、刃の角度が革に対して直角になるように構え、その角度を維持したまま奥から手前に引くのが原則。握り方は、上の写真のように刃表を内側にして少し奥に傾け、小指は包丁の柄に引っかけて親指を立てるのが基本。裁断はビニール板の上で行なう



POINT 3 銀ペンの線は内側を裁断する



銀ペンで書いた裁断線は太いため、線の外側を切ると寸法が狂ってしまう。そのため、線の内側を裁断すること

POINT 4 用途によって道具を使い分ける



裁断面を揃える場合や革包丁を使い慣れない人は、カッターを使うと良い。使いやすい物を使うのが一番だ

5 ヘリを落とす

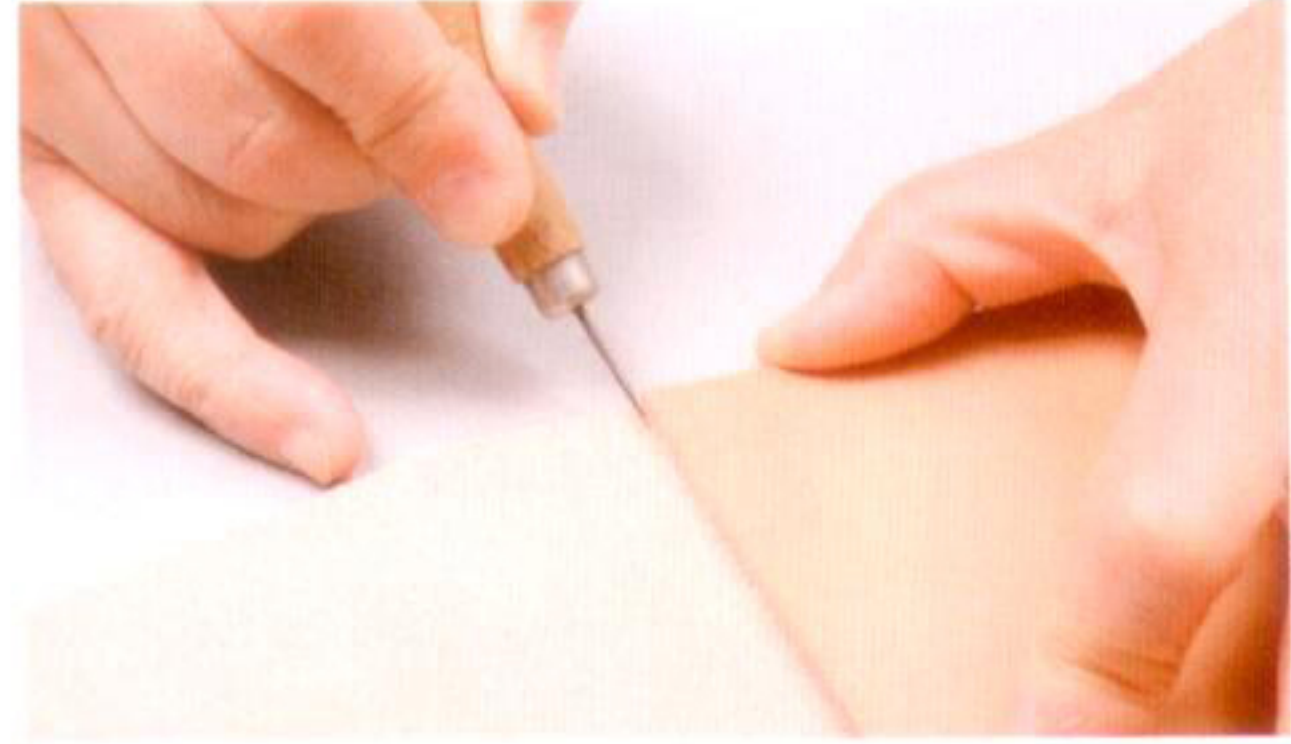
裁断した革は角が立っているため、この角をヘリ落としという道具で落としていく。
使い方は簡単だが、革の目によっては落としにくい場合もある。

必要な物

- ヘリ落とし



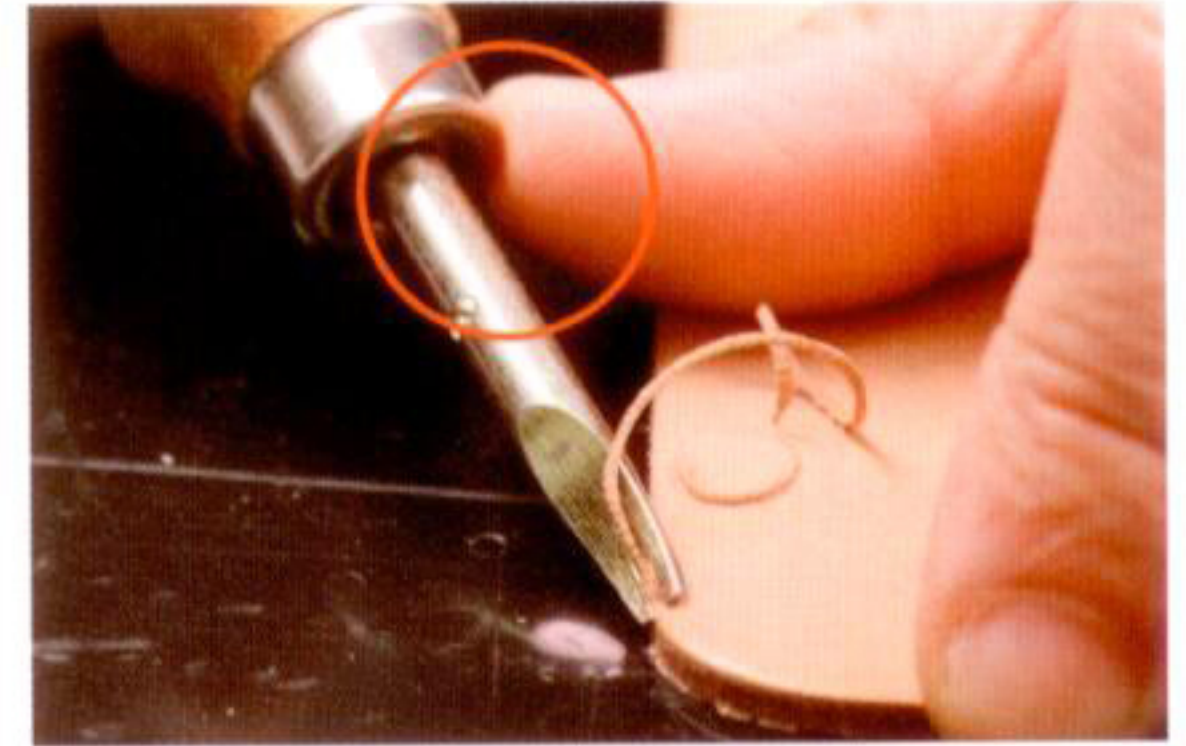
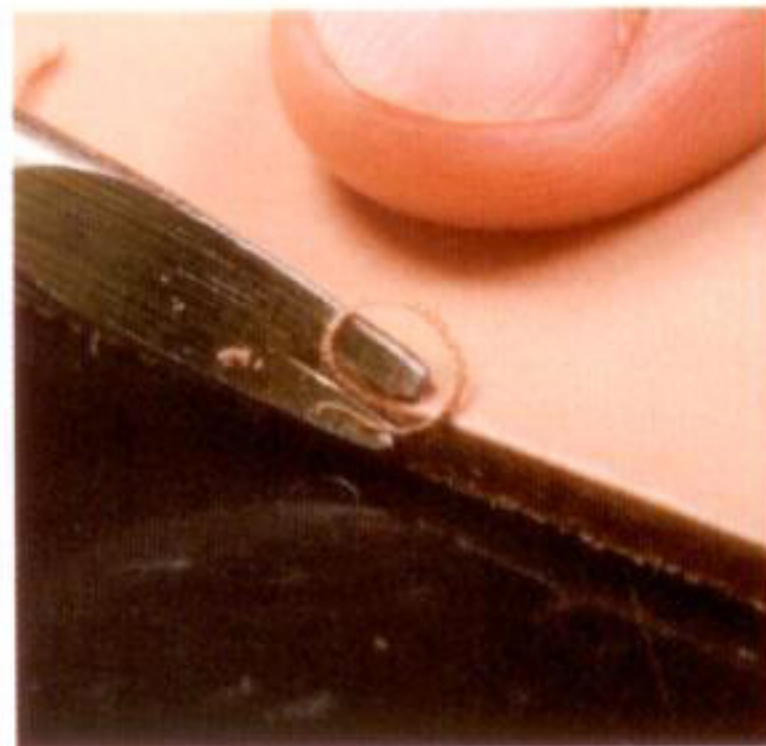
1 本体Aの上に本体Bを置き、本体Bの上部ラインをけがいて印を付ける



2 もう片方の上部ラインもけがいて印を付ける。
床面は印が付きにくいので少し強めにけがく



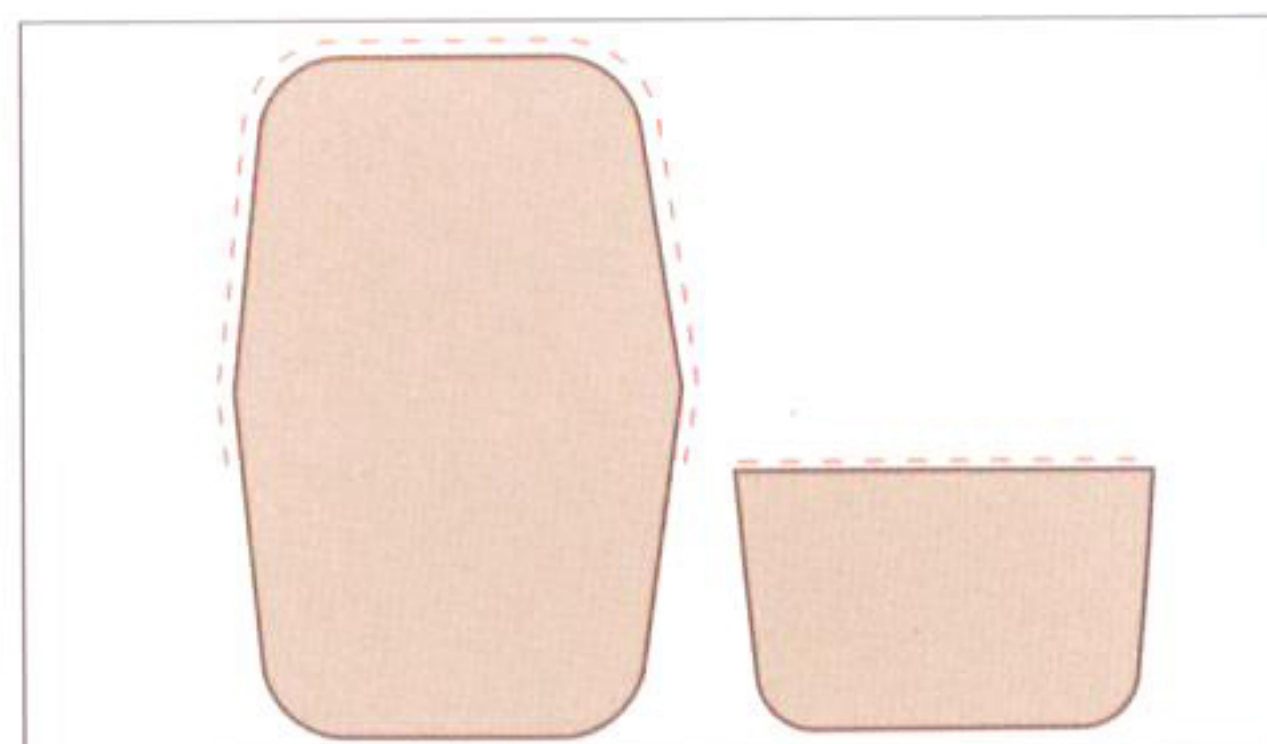
3 **1**と**2**でけがいたラインより上の部分を、ヘリ落とし(2番)を使ってヘリを落としていく



4 カーブしている部分は親指をヘリ落としにあて、スピードを調節しながらゆっくり落としていく

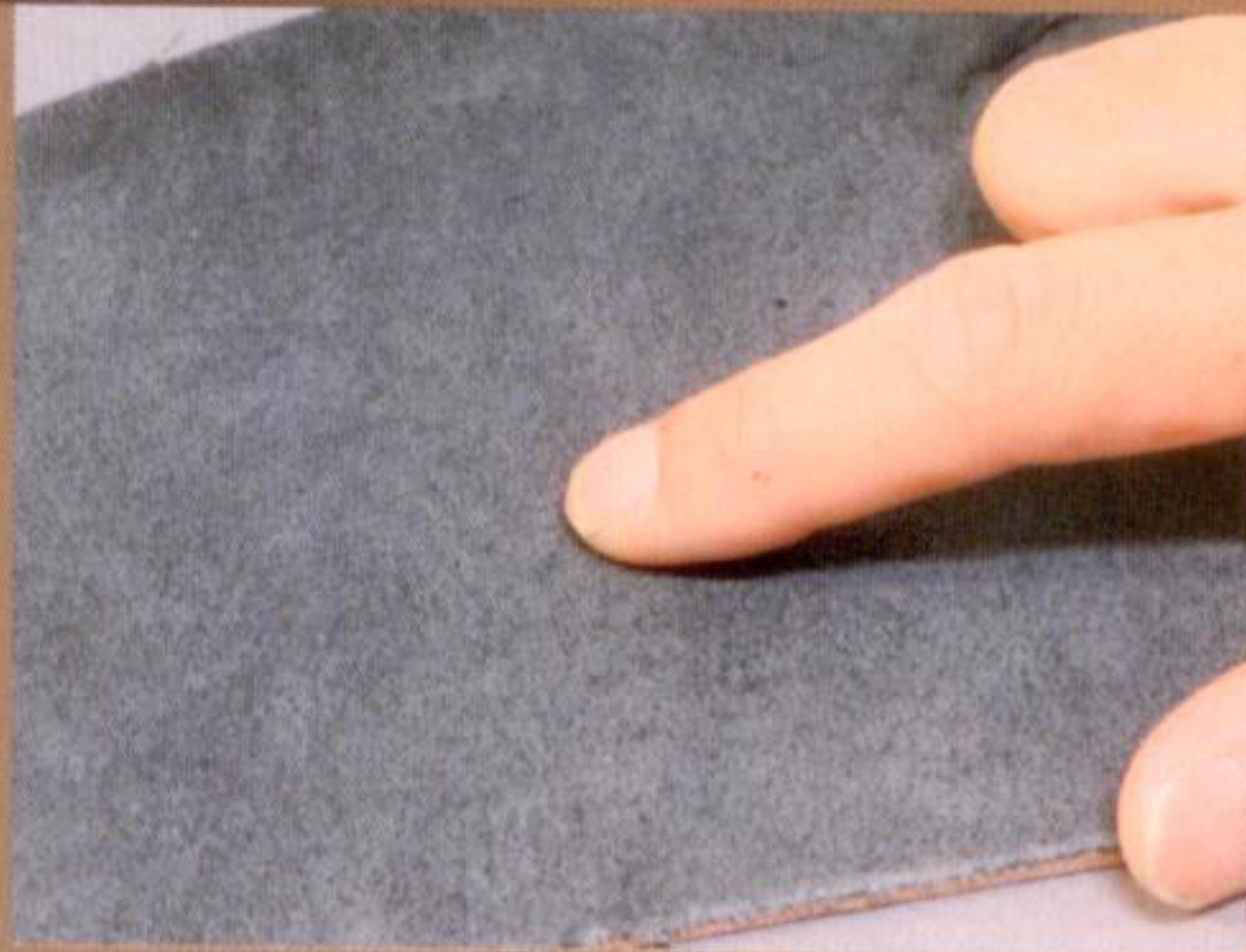


5 上がヘリを落としていないもので、下がヘリを落としたもの。違いが明らかにわかる



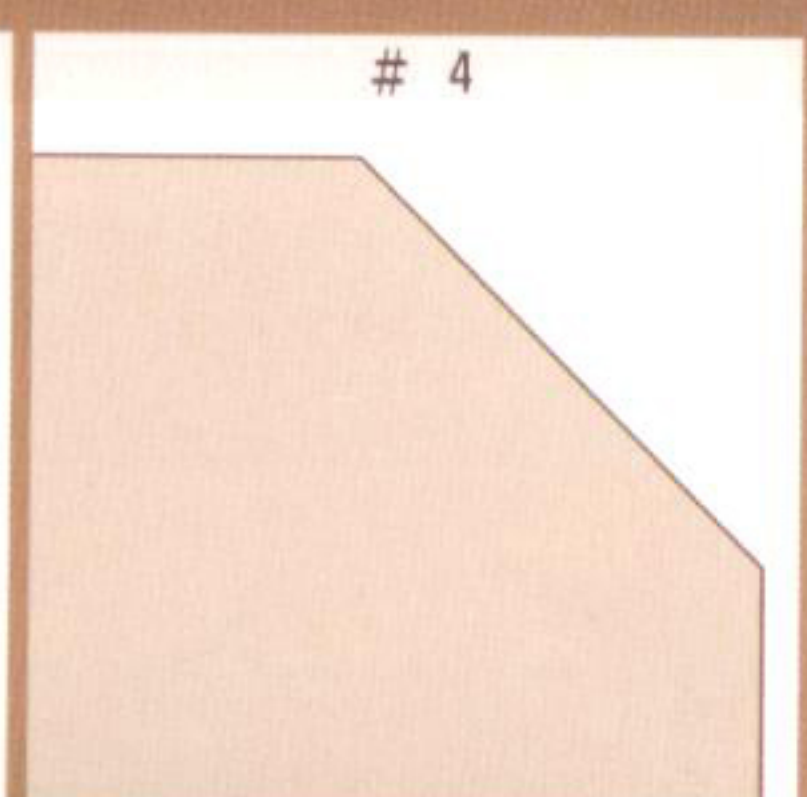
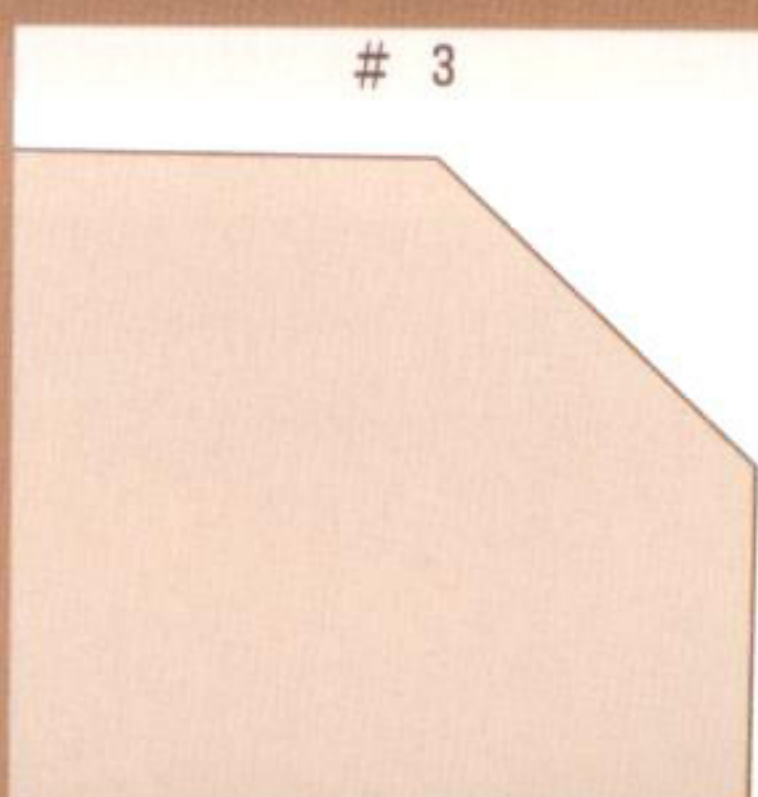
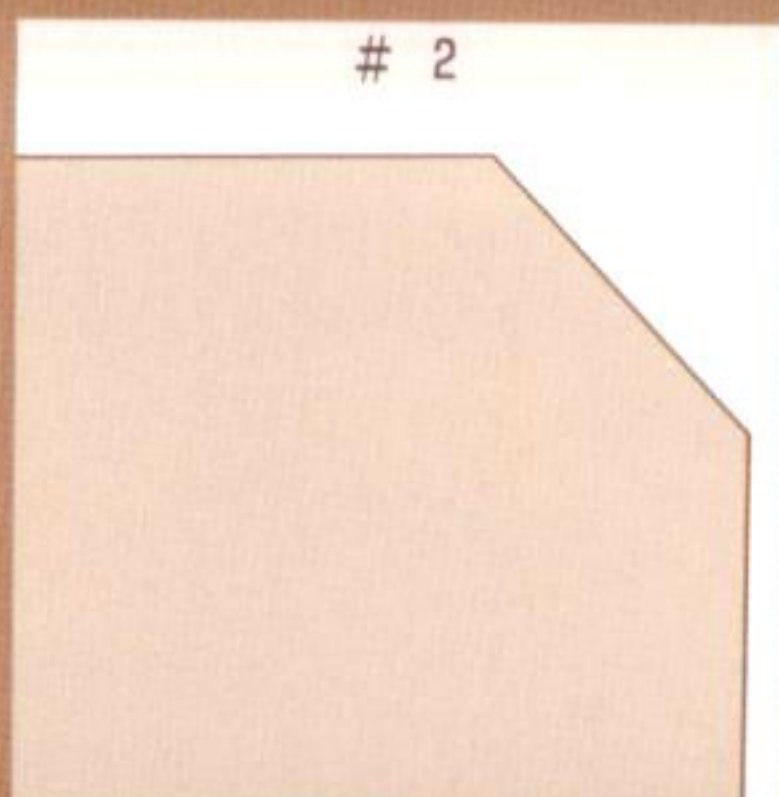
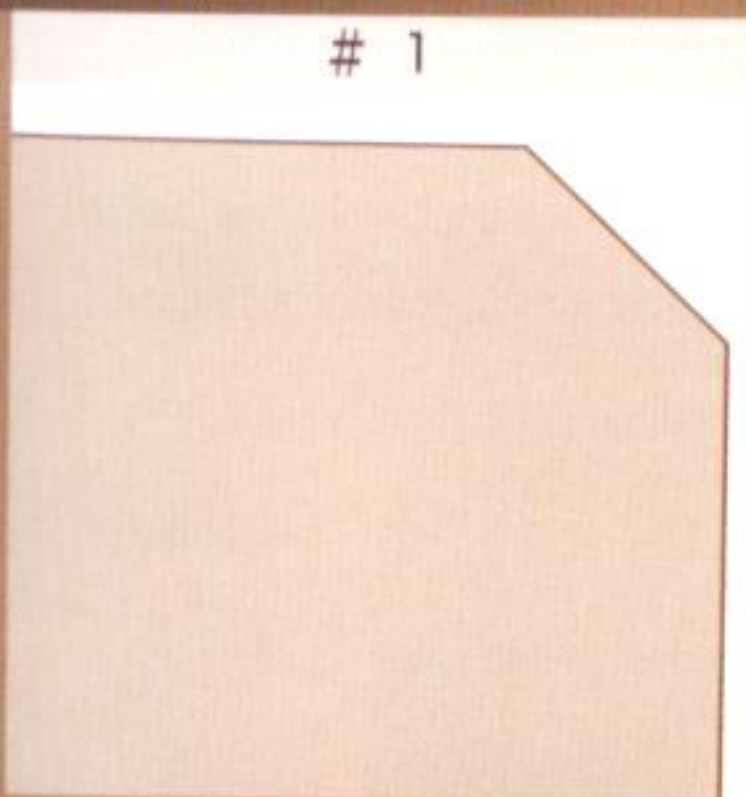
6 この時点では点線部分のみ(裏表)ヘリを落とす。他の部分はマチを縫い合わせてから落とす

POINT 1 革の目に気を付けてヘリ落としを使用する



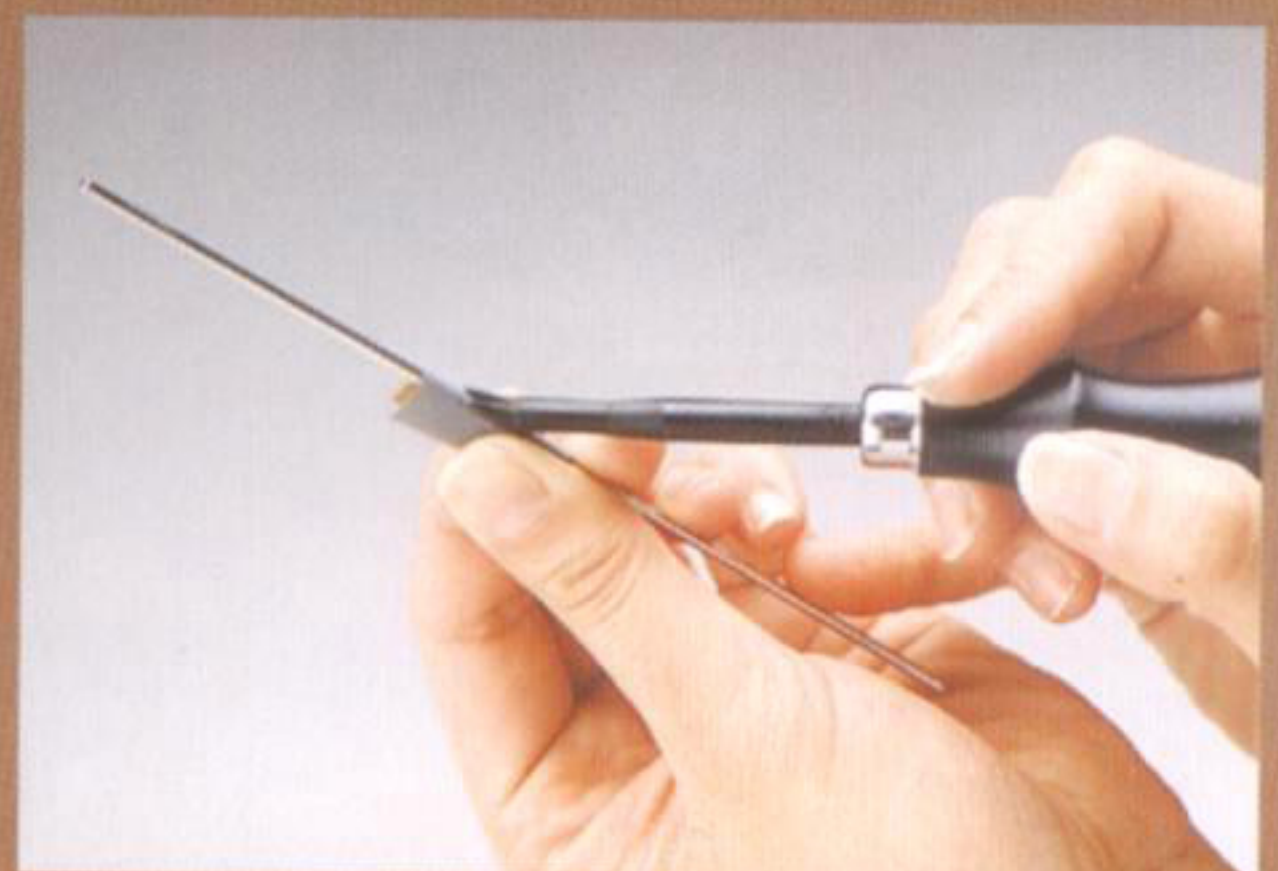
革には繊維方向があり、床面を指で触って引っ掛かる方向が逆目で、滑らかな方が順目となる。ヘリ落としを使うときも、順目の場合は落としたヘリが1本に繋がるが、逆目や床面の場合はポロポロになったり右の写真のように断面が汚くなってしまうことがあるので気を付けよう

POINT 2 番手によって落とせる面積が異なる



メーカーによって多少異なるが、クラフト社が取り扱うKSヘリ落としには#1～#4までの4サイズがある。番手が大きくなるほど落とせる面積も大きくなり、基本的に薄い革には#1や#2を、厚い革や革を重ねて厚くなった部分には#3や#4を使用すると良い。ただし、これは仕上げの好みにもよる

これは番手による刃の違い。左はKSヘリ落とし#3で、右はクラフト社で取り扱うもうひとつのヘリ落としのNo.1だ。刃の開き具合を見ればわかるようにかなりの差がある。そのため、仕上がりの印象もだいぶ異なる



ヘリ落としの切れ味が悪くなったら、研ぎ棒にペーパーを巻いて、刃を研ぐと切れ味を復活させることができる

6 コバと床面の処理

ヘリを落とした部分と床面の処理をする。本書では切断面をコバ、ヘリを落とした斜めの部分をヘリと言い、処理剤はここで紹介する以外にも様々な種類がある。

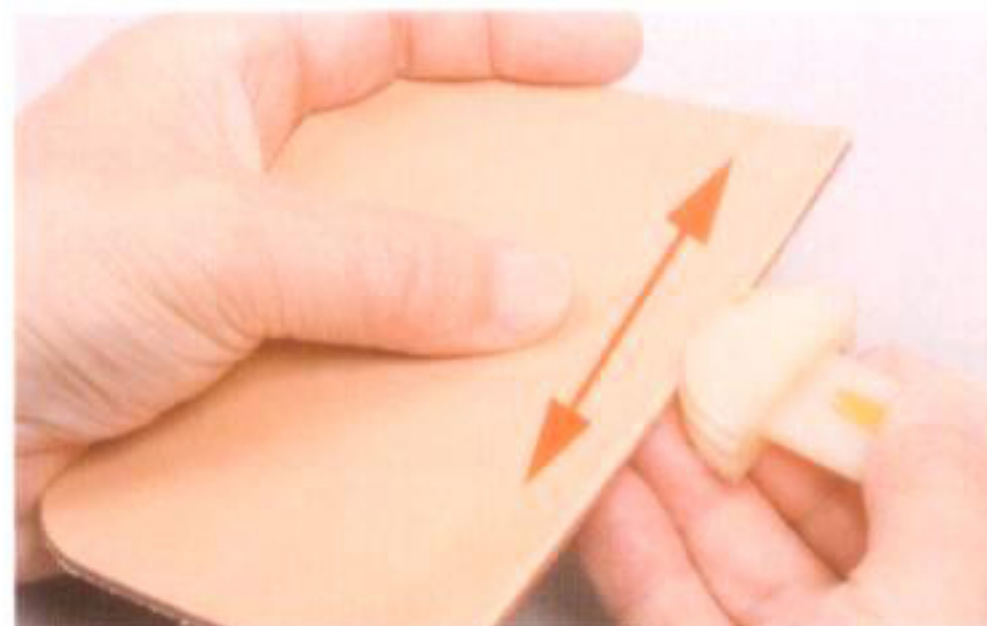
必要な物

- 仕上げ剤 ●ガラス板 ●ヘリ磨き
- 帆布 など

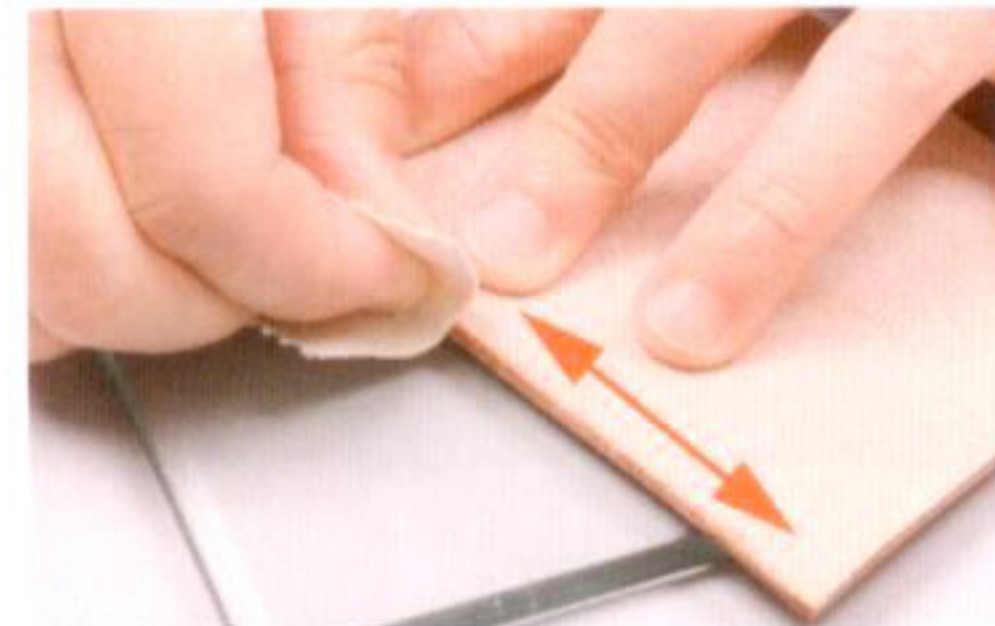
コバの処理



1 ヘリ落としをかけた部分にトコフィニッシュを塗る



2 ヘリ磨きの窪みをコバにあて、スライドさせて磨く

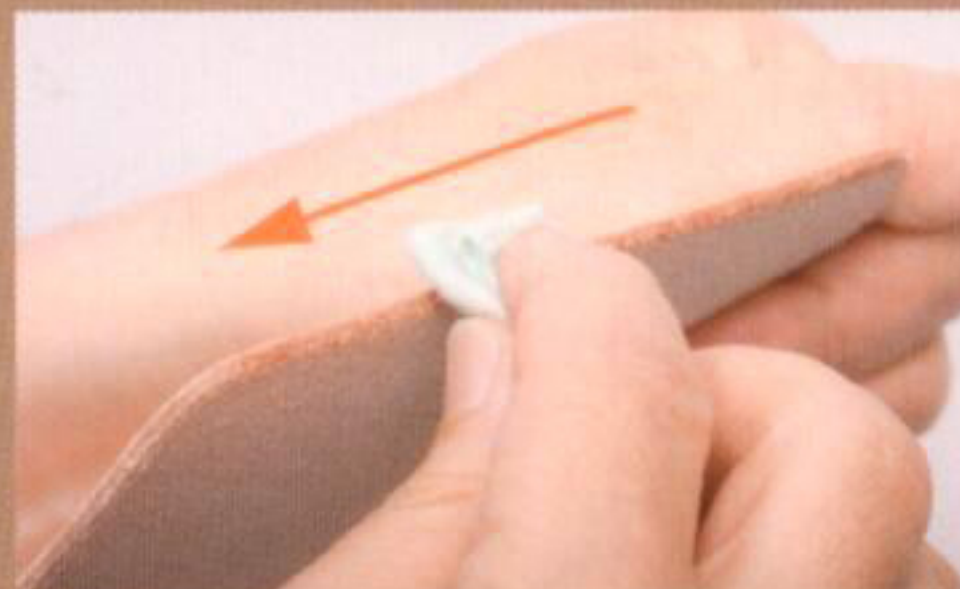


3 ヘリはガラス板の上にパーツを置いて、布で磨く

POINT 1 布に染み込ませて塗るとはみ出しにくい



布にトコフィニッシュを染み込ませて塗るのもひとつの方法だ



染み込ませた布でトコフィニッシュを塗る。片面ずつ塗ると良い



同じようにして表(銀面)側からも塗る。指で塗るよりもはみ出しにくいはずだ

POINT 2 塗りムラに注意



仕上げ剤が均一に塗られていないと、このようにムラができてしまいきれいに仕上がらない

POINT 3 銀面のはみ出しに注意



銀面にトコフィニッシュ(仕上げ剤)が付いてしまうと、革によってはこのようにシミになってしまうことがある

床面の処理



4 ヘラを使って床面にトコフィニッシュを塗る。塗り残しがないように、しっかりと塗り広げる

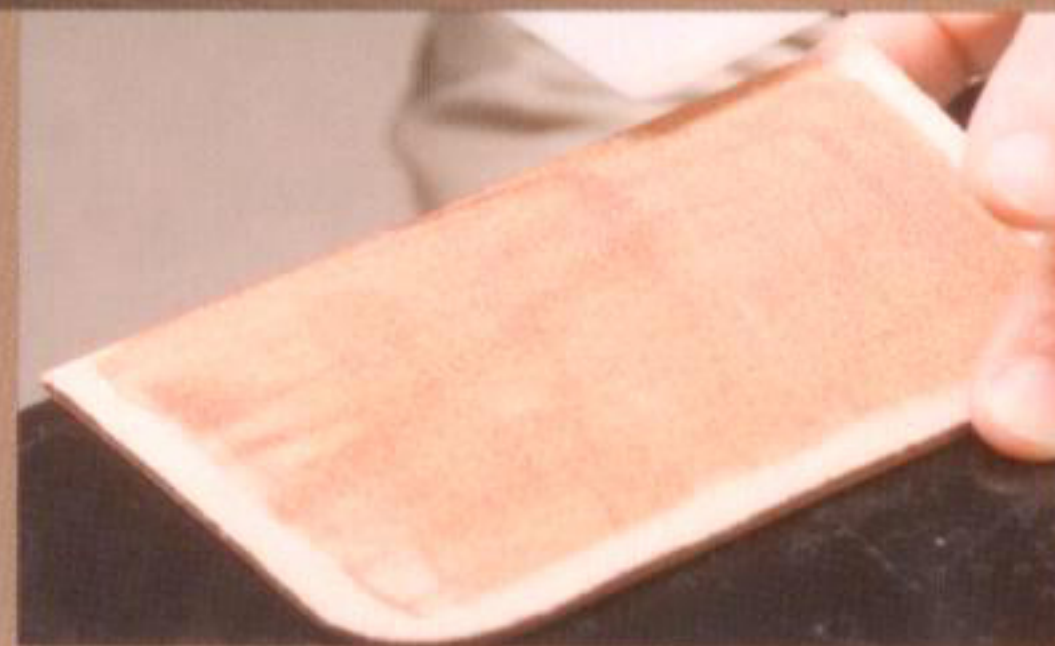


5 ガラス板で床面を磨く。前後にスライドするのではなく、順目に沿って一方向に動かすこと



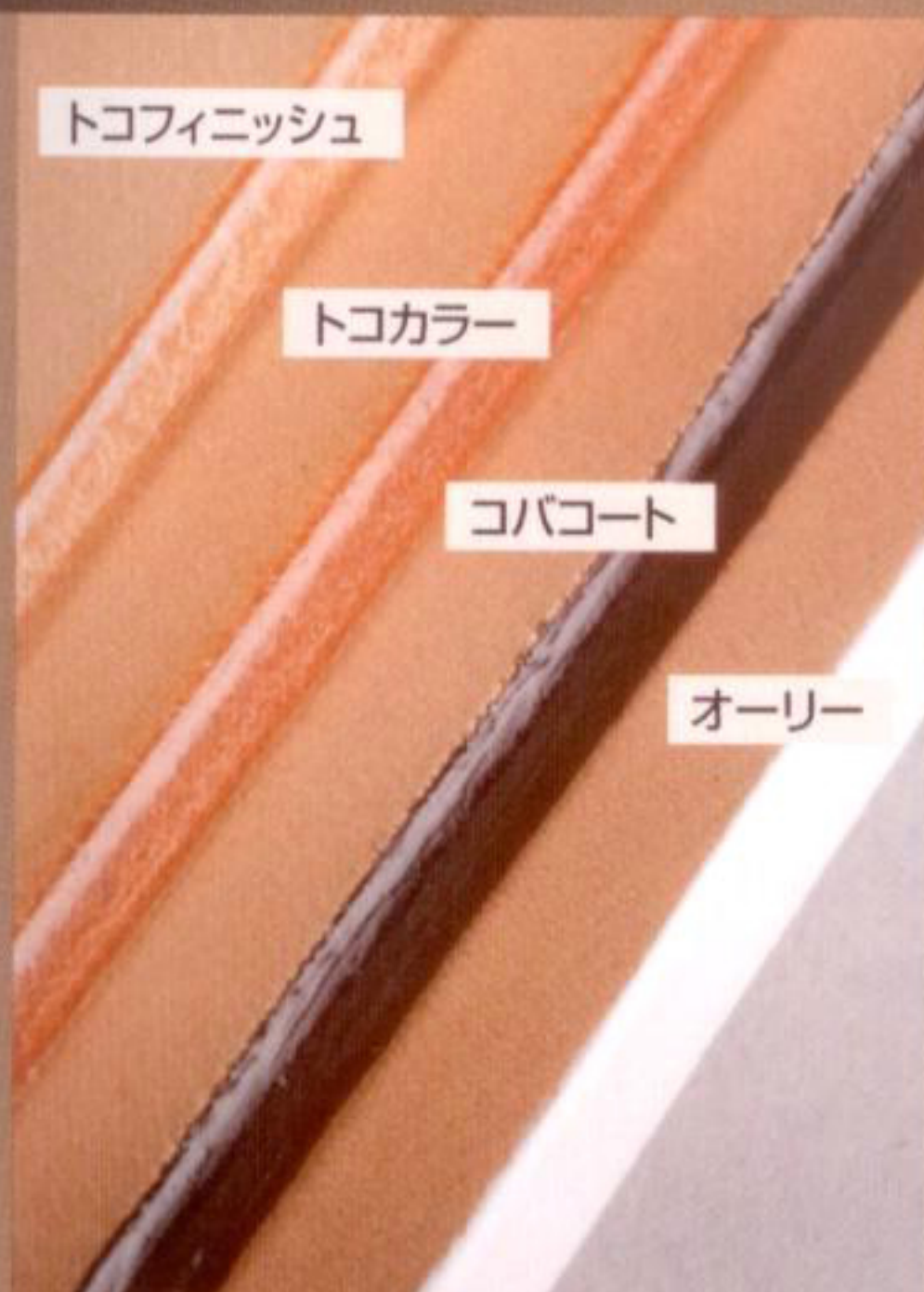
6 左が未処理で、右が磨いたもの。本体Aとマチも同じように、コバと床面を磨いておく

POINT 4 予め縫いしろ部分は塗らない



トコフィニッシュを塗るとその部分は接着剤が付きにくくなる。そのため、接着剤を付ける縫いしろ部分がある場合は、予め塗らないでおくのもひとつの手だ。ただし全て塗ってしまっても、接着剤を付けるときにヤスリで荒らせば問題なく接着できる

POINT 5 仕上げ剤の違いによる仕上がり



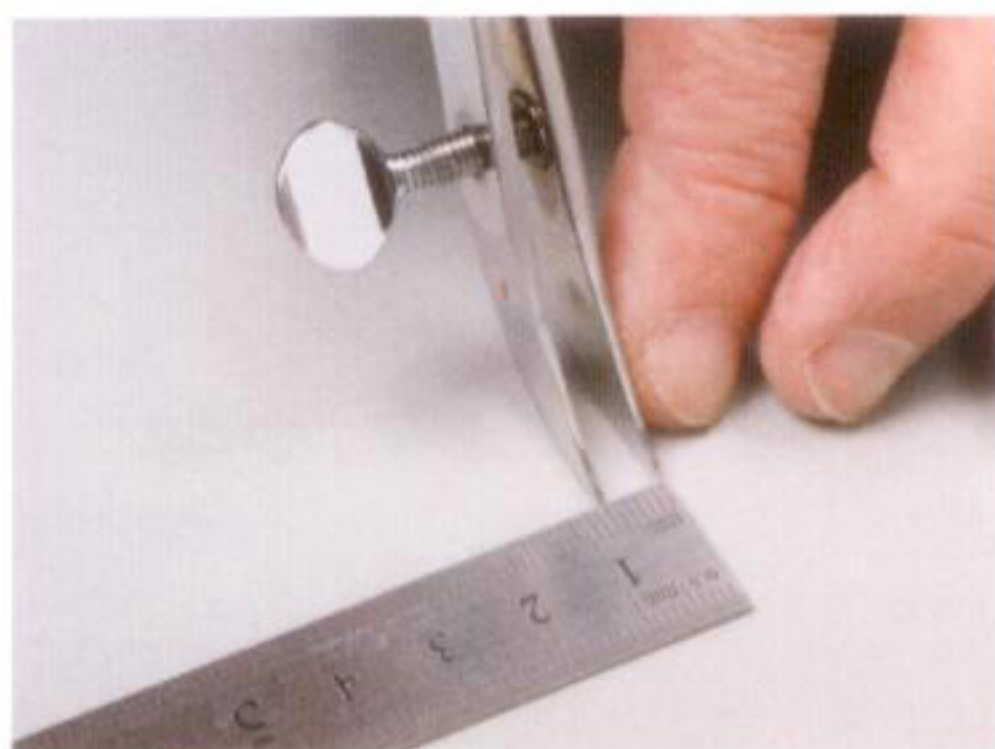
仕上げ剤には様々な種類があり、それぞれ仕上がり具合が異なってくる。質感や見た目が異なるとアイテムの雰囲気も変わってくるので、用途や好みに合わせて使い分けると良いだろう。一般的に使用されているのが無色のトコフィニッシュやCMCで、トコカラーはトコフィニッシュに色が入ったもの(黒と茶、無色)、コバコートは容器からダイレクトに塗ることができ、オーリーは速乾性で白や赤、焦茶、赤茶、黒などの色もある。コバコートとオーリーは艶のある仕上がり

7 マチの製作

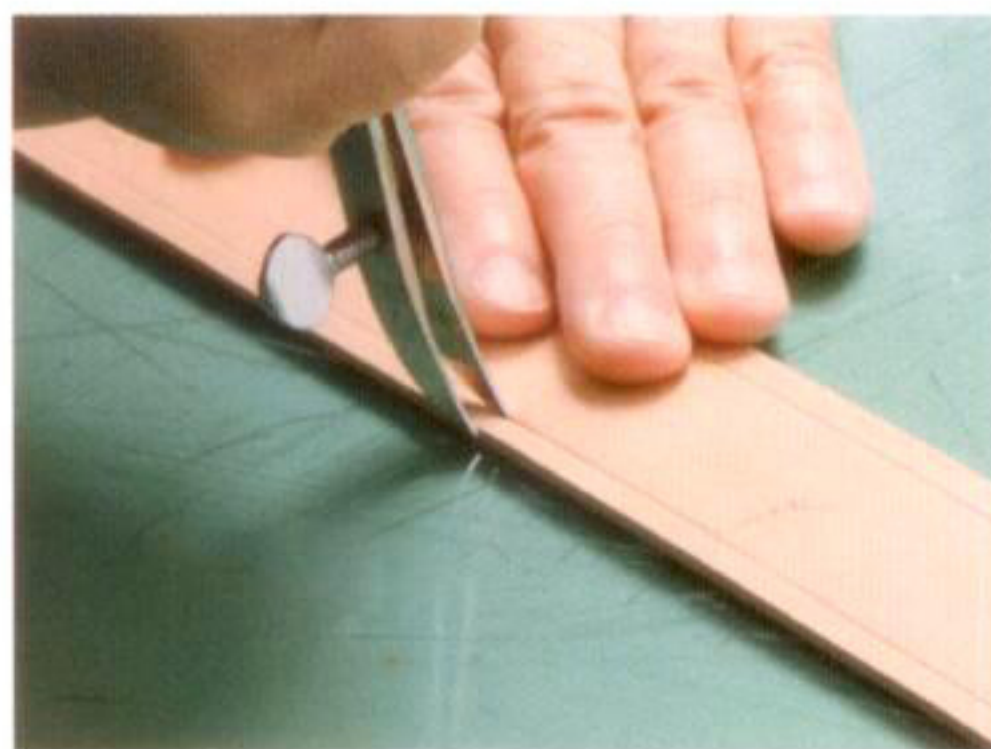
側面のパーツとなるマチに折り目を付けて曲げていく。ネジ捻で引いた線はマチの折り目となるので、強めに引いておくと曲げやすくなる。

必要な物

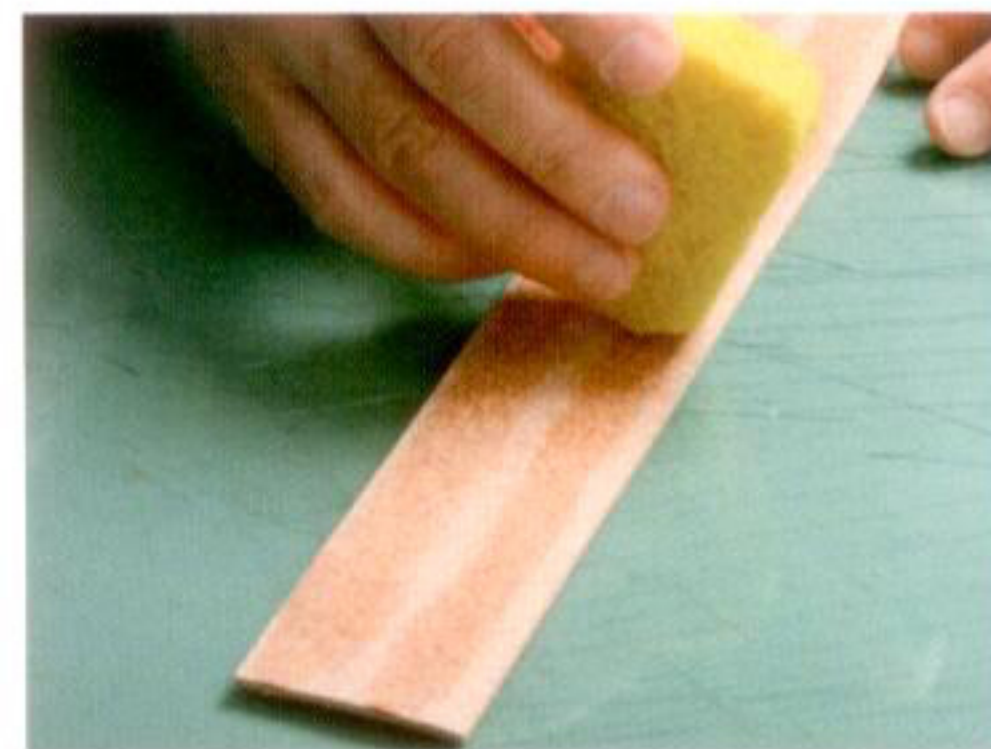
- ネジ捻 ●定規 ●スポンジ
- ヘラ付きヘリ磨き など



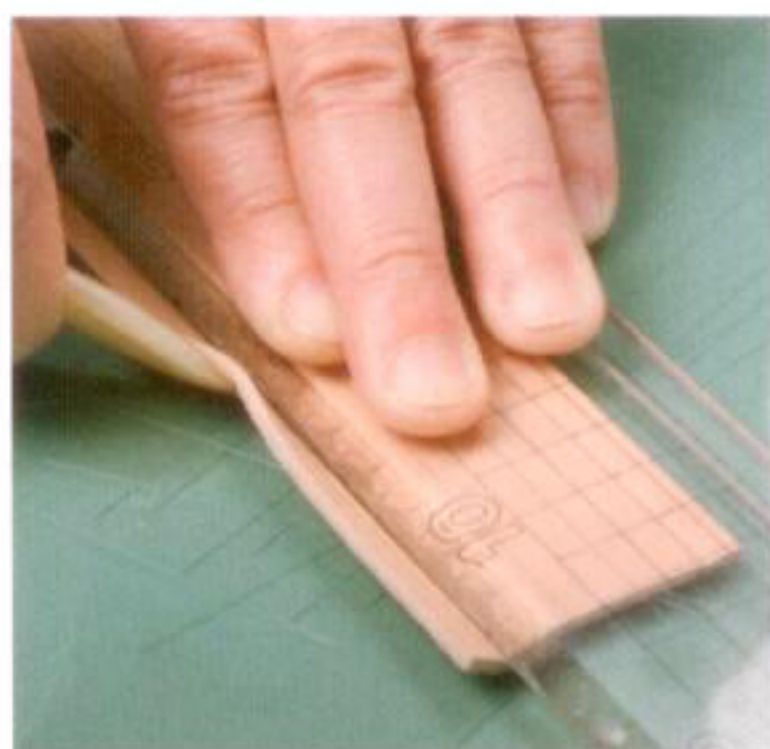
1 ネジ捻の端から端の巾を7mmに合わせる



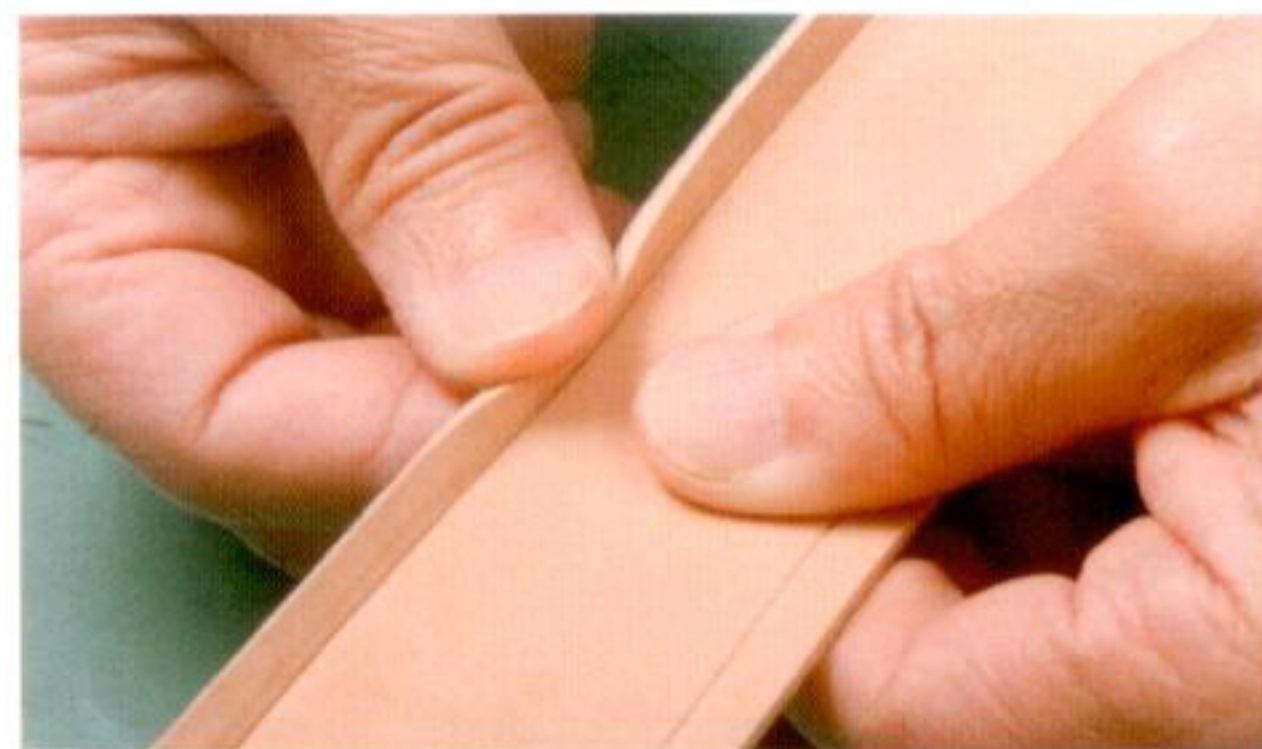
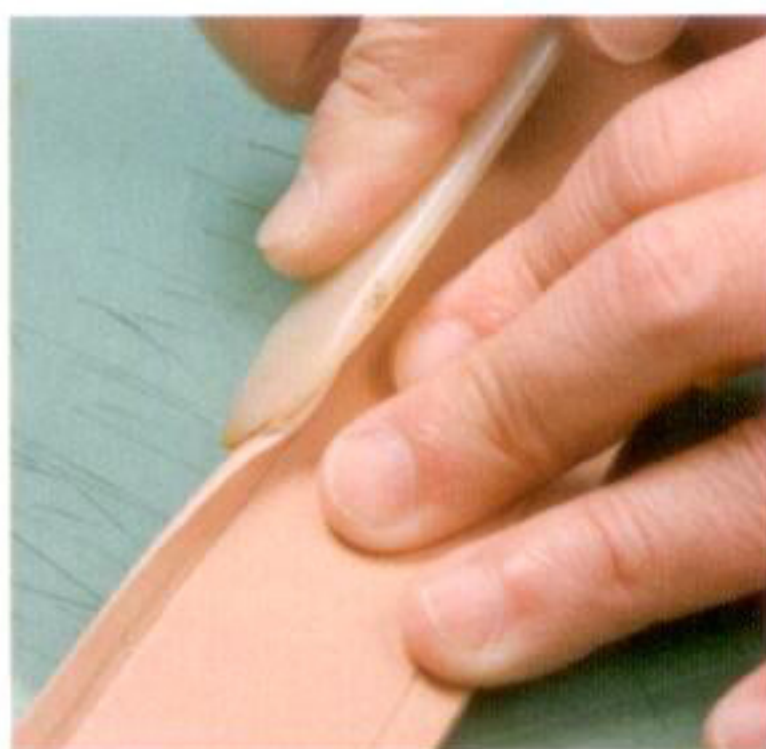
2 マチの側面にネジ捻の片刃を沿わせ、もう片方の刃で線を引く



3 水を吸わせたスポンジで、マチの床面に水を含ませる



4 ネジ捻で付けた線を基準に、定規をあてながらヘラを使って折り曲げていく



5 ヘラで折り目を付けたら、垂直になるように指でしっかりと折り曲げる



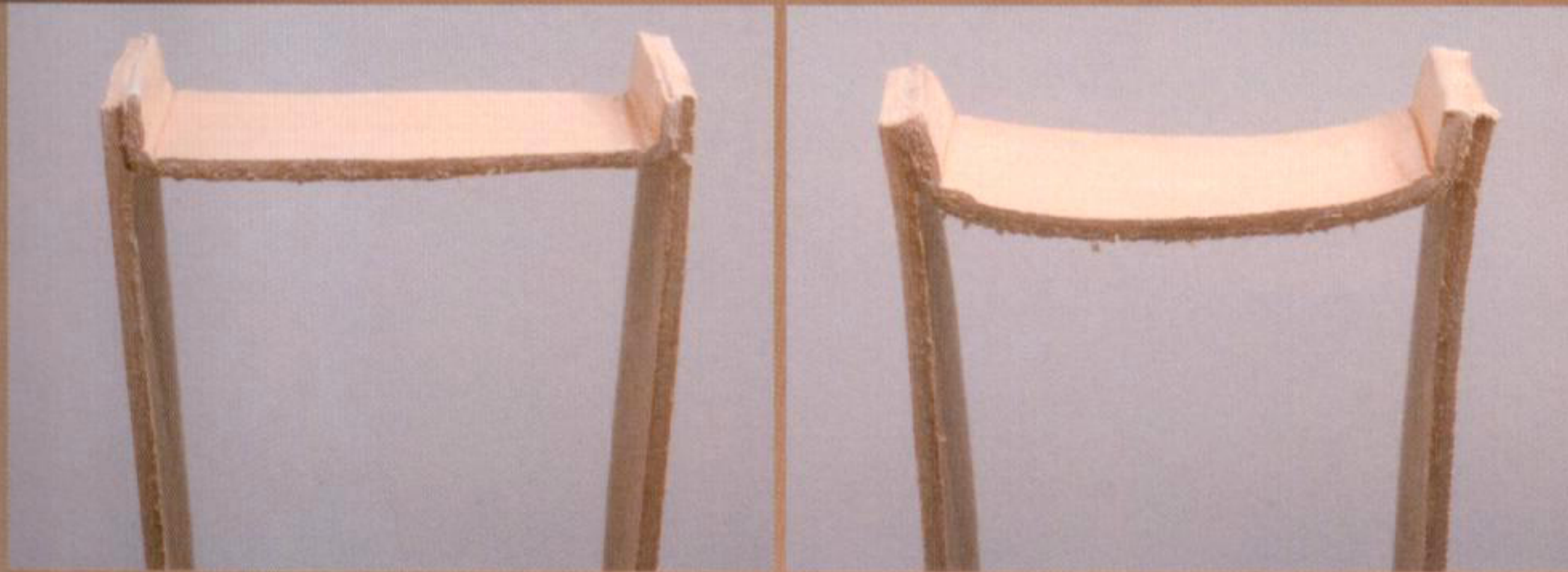
6 本体の形に合わせ、引っ張りながらマチを曲げていく



7 本体の形に合っているか確認しながら、少しずつ形を作っていく



8 成形したらそのまま乾燥させる。本体よりも長い部分は後で切る

POINT 1 マチの接合面をすいてポリウムを抑える

マチの折り曲げる部分と本体との接合面を少しすいておくと、ポリウムが抑えられて、きれいに仕上げる事ができる。左はすいて接着したもので、右はすいていない状態で接着したもの。このような細かなポイントでも、最終的な仕上がりは変わってくる

POINT 2 ギャザーを付けたマチの作り方

折り曲げて作る 指で曲げて折り目を付けたら、木槌で叩きながらしっかりとW型にする



50℃以下のお湯にマチをサッと通し、内部に水分を含ませる



木槌で叩きながらしっかりと折り目を付け、W型にする



マチを引っ張りながら本体の形に合わせ、成形したらしっかりと乾燥させる

削って作る ステッチンググルーバーで軽く削って、折り目を付きやすくする



マチの床面に等間隔の線を引き、ステッチンググルーバーで軽く削って溝を作る



霧吹きなどで床面を水で湿らせ、溝の部分で互い違いに折り曲げていく



他の技法と同じように、引っ張りながら曲げて本体の形に合わせていく

8 革の接着

縫製する部分を接着剤で貼り合わせる。貼り合わせる部分は、ヤスリがけをして接着剤を付きやすくする。接着剤は種類によって特徴が異なることを覚えておこう。

必要な物

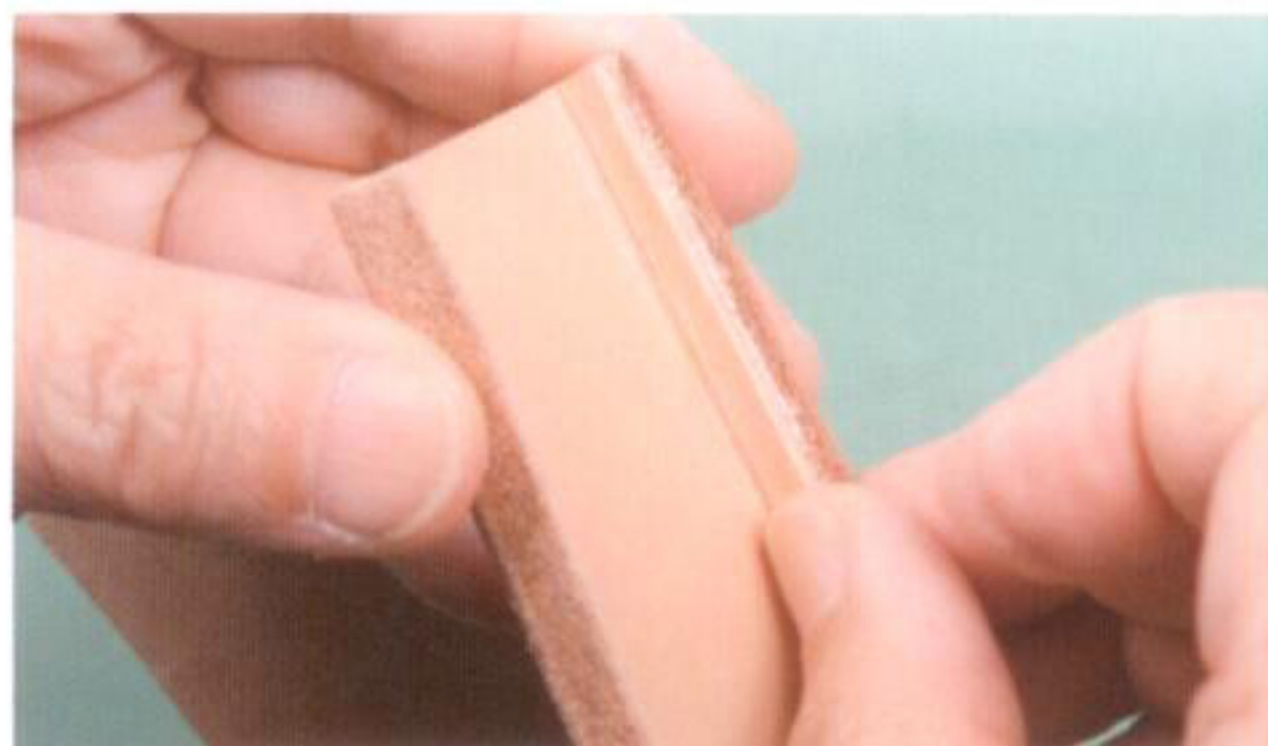
- サンドスティック ● 接着剤(サイビノール)
- ジラコヘラ ● モデラ ● 定規 ● カッター
- トコフィニッシュ ● ヘリ磨き ● 銀ペン など



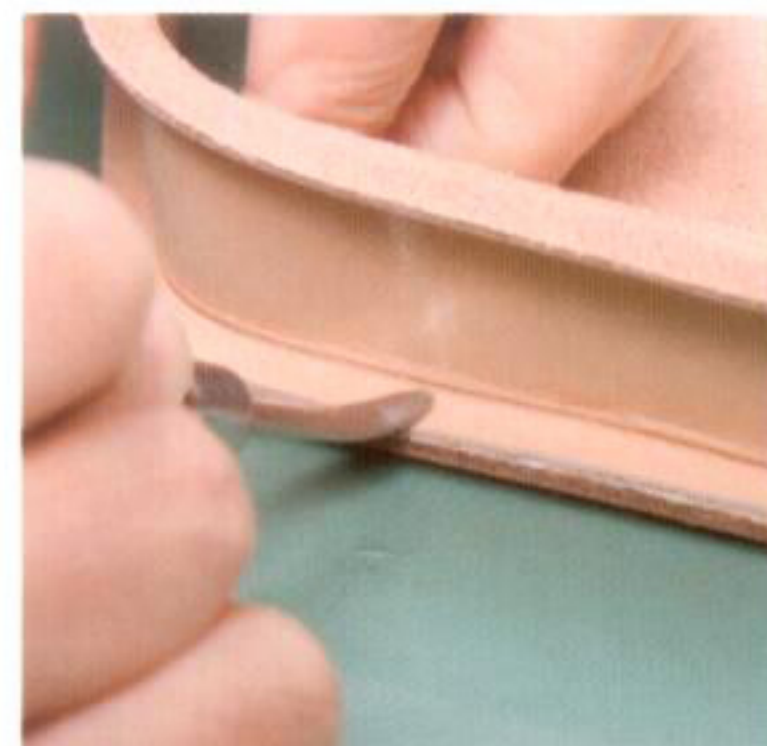
1 サンドスティックの先端を1cm程度出し、本体Bの横と下をヤスリがけして縫いしろを荒らす



2 本体Bのヤスリがけした部分と、マチの折り曲げた部分にサイビノールを塗る。まずは半分だけ塗る



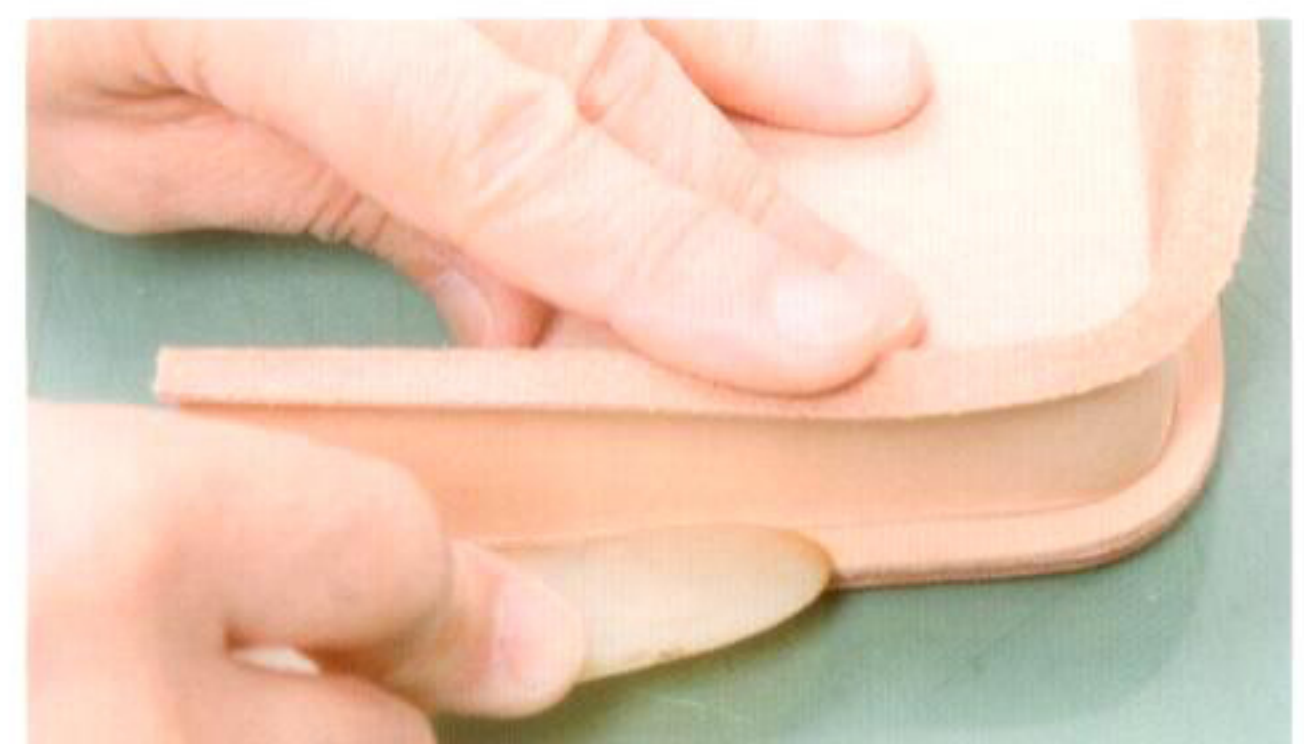
3 本体Bとマチを貼り付ける。まずはじめに端をピッタリ合わせる



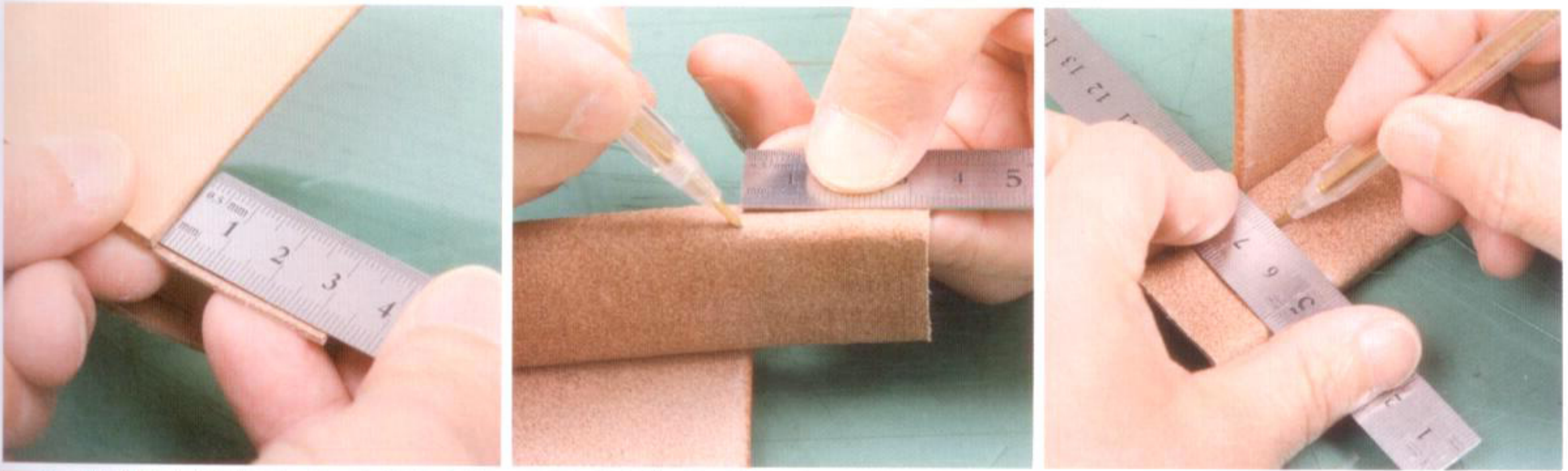
4 モデラを滑らせながら圧着させていく。カーブは特にしっかりと圧着させておく



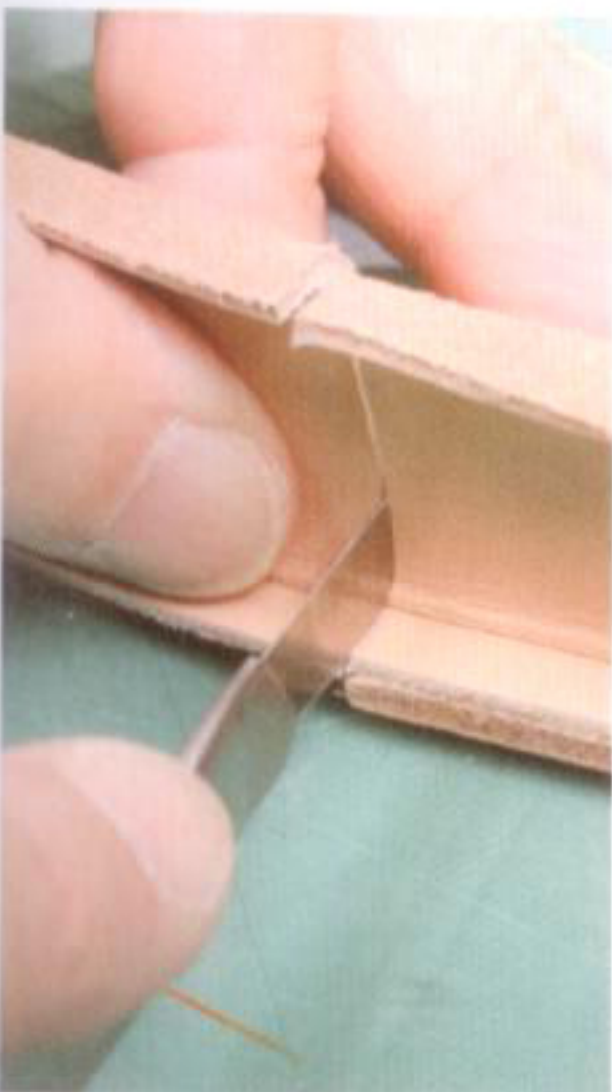
5 本体Bとマチのもう半分に、サイビノールを塗って貼り合わせる。サイビノールがはみ出した場合は拭き取っておく



6 モデラがない場合は、ヘリ磨きのヘラを使っても良い。しっかりと隅々まで圧着させる



7 本体Bよりもはみ出ているマチの長さを測り、床面に印を付ける。床面は印が付きにくいので、丸ギリではなく銀ペンを使用すると良いだろう



線に沿って、はみ出したマチをカッターでカットする。裁断面が曲がらないように、ゆっくり切ること

8



9 34ページと同じように、トコフィニッシュを付けてマチのコバをヘリ磨きで磨く

POINT 1 接着剤の塗りすぎに注意



接着剤を厚く塗りすぎてしまうと、写真のように接着剤の層ができてしまうため、なるべく薄く塗ること

POINT 2 接着剤の種類と特徴

原材料	名称	特徴
酢ビ系	サイビノール100番 ボンドCH18	乾くと接着しないので、塗ったらすぐに貼り付ける。水分を含む
天然ゴム系	スリーダイン ゴムのり(ECO)	裏貼りや仮止めに使用する。乾いてから貼るため、修正しにくい
合成ゴム系	スーパークラフトボンド ダイアボンド ボンドG17 ボンドG17クリヤー	天然ゴム系と同じように乾いてから貼るので、広い面の接着に適している。乾くとポロポロになり、ラブラブクリーナーなどで取れる

9 縫い線を付ける

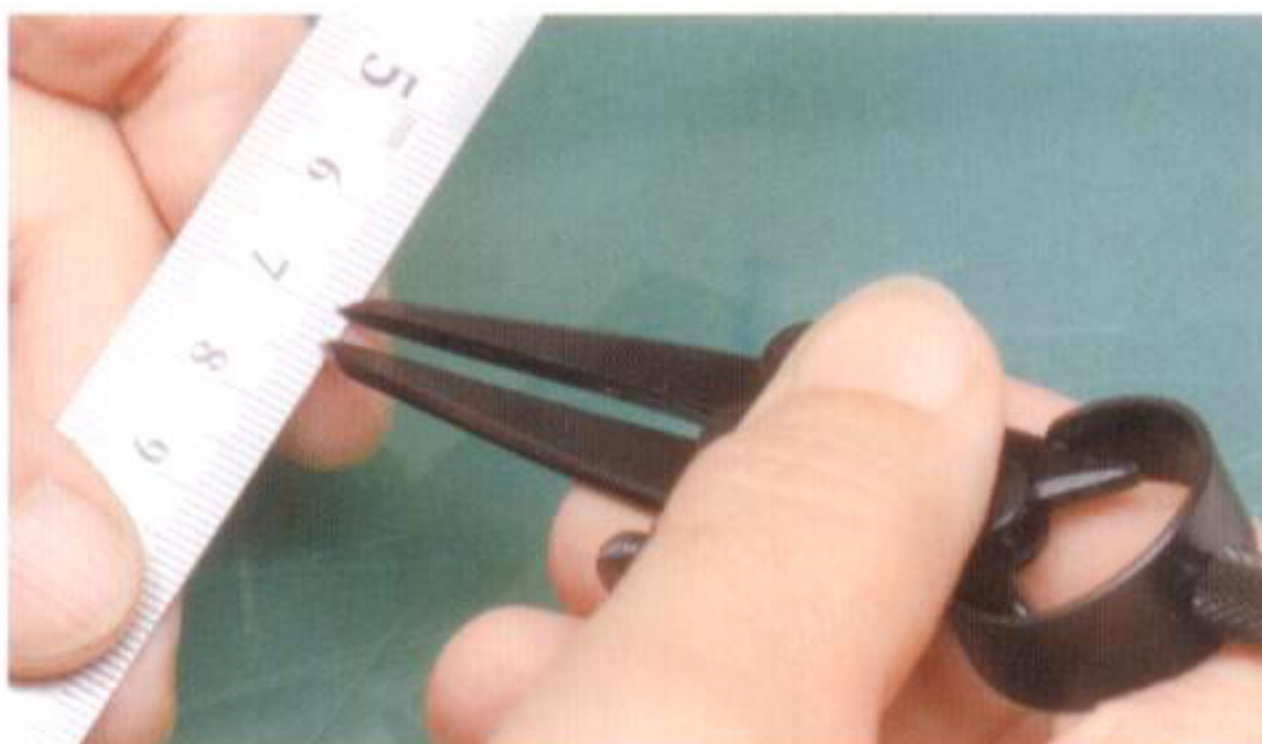
ヒシ目打ちを打つ目安となる縫い線。縫い線を付ける道具はいくつかあるが、どれもコバに沿って使うため、コバがまっすぐになっていないと線も曲がってしまう。

必要な物

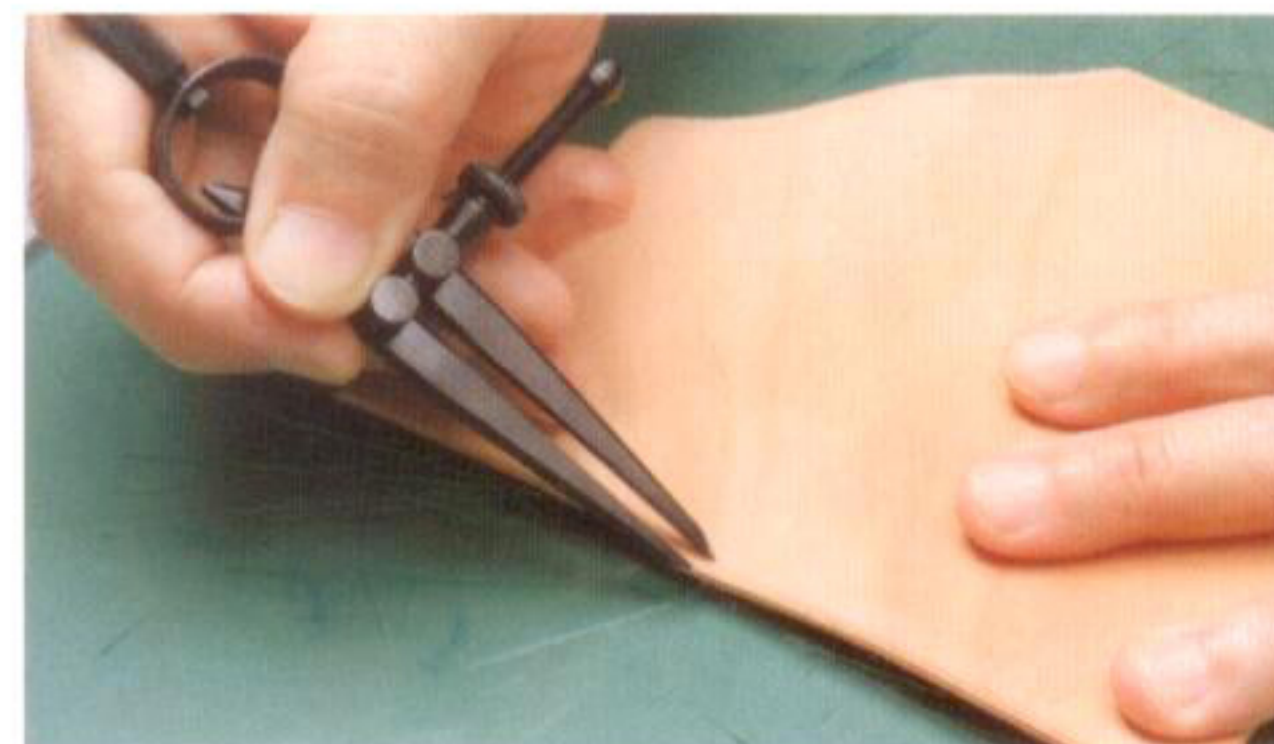
- 定規 ●ディバイダー ●ネジ捻
- ステッチンググルーパー ●サンドスティック など

サイビノールで貼り合わせた本体Bとマチの側面を、サンドスティックで削って平らにする。縫い線を付けるときに側面がガタガタだと、縫い線も曲がってしまうため、ここで平らに修正しておく

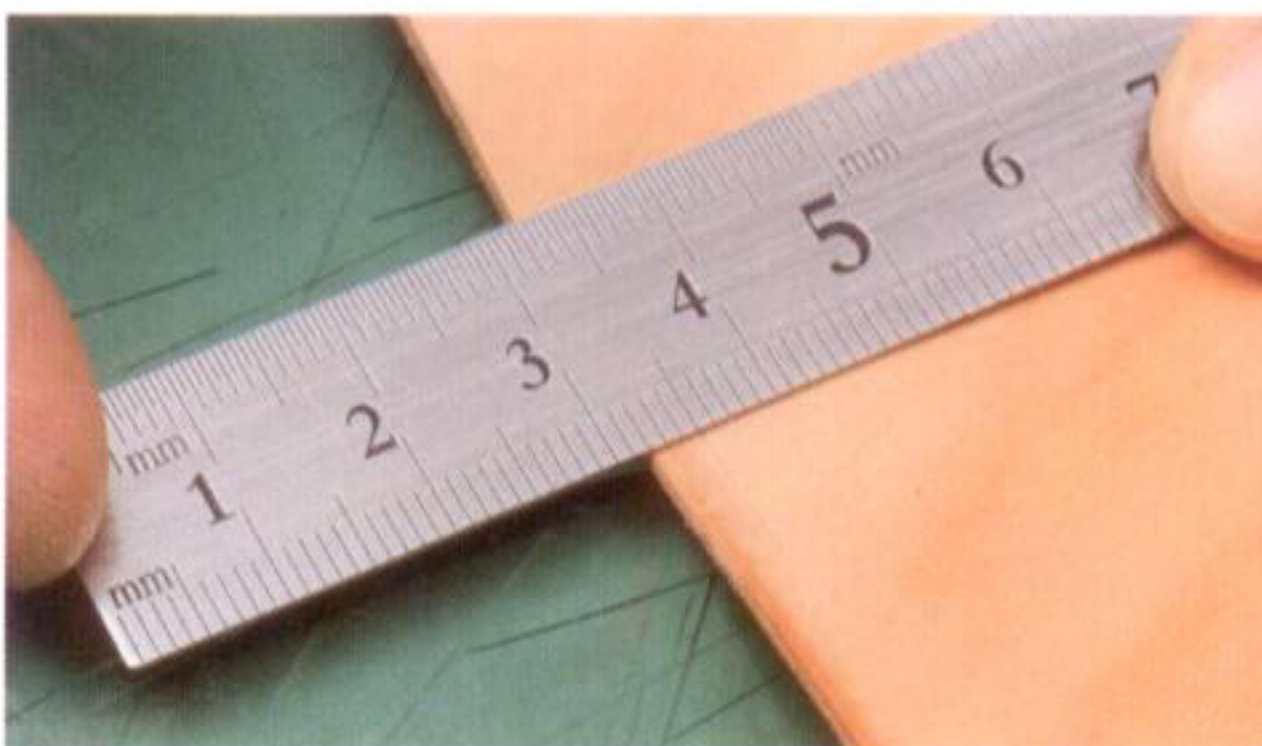
1



2 ディバイダーの巾を3mm強に合わせる。縫い線の巾は、好みや革の厚みによって変えても良い



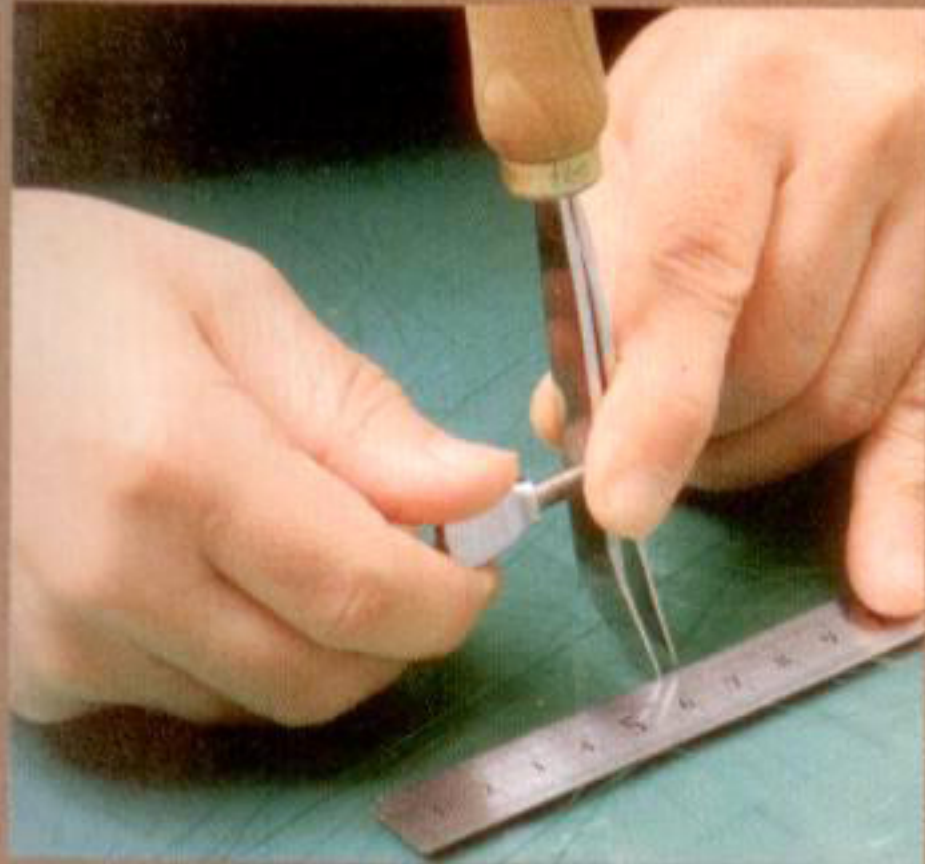
2 端切れなどに線を引いてみる。片方の先を側面に沿わせたままディバイダーを引く



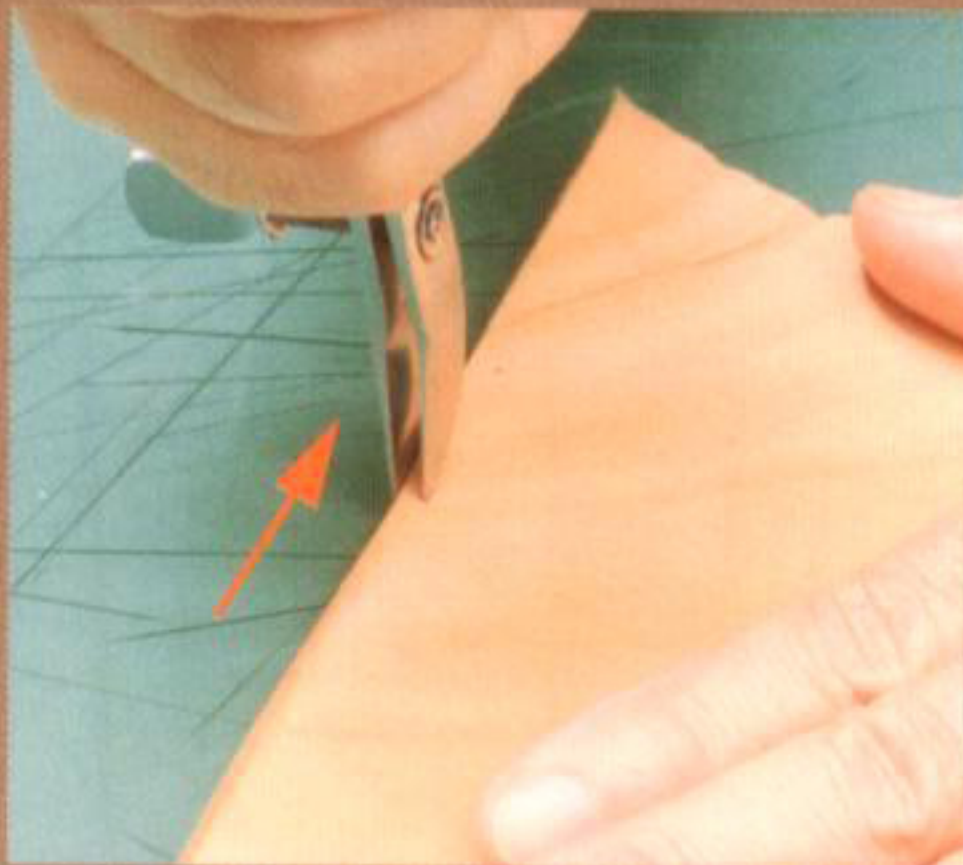
3 端切れにけがいた線が3mm巾になっているか確認し、なっていない場合は調整する



4 ディバイダーの巾を3mmに合わせ、マチを貼り合わせた本体Bの側面に線をけがく

POINT 5 その他の道具を使用した縫い線の引き方**ネジ捻を使う**

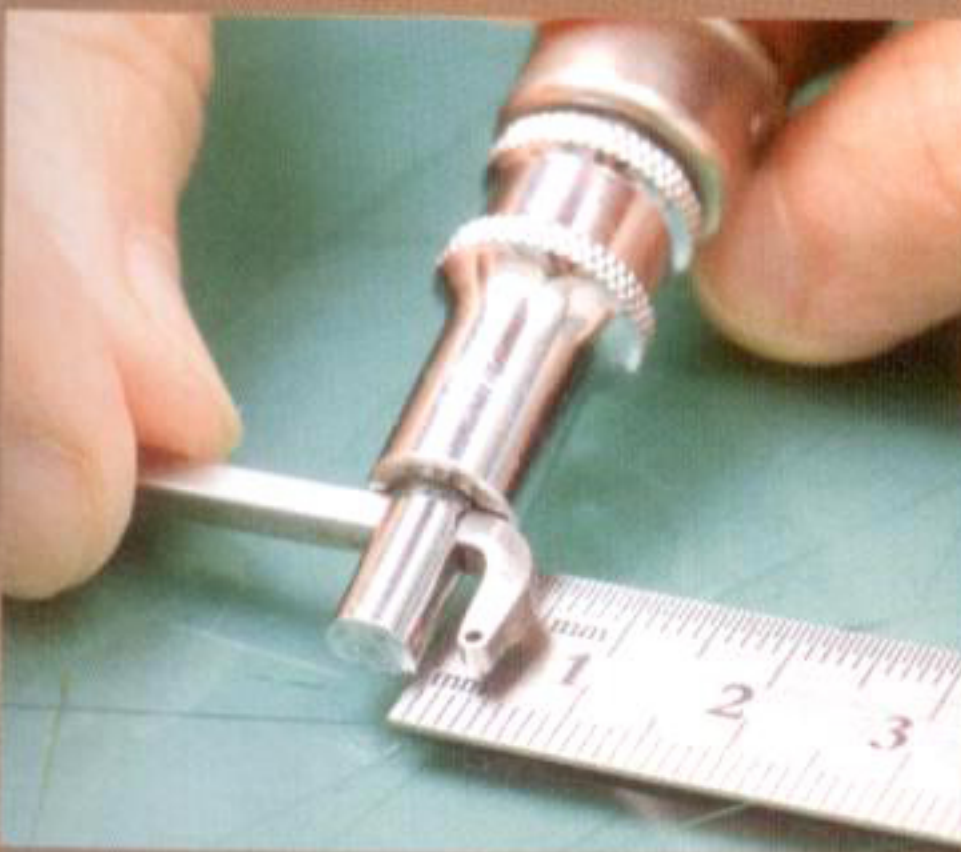
1 ディバイダーと同じように、ネジ捻の巾を3mm強に合わせる



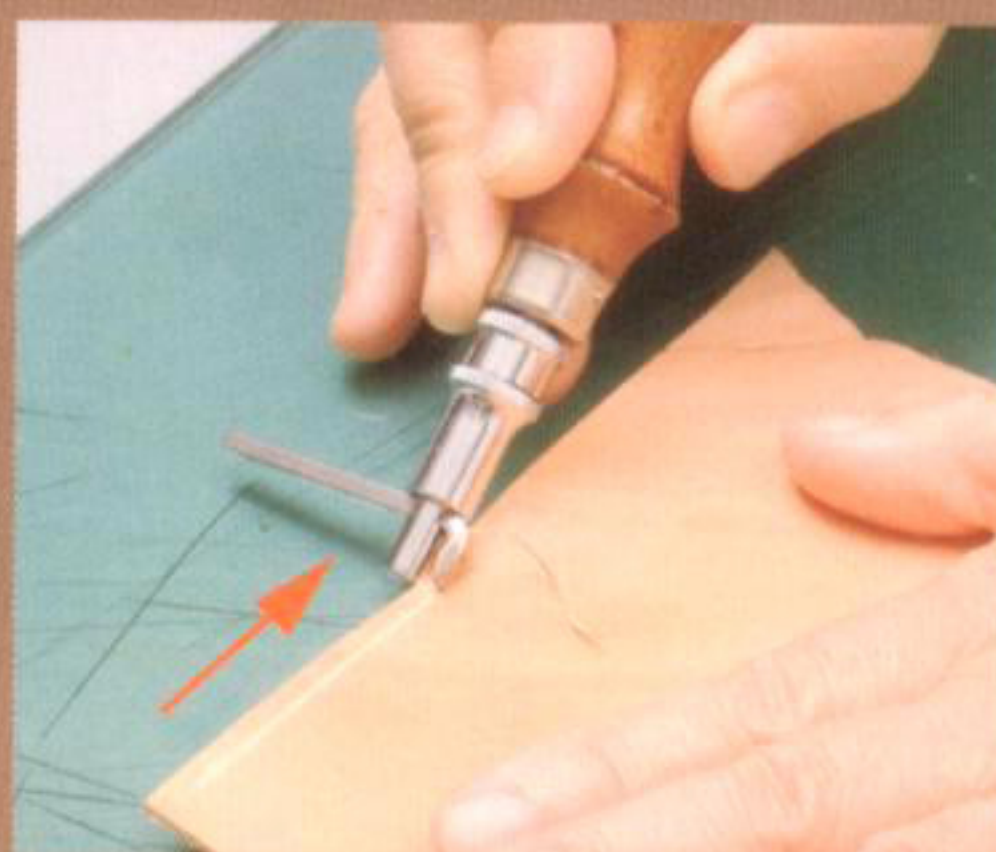
2 革の側面に刃を沿わせながら、奥から手前に引いて線を付ける



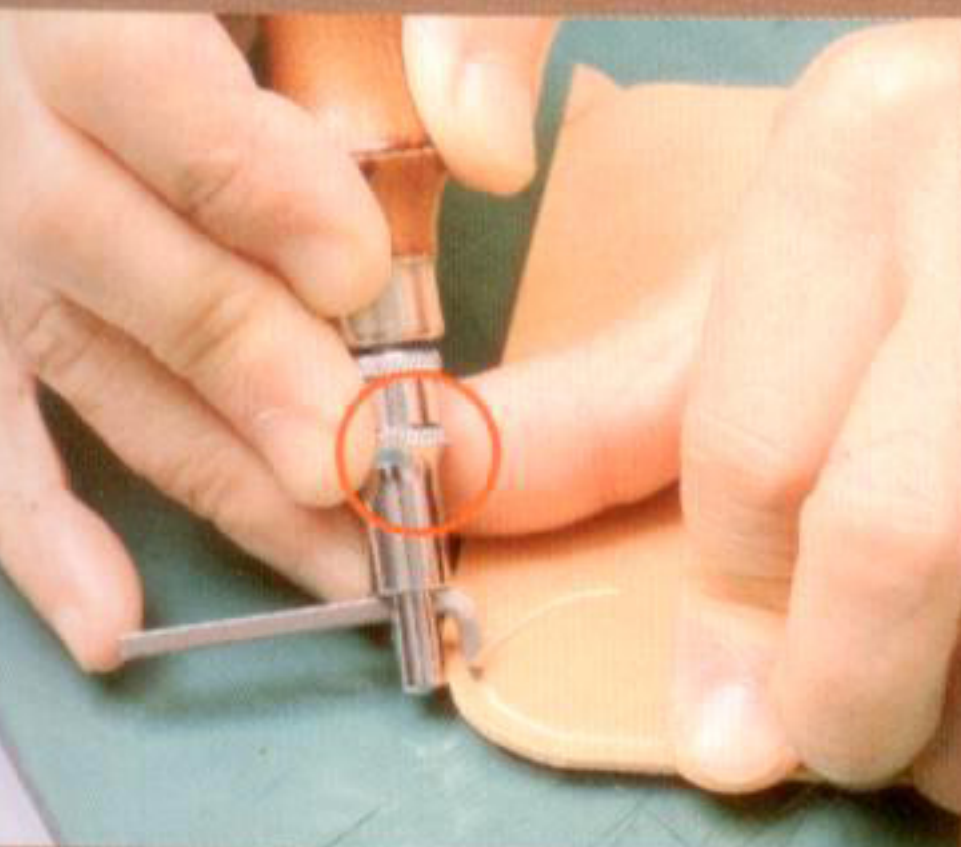
3 ネジ捻は刃を立てて引く。この角度が変わると線の太さも変わる

ステッチンググルーバーを使う

1 刃の中心と棒の間の巾が、3mmになるように合わせて固定する



2 ステッチンググルーバーを45°くらいに傾け、革の側面に沿わせながら手前に引く。円形状の刃が付いているので、革が削られて溝ができる



3 カーブは刃が離れやすいので、親指をあててゆっくり動かす



4 ステッチンググルーバーを立てて使うと、削らないで縫い線を付けることができる。ネジ捻と同じ要領だが、ネジ捻よりも線は太くなってしまふ

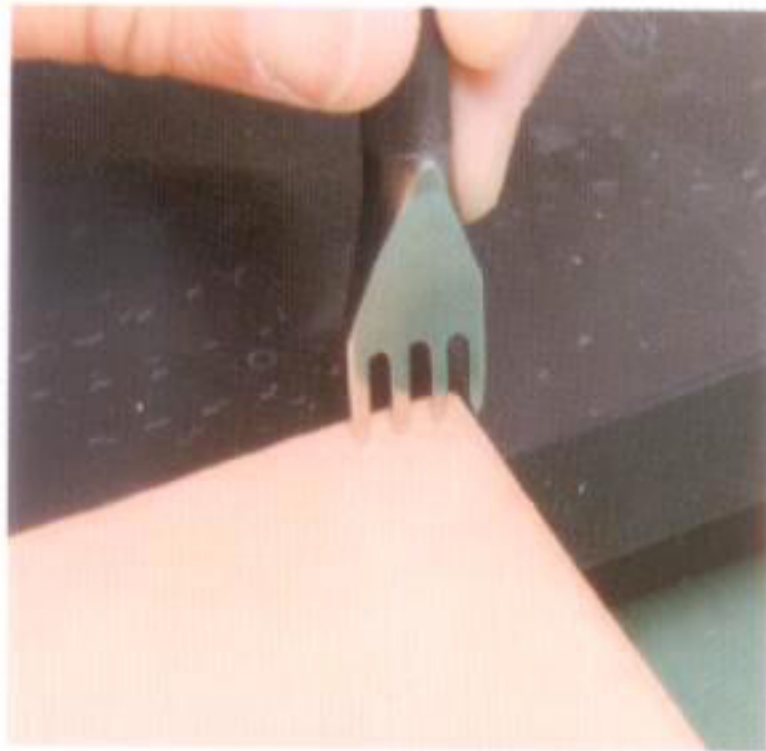


10 ヒシ目打ちを打つ

きれいな縫い目を出すための第一のポイントが、ヒシ目打ちで空ける縫い穴。縫い穴のラインをまっすぐ空けることができるように、ヒシ目打ちは垂直に立てる。

必要な物

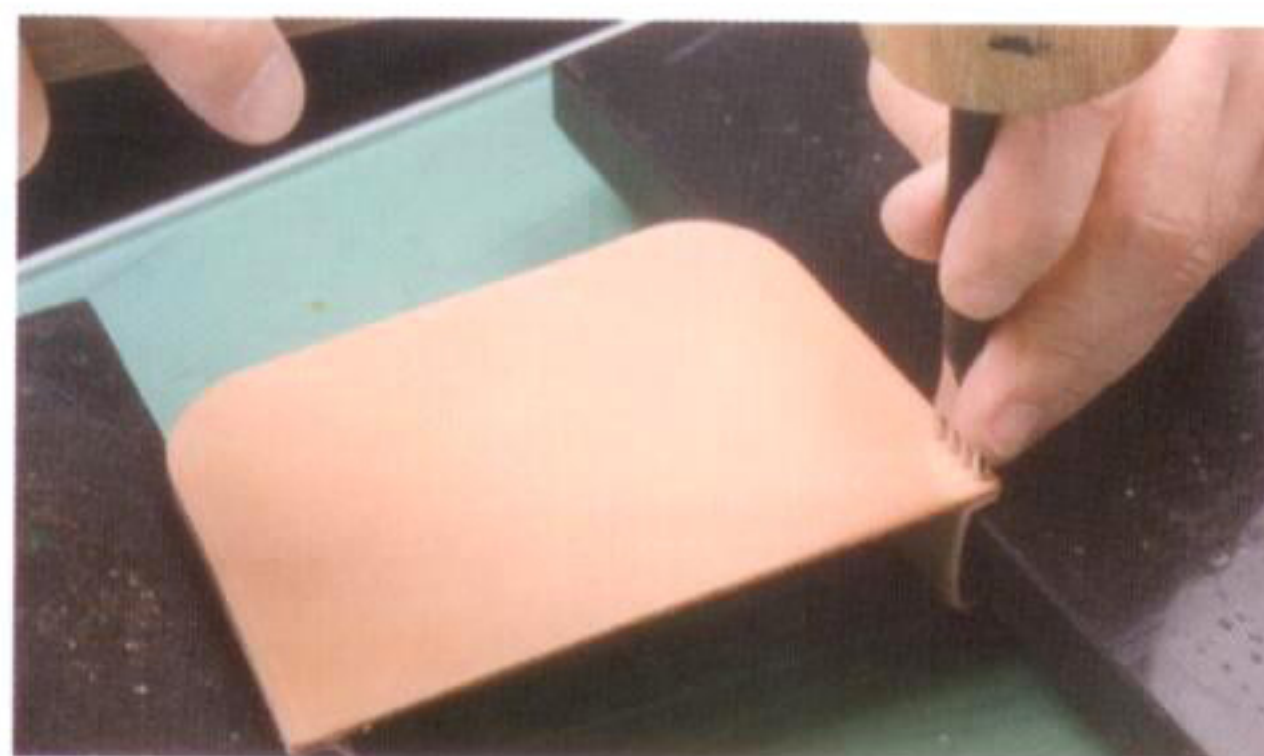
- ヒシ目打ち(2.5mm巾の2本と4本)
- ゴム板
- 木槌 など



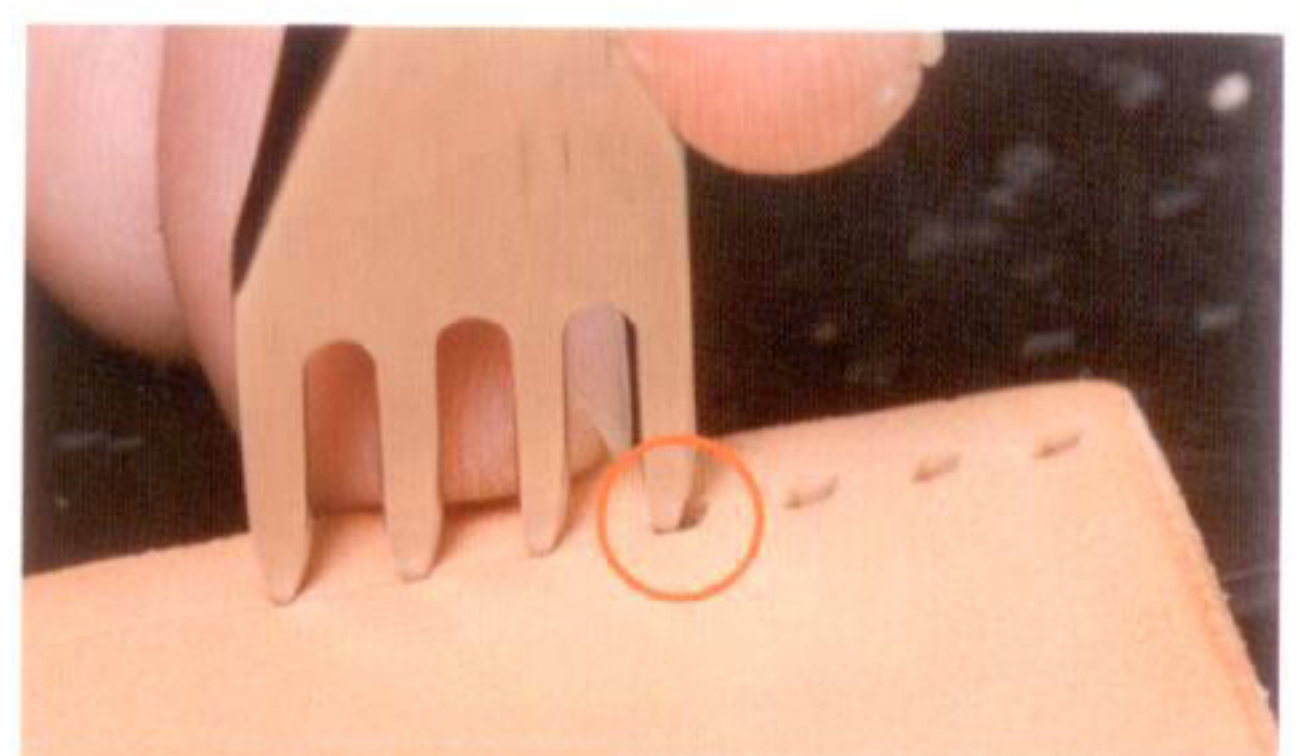
1 デバイダーで付けた線の上に、ヒシ目打ちを合わせる。4本のうちの1本を上部側面に合わせ、軽く押しつける



2 軽く押しつけたヒシ目の跡に合わせ、ヒシ目打ちを垂直に立てて木槌で打つ



3 ゴム板を利用して本体を水平にしておくと、まっすぐ穴を空けることができる



4 2回目以降は、4本のうちの1本を前に開けた1穴に重ねて打っていき、縫い線が曲がらなくなる



5 カーブしている部分は2本ヒシ目打ちを使用する。これにより、縫い穴や縫い目がきれいな曲線に仕上がる



6 終わりに近づいたら一度止まり、ヒシ目打ちを軽く押しつけながら、穴の位置を確認する



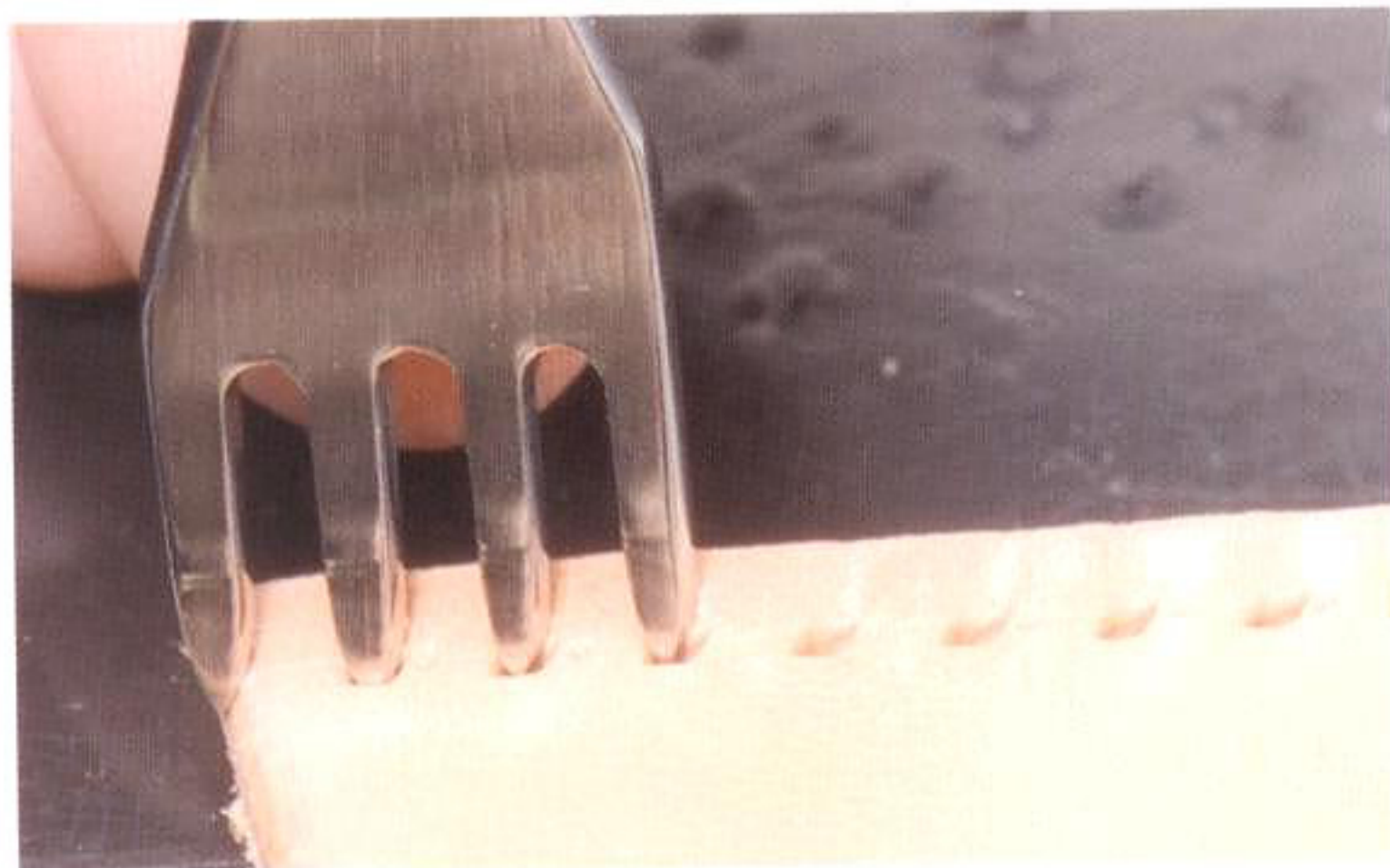
7 最後が左のように端からギリギリの位置になってはいけない。右のように1本分空くように調整する



8 2本ヒシ目打ちを使用し、少しずつ進行方向側に寄せるように押しながら打っていく



9 さらに近づいたら、もう一度確認する。このように1本分空いていれば大丈夫だ



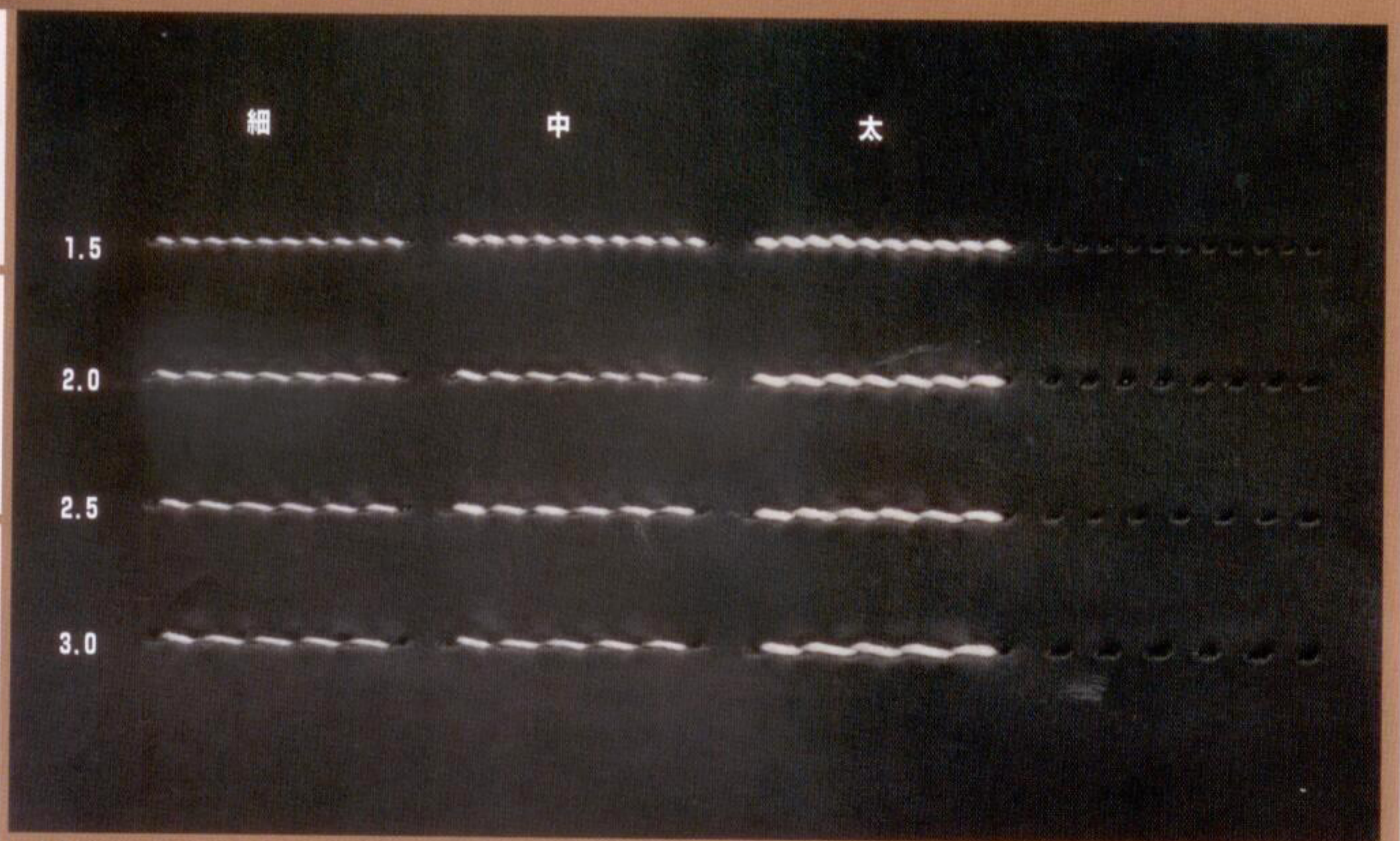
10 最後はヒシ目打ちの1本分を空けて打つ。確認した時点でこのようになる場合は、調整する必要はない

POINT 1 ヒシ目打ちは垂直に立ててまっすぐ打ち抜く



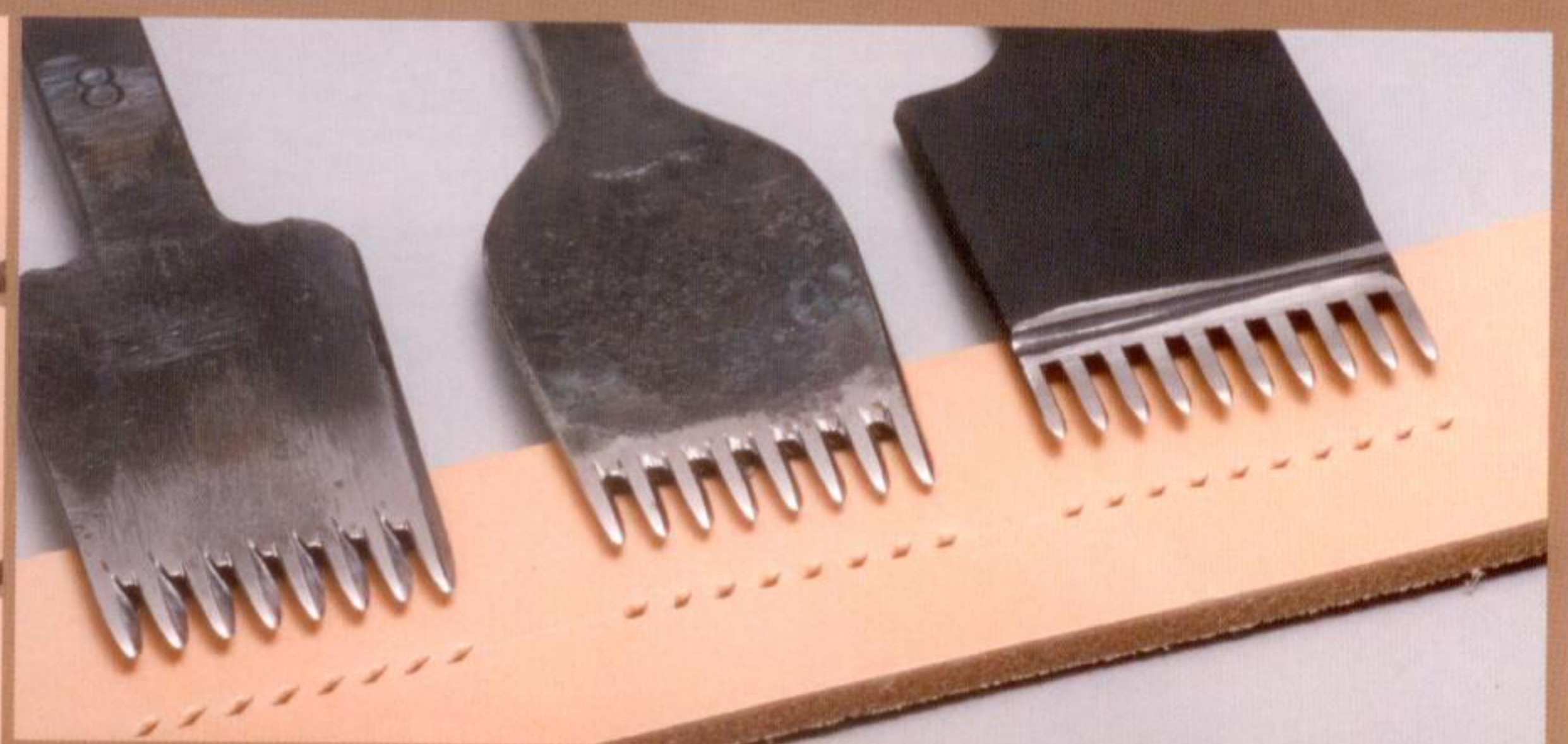
きれいな縫い目を作るには、何と言ってもヒシ目打ちが鍵となる。ヒシ目打ちがきれいに打てていないと、縫い目もガタガタになってしまう。ヒシ目打ちには垂直に立てて打つのが基本。斜めになると、表と裏の穴位置が変わって、縫い目がまっすぐにならない

POINT 2 ヒシ目打ちのサイズと縫い目の違い



上の写真はそれぞれ1.5mm、2.0mm、2.5mm、3.0mm巾のヒシ目打ちで打ち、麻糸の細、中、太で縫ったもの。巾と糸の太さが異なるだけで印象が変わることがわかるだろう。クラフト社のヒシ目打ちは、ヒシ目打ちの刃と刃の間の巾をサイズとして表記しているが、他のメーカーでは、1本めの刃の端から次の刃までの巾をサイズとして表記している場合もある

POINT 3 メーカーによるヒシ目の形の違い



菱形を比べると3社とも形が異なるのがわかる。基本的により正方形に近い方が縫い目が斜めになりやすい。老舗工具メーカーの岩田屋やひうち屋のヒシ目打ちは、クラフト社とは菱形が異なり、33mmという決められた巾に何本ヒシ目が入っているかによって巾が変わるため、サイズは何mmとは表記されない

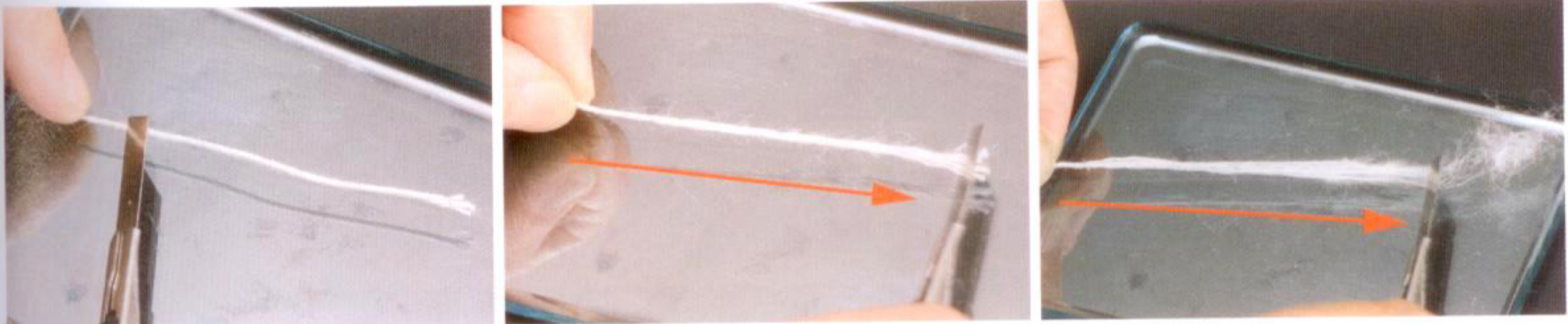
11 パーツの縫い合わせ

手縫いの基本となる平縫いで、パーツを縫い合わせる。ここでは奥から手前に縫い進んでいるが、その逆で進める人もいるので、好みの方で進めると良い。

必要な物

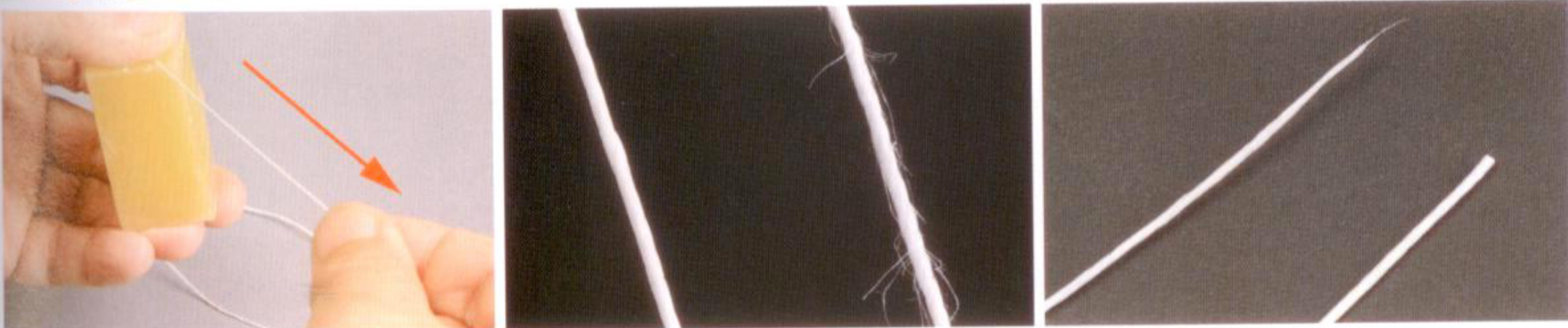
- カッター ●ガラス板 ●麻糸 ●手縫針
- 手縫いワックス ●ステッチングツリー
- ハサミ ●サイビノール など

糸をほぐす



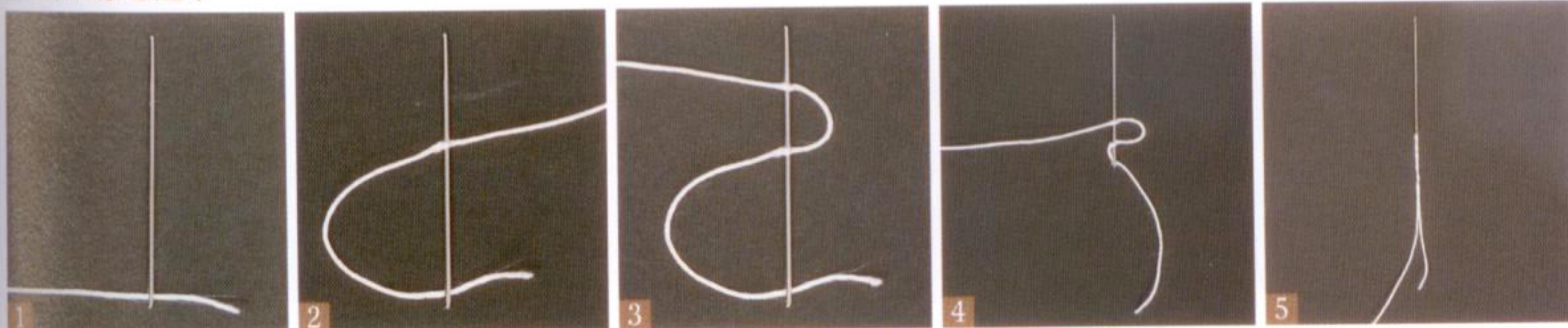
- 1 太い糸を使用する場合は、針の穴に通りにくいので、カッターで糸の先端をほぐす。カッターの刃を立てて先端から3～4cmの部分の数回けがくと、薄くなってふくらみがなくなる

ロウ引き



- 2 親指とロウで糸を挟み、糸を数回引いてロウを馴染ませる。糸をロウ引きするとほつれにくくなったり、穴に通しやすいなどの利点がある。真ん中はロウ引きした糸としていない糸、右はほぐした先端にロウ引きしたものとしていないもの

針に糸を通す



- 3 1針の穴に糸を通す 2糸に針を突き刺す 31cm程間隔を空けて再び突き刺す 4糸を手前に引っ張る 52本の糸を寄り合わせて1本にまとめる。穴に詰まらないように細くよじっておく。同じ要領で反対側にも針を付ける

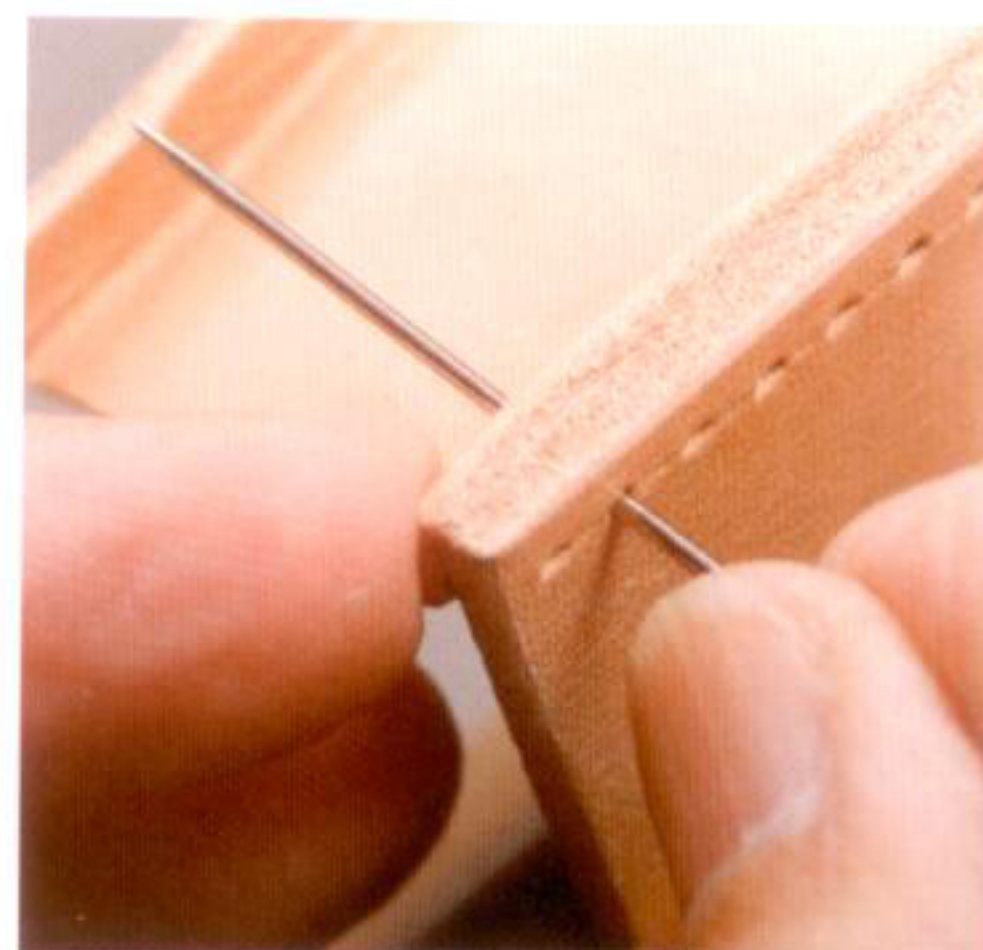
11 ハーツの縫い合わせ



4 糸は縫い合わせる距離の4倍程度の長さを用意する



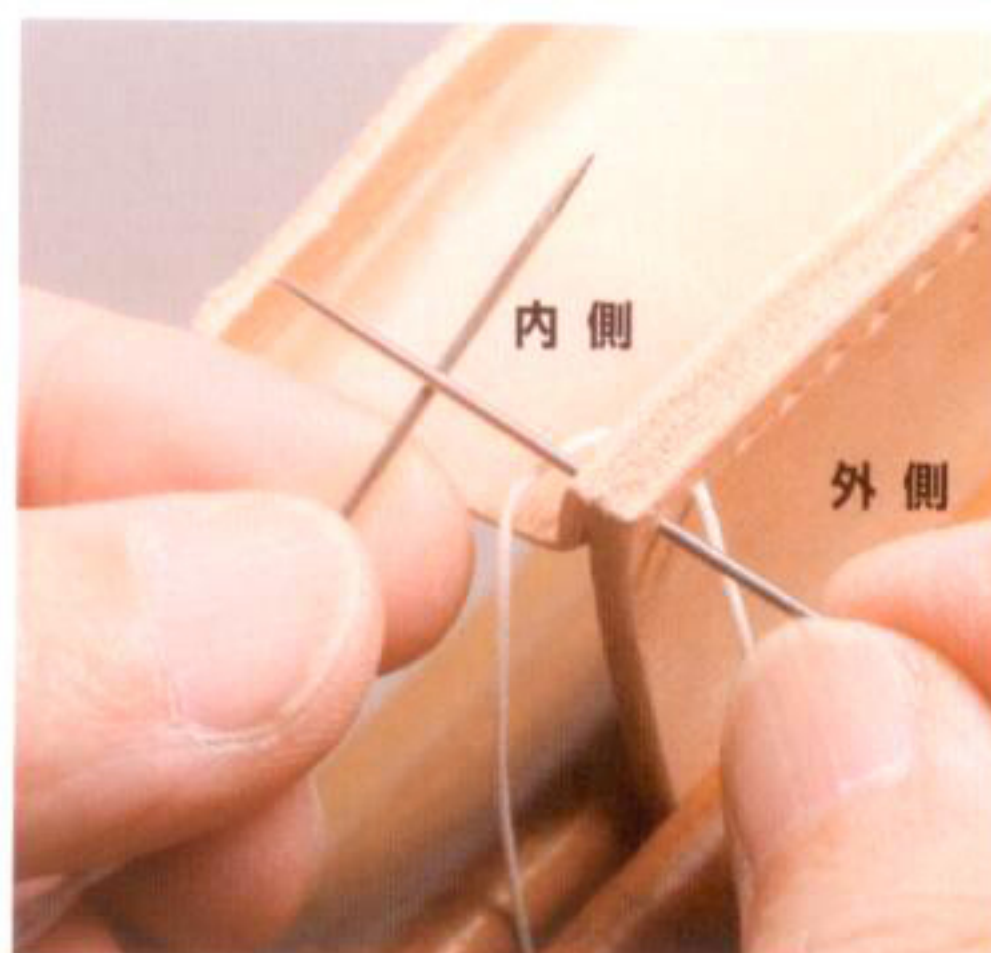
5 ステッチングツリーやレーシングポニーに本体を挟む



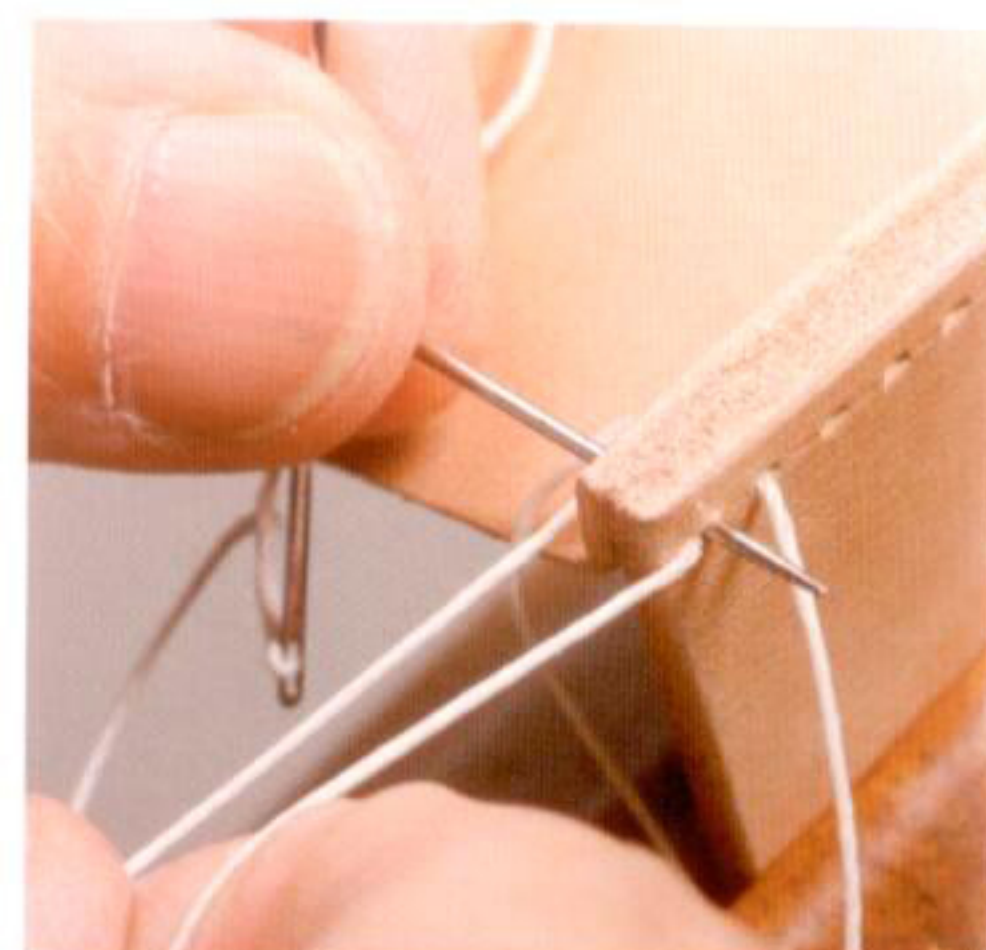
6 一番はじめは二重に縫うため、2つ目の穴に針を通す



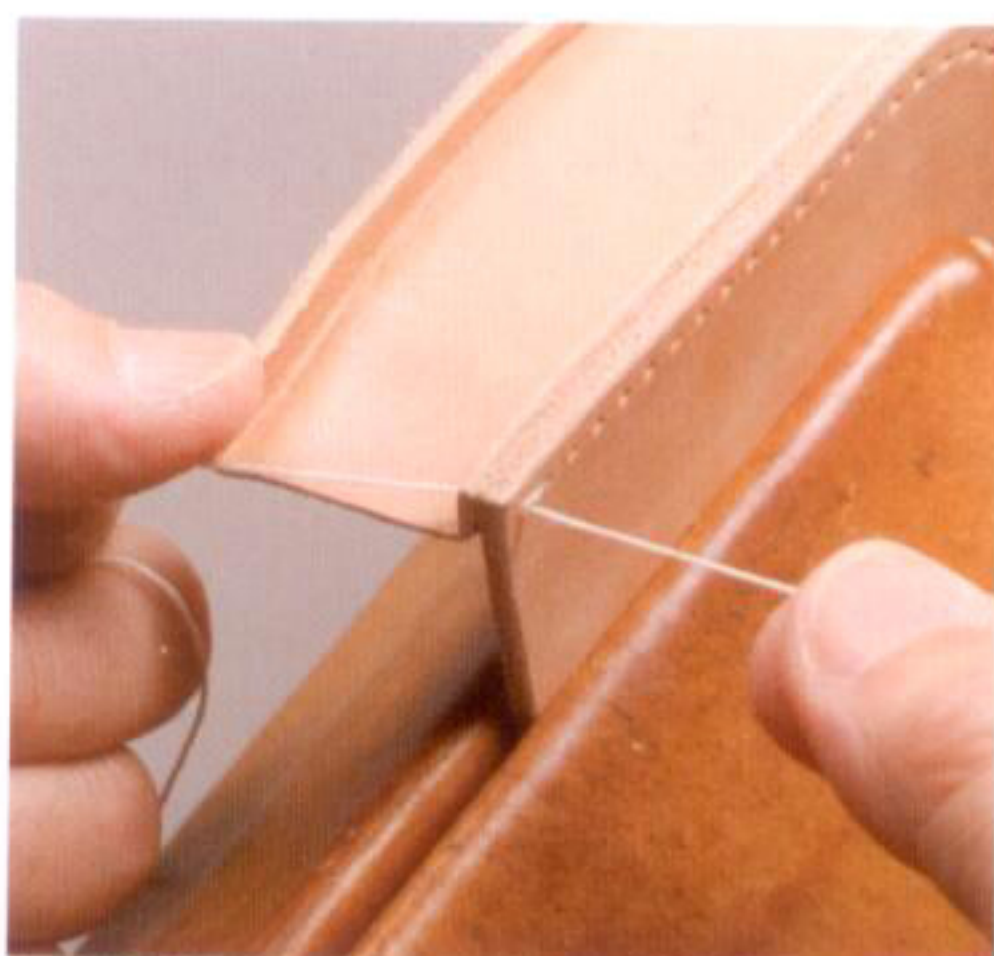
7 針を通したら、左右の糸の長さを均等にする



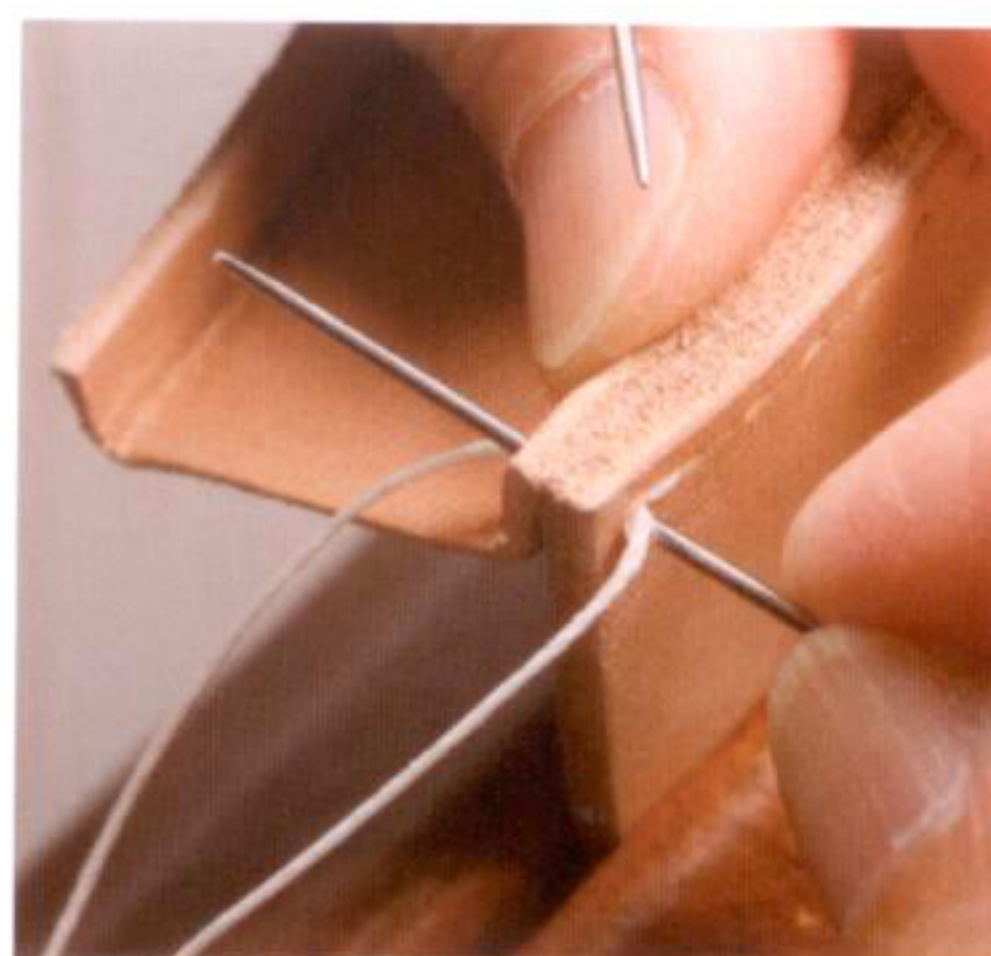
8 一番はじめの穴に外側から針を通し、内側の針をクロスさせる



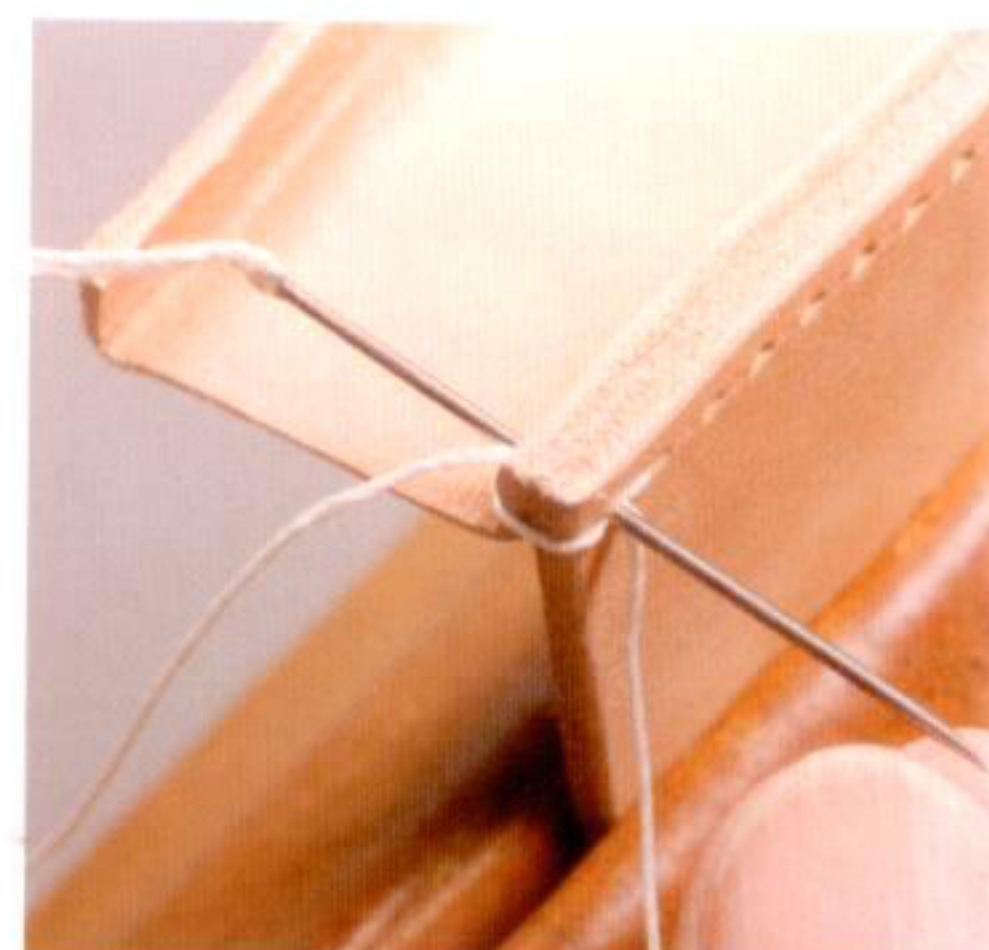
9 針を抜き取り、外側からの糸を手前に引いて内側から針を通す



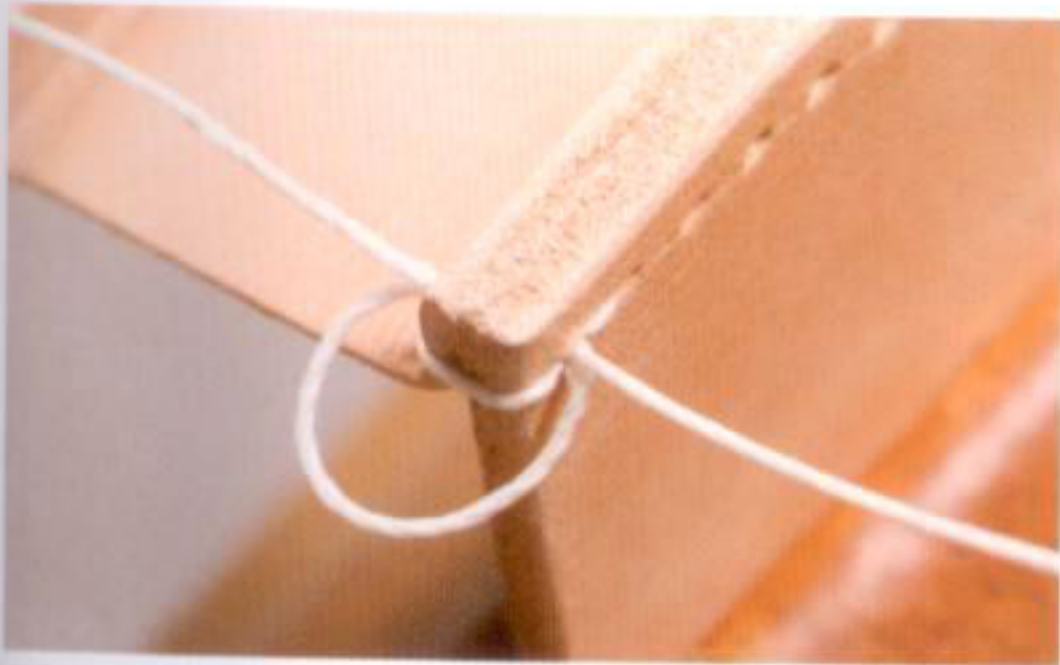
10 左右の糸を引っ張って締める。締めすぎるとシワになるので注意



11 今度は内側の針を本体上部にかけ、外側から針を通す

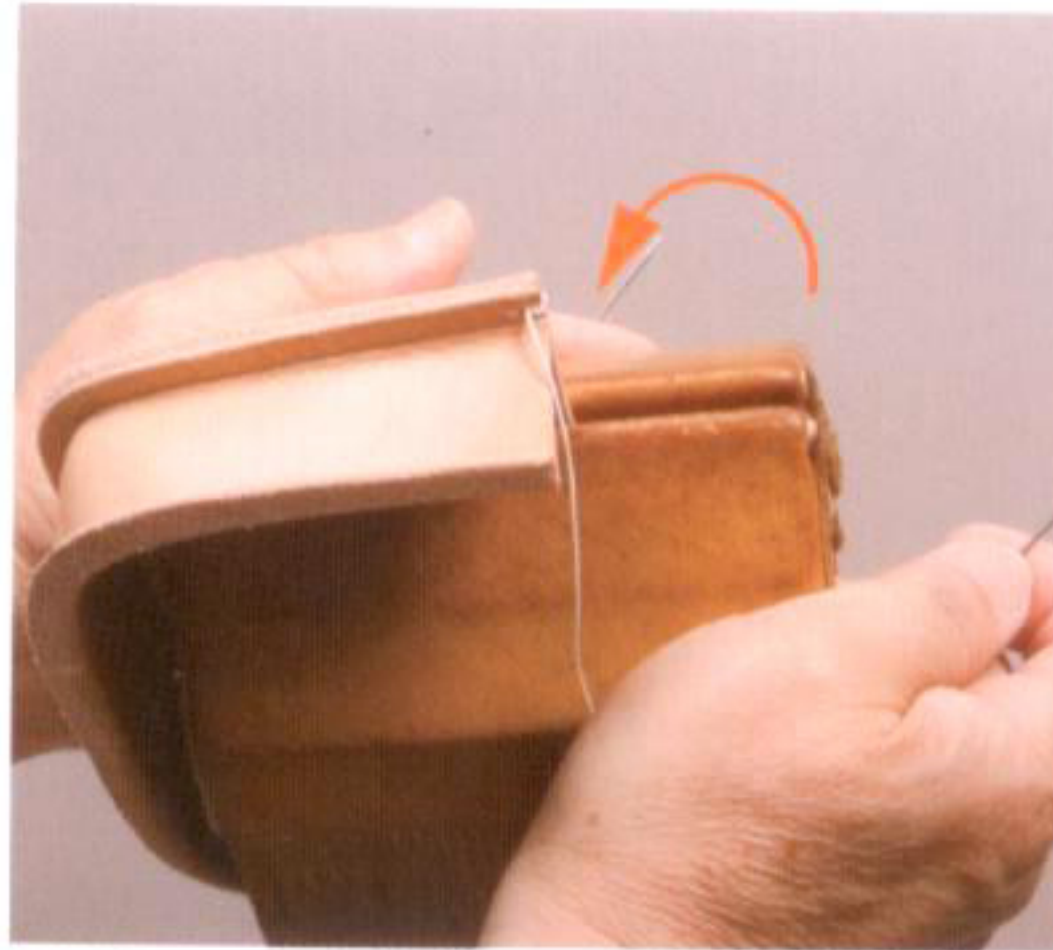


12 同じように外側の針を内側から通して、本体上部にかける



左右の糸を引っ張ると、
本体上部が二重に縛ら
れる。強く縛りすぎない
ように注意

13



14 ステッチングツリーを回転させ、本体
の向きを180° 変える

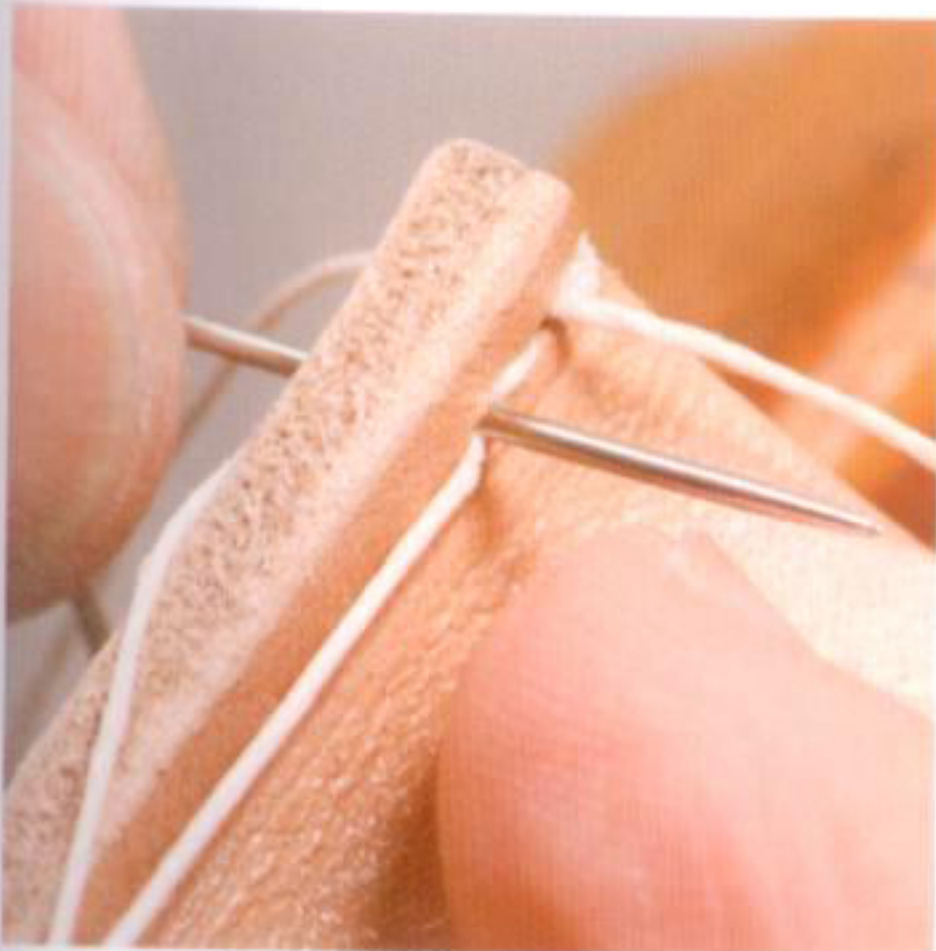


外側

内側

15

続いて内側からの針を通し、外
側の針をクロスさせる

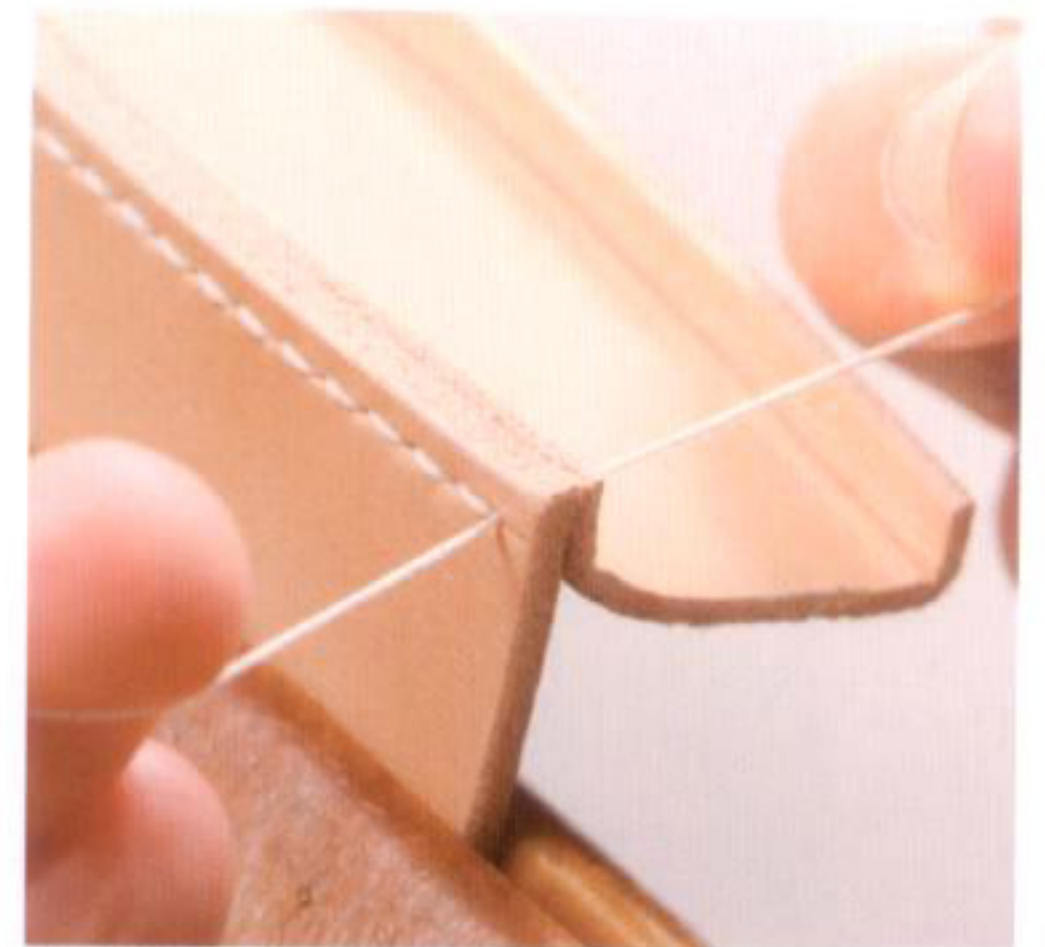


16 内側からの糸を手前に引いて、外
側からの針を通す

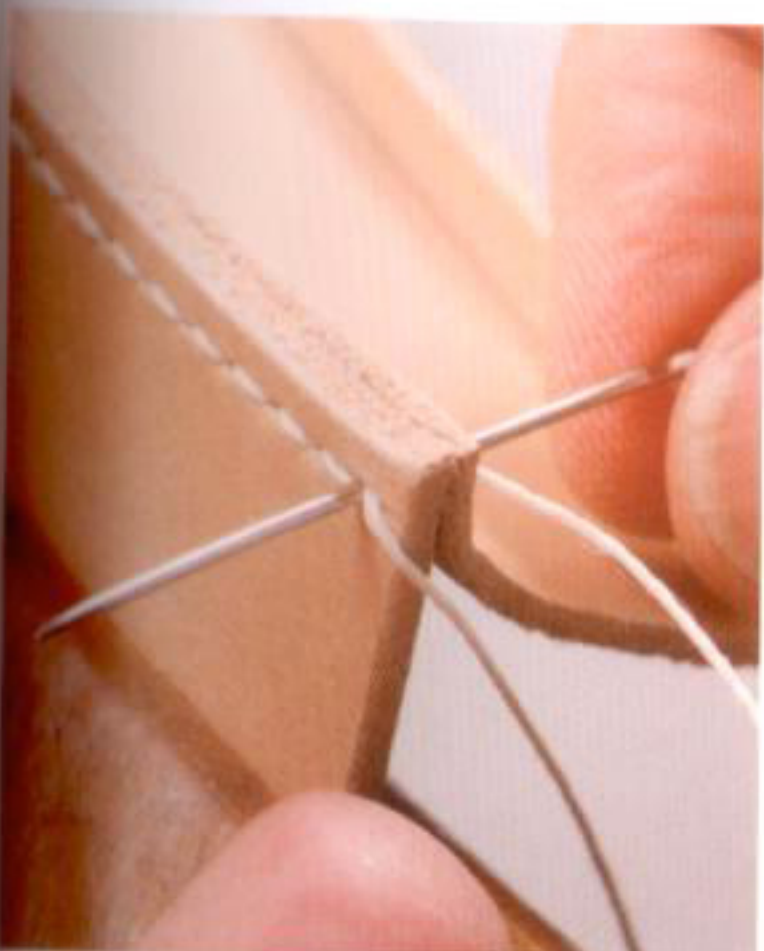


左右の糸を引っ張って
締める。あとは15~17
を繰り返して縫い進め
ていく

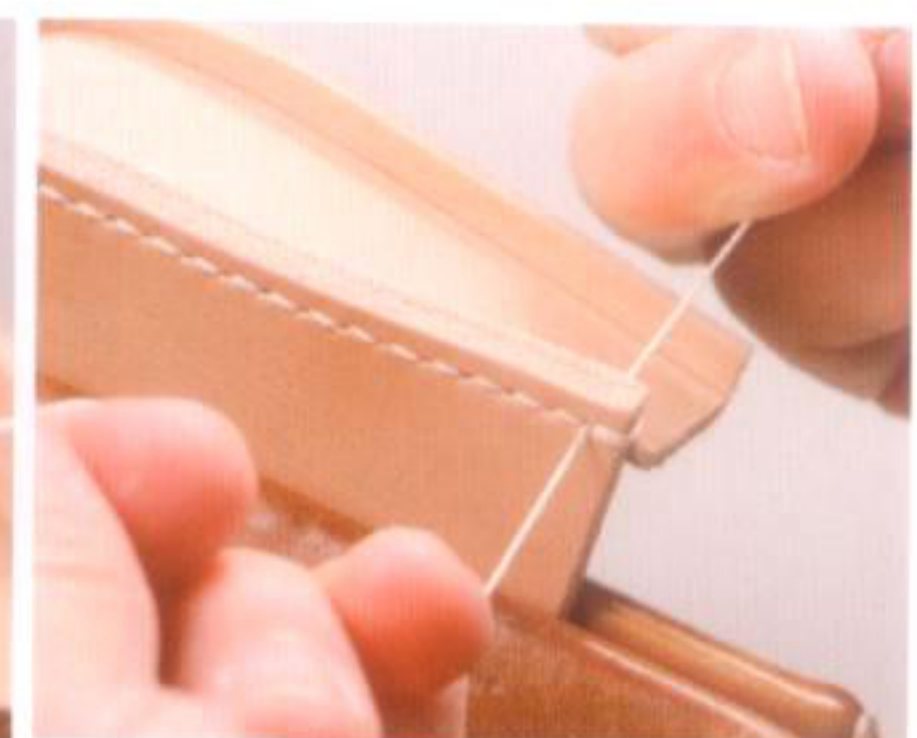
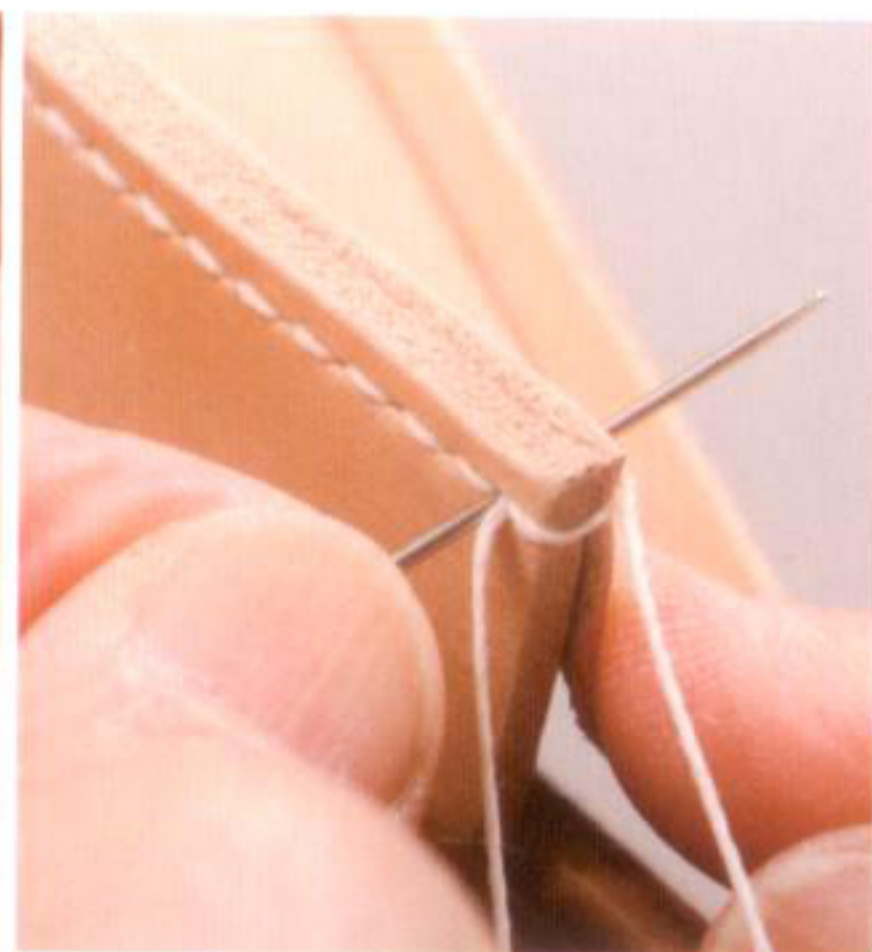
17



18 針を通す順番を一定にし、最後
のひと目まで繰り返して縫う



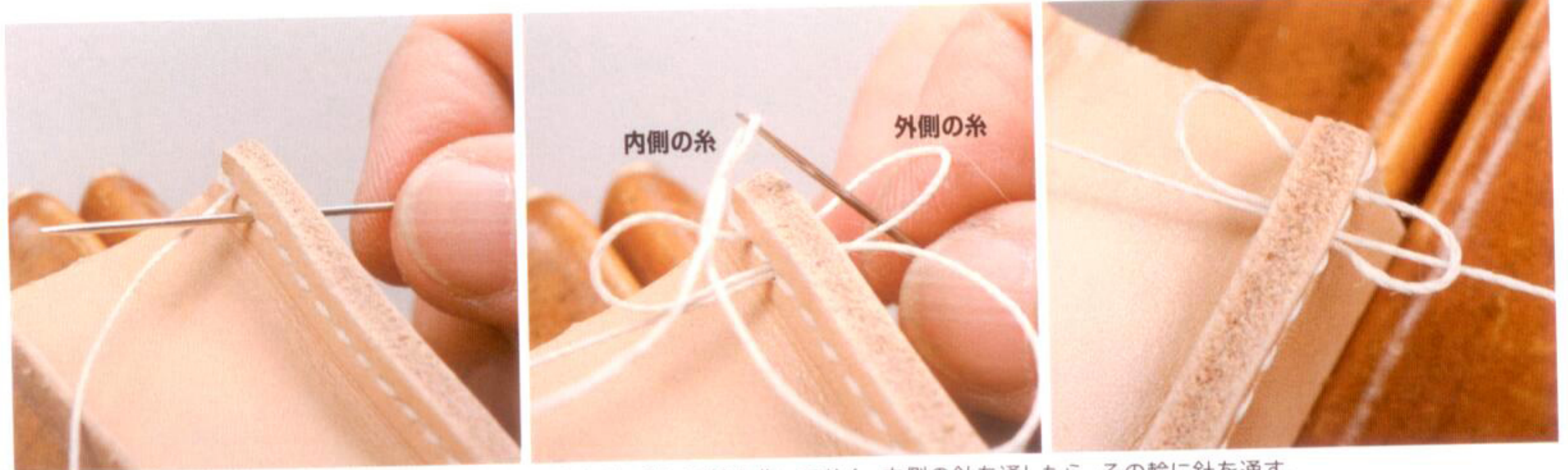
19 はじめと同じように、外側の針を内側から、内側の針を外側
から通して本体上部にかける



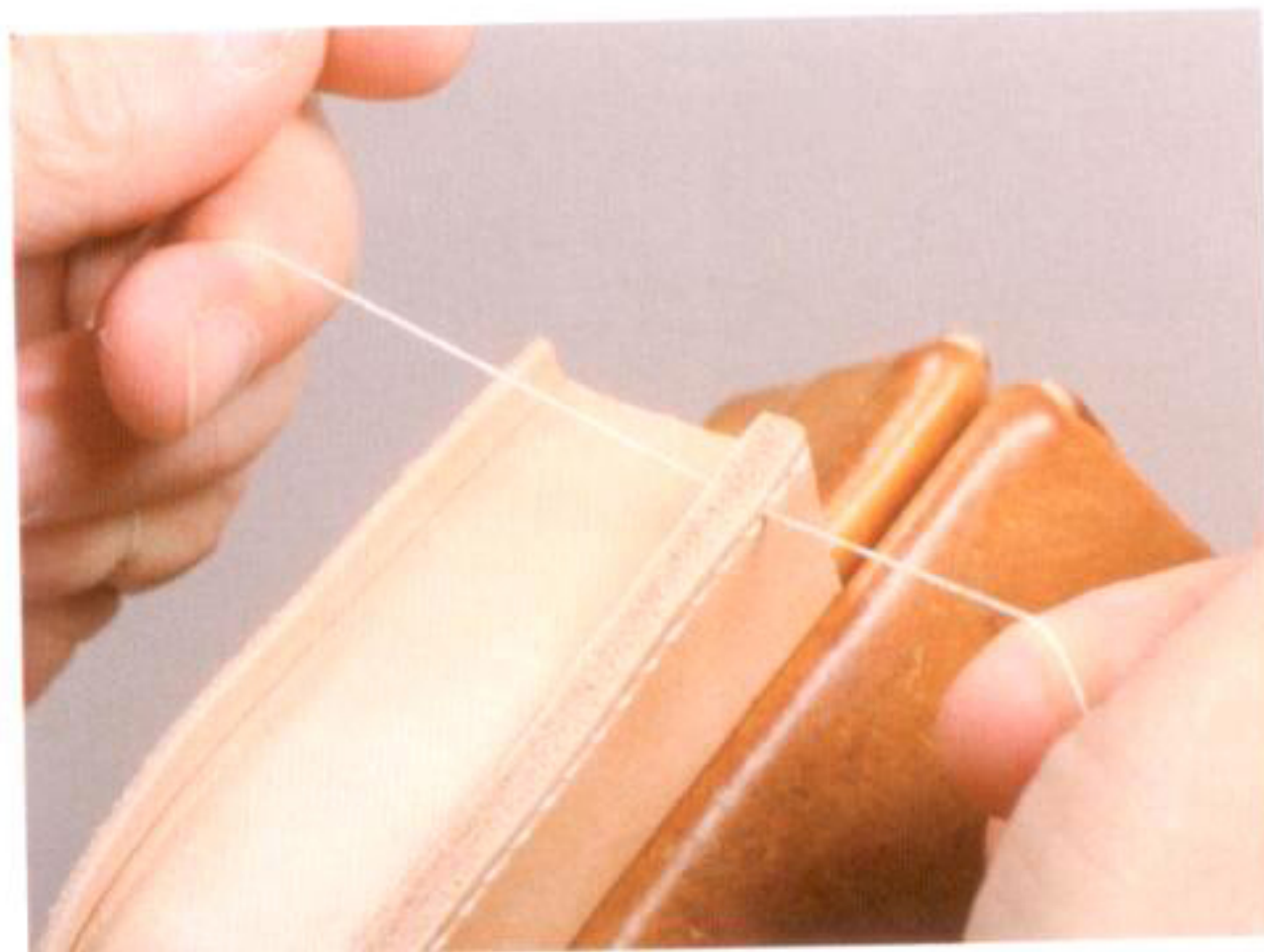
左右の糸を引っ張っ
て、本体上部を二重
に締める

20

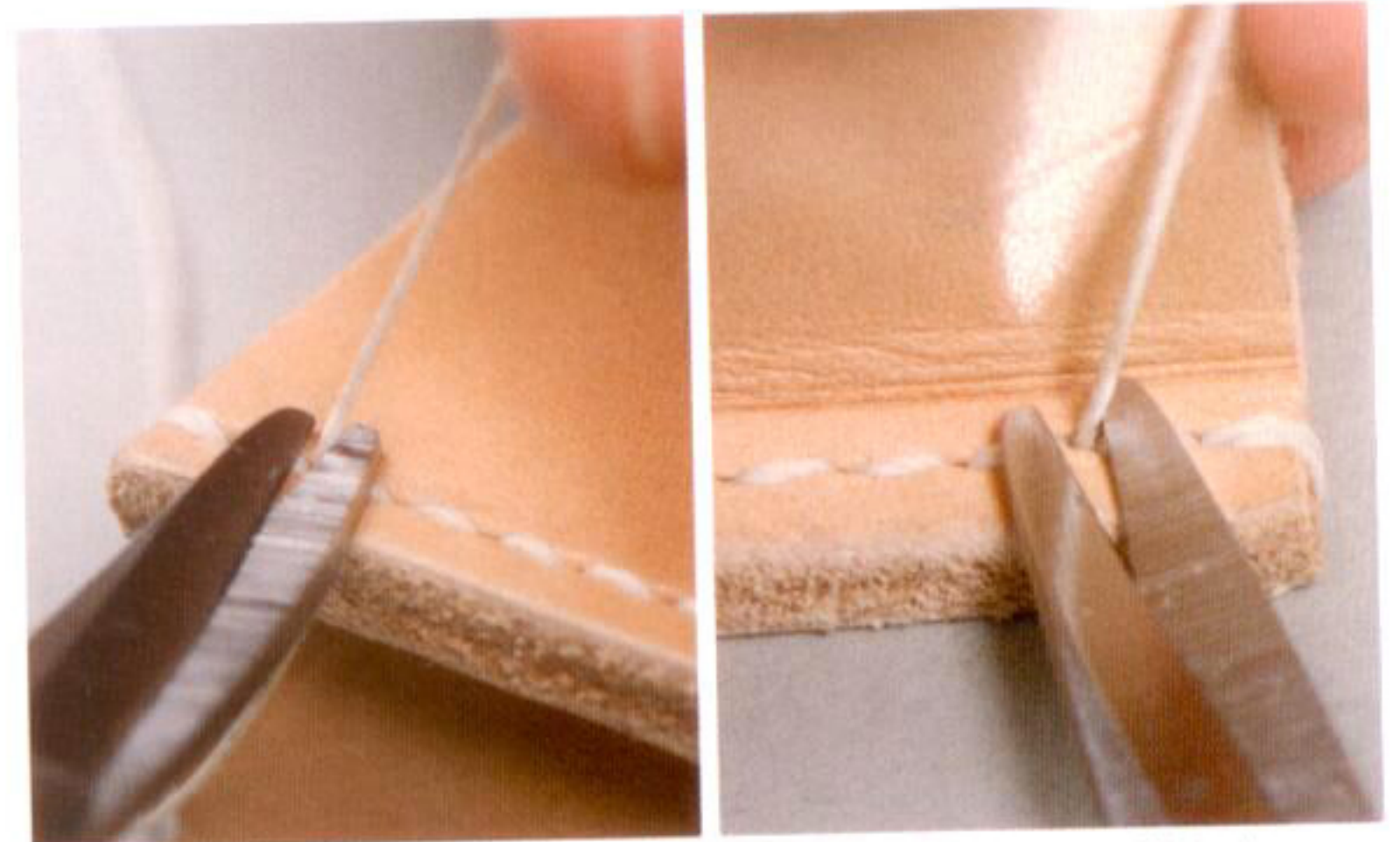
11 ハーサの縫い合わせ



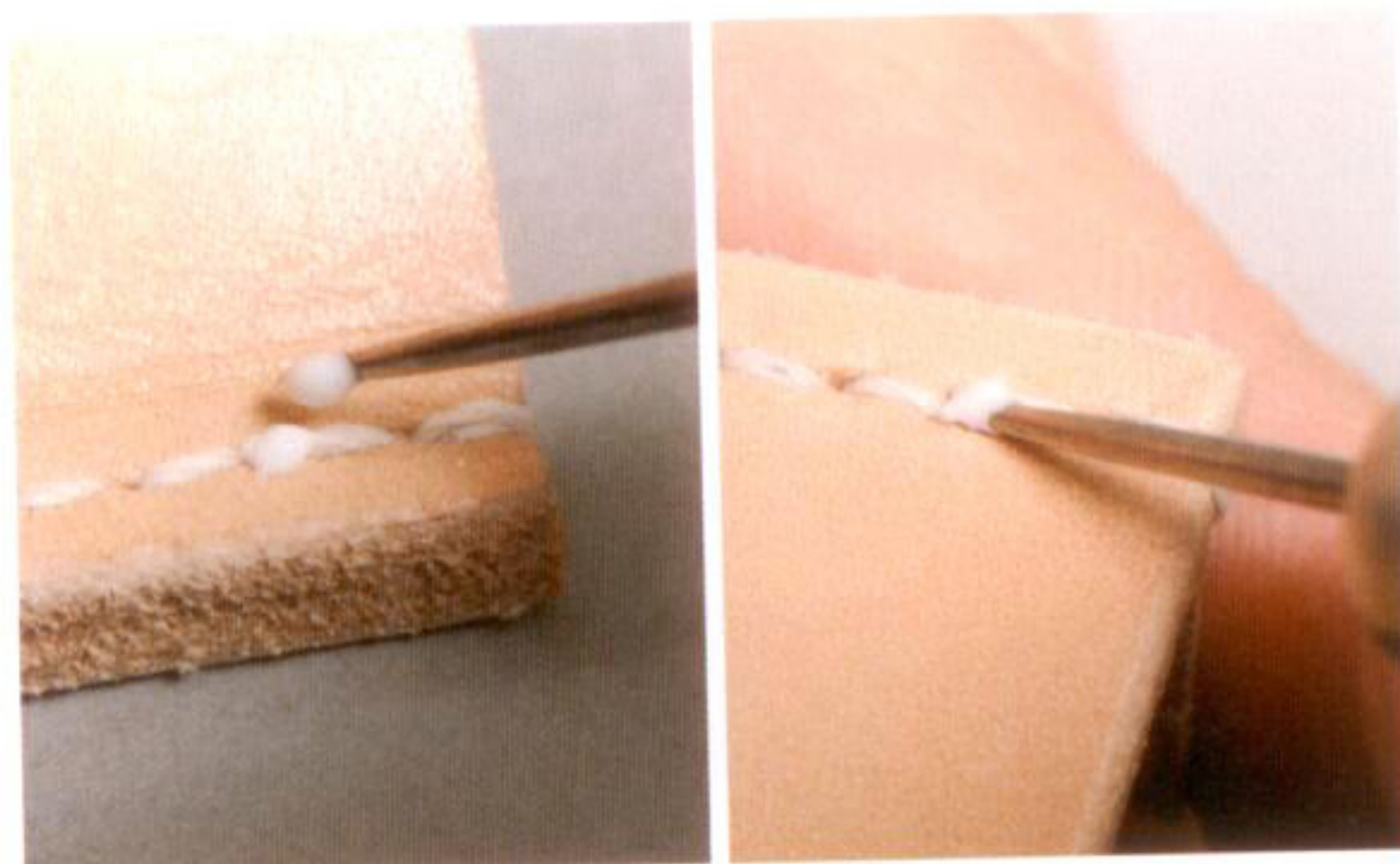
- 21** ひと目縫い戻って糸を縛る。外側の針を通し、糸を引っ張って輪を作っておく。内側の針を通したら、その輪に針を通す。
一番右は上から見た写真。これで穴の中で糸が結ばれるようになる



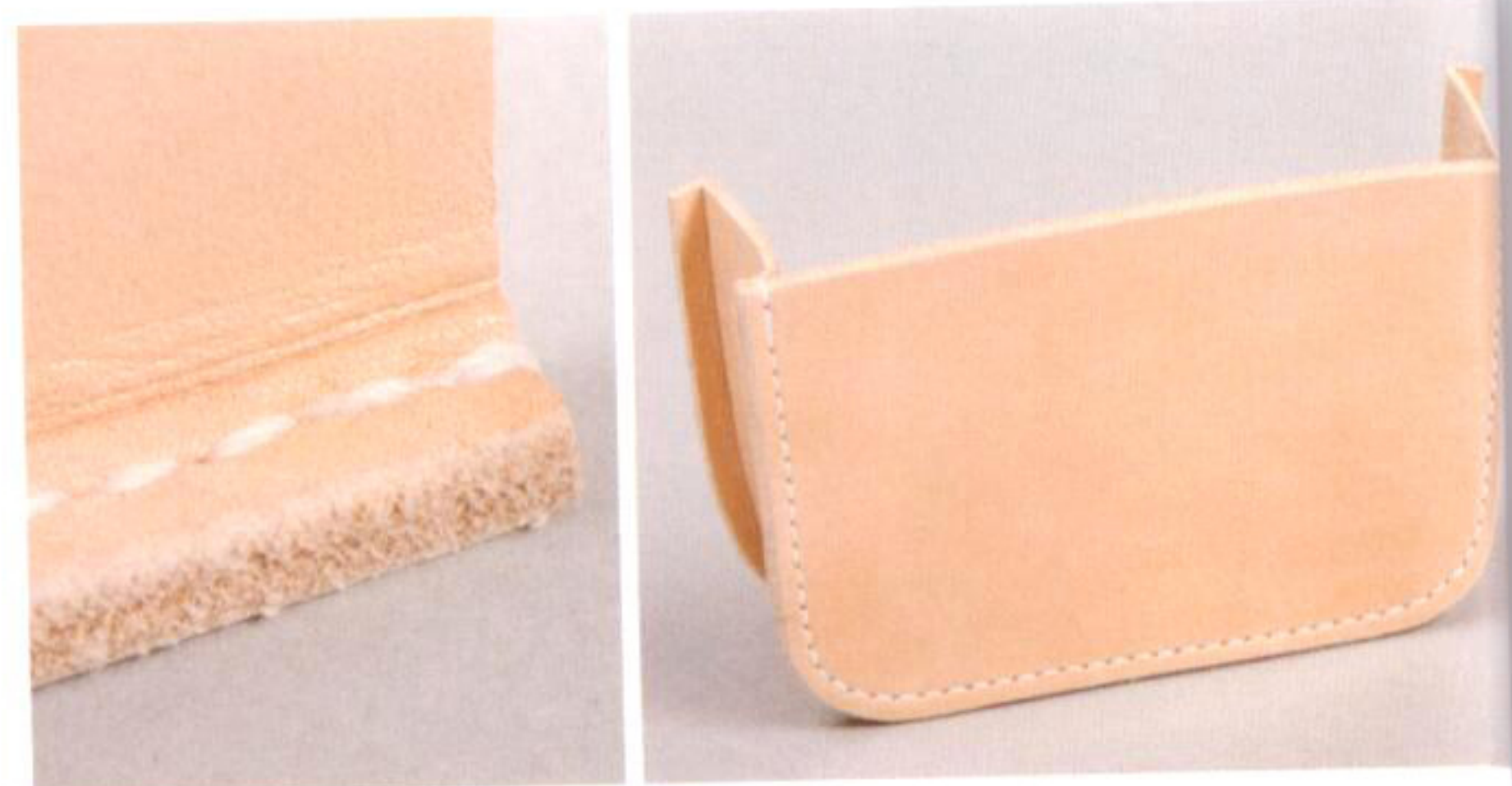
- 22** 左右の糸を引っ張って結ぶ。結び目はちょうど縫い穴の中にできるので、目立たない



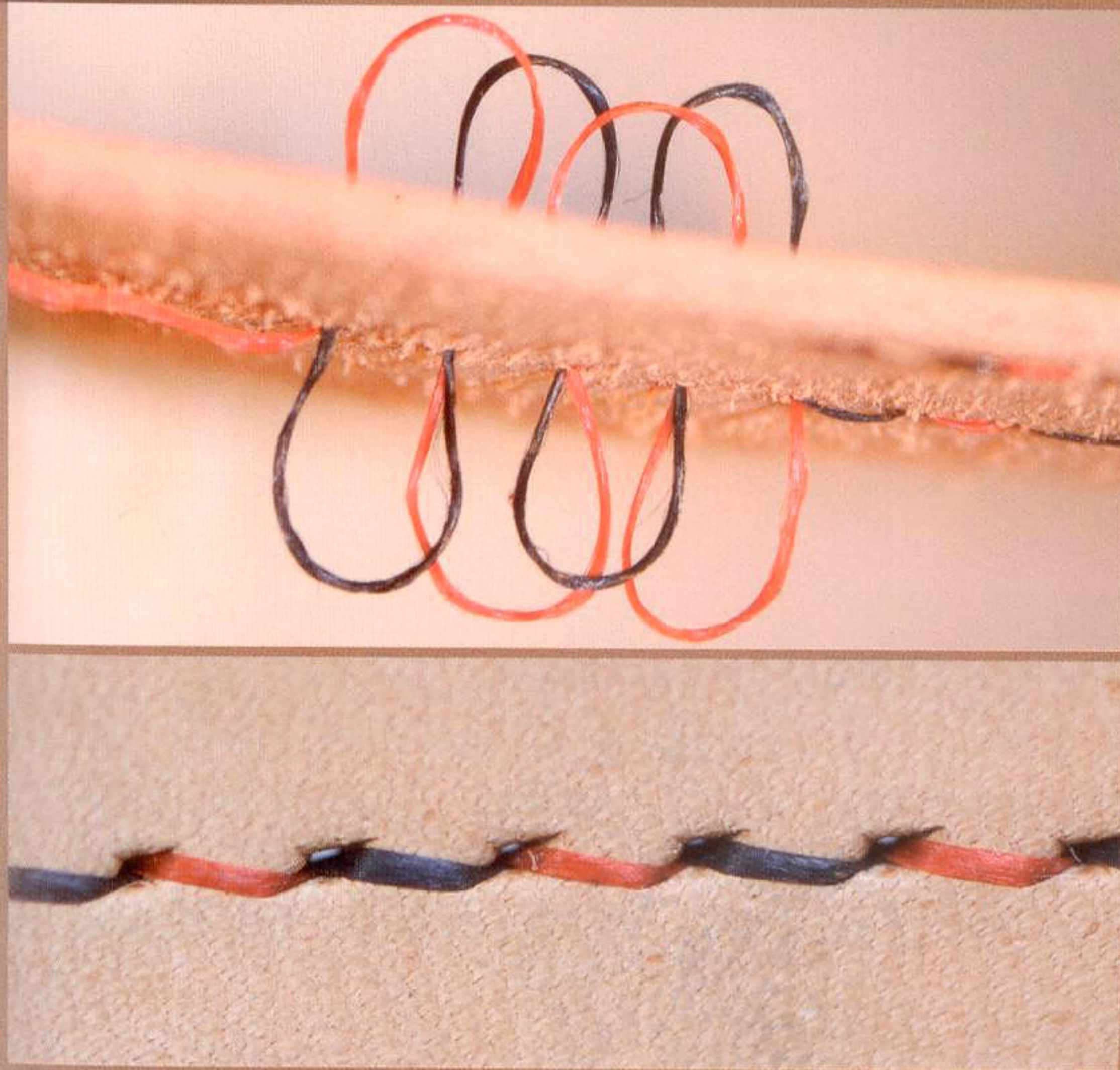
- 23** 外側からと内側から、ハサミで糸をカットする。糸は残さず、縫い目の高さぐらいに合わせてカットする



- 24** カットした糸の先端にサイビノールを付け、縫い穴に埋める。サイビノールが固まれば、糸はほつれない



- 25** これで縫い合わせは終了。基本的な平縫いの方法はこのようになる

POINT 1 針を通す順番を決めて、きれいな縫い目を出す

革を縫うときは、針を通す順番を一定にしなければならない。縫い進む方向は手前に進んでも奥に進んでもそれは好みの問題だが、はじめに通す針を外側と決めたら、毎回外側を通してから内側を通さなければ縫い目がバラバラになってしまう。上の写真は左右の糸の色を変えて縫ったもので、黒と赤が互い違いになっているのがわかるだろう。通す順番が逆になると、糸の上下関係も逆になってしまうため、下のようにきれいに斜めにはならない。ただし、ヒシ目の形が四角形に近い方が縫い目が斜めになりやすく、逆に菱形が細長くなればなるほど、縫い目はまっすぐになっていく。これは使うヒシ目打ちにもよるので、好みの形状を選ぶと良いだろう

POINT 2 ナイロン製のシニュー糸やナイロン糸は溶かしてほつれを止める

1 最後は同じ方向に糸を出し、ライターであぶって糸を溶かす



2 糸が溶けたら、すかさずライターを押しあて、糸の先端を潰す



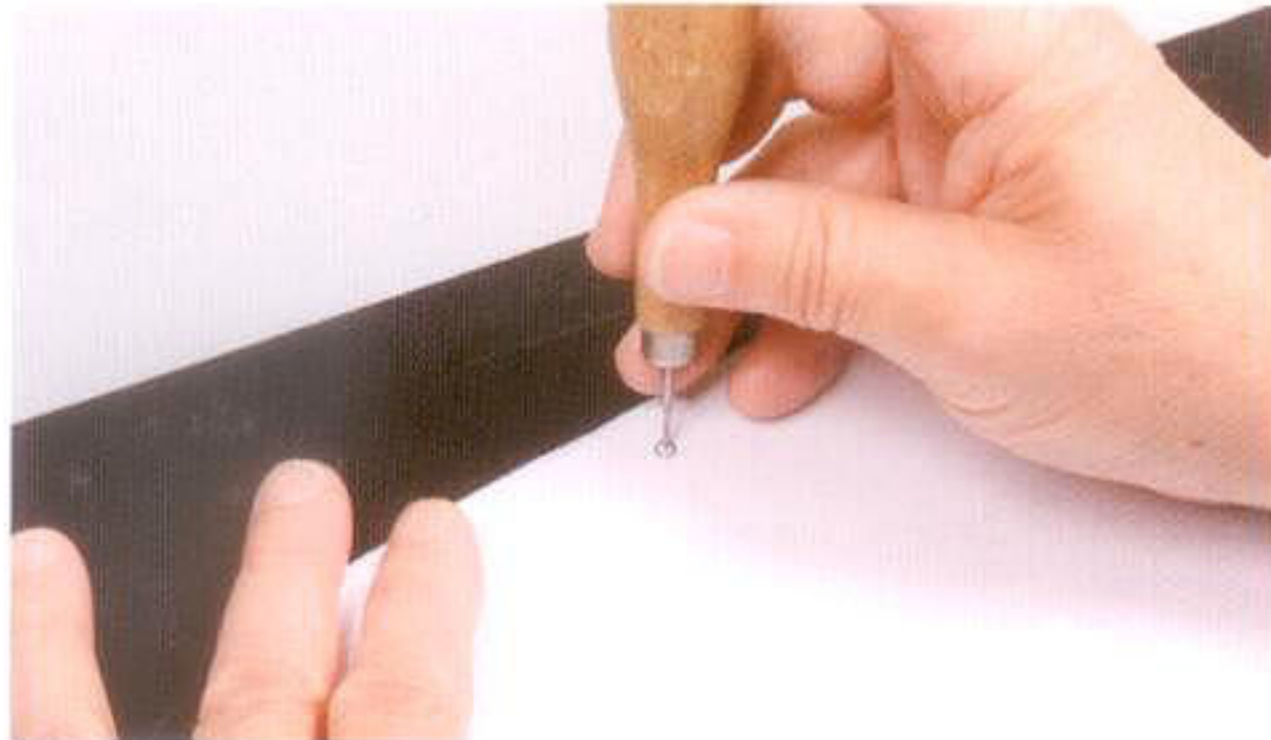
3 このように縫い穴に合わせて糸を押しつぶしておけば、ほつれる心配はない

12 ハトメ抜きで穴をあける

ベルトループやコンチョを留めるための鹿ヒモは、ハトメ抜きで空けた穴に通す。木槌で打つだけなので簡単だが、左右の高さやセンターの位置に気を付けよう。

必要な物

- ハトメ抜き(2号、12号、15号) ●木槌
- 丸ギリ など



1 型紙を元にして、丸ギリで本体Aにハトメ抜きの位置を印付ける



2 丸ギリで印した位置にハトメ抜きを軽くあて、印がセンターに来るように調整する



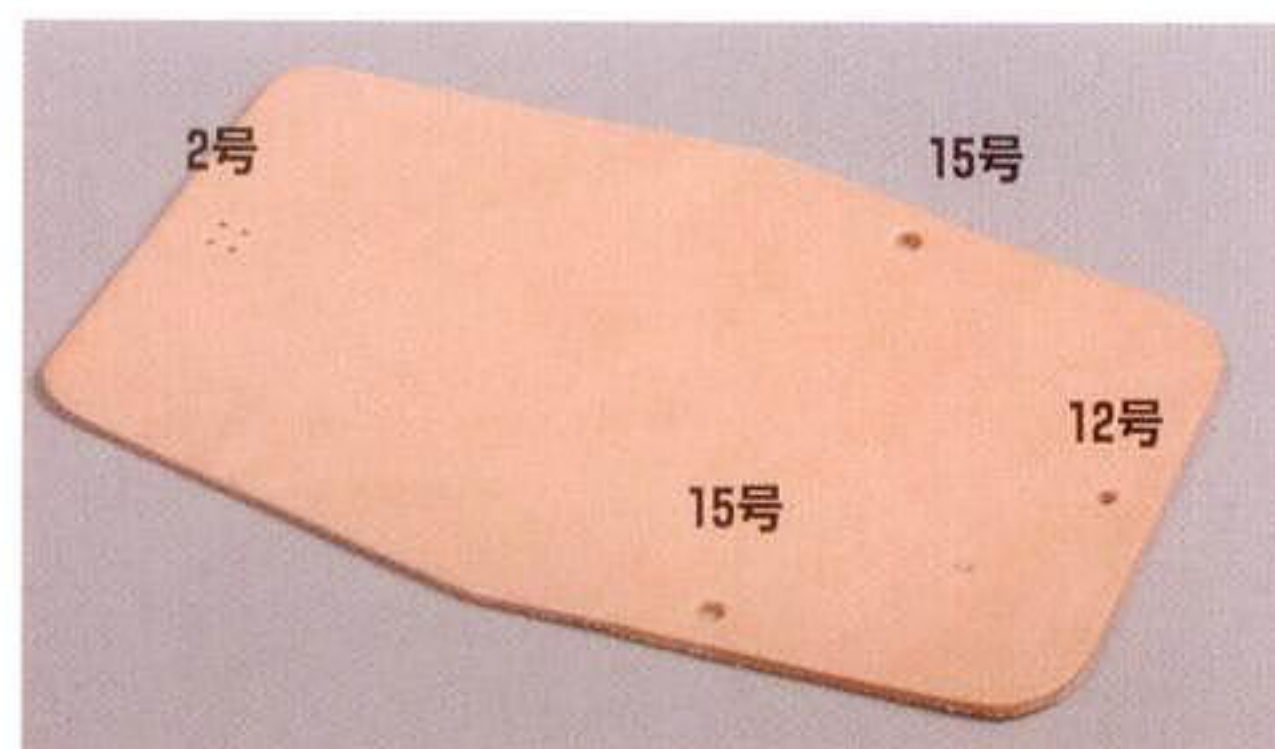
3 センターの位置を決めたら、ハトメ抜きをまっすぐにしたまま木槌で打って穴を開ける



4 コンチョの穴は12号(2.4mm)、鹿ヒモを通す穴は15号(4.5mm)のハトメ抜きを使用する



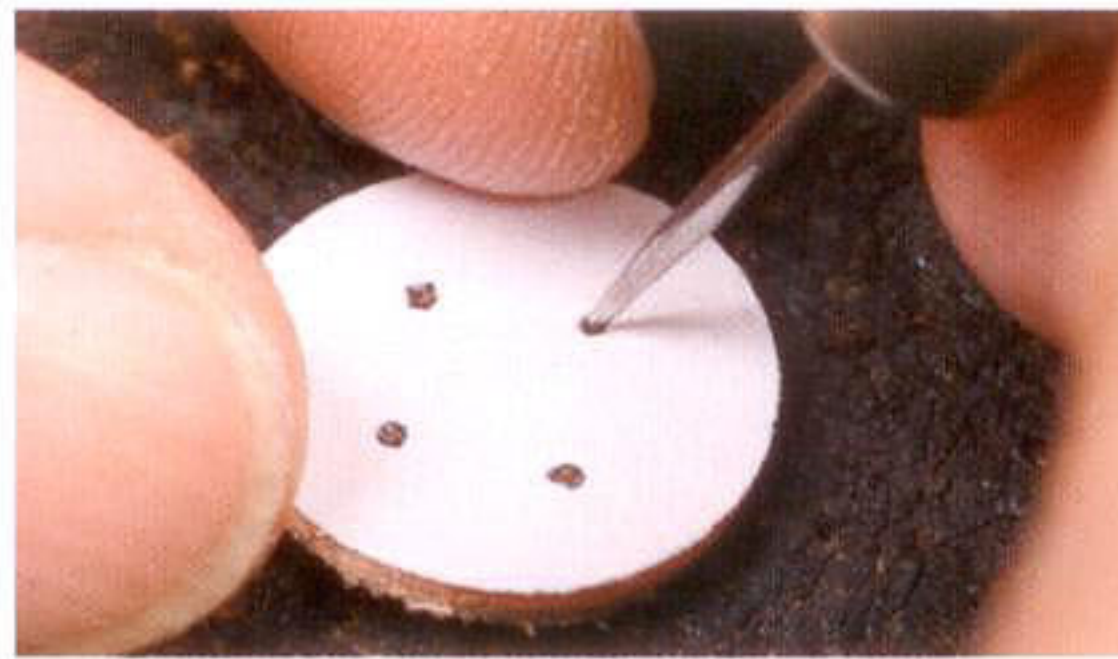
5 コンチョとあて革を縛るための穴は、2号(0.6mm)のハトメ抜きを使用する



6 本体Aに全ての穴を開ける。コンチョを鹿ヒモで留める場合は、7号(2.1mm)で穴を開ける



7 60号のハトメ抜きであて革を作る。革包丁で任意のサイズに切り抜いても良い



型紙を元にして、あて革のハトメ抜きを打つ位置に印を付ける

8



9

2号のハトメ抜きを打ち、4つの穴を開ける

POINT 1 ハトメ抜きの大きさ

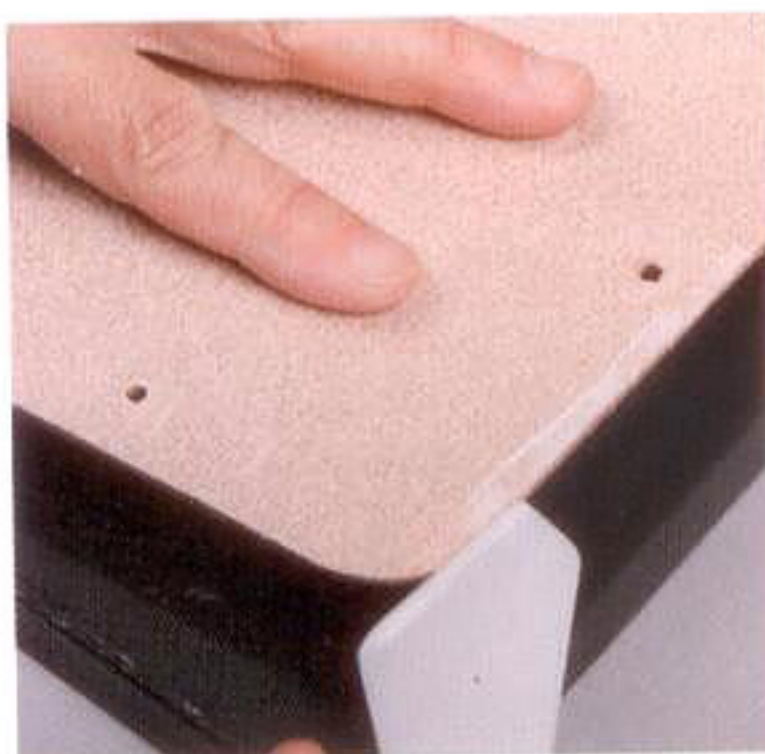
2号 (0.6mm)	○	35号 (10.5mm)	○	80号 (24mm)	○
3号 (0.9mm)	○		○		○
4号 (1.2mm)	○		○		○
5号 (1.5mm)	○	40号 (12mm)	○	90号 (27mm)	○
6号 (1.8mm)	○		○		○
7号 (2.1mm)	○		○		○
8号 (2.4mm)	○	50号 (15mm)	○	100号 (30mm)	○
10号 (3.0mm)	○		○		○
12号 (3.6mm)	○		○		○
15号 (4.5mm)	○	60号 (18mm)	○		○
18号 (5.5mm)	○		○		○
20号 (6.0mm)	○		○		○
25号 (7.5mm)	○	70号 (21mm)	○		○
30号 (9mm)	○		○		○

13 縫い合わせと仕上げ処理

マチを付けた本体Bと本体Aを縫い合わせる。42ページと同じ作業だが、貼り合わせから縫製、そしてコバ磨きまで、ひとつひとつの工程を丁寧に進めていこう。

必要な物

- サイビノール ●ジラコヘラ ●モデラ
- ディバイダー ●ヒシ目打ち ●ガラス板
- 麻糸 ●手縫いワックス ●手縫針
- ステッチングツリー ●ハサミ ●ハトメ抜き
- 丸ギリ ●ヘリ落とし ●トコフィニッシュ など



1 本体Aとマチの半分にサイビノールを塗る。本体Aの縫いしろは、サンドスティックで荒らしておく



2 マチと本体Aを貼り付ける。32ページでけがいた位置に合わせ、モデラを使って貼り合わせていく



3 半分を貼り合わせたら、もう半分にサイビノールを塗っていく。塗りすぎに注意すること



4 本体Aとマチを貼り合わせたら、モデラで圧着させる。サイビノールがはみ出たら拭き取る

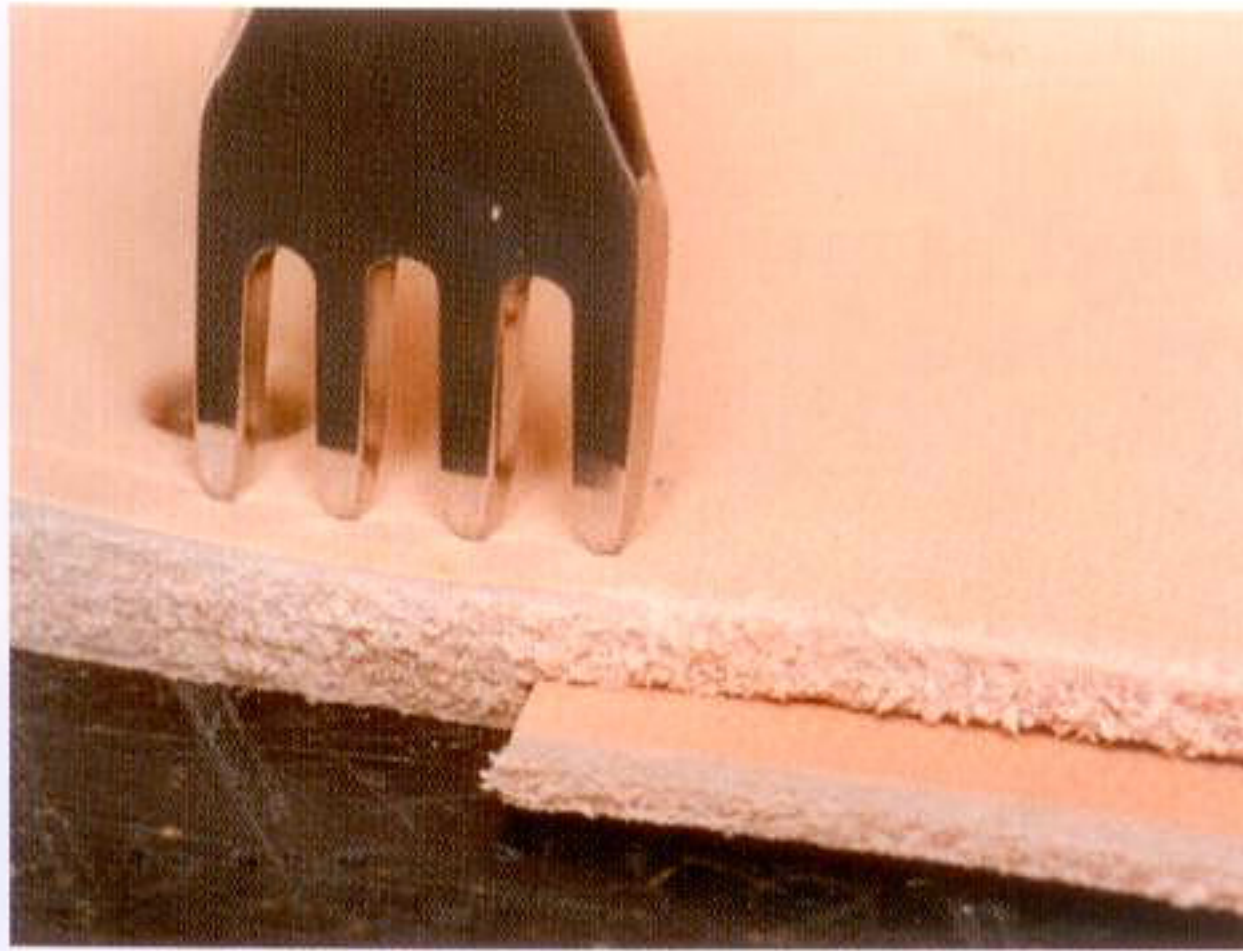


5 サンドスティックを使って、貼り合わせた側面を平らにする



6 ディバイダーを3mm強に合わせ、縫い線を引く。縫い線はマチの高さまで引くこと

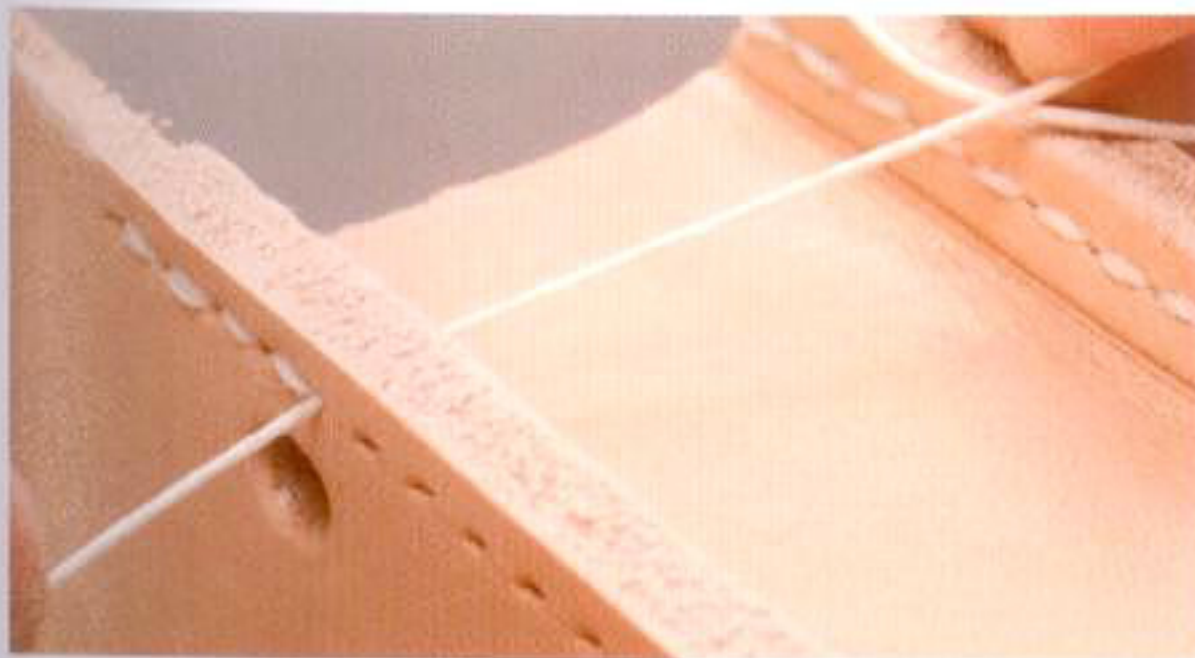
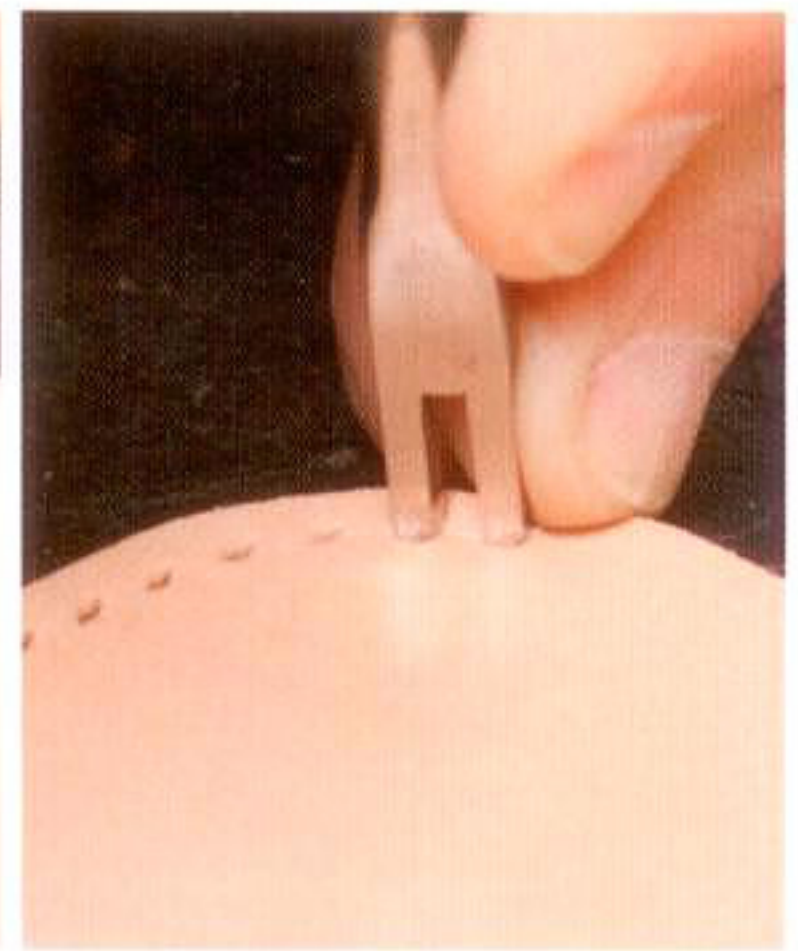




7 42ページのように、上部はヒシ目を1本分空けた位置から打つ。革を挟んで高さを揃えると良い



8 ディバイダーで引いた線に沿って、ヒシ目打ちを打っていく。カーブは2本ヒシ目打ちを使う



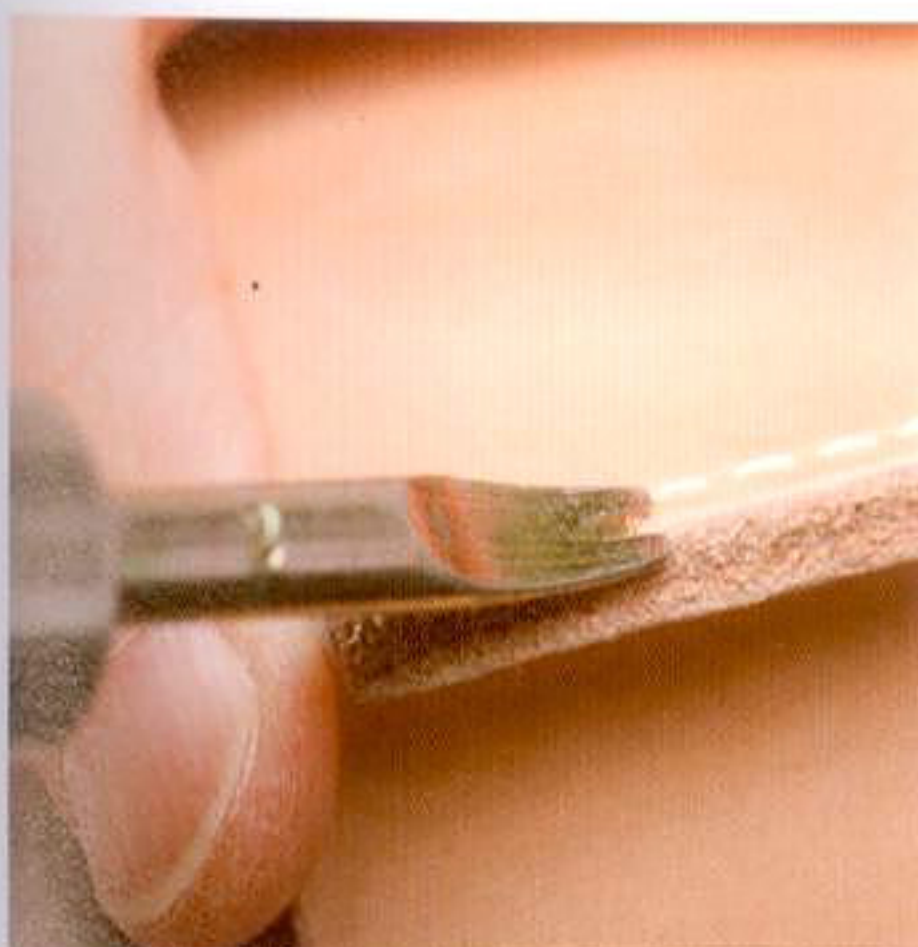
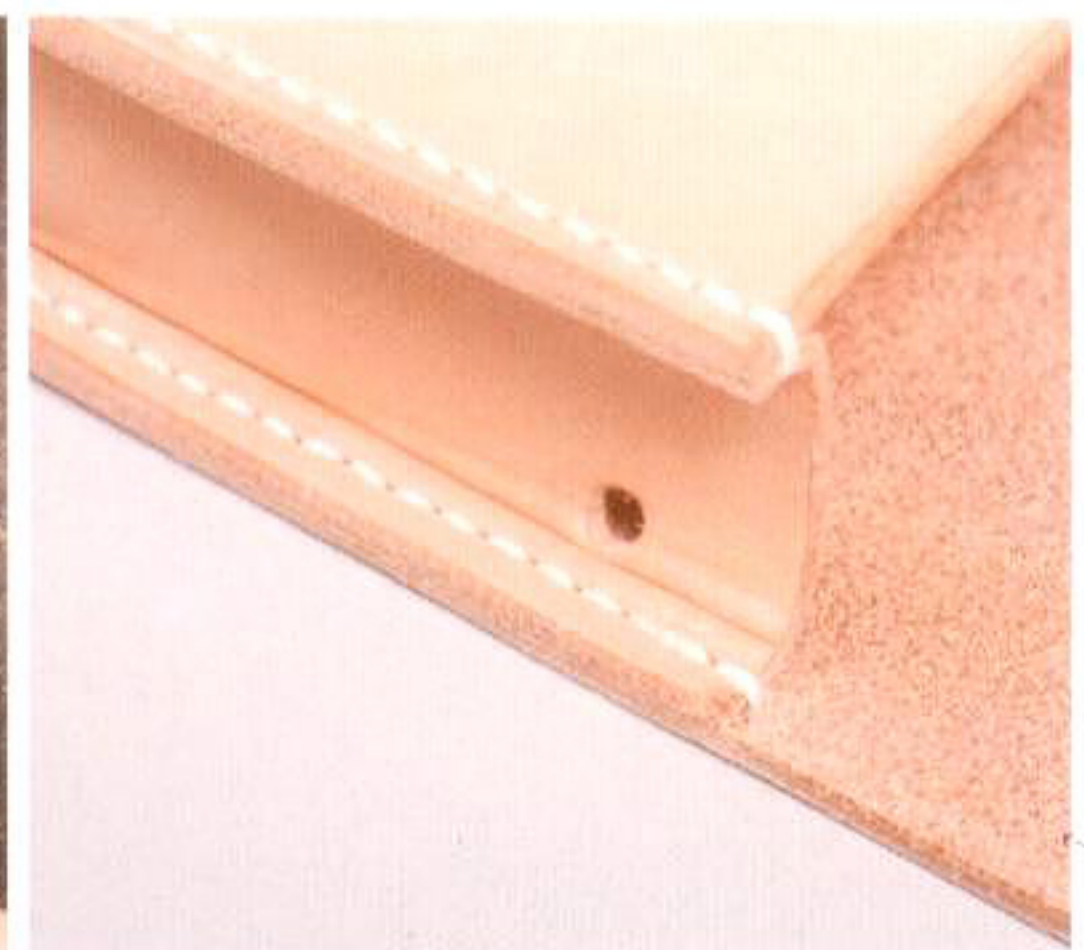
45ページからと同じ要領で、本体とマチを縫い合わせていく。最初と最後の縫い返しや、糸の処理方法も同じだ



9



10 本体Aの横に空けた鹿ヒモの穴にハトメ抜きを差し込み、マチを倒しながら打ち付けてマチにも穴を開ける



11 縫い合わせた部分のヘリを、ヘリ落としで落とす。内側と外側の両側とも落とす



12 ヘリ落としでヘリを落としたら、トコフィニッシュを塗る



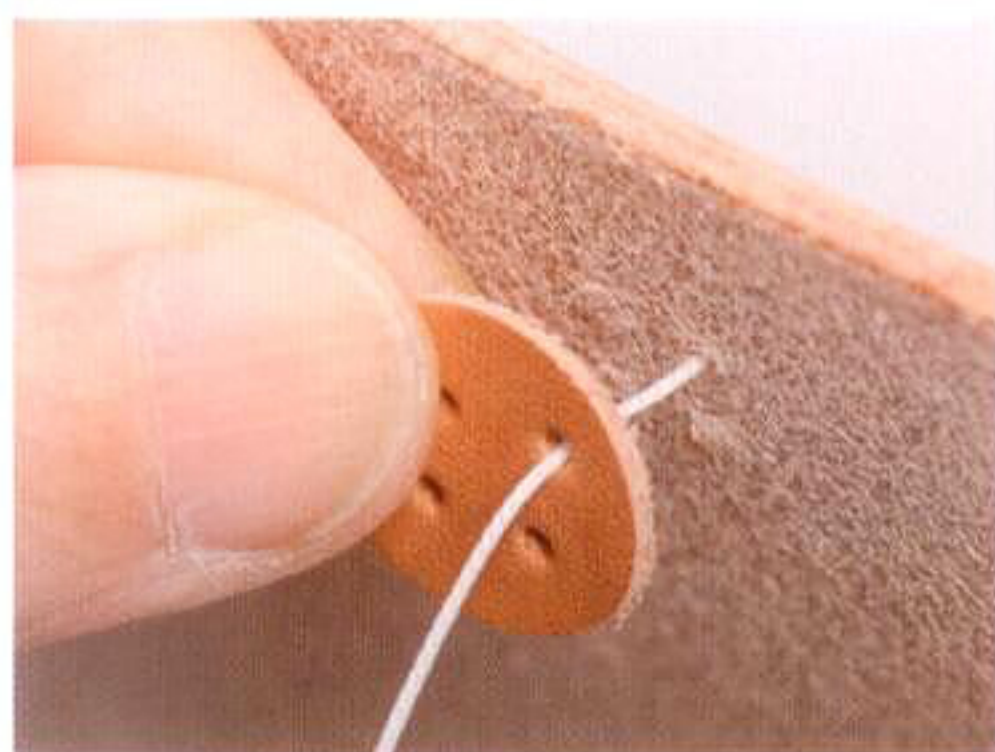
13 ヘラを使ってコバを磨く。ウッドスリッカーやヘリ磨きを使っても良い

14 コンチョと鹿ヒモの取り付け

本体が完成したら、ベルトループやコンチョ、コンチョに巻き付ける鹿ヒモを取り付ける。今回使用するコンチョは糸で縛るタイプだが、ネジ留めタイプでも良い。

必要な物

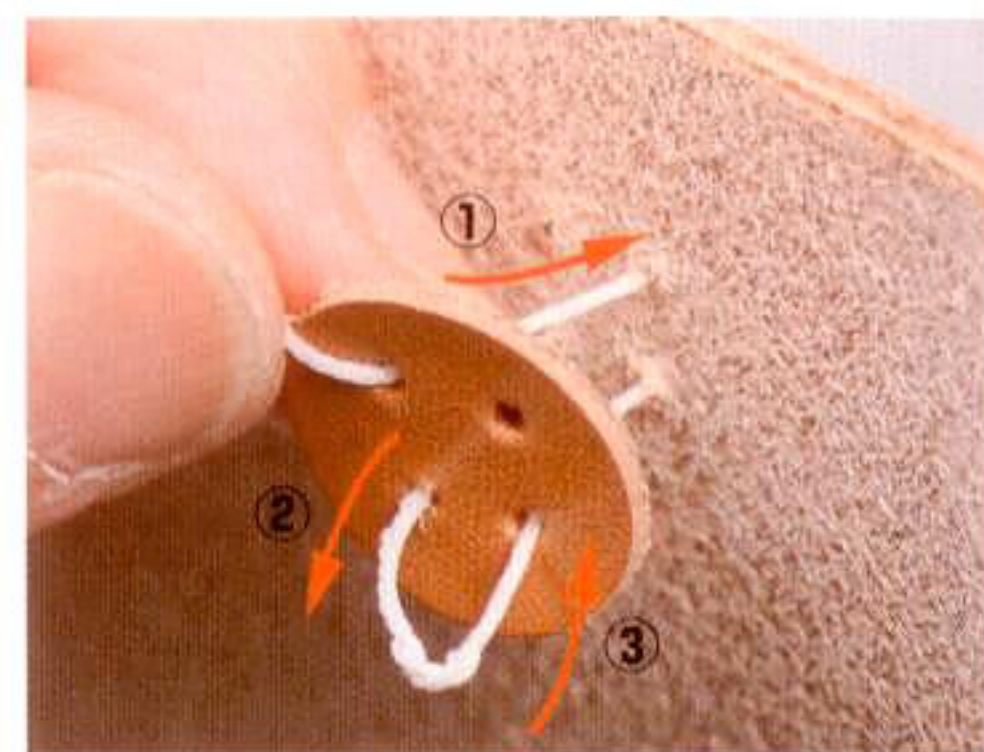
- 手縫い針 ●麻糸 ●ハサミ
- サイビノール など



1 本体Aの裏側から、あて革をあてて糸を通す



2 表側に出た糸をコンチョの丸カンに通し、対角線上の穴に再び通す



3 裏側に戻ってきた糸をあて革に通し、隣の穴に通して再び表側へ

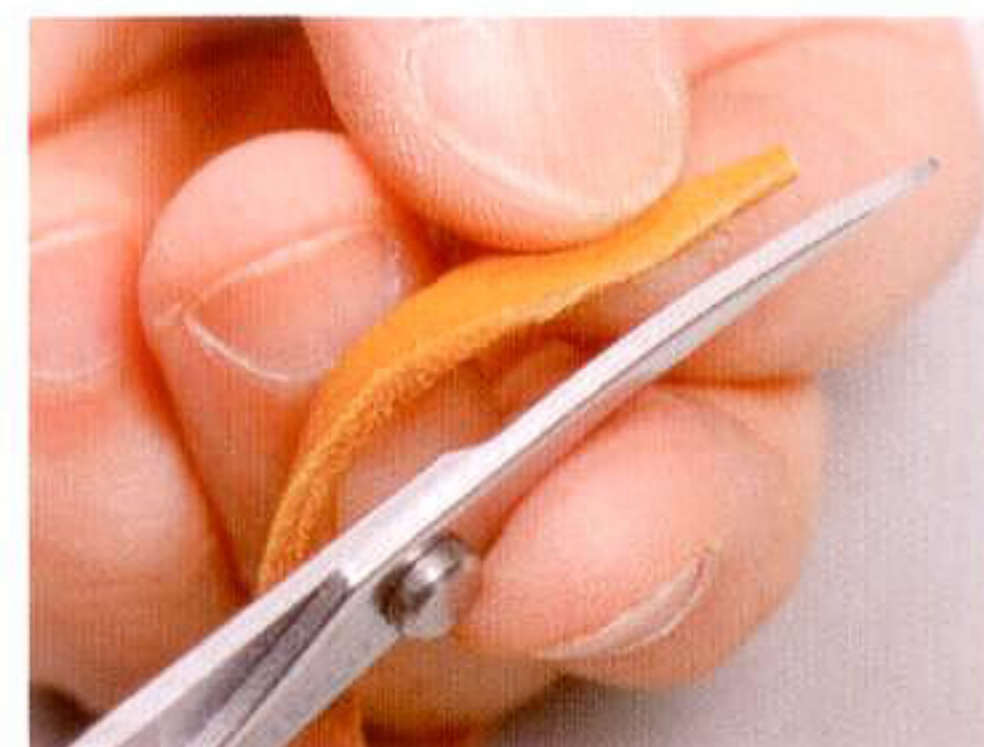


4 再び通された糸を丸カンに通し、最後の穴に糸を通す



糸を裏側に戻したら、固結びをしてカットし、接着剤を付ける

5



6 コンチョに巻く鹿ヒモの先端を、ハサミで斜めにカットする



7 カットした先端からビーズを入れる。ビーズの数や色は好みで選ぶと良いだろう



8 本体A下部の穴に鹿ヒモを通し、内側から引っ張り出して片結びをする。これで鹿ヒモが抜けないようになる

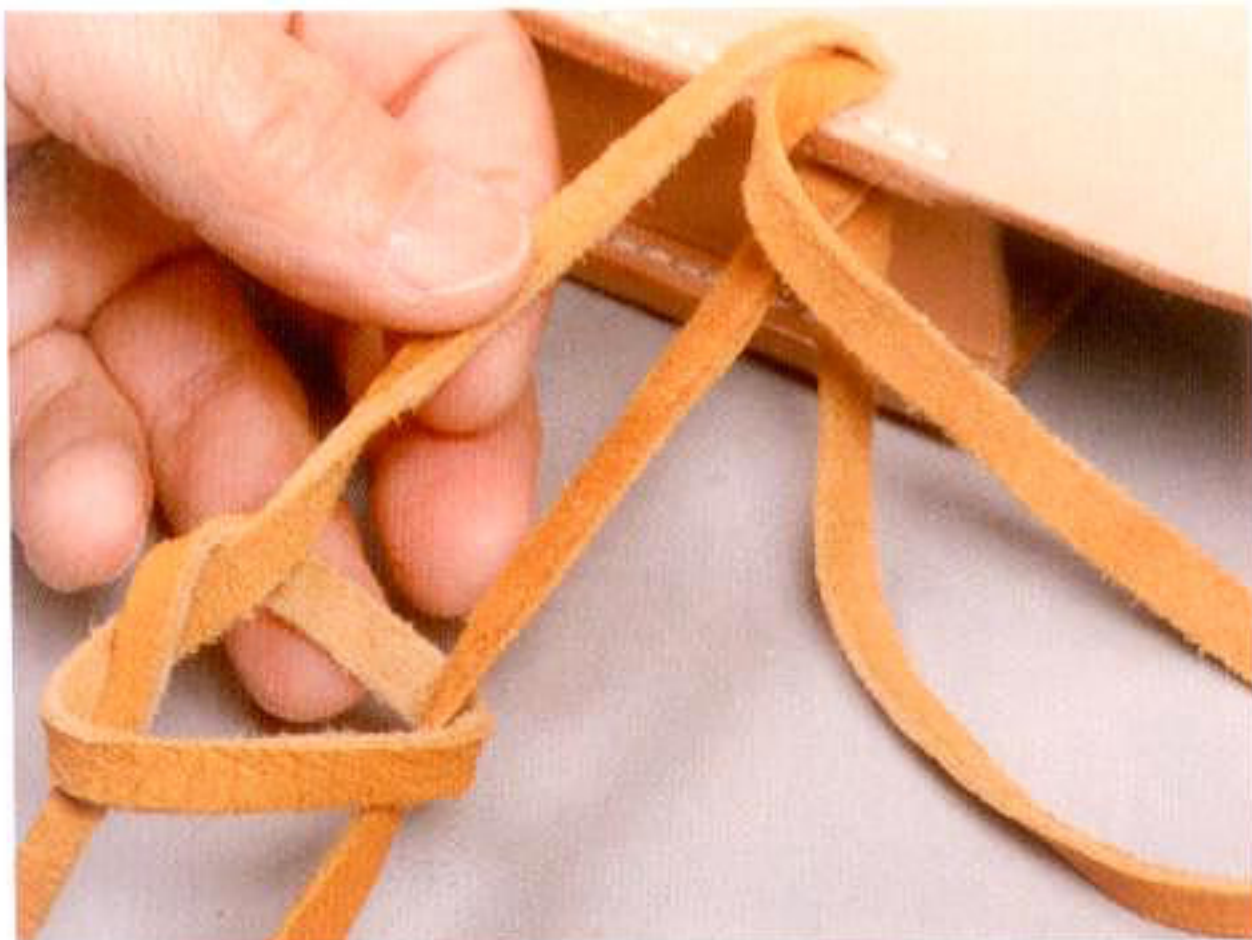




9 鹿ヒモを表側に引っ張り、コンチョに巻き付けてビーズの位置を調整する。調整したら固結びをする



10 ベルトループとなる鹿ヒモを、マチと本体Aの穴に2回通して輪を作る。この輪がベルトループの大きさになる



11 ベルトループを好みの大きさに調整し、片方のヒモを挟んでもう片方を片結びする



12 片結びの結び目は本体寄りに作る。鹿ヒモが長すぎる場合は、適当な長さにカットして完成となる



POINT 1 コンチョの留め方の違い

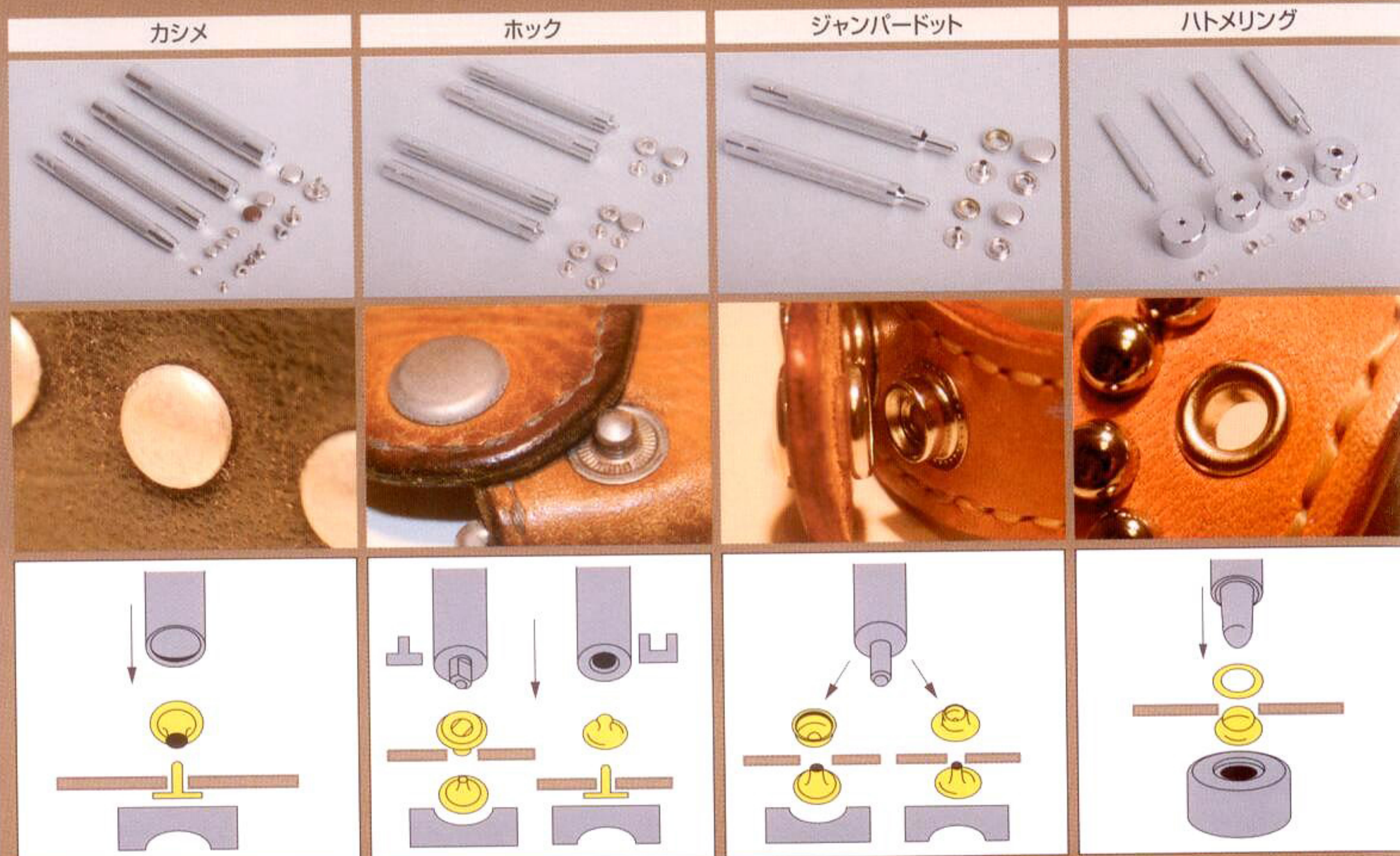


今回使用したコンチョは丸カンに糸を通して固定するタイプだが、コンチョにはビスで固定するタイプもある。ビスにはプラスのネジ頭とマイナスのネジ頭のものがあり、これらはジャンパードットのメス側の頭として、組み合わせても使用することができる

POINT 5 金具サイズと使用打ち具

カシメやホックなど、金具を付けるには種類に応じた打ち具が必要となる。また、同じ種類であってもサイズが異なると、打ち具のサイズも異なる場合があるので、対応サイズ、そして金具をはめるための穴の大きさも知っておこう。

上が打ち台で下がオールマイティプレート。オールマイティプレートは金具の頭の大きさに合わせて溝が付いているので、全ての金具に対応している



	金具サイズ	ハトメ抜き	打ち棒	打ち台
カシメ	極小 (直径4・脚長5)	6号	カシメ打ち (極小)	打ち台または オールマイティプレート
	小 (直径6・脚長7)	8号	カシメ打ち (小)	
	中 (直径9・脚長7)	10号	カシメ打ち (中)	
	大 (直径12・脚長9)	12号	カシメ打ち (大)	
ホック	小 (直径10)	8号・12号	ホック打ち (中)	打ち台または オールマイティプレート
	中 (直径12)	8号・15号	ホック打ち (中)	
	大 (直径13)	10号・15号	ホック打ち (大)	
ジャンパードット	中 (直径13)	12号	ジャンパードット打ち (中)	打ち台または オールマイティプレート
	大 (直径15)	15号	ジャンパードット打ち (大)	
ハトメリング	極小No.300 (直径4.6)	6号	ハトメリング打ち (極小)	打ち棒と セットのもの
	中No.20 (直径8.1)	8号	ハトメリング打ち (中)	
	大No.23 (直径8.6)	10号	ハトメリング打ち (大)	
	特大No.25 (直径9)	12号	ハトメリング打ち (特大)	

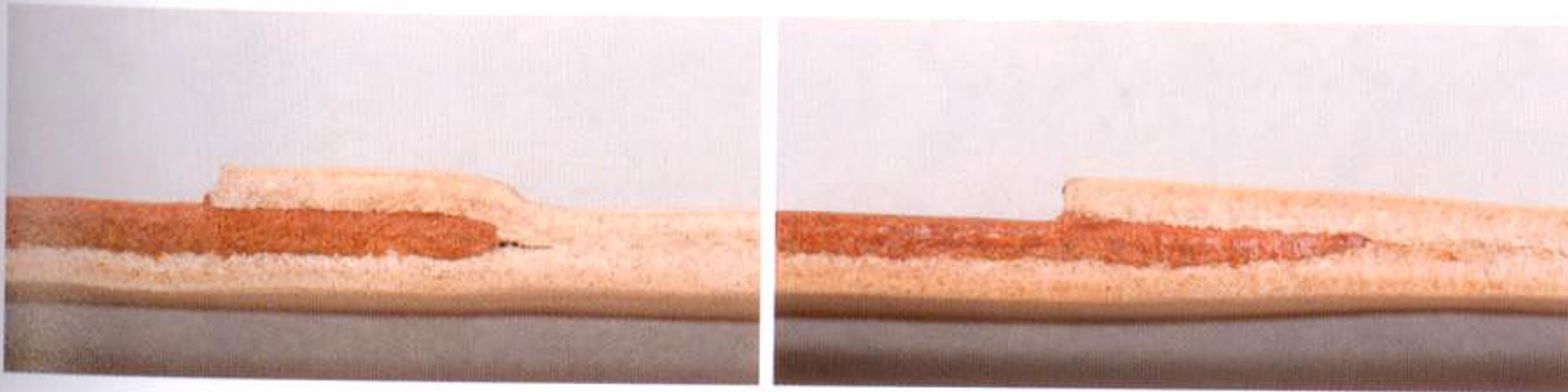
その他の技法

ここでは37ページのポイントで紹介した「すき」について紹介していく。今回の製作には絶対に必要という技法ではないが、様々なアイテムに応用できるので知っておくと良いだろう。

必要な物

●革包丁 ●豆カンナ ●スーパースカイパー

すきの効果



主にすきとは革を重ねる場合は、折り曲げやすくする場合などに使われる技法で、左の写真のようにすいていない場合と、すいた場合とでは、革の厚みが変わってくる。革をすくには以下の方法がある

工具とすきの種類

革包丁



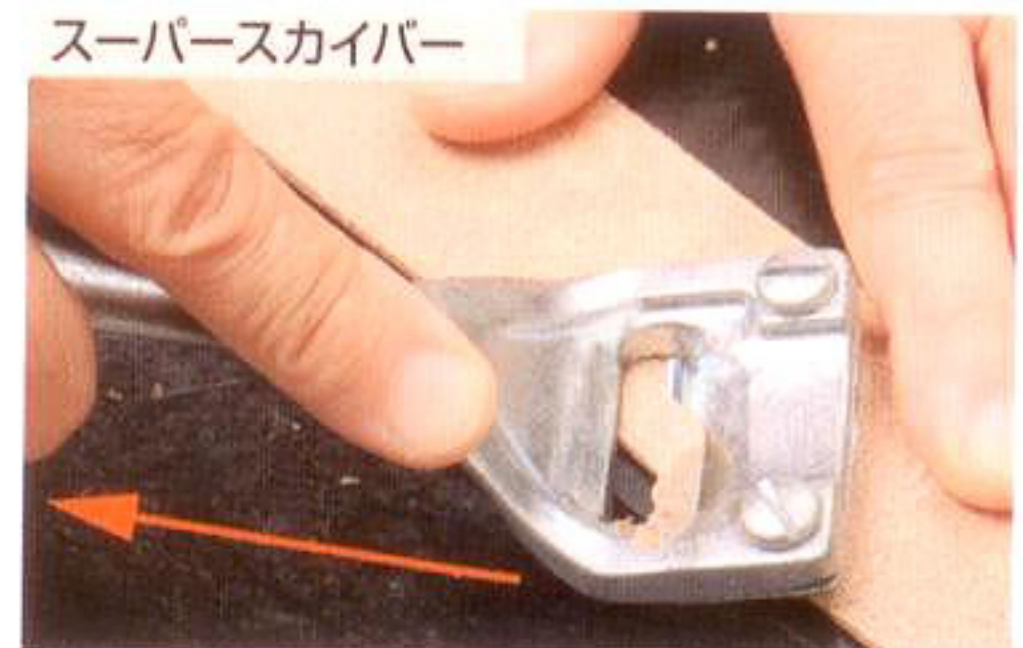
角度を合わせて両手で固定し、刃を斜め横に滑らせるようにしてカットする

豆カンナ



中すきなどに使用する。刃を斜めにあてて、一定の角度で手前に引く

スーパースカイパー



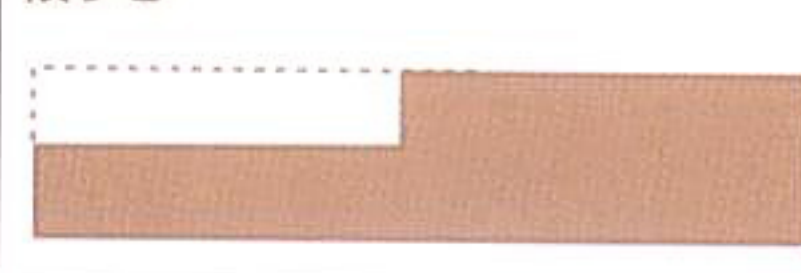
斜めすきなどに使用する。革を湿らせてから、刃を斜めにあてて引く

ベタすき



裏面全体を均一の厚みにするすき方で、裏貼りなどのときに使用する

段すき



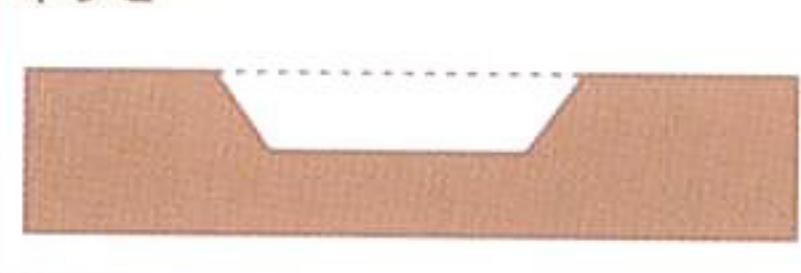
端に段を付けるすき方で、ヘリを曲げるときなどに使用する

斜めすき



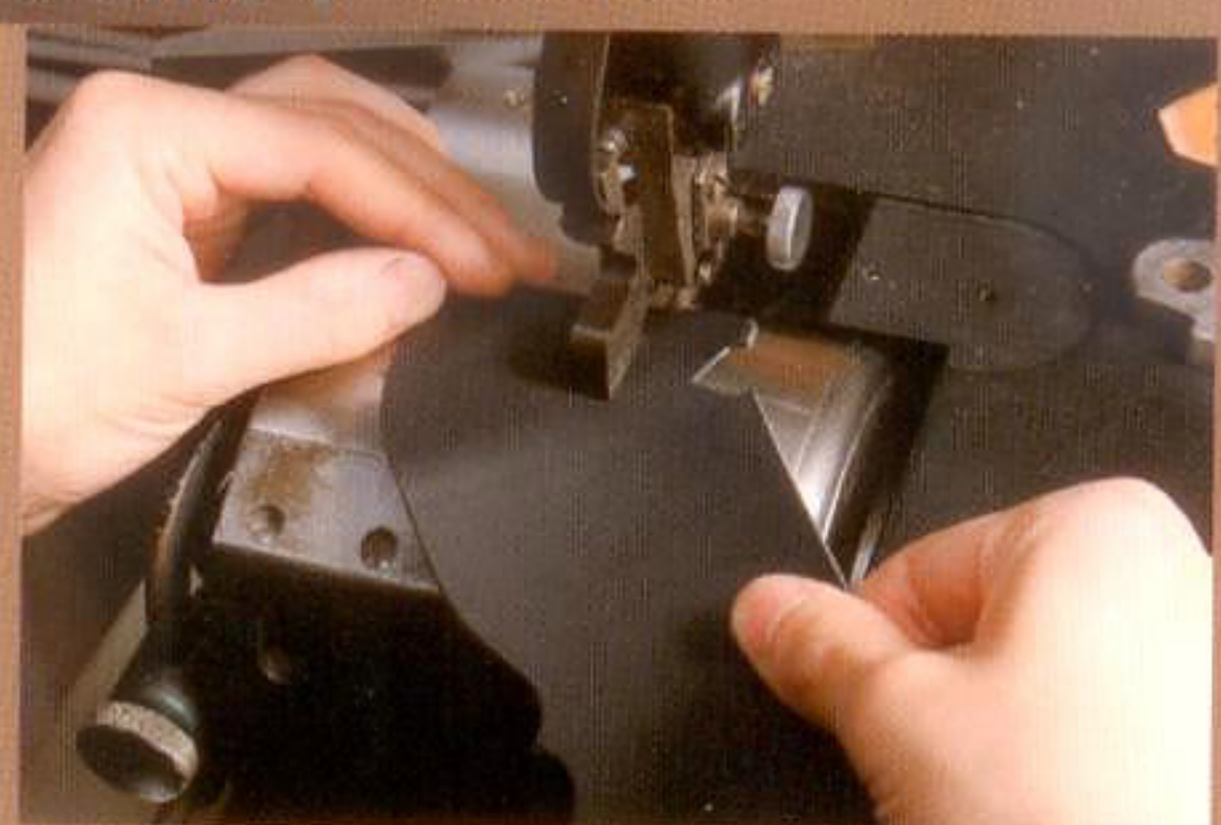
斜めに角度を付けるすき方で、革を重ねるときに使用する

中すき



溝を掘るようなすき方で、折り線を付けたり角度を出すのに使用する

POINT 1 すきのサービス



複雑な形や大量にすく場合は、材料店などで行なっている機械によるすきのサービスを利用すると良いだろう

4本編みロープ

キーホルダーとウォレットなどを結ぶウォレットロープ。ここではスタンダードな4本編みロープの編み方を紹介する。バイカーらしいアイテムのひとつなので、ぜひ挑戦してみよう。

必要な物

●リング ●ナスカン ●牛レースや鹿ヒモなど



SHOP INFORMATION

URL <http://www.craftsha.co.jp/>



クラフト社 荻窪店

東京都杉並区荻窪5-16-15

営業時間 10:00~18:00 定休日 第1・3・5土曜日/日曜祝日

Tel.03-3393-2229 Fax.03-3393-2228

クラフト社 受注センター

東京都葛飾区奥戸4-13-20

営業時間 9:00~17:30 定休日 土曜日/日曜/祝日

Tel.03-5698-5511 Fax.03-5698-5533

クラフト学園

東京都杉並区荻窪5-16-21

営業時間 10:00~16:00(夜間18:00~20:30)

定休日 土曜日/日曜/祝日 Tel.03-3393-5599 Fax.03-3393-2228

様々な工具や材料が揃う ビギナーからプロまで御用達のショップ

東京都の荻窪駅からすぐの所に店を構えるクラフト社。レザークラフトを楽しんでいる人であれば、知らない人はいないであろう老舗材料店だ。初心者にも使いやすいオリジナルの工具類や、種類豊富な革が並べられている店内は、見ているだけで創作意欲をかき立てられる。ショップスタッフはみな革や道具についての知識に精通しているので、何でも相談してみると良いだろう。ユーザーへの小売り以外にも専門ショップへの業販も行なっており、プロからも厚い信頼を得ている。

また、併設されているクラフト学園では、初心者に最適の基礎科からプロを目指す人のための研究科まで、様々なレベルの人が学べる講座が開催されている。基本的な手縫いの製作技法はもとより、カービングや革の染色に興味がある人は、一度見学に訪れてみると良いだろう。必ずレベルアップに繋がるはずだ。なお基礎科には5ヵ月間の通信講座も設けられているので、自宅でじっくりと学ぶこともできる。詳しい講座内容や期間については、下の表を参照して欲しい。

クラフト学園講座案内

講座	開講曜日	クラス	期間
レザークラフト 講師養成講座 手縫い講座 カービング講座	火曜日 第1.2.3.4の内2日(4単位)	基礎科	1年
		高等科	1年
		研究科	1年
	金曜日 第2.3.4の内の2日(4単位)	基礎科	1年
		高等科	1年
		研究科	1年
	木曜日(夜間) 第1.2.3.4(4単位)	基礎科	1年
		高等科	1年
		研究科	1年
カービング講座	火曜日(夜間)		1年
手縫い講座	第2.4(2単位)		
革の染色	月曜日 第2.4	基礎科	1年
		高等科	1年
		研究科	1年



PRESENT 読者プレゼント

レザークラフトに必ず役立つ選りすぐりの品々を、今回は合計で20名様にプレゼント！これから始める人も、ステップアップを目指す人も見逃せないアイテムばかりだ！

応募方法 本誌に付属されているアンケートハガキに希望するプレゼント番号を記入し、ポストへご投函下さい。当選は商品の発送をもってかえさせていただきます。応募の締切は2009年12月25日となっております。奮ってご応募下さい。



1 ハイグレード
カラーシニュー 1名様

ハイグレードカラーシニューから、ハニーゴールドをプレゼント。ワンランク上の作品を目指そう

提供: I☆N FACTORY



2 真鍮製ウォレットチェーン 1名様

ややくすんだ色が渋い真鍮製のウォレットチェーン。適度な重量もあり存在感バツグンだ

提供: I☆N FACTORY



3 ノーベル特製ライター 5名様

ノーベルのロゴマークが印刷された、5色の特製ライター。糸留めに活用しよう

提供: ノーベル レザークラフト



4 SEIWA革手縫い工具7点セット 3名様

手縫い針、糸、2本と4本の菱目打ち、丸ギリ、ゴム板、ボンドの入ったお手頃工具セット

提供: レザーワークス



5 SEIWA革手縫い工具12点セット 1名様

ヘリ落としやトコノール、木槌などが加わった12点セット。簡単な指南書も付いている

提供: レザーワークス



6 SEIWA革手縫い工具18点セット 1名様

充実の工具セットに、製図、材料の革まで付いた18点セット。不足のない内容となっている

提供: レザーワークス



7 SEIWA小銭入れキット 3名様

小銭入れの材料が揃った製作キット。スターターにお勧めだ

提供: レザーワークス



8 モルガンダラーコンチョ 1921年(ネジ式) 3名様

磨き上げられた大振りシルバーコンチョ。ウォレットにも最適

提供: レザーワークス



9 OHV Bohemian バングルウォッチ 1名様

男の魅力をワンランクアップさせるワイルドなバングルウォッチ

提供: ルシアーレザーカンパニー



10 OHV Bohemian ベルトキーホルダー 1名様

コンチョはオリジナルキャストホイール型。バイク好きには堪らない

提供: ルシアーレザーカンパニー

実践アイテム製作

基本技法を修得したら、様々なアイテムを作ってみよう。ここではプロの革職人達が手がけるアイテムの製作方法を紹介していく。レザーアイテムに様々な種類があるように、職人達の作り方も人それぞれ。通常では見ることはできない、プロならではのテクニックを自分のものにしよう。



警告

WARNING

本書に記載されている内容は、プロフェッショナルによって行なわれた作業を記事として再構成したものです。改造や加工の成功、作業を行なう上での安全性等はすべてそれを行なう個人の技量や注意深さに委ねられるものです。よって、本書の内容に準じた作業であっても、出版する当社、株式会社スタジオ タック クリエイティブ、および取材先各社では作業の結果は一切保証いたしかねます。またその作業上、使用上において発生した事故や器物の破損、損壊についても、当社では一切の責を負いかねます。すべての作業におけるリスクは、作業を行なうご本人に負っていただくことになりますので、充分にご注意ください。

WATCH BANGLE

ウォッチバンゲル

バンゲルと腕時計を組み合わせることで、装飾品でありながら実用性も兼ね備えている便利なアイテムがウォッチバンゲルだ。今回は、初心者にも心強い製作キットを使って作り方を説明する。



使用する製作キットは、製作に協力して頂いたパーリーから発売されている「大地の革」シリーズのウォッチバンゲルだ。裁断済みの革パーツと共にウォッチムーブメント、バックル、コンチョがセットになっているため、工具さえ揃えればすぐに作り始めることができる。大地の革シリーズの商品は巻末のカタログで一部紹介しているので、参照してほしい

製作キットで基礎技術を養う

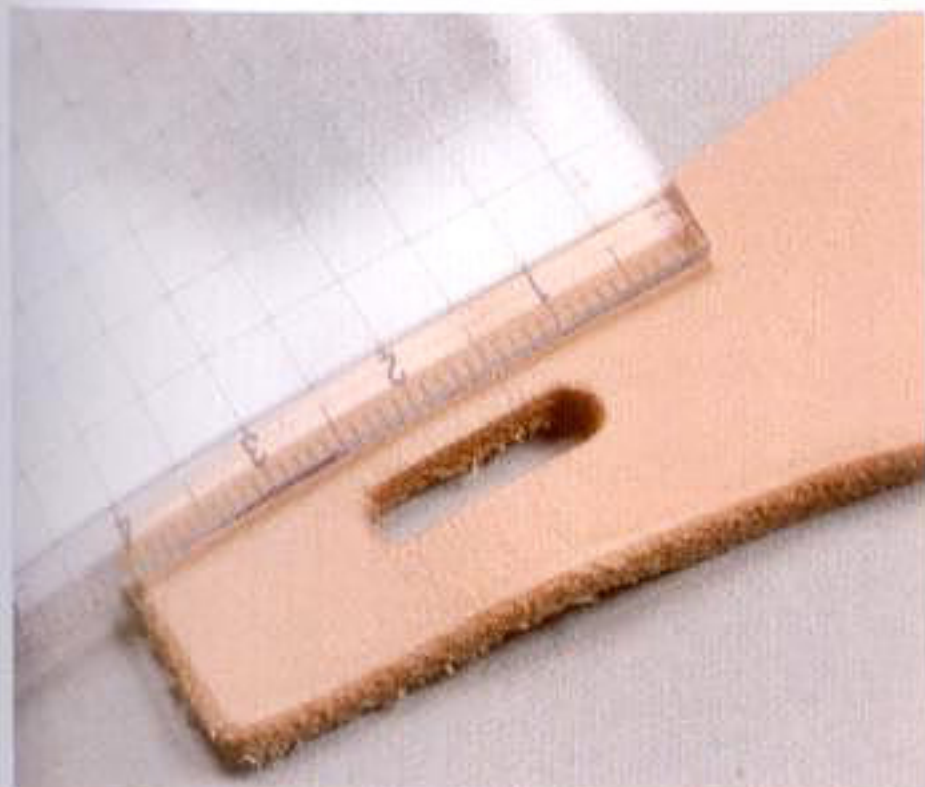
装飾品であるバンゲルと腕時計が組み合わされたウォッチバンゲルは、バイカーアイテムとしても重宝される実用性の高い人気アイテムのひとつだ。今回はパーリーから発売されている製作キットを使って作り方を解説していく。

製作キットは、全てのパーツが裁断済みで揃っている上、

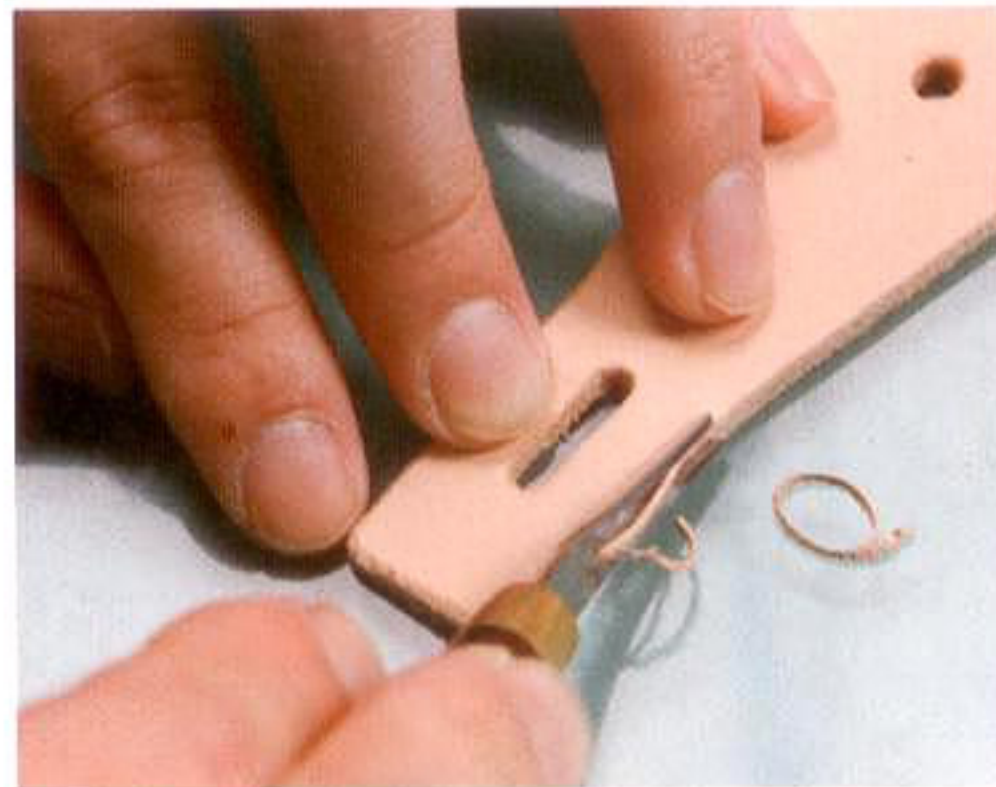
完成品よりもリーズナブルというメリットを持っている。また、縫い線を付ける、縫う、コバを仕上げるといった基本的な技術を練習することもできるため、初心者にもお勧めだ。基礎技術を習得できたら、製作キットに自分なりのアレンジを加えても面白いだろう。

下処理をする

縫い合わせた後にヘリやコバの仕上げができなくなる部分をこの時点で処理しておき、バックルを取り付ける。



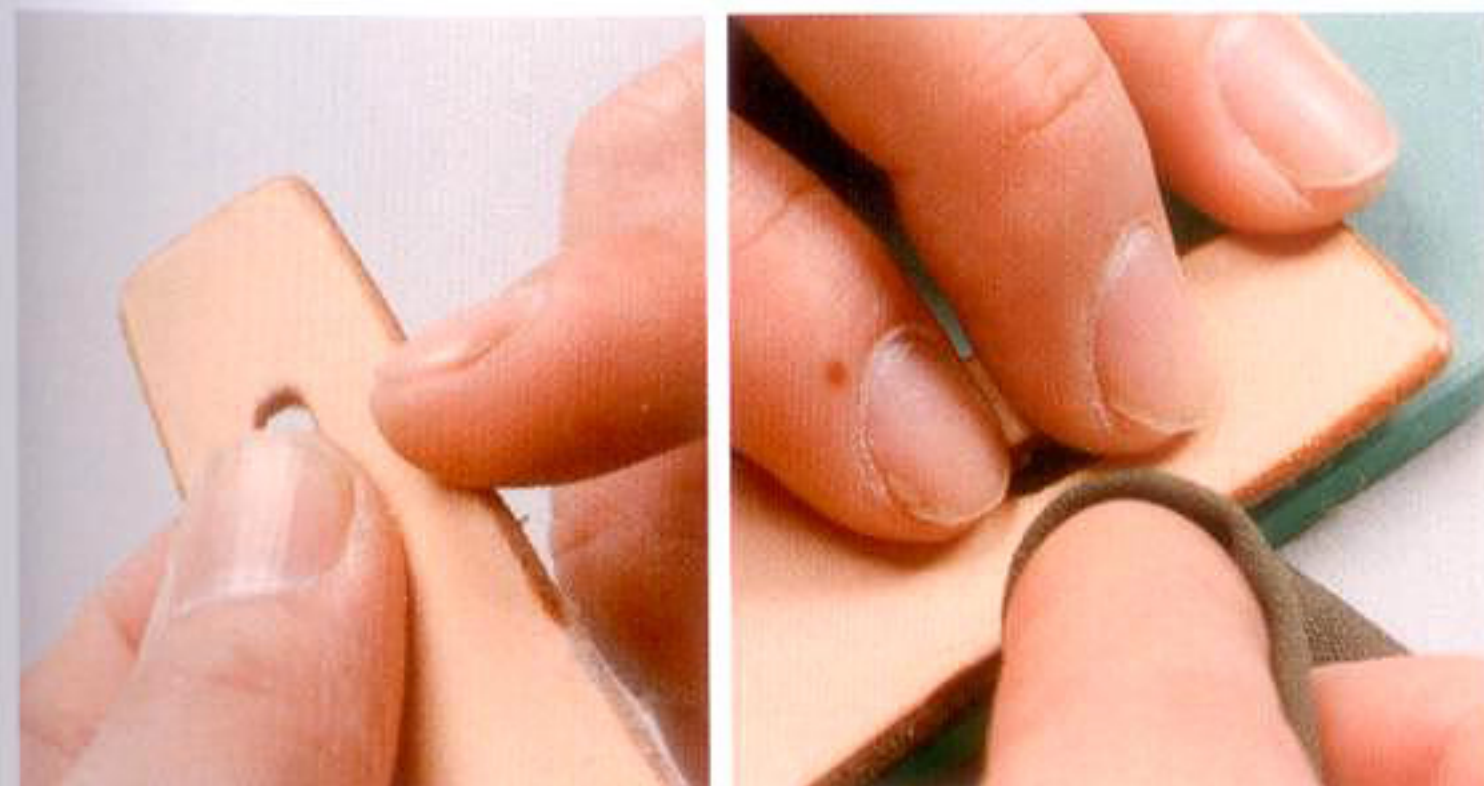
1 バックルを取り付ける部分のヘリを処理するため、端から4cm程度を測る



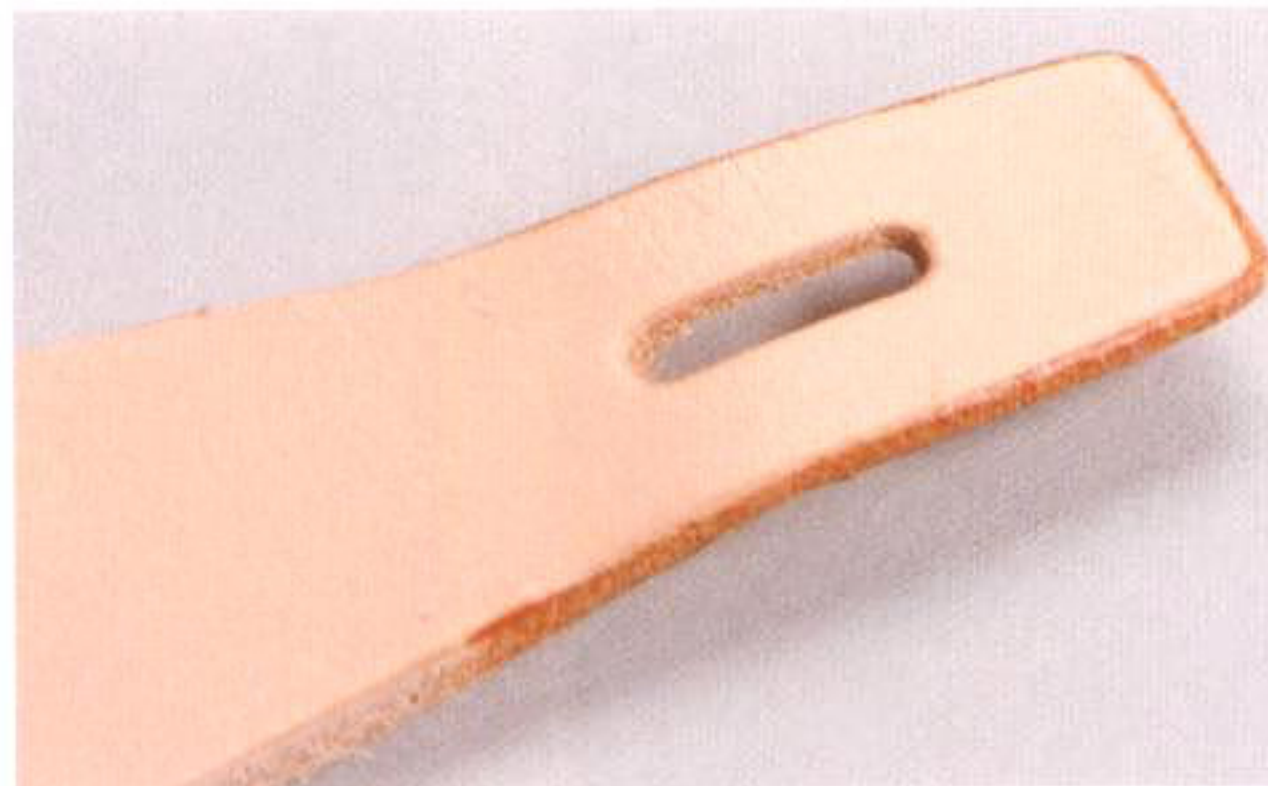
2 まずはヘリ落としを使い、測った部分までのヘリを落とす。表側のみでOKだ



3 400～800番程度のサンドペーパーを軽くかけ、ヘリとコバを滑らかに整える



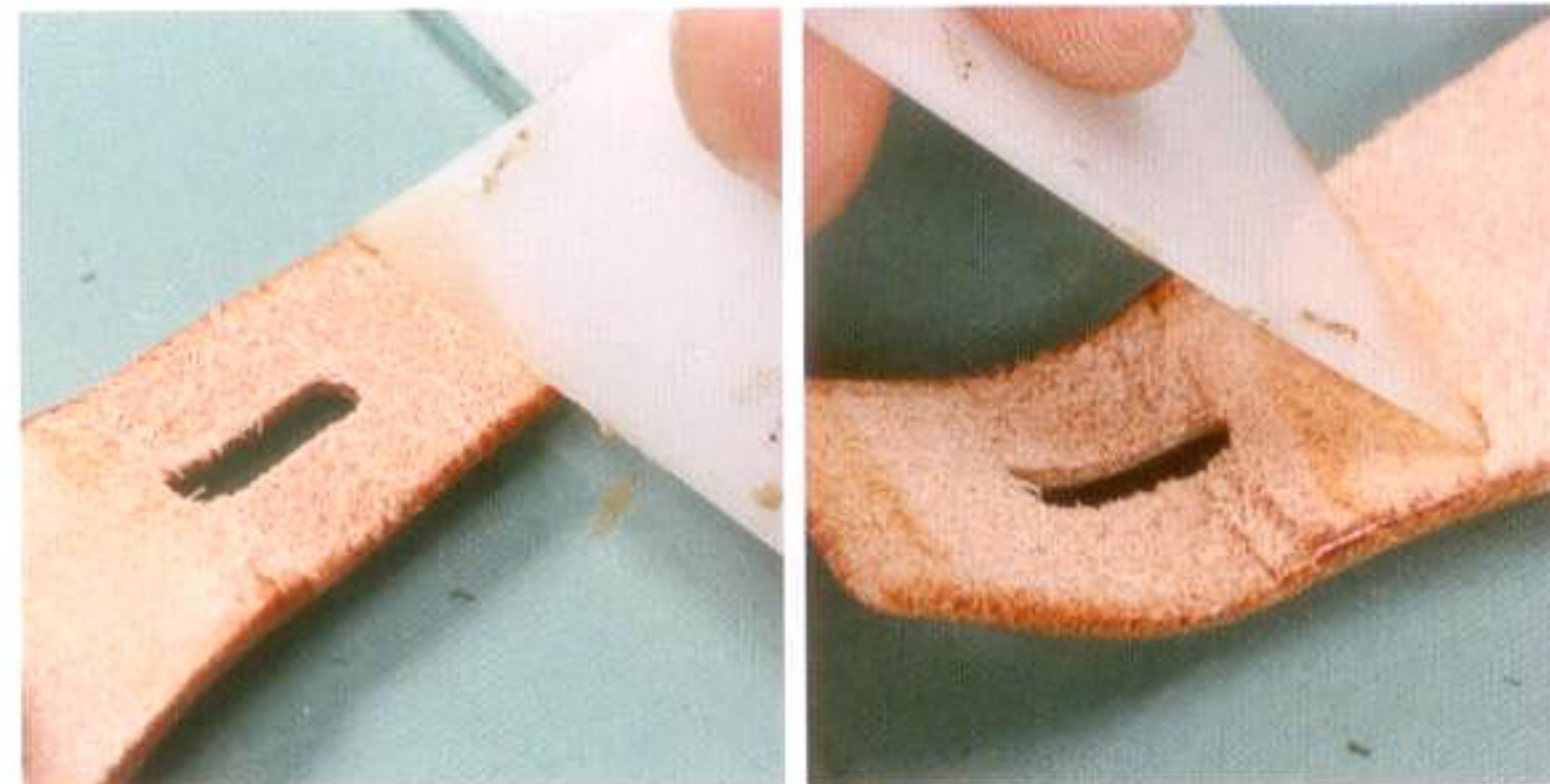
4 ふのりを付け、コバとヘリを綿布で磨く。ふのりは銀面に付かないよう注意。裏側からも磨くこと



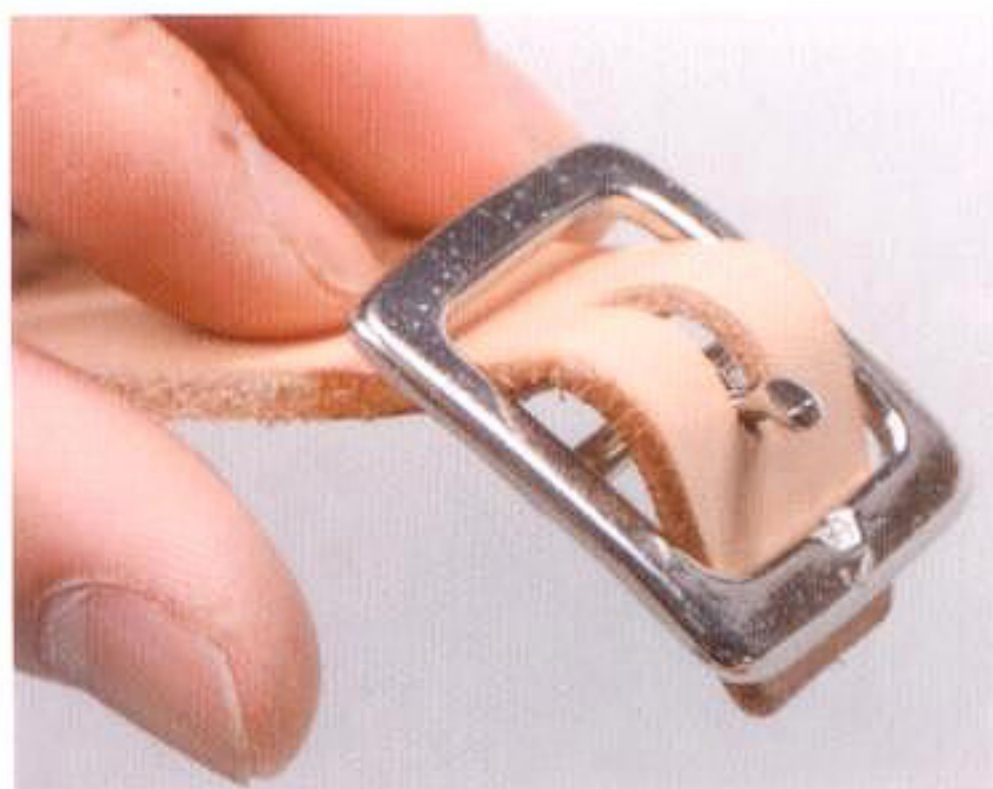
5 このようにコバの毛羽立ちがなくなり、面が滑らかになるようにしっかりと磨いておく



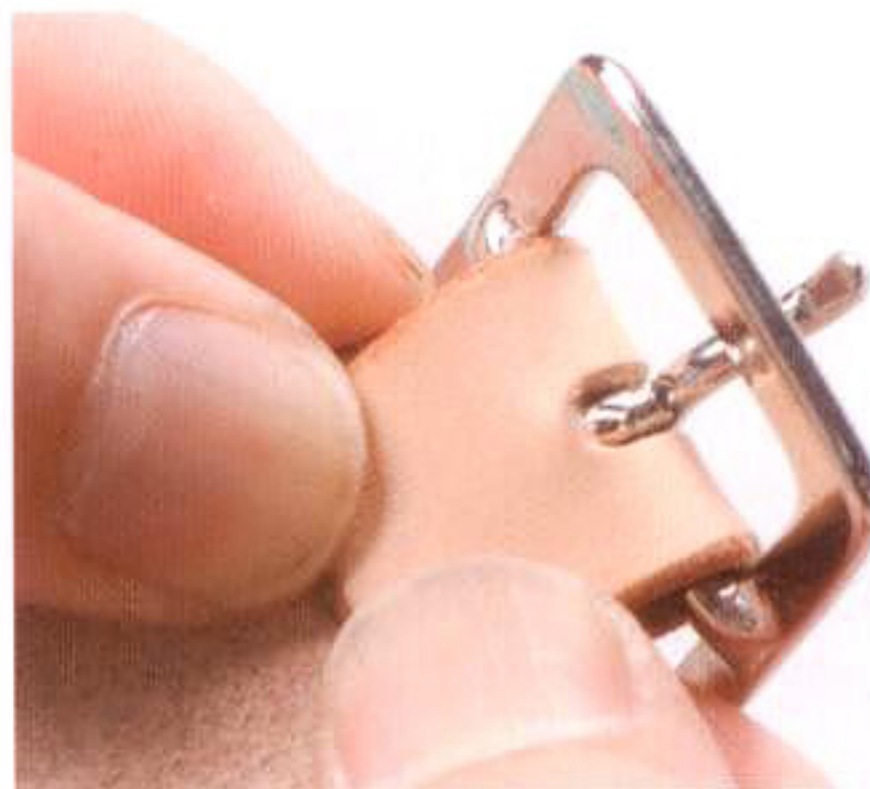
6 バックルが取り付けられるように穴の中心あたりで折り曲げ、くせを付けておく



7 端から1cm程度の範囲にボンドを塗り、折り曲げたときにそこと重なる部分にもボンドを塗る



8 ボンドが少し乾くのを待ち、貼り合わせる前にバックルをこのように通す



9 折り曲げて貼り合わせ、ボンドの部分を指でしっかりと圧着する



10 バックルを取り付ける際は向きを間違えないよう注意。棒が外側を向く

縫い線を付ける

周囲の縫う部分に縫い線を付け、ヒシ目打ちを打っていく。線が曲がると見た目が悪くなるため注意すること。



1 折り目から1.5cm程度、折り返した革が重なる部分をけがく。端は3mm残す



2 ステッチンググルーバーを使い、全周に縫い線を付ける。端から3mm幅程度



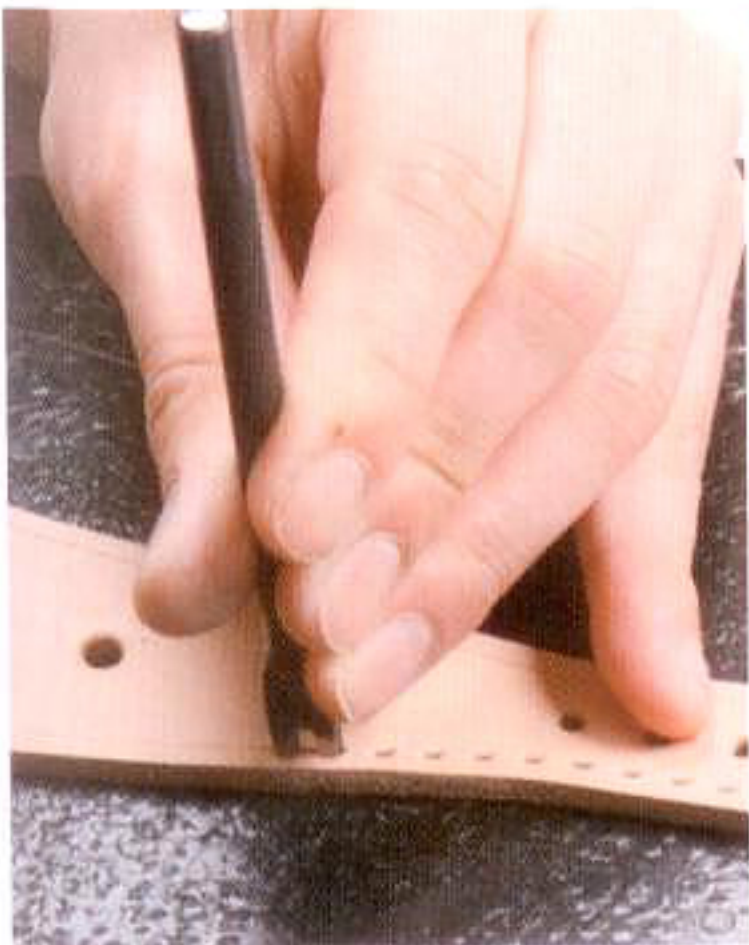
3 このように、はじめにけがいた線から縫い線を付け始め、線の反対側で終わる



4 とがった先端の部分は、中央まで線を付けたら一度止まり、方向を変えてから始めると良い



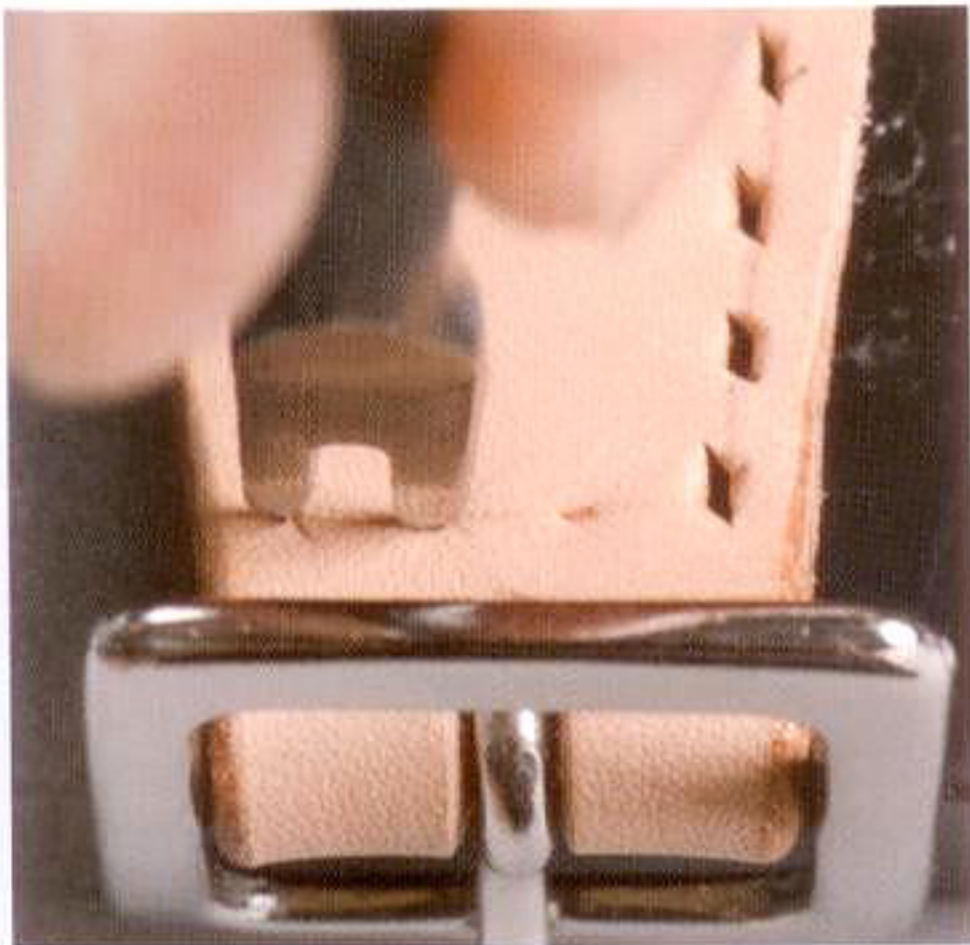
POINT
5 見た目を考慮し、先端からヒシ目を打ち始める。ここでヒシ目がずれると格好悪くなってしまう



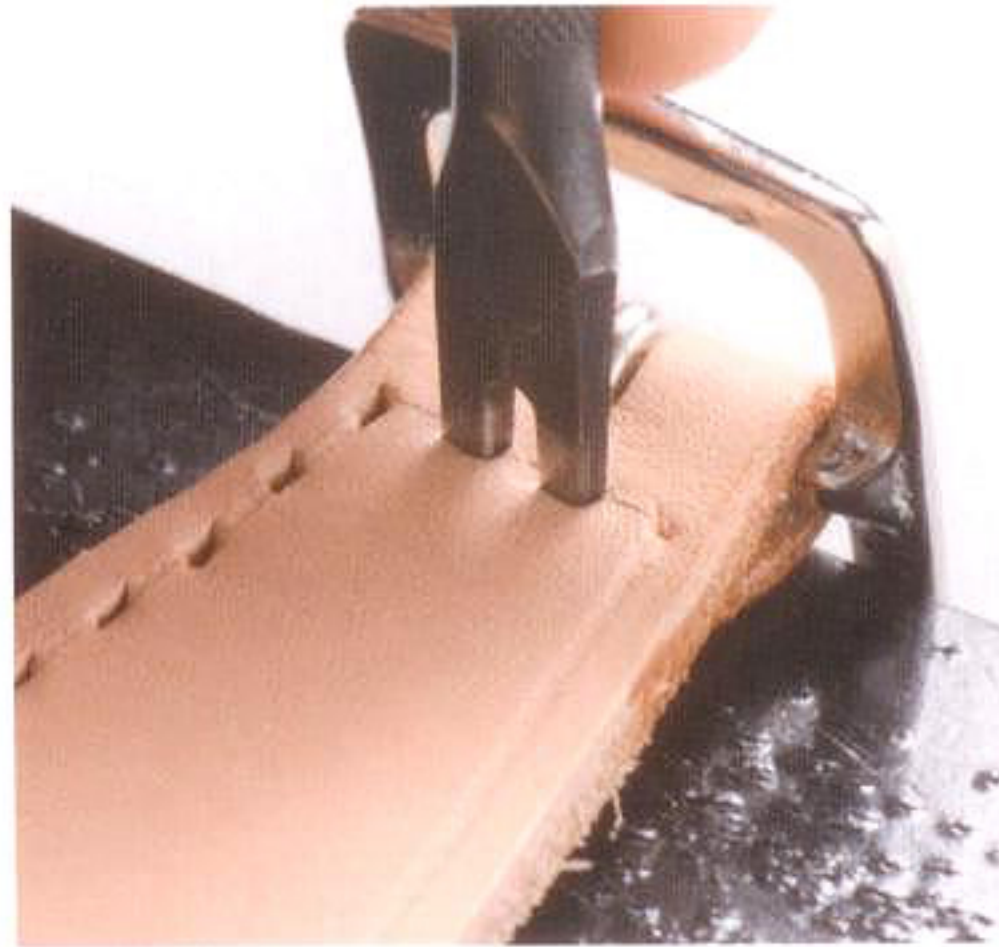
6 縫い線に沿ってヒシ目を打っていく。全体に緩やかな曲線を描いているため、全て2本ヒシ目打ちを使用する



7 直角に曲がる部分は注意。角の部分にヒシ目打ちが掛かるように調整し、一度ここで止める



8 この部分はヒシ目打ちで跡を付け、予めバランスの良い穴の位置を決めておく



9 位置を決めたらヒシ目を打つ。2枚重ねになっているため、しっかり貫通させる



10 再び側面にヒシ目打ちを打っていく。この辺りまで打ったら穴の位置を調整する



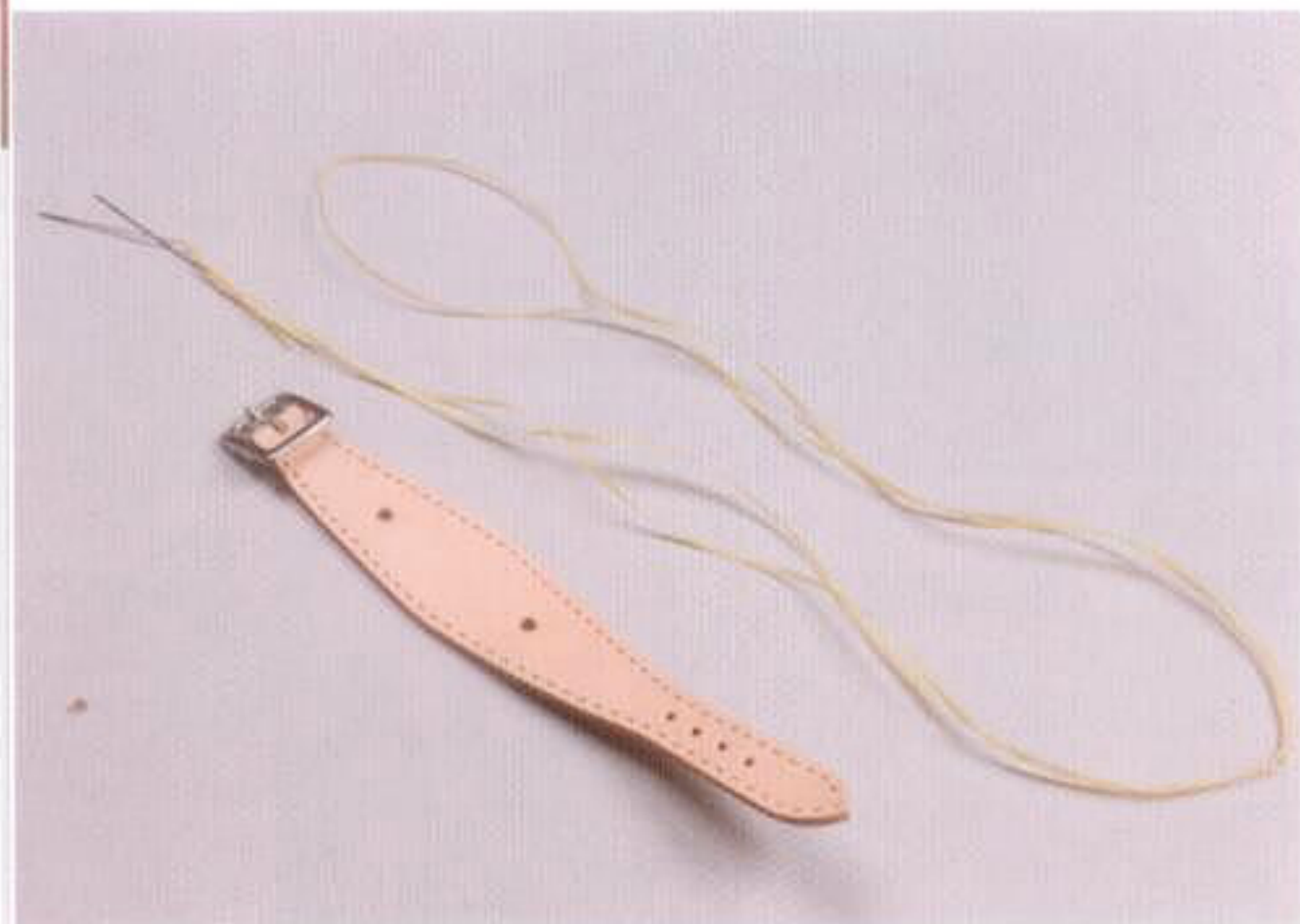
11 先端は既にヒシ目打ちが打ってあるため、その次の位置辺りからヒシ目の位置をバランス良く取って打つ



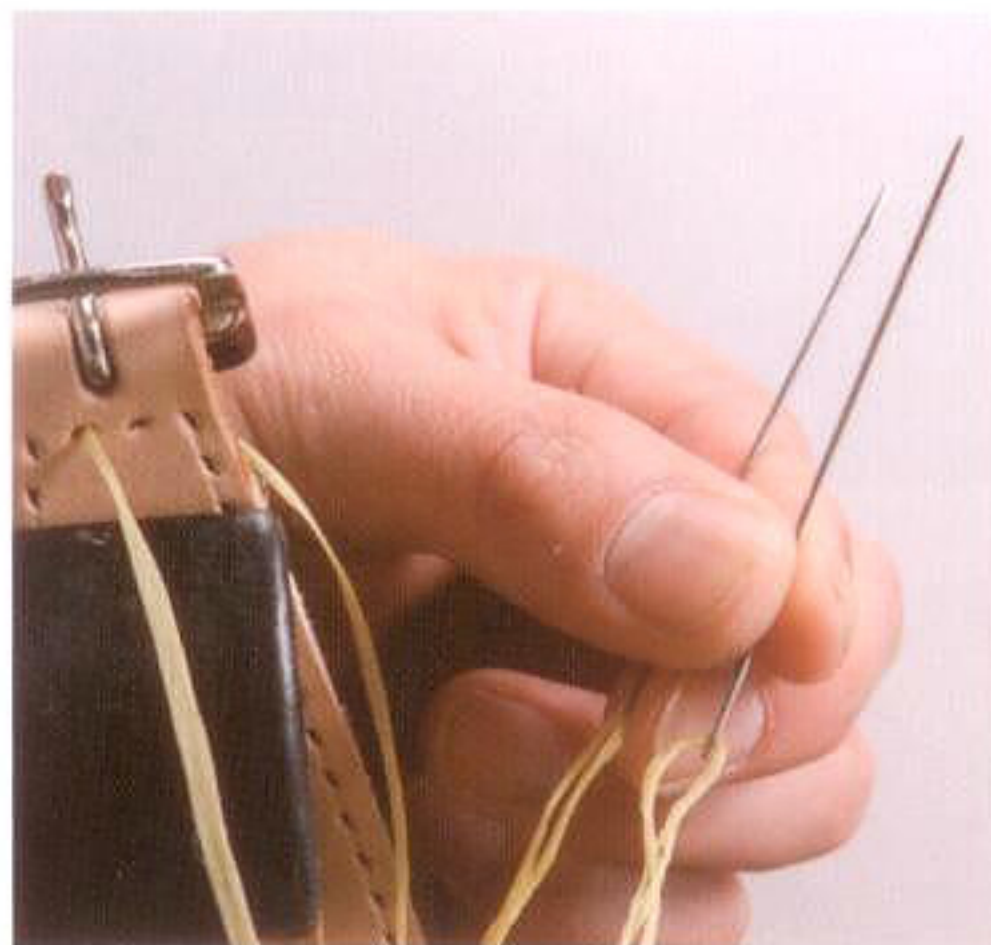
12 ヒシ目打ちで縫い目の仕上がりが決まってしまうため、ここまでの作業は丁寧に行なうこと

縫う

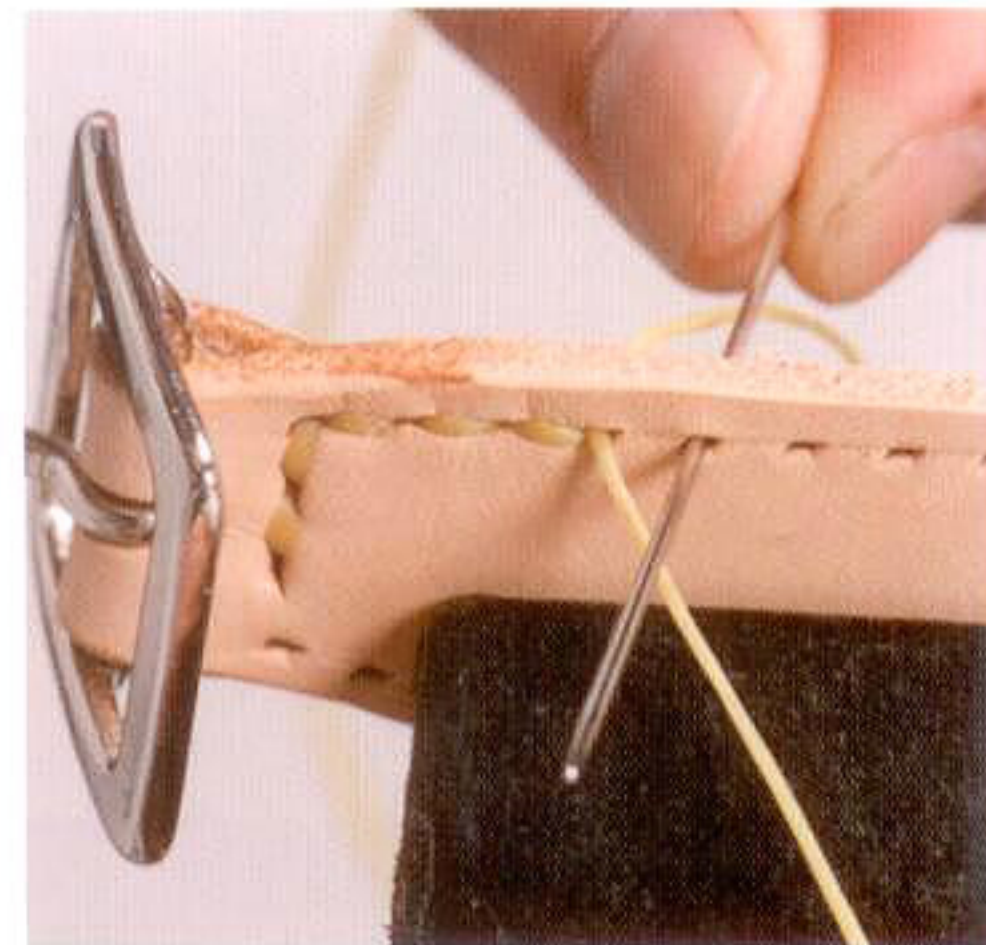
全周に打ったヒシ目に合わせ、糸で縫う作業に移る。きれいな縫い目を出すにはちょっとしたコツが必要だ。



1 縫う長さの4倍程度の糸を取り、針を両端にセット。今回はシニュー糸を使う

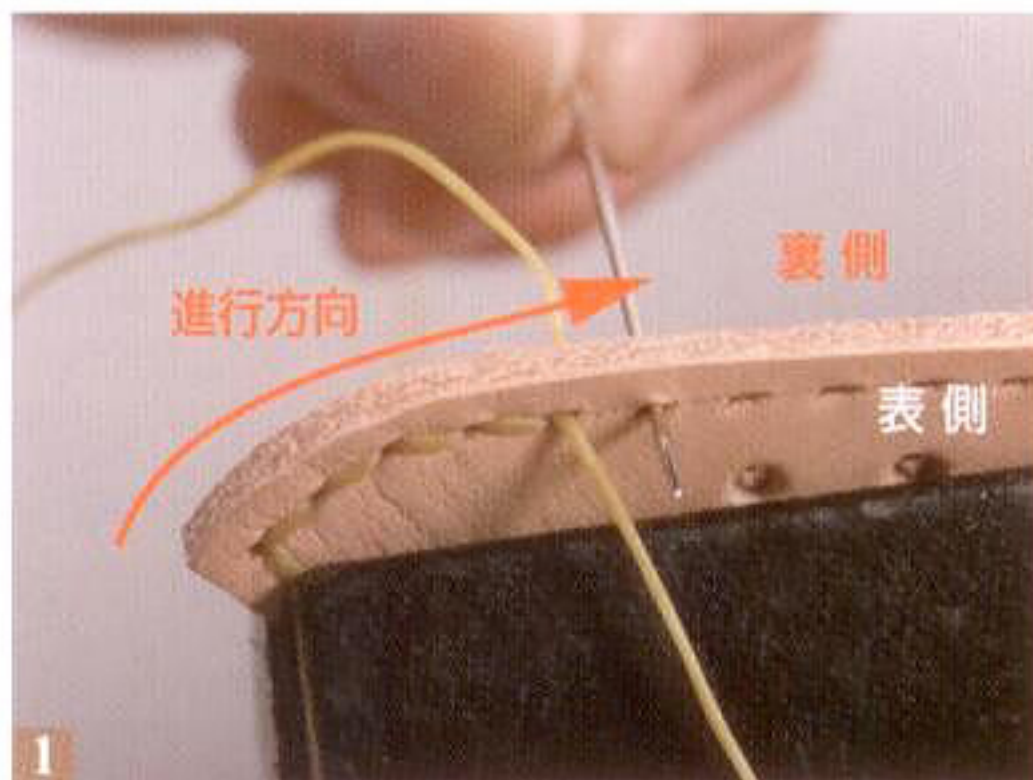


2 重なった部分の縫い穴から始める。糸を通して左右の長さを均等に揃えよう



3 平縫いで縫っていく。きれいな縫い目を出すコツは下のカコミでチェック

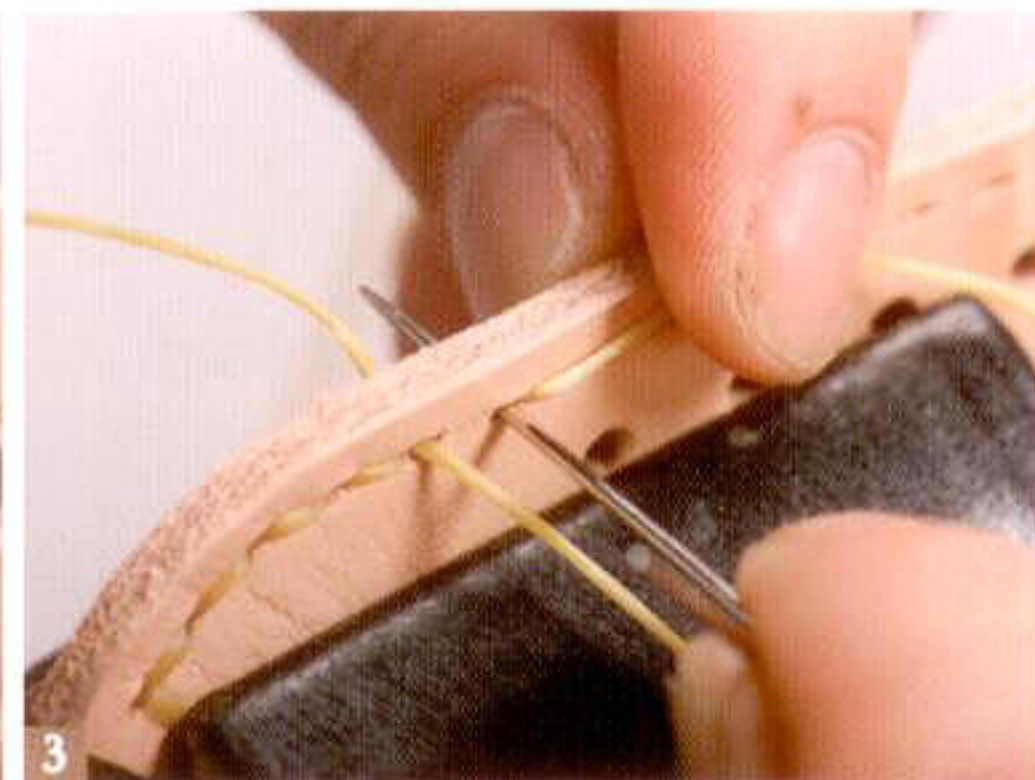
CHECK!



1



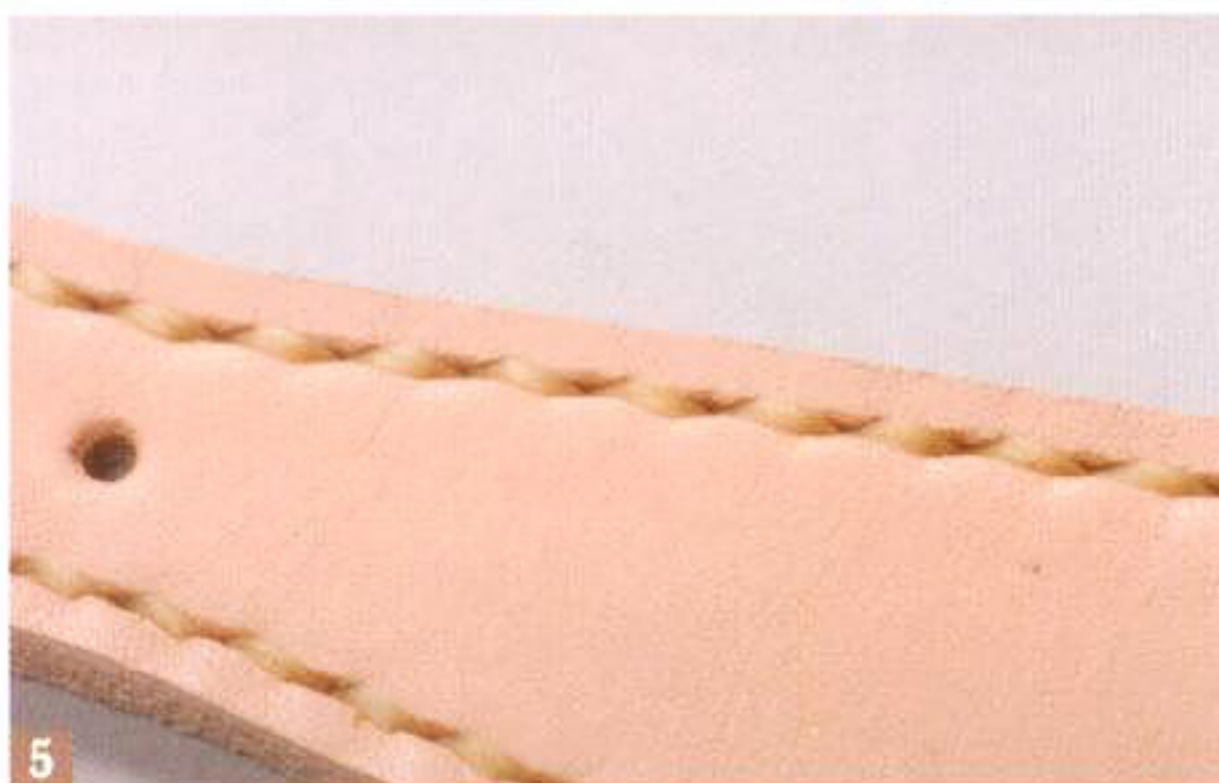
2



3



4

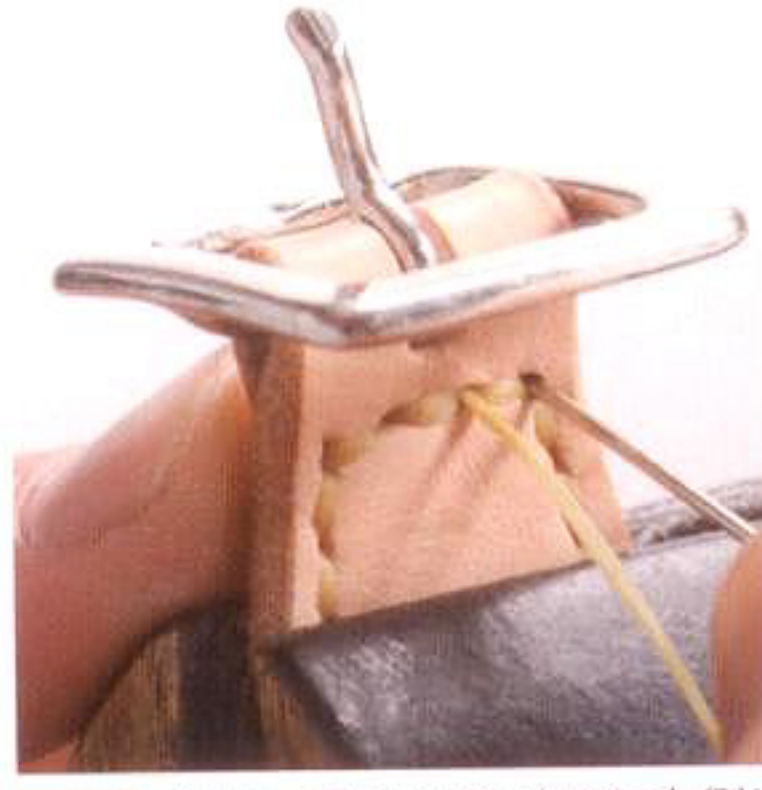


5

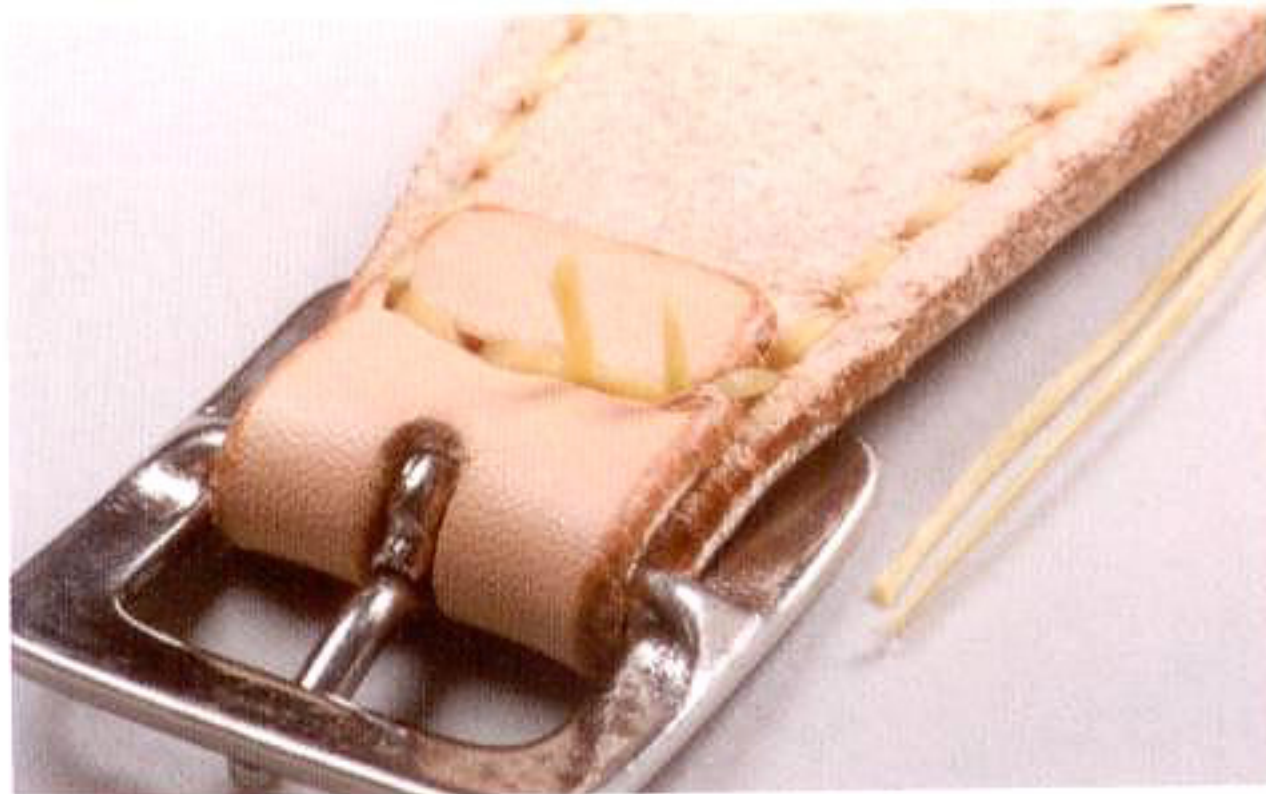
1 裏側の針を先に縫い穴に通す **2** 通した糸を縫い進める方向に引っ張っておく **3** 先に通した糸の手前の隙間に表側の針を通す **4** 両方の糸を通したら両側から締め込む **5** この順序で繰り返していけば、きれいな縫い目が出る



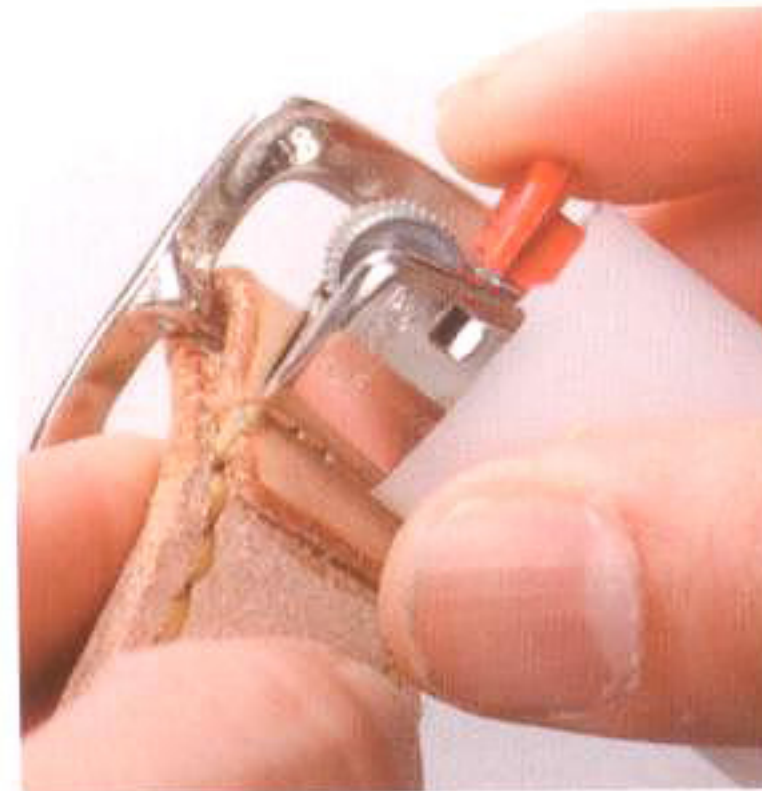
4 ここからは縫い終わりの説明をする。まずは、縫い始めの目からひと目だけ重ねて縫う



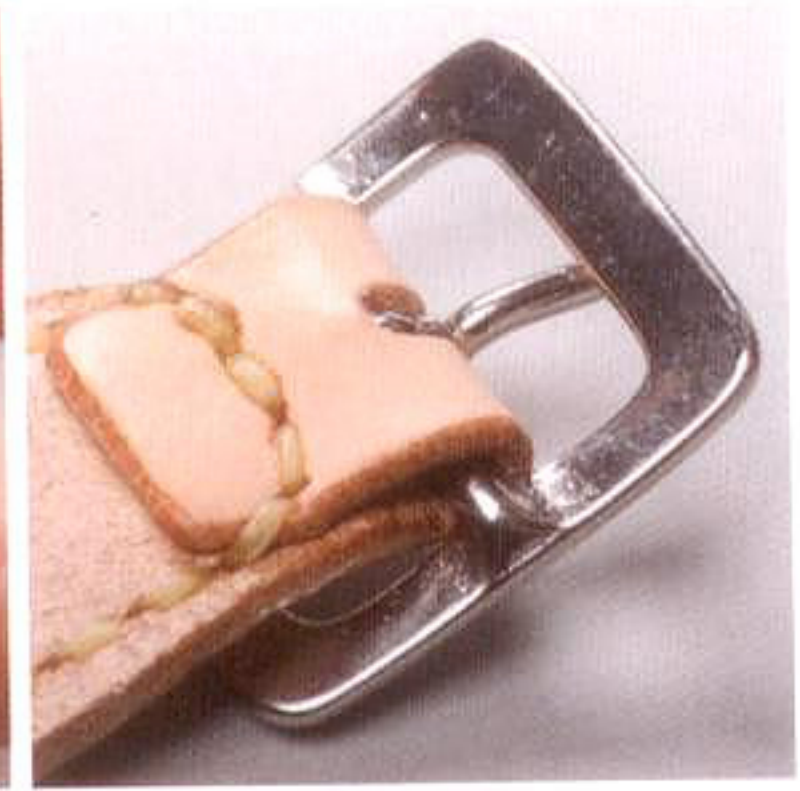
5 次に、表側の糸だけを裏側に通し、両方の糸が裏側に出ている状態にする。これで1.5目重ねた状態だ



6 裏側に出た糸は、5mm程度残して切り取る。ひと目重ねた状態でほつれる心配はほぼない

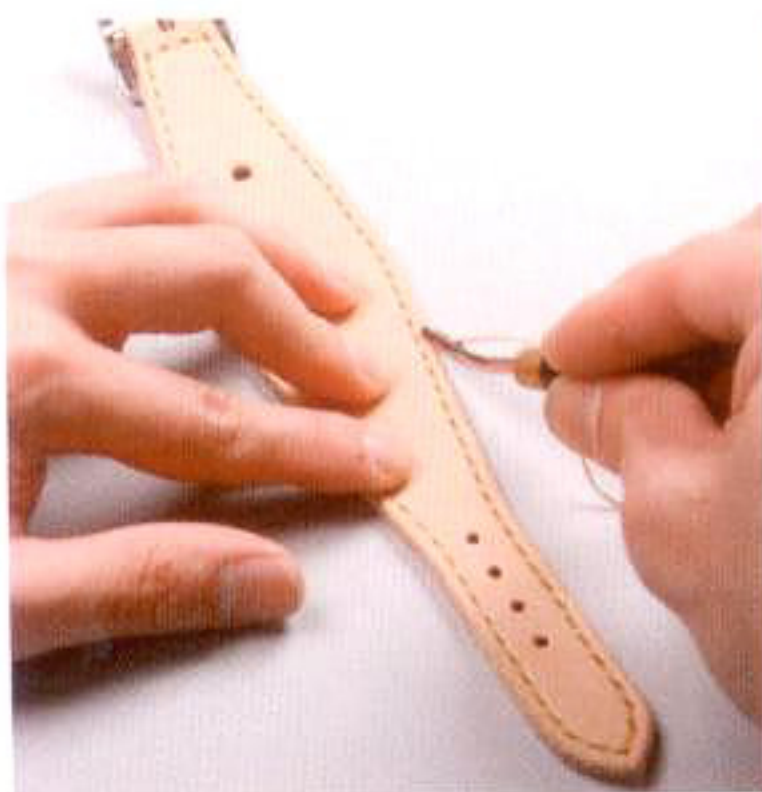


7 残った糸はライターであぶって溶かし、押し付けて平らに処理する。この場所で留めると目立たない



仕上げとウォッチの取り付け

ここまで来ればあと一息。最後に全体のヘリとコバを磨き、ウォッチ、コンチョを取り付けて仕上げる。



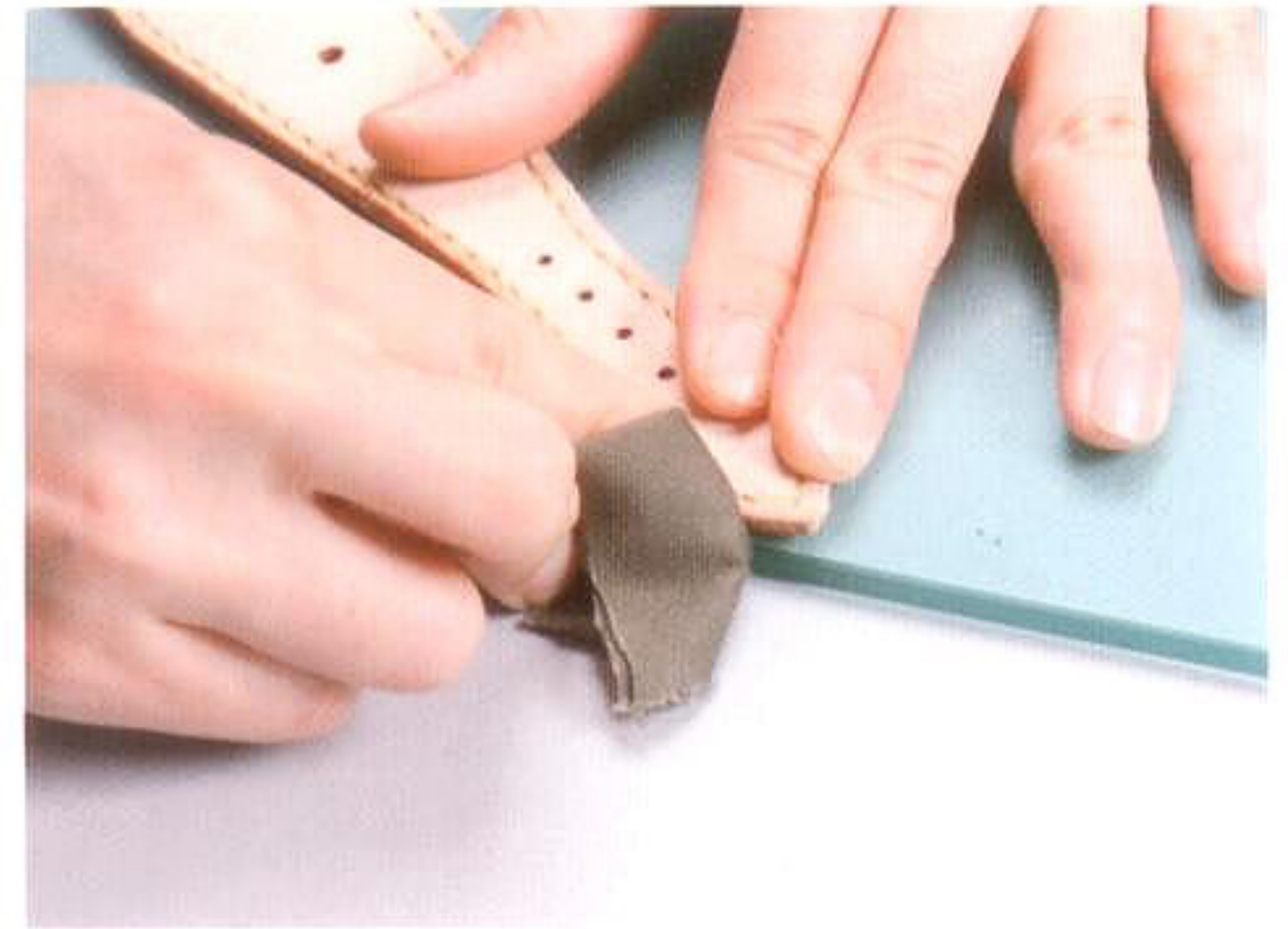
1 全体のコバとヘリを処理する。はじめに磨いておいた所まで、表側だけヘリ落とし(3番)でヘリを落とす



2 はじめと同様、400～800番程度のサンドペーパーを軽くかけ、コバを滑らかに整える



3 コバにCMCを付け、綿布で擦ってツヤを出す。光沢が出て色が濃くなるまでしっかり磨くときれいに仕上がる



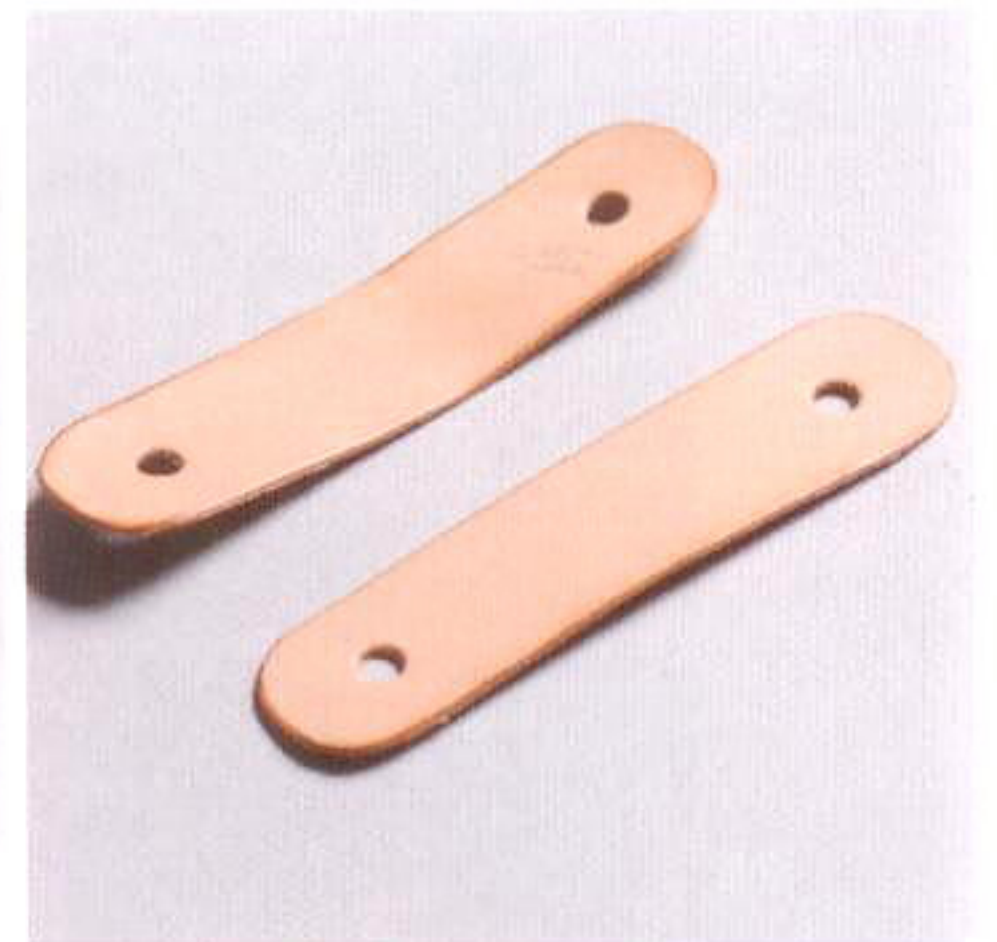
4 先端の部分は磨きにくいので、このように段差を利用してしっかりと磨いておこう



5 ウォッチを本体に取り付けるバンドも同様に磨いておく。薄いためヘリを落とす必要はない



6 こうのように、ヘリが滑らかになりツヤが出てくるように仕上げる。丁寧な作業がクオリティを上げる

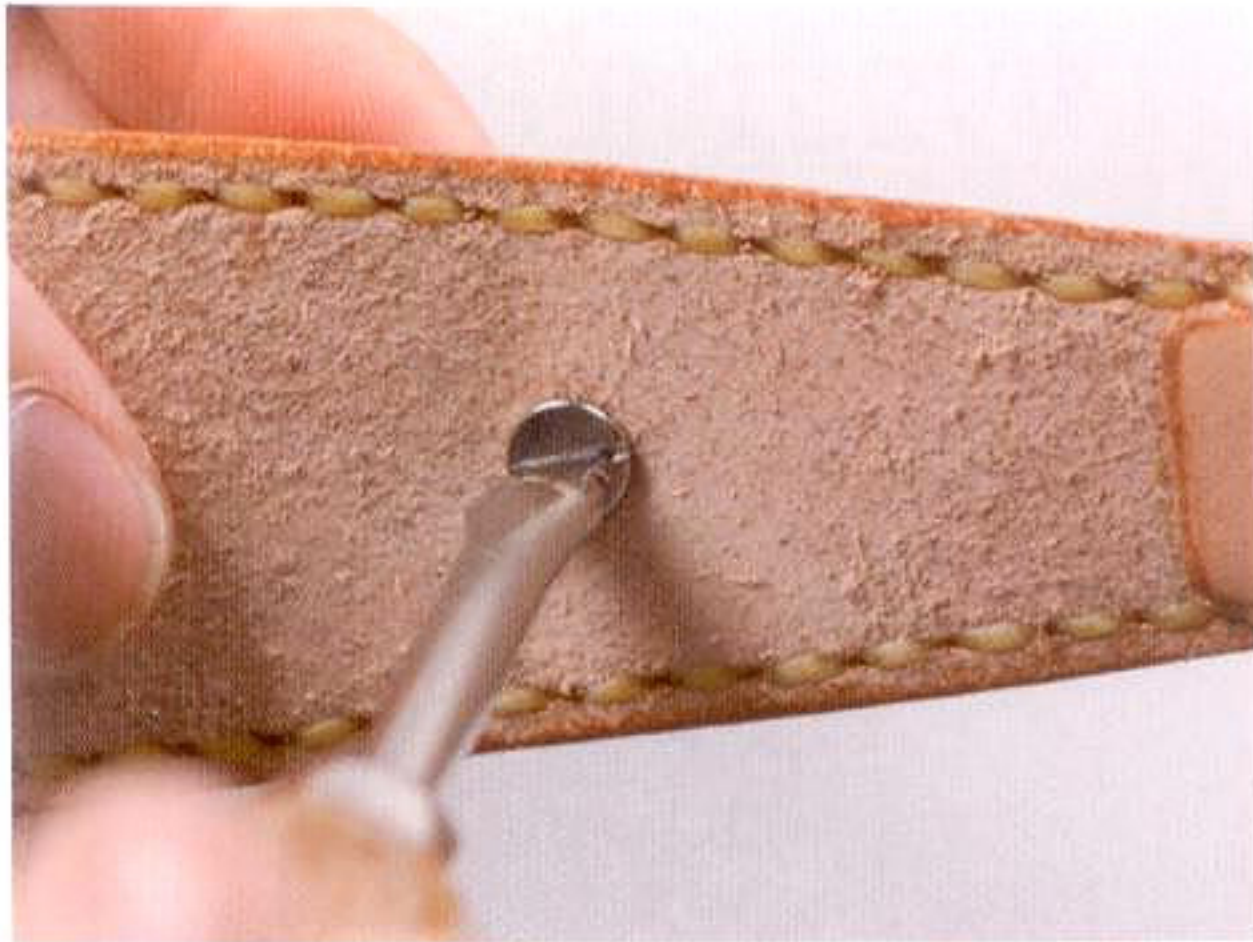


7 ウォッチに取り付け用バンドを通し、半分に折った状態で穴の位置を合わせる



8 合わせた穴に表側からコンチョを取り付け、本体にセットする。ウォッチの上下の向きに気を付けよう

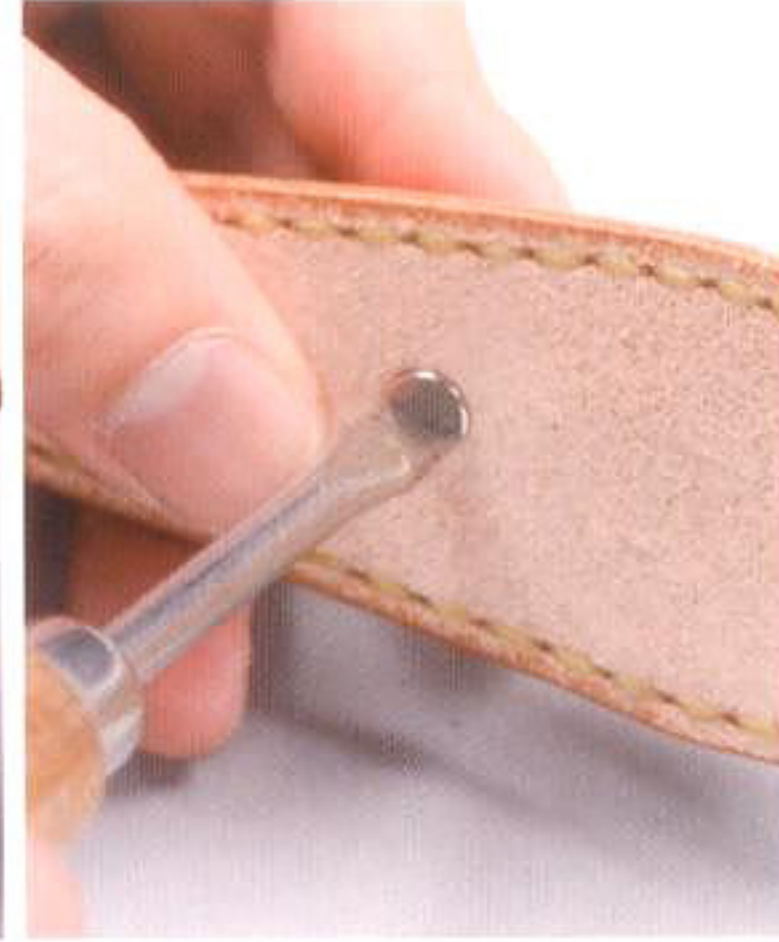




9 表側からコンチョをしっかり押さえ、裏側から固定用ビスをマイナスドライバーで締め込む



10 反対側のコンチョも同様にしてビスで固定する。穴がすでに空いているため簡単に作業できる



11 これでウォッチの取り付けは完了だ。ウォッチの位置をバランス良く整えよう

CHECK!



バンゲルを腕に巻いた状態でウォッチの取り付けバンドがちょうど良い張りになるよう、真っ直ぐに伸ばした状態ではむしろ弛みが出る程度の長さに調節している

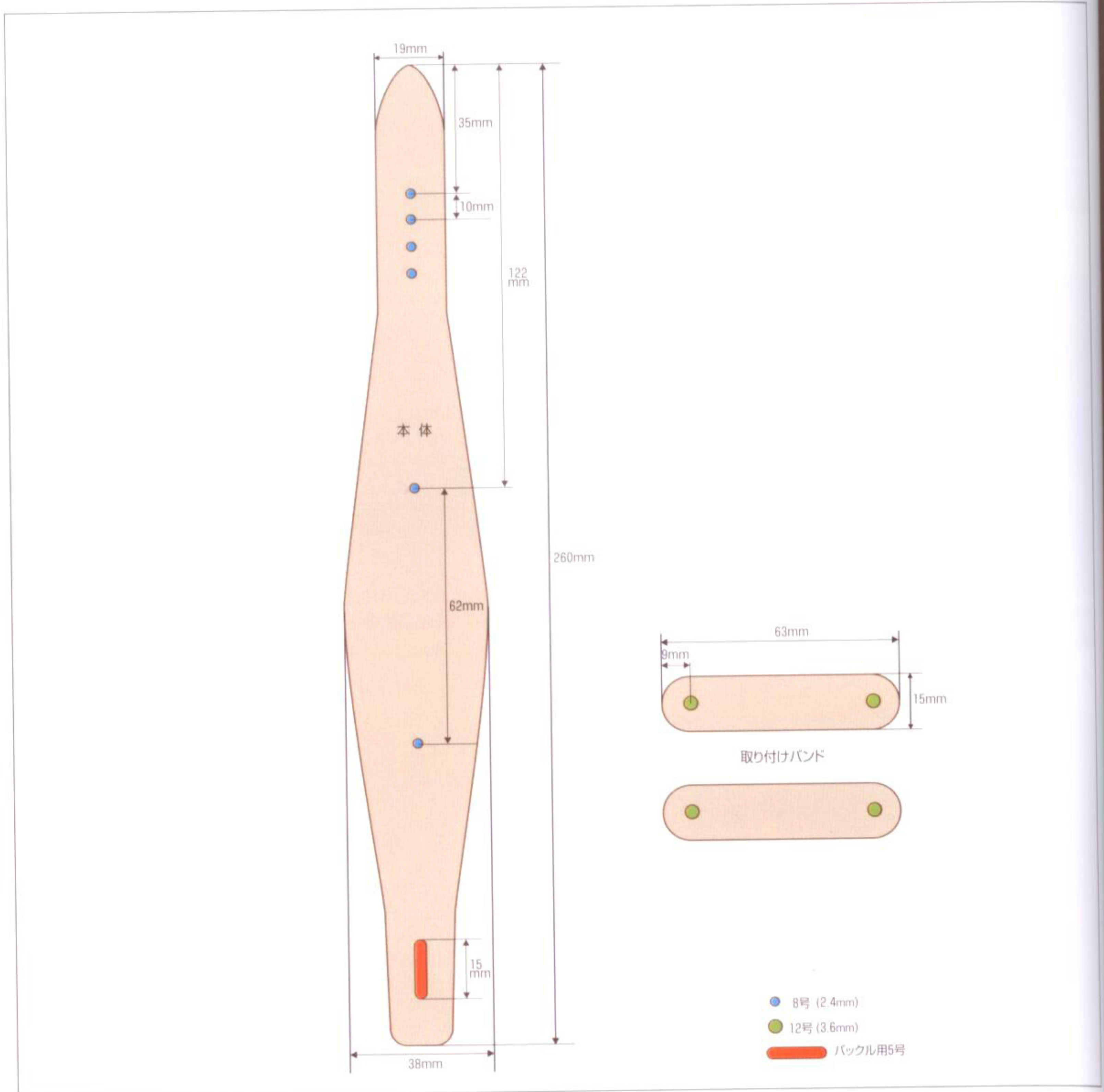


以上でウォッチバンゲルの製作作業は完了となる。キットではパーツの裁断と穴開け作業が済んでいるため、慣れていれば1時間程度でも製作可能だ。バンゲルははじめは革が固く、腕に巻くときもゴツゴツとした感触がするが、使い込む内に馴染んでくるはずだ

12

寸法図

この図は200%に拡大するとほぼ原寸大になる。ただし、あくまでも目安であり、革の厚みや質によって調整が必要。



OWNER'S INTERVIEW

まずは革に慣れること
何度もやって上達するんです



ATSUSHI SHIRAKATA

白潟 篤氏

パーリー代表の白潟氏は、革と物づくりに関しては一切の妥協を許さない根っからの革職人だ。若い頃からバイクを趣味とし、ライダーのニーズに合った商品を日々生み出している

—レザークラフトを上達するコツとは？

簡単な物から何度も繰り返して作ることでないでしょうか。革のクセや特性は触ってみないと分かりませんからね。いくつか試して失敗を繰り返して。いきなりうまくできるわけないですから。はじめはヒシ目打ちを使っても穴がうまく揃わなくてガチャガチャになったりしますよね。なぜ上手くできないかというのは、やはり数をこなさないと分からないと思います。本だけを見ててもね。革に慣れることが上達への近道です。

—バイクアイテムはどんなとき思いつく？

やはりバイクに乗っているときは色々な発想が出ますね。サドルバッグやタンクウォッチもそうですし。実際に乗ることで、必要な物が見えてきます。

—レザークラフトをやる女性はいる？

多いですよ。女性のバイカーも確実に増えていますから。バイクにすごくお金かけてる人も多いです。バイクに乗る女性は革をいじることも好きなのかもしれないですね。基本的に器用で、集中力もありそうですから、男性よりも得意かもしれません。

—「大地の革」シリーズについて教えてください

型紙を作ることなく、良いデザインのアイテム製作を気軽に楽しむことができるというメリットが売りですね。また、商品完成までには何度か素人の方に作っていただいて改良を加えています。一番人気の商品はウォレットで、最近はや望の多かったブックカバーも加えました。今後も新しいアイテムにご期待ください。

SHOP INFORMATION



株式会社パーリー

東京都練馬区上石神井1-11-10

Tel. 03-3920-3850 Fax. 03-3920-3886

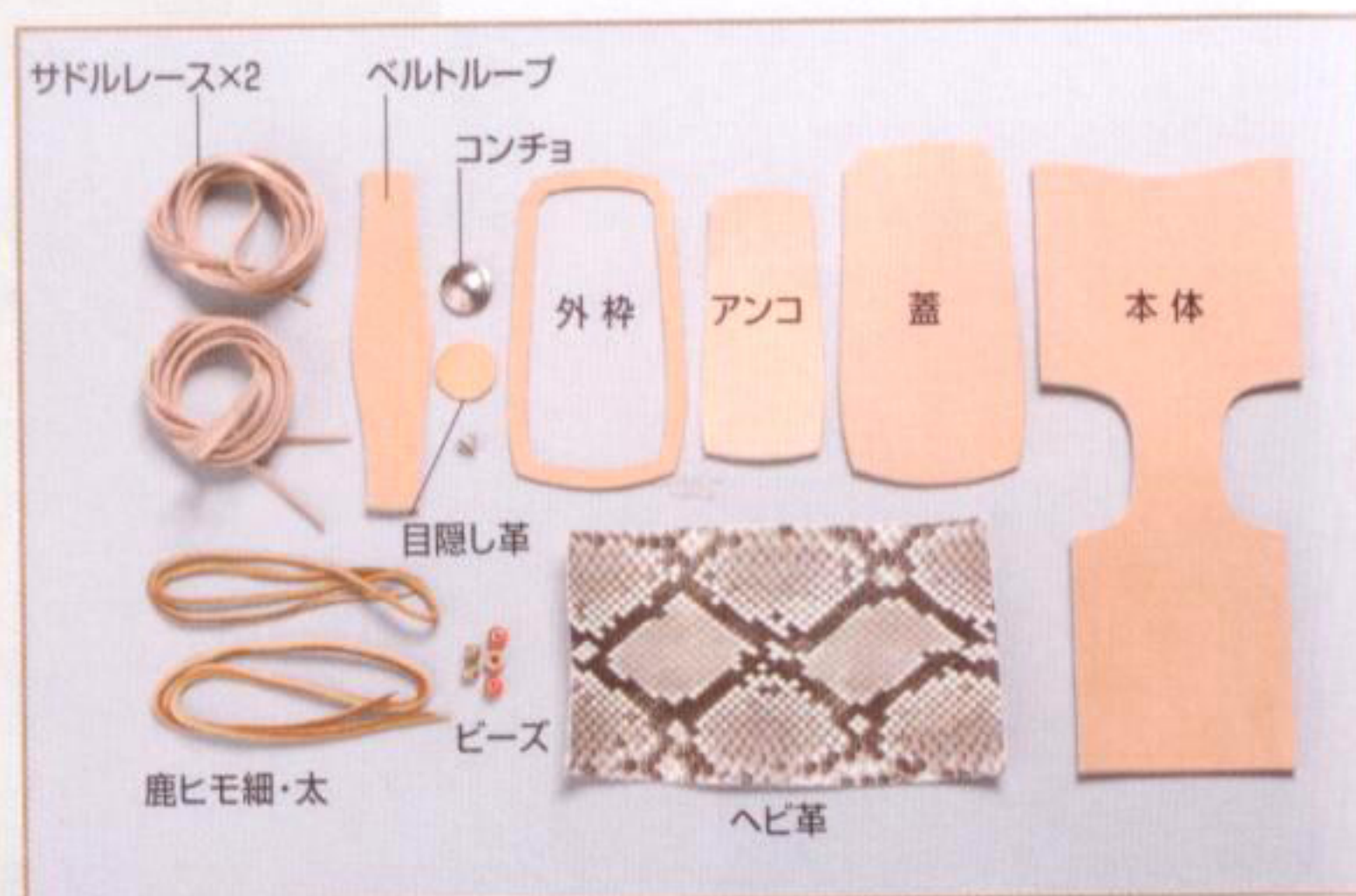
URL <http://www.parley.co.jp/> e-mail parley@mint.ocn.ne.jp

1 スタッフの皆さんは暖かい雰囲気であげてくれたが、作業中は一変して真剣な様子だったことが印象的だ。妥協のない作業から製品に対してのこだわりが窺える。工房ではデザインから製作までを一貫して行なっているため、完全なオリジナル商品となる。ラインナップの増えている「大地の革」シリーズの製作キットにも注目だ 2 取材当時、完成したばかりのブランドロゴの刻印を見ることができた。牛をモチーフにした、ポップで親しみやすいデザインだ

MOBILE CASE

携帯ケース

今や生活に欠かせないアイテムとなっている携帯電話。バッグやポケットに入れておくのも良いが、専用の携帯ケースを使えば、取り出しも簡単で腰回りのワンポイントにもなる。



今回は蓋の部分にヘビ革を挟んだが、もちろん挟まずに一枚革でも良い。ヘビ革を挟む分、外枠と立体的に見せるアンコが必要となる。サドルレースは約60cm程度の長さを2本、鹿ヒモは約40cmの細いヒモと太いヒモの2種類を用意しておく。本体と蓋、ベルトループは3.0mm厚、アンコと外枠は1.4mm厚のサドルレザーを使用している。ビーズの色や鹿ヒモの色を変えてもオリジナリティ溢れる仕上がりとなるだろう

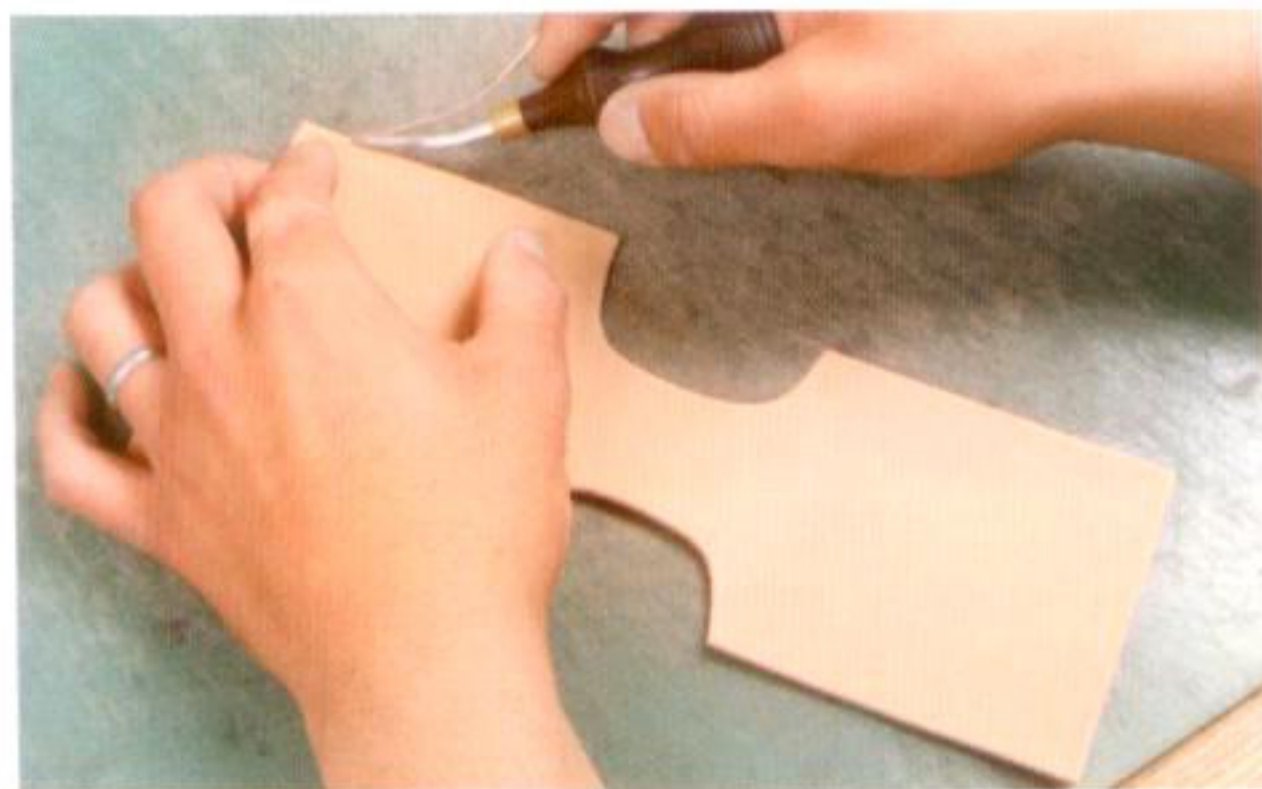
ヘビ革を使って個性を演出する

グランドゼロの携帯ケースは、蓋とボディの2ピース構造になっており、ボディはレースでかかるため、比較的短時間で作ることができる。ただし、今回はよりオリジナリティを演出するため、通常は一枚革である蓋にヘビ革を挟むことにした。そのため少々手間がかかるが、この技法は他のアイテ

ムにも応用できるため、知っておいて損はないだろう。ヘビ革を挟む外枠のサイズを蓋よりも少し小さくし、見た目に厚さを感じさせないようにするなどの細かな工夫もされており、作りがいがあるアイテムと言える。ボディのかかりはそれほど難しくないの、まずは蓋をしっかりと完成させよう。

下処理をする

パーツのヘリを落として磨いていく。この時点でかがり穴と縫い穴を空けるが、穴の位置と数を間違えないように。



- 1** ヘリ落としを使用して、全てのパーツのヘリを落とす。裏表全てのヘリを落とすこと

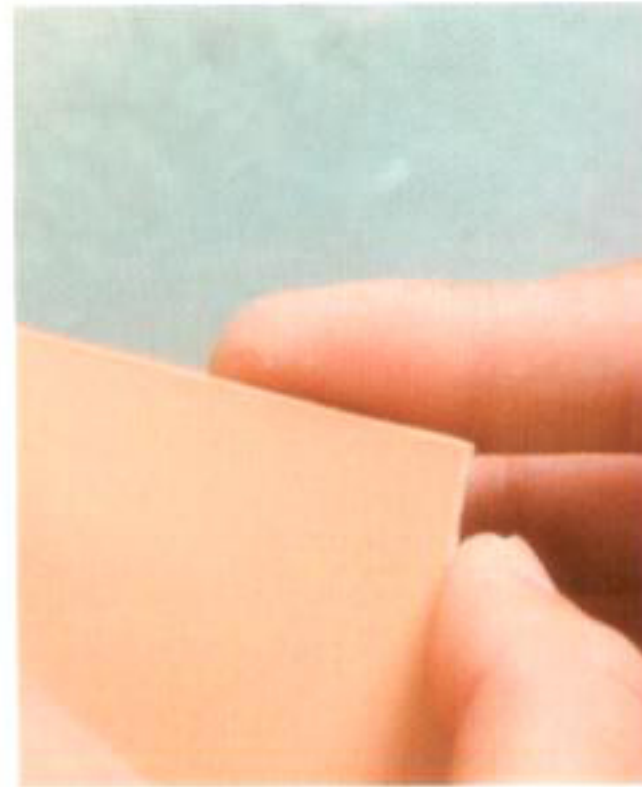
POINT



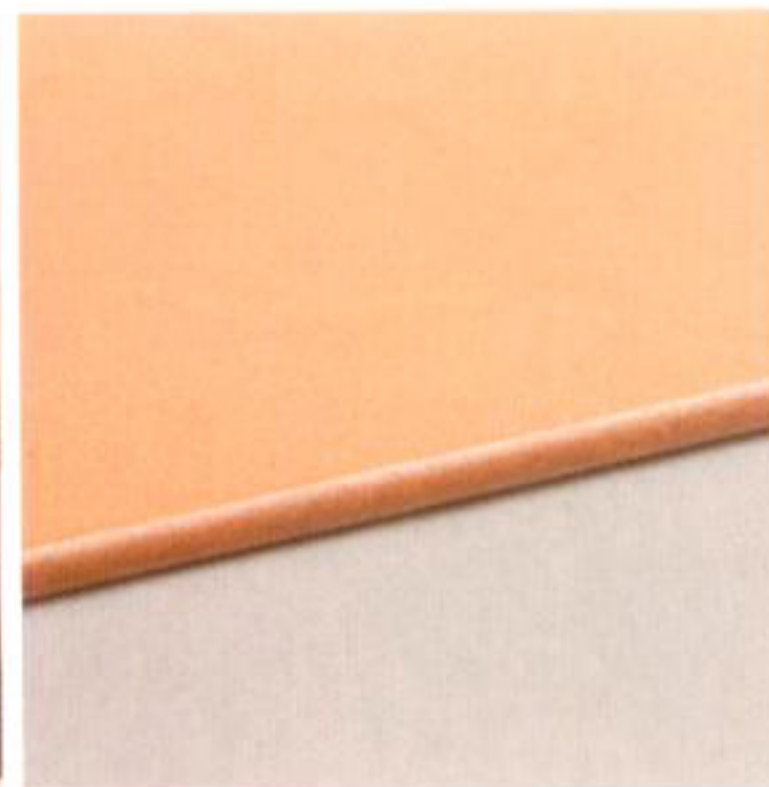
- 2** トコフィニッシュを付ける。指とパーツを逆方向に動かすと、きれいに付けることができる



- 3** トコフィニッシュを付けたら、乾燥させたヘチマと柔らかい布で磨く



- 4** 再びトコフィニッシュを付け、乾いたら200～300番台くらいの紙ヤスリでコバを整える

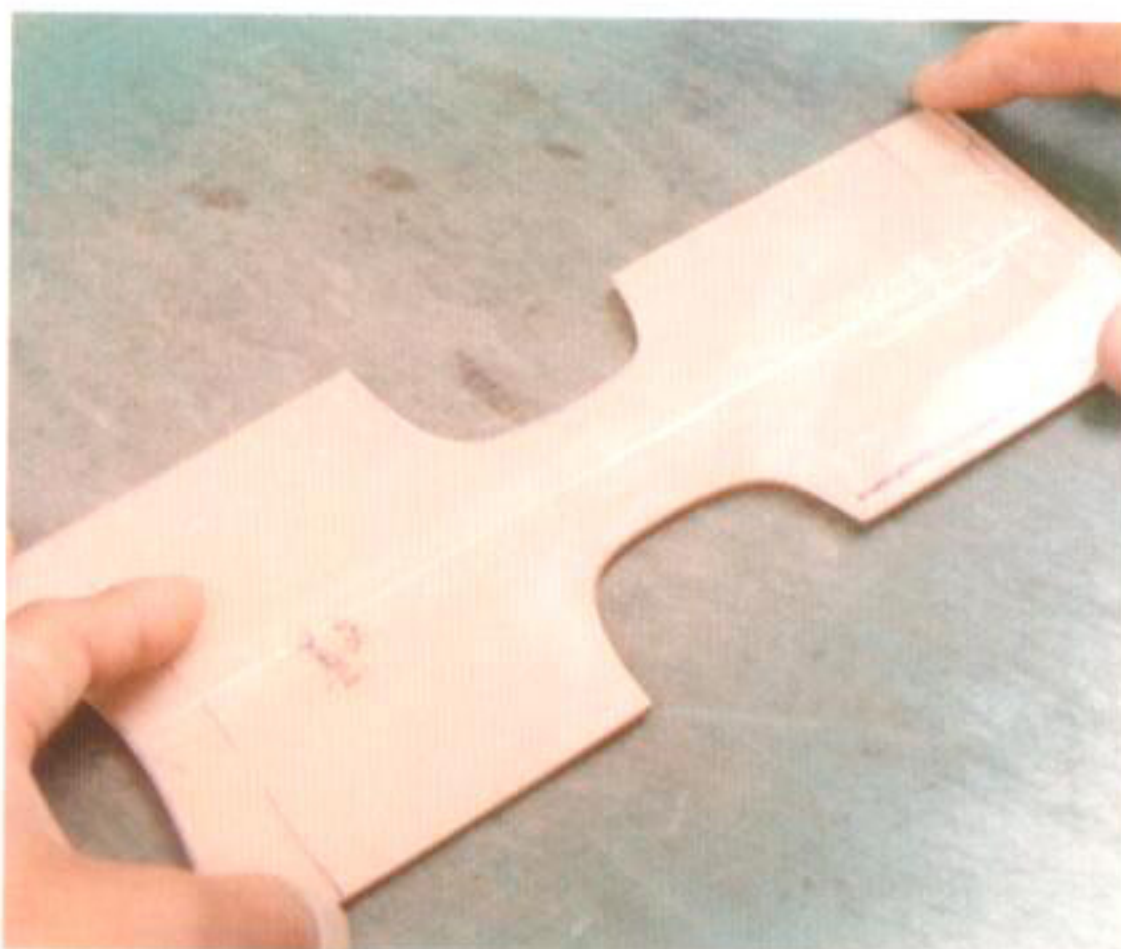


- 5** 今度は目の粗い布を使って磨く。グランドゼロでは、革の種類や厚み、状況によって磨く工程を変えている

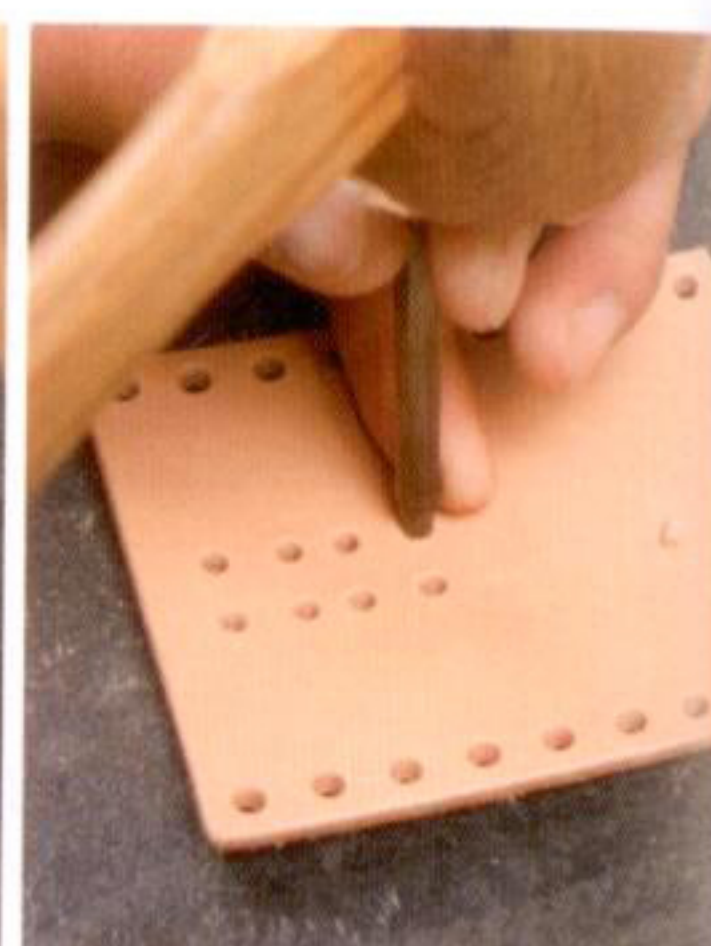
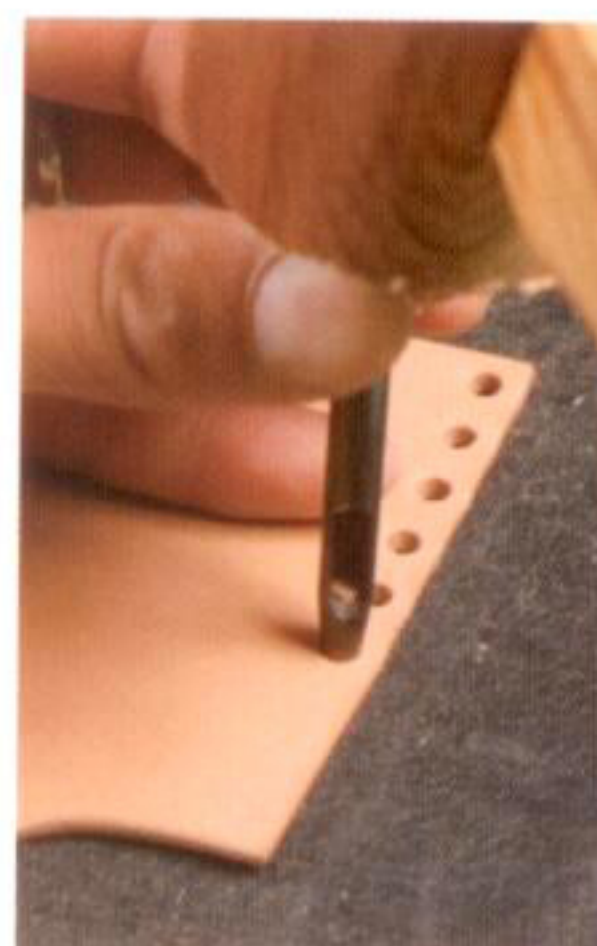


- 6** 2～5の工程を全てのパーツに行なう。丁寧な磨き作業が仕上がりのクオリティを高めるのだ

下処理をする



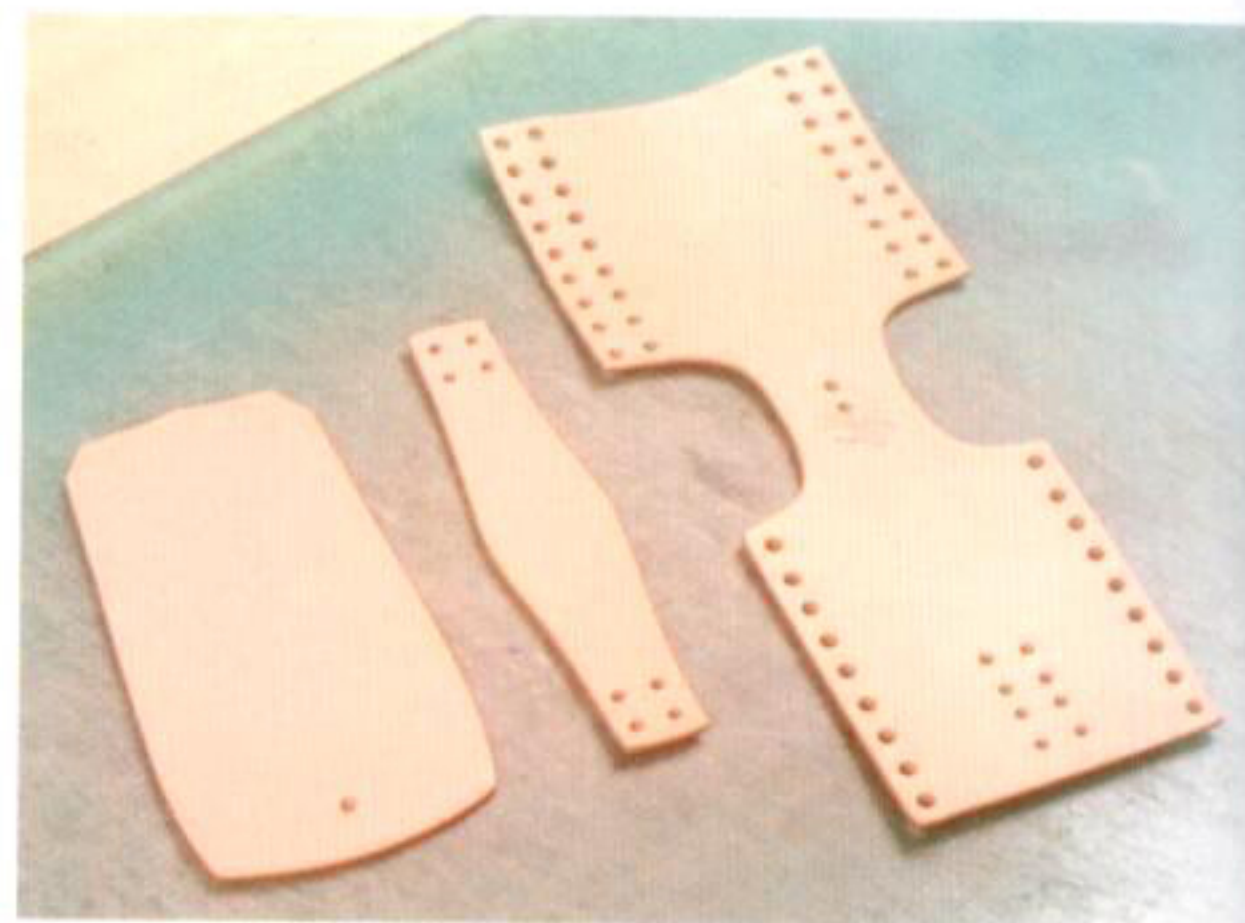
7 パーツの上に型紙を載せ、丸ギリでハトメ抜きを打つ位置に印を付ける



8 本体側面は12号(3.6mm)、ベルトループの穴は8号(2.4mm)、鹿ヒモを通す穴は10号(3.0mm)で空ける



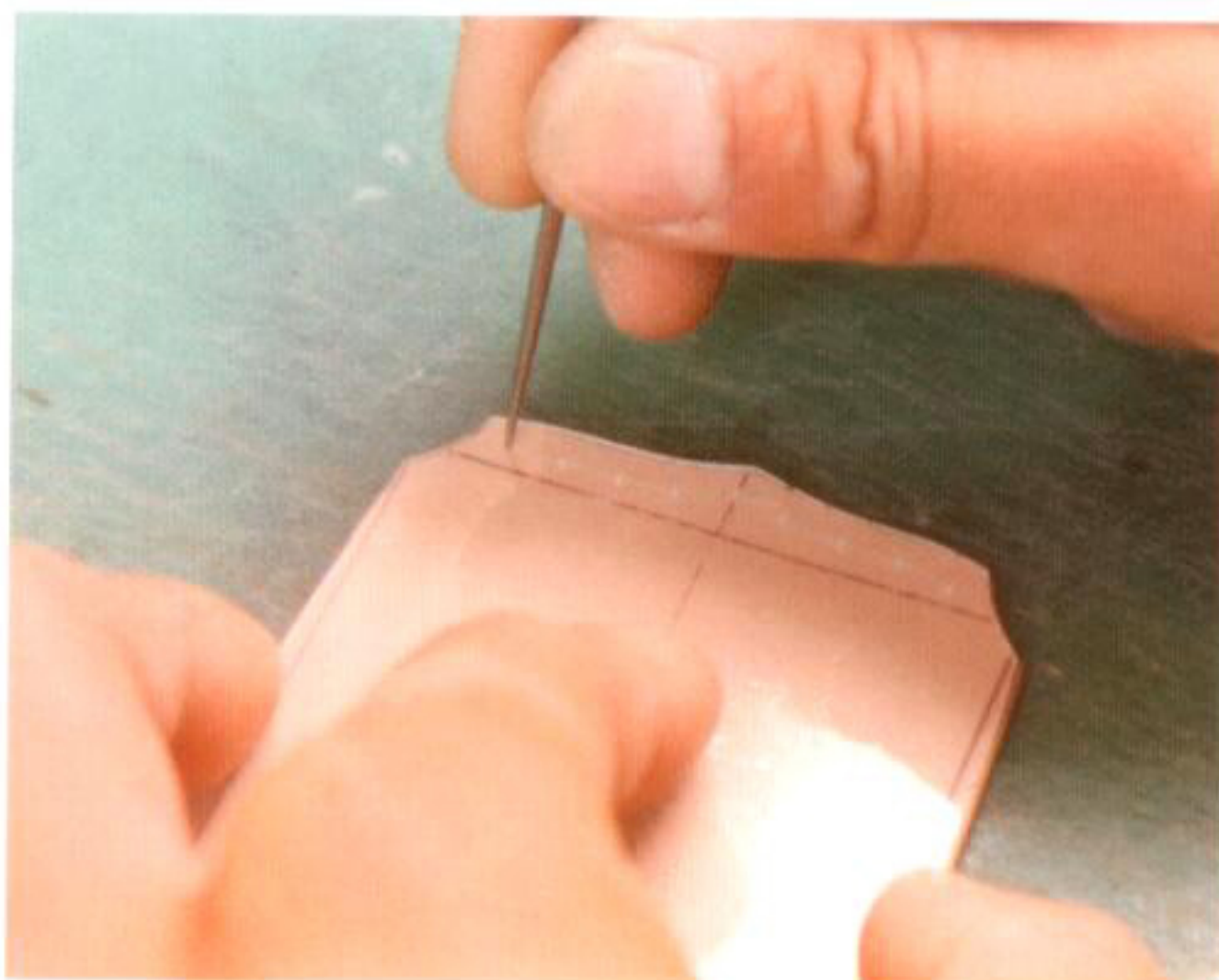
9 同じようにして、ベルトループの上下と蓋のコンチョ取り付け部分に8号(2.4mm)の穴を空ける



11 全ての穴を空けた状態。詳しい穴の位置とハトメ抜きの号数は、85ページの寸法図を参照

蓋の上に型紙を載せ、上から丸ギリで刺して縫い穴の位置に印を付ける。印を付けたら菱ギリでひとつずつ穴を空けていく。ここはヒシ目のラインが微妙にカーブしているので、菱ギリを使うと良い

12





- 13 蓋の型紙を本体にあてて丸ギリで印を付け、菱ギリで穴を開ける。本体と蓋は糸で縫って固定するため、蓋の型紙をあてて穴数と位置を合わせる。穴は端から3mm程度離し、蓋が本体のセンターに来るようにすること

蓋を作る

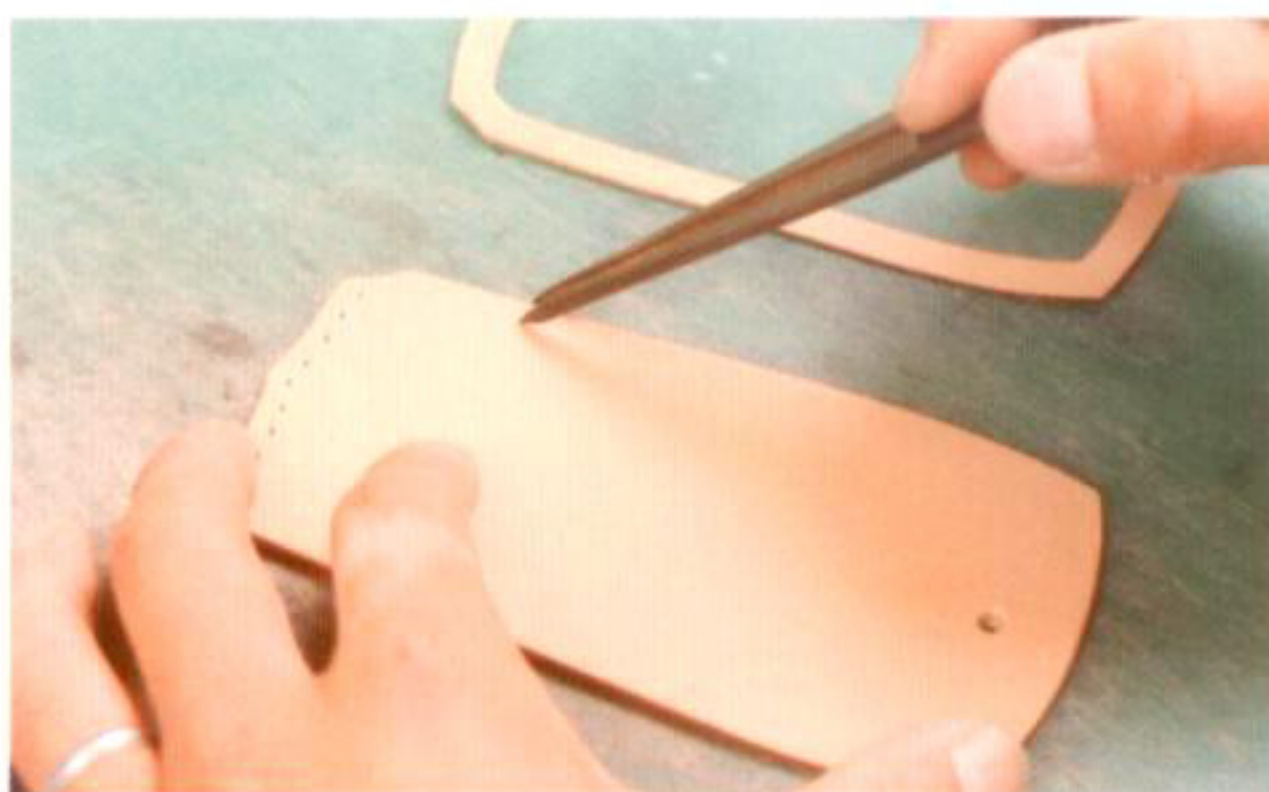
今回は蓋にヘビ革を挟んでアレンジする。少々複雑で作業工程も多くなるが、個性を出すにはもってこいの技法だ。



- 1 ドレッサーを使って、ヘビ革の裏側を毛羽立たせる。これは接着しやすくするための処理だ



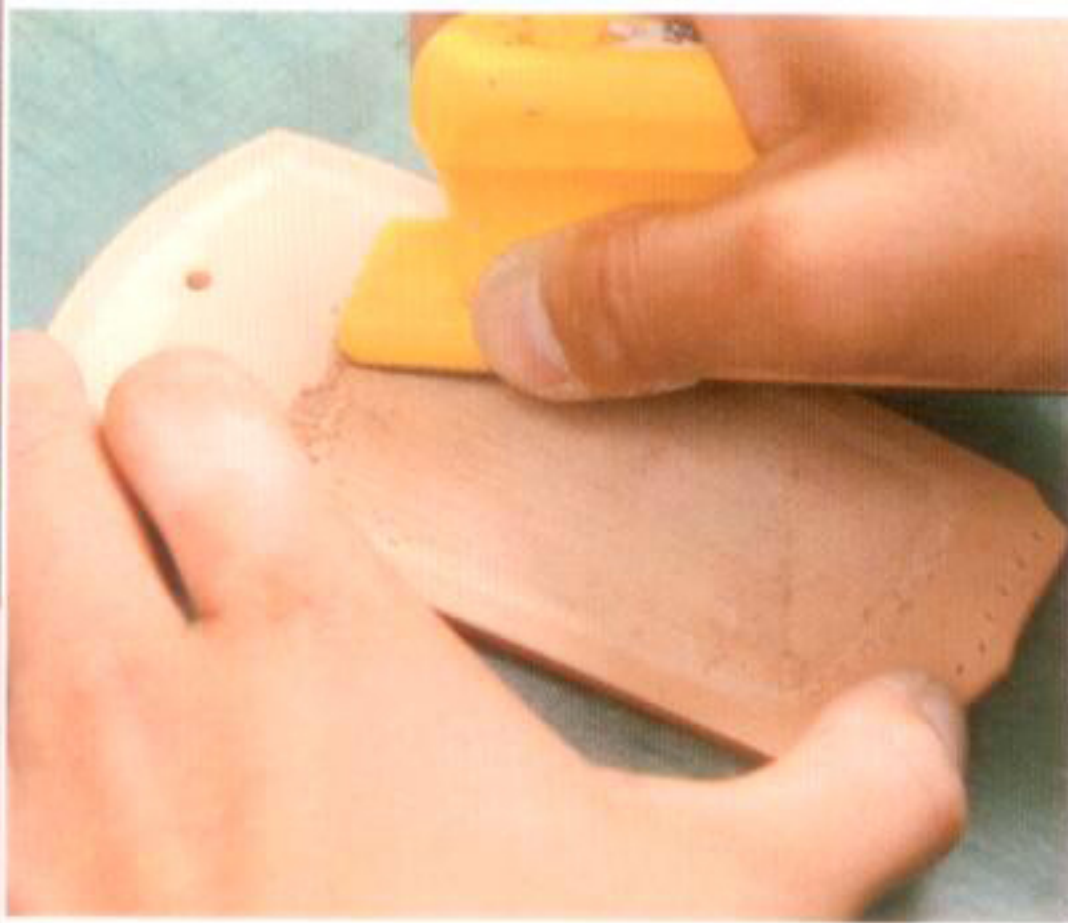
- 2 蓋の上に外枠を置き、丸ギリで内側のラインをけがく。ずれないように気を付けること



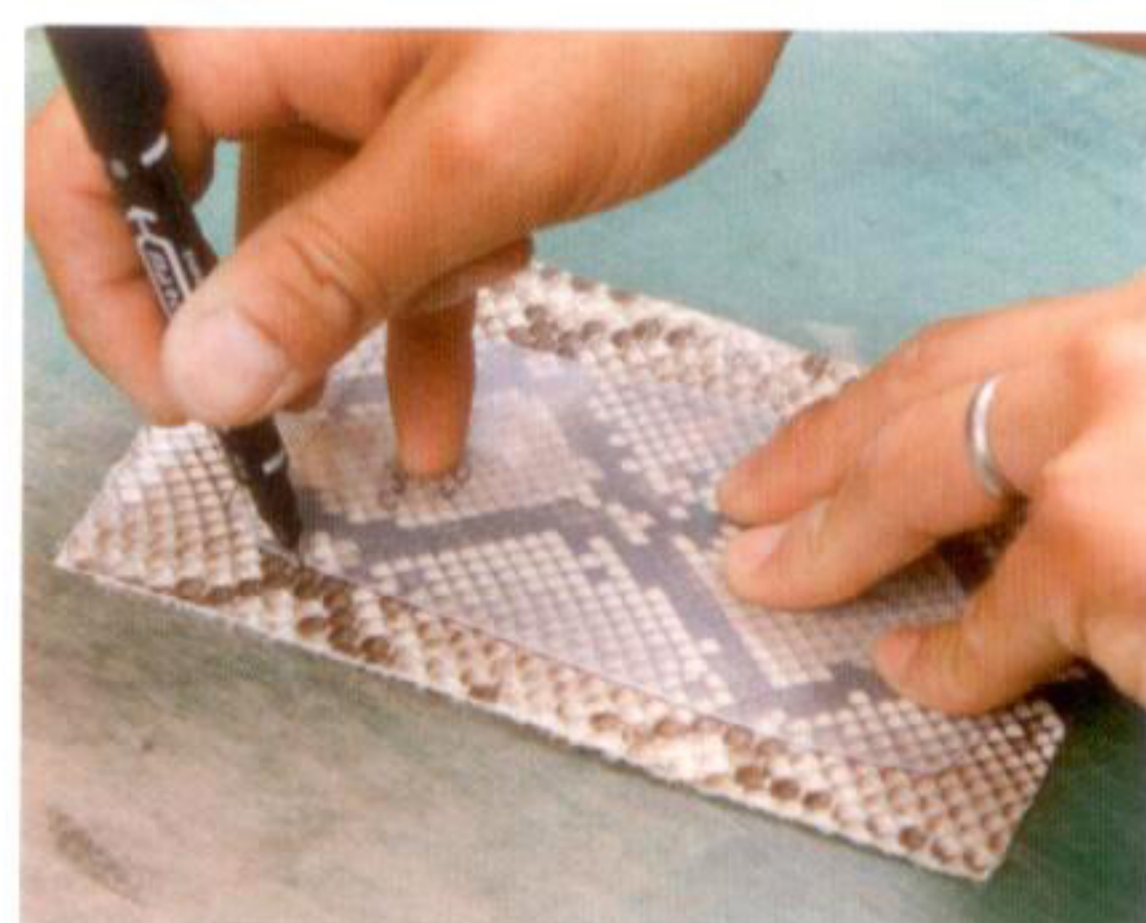
- 3 ディバイダーで3mm巾の線をけがく。上部は2で引いた線との巾が他と同じになるようにする



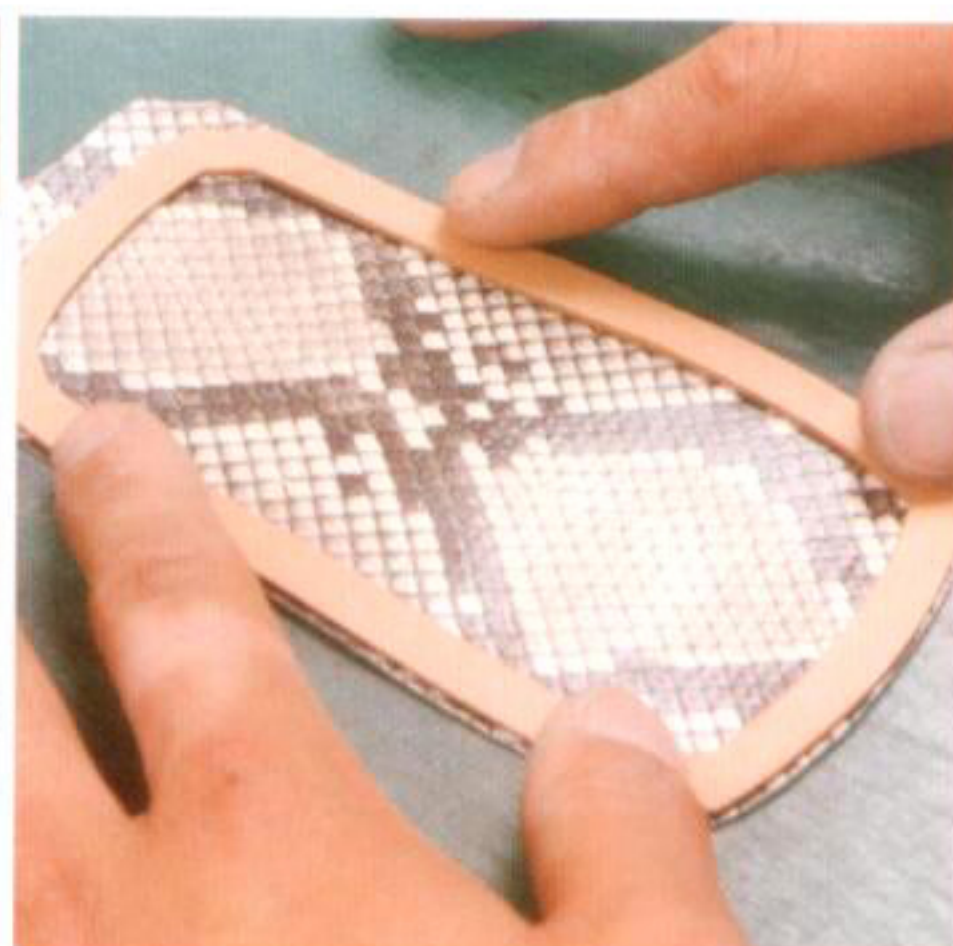
- 4 丸ギリとディバイダーでけがいた線の間を、1本目打ちなどを使って荒立たせる



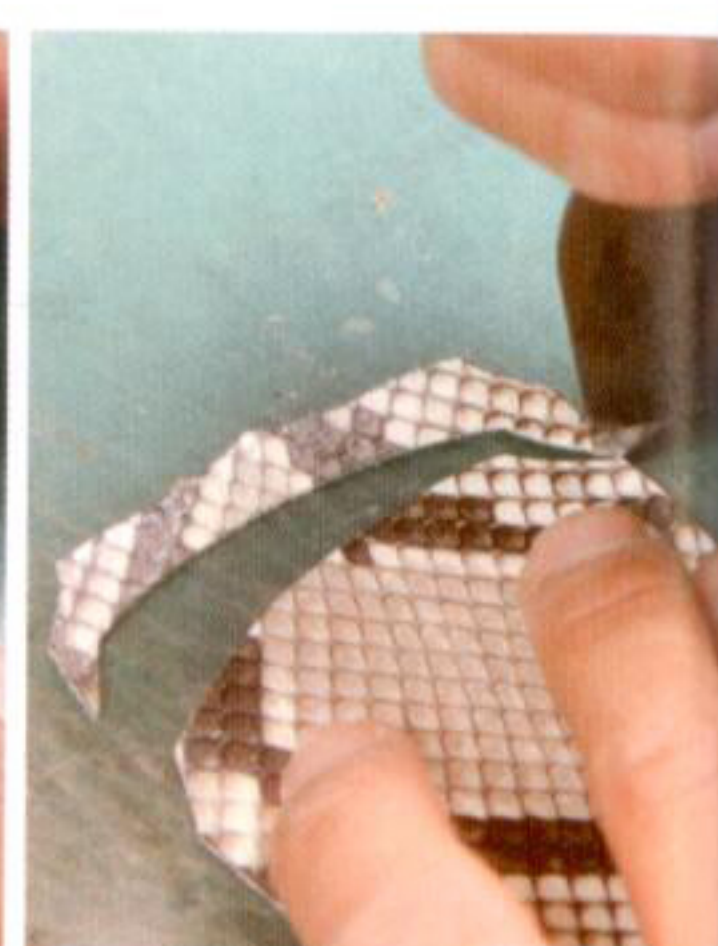
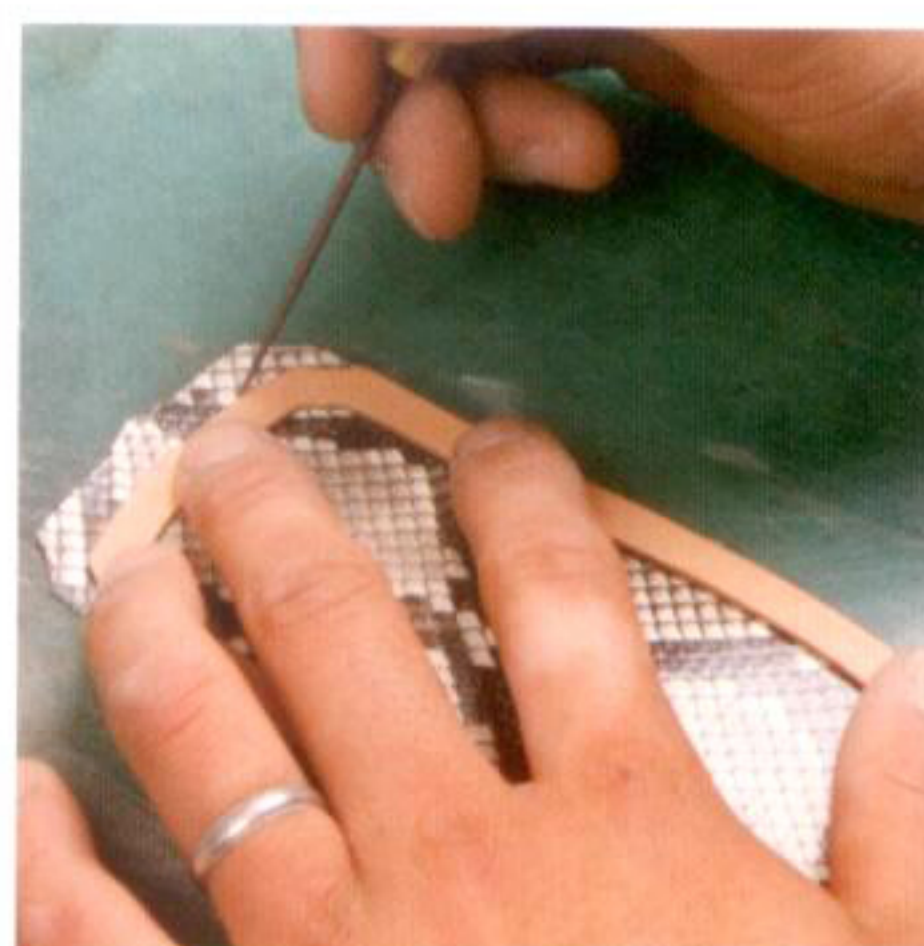
5 1本目打ちでけがいた線よりも内側をドレッサーで荒らし、その後にカッターの背を使ってしっかりと荒らす。アンコは全面荒らすこと



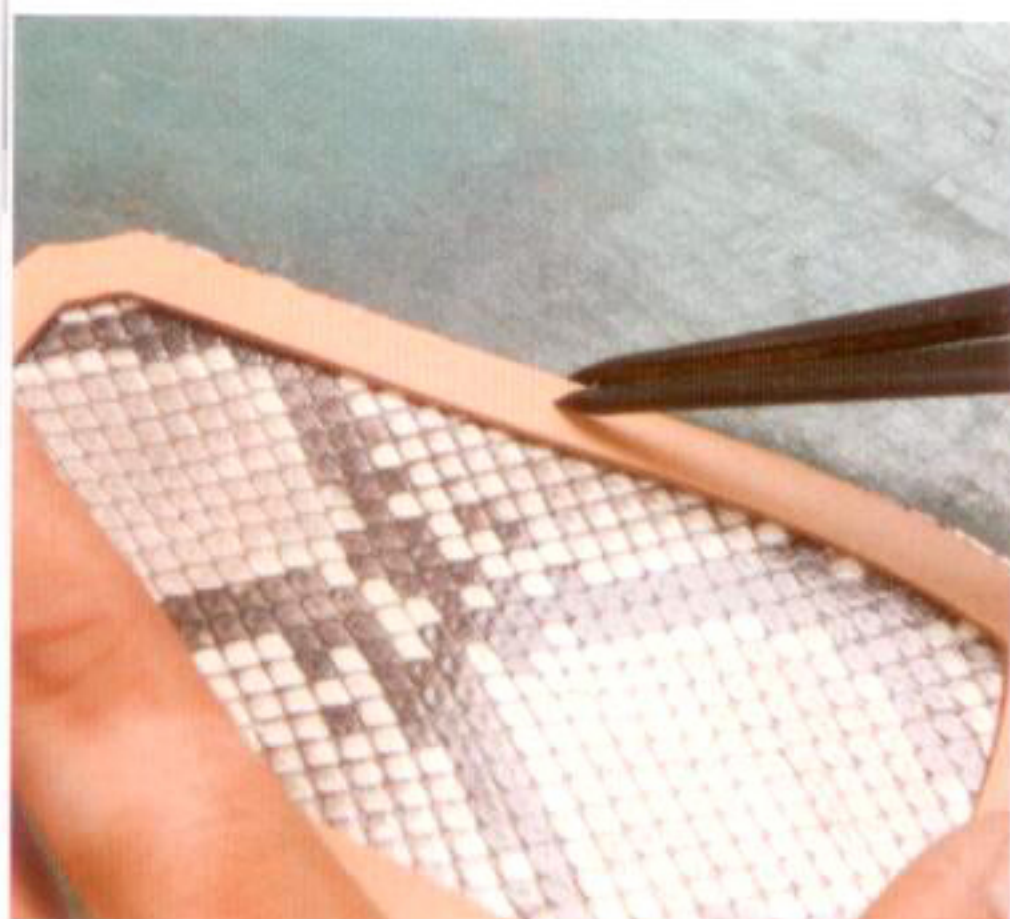
6 ヘビ革に蓋の型紙をあて、マジックで外枠をマーキングする。模様の位置に気を配ると良い



7 革包丁でヘビ革をカットし、外枠をあててサイズと位置をチェックする



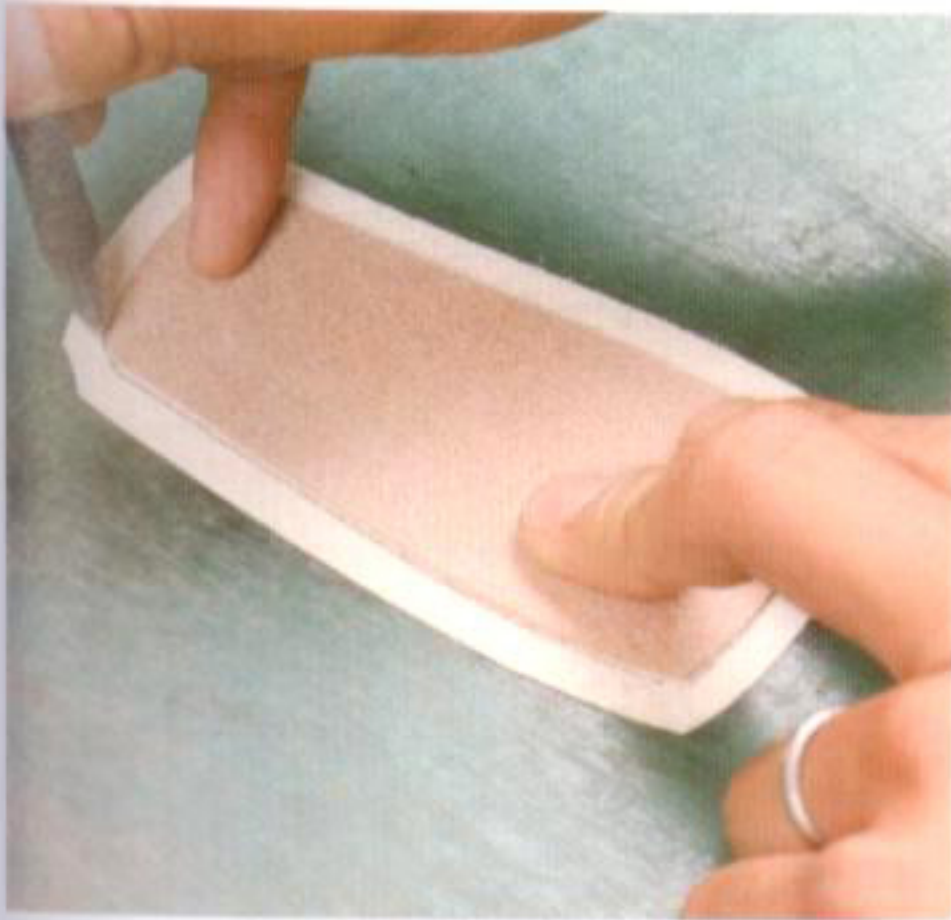
8 蓋の型紙をあててカットしたため、はみ出した部分は丸ギリでけがいて印を付け、革包丁で切り取る



9 ディバイダーの巾を外枠の中央(約4mm)に合わせ、その巾でヘビ革の外周に線をけがく



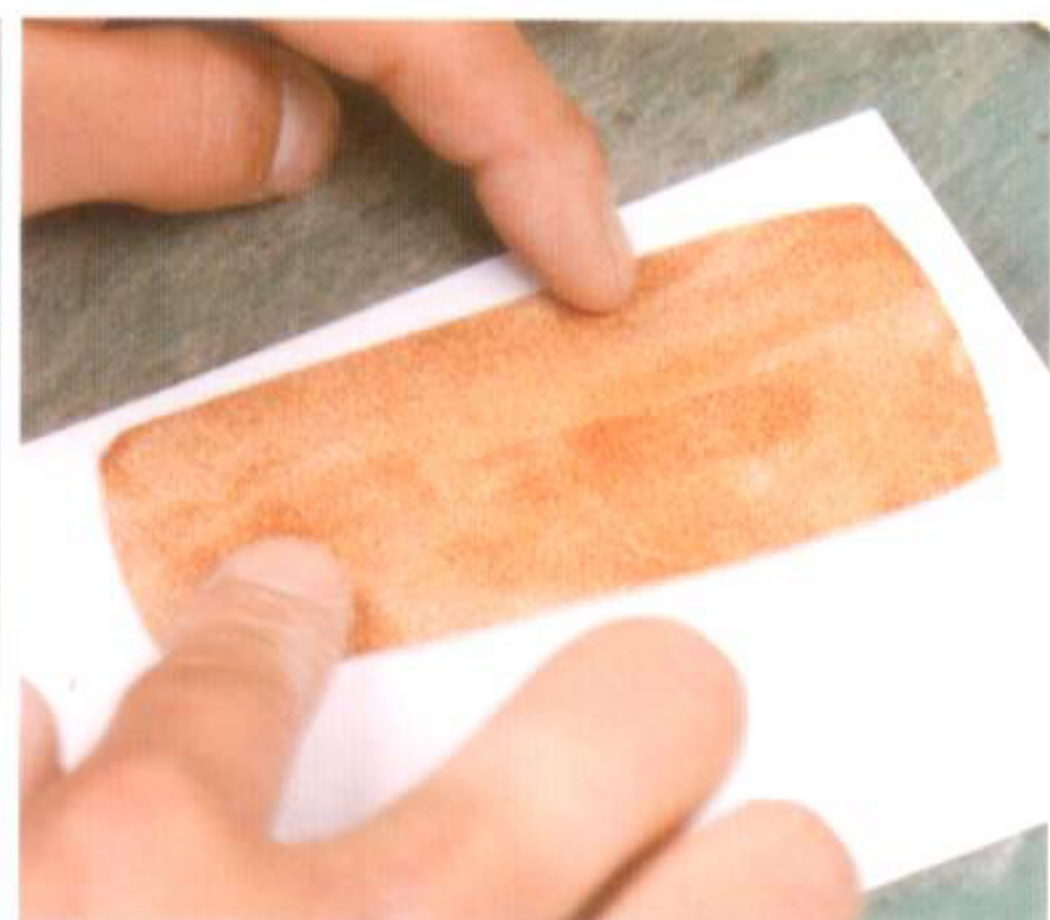
10 けがいた線に沿って革包丁でカットし、ヘビ革をひとまわり小さくする



11 カットしたヘビ革の裏にアンコをあて、ボールペンなどで外周のラインを書く



12 ボールペンで書いたラインの内側とアンコの表面に、接着剤を塗る



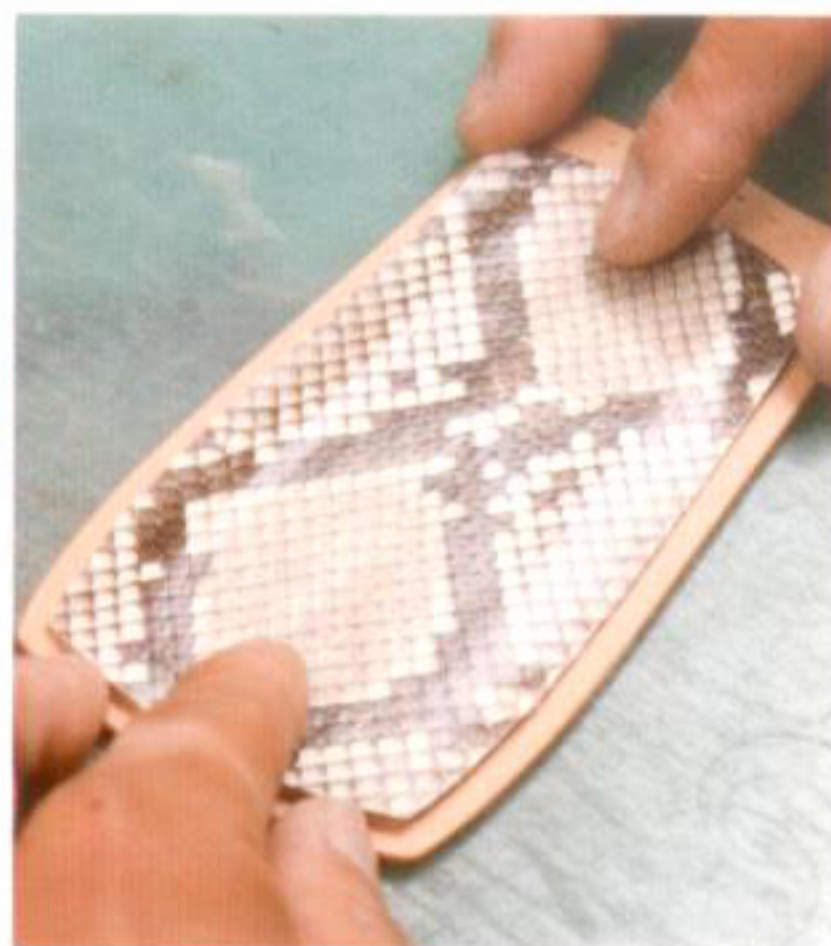
13 アンコをヘビ革に貼り付け、アンコの裏側にも接着剤を塗る



14 剥がれやすいようにビニール袋を敷き、ヘビ革を上にしてウッドスリッカー等で擦って圧着する



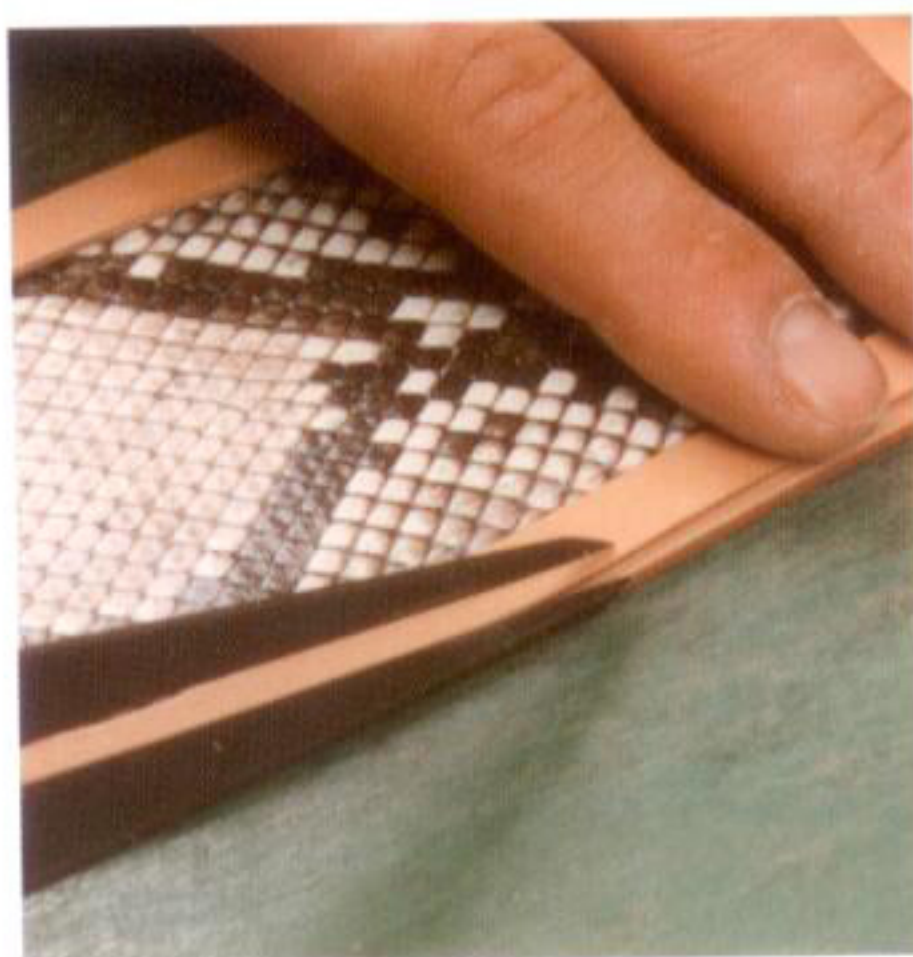
15 蓋のけがいた部分に接着剤を塗り、蓋とヘビ革を貼り合わせる。左右と下の巾が同じになるようにすること



16 ウッドスリッカーでアンコのヘリを擦って凹凸を出す。最後はゴムハンマーでしっかりと圧着する



蓋を作る



17 外枠を載せ、蓋の外側から2mm程の位置にディバイダーを合わせ、その巾で蓋に線をけがいていく



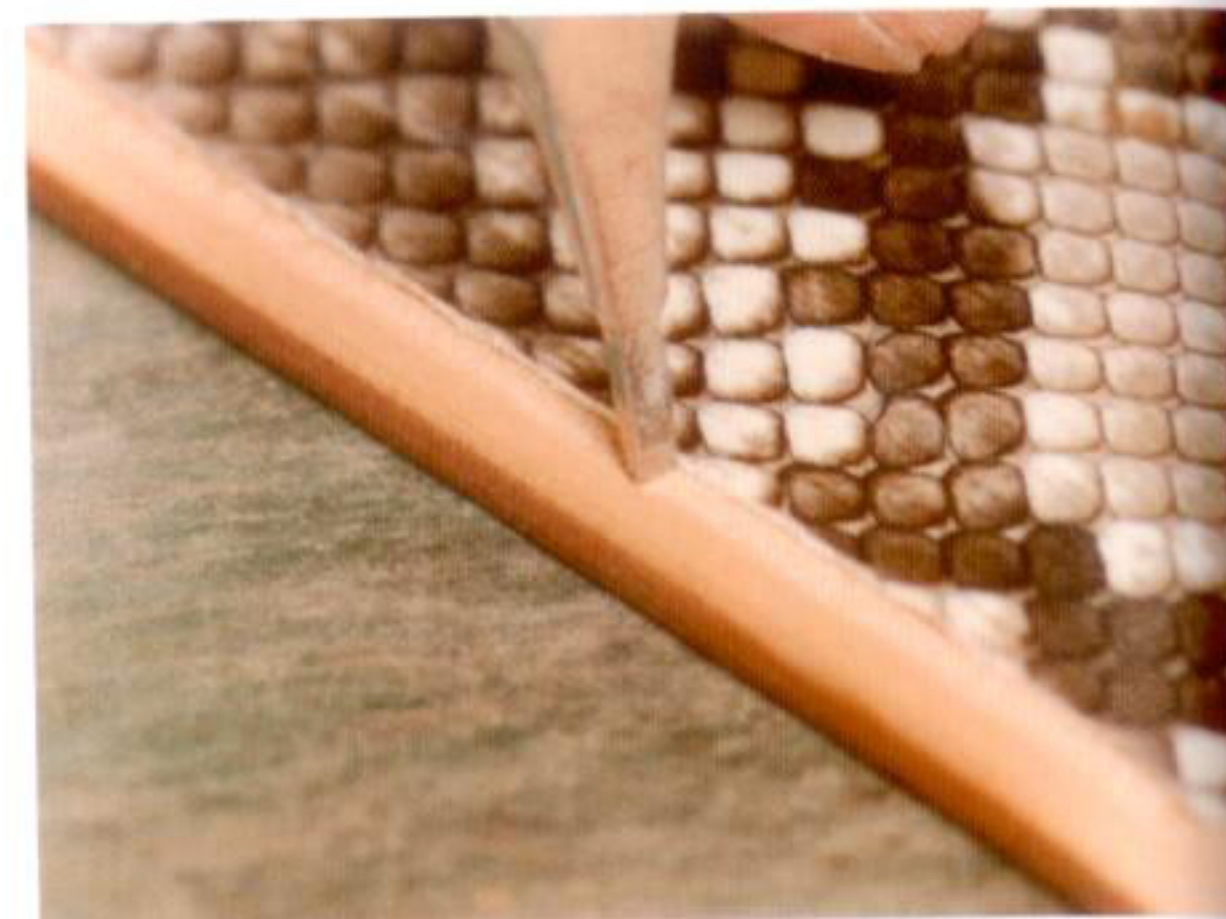
POINT



18 ヘビ革の接着位置が多少ずれても、けがいた銀面よりも外側にはみ出た革は接着されない



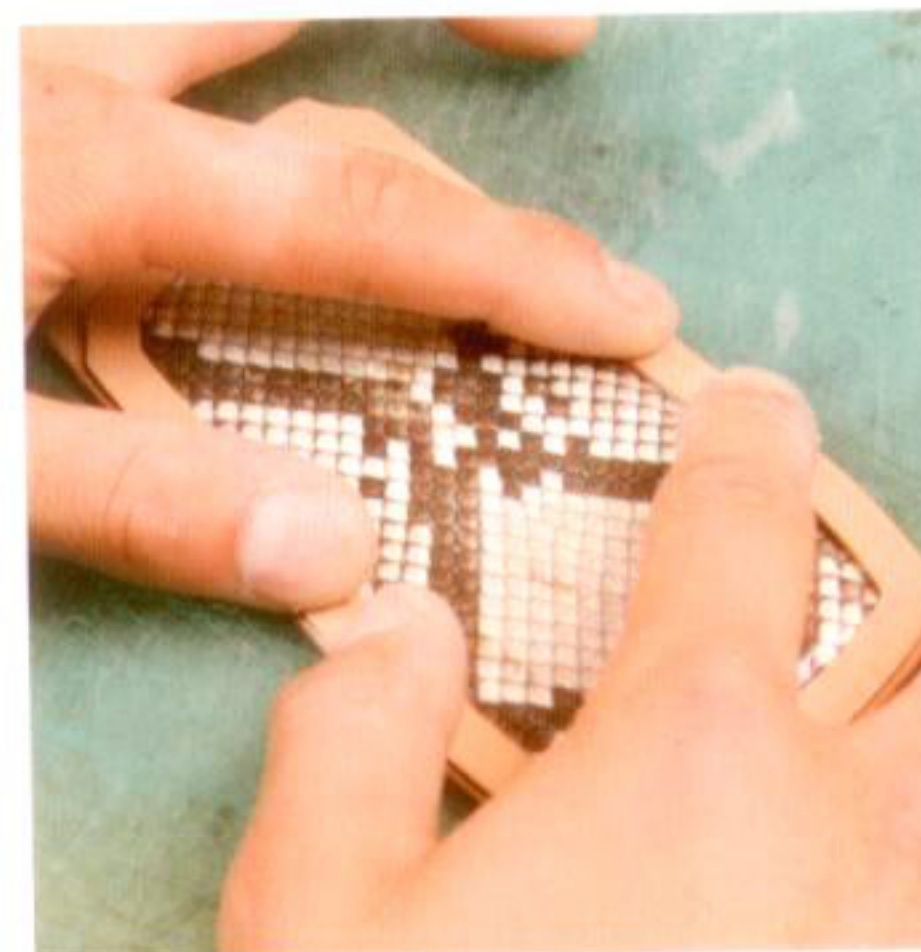
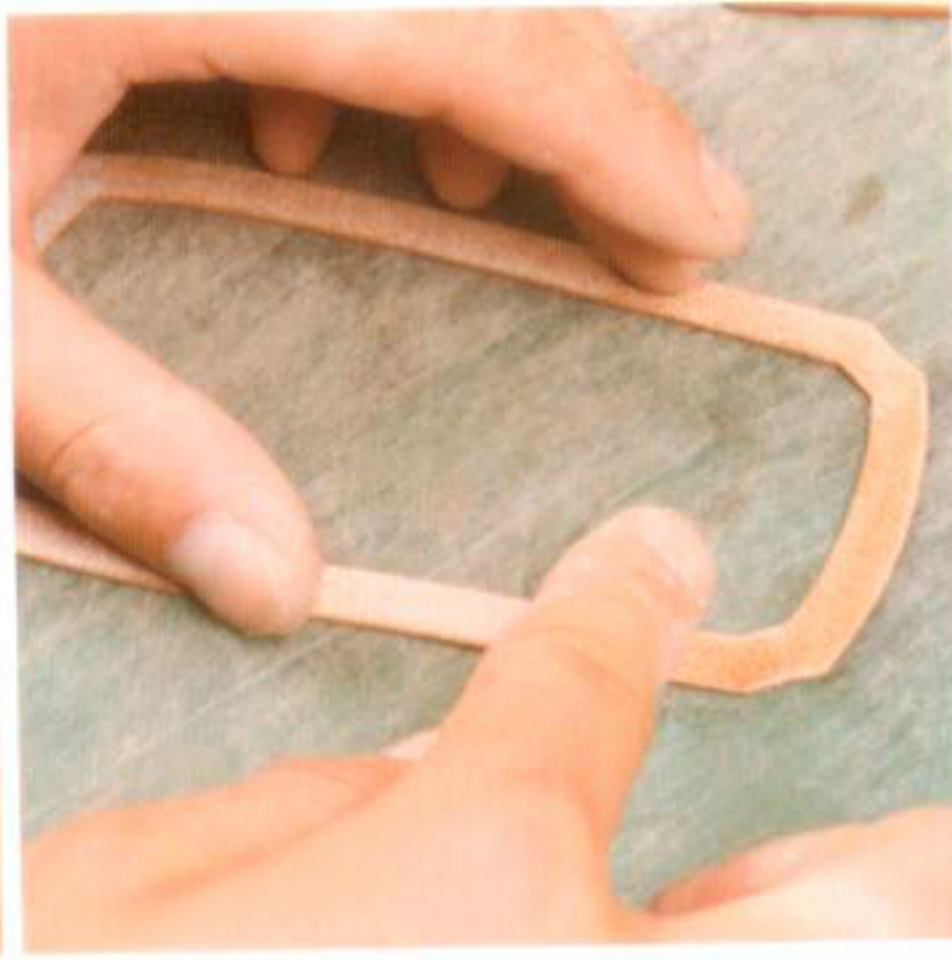
19 接着されていないヘビ革の下にステンレス製の定規を挟み、カッターでカットする



20 ヘビ革の外側を2mm巾でけがく。グランドゼロでは目打ちを加工し、道具として使っている



21 けがいた部分と外枠の裏側に接着剤(ここではゴムのりを使用)を塗る

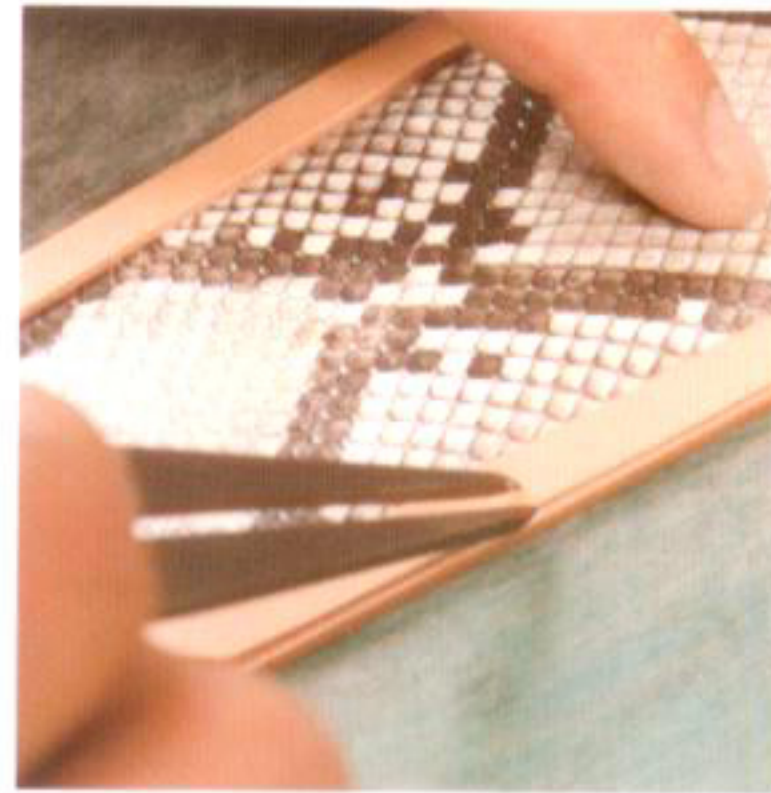


22 蓋に外枠を貼り付ける。柔らかい革の端切れをあてながら、指でしっかりと圧着していく

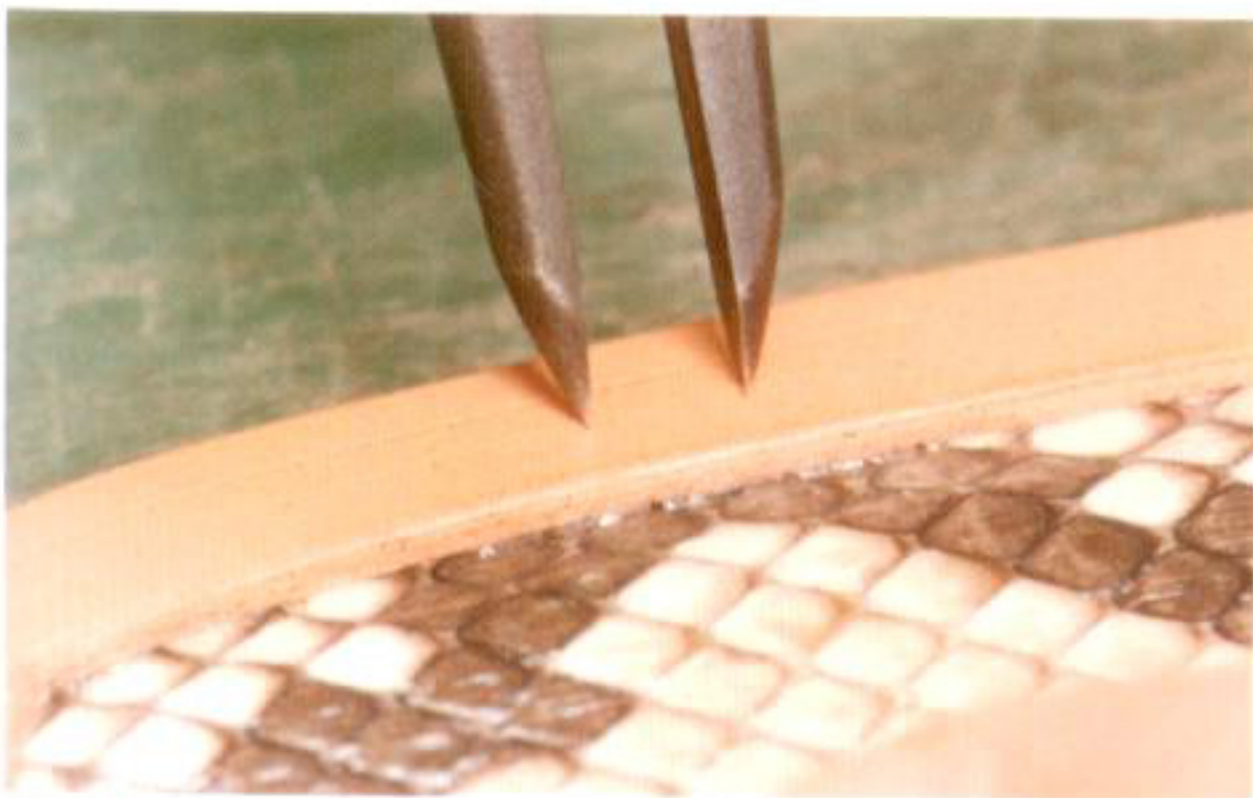
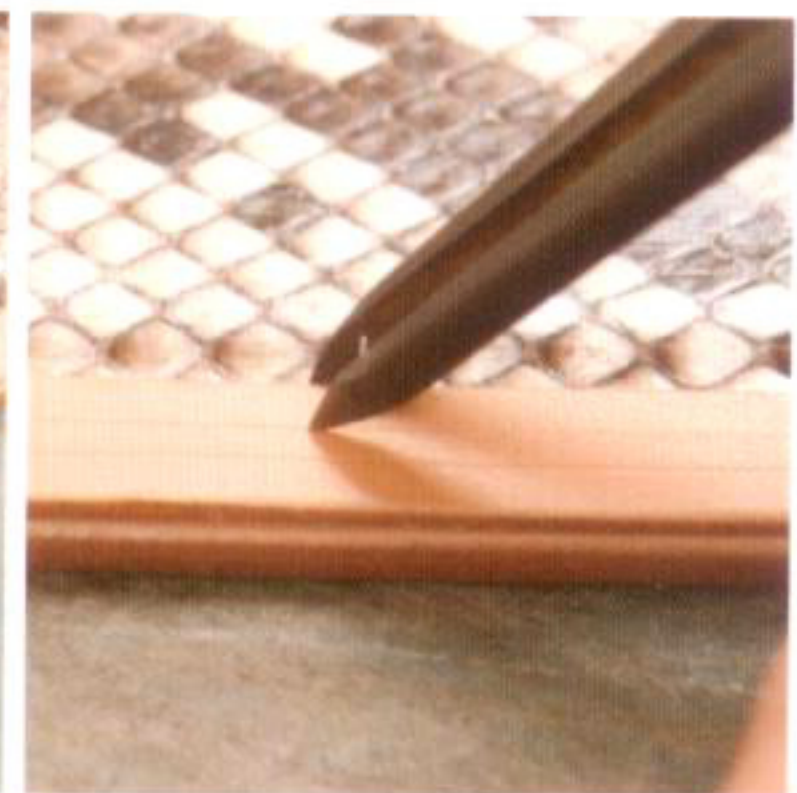




23 ラブラブクリーナー(ゴムのりの固まりでもOK)で側面を擦り、はみ出たゴムのりを取り除く



24 外枠にディバイダーで3.5mm巾の線を引く。外側から3.5mm、内側から3.5mmの合計2本の線を引く



25 ディバイダーでヒシ目打ちを打つ位置に跡を付ける。好みによりヒシ目打ちを使用しても良い



26 ディバイダーで跡を付けたら、菱ギリで穴を空けていく。穴を空け終わったら、針と糸を外周と内周の2セット分用意する



縫い合わせる

糸で縫う部分は、ヘビ革を挟む外枠と蓋と本体の接合部分のみ。ナイロン糸はシニューと同様に溶かして留める。



1 最後の3目分を二重に縫うため、縫い目がきれいになるように、センターよりひとつ手前から縫い始める



POINT

2 糸を締めるときは、2つ前の締め具合に合わせて、均等に締め込んでいくことができる

縫い合わせる



3 一周したらそのまま3目分縫い進む。2目よりも3目の方が見た目のバランスが良くなるためだ

4 3目縫い進んだら両方の糸を裏から出し、2~3mm程度残してカットする。糸はライターで溶かして留める

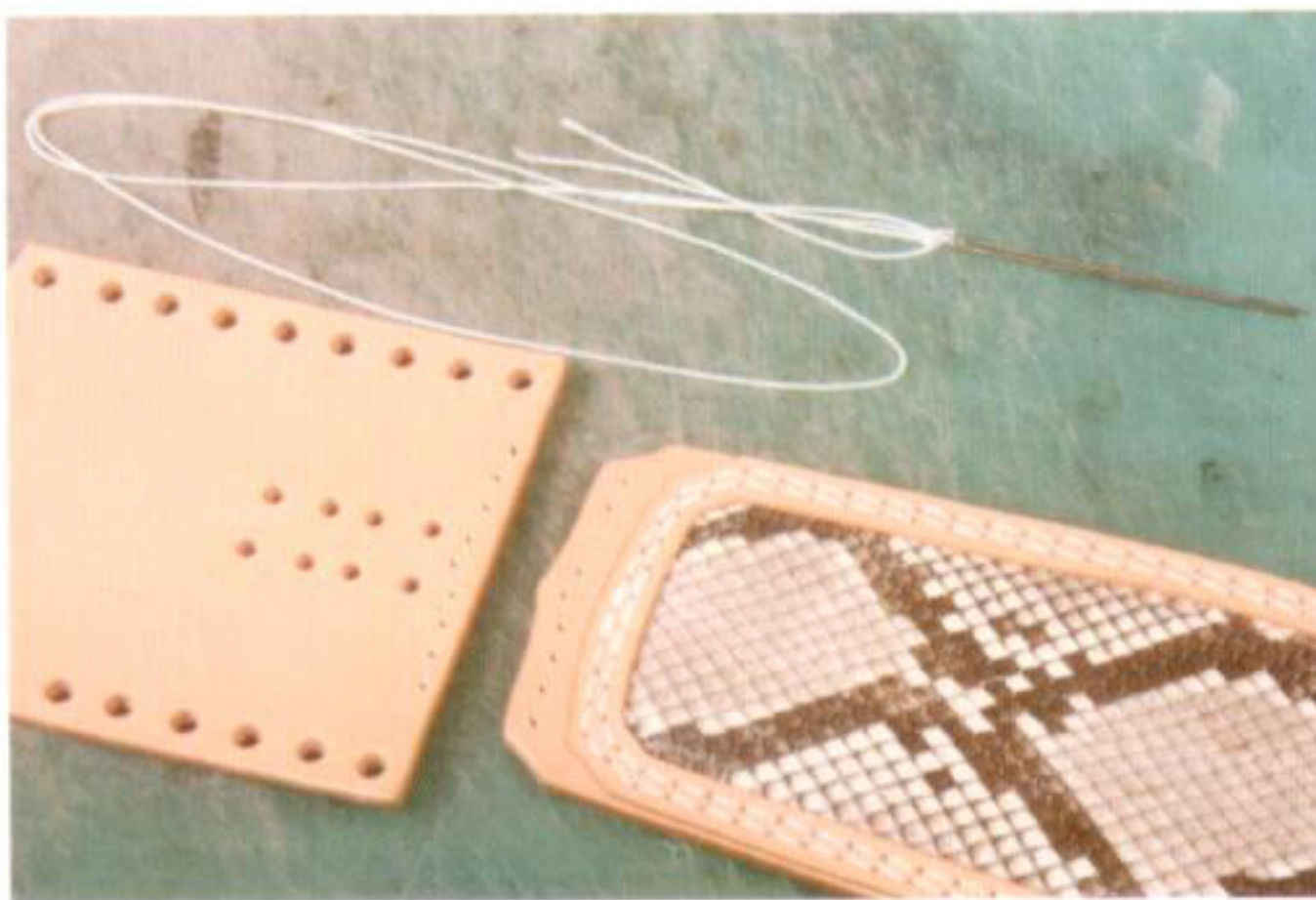


5 続いて外周を縫っていく。縫い進めた内周の3目分を跨ぎ、2目分が二重になるように縫うと仕上がりがきれいになる

6 最後は内周と同じように、糸を裏側でカットし、ライターで溶かして留める



7 傷が付かないようにビニールを被せ、ゴムハンマーで糸を沈める



8 続いて本体と蓋を縫い合わせていく。針と糸を用意し、一番端から糸を通していく。レーシングボニーなどを使用する場合は、穴位置を合わせて挟む



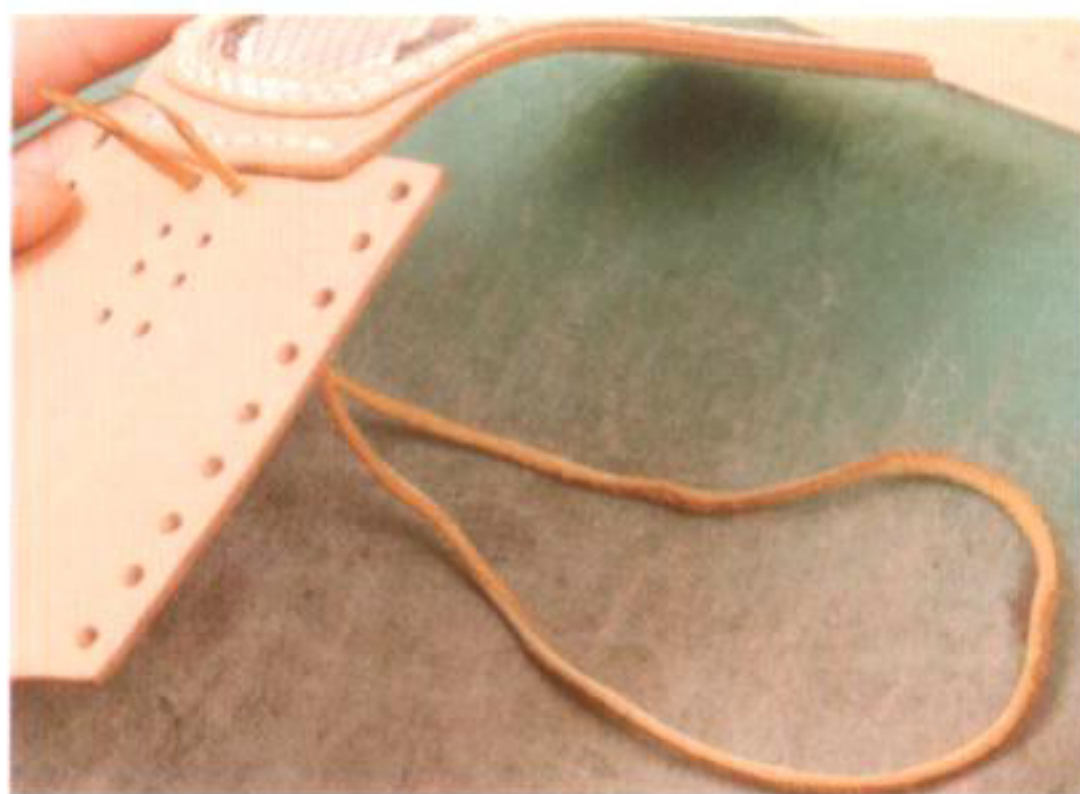
9 最初の2目は二重になるように縫い、その後は普通の平縫いで進めていく。最後ははじめと対称になるように、2目分縫い戻る。糸の始末は蓋と同じように、糸をカットしたらライターで溶かして留める

本体をかがり合わせる

本体とベルトループをかがっていく。本体が閉じてきたら、ラジオペンチなどを使って穴にレースを通すと良い。



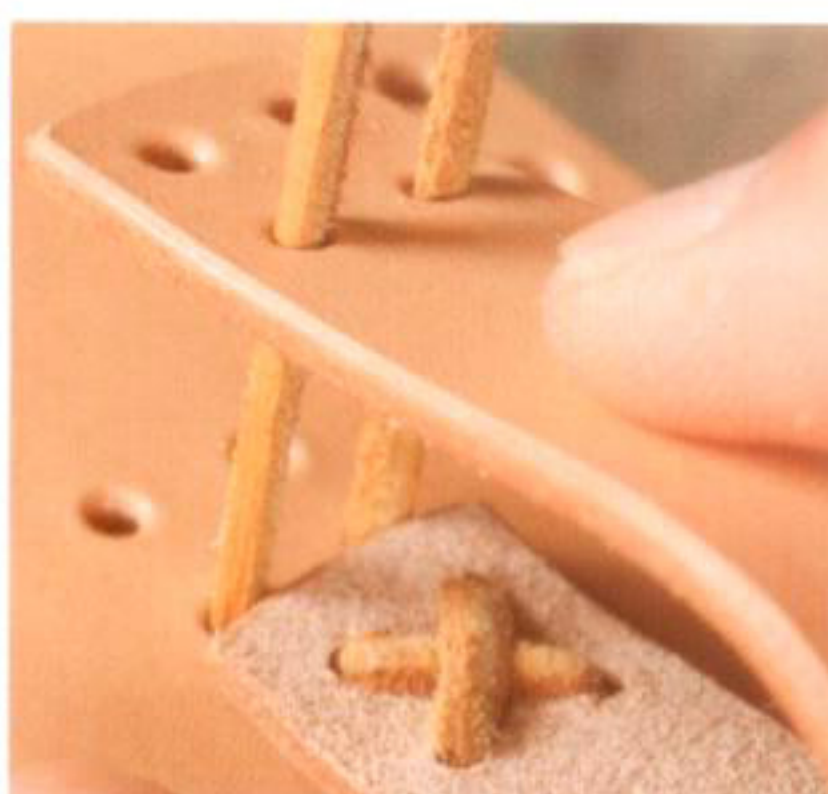
1 鹿ヒモ(細)は斜めにカットして鋭角にし、指でよじって先端を細くする



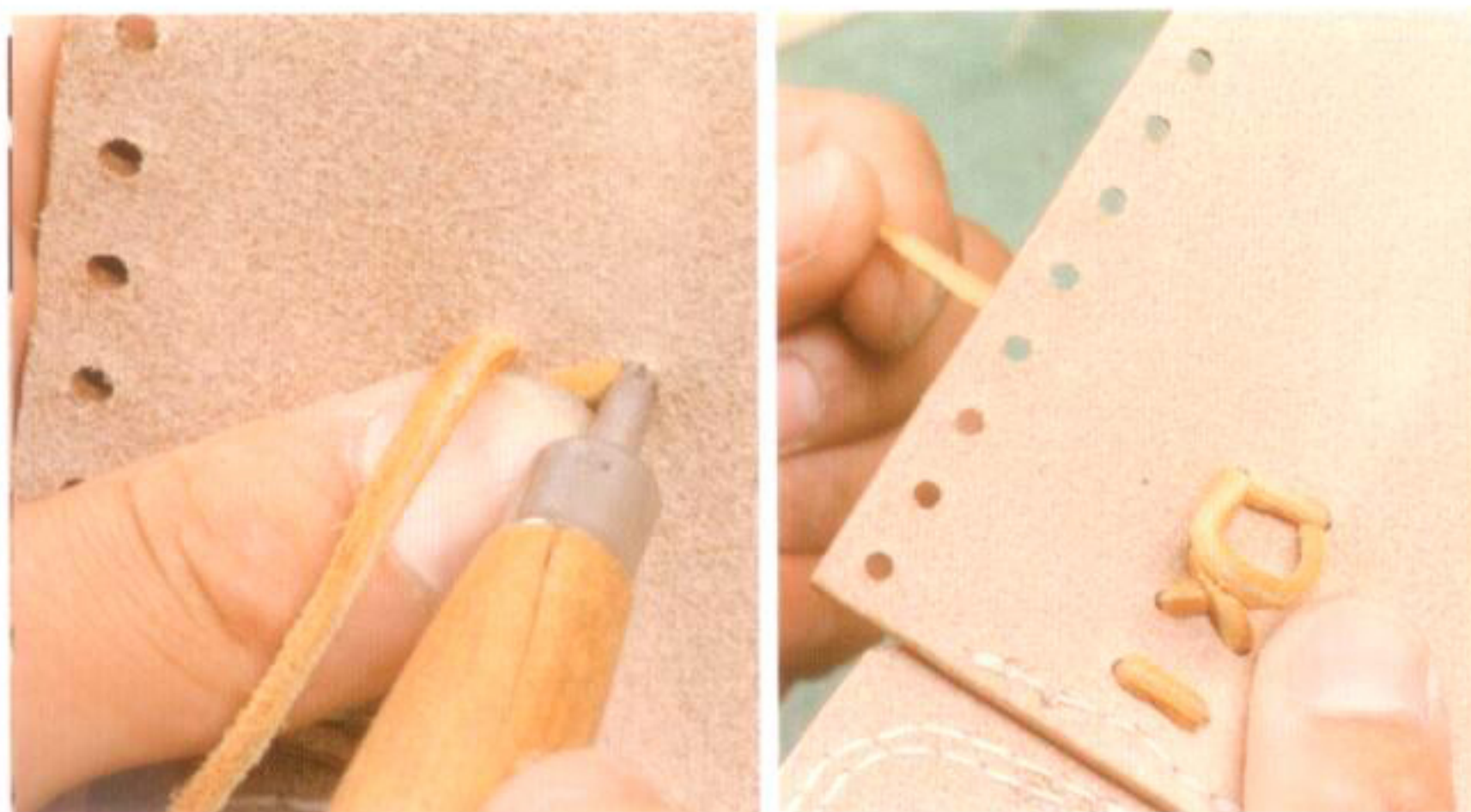
2 本体の内側から鹿ヒモ(細)を通し、左右均等な長さに引き出してベルトループの上の穴に通す



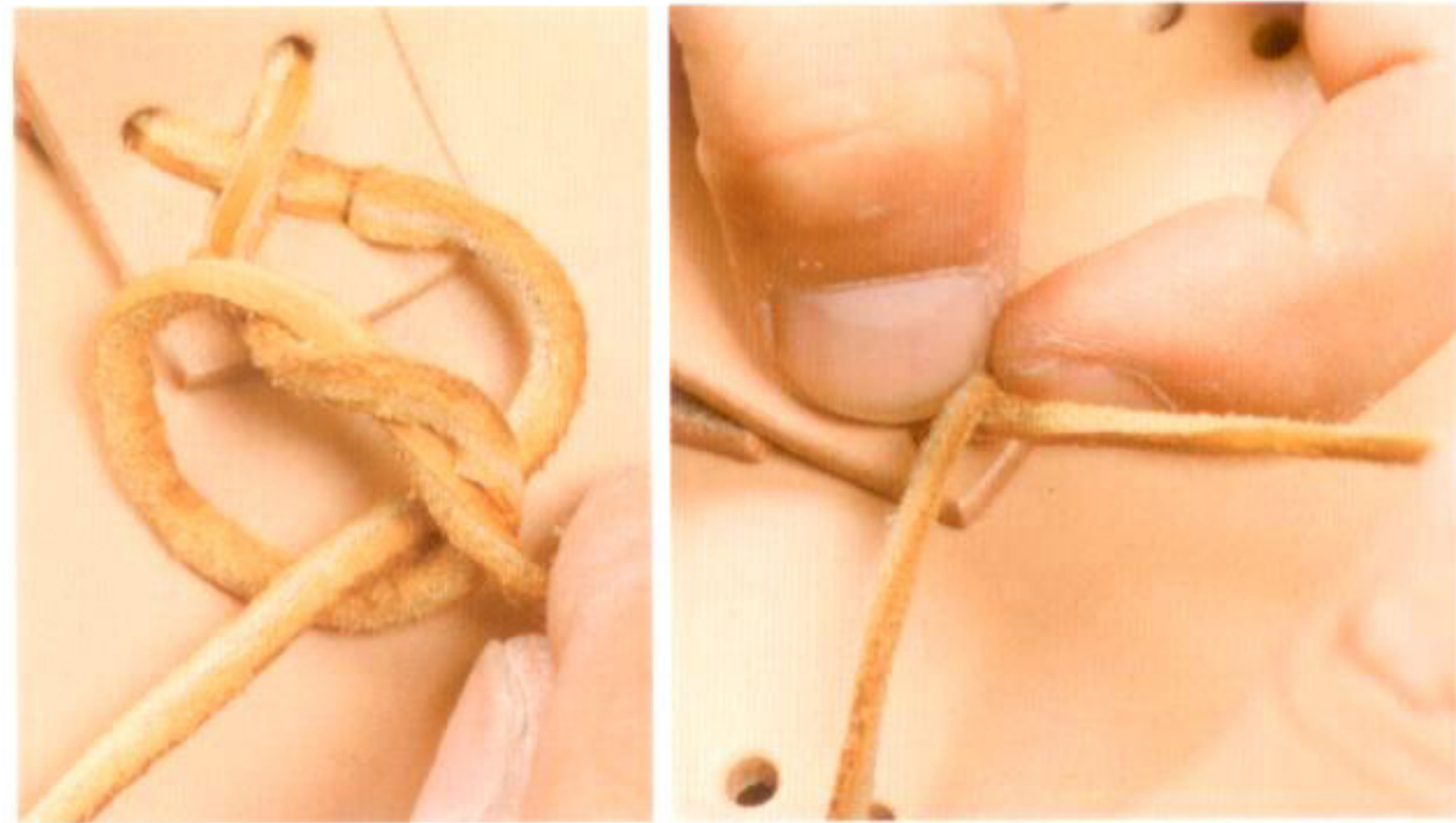
3 鹿ヒモ(細)をクロスさせて下の穴に通し、再び内側から鹿ヒモを出してベルトループの下側の穴に通す



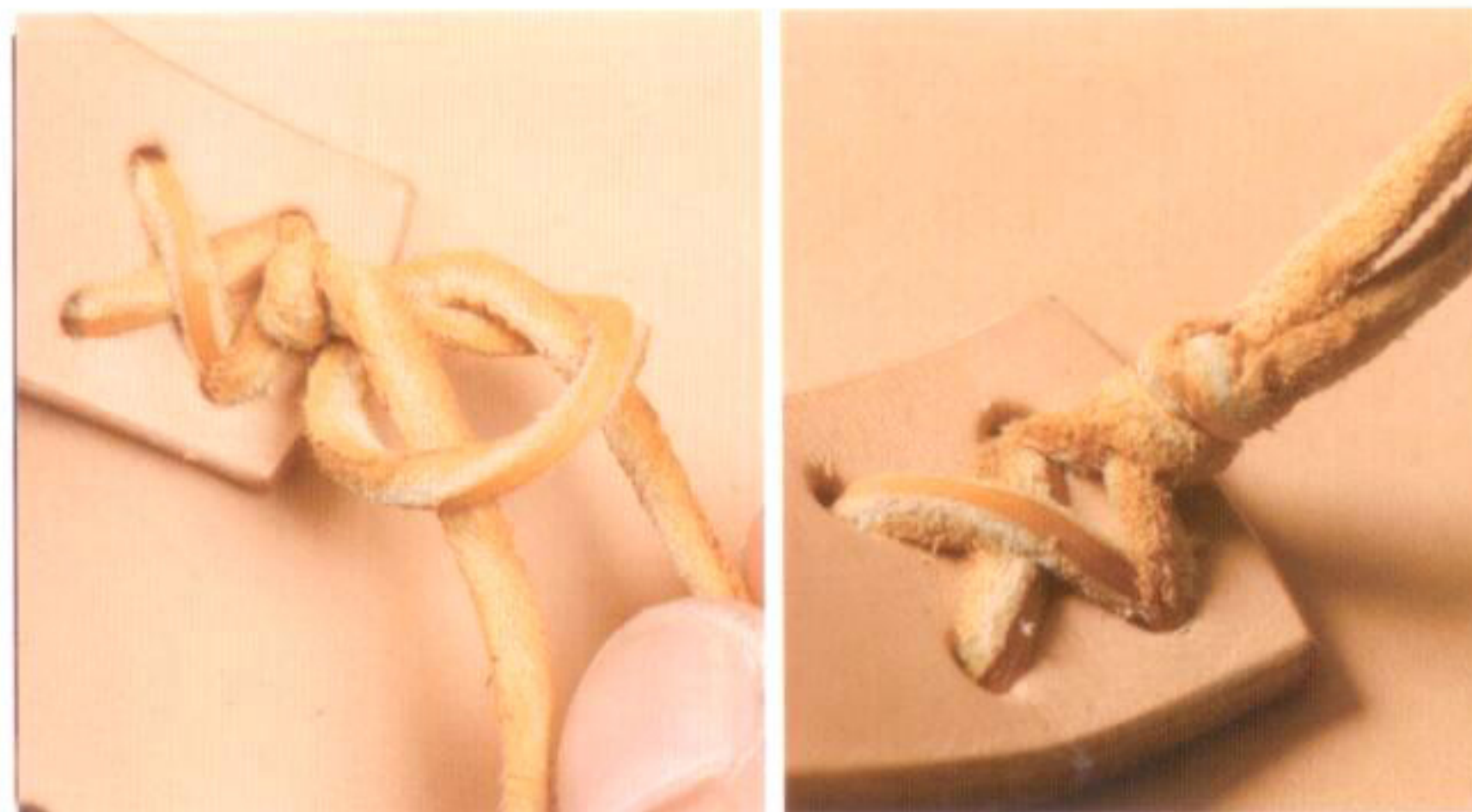
4 このように、外側から見ると上下とも鹿ヒモがクロスするように通す



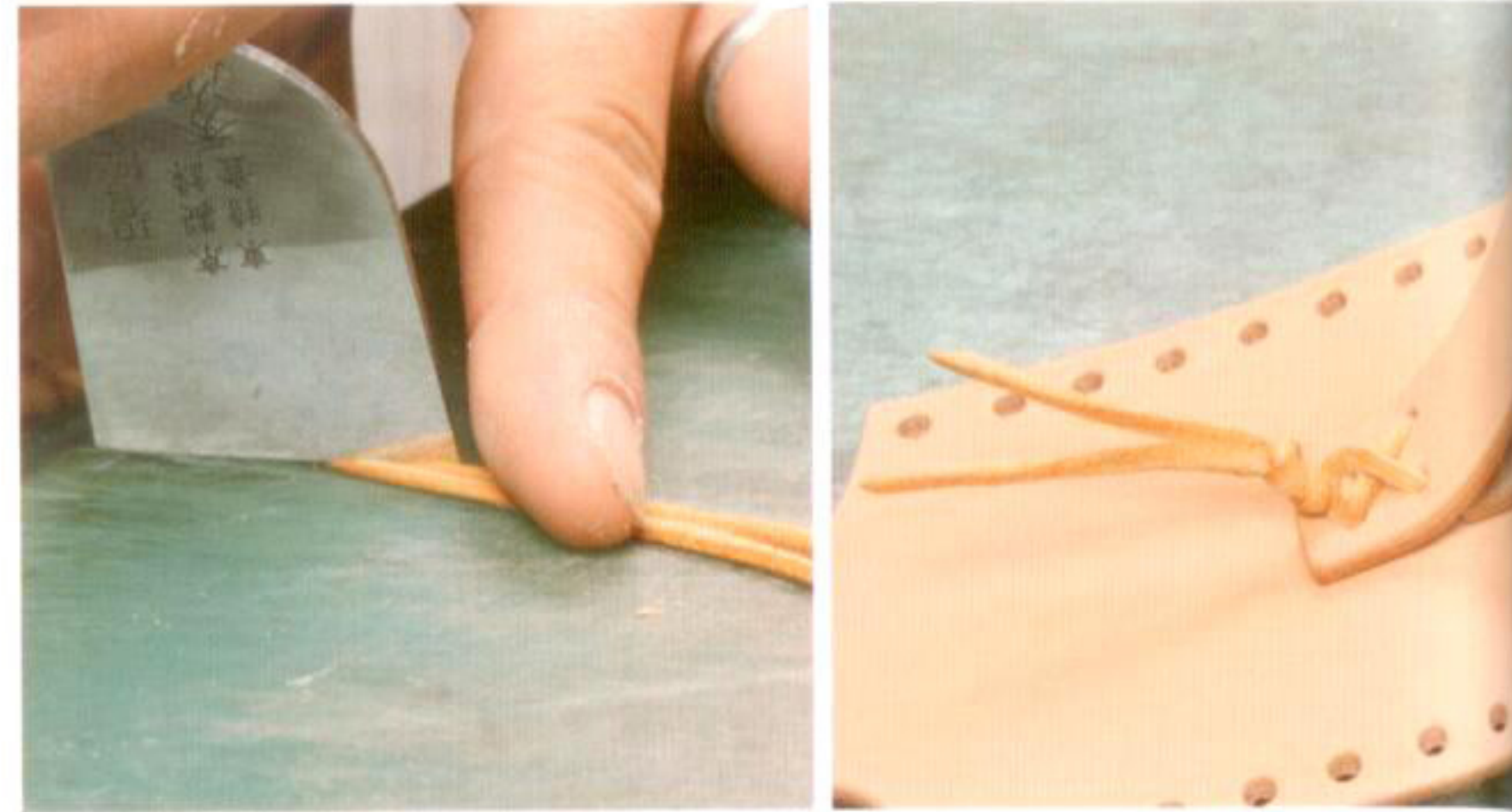
5 一番下の穴にモデラなどを差し込んで穴を広げ、内側の鹿ヒモ(細)を再び外側へ出す



6 外側に出た鹿ヒモは、片方を挟んで片結びをする。ベルトループにアソビが出ないように、付け根で結び目を作る



7 もう片方も同じようにして結び目を作る。左のヒモは右巻き、右のヒモは左巻きで締める



8 鹿ヒモ(細)を結んだら、適当な長さにカットする。先端が斜めになるようにカットすると格好が良くなる



9 本体の下部に位置する2つの穴に、コンチョを縛る鹿ヒモ(太)を通す。後ろの穴から出ているヒモを長めに出して縛る



10 指紋が付かないように端切れをあてて側面を折り曲げ、かがりやすいようにくせを付ける



11 上からレースで本体をかがる。穴が2つ空いている面を上にしてサドルレースを通し、左右同じ長さ揃える



12 左右にレースをクロスさせながらかがっていく。穴にレースを通していただけなので比較的容易だ



13 最後はベルトループの鹿ヒモと同じように、片方のレースを挟んで片結びをする。グランドゼロでは片方を銀面、もう片方を床面が出るように結んでいる。本体が開かないように、根本で結び目を作るようにする



14 もう片方は本体が閉じていくので、レースを差し込みにくくなる。この場合はラジオペンチなどを使うと良い



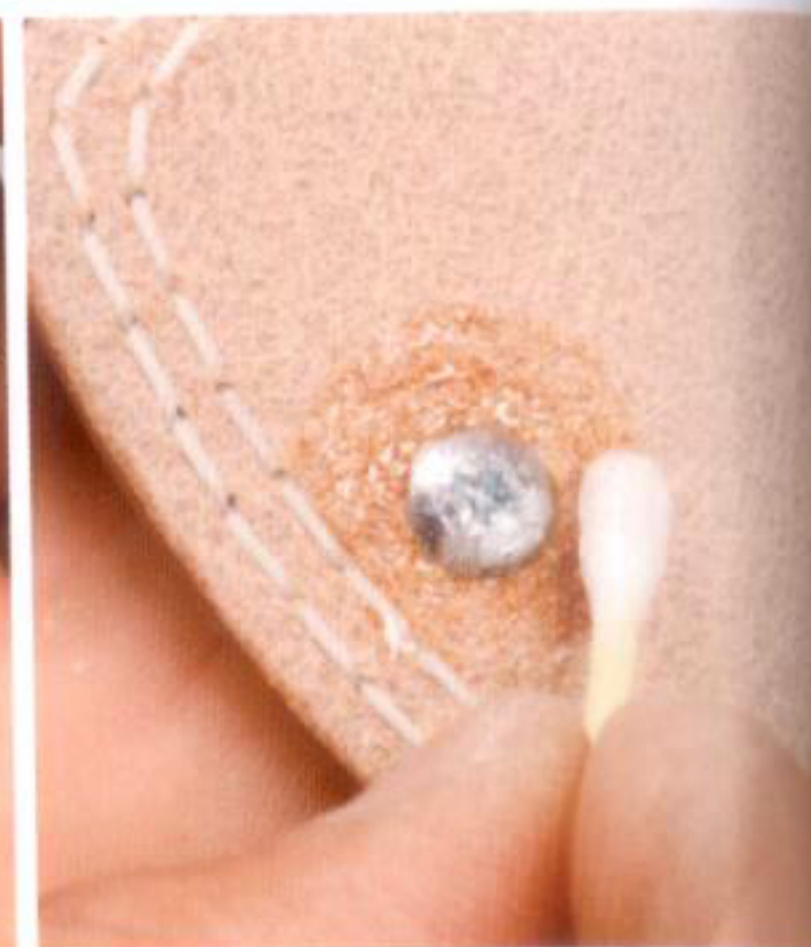
15 最後は同じように片結びをする。レースは長すぎると格好悪いので、適当な長さで斜めにカットする



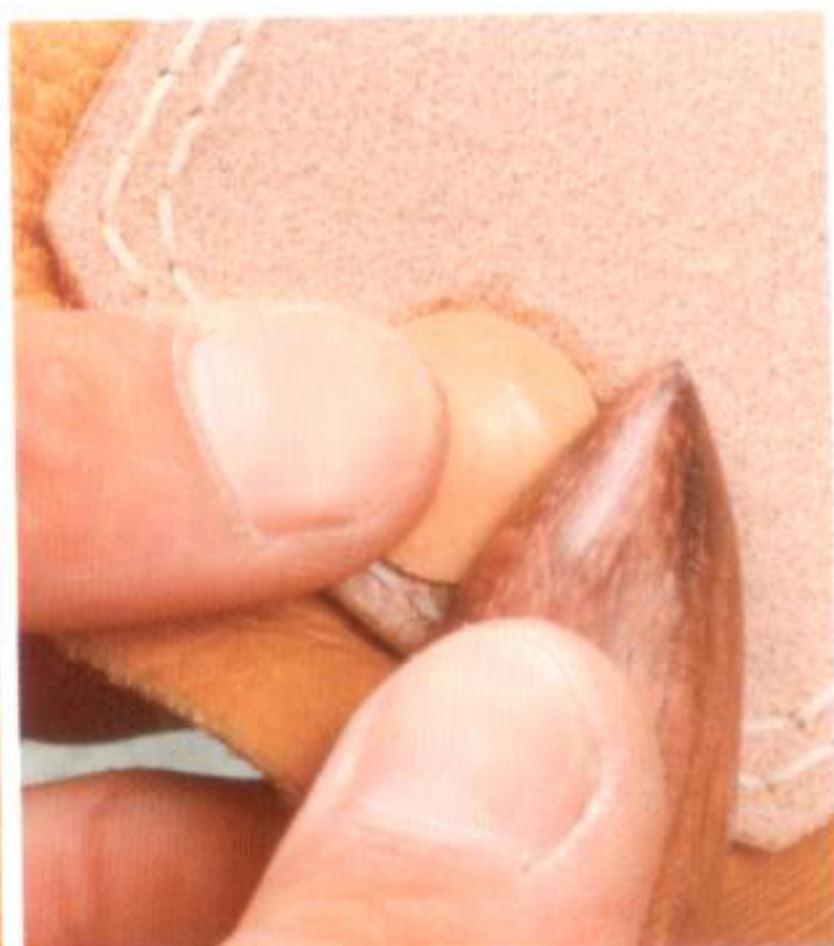
16 蓋のコンチョ穴を元に、アンコとヘビ革にも8号の穴を空け、コンチョにネジロック剤を付けてネジを締める



17 目隠しの革をネジの中心に置き、革の外周をけがく。けがいた円の内側と目隠しの革に接着剤を塗る



18 目隠しの革を貼り付け、ウッズリッカーで圧着する。指の汗などで汚さないように、柔らかい革をあてて行なう



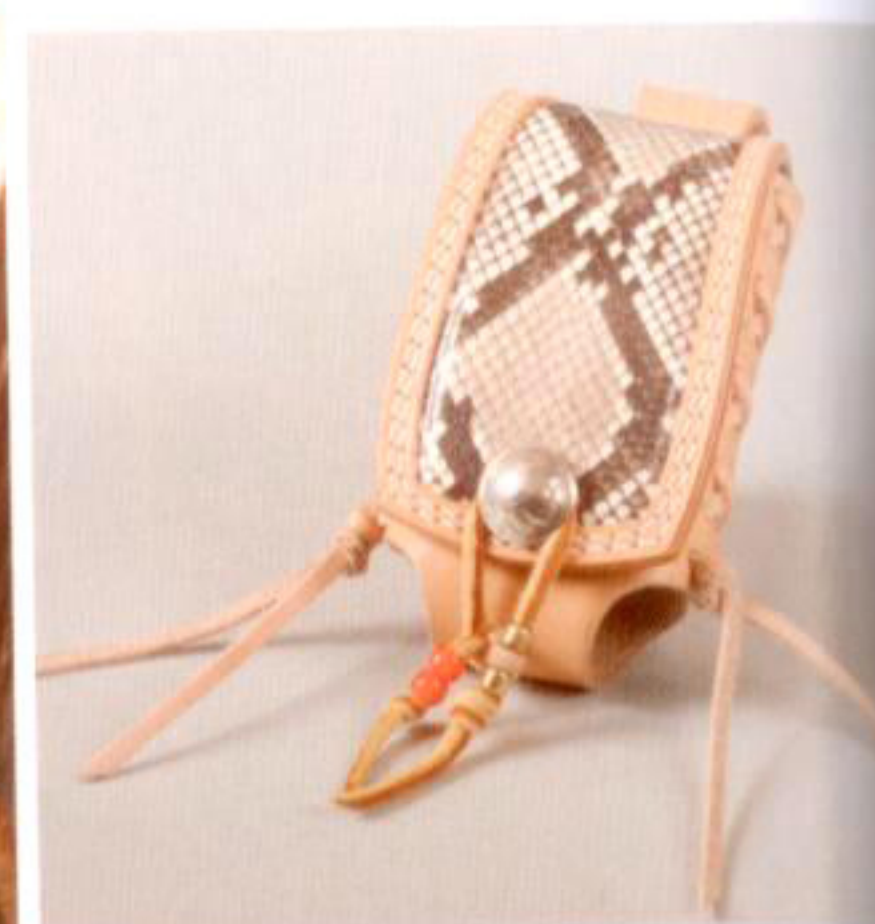
19 下部に取り付けた鹿ヒモにビーズを差し込み、片結びをして固定する。数や色は好みの物を選ぼう



20 鹿ヒモをコンチョに引っ掛けて適当な位置にビーズを差し込み、片結びをしてビーズが落ちないようにする

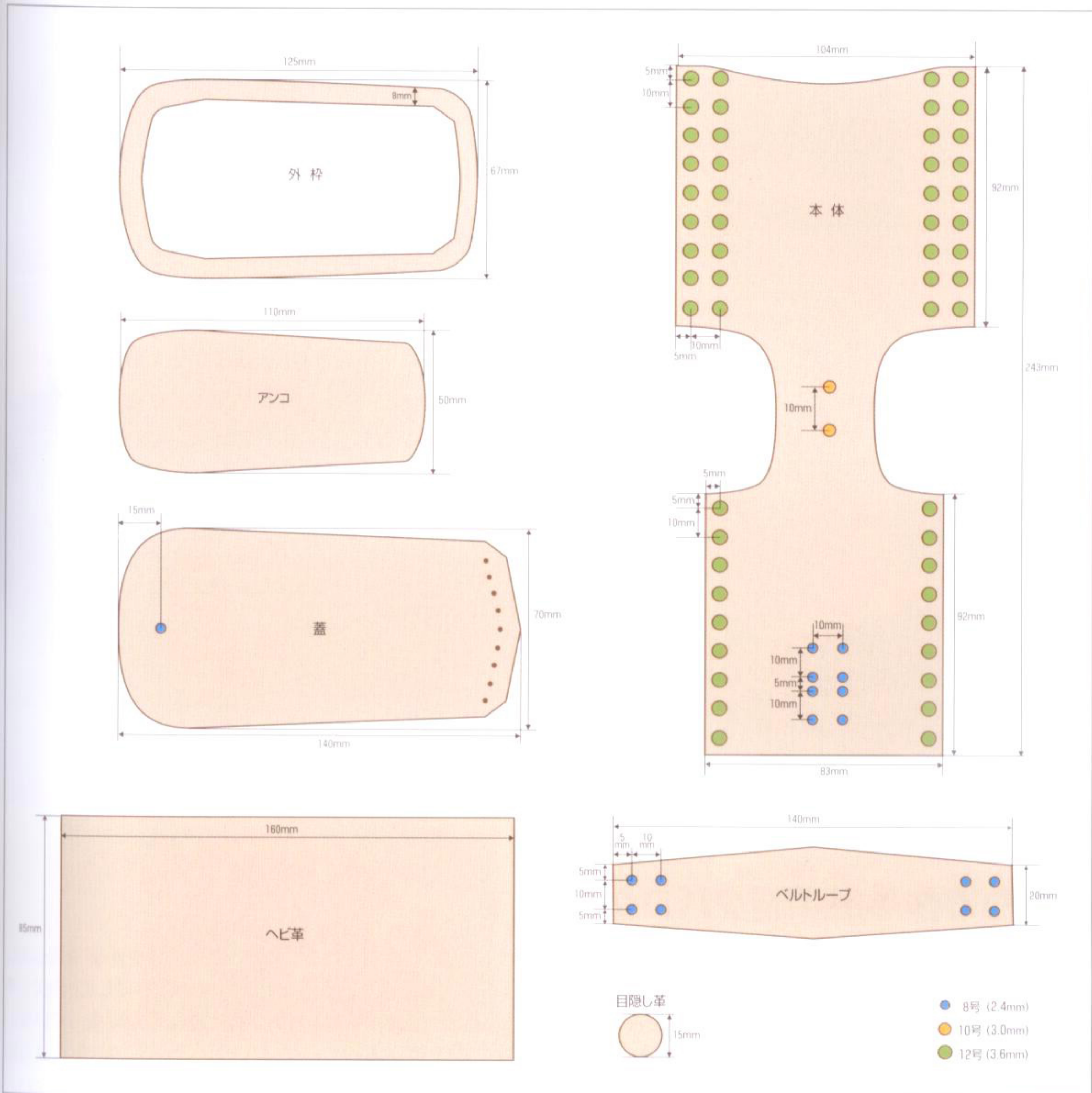


21 片結びをしたら、革ひもを斜めにカットする。これでヘビ革の携帯ケースが完成



寸法図

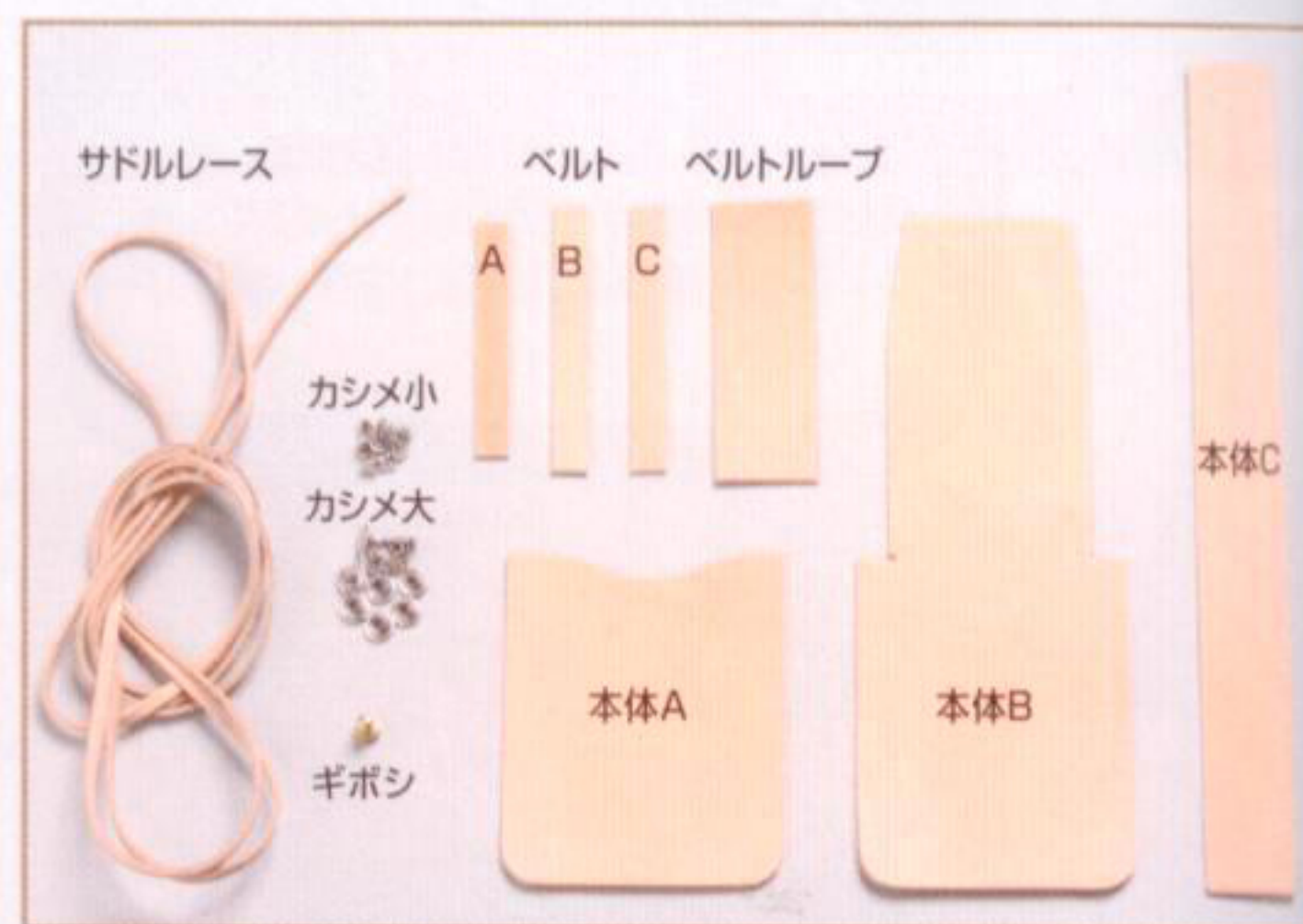
この図は400%に拡大するとほぼ原寸大になる。ただし、あくまでも目安であり、革の厚みや質によって調整が必要。



CIGARETTE+LIGHTER CASE

タバコ+ライターケース

タバコとライターを取り出したいときにすぐ取り出せる、そんなアイテムがこのケースだ。針と糸は使わず、サドルレースのかがりとカシメだけで簡単に作ることができるので、挑戦してみよう。



ボディとなる本体A、B、Cとストラップ、ライターケースのベルトには2.0mm厚のサドルレザーを使用している。ベルトループの固定にはカシメ小を使用し、ライターケースの固定にはカシメ大を使用する。ボディは1本のサドルレースでかかるので、約150cm程度の長さを用意しておく。蓋の固定にはギボシを使用

かがりで作るお手軽タバコケース

ポケットに入れていたタバコが折れてしまったり、ポケットの中がタバコの葉っぱで汚れてしまった経験はないだろうか？ タバコケースを持っていれば、そんな心配は解消される。グランドゼロのタバコ+ライターケースの特徴は、レースかがりとカシメだけで比較的容易に作ることができ、実用

性に富んだ設計となっていることだ。角をかがる際には、レースをしっかりと詰めないと隙間ができてしまうので、その点だけ注意しておきたい。ベベラなど先の尖っていない物で少しずつ詰めていくと良いだろう。ボックスを入れる場合、最初は少々きついが、革が馴染んでくれば問題ない。

下処理をする

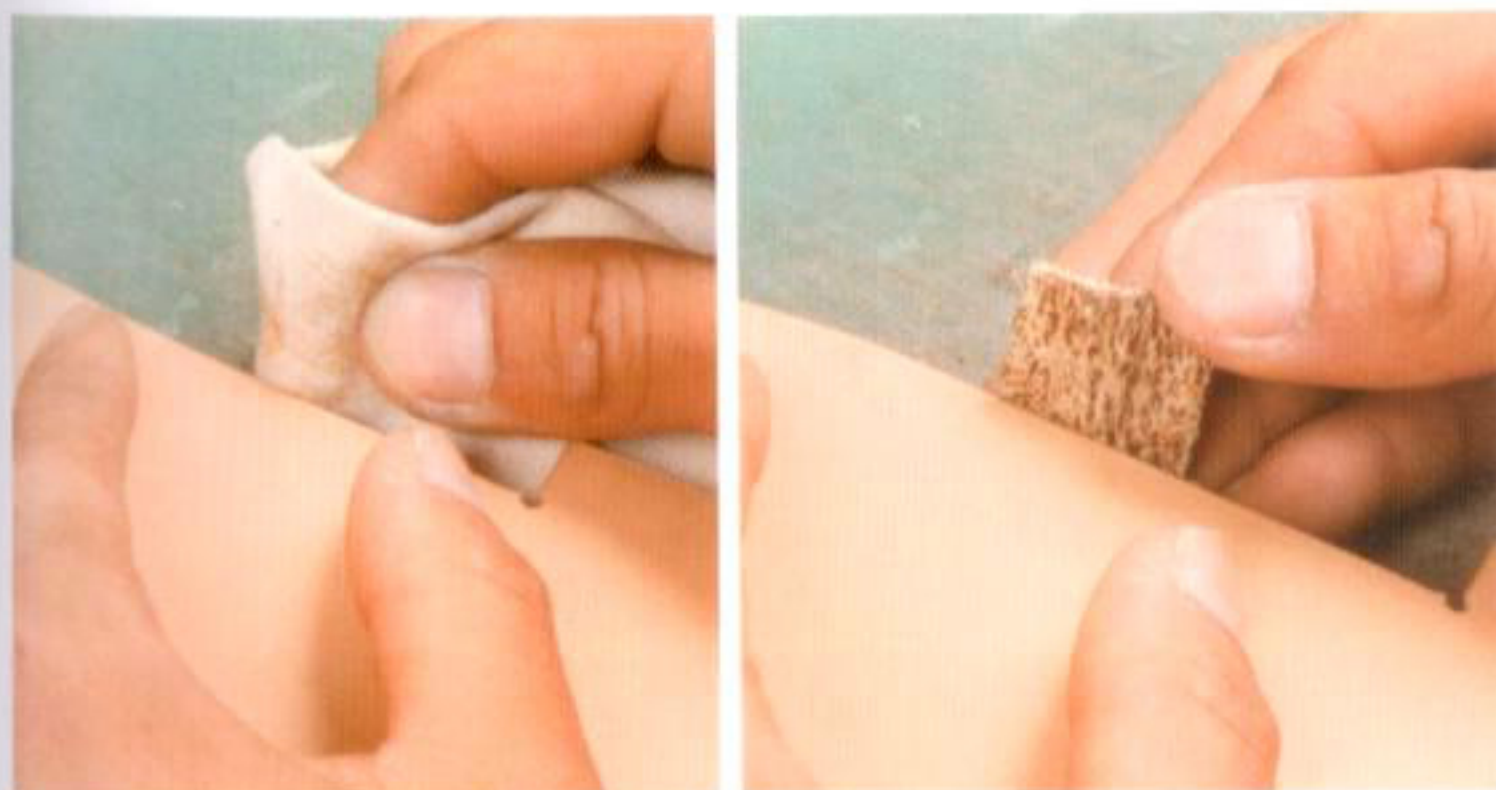
糸で縫う部分はないため、ヘリ落としや床面を磨いたら、あとはレースでかかるための穴を空けていくだけだ。



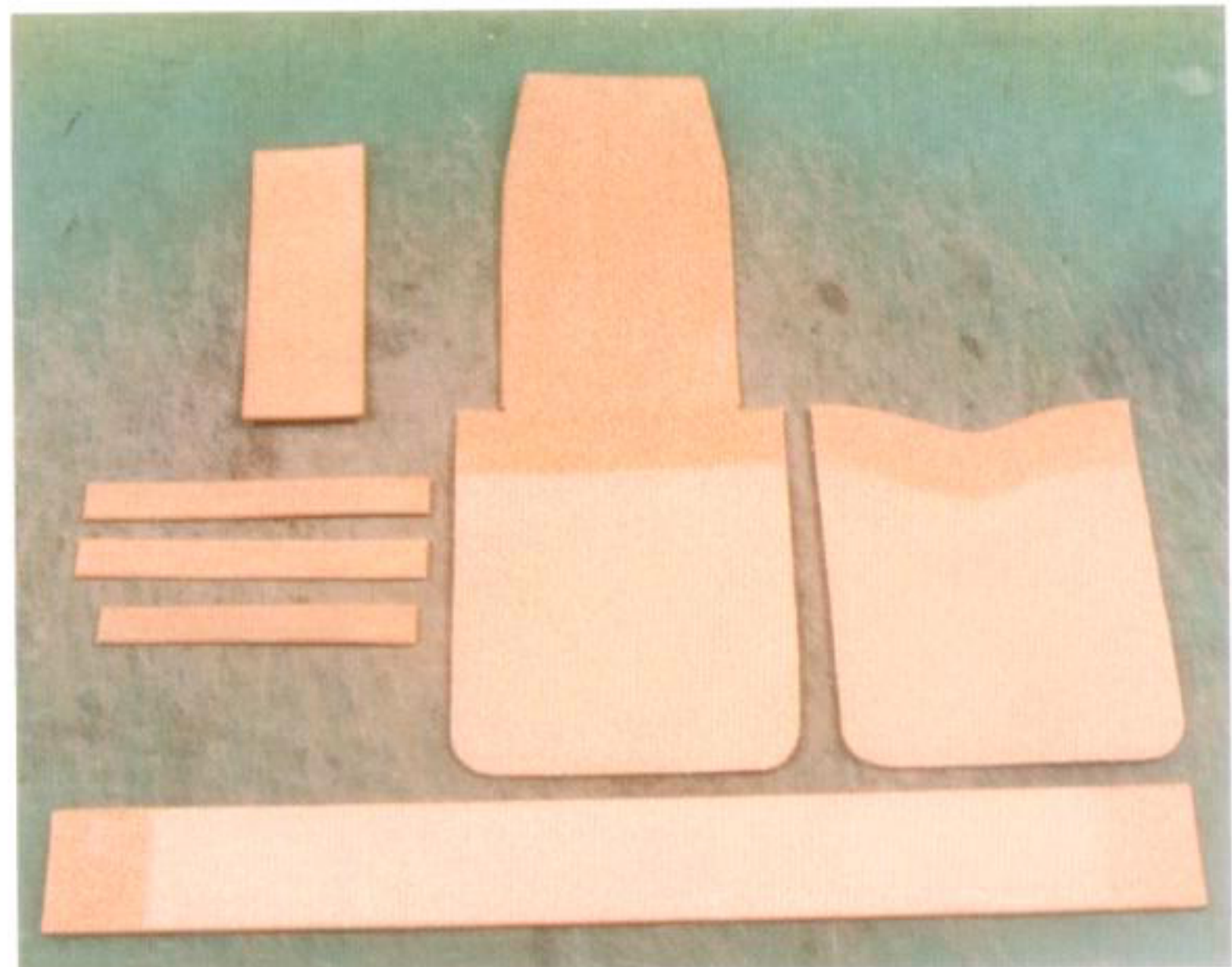
1 ヘリ落としで下記(CHECK!)以外の全てのヘリを落としていく。裏側も落とす



2 ヘリを落としたらトコフィニッシュを付ける。指と革を逆方向に動かすと上手に塗れる

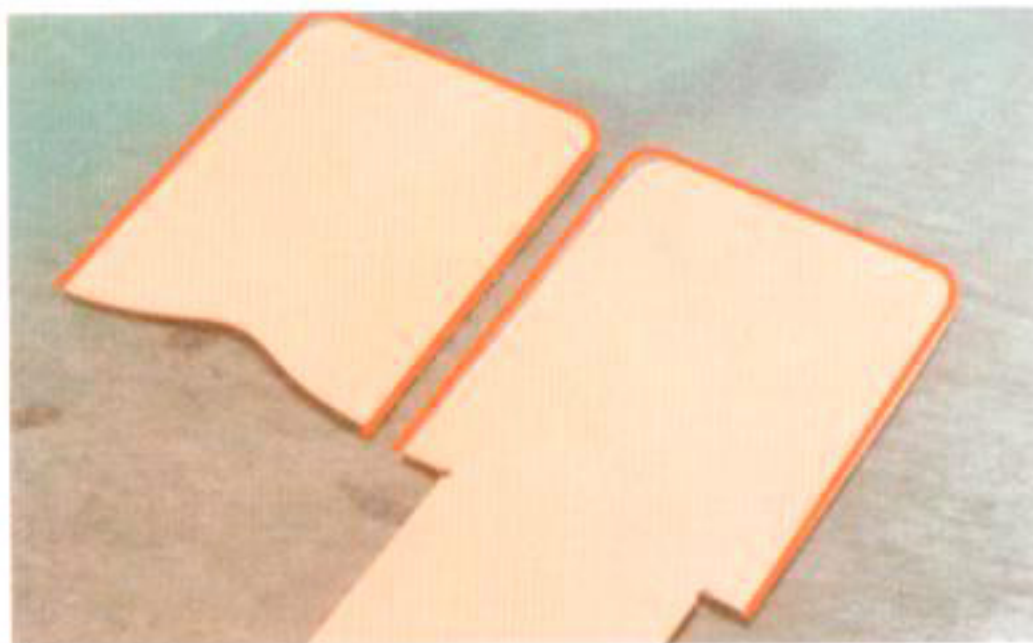


3 布や乾燥したヘチマでヘリを磨く。磨く道具や工程数は、革の質や厚さによって変える



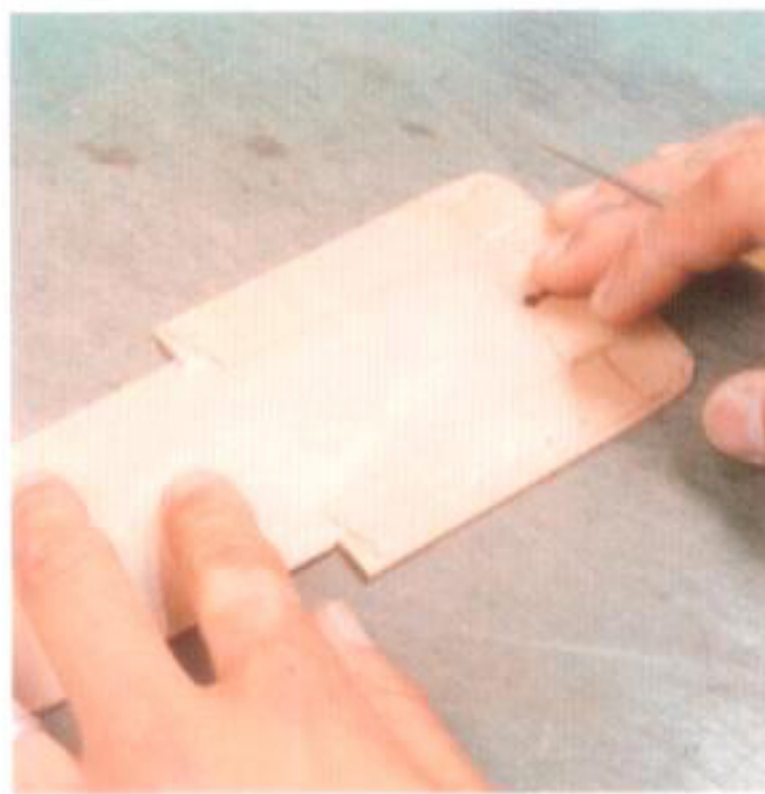
4 床面はトコフィニッシュを付けてガラス板で磨く。上の写真で色が付いていない部分は、磨かなくて良い

CHECK!



本体の側面は革で覆われてしまうため、赤線の付いた部分はヘリを落として磨く必要はない

5. 組立て



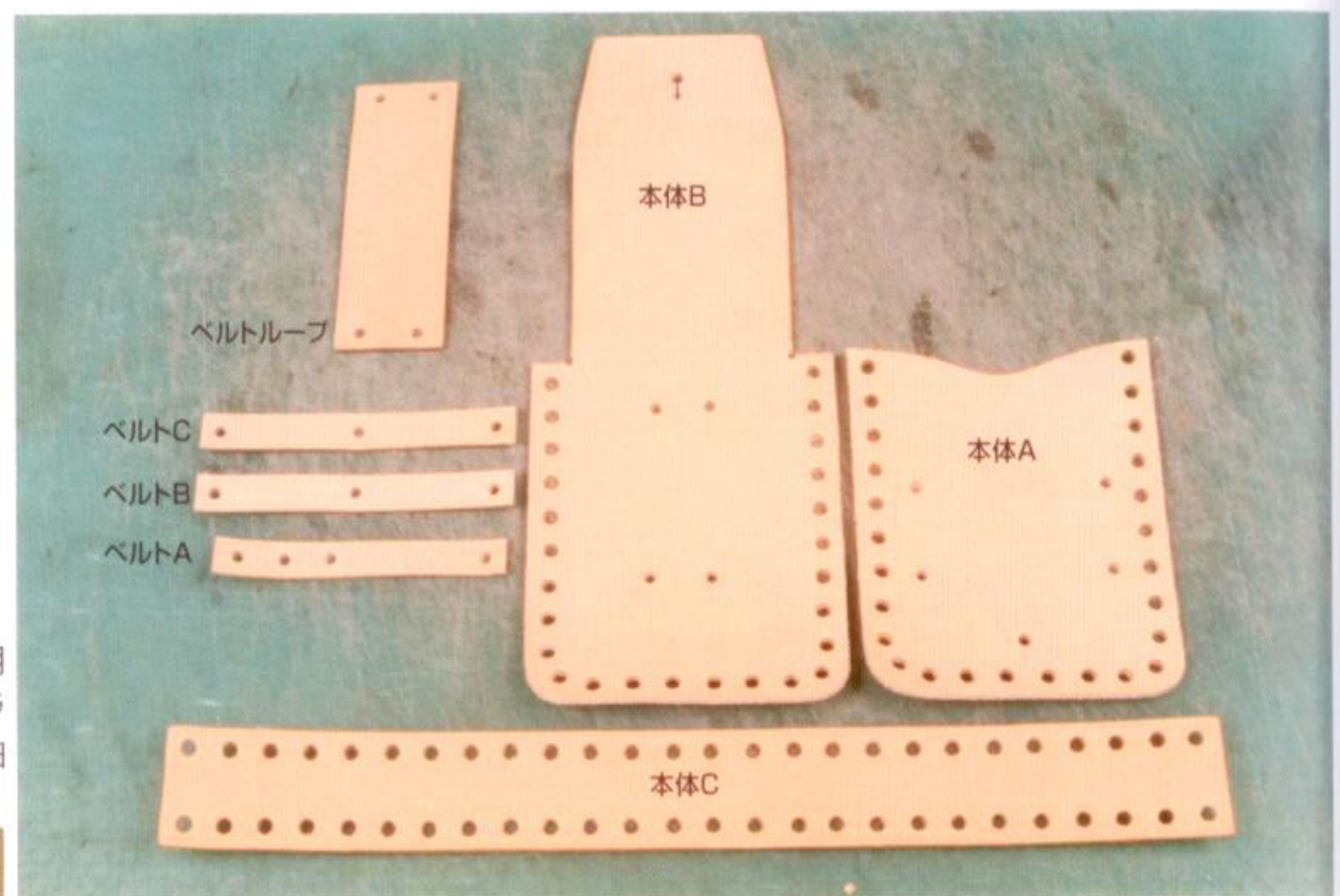
5 型紙や92ページの寸法図を元にして、ハトメ抜きを打つ場所に丸ギリなどで印を付けていく



6 丸ギリで印を付けたら、本体A、B、Cの周りに12号(3.6mm)のハトメ抜きで穴を空けていく

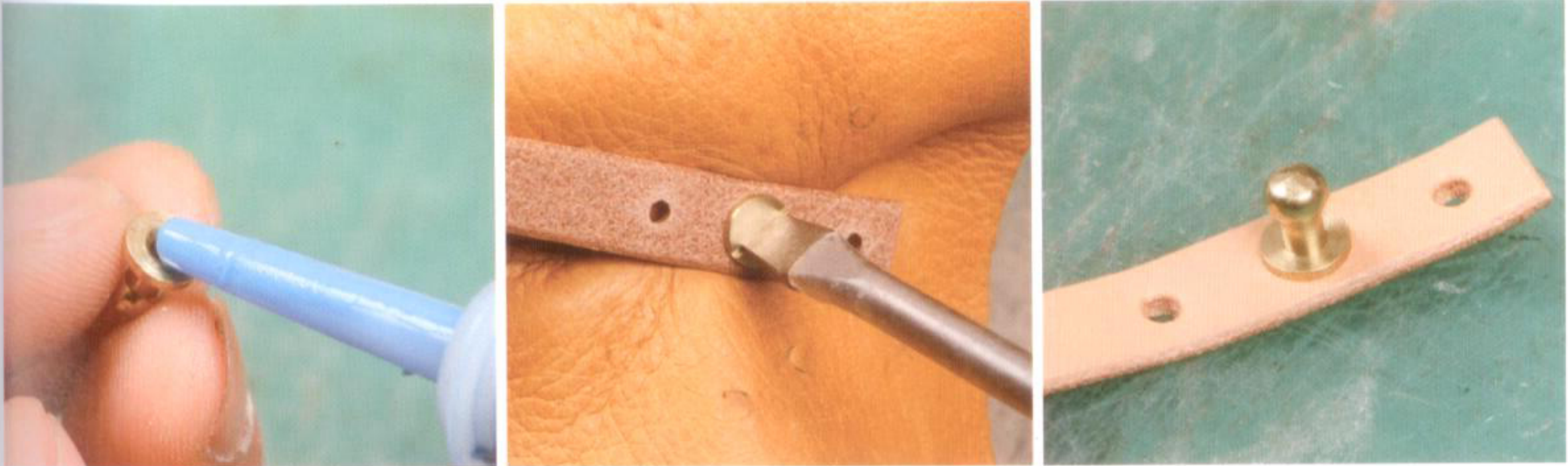


7 ライターの収納ベルトを取り付ける部分は8号(2.4mm)のハトメ抜きを使用し、ギボシにはめる本体Bの穴は8号と5号(1.5mm)を打って、間をつきのみなどで切断する。5号の穴はギボシの穴が裂けないようにするための処置だ

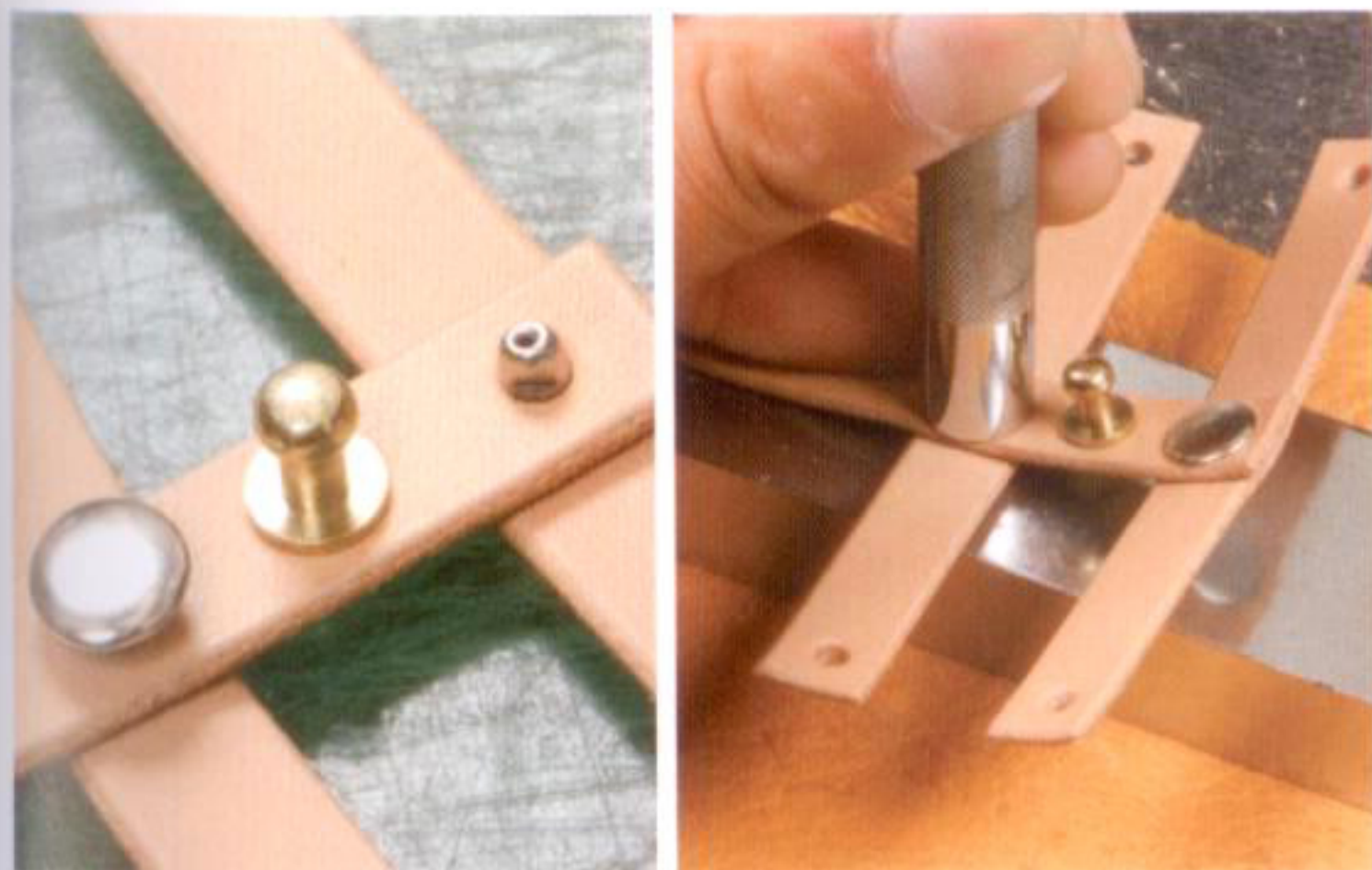


全ての穴を空けた状態。ハトメ抜きは3種類しか使用しないのでそれほど難しくはないが、なるべく穴のラインが曲がらないように気を付けること。ラインが曲がってしまうと、かがるときに本体がゆがんでしまう

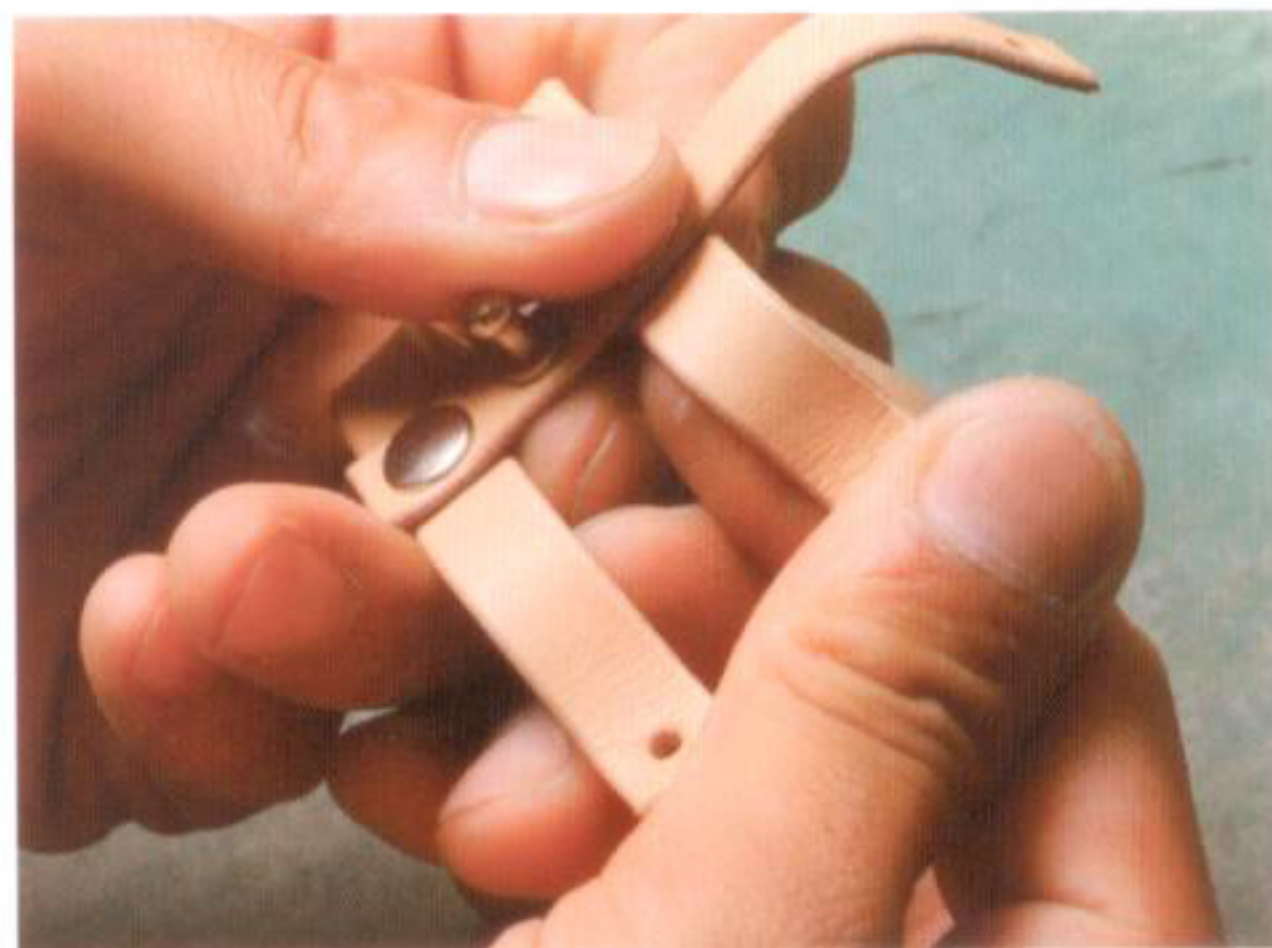
8



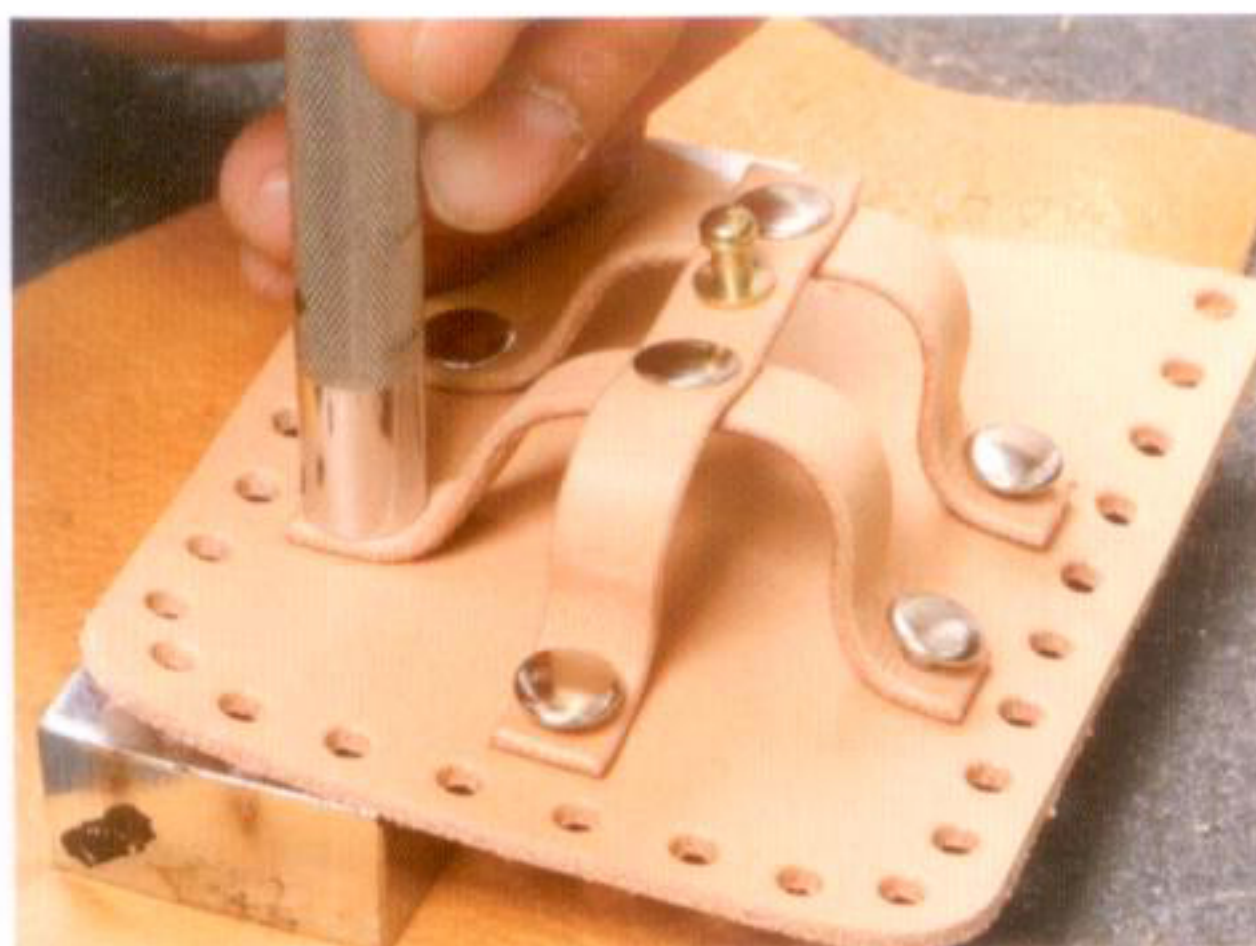
9 ギボシのネジ穴にネジロック剤を入れ、ベルトAに取り付ける。ネジはマイナスドライバーで締めていくだけ



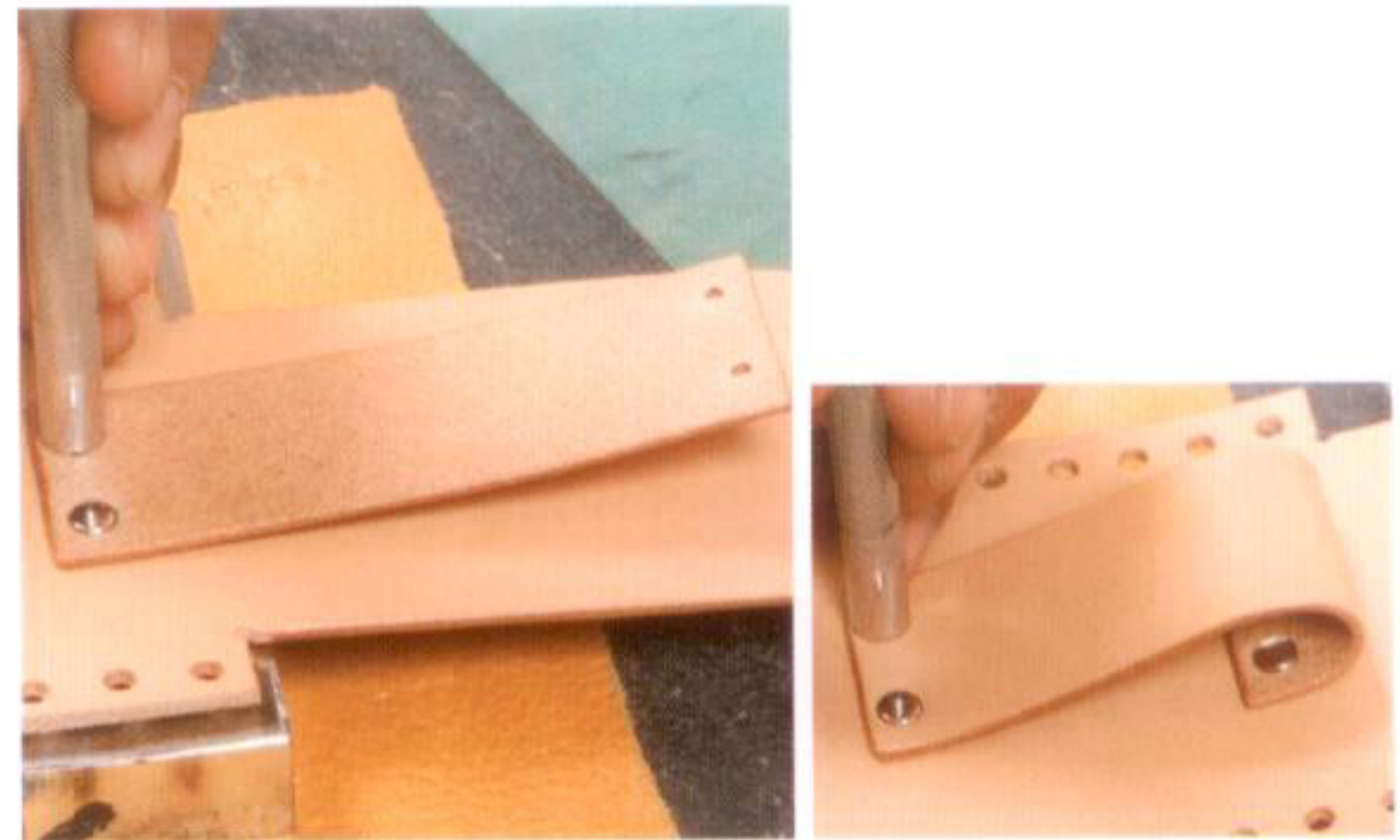
10 ギボシを付けたベルトAを上にして、ベルトBとベルトCをカシメ大で固定する



11 本体Aに取り付ける前に、指でベルトを曲げてくせを付けておくと作業がスムーズだ



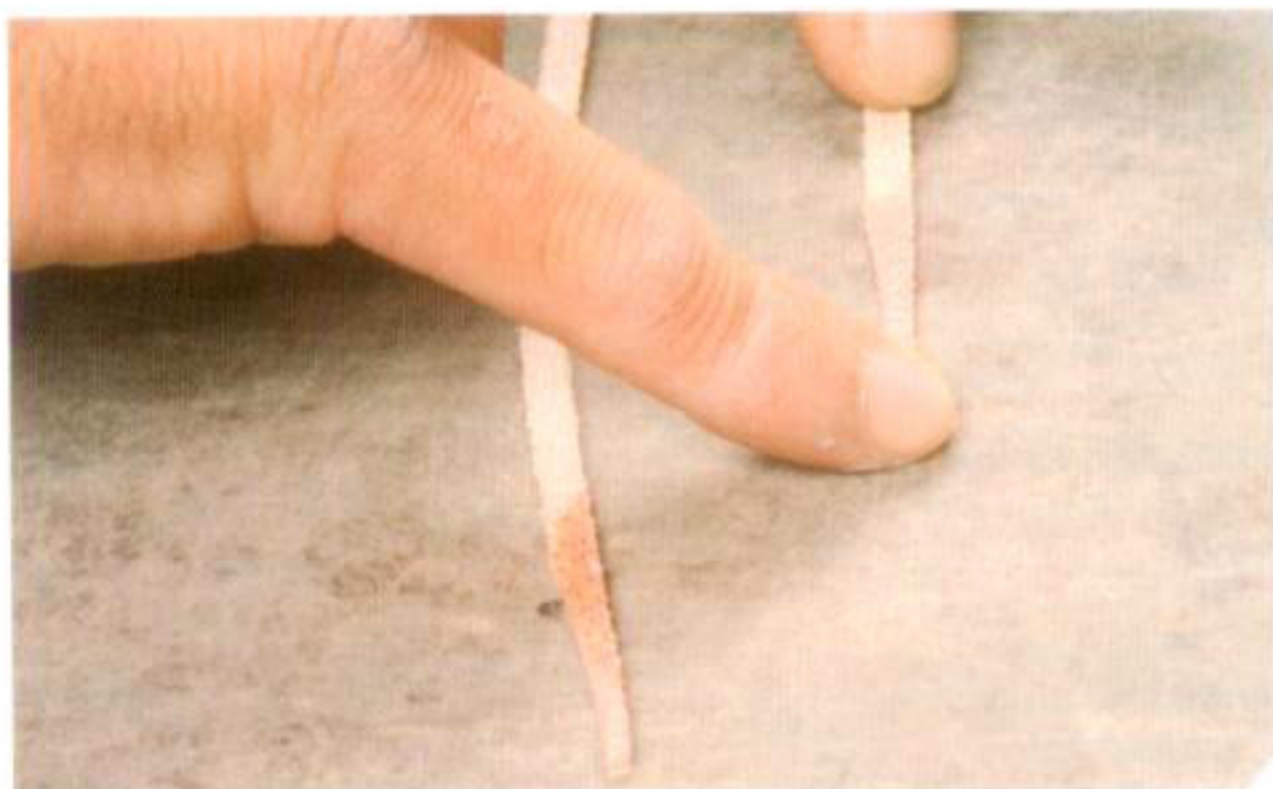
12 カシメ大を指で押し込んで仮留めした後、カシメ打ちを使って固定する



13 ベルトループは、まず上をカシメてから下を取り付ける。カシメとカシメ打ちは小を使用する

かがり合わせる

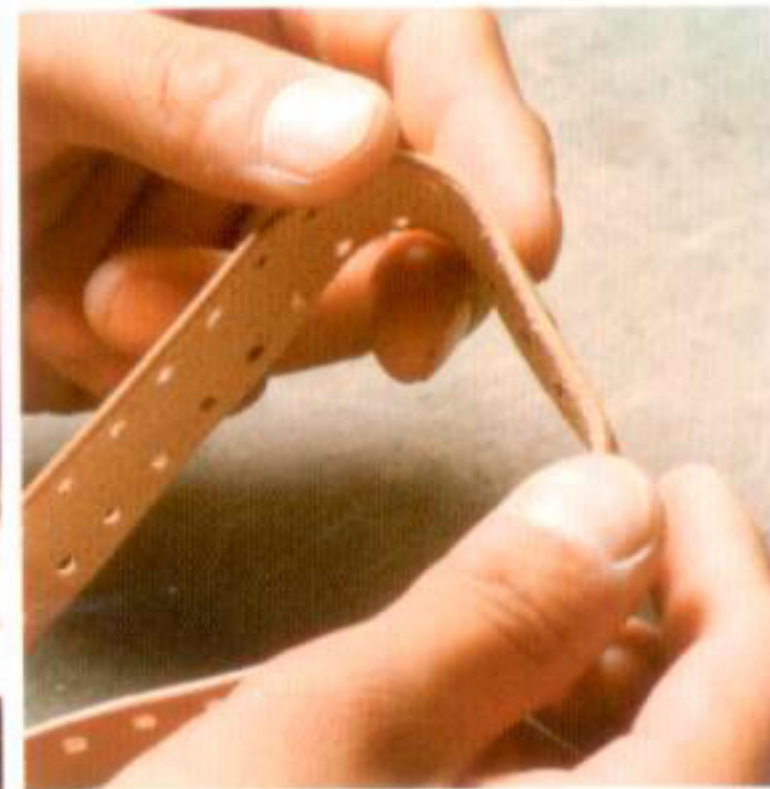
ライターケースを組み立てたら、本体を合わせてレースでかがる。カーブしている部分はしっかり隙間を詰めること。



1 サドルレースの先端を斜めにカットし、トコフィニッシュを少量付けて固める



2 かがりやすいように、本体A、B、Cを折り曲げてくせを付ける



3 本体AとBの上にCを載せ、内側からサドルレースを通す。レースは左右同じ長さにしておく



4 レースをクロスさせながらかがっていく。重なる方向が同じになるようにすると良い

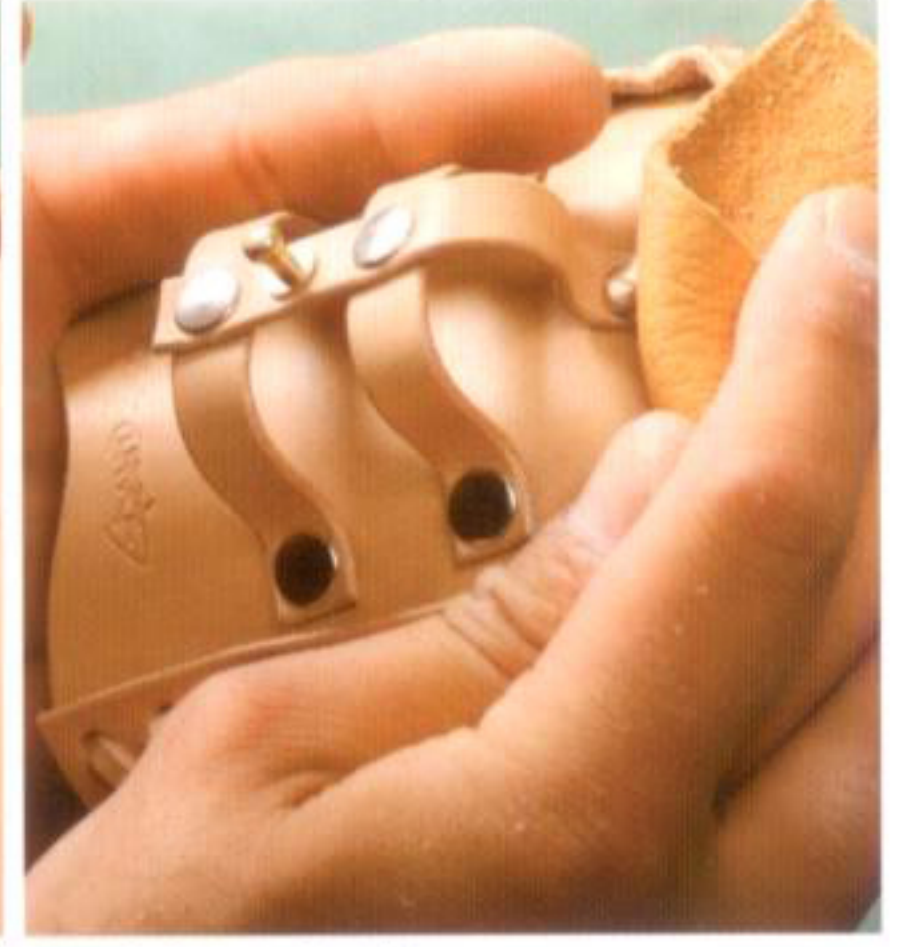


5 カーブしている部分はパーツ同士をしっかりと詰めないで隙間ができてしまう。パーツを曲げながらべべらなどを使ってレースを少しずつ詰めていく。革が傷つく可能性があるため、丸ギリなどでは詰めない方が良いでしょう

タバコ+ライターケース CIGARETTE+LIGHTER CASE



6 本体が閉じてくるとレースを指で差し込むのが難しくなってくるので、ラジオペンチを使用する



7 角はこの写真ぐらいまで隙間を詰めると良い。かがり終わったら、端切れをあてながら形を整える



8 片方のサドルレースを挟んで片結びをする。結び目は、なるべく本体に近いところを作る



9 今度は逆のサドルレースで片結びする。グランドゼロでは片方だけ床面を出すようにしている



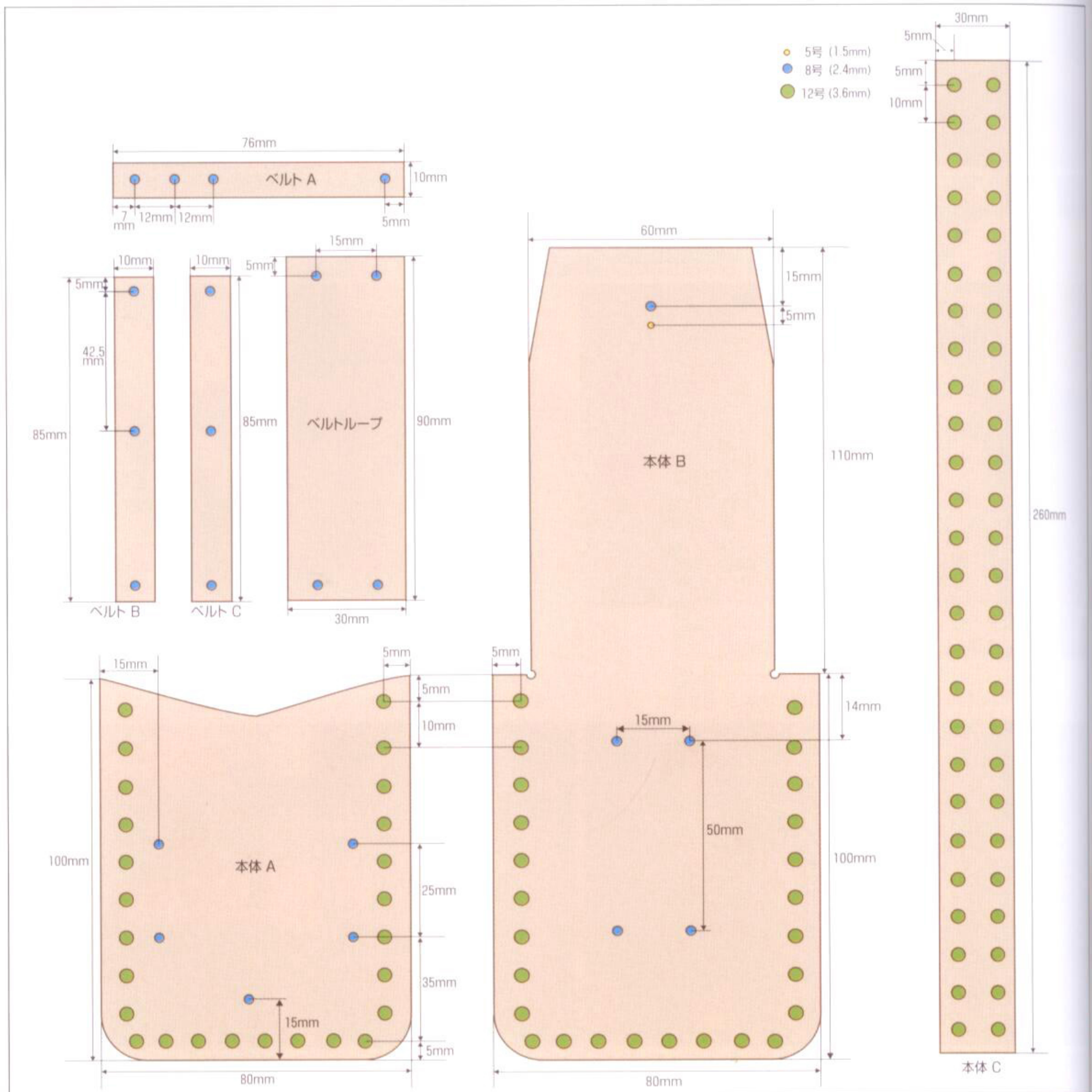
10 片結びをしたら、サドルレースの先端を内側のかがった部分に差し込む。サドルレースが長すぎる場合は、適当な長さでカットする



11 これでタバコ+ライターケースは完成となる

寸法図

この図は200%に拡大するとほぼ原寸大になる。ただし、あくまでも目安であり、革の厚みや質によって調整が必要。



OWNER'S INTERVIEW

使い手と一緒に進化する
そんなアイテムを作り続けたい



KUNIHISA FUJIKURA

藤倉 邦也氏

様々なレザーアイテムを研究し、独自のデザインや技法を生み出し続ける藤倉氏。その情熱と探求心の強さで、小物から文具、バッグまで、様々なアイテムのオーダーに答えてくれる

—レザークラフトを始めたきっかけは？

小さな頃から何かを作ったり分解することが好きで、大人になってからは、身の回りにあるもので道具も大きな物を使わず、お金もそれほどかからないとなるとレザークラフトがピッタリだったんです。バイクに乗っていたこともあり、雑誌を見ながらツールバッグを作ってみたら意外とすんなり作ることができました。それがはまり出したきっかけですね。そして、昔海外へ行く機会があり、そこでたまたま見つけた馬の鞍を作るショップで見た職人さんが格好良く、感銘を受けたのが「レザークラフトを仕事にしよう」と思ったきっかけです。

—上達するコツは？

自分が始めた時代はレザークラフトに関する情報が少なかったんです。工具の使い方もわからない状態でしたので、とにかく数をこなしました。趣味として楽しんでいる人には、材料費がネックになりますが、その問題を越せば様々なことが試せて、そこから気づくこともたくさんあると思います。

—レザークラフトに対するこだわりは？

うちでは、作り終わったからといって完成ではありません。0(ゼロ)の状態です。使ってくれる人が、100に向かって1000に向かって、その人なりに仕上げていって欲しいと思っています。お客様が使ってさらに良くなるものを作りたいと思っています。だからどのようなアイテムでも作るスタンスをとっているのです。

SHOP INFORMATION



1 シボレーエルカミーノが目印のショップ。駐車スペースも確保されている 2 存在感あるチョップされたヘリテイジが迎えてくれる店内。広々としていてゆっくりとアイテムを見回せる 3 壁一面に飾られるアイテム。ディスプレイにもこだわりが見られる

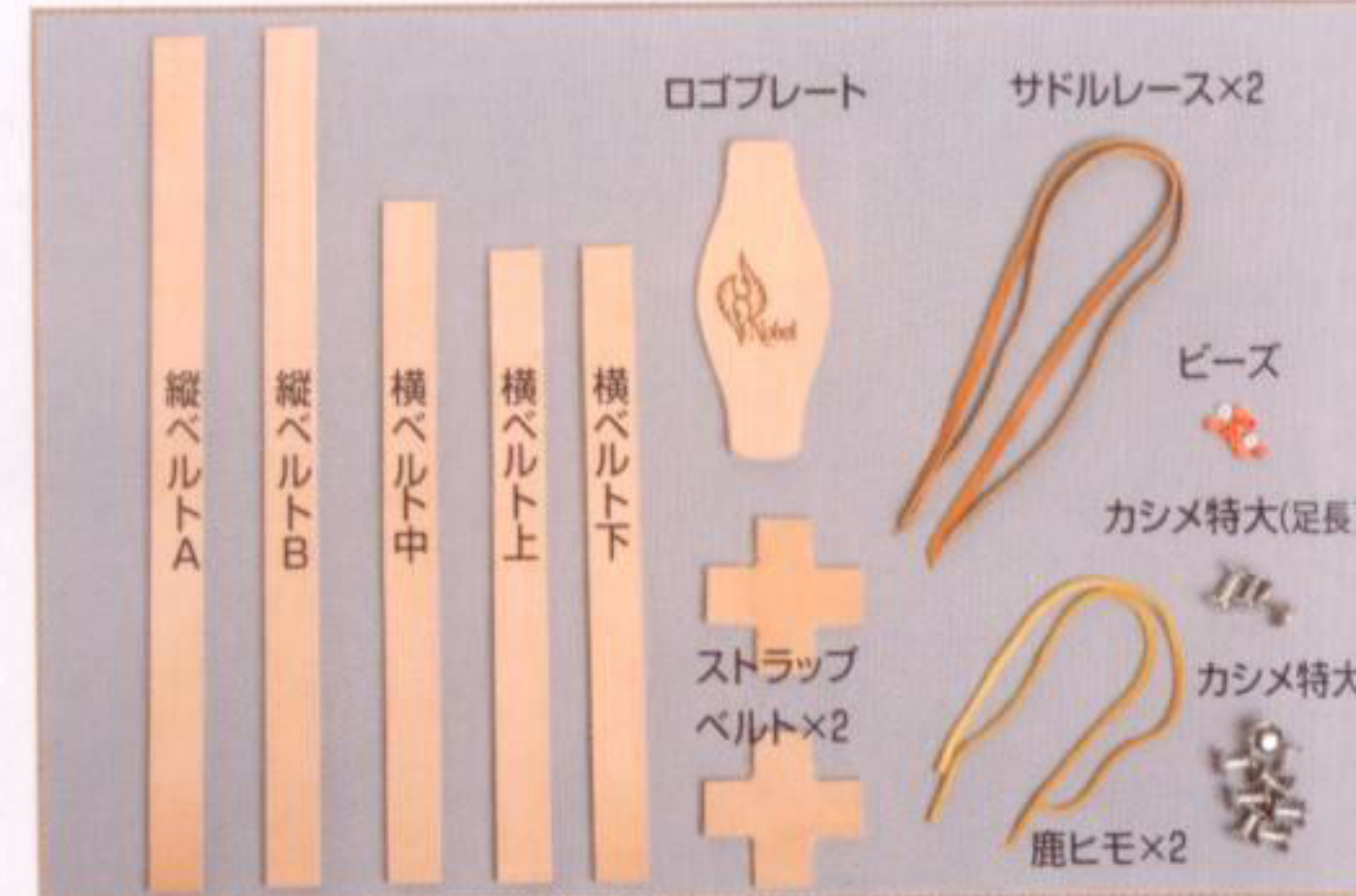
てぬい革細工 グランドゼロ 館林店(工房・SHOP)
群馬県館林市城町7-27
営業時間 12:00~21:00(土日祝祭日は18:00~)
定休日 水曜日・木曜日 Tel.0276-73-5443 Fax.0276-73-5443
URL <http://www.grandzero.com>

佐野店
栃木県佐野市名越町2058
佐野プレミアムアウトレット内ブッシュカート
営業時間 10:00~20:00 定休日 年中無休

DRINK HOLDER

ドリンクホルダー

ライディング中は意外と喉が渇くもの。特に夏場やロングツーリングなどでは、適度な水分補給が疲労軽減に繋がるため、ドリンクホルダーはぜひ愛車に装着したいアイテムと言える。



縦、横共にベルトは3.5mm厚、ストラップの十字ベルトとフロントのロゴが付いたプレートは3mm厚のノーベルレザーを使用している。車体に固定するためのサドルレースは、30cm程度あれば良いだろう。縦のベルトは35cmあるので、切り出す場合は40cm以上の革が必要。カシメは特大の標準と足長を用意しておく

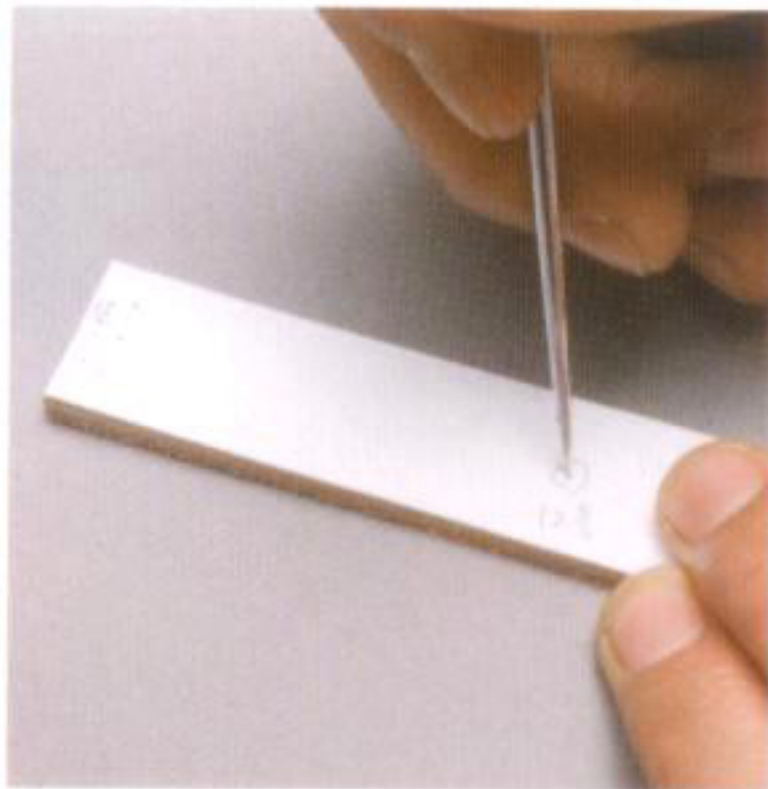
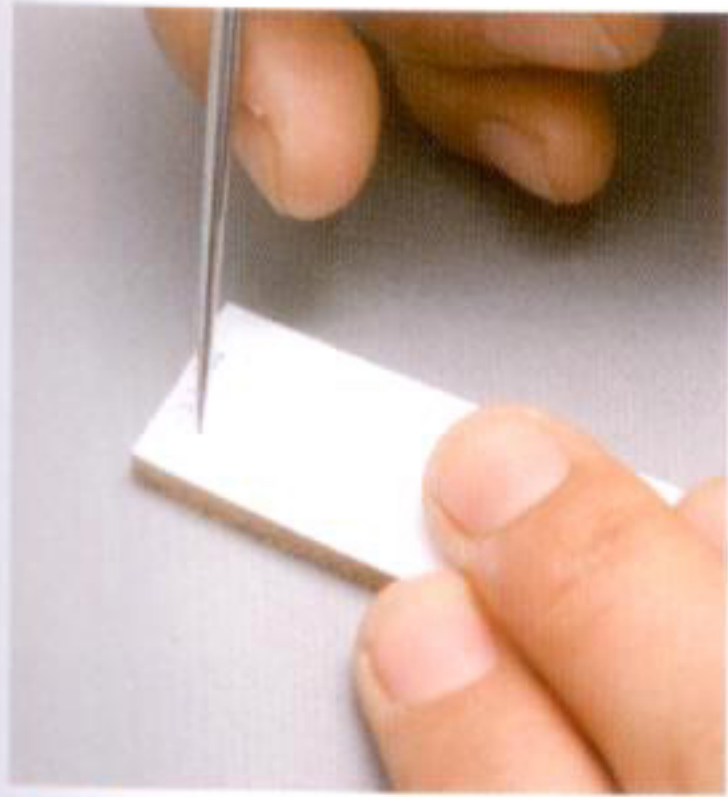
実用性の高い格子状ドリンクホルダー

バイクの運転は全身を使うため、知らず知らずのうちに疲労が溜まってくる。特に暑い季節や渋滞にはまった時などは、ドッと疲れが出てくるもの。そのようなときには水分を補給したい。サドルバッグにペットボトルを入れておくのも良いが、専用のドリンクホルダーを付けておけば、すぐに手に

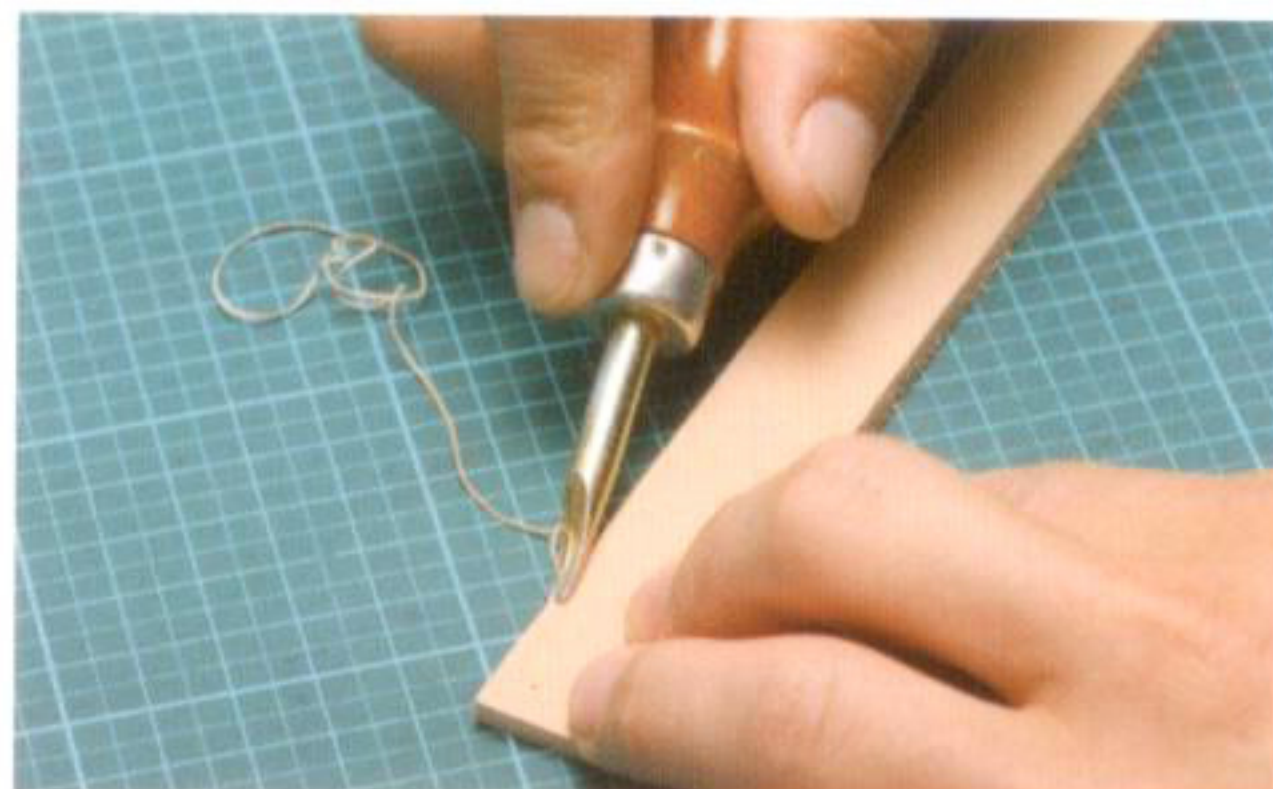
取って飲むことができる。ここで紹介するドリンクホルダーは2カ所だけ糸で縫い、あとはカシメを打ち付けていくだけのシンプルな作りだ。ただし、ベルトを組む順番や重ね方が間違えると、組み立てにくくなったり格好悪くなってしまうので注意が必要だ。順を追って正確に組み立てていこう。

下処理をする

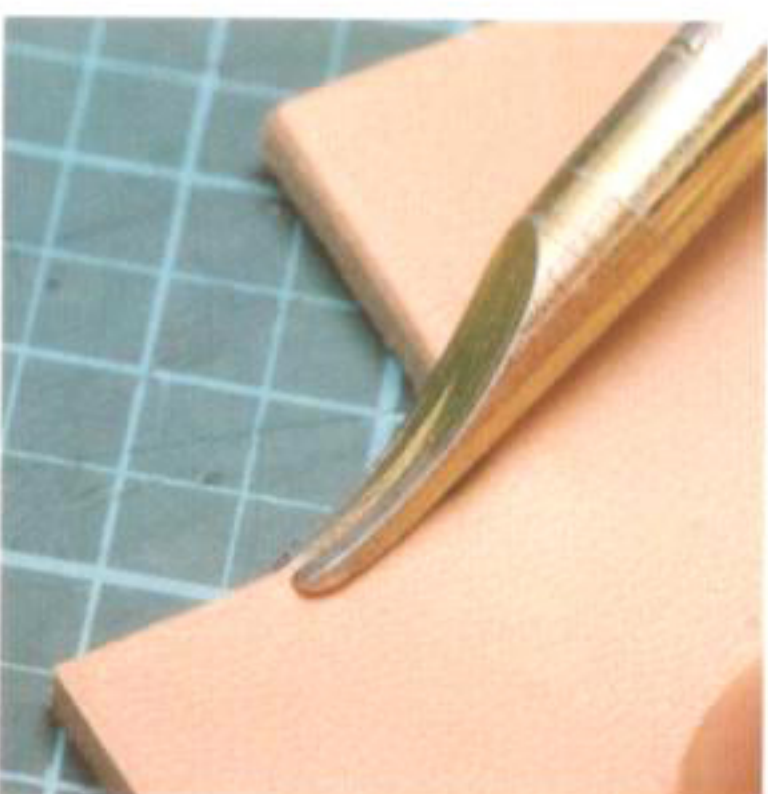
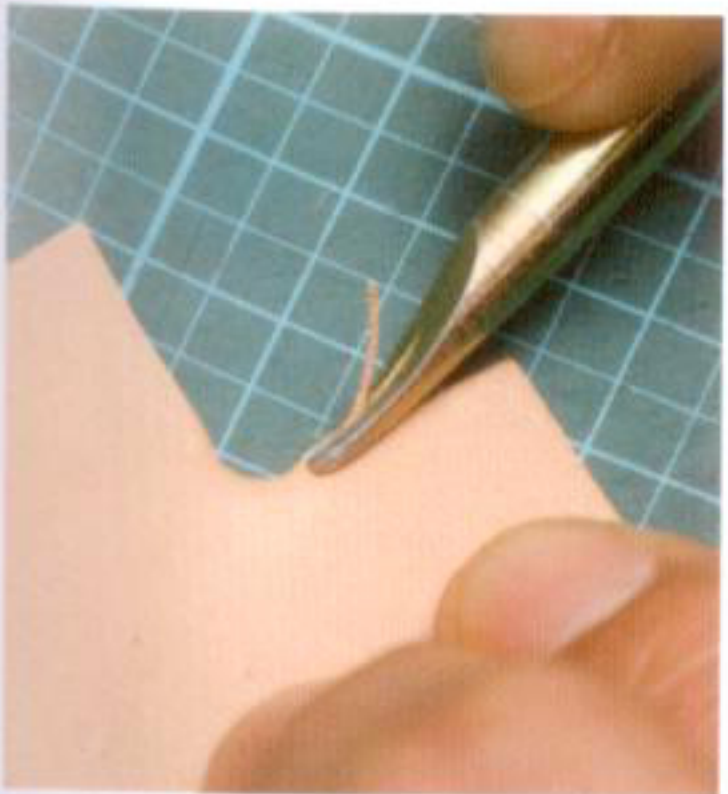
切り出したパーツのヘリを落とし、コバや床面を磨いた後、ハトメ抜きやヒシ目打ちで全ての穴を空けていく。



1 まずは型紙を元にして、ヒシ目打ちとハトメ抜きを打つ場所に印を付けていく



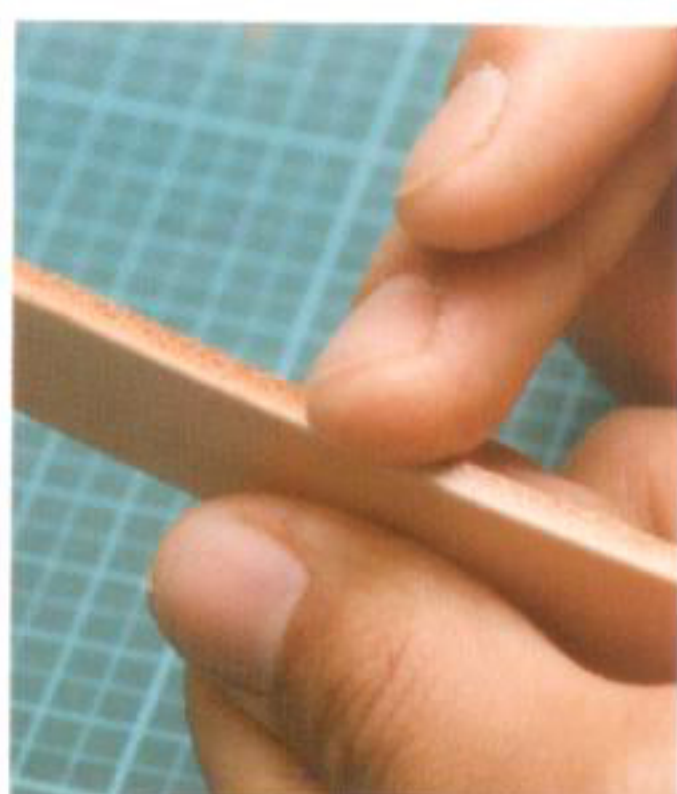
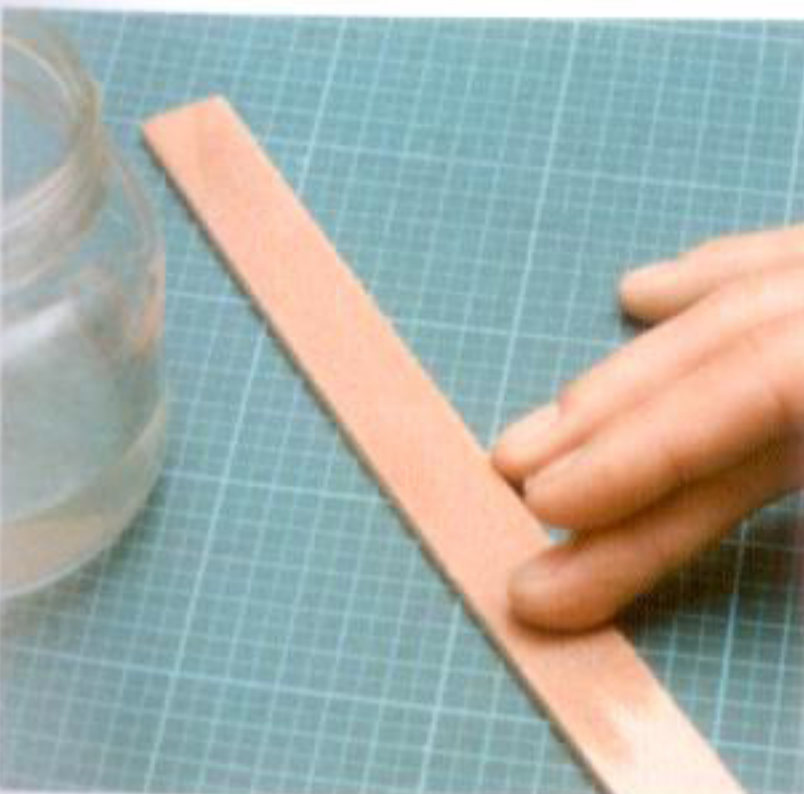
2 裏表全てのヘリをヘリ落としで落とす。ここでは2番を使ってるが、番手は好みで良い



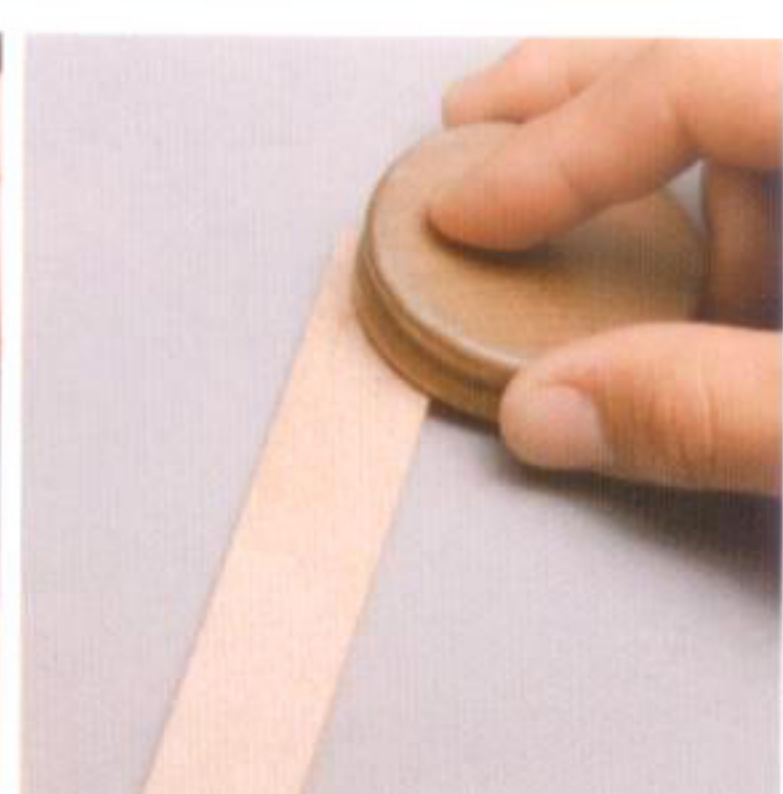
3 ストラップベルトのカーブ部分は一気に落とそうとせず、2回に分けて落としていく



4 滑らかな曲線部分は一気にヘリ落としをかける。表と裏の両側ともしっかりと落としておく



5 水で溶いたCMCを床面とコバに塗る。床処理剤は好みの物を使用して良い



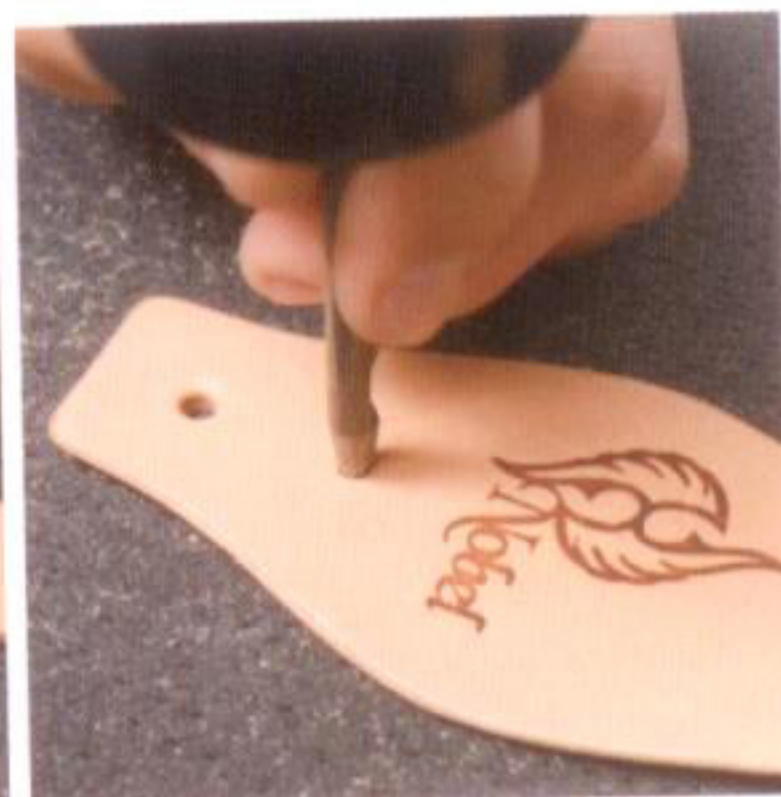
6 ヘリ磨きでコバと床面を磨く。光沢が出てくるまで、力を入れずに軽くあてて擦る

下処理をする



7

ハトメ抜きで穴を空けていく。ロゴの下に鹿ヒモを通す穴は8号で、それ以外は全て12号を使用する

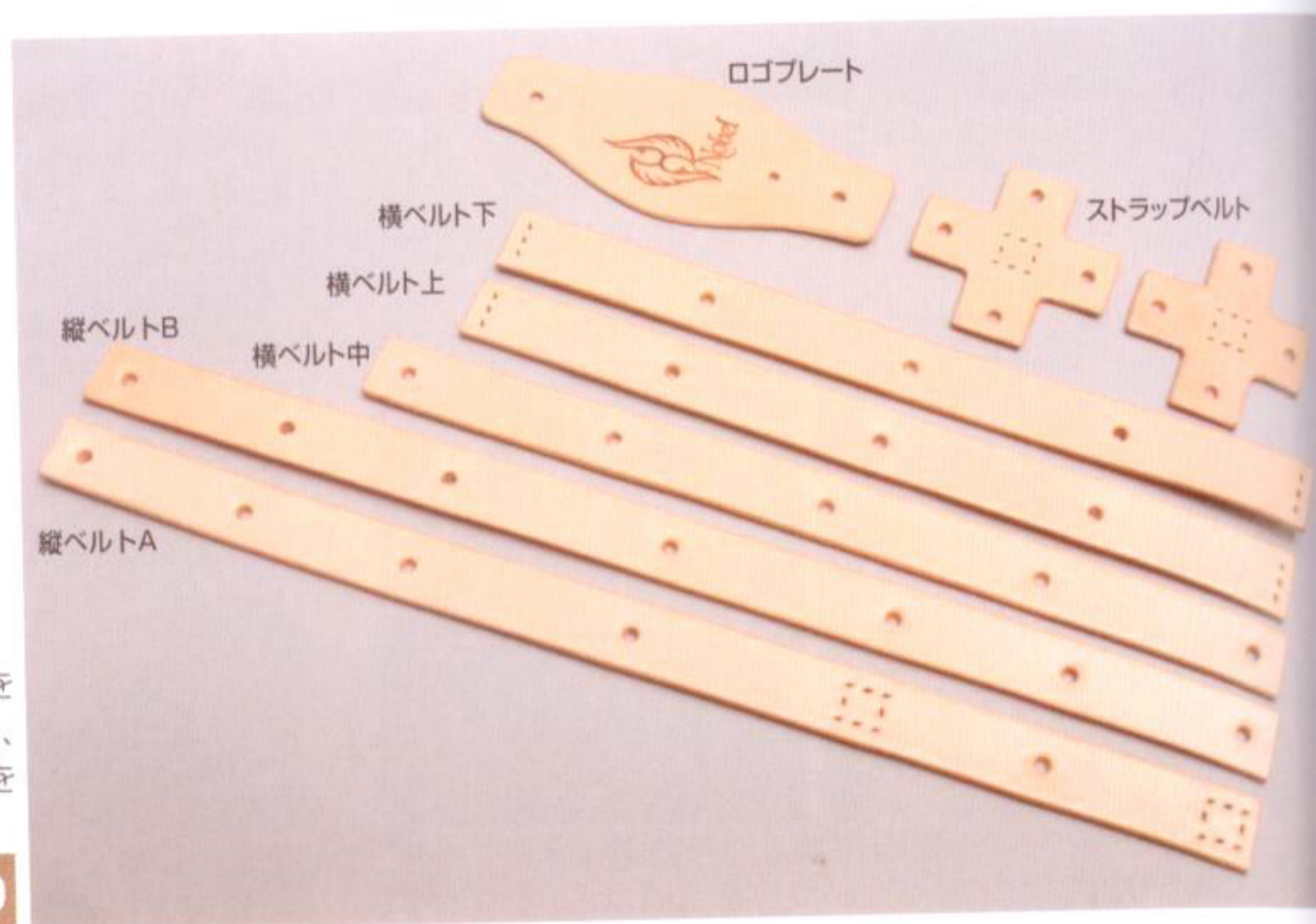
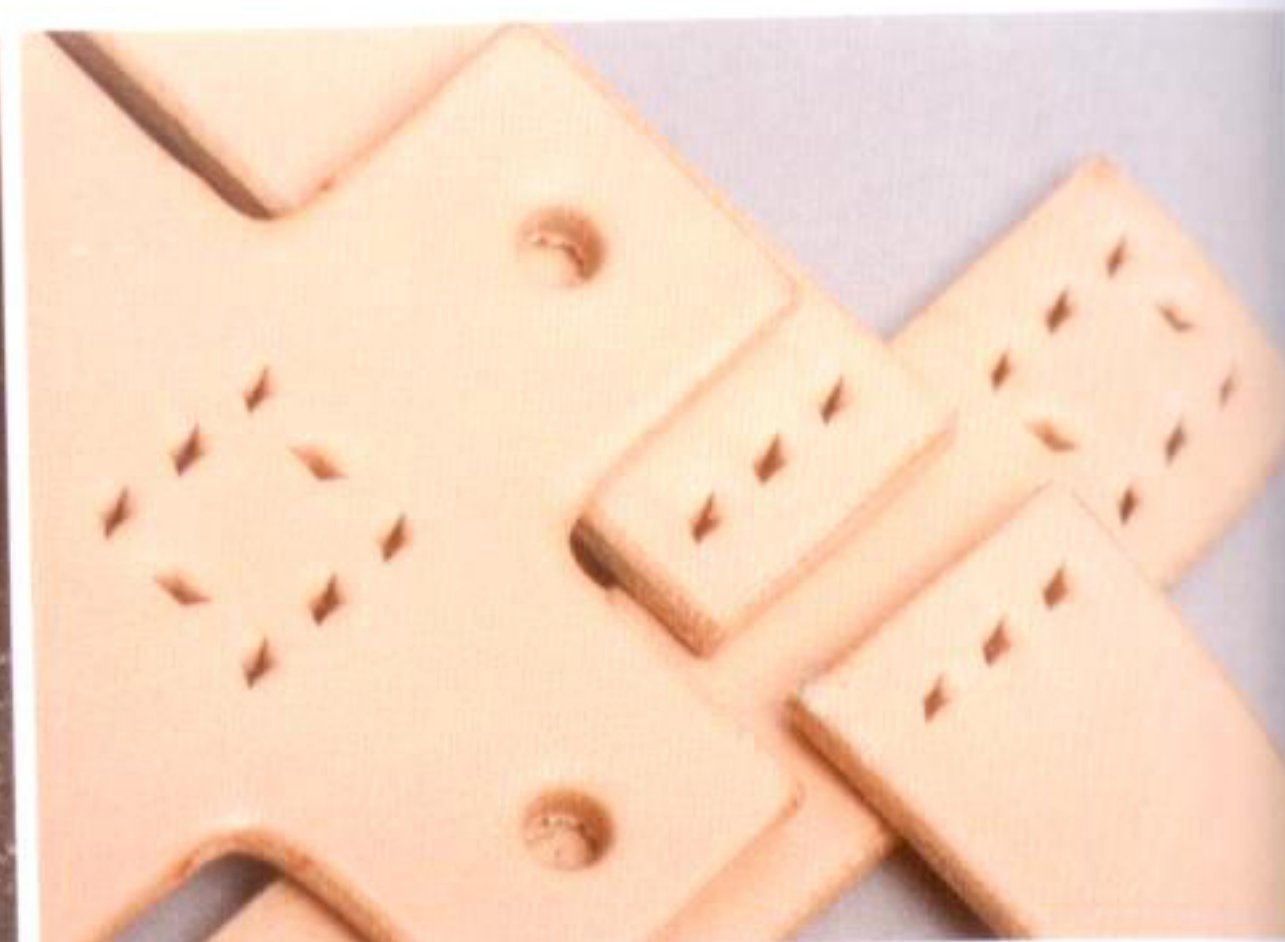
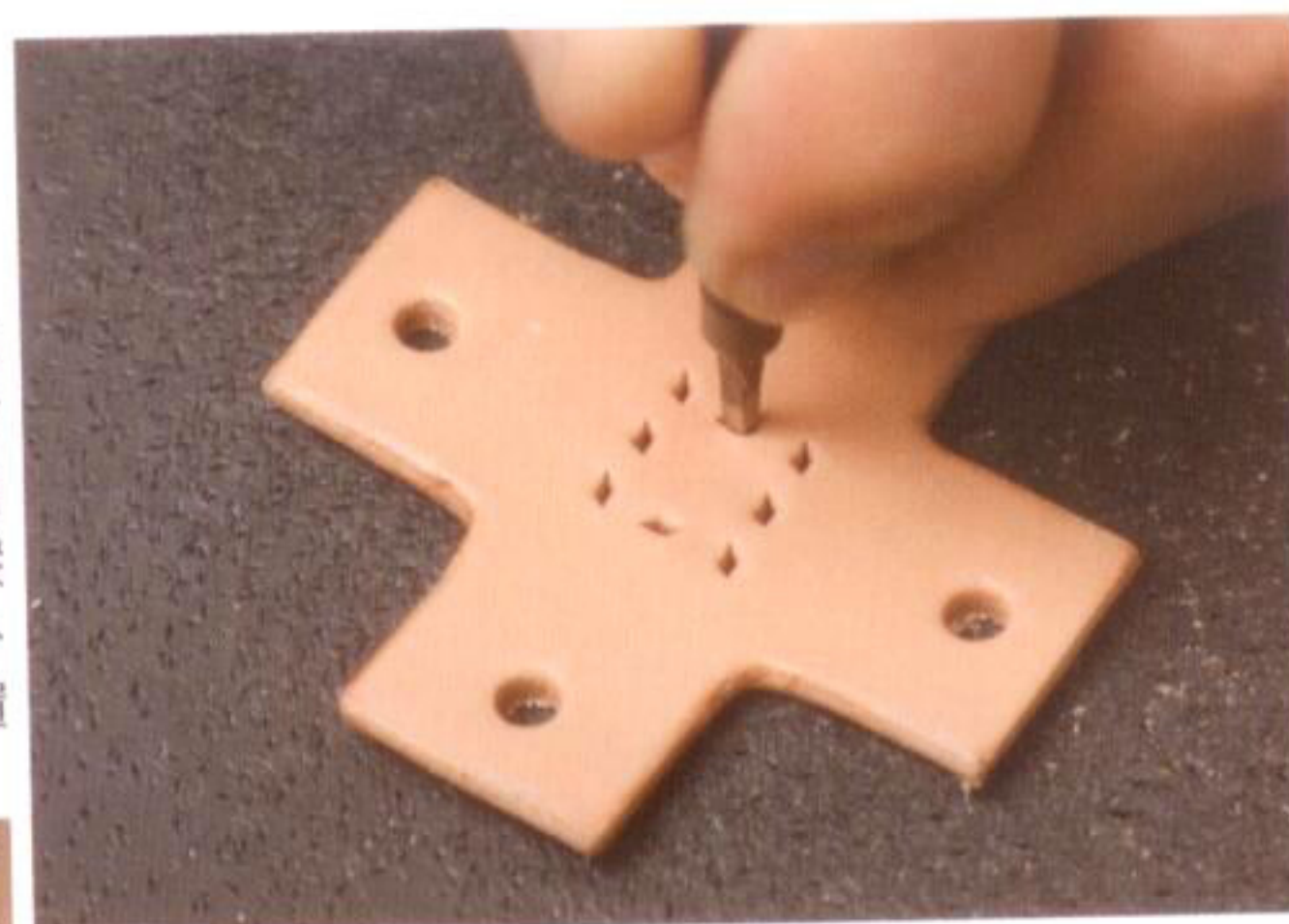


8

横ベルトの上下2本の両端には、2本ヒシ目打ちを使って3つの穴を開ける

ストラップベルトの中心は四角形にヒシメ打ちを打ち、センターは1本ヒシ目打ちを使用する。横と縦ベルト、ストラップベルトは右の写真のような位置関係で取り付けられる

9



全てのパーツにハトメ抜きで穴を開け、ヒシ目打ちを打った状態。型紙や103ページの寸法図を元にして、ヒシ目やハトメ抜きの位置を間違えないように気を付けること

10

パーツの組み立て

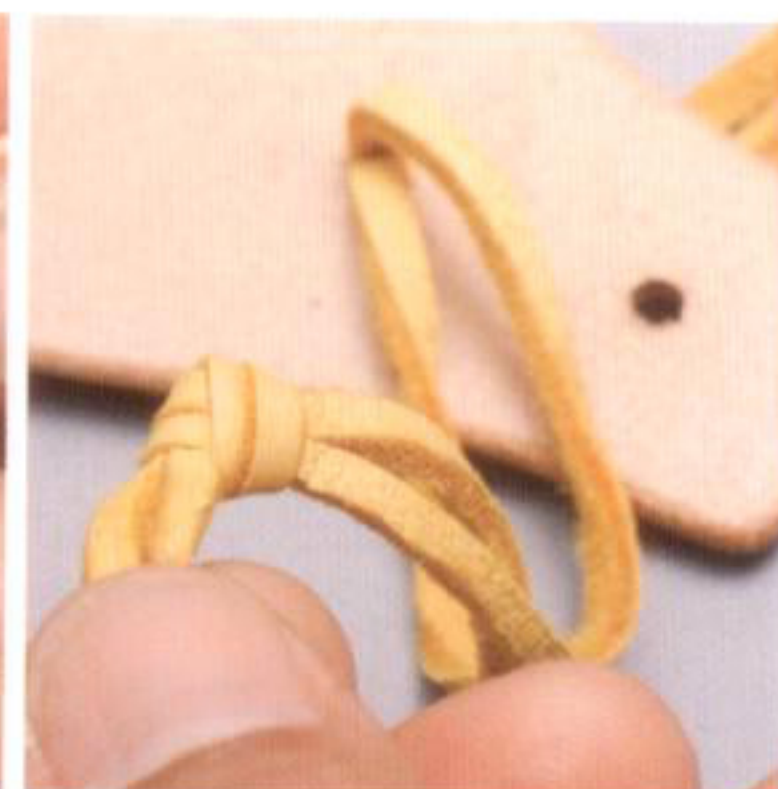
カシメと縫製で組み立てていく。組み合わせる順番や重ね方を間違えると作業しにくくなってしまうので注意しよう。



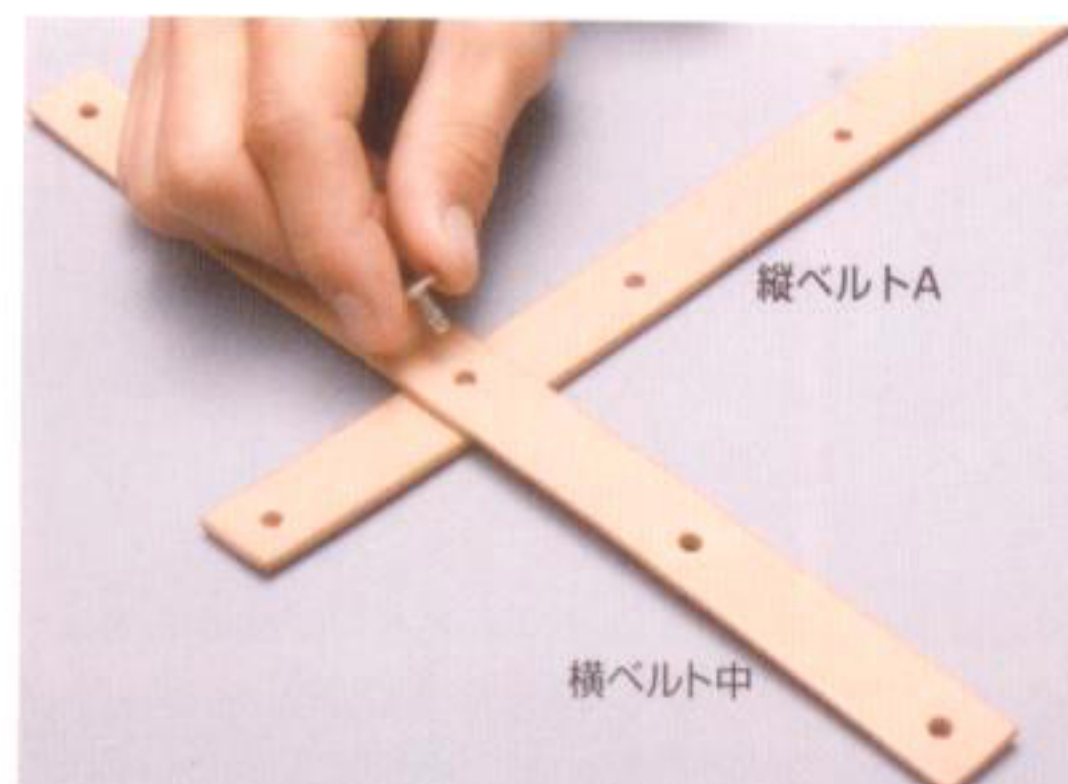
1 まずはじめに鹿ヒモを取り付ける。鹿ヒモの先端を斜めにカットし、指でよじって細くする



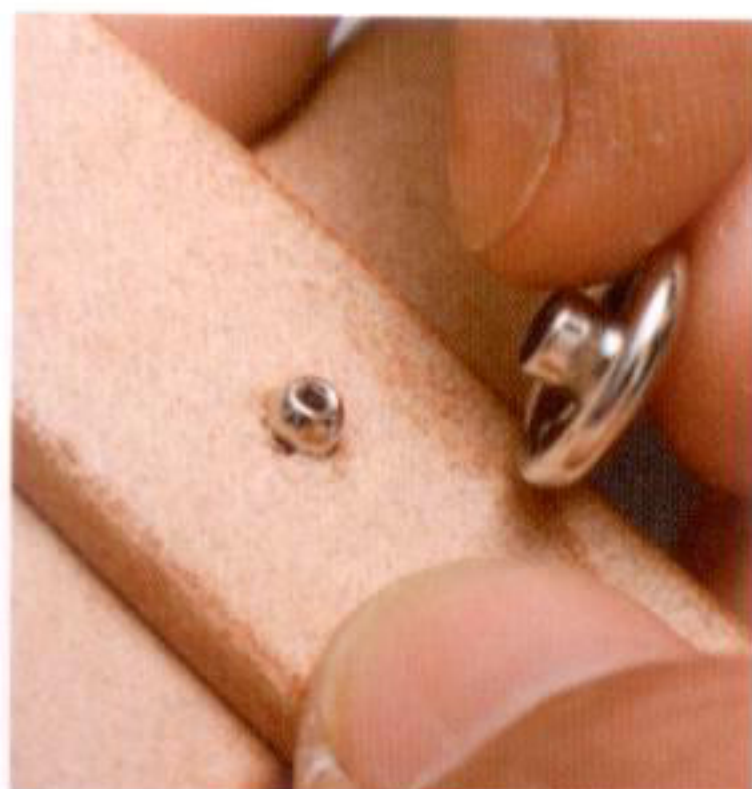
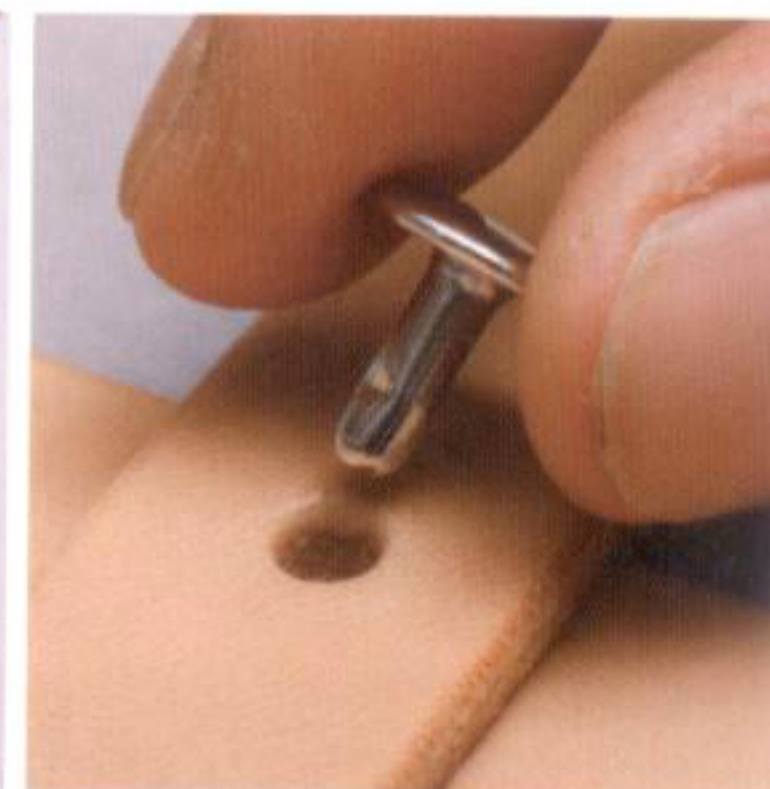
2 鹿ヒモを2本一緒にロゴの下穴に入れる。裏側に通したら2本一緒に結ぶ



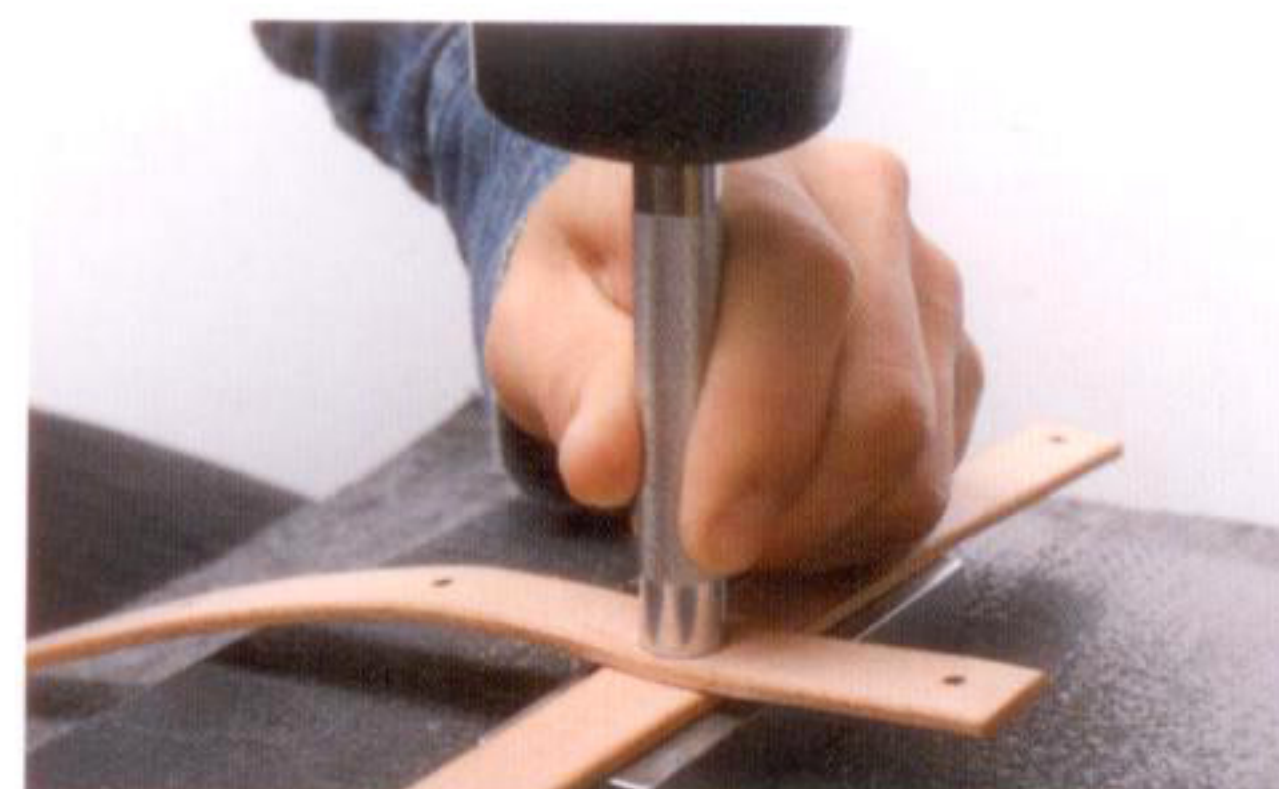
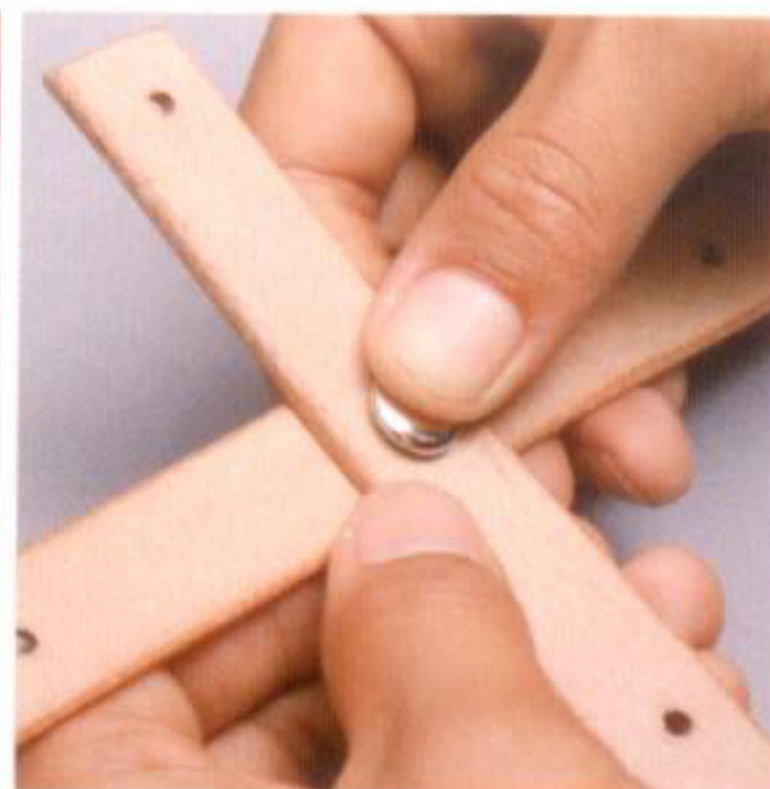
3 鹿ヒモの結び目から出ている余分な革は、適当な長さにカットする



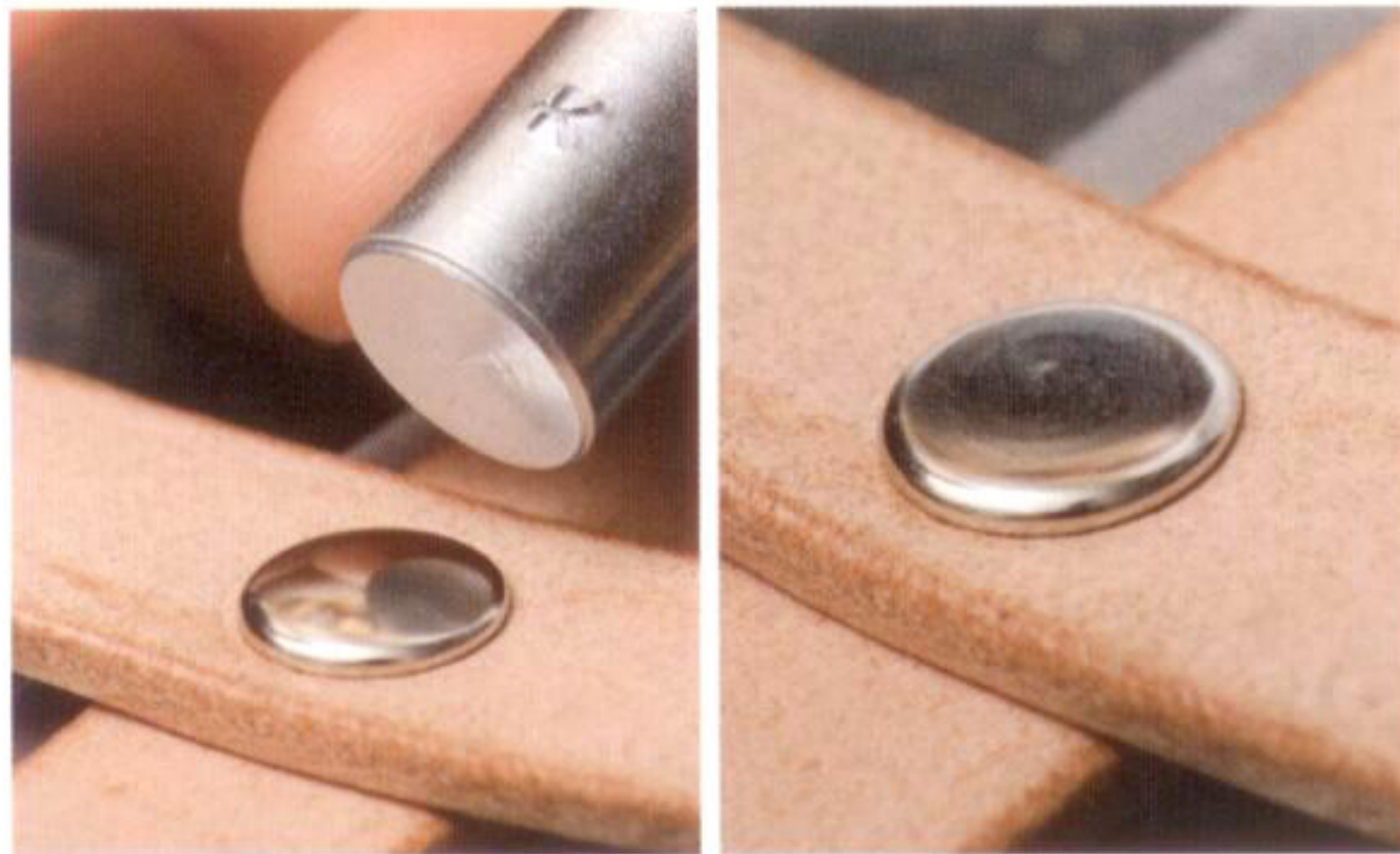
4 まずは縦ベルトAと横ベルト中を組み合わせる。縦ベルトAの2つめの穴に、横ベルト中の真ん中の穴を合わせてカシメを入れる



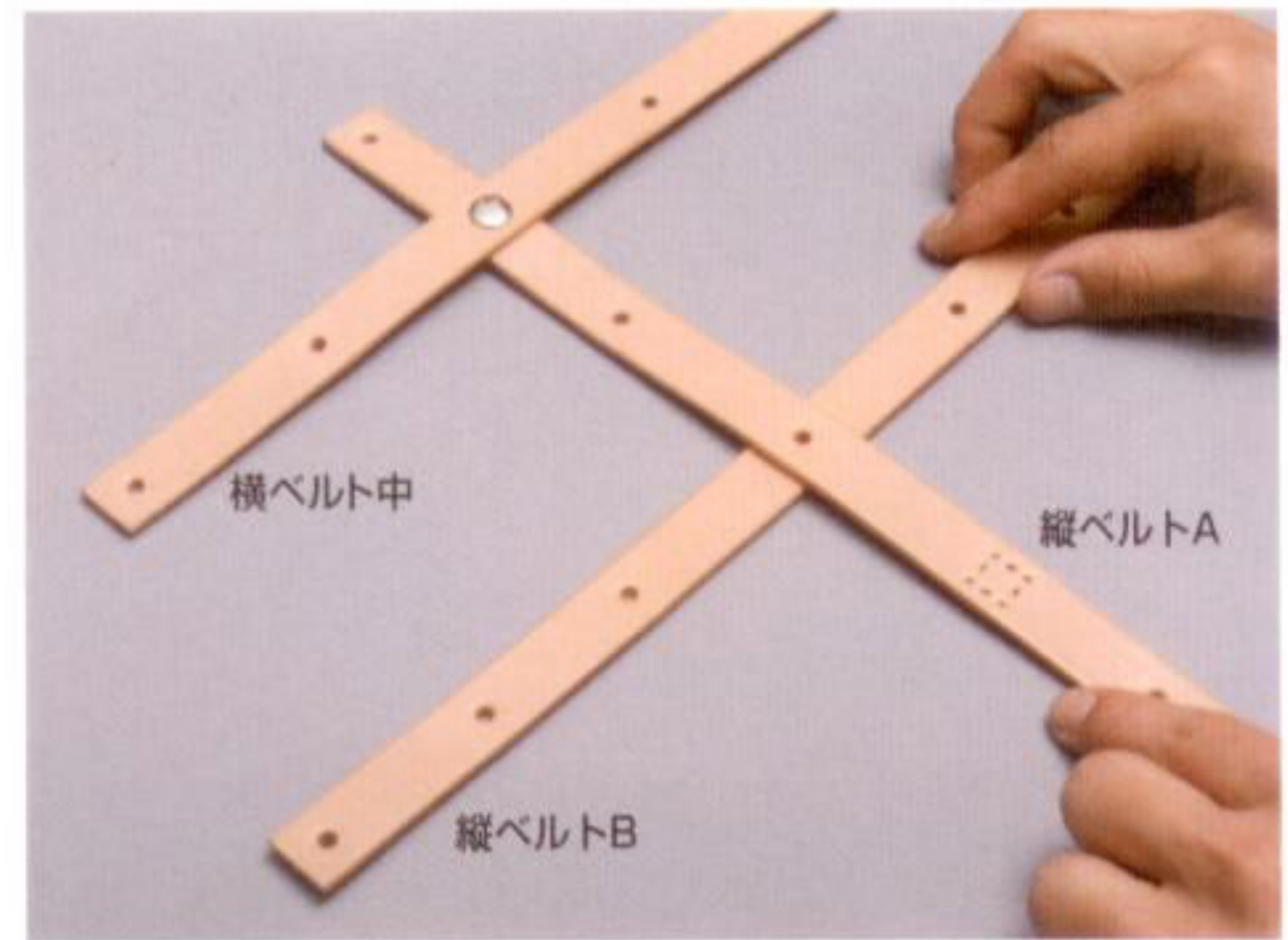
5 横ベルトが上、縦ベルトが下になるようにセットし、裏側からカシメのメスをはめ込む



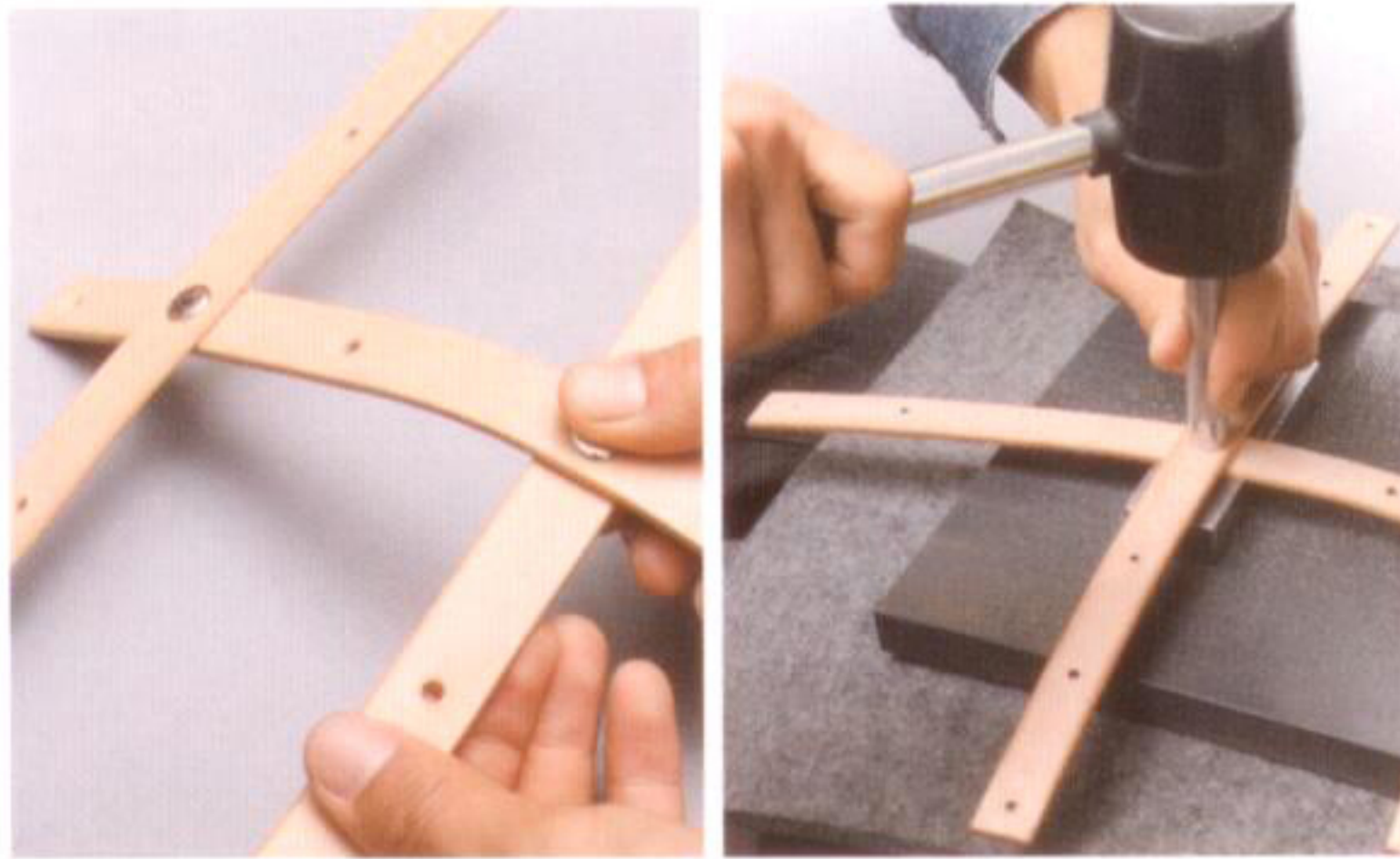
6 オールマイティプレートの上にセットし、裏側(メス)からカシメ打ち(大)で打つ



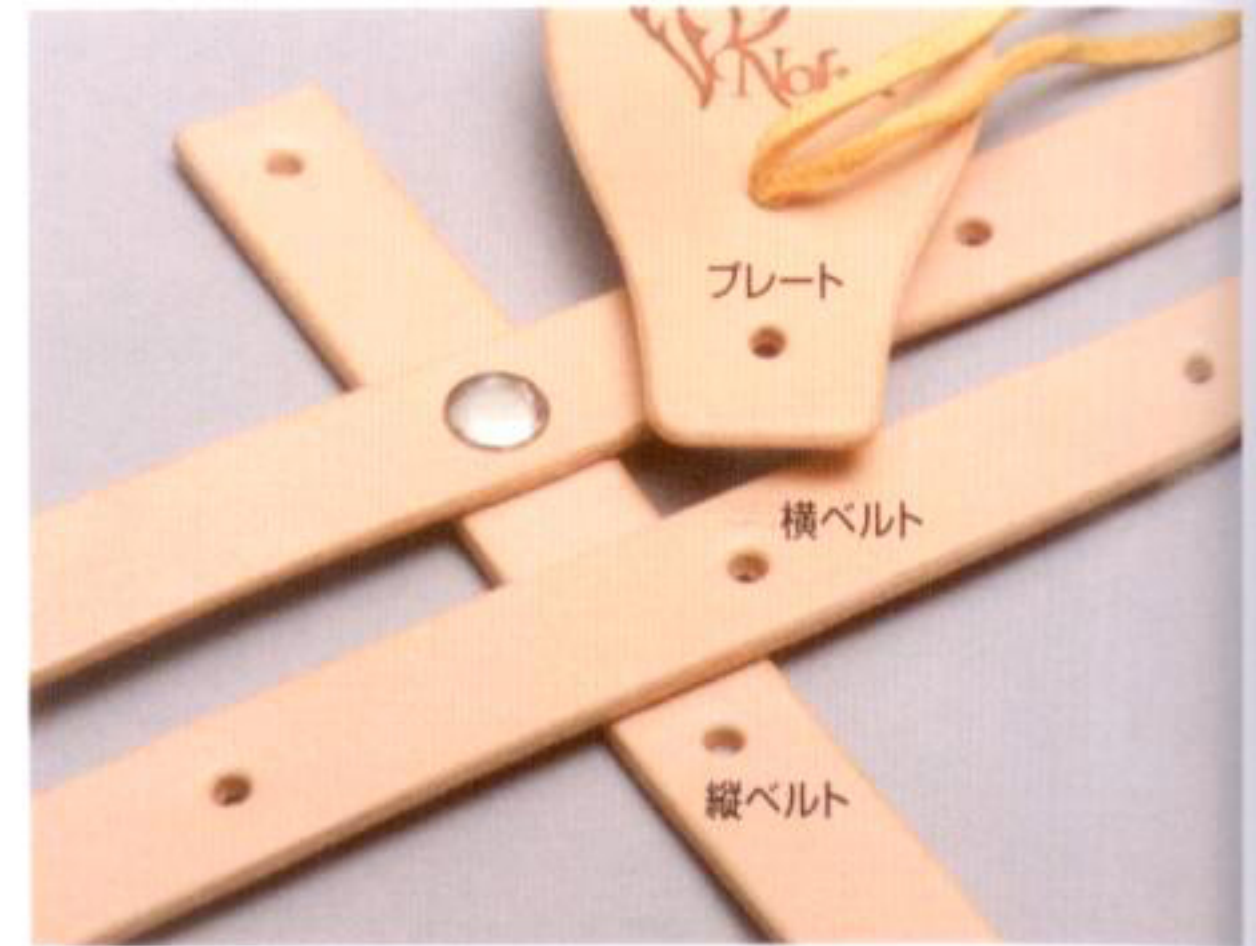
7 カシメたらカシメ打ちを逆にして、平らな面でもう一度カシメ(メス)を打ち、頭を平らにする



8 続いて縦ベルトBを縦ベルトAの下にセットする。穴はお互い真ん中に合わせる



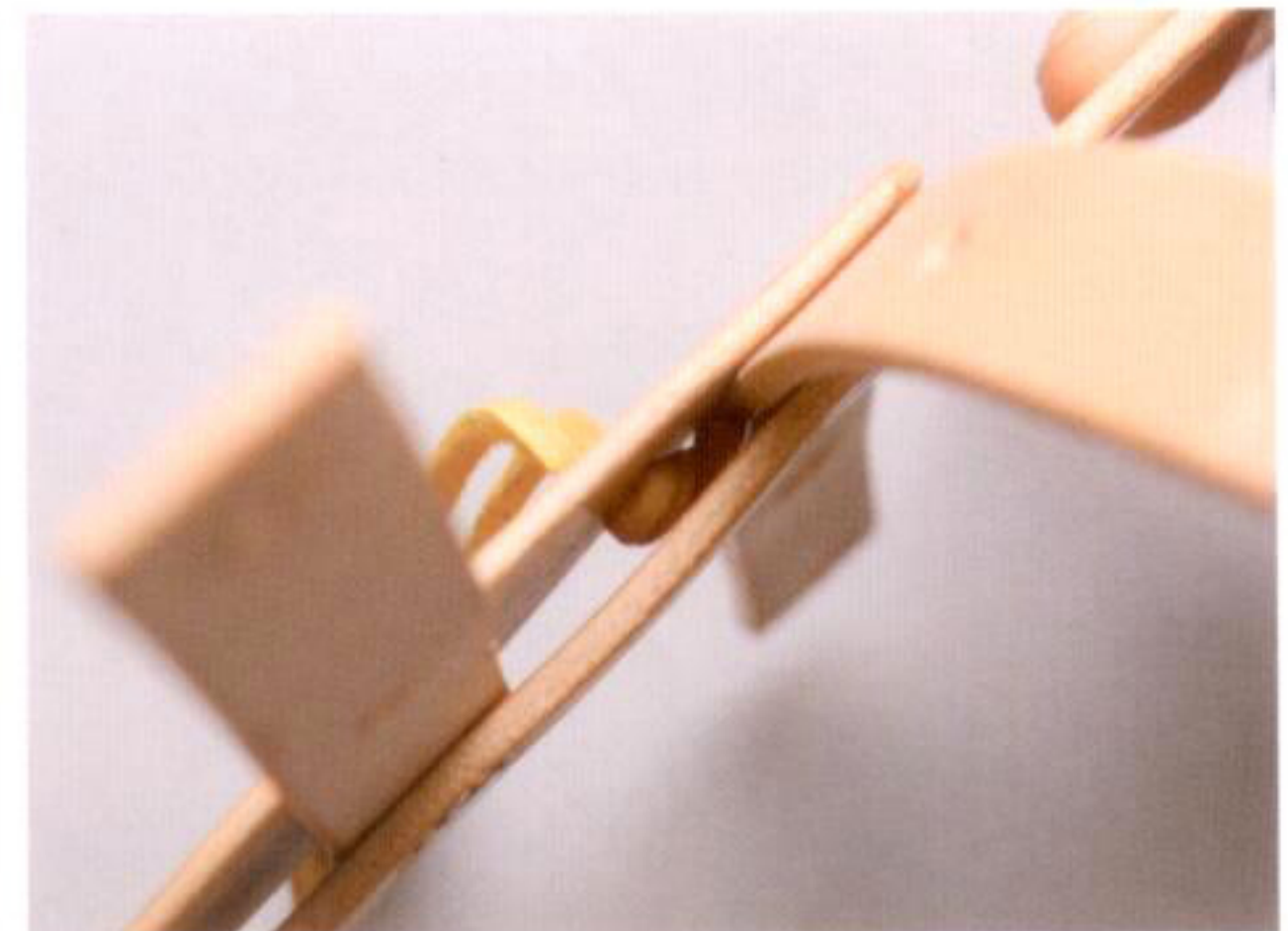
9 指でカシメをはめ込み、カシメ打ちでカシメる。**7** と同じように頭を平らにしておく。これはカシメ全てに行なう



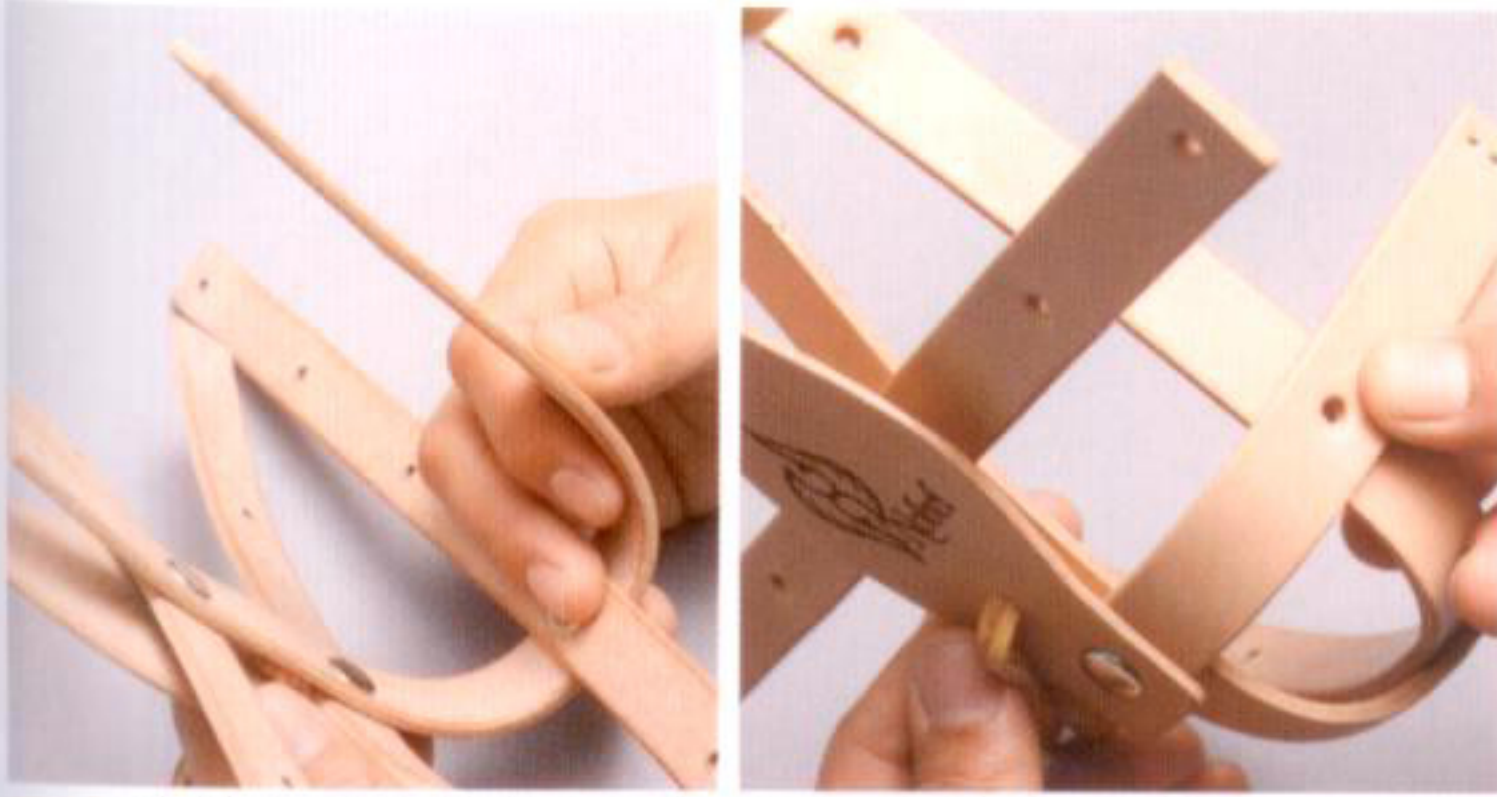
10 横ベルト下とロゴプレートを取り付ける。下から縦ベルト、横ベルト、プレートの順にセットする



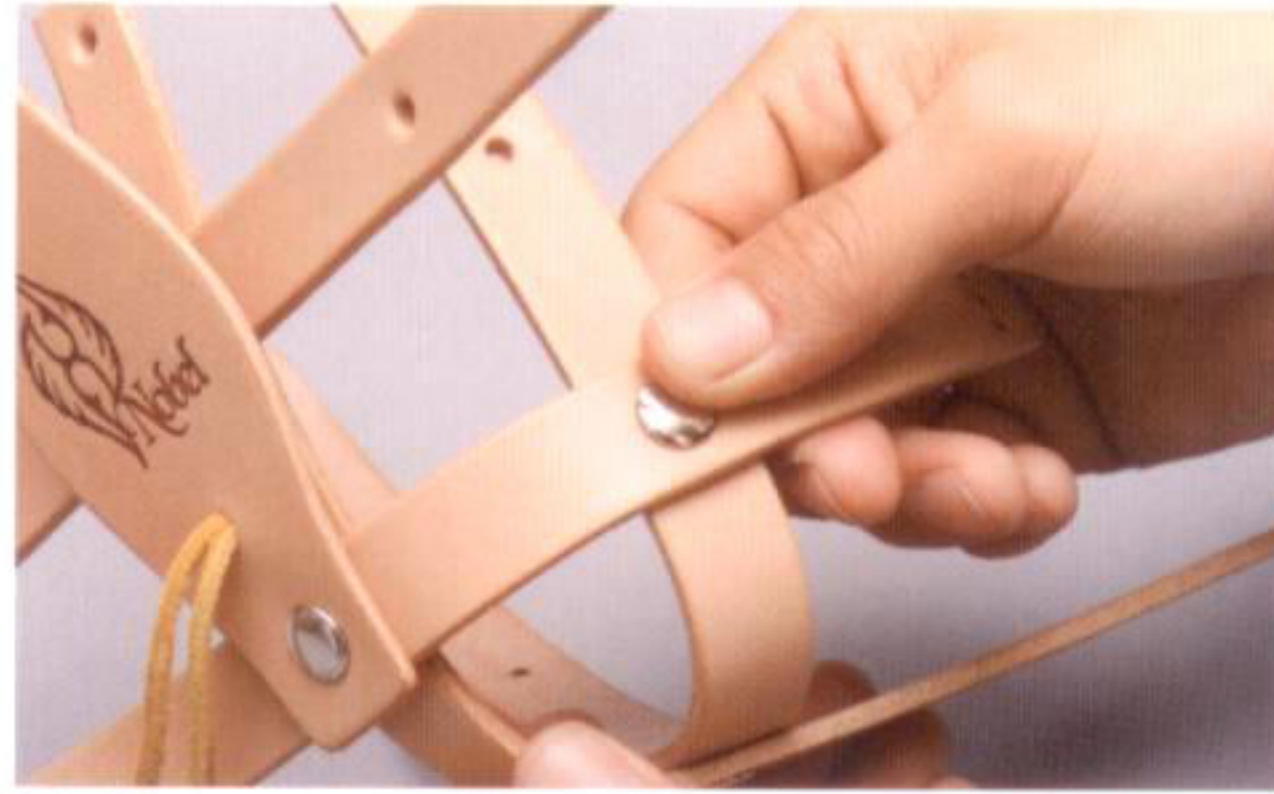
11 ここはパーツが3枚重なるため、足長のカシメを使用する。カシメ方はこれまでと同じ



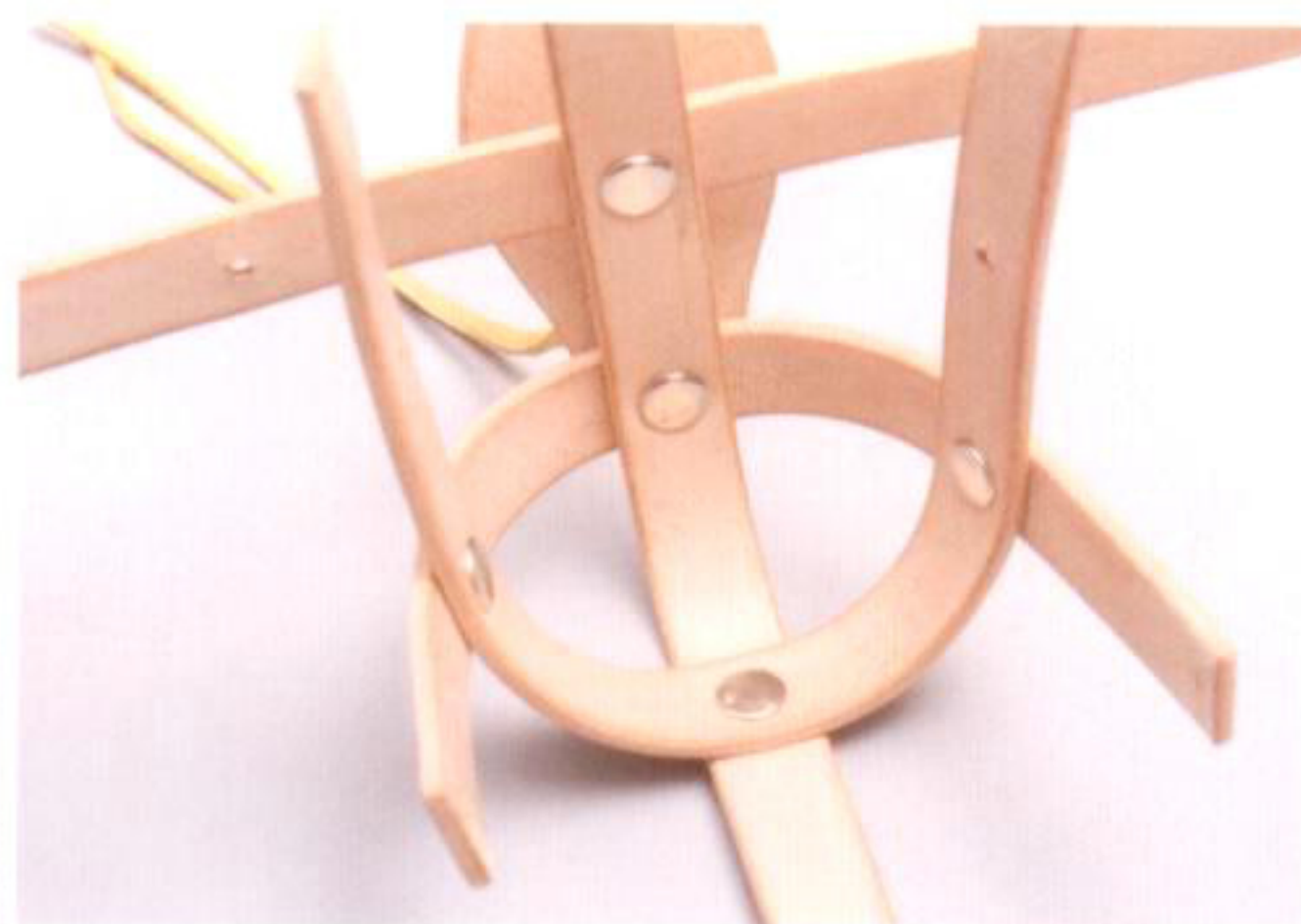
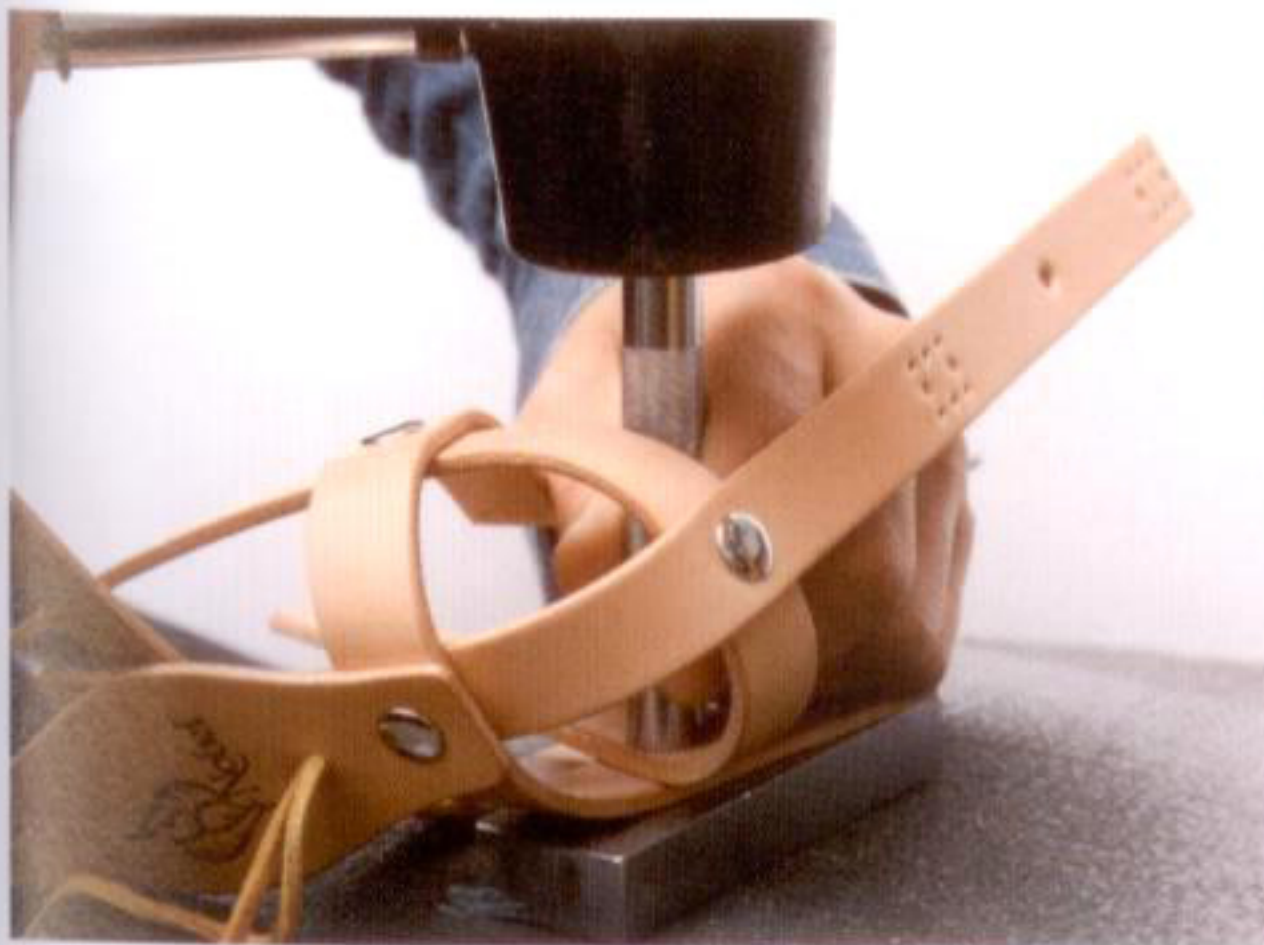
12 プレートを取り付けると、鹿ヒモの結び目はベルトの間に入り、目立たないようにしている



13 縦ベルトを折り曲げ、組み立てやすいようにくせを付けておく。縦ベルトは常に一番内側になるようにする



14 縦ベルトBと横ベルト下の両サイドをカシメる。横ベルトを縦ベルトの上にセットする

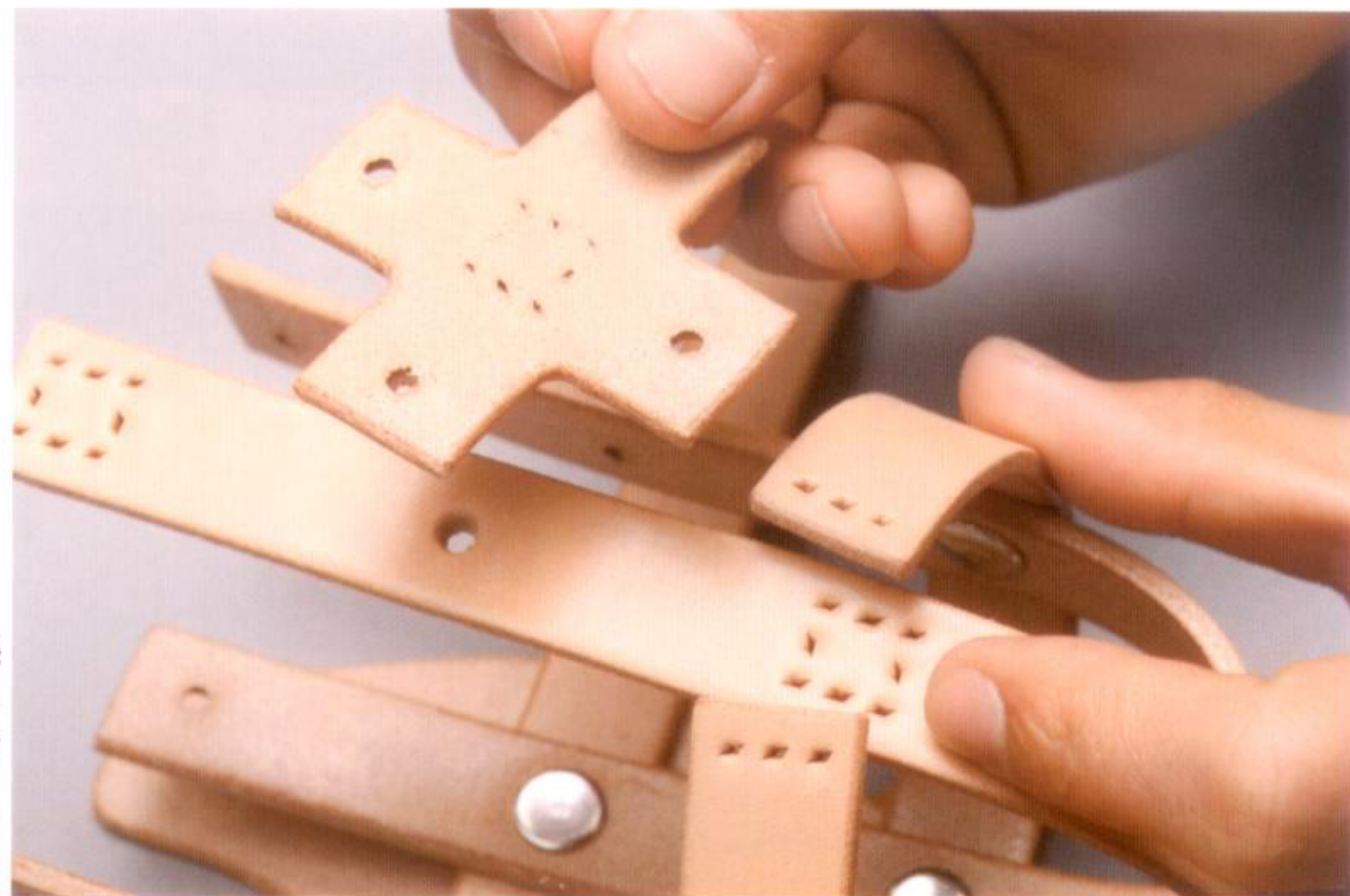


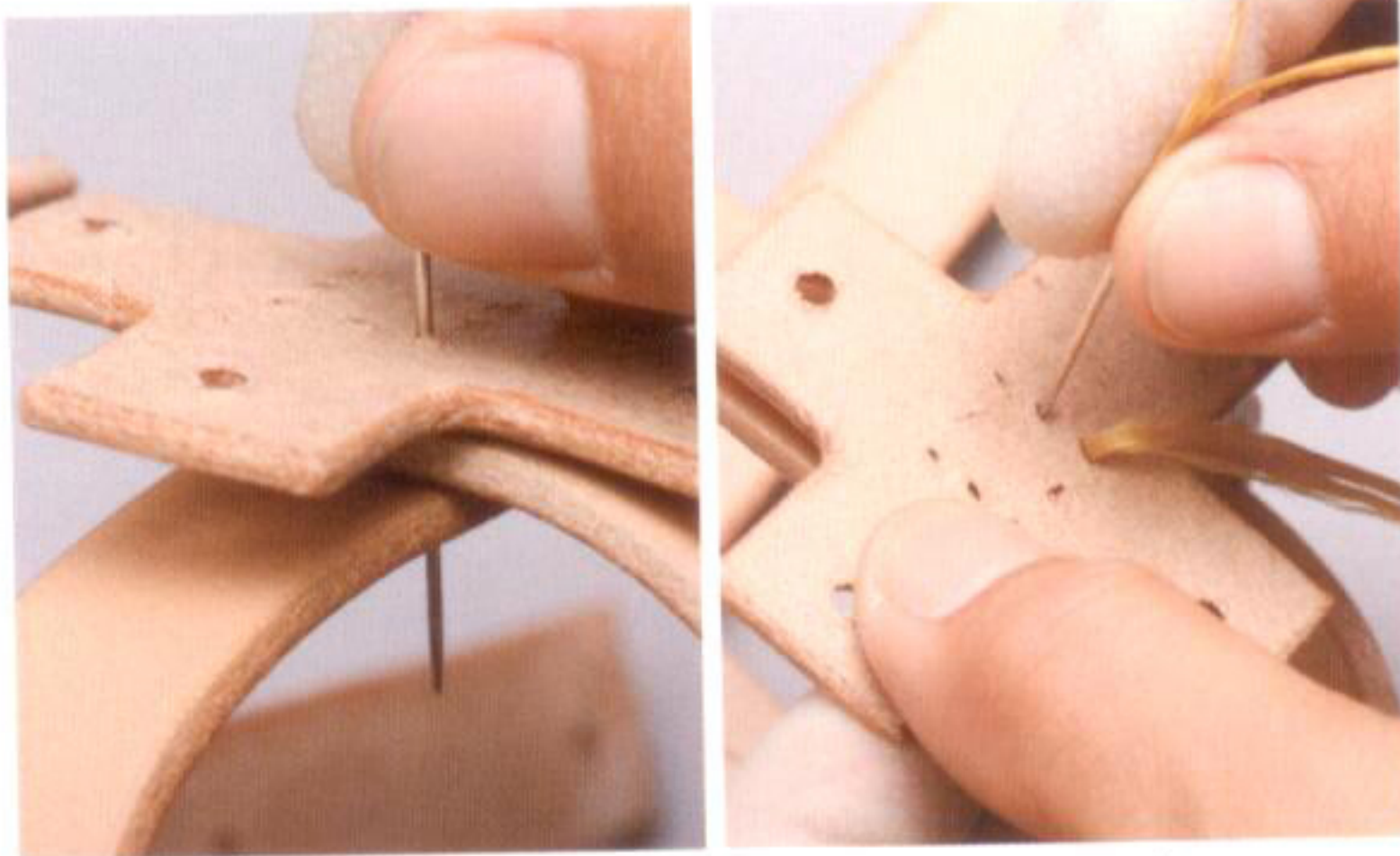
カシメ打ちを使ってカシメていく。カシメ打ちが打ちにくい場合は、ベルトを曲げて打てば良い

15

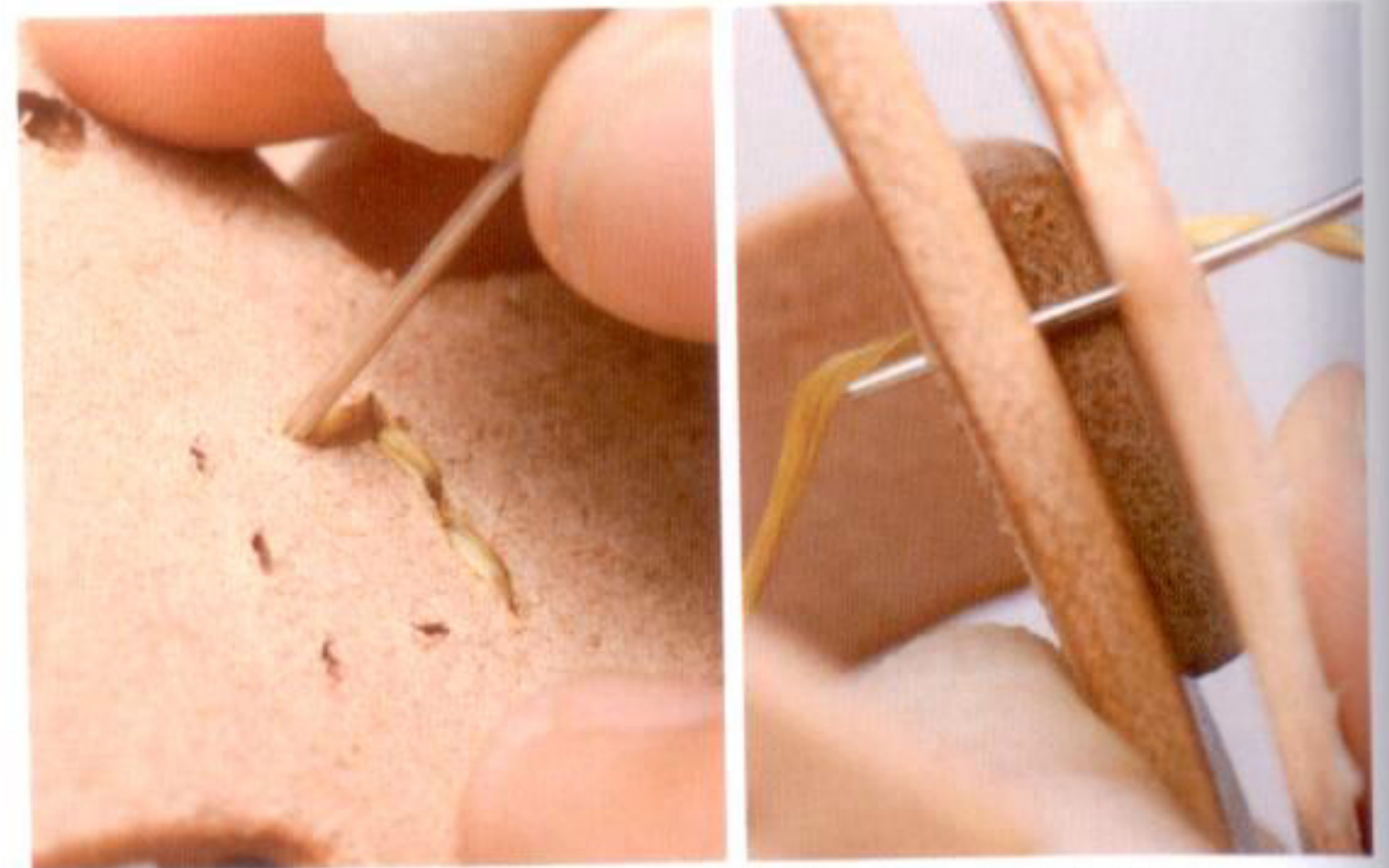
ストラップベルトは糸で縫って取り付ける。位置関係は写真の通り。下から縦ベルト、横ベルトA、ストラップベルトの順だ。ストラップベルトは縫い穴の位置を縦ベルトAと合わせ、床面を外側にして取り付ける

16

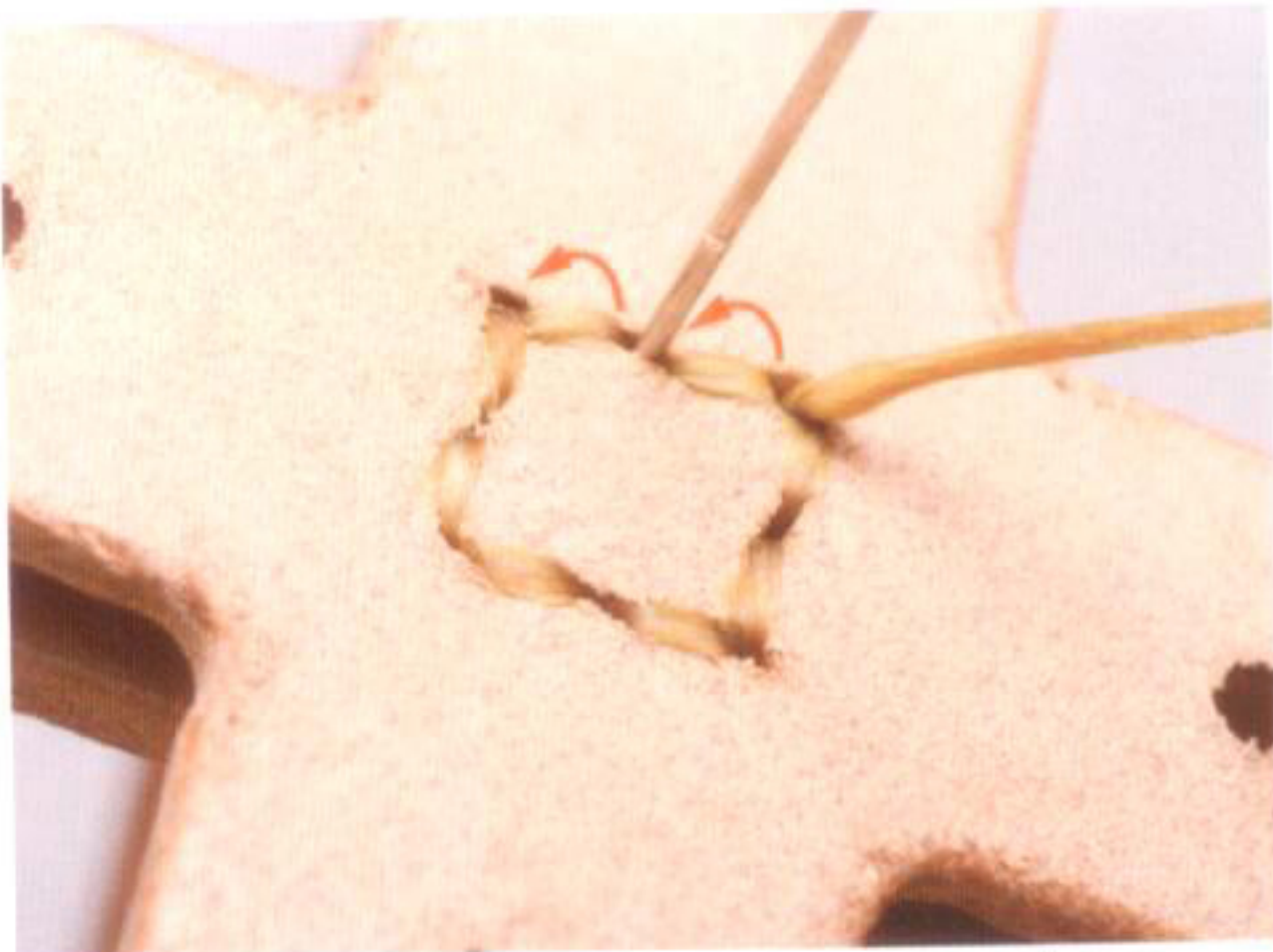




17 針と糸を用意して角から縫っていく。今回はシニュー糸を使用したけど、もちろん麻やナイロンでも良い



18 1本ヒシ目打ちで打った真ん中の穴は、ストラップベルトと縦ベルトの2枚のみを縫い合わせる

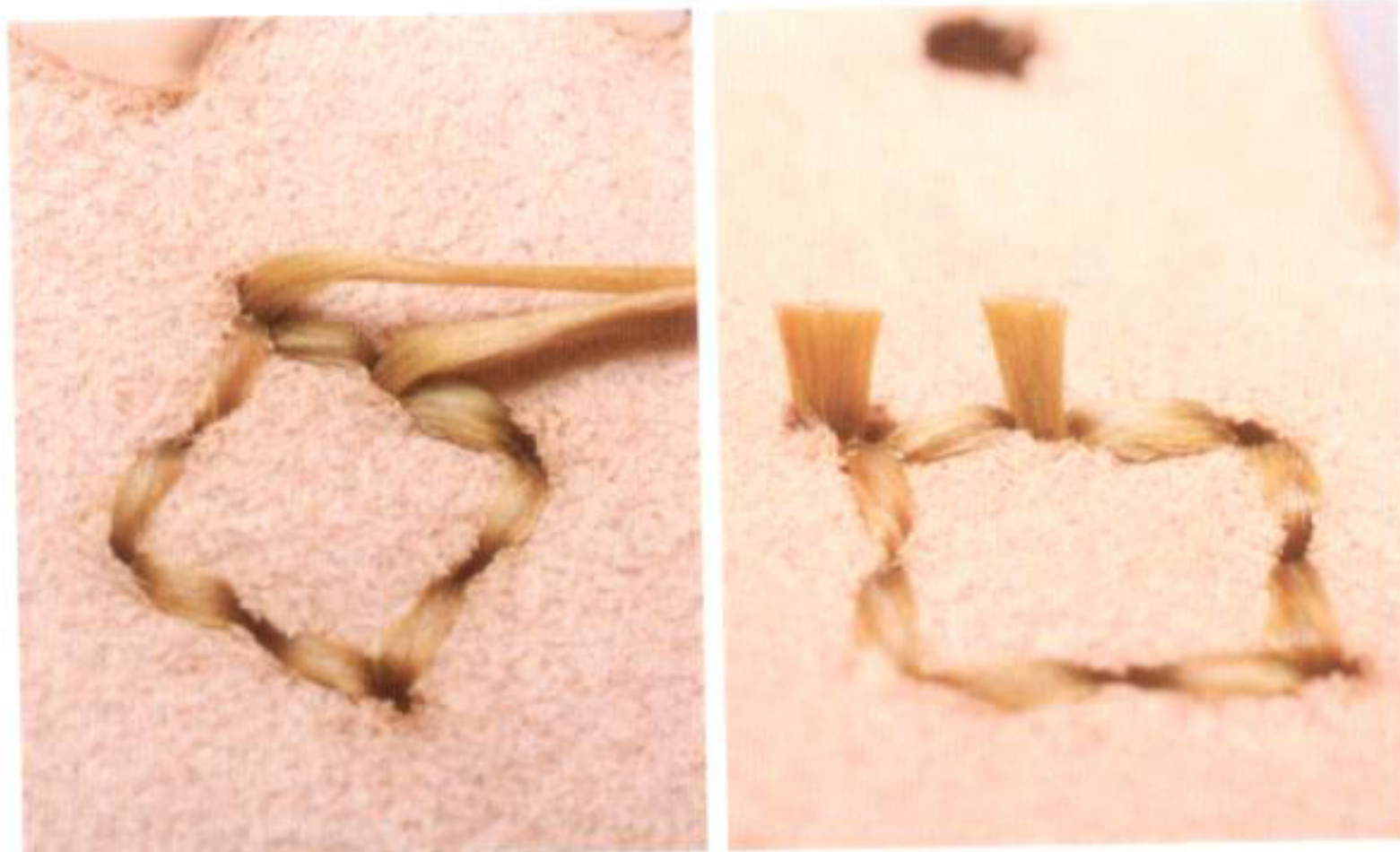


19 1周縫ったら、今回はそのまま2目分縫い進んでいく。ここは縫い返しても良い

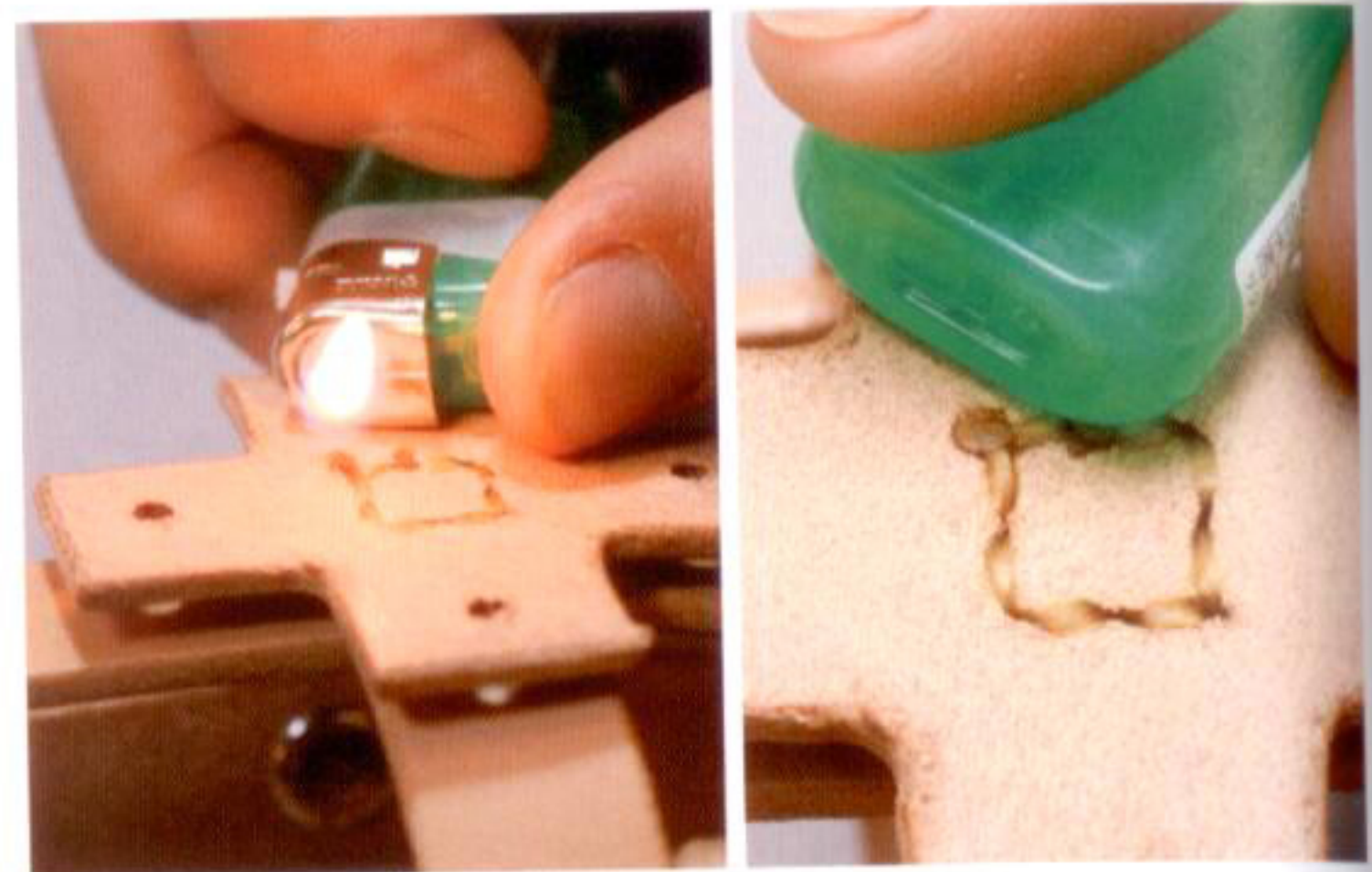
POINT



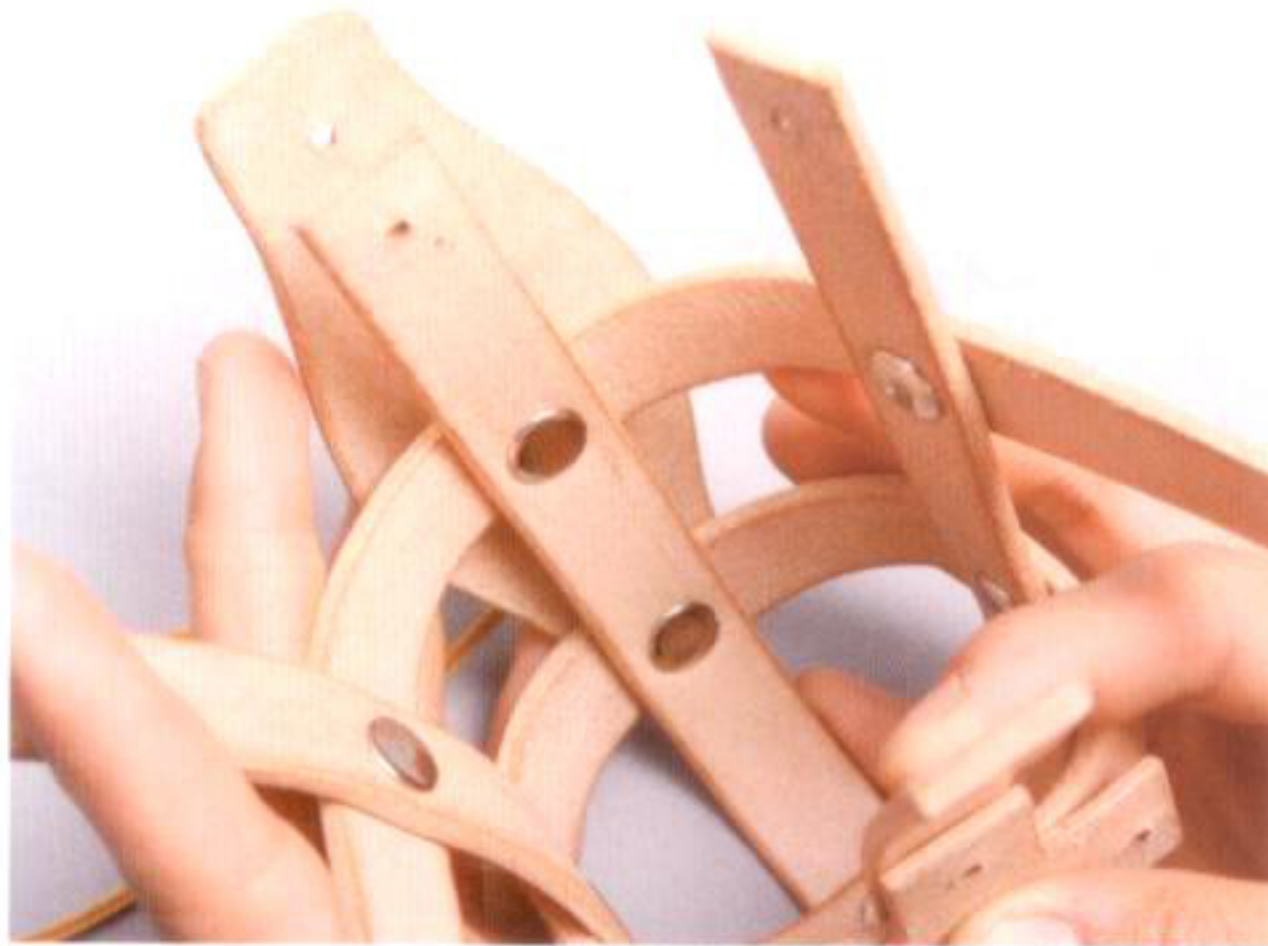
20 3枚の革を二重に縫う場合、目が詰まって針が通りにくいので、ラジオペンチ等で引き抜くと良い



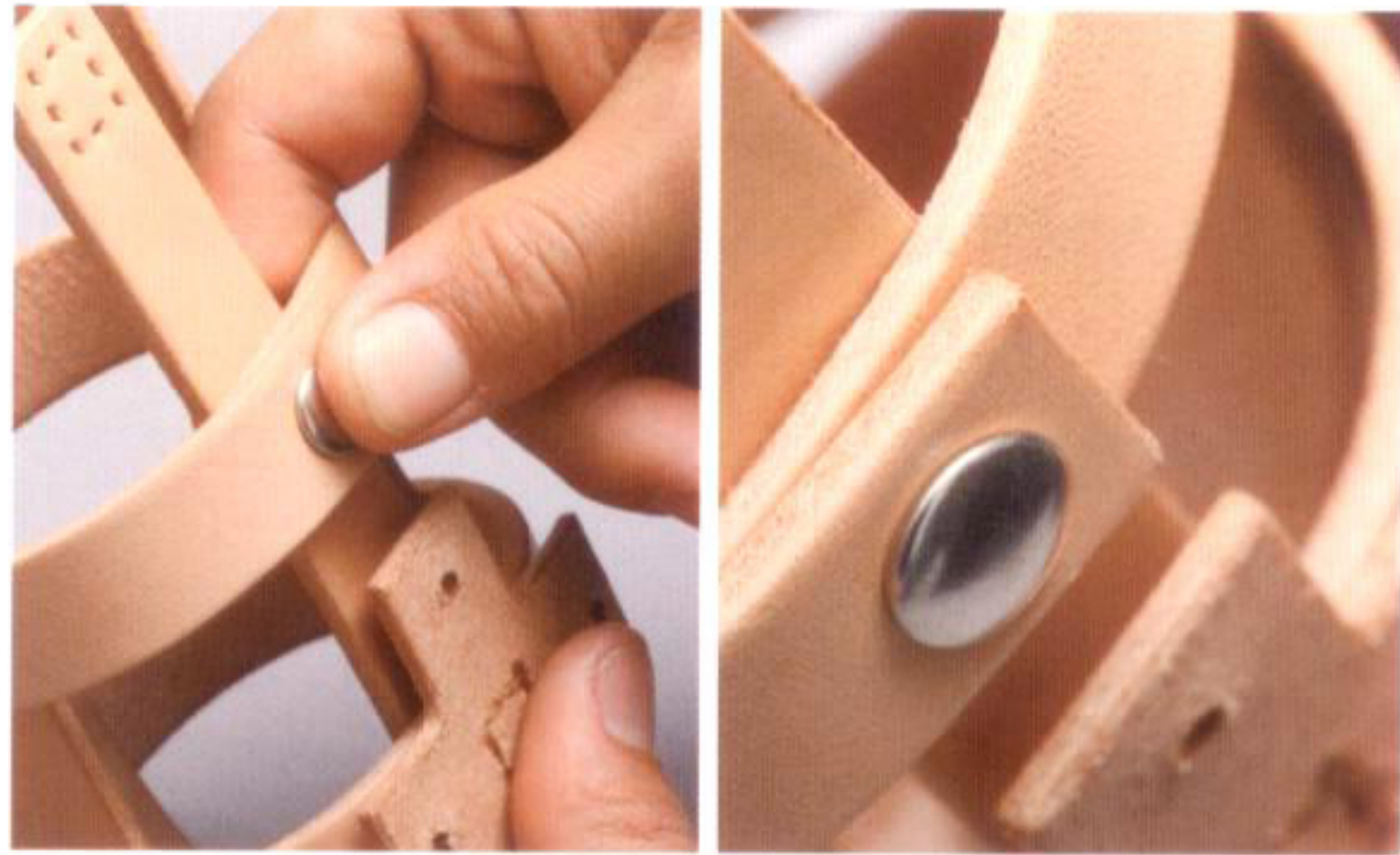
21 2目分縫い進んだら、両方の糸を外側に出した状態でカットする。2~3mm程度残すと良い



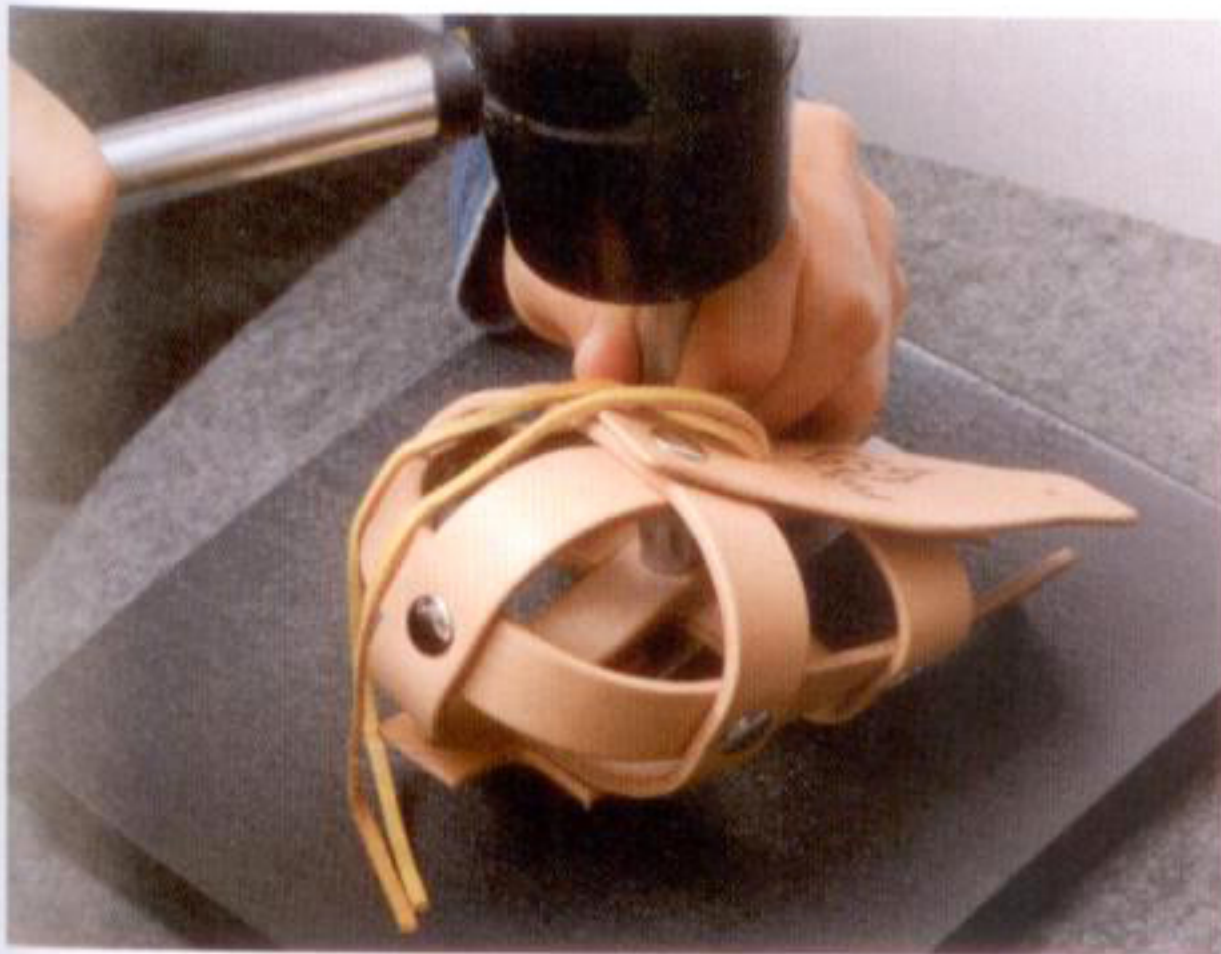
22 余ったシニュー糸をライターであぶって溶かし、押しつけて潰す。これで糸は外れなくなる



23 横ベルト中と縦ベルトBをカシメる。他と同じようにカシメたら頭を平らに潰しておくこと



24 横ベルト中の後ろ側は、ストラップベルトが付かないので横ベルト同士を重ねる。ここも足長のカシメを使う



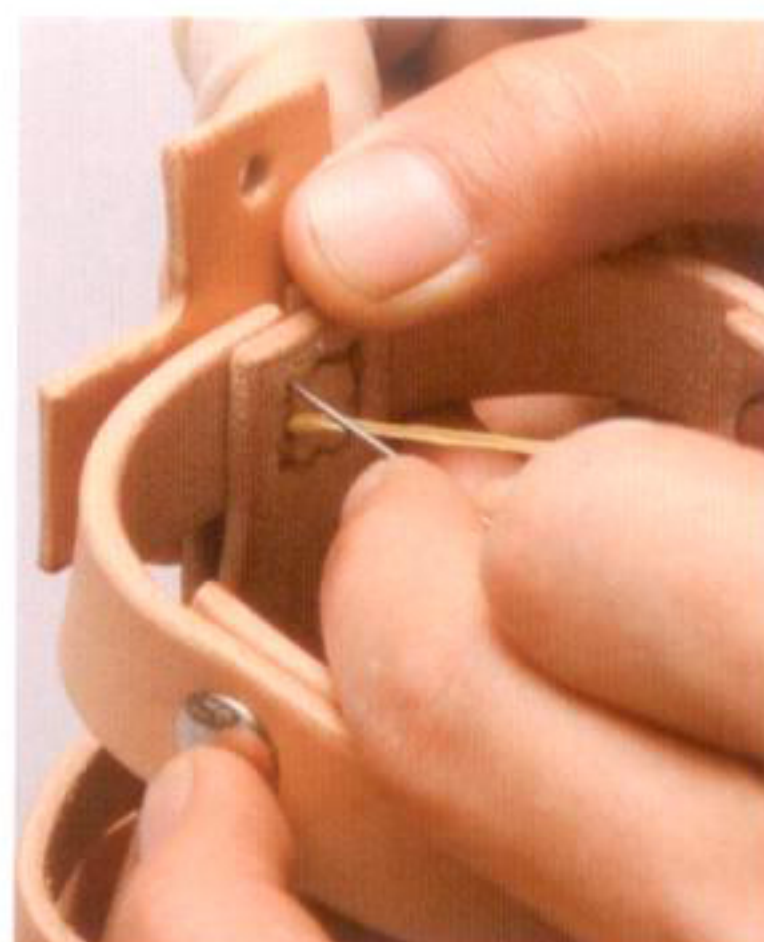
25 徐々にベルトが閉じてくるためカシメ打ちが使いにくくなるが、まっすぐ正確に打つこと



26 最上部をカシメる。プレート部分のカシメは足長を使用する。ベルトの重ね方を間違えないように



27 下のストラップベルトと同じように、上のストラップベルトも縫いつけていく

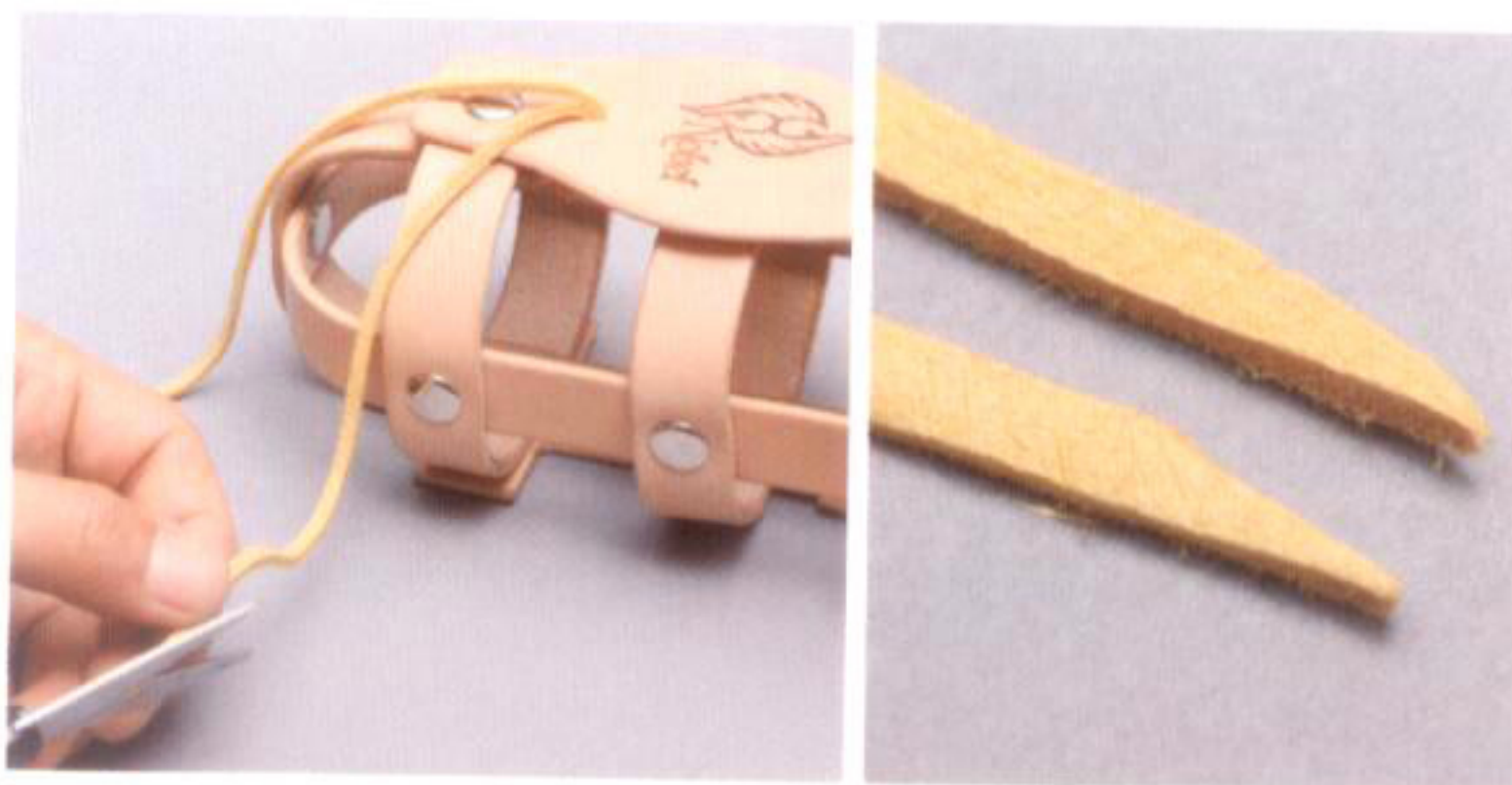


28 最後は2目分進んで縫い重ね、ライターで糸を溶かして留める。これで本体の組み立ては終了となる

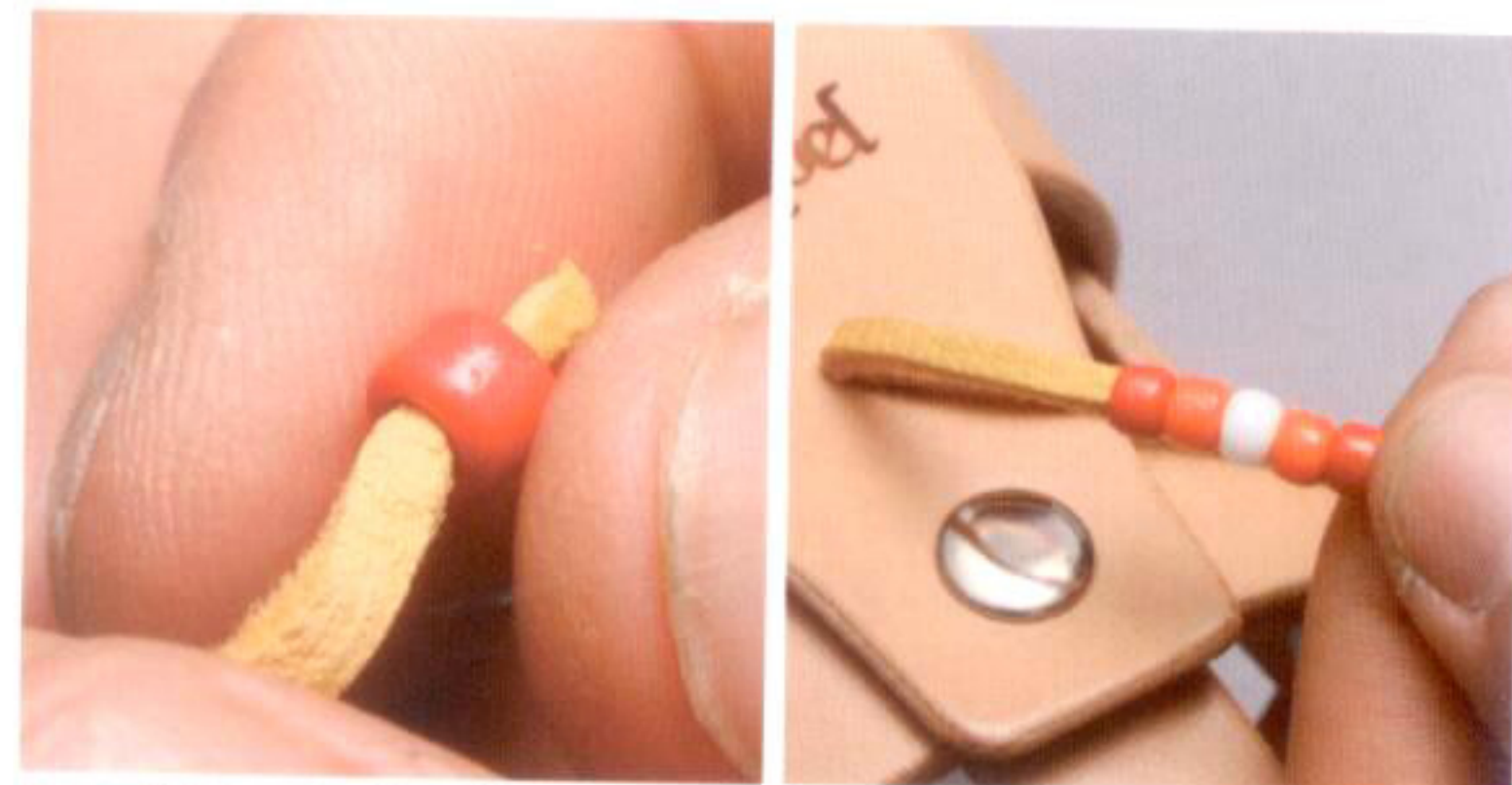


仕上げ

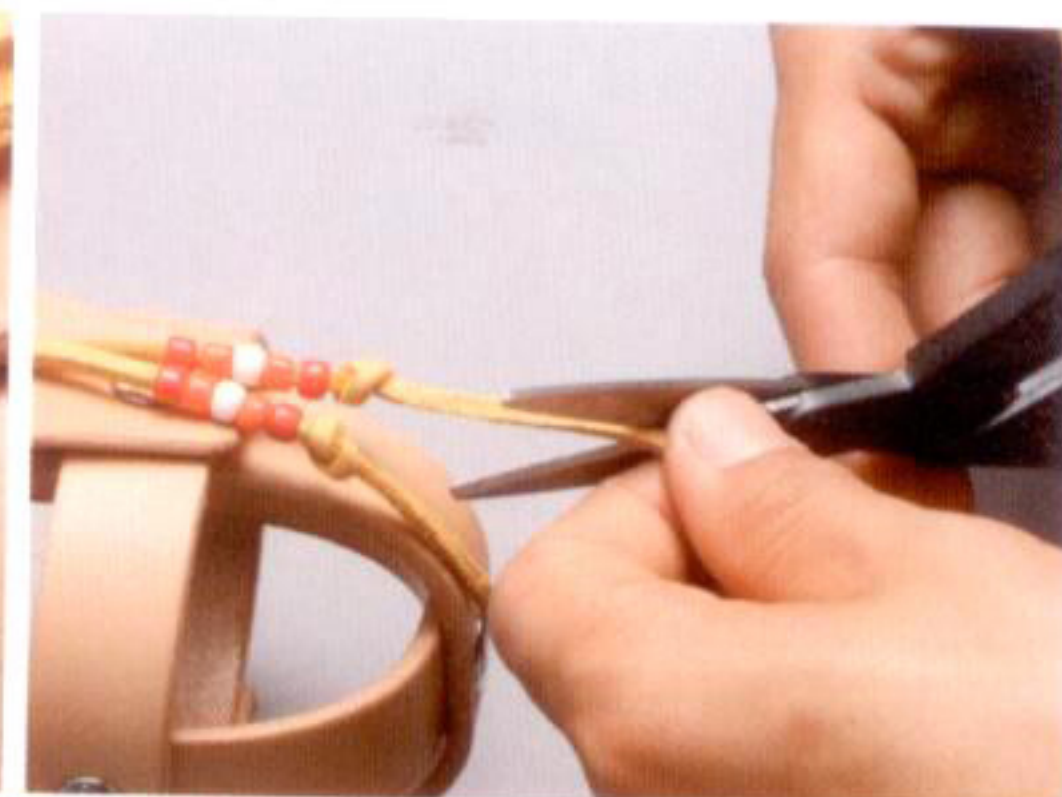
本体が完成したら、あとは飾りのビーズとドリンクホルダーを固定するための牛レースを取り付ける。



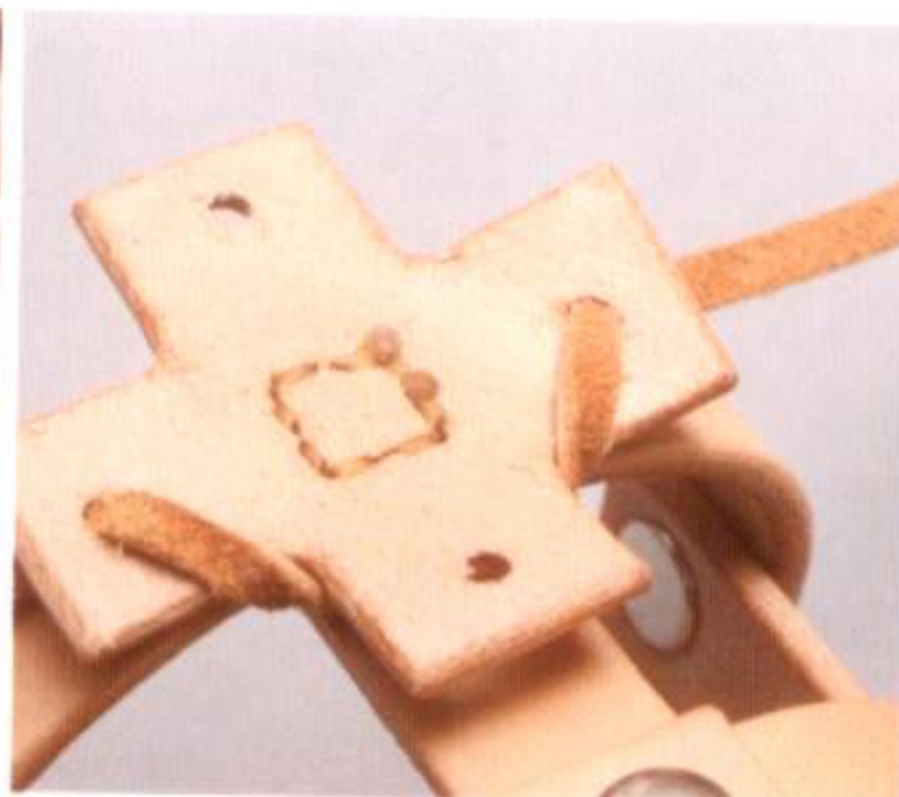
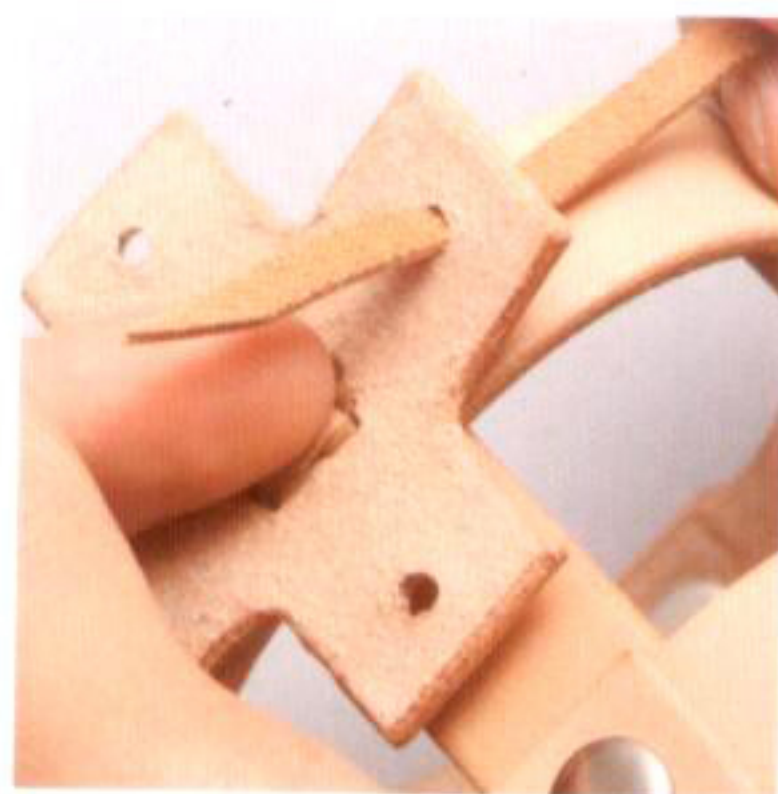
1 ビーズが入りやすいように、ロゴプレートに取り付けた鹿ヒモの先端を斜めにカットする



2 鹿ヒモにビーズを入れる。色や個数は好みに調整すると良い。革の色に合わせても良いだろう



3 適当な位置にビーズを入れたら、固結びをしてビーズが落ちないように処理する。結び目の下は長すぎると格好悪いので、適当な長さにカットしておく。このとき斜めにカットするとスッキリとしたシルエットになる



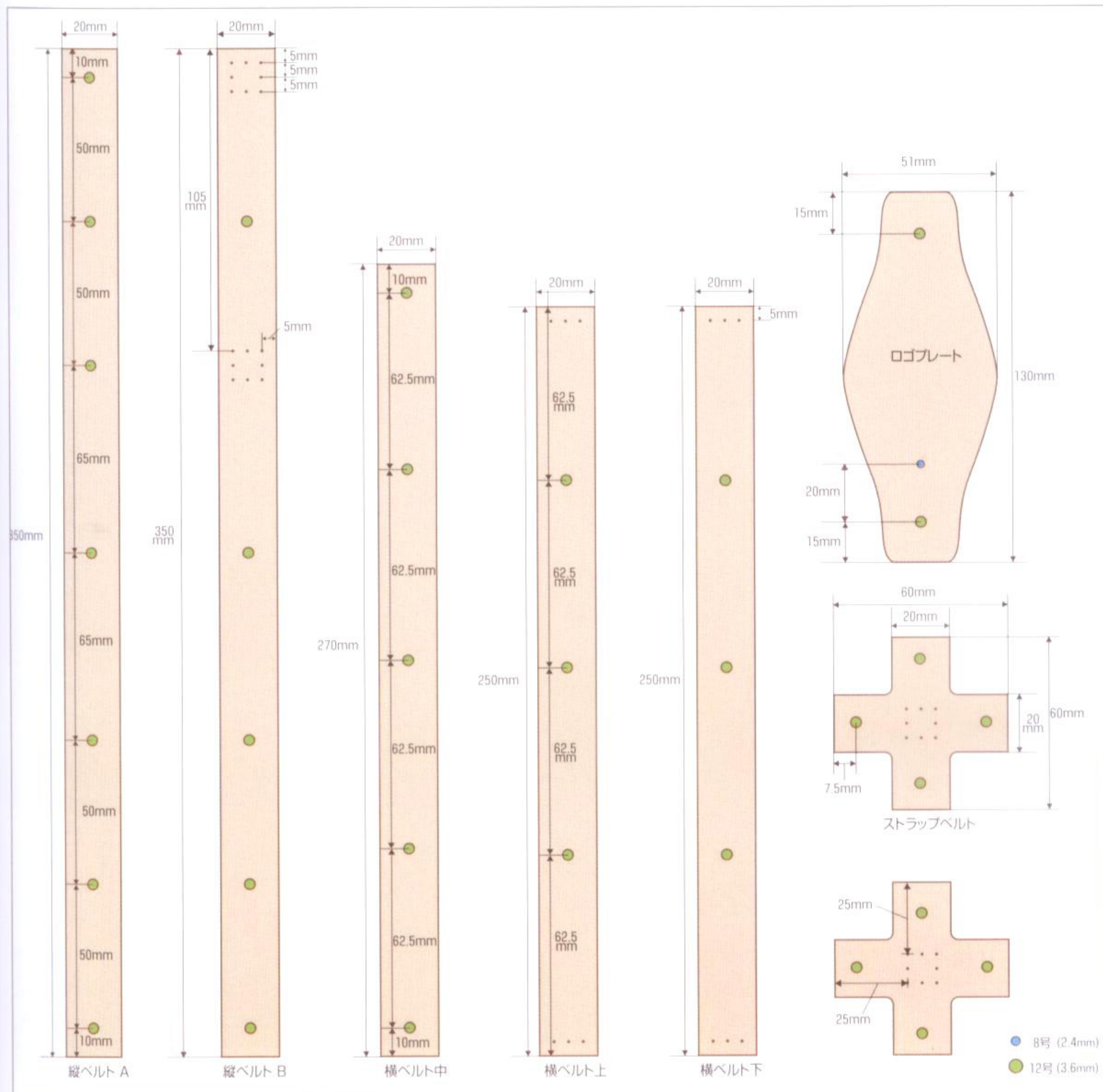
4 牛レースの先端を斜めにカットし、写真のようにストラップベルトに通す。ベルトの下に引っ掛けると安定する



5 これで完成。ストラップは十字になっているため、縦横どちらでも取り付けることができる

寸法図

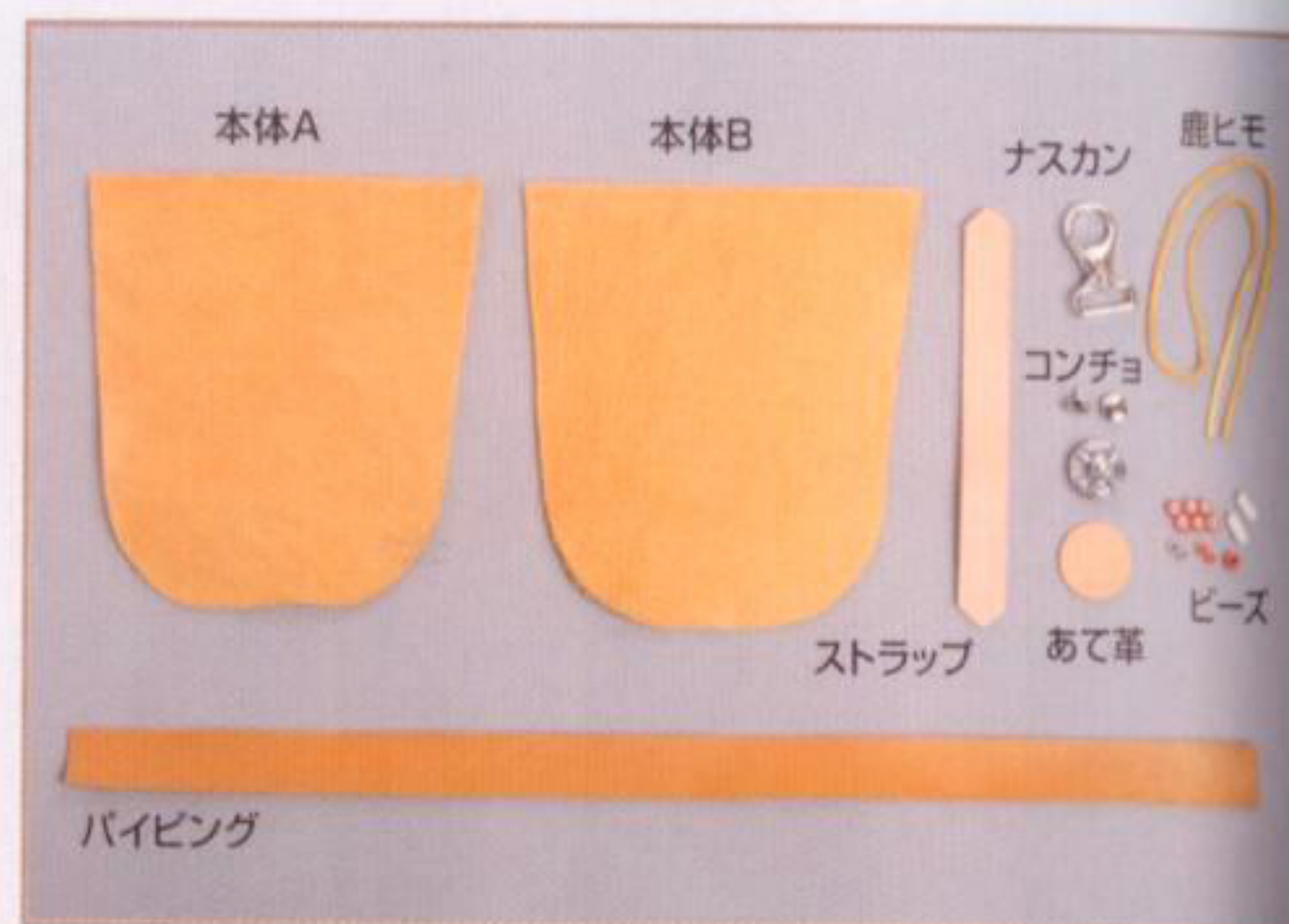
この図は250%に拡大するとほぼ原寸大になる。ただし、あくまでも目安であり、革の厚みや質によって調整が必要。



DEER SKIN POUCH

鹿革ポーチ

しなやかな肌触りのディアスキン。使うほどに馴染んで加工も容易なため、牛革の次に人気が高い。携帯電話やタバコなど、身近な必需品を入れるのにもってこいのレザーアイテムだ。



本体には2.5mm厚の鹿革、パイピングは2mm厚のオイルレザー、ストラップは3mm厚のサドルレザーを使用。ナスカンやコンチョ、ビーズなどは、好みのデザインや色に変更しても面白いだろう。また、鹿革の色を変えると、ガラッと雰囲気が変わる

何でも詰め込める万能ポーチ

ポケットには携帯電話やキー、財布など様々なものを入れることが多いが、バイクを運転している状態では、それらが邪魔になることがある。ここで紹介するポーチは、柔軟性の高い鹿革で作られているため、携帯電話などの大きめのアイテムを入れても様になる。また、口も大きく鹿ヒモで

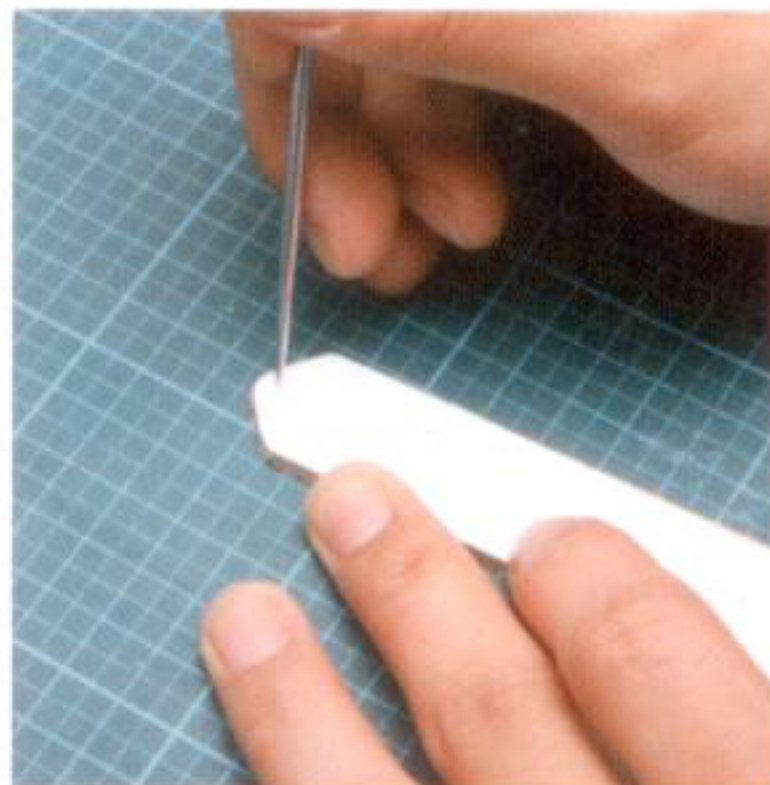
すぐに開閉できるため、使いやすさは抜群だ。パイピングを入れたやわらかいデザインは、ハードなバイカーアイテムに抵抗がある人にも受け入れられるだろう。牛革とは違う、柔らかな鹿革ならではの扱い方もあるので、細かな部分にも注意しながら進めていこう。

下処理をする

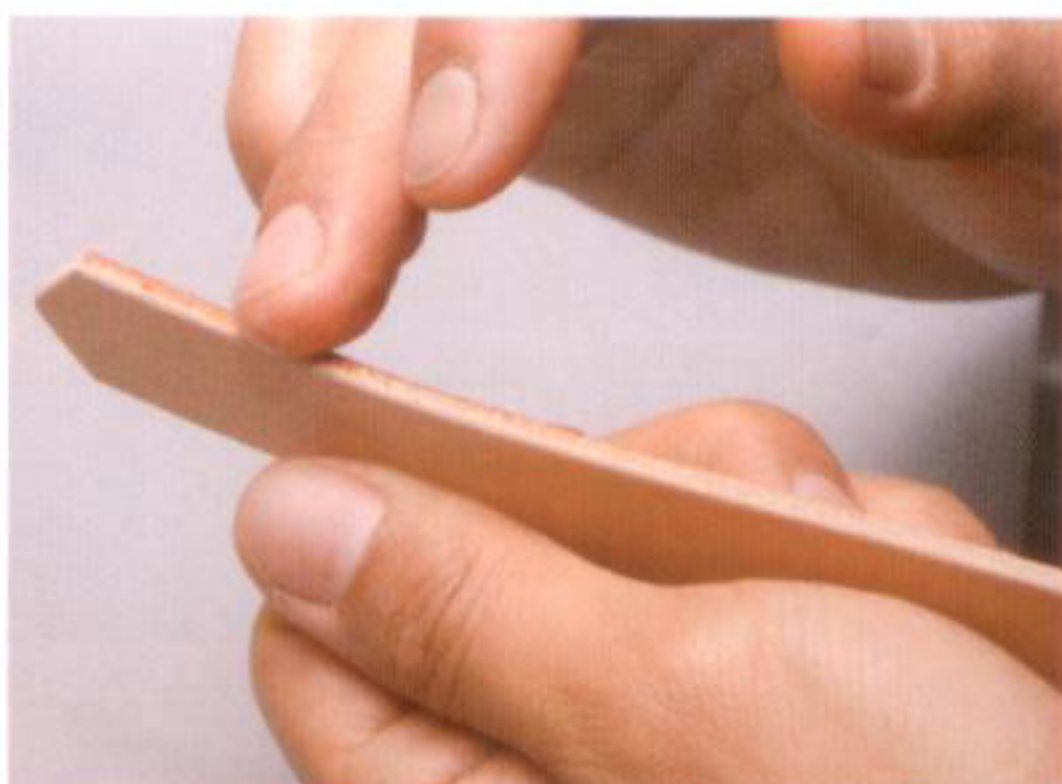
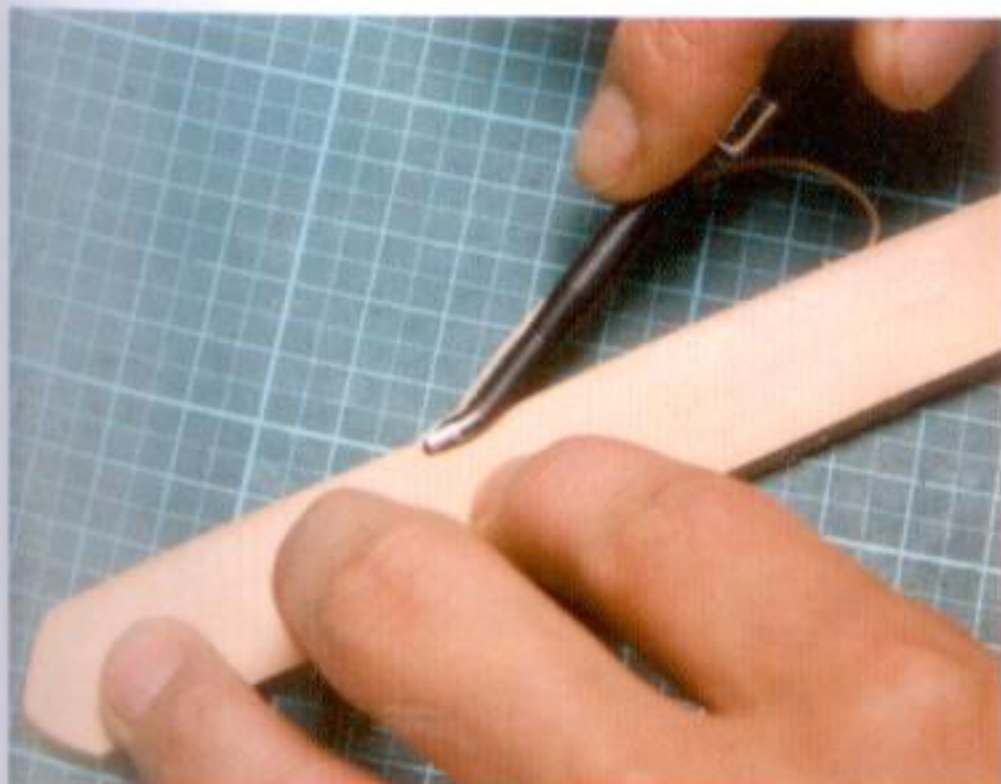
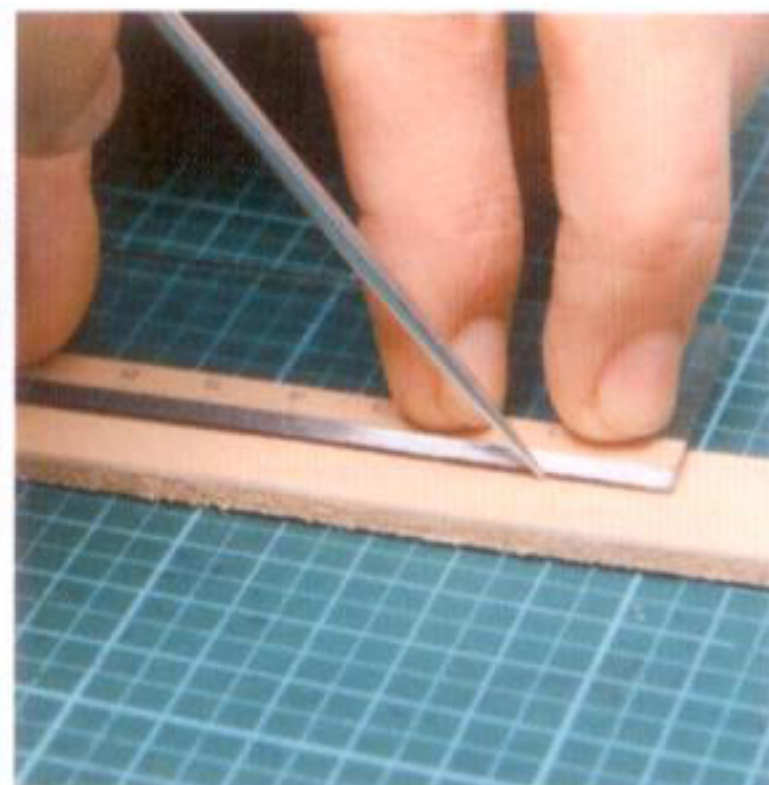
まずは各パーツにヒシ目打ちとハトメ抜きで穴を開ける。パイピングは、はじめに折り曲げてくせを付けておく。



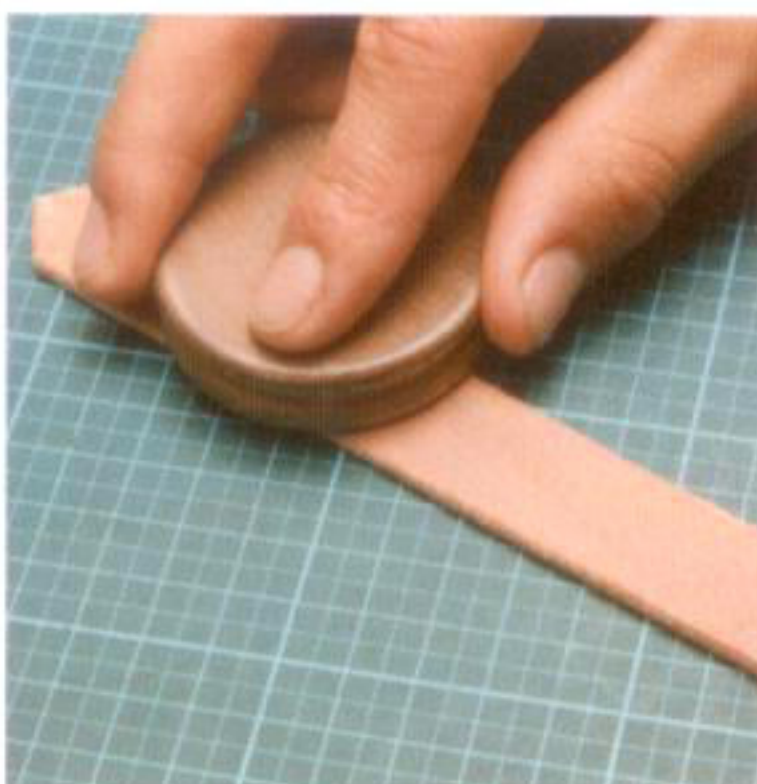
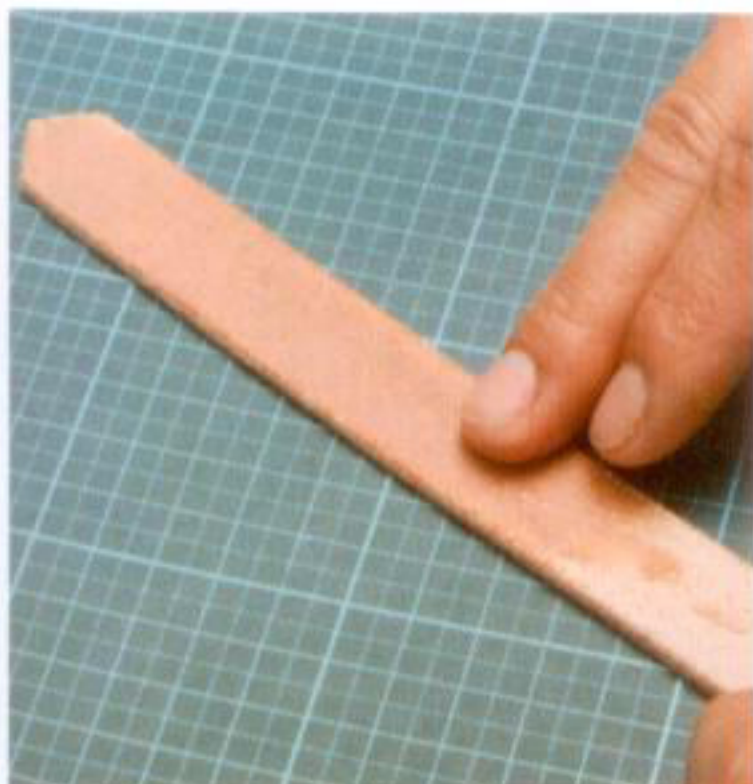
1 牛革を水に浸し、しっかりと中まで水を染み込ませる。そして、そのまま10分程度浸けておく



2 型紙や114ページの寸法図を参考にして、ストラップの穴の位置と、ヒシ目打ちを打つ範囲に印を付ける



3 ストラップの裏表全てのヘリをヘリ落としで落とす。ここではヘリ落とし2番を使用している。ヘリを落としたらCMCを付けてヘリ磨きで磨く。あまり力はいれずに、優しく擦るだけで良い



4 床面にもCMCを塗り、ヘリ磨きで磨く。磨き剤はトコフイニッシュなどを使用しても良い



5 10分ほど水に浸けた牛レースを取り出し、タオルなどで水気をよく切っておく



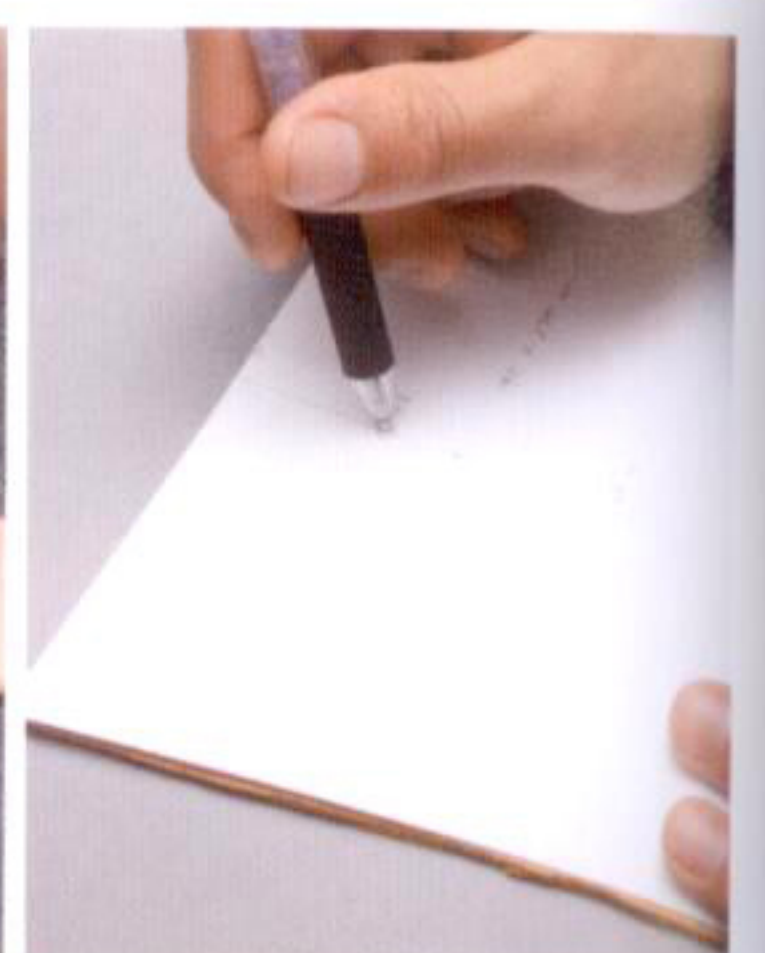
6 パイピングを縦半分に折り、本体の形に曲げていく。カーブの部分は、パイピングを引っ張りながら曲げていく



7 本体の形に合わせて曲げたら、クリップで留めて乾燥させる。数時間扇風機などにあてておくの良い



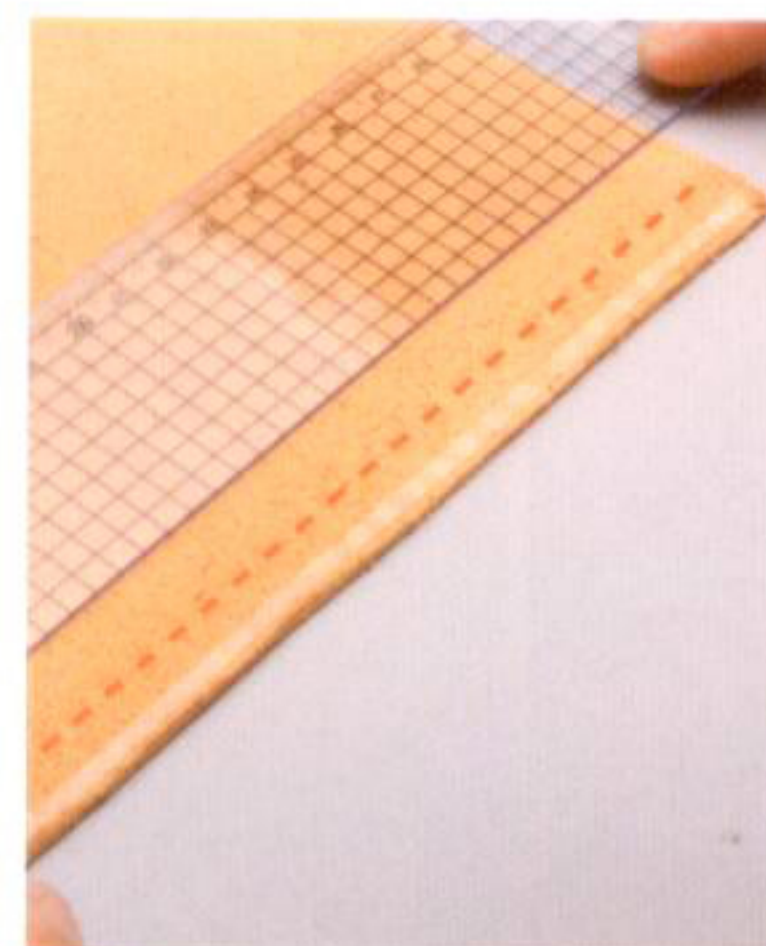
8 型紙をあてて印を付けた場所にヒシ目打ちを打つ。上の2穴は2本ヒシ目打ちを使用する



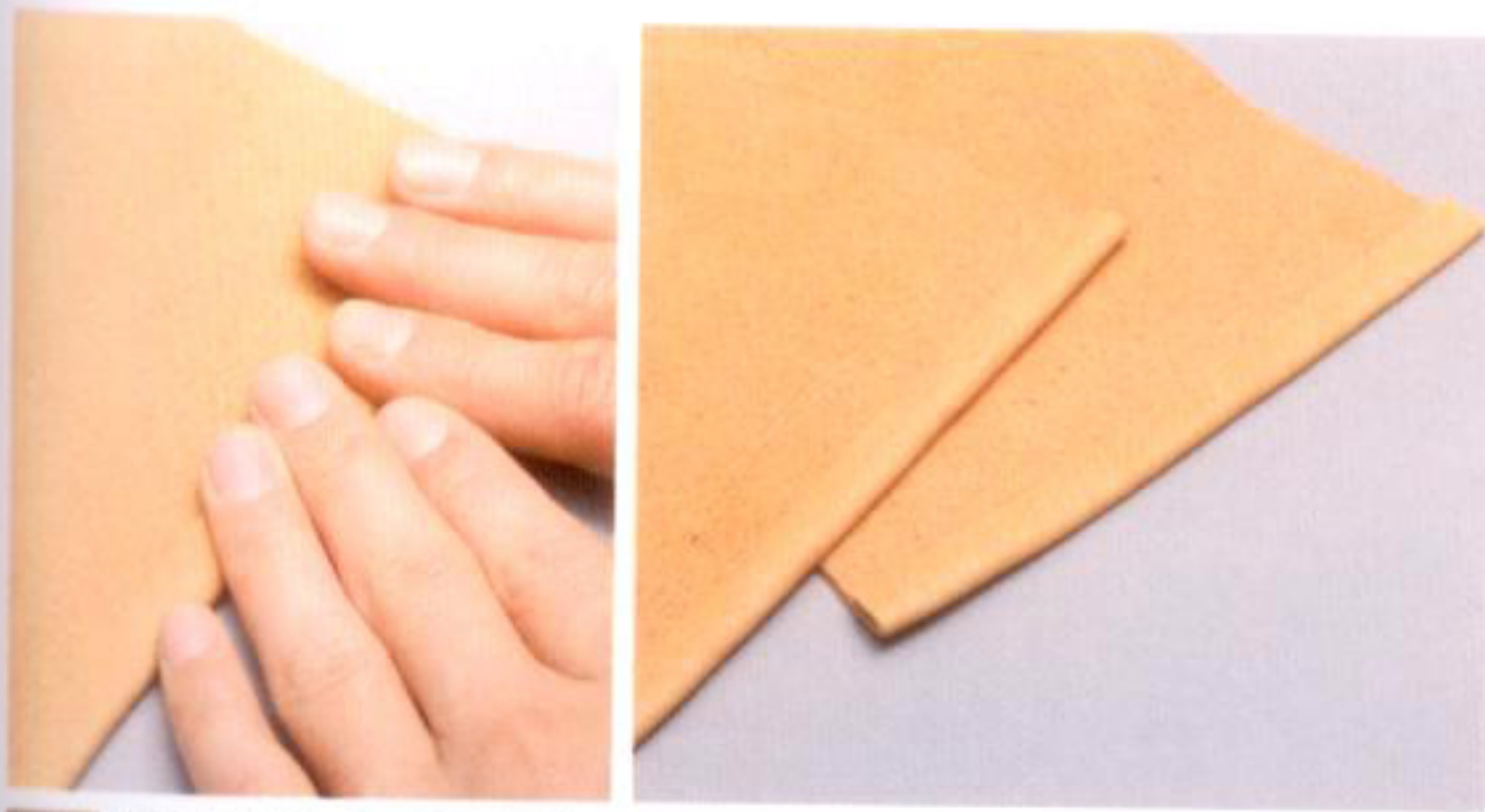
9 ストラップに12号(3.6mm)のハトメ抜きを打つ。本体のストラップ取り付け位置にも印を付ける



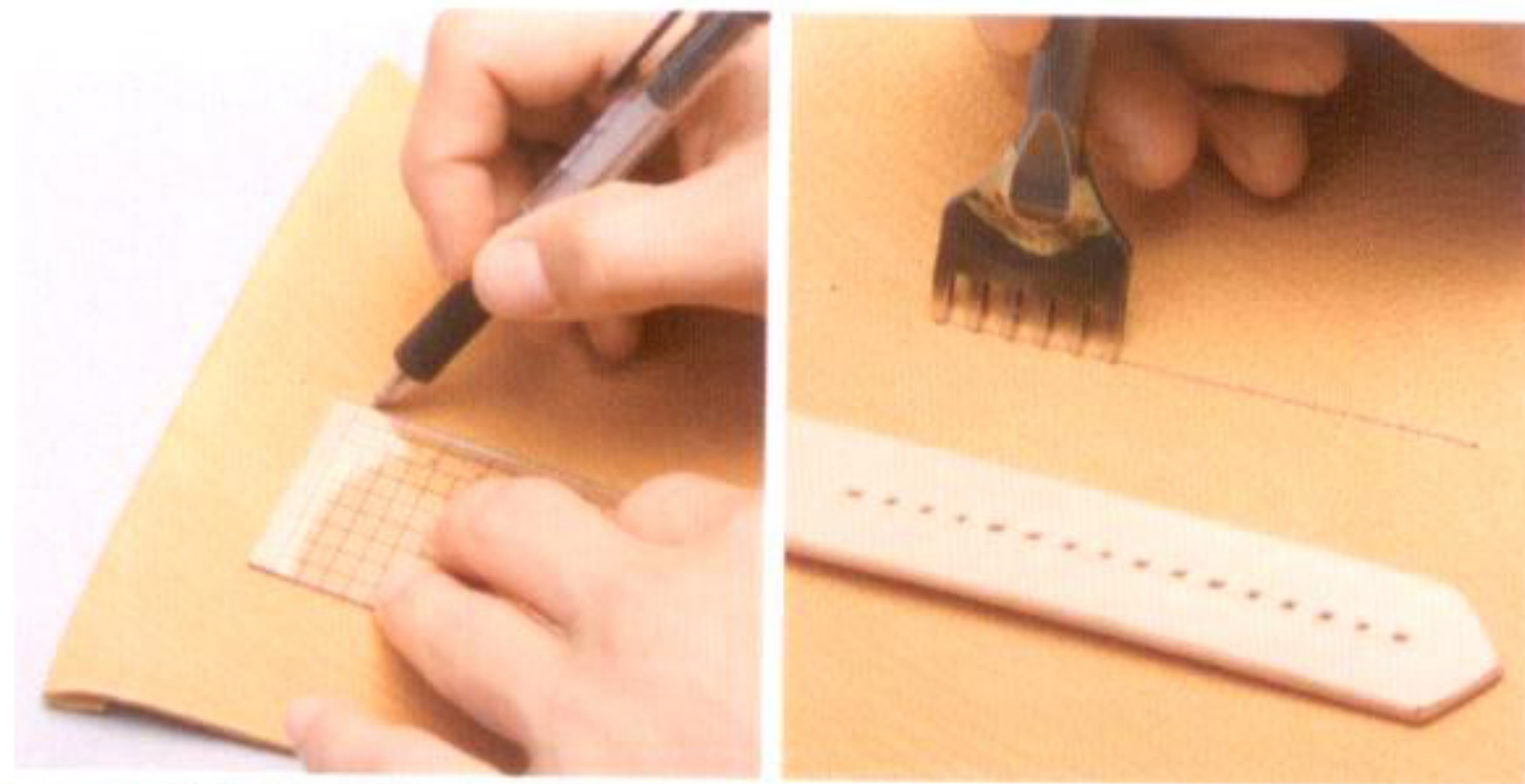
10 本体の一番上のラインに両面テープを貼る。ここは接着剤を使用しても良い



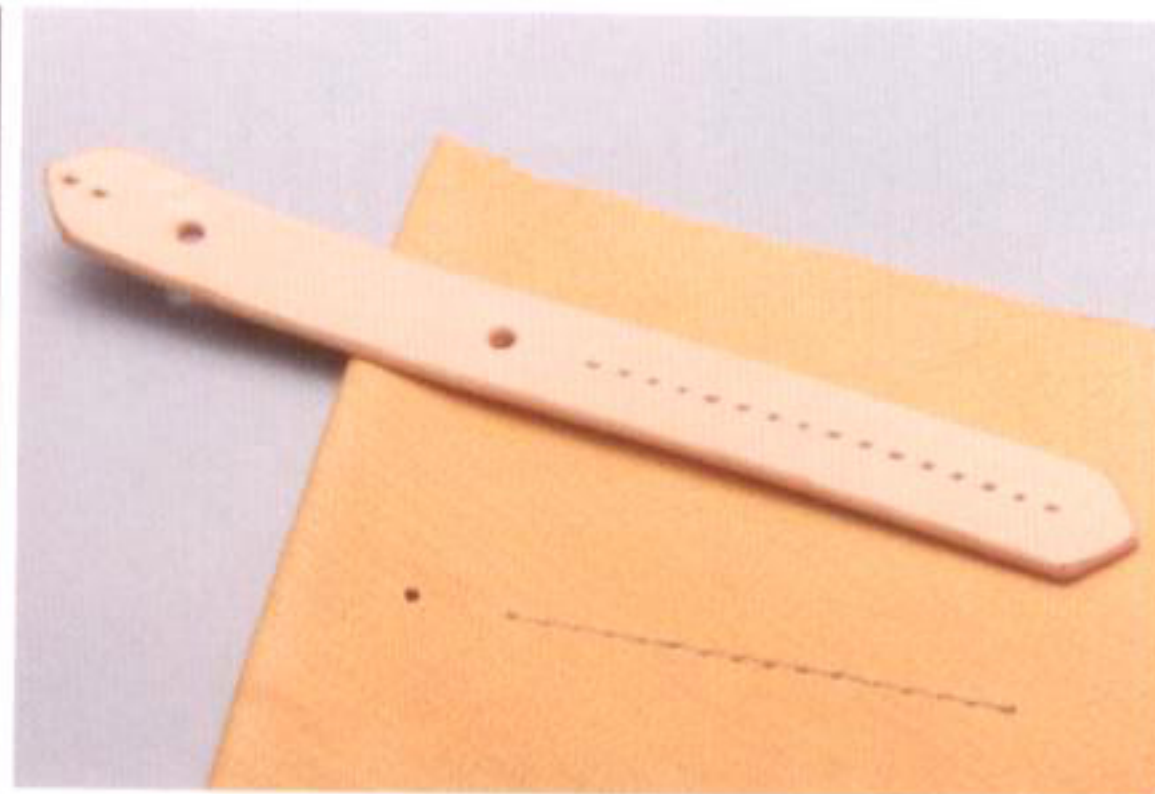
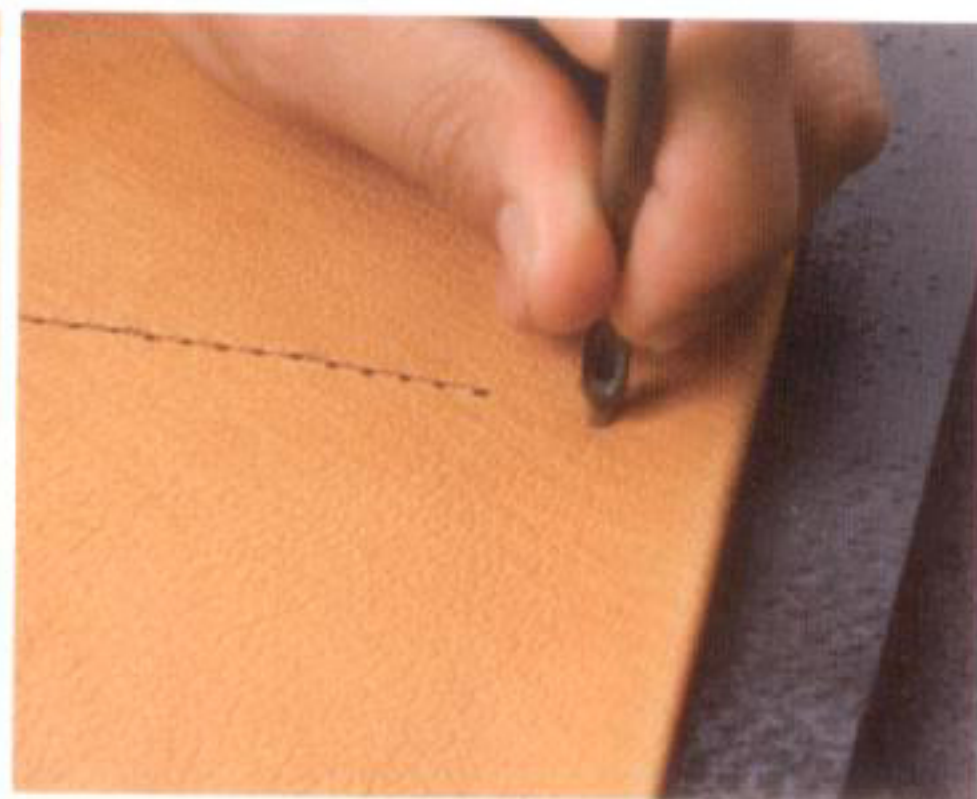
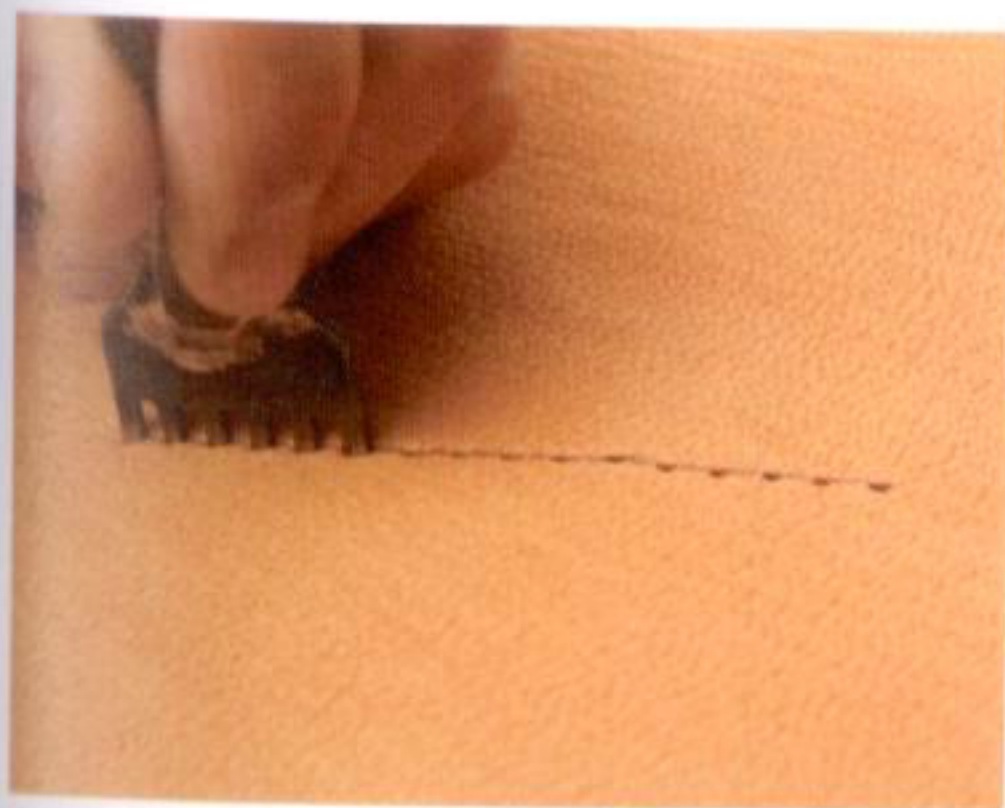
11 両面テープを貼った部分を折り曲げる。定規に合わせて曲げると、ラインをまっすぐにすることができる



12 折り曲げたら、指で押してしっかりと圧着する。本体A、B共に折り曲げておく



13 印を付けたヒシ目打ちの範囲をボールペンでなぞり、ストラップと同じ目数になるように跡を付ける



14 ヒシ目打ちとハトメ抜きで本体Aに穴を開ける。鹿革は伸縮性に優れているので、ストラップに空けた穴よりも小さい8号(2.4mm)で空ける。また、ヒシ目打ちも軽く打つ程度で良い

ストラップの取り付け

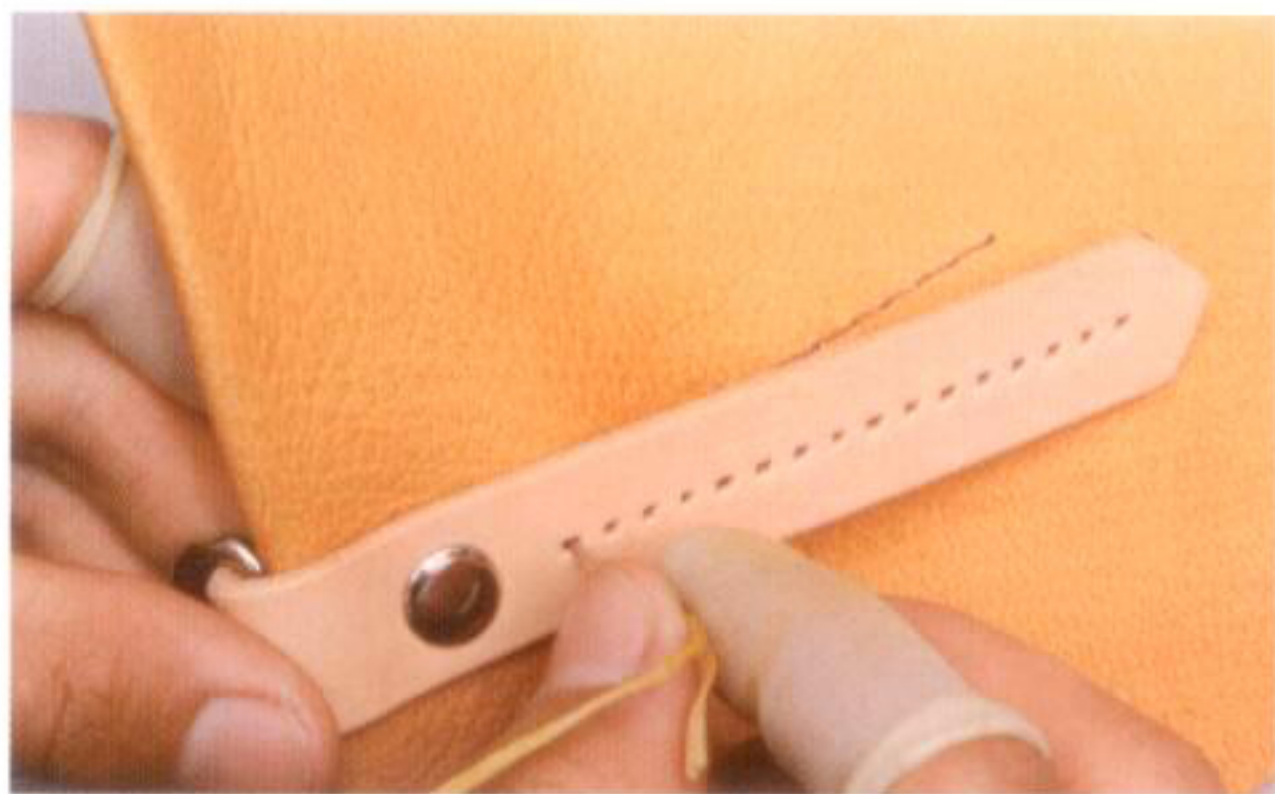
ナスカンを固定するストラップを取り付ける。鹿革は柔らかいため、糸を引っ張りすぎると寄ってしまう。



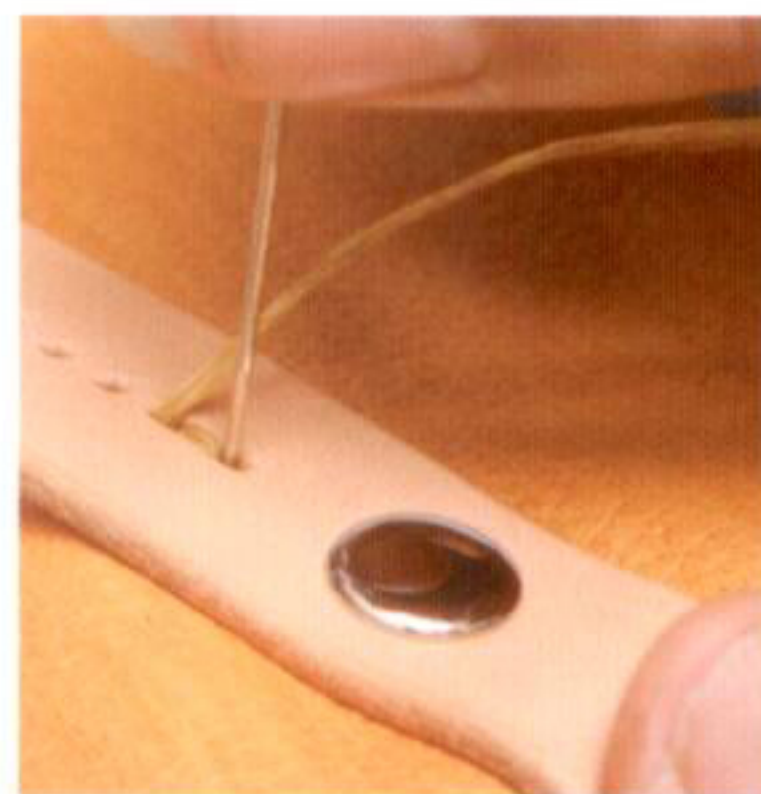
1 ナスカンをストラップに通し、カシメをはめる。ストラップの短い方が本体の内側になるようにする



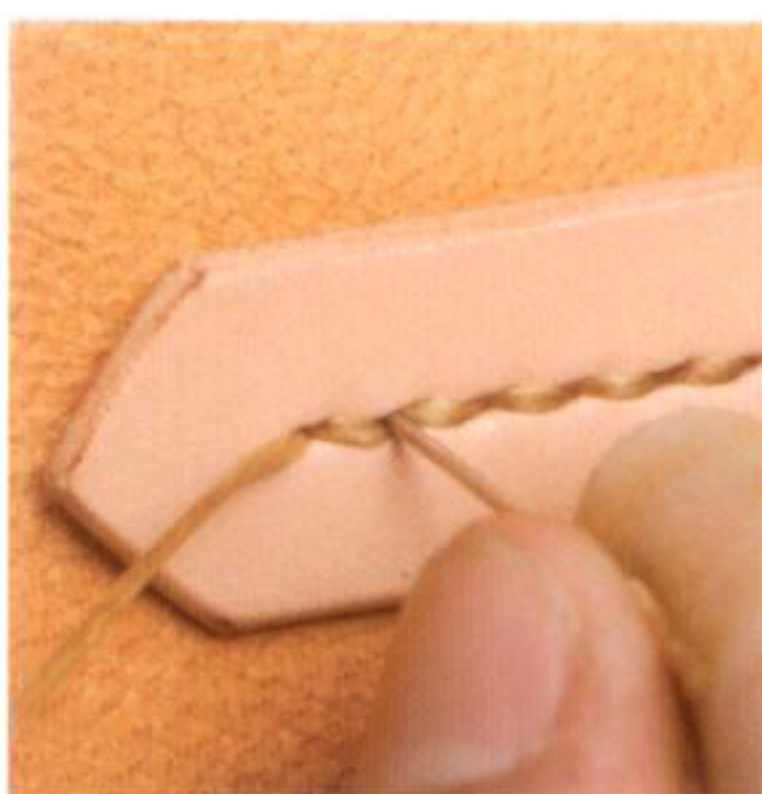
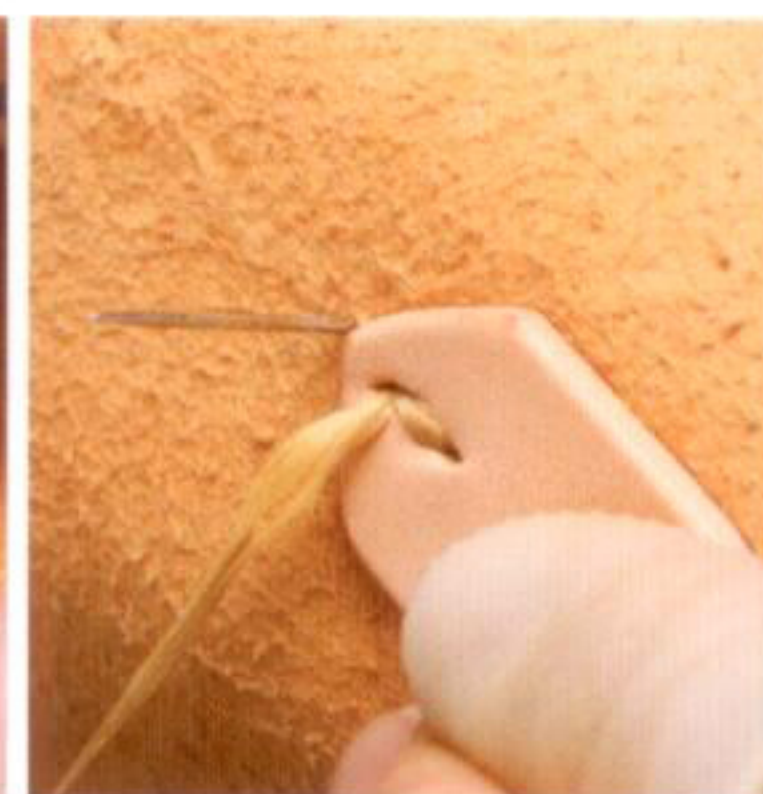
2 オールマイティプレート敷き、カシメ打ちを使ってカシメを固定する



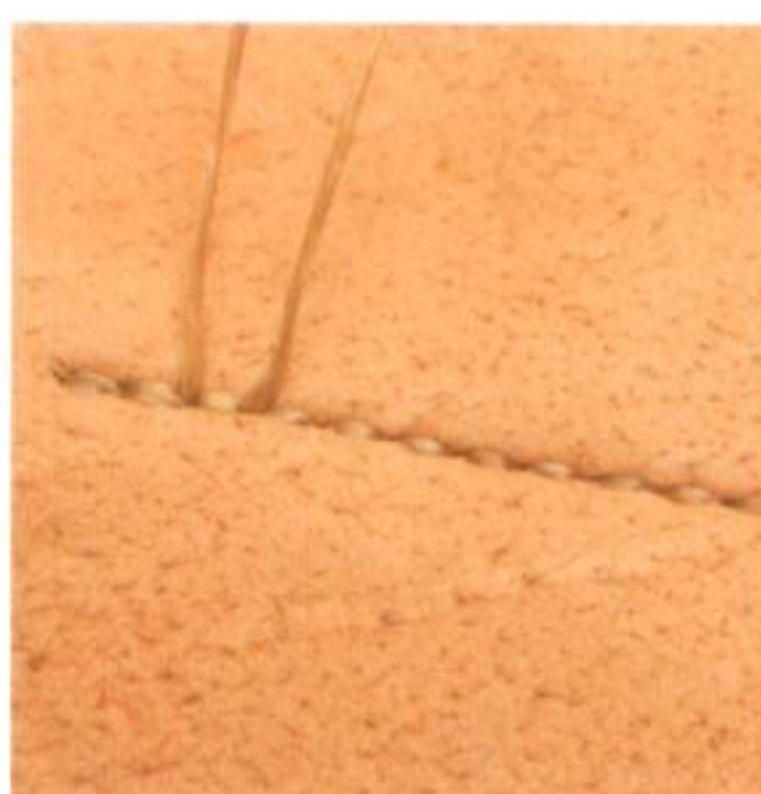
3 針と糸を用意し、ストラップと本体を縫い合わせていく。ここではシニュー糸を使用している



4 はじめ(裏側の2目分)を二重に縫い合わせたら、平縫いで縫い進めていく



5 一番最後まで縫い進めたら、2目戻って糸を両方とも裏側(本体の内側)に出した状態にする

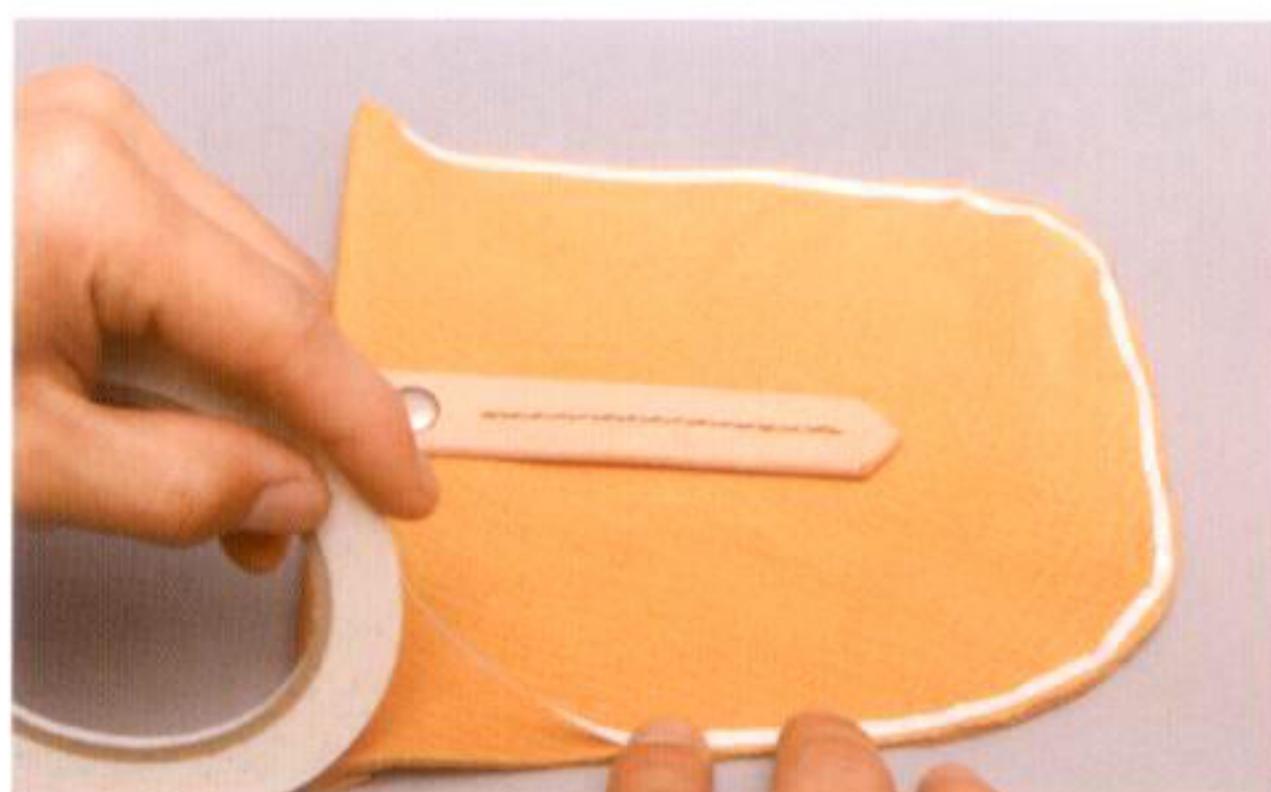


6 糸を2~3mm程度残してカットし、ライターであぶって溶かす。溶けた糸は指やライターで潰しておく



本体とパイピングの貼り合わせ

本体のAとB、パイピングを縫い合わせる。ポーチは縫い終わった後に裏返すため、床面を上にして縫い合わせる。



1 本体Aの外周に、3mm巾程度の両面テープを貼る。革からはみ出ないように気を付けること



2 両面テープの中央を破り、はじめにパイピングの中心を本体Aに貼り付け、カーブを合わせながら貼っていく

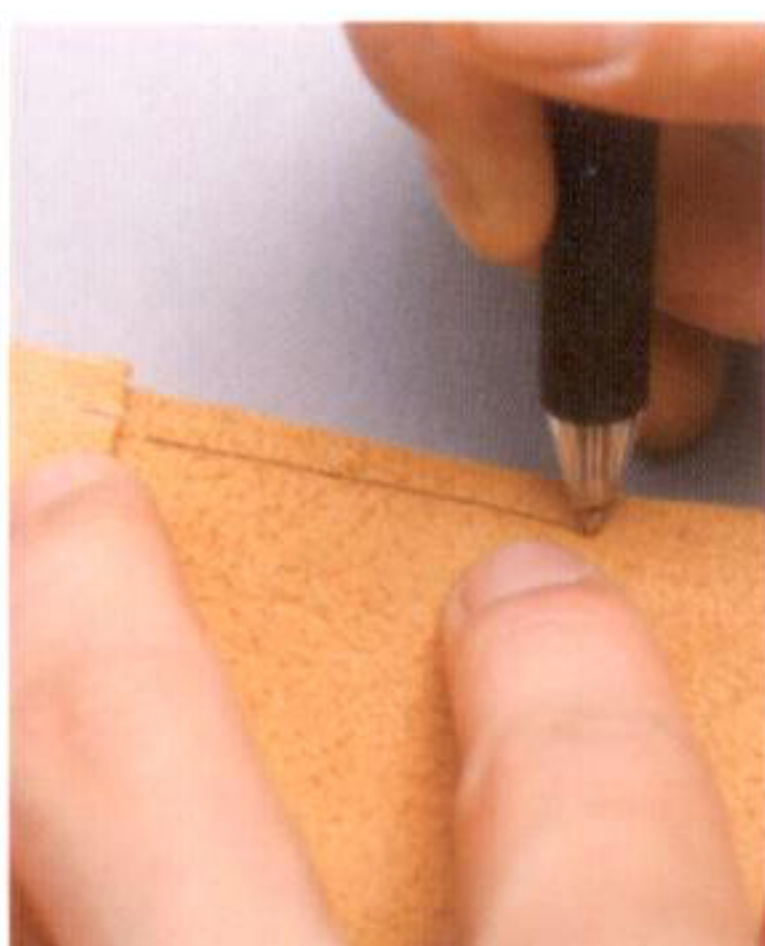




3 続いて本体Bに両面テープを貼り、今度はまずはじめに両端を貼り合わせる



4 パイピングと本体Bを合わせながら、両面テープの紙を抜いて貼り合わせていく



5 ネジ捻で3mm巾の縫い線を引く。鹿革は線が付きにくいので、ボールペンでなぞっておくと良い



6 本体の折り返し部分は、1本ヒシ目打ちを使用し、真ん中に穴を開ける



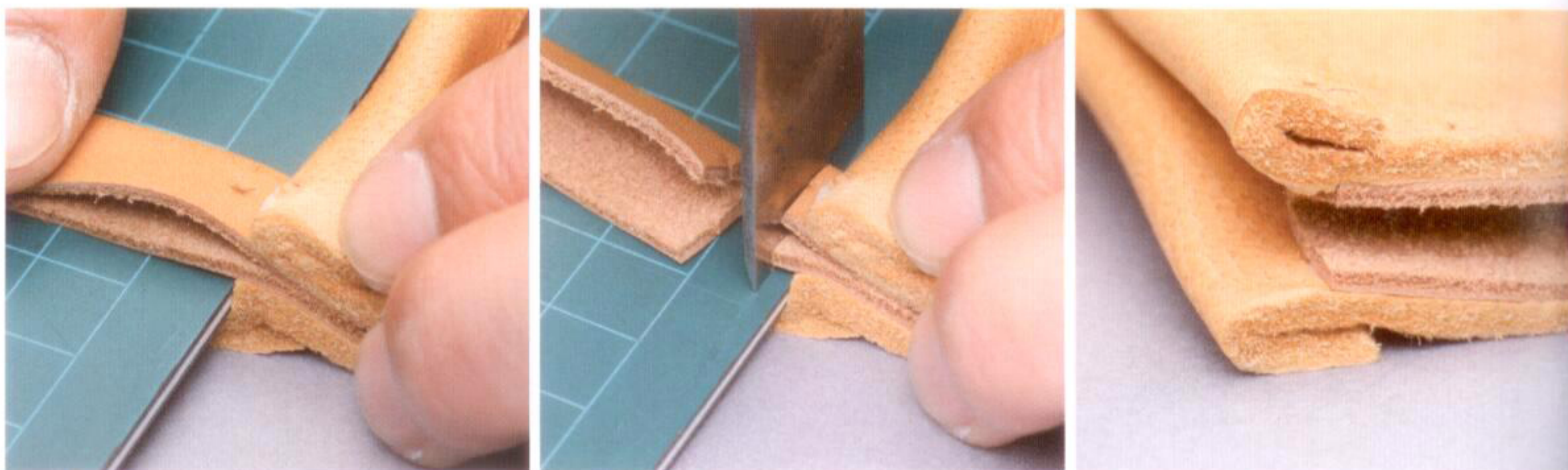
7 線に沿ってヒシ目打ちを打つ。カーブは2本ヒシ目打ちを使用。革が柔らかいので、ずれないように気を付ける

POINT

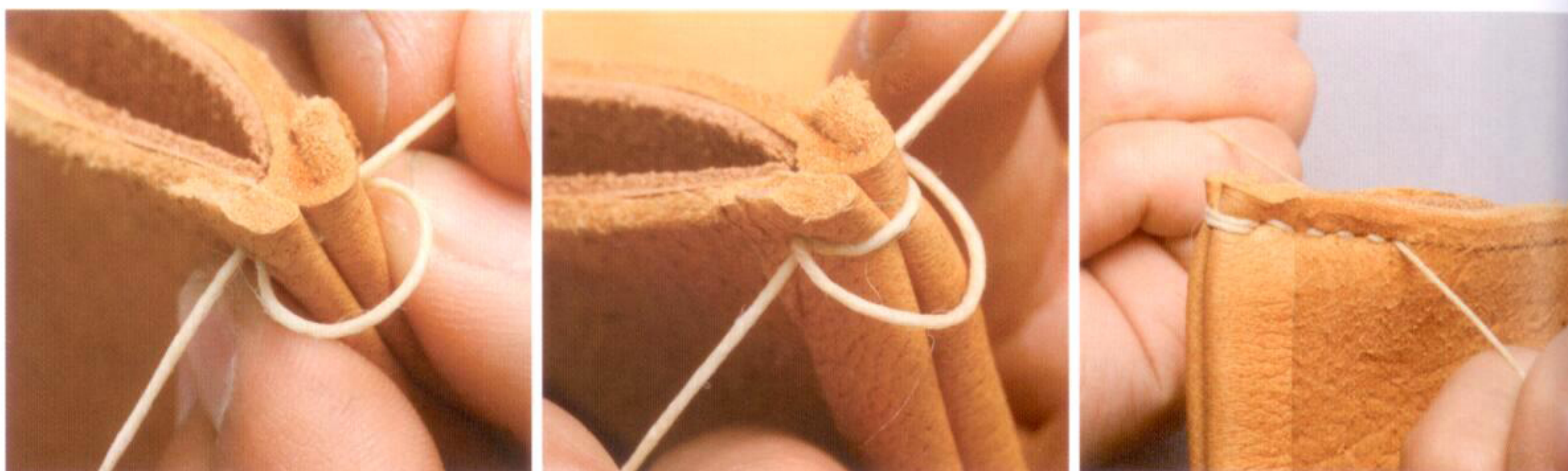


8 最後にヒシ目の間隔を調整する時は、2本ヒシ目打ちを使って、少しずつ打つ位置をずらしていく

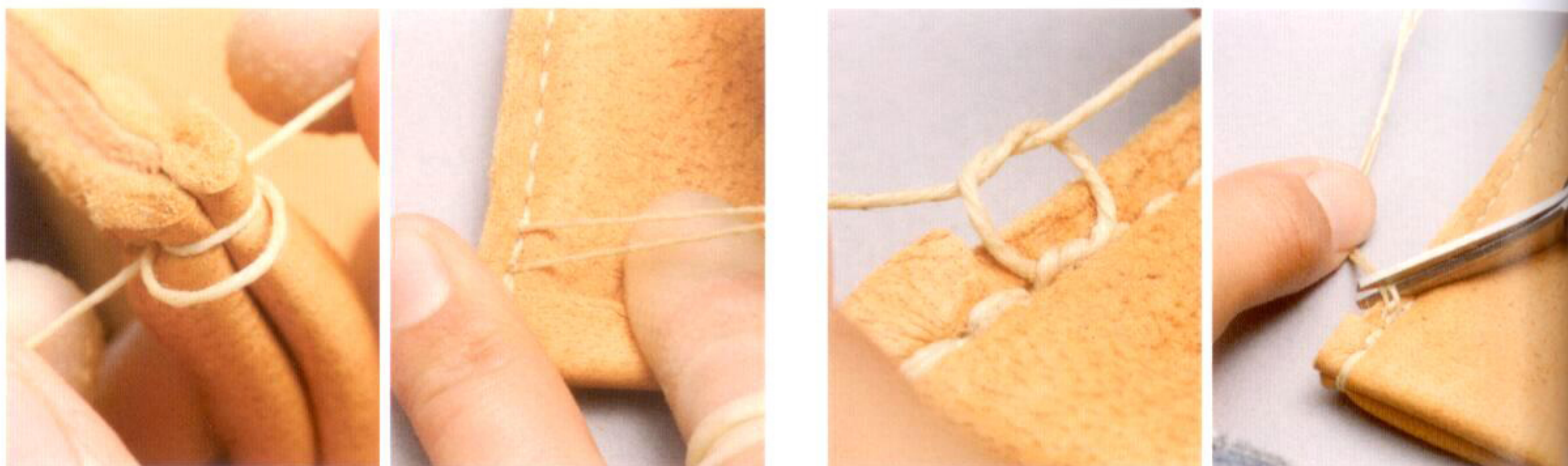
本体とパイピングの幅の合わせ



9 パイピングの余った部分をカットする。本体と同じ高さに合わせてカットするのではなく、本体よりも下でカットする。折り返した部分を開いてカッターマットなどを敷き、革包丁で裁断する



10 本体を縫い合わせていく。パイピングをカットした一番上は、まず二重に縫ってから進めていく。ここは口ウ引きした麻糸を使用している。鹿革は柔らかいので、糸の締め具合を均等にしないとゆがんでしまう



11 最後も最初と同じように二重に縫い、2目分縫い戻る。戻ったら両方の糸を同じ方向へ出す

12 糸を固結びし、2~3mm程残してハサミでカットする。口ウ引きしてあるので、このままでもほつれない

仕上げ

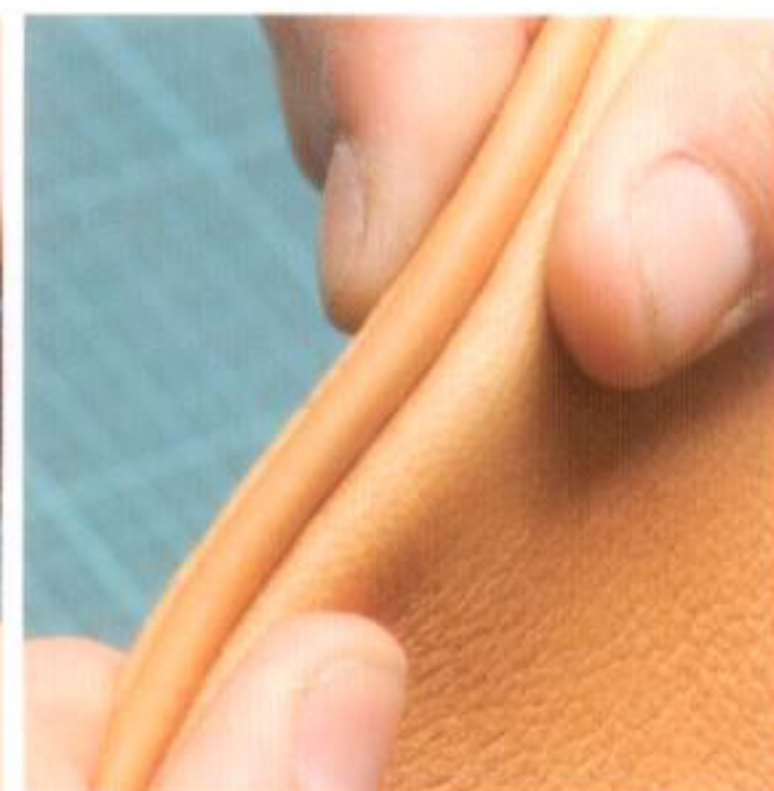
ポーチを縛るための鹿ヒモやコンチョ、ビーズを取り付ける。鹿ヒモの穴は、位置を変えることで絞り具合が変わる。



1 本体のヘリを落とす。鹿革は柔らかいので、ヘリ落としではなくカッターを使用する



2 本体を裏返しにして表にする。パイピングがしっかり出るように、折ってくせを付ける



3 上から15mm程度のラインで、センターから左右それぞれ20mmと40mmの位置(表と裏)に印を付ける



4 小さいゴム板を本体の中に入れ、8号(2.4mm)のハトメ抜きで印を付けた場所に穴を開ける

CHECK!



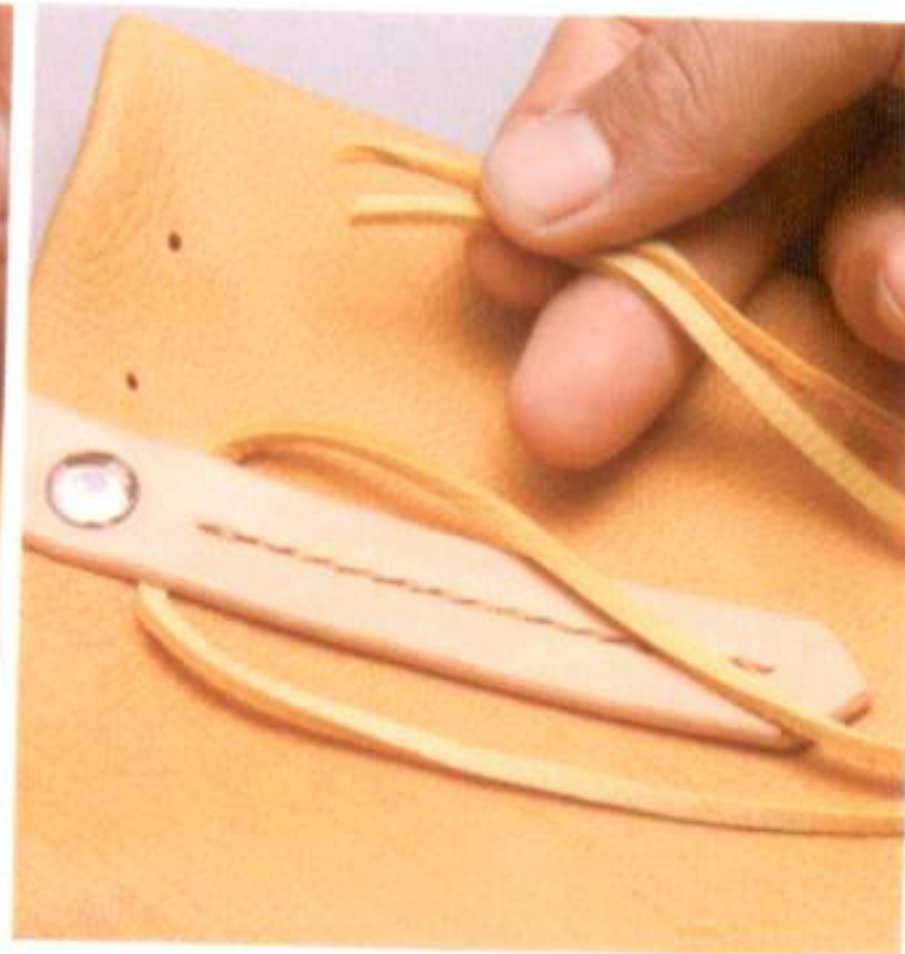
小さなゴム板がない場合は、ゴム板の角を差し込んでも良い。しっかり安定させてから打つこと



5 かがり針に鹿ヒモを取り付ける



6 ストラップのカシメと縫い目の間に、鹿ヒモを通し、左右の長さを均等に揃える



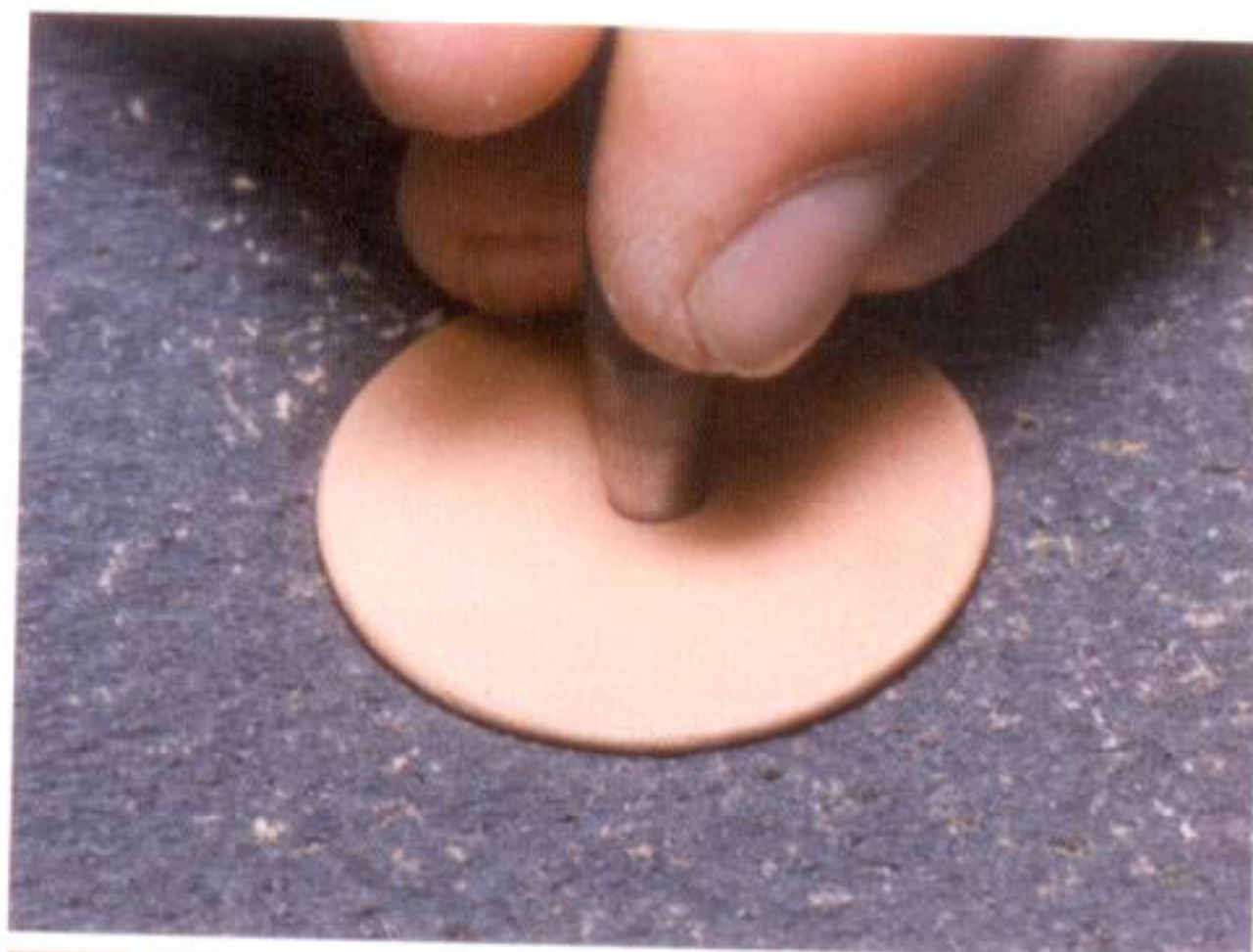
7 ハトメ抜きで空けた穴に鹿ヒモを通す。鹿革は柔らかいので、穴が小さくても大丈夫だ



8 写真のように鹿ヒモを一周させ、前側(本体B)に出して左右のヒモの長さを同じに揃える



9 鹿ヒモを引いて本体を縮ませる。この時パイピングを内側へ折り込み、ポーチの形を作る

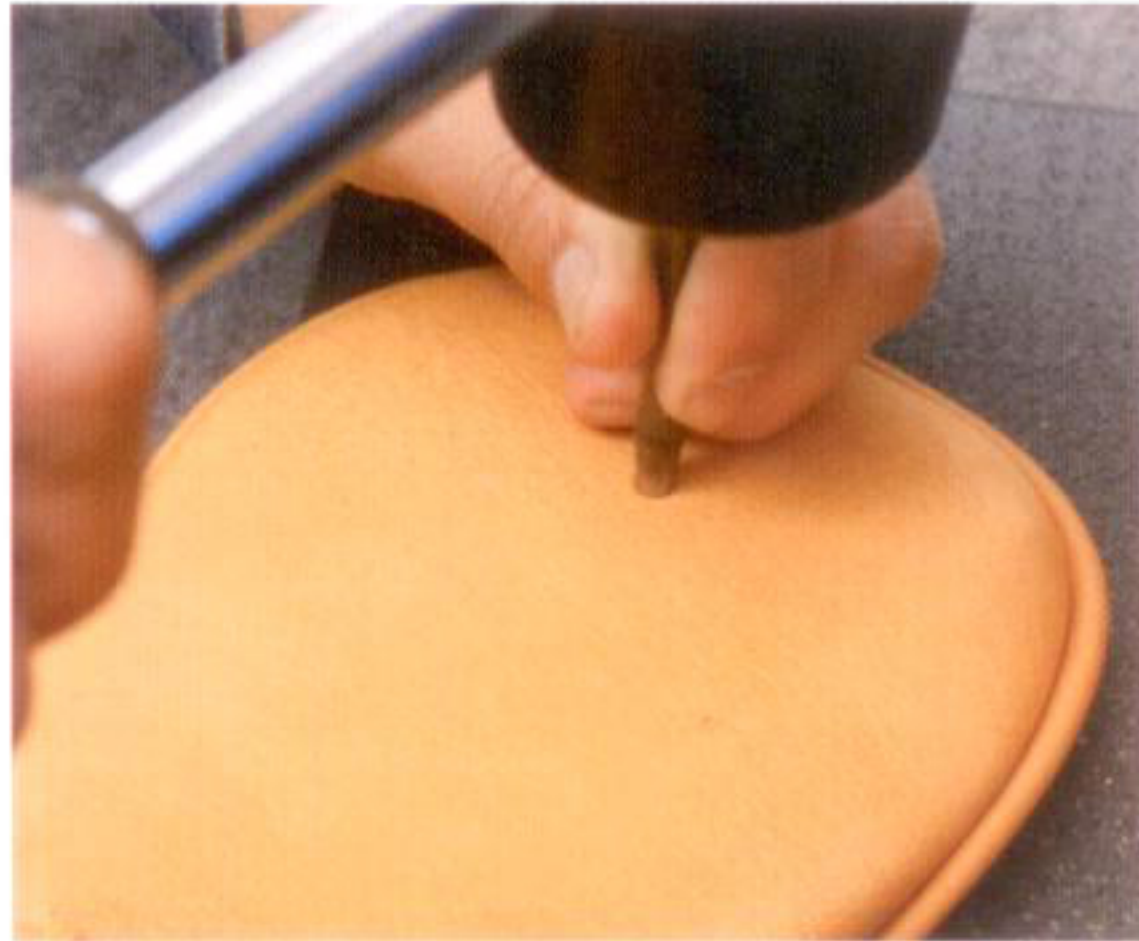


10 8号のハトメ抜きで、あて革の中心に穴を開ける。革の大きさと号数はコンチョによって異なる



11 コンチョをあて革にはめ、本体の取り付け位置を決める。位置が決まったら、コンチョを押して跡を付ける





12 コンチョを押しあてた位置に、8号のハトメ抜きで穴を開ける。ポーチの中にはゴム板を入れる



13 ポーチを裏返しにして、コンチョのネジを締め込む



14 マイナスドライバーを使って、しっかりとネジを締める。再び表に返し、コンチョの向きを整える



15 鹿ヒモを2本一緒に1つのビーズに通す。このビーズは縛りヒモの留め具の役割をしている



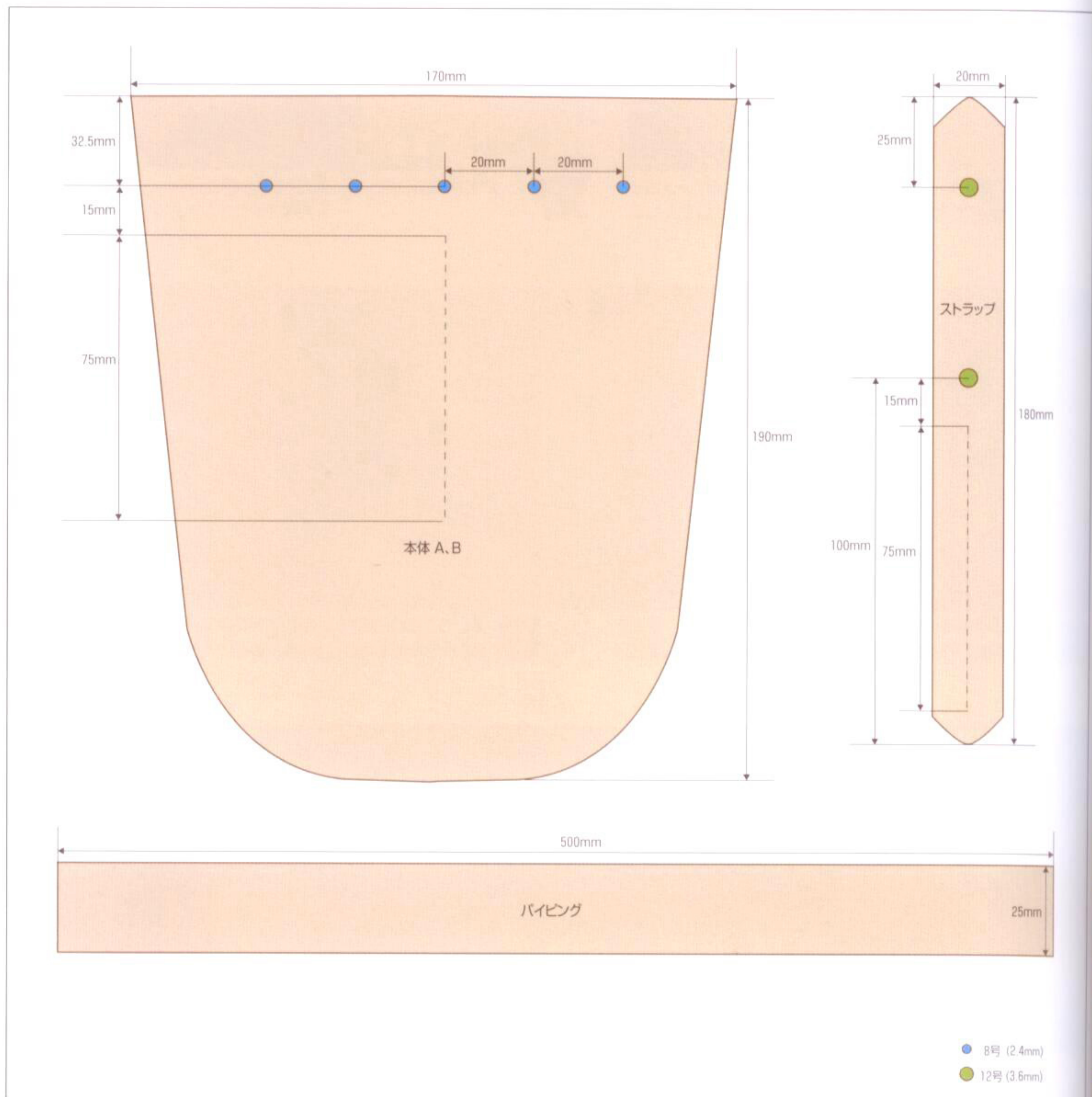
16 鹿ヒモにビーズを差し込み、固結びをして固定する。色や数は好みに合わせて選んで良い



17 ビーズを差し込んで固定したら終了。鹿革の持つ柔軟性が活かされるアイテムだ

寸法図

この図は250%に拡大するとほぼ原寸大になる。ただし、あくまでも目安であり、革の厚みや質によって調整が必要。



OWNER'S INTERVIEW

独自のアイデアから生まれる
バラエティ豊かなアイテム達



NOBU KANDO

神藤 のぶ氏

美容師を経てレザークラフトの道へ。
毎年数多くのニューアイテムを作り出
すアイデアの宝庫。ユーザーフレンド
リーな立場で相談にも乗ってくれる

—初心者を作るのに向いているアイテムは？

一番大切なことは、レザークラフトが楽しいと思えることでしょう。ですから自分が作りたいアイテム、自分が使いたいアイテムを作るのが良いと思います。確かに初めて作るアイテムがロングウォレットだと難しいかもしれません。しかし、使いたいと思わないアイテムを作ってもあまり面白くないでしょう。難しいアイテムであっても、一カ所一カ所、ひとつひとつを丁寧に進めることを心がけることが大切です。

—上達するコツは？

何度も練習することでしょう。革包丁で直線やS字を何度も何度も切ったり、ヒシ目打ちがまっすぐ打てるように練習することで、きれいな切断面や縫い目を出すことができます。ショップのスタッフも、最初は私の作り方を見せて同じことをやらせます。そして、基本的な技法を身に付けた後に、それぞれが自分でやりやすい方法を見つけていますね。レザークラフトは自由ですから、「この方法は絶対に間違っている」というようなことはないと思います。

—レザークラフトに対するこだわりは？

うちのショップでは、基本的なレギュラーアイテムはありますが、ほとんどがそれをベースにカスタムしたオーダー品です。そのためお客様に満足していただけるように、革選びから完成までの全ての工程にこだわりを持って作っています。

SHOP INFORMATION



3 ノーベルレザークラフト

神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央26-33 グリーンヒルズ1F
営業時間 10:00~21:00
Tel&Fax 045-944-0042
URL <http://nobel-leather.jp/> e-mail info@nobel-leather.jp

1 ウッディで落ち着いた雰囲気の中のショップ。2階はタトゥースタジオになっている 2 限定カラーのヘリテージがディスプレイされている店内。バイク乗りだからこそ作れるアイテムも充実している 3 スタッフ達は皆さくでありながらも、それぞれに個性を持つため、様々なオーダーに対応できる。アイテムの種類やデザインの豊富さには定評がある

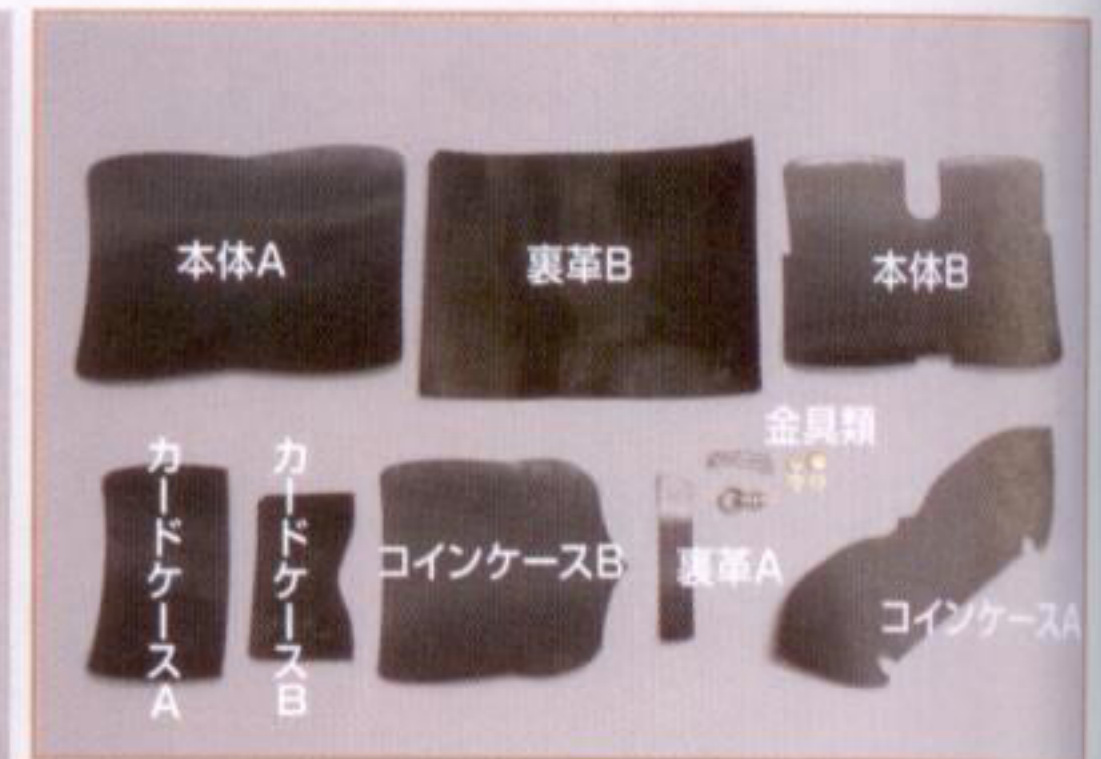
ストローカー(タトゥースタジオ)

神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央26-33 グリーンヒルズ2F
営業時間 10:00~21:00
Tel&Fax 045-944-0059
URL <http://stroker.jp/> e-mail tattoo@stroker.jp

MIDDLE WALLET+BRASS CHAIN

ミドルウォレット+真鍮チェーン

レザーアイテムには欠かせないウォレット。ロングウォレットとはひと味違った大人のミドルウォレットを製作していく。これまでに紹介していない技法やポイントがふんだんに詰め込まれている。



本体Aは2mm厚、裏革AとBは0.5mm厚、本体Bとカードケース、コインケース類は全て1.5mm厚の革を使用。コンチョやウォレットフックは、EVILACTオリジナル。今回は外側にバスケットが施されているが、これはタカファインレザー・ジャパンの大塚孝幸氏の手によるもの。基本的なスタンピング技法については、小社発行の「手縫いで作る 男の革小物」を参照して欲しい

服装を選ばない上品な仕上がり

革、材料、工具なども扱うアウエイクが製作するミドルウォレット。これは、クールなバイカーズファッションアイテムを発信する、EVILACTの依頼により製作したもので、各部にアウエイクの技術とこだわりが詰め込まれている。一番特徴的なのは立体感あるデザイン。アンコを挟んだかのような仕上がりは、ネジ捻と飾り捻によって作り出されている。二つ折りのミドルウォレットであるため、構造は多少複雑になる

が、ひとつずつ順を追っていけば難しいことはない。また、ここで使用している工具は、通常の材料店などでは手に入りにくい物もあるが、アウエイクのウェブショップであるI☆N FACTORYで購入することができるものもある。バイカー＝無骨といった今までのイメージを払拭する上品なデザインと、カードやコインを十分に収納しながらも厚みを感じさせない作りは、正装にも合うバイカーズウォレットと言える。

下処理をする

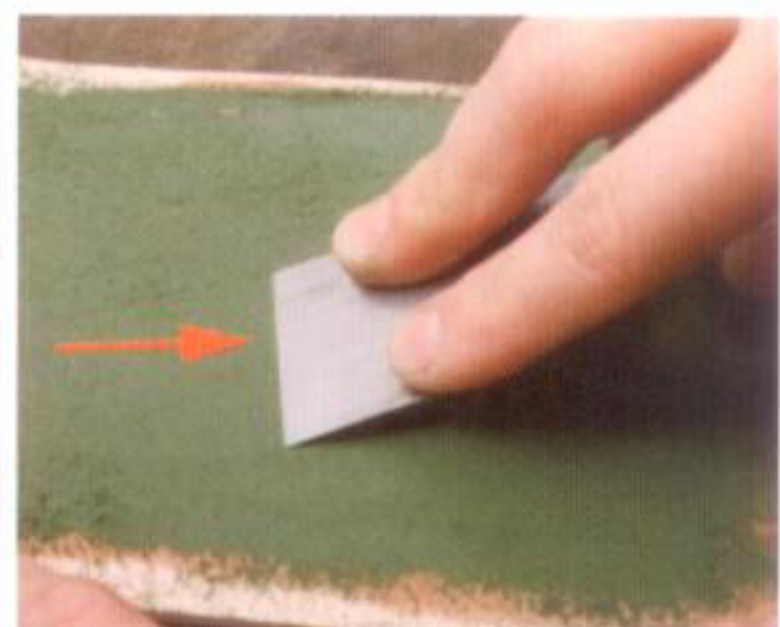
まずはヘリやコバの処理をする。また、このアイテムの特徴である飾り捻の処理も行なうので、準備しておきたい。



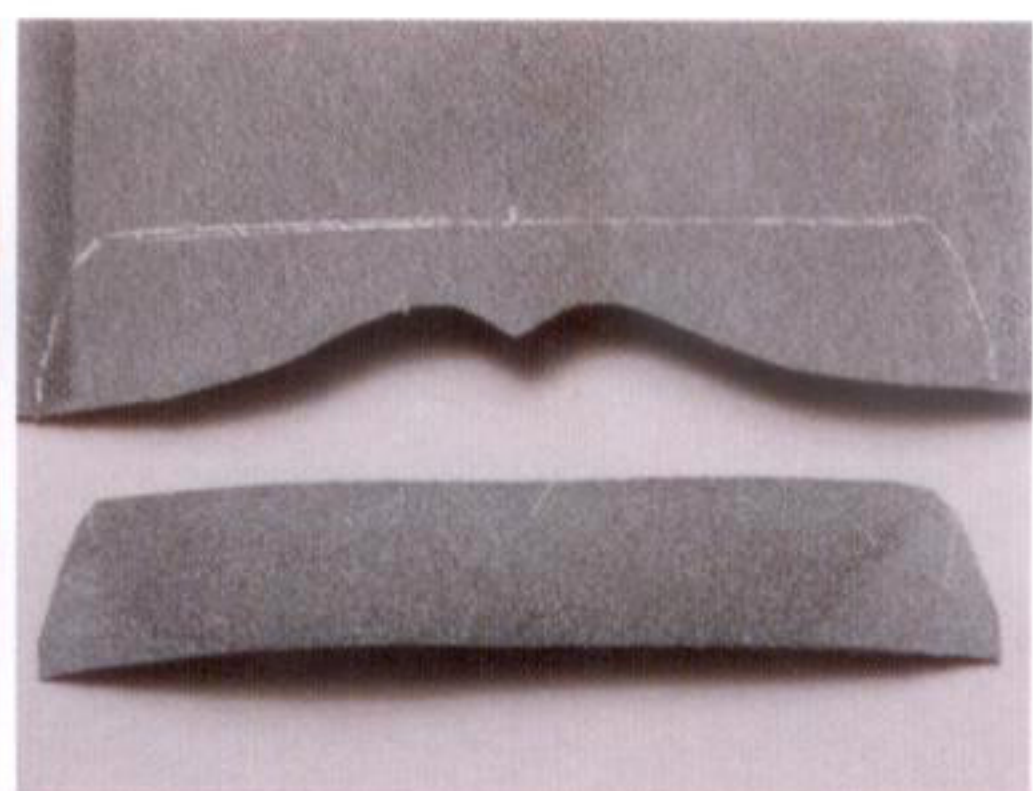
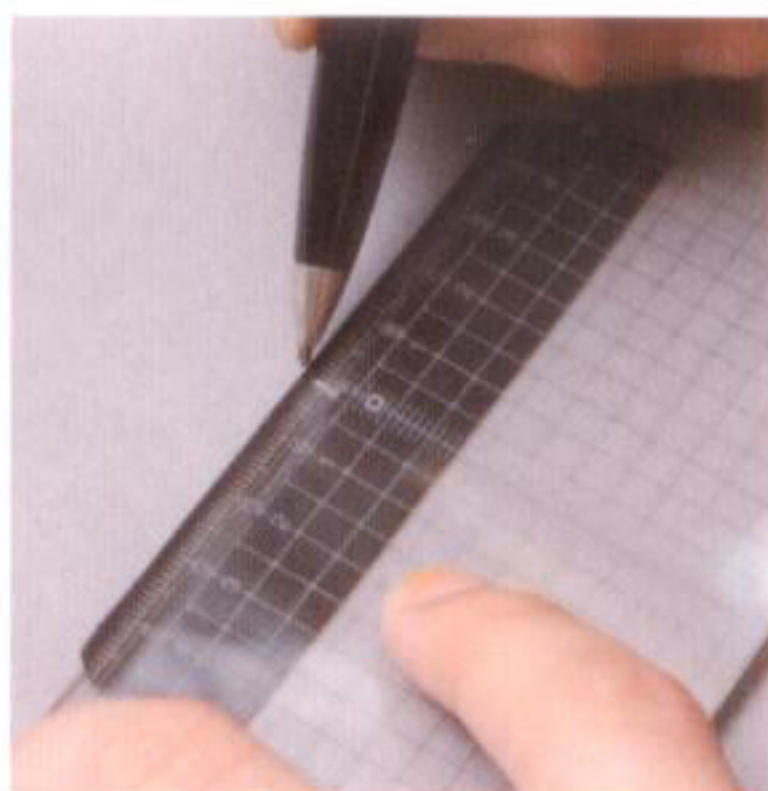
1 まずはコインケースAのマチと下部をすく。形が複雑なので、機械ですく方が良い

2 本体AとカードケースBの縫い合わせ部分も革包丁ですく

CHECK!



革包丁を使用する前に、床革などにシャープナーオイルを塗り、その上にルージュスティックを塗って革包丁を数回引く。これにより切れ味が抜群に良くなる。これは菱ギリなどにも共通するので、ぜひ試してみよう。切れ味によってコバ処理の仕上がりも変わってくる



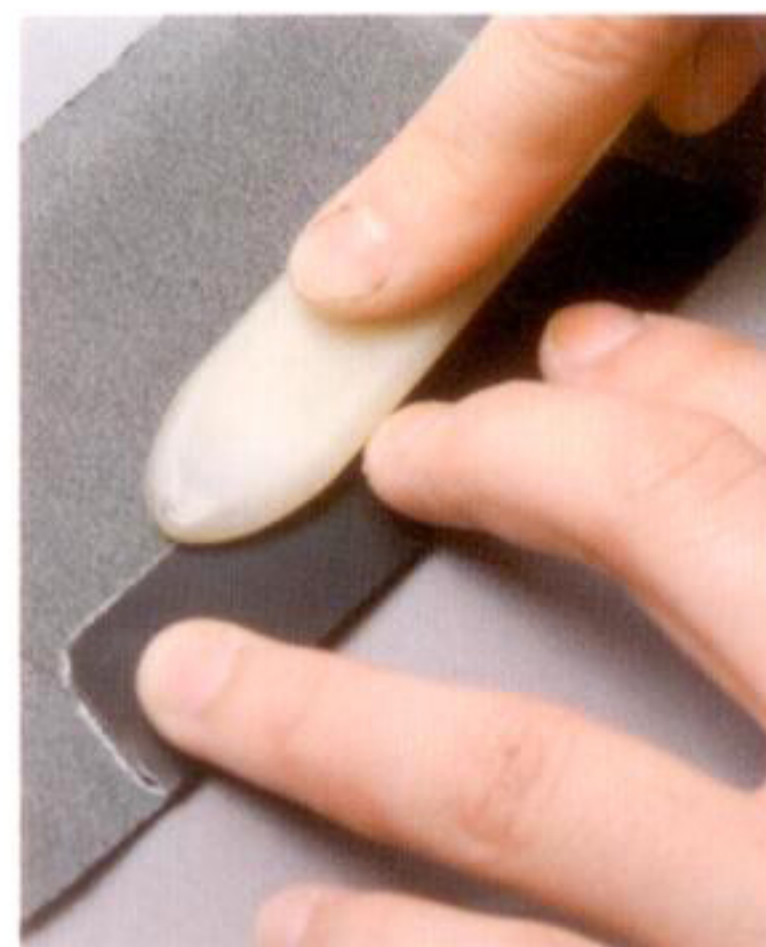
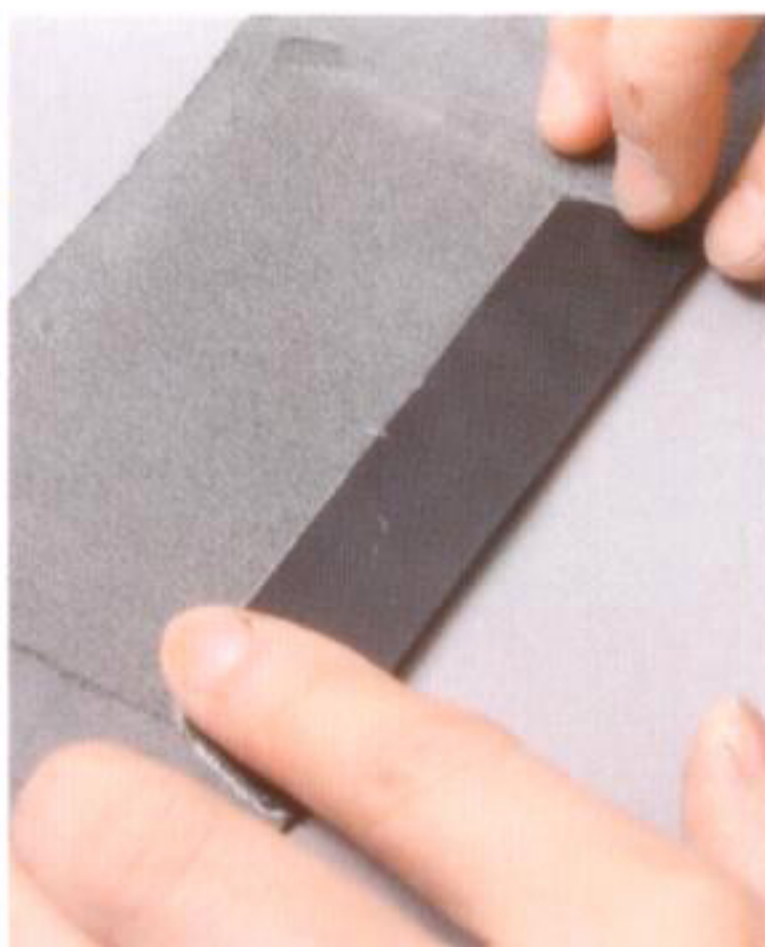
3 コインケースAとコインケースAの裏に貼る裏革Aのセンターを測って印を付ける

4 センターを合わせて裏革を置き、周りに印を付ける。アウェイクでは銀ペンを使用している

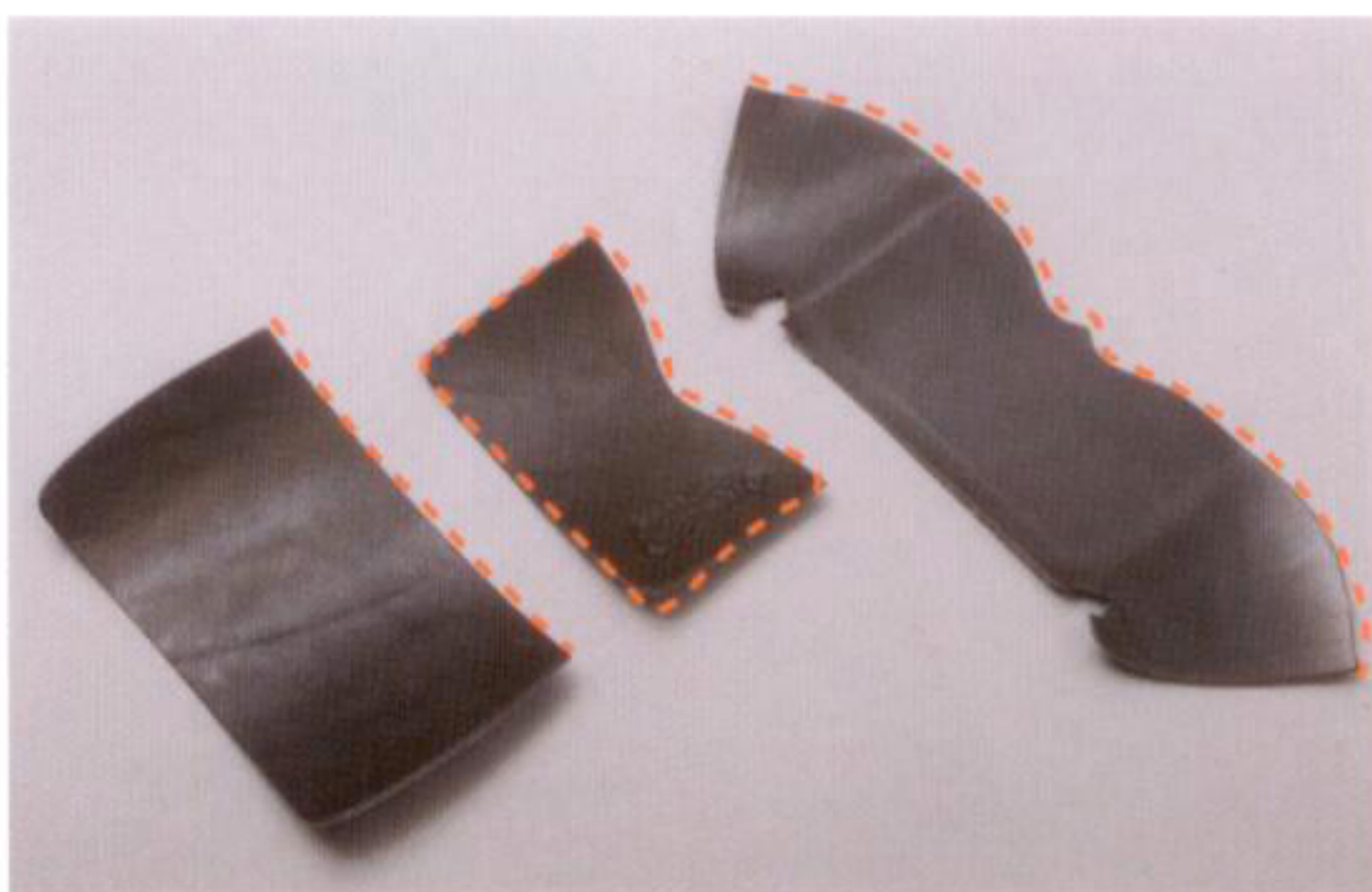
下処理をする



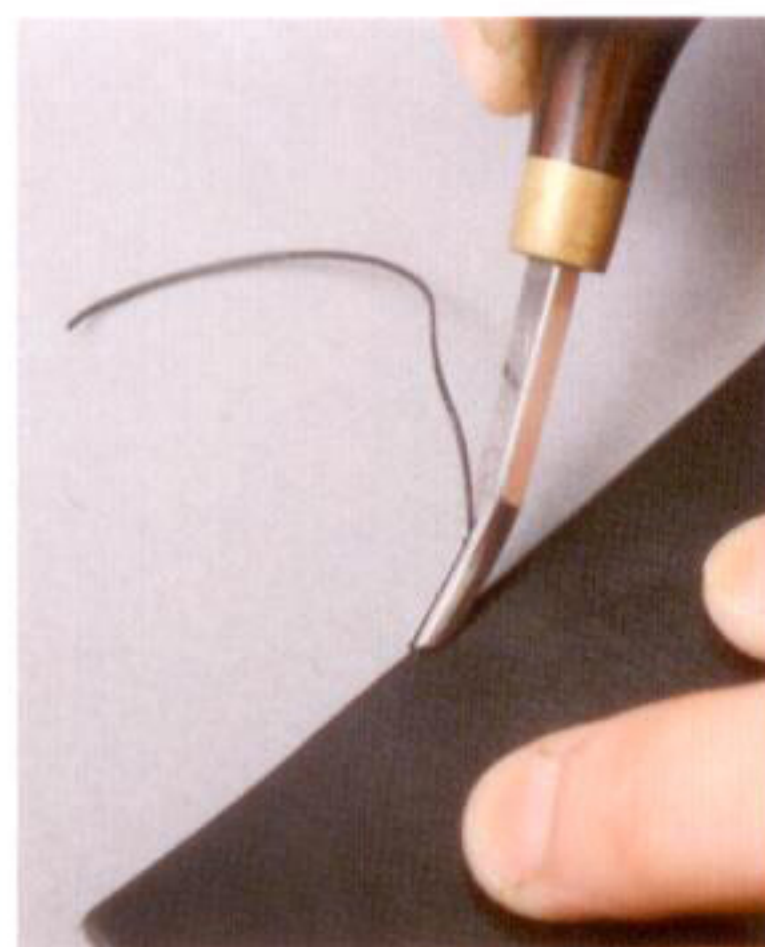
5 コインケースAと裏革Aにサイビノールを塗って貼り付ける。完全に乾くと貼り付かないので多めに塗っておく



6 ヘラを使ってしっかりと圧着し、コインケースの形に合わせて余分な部分をカットする



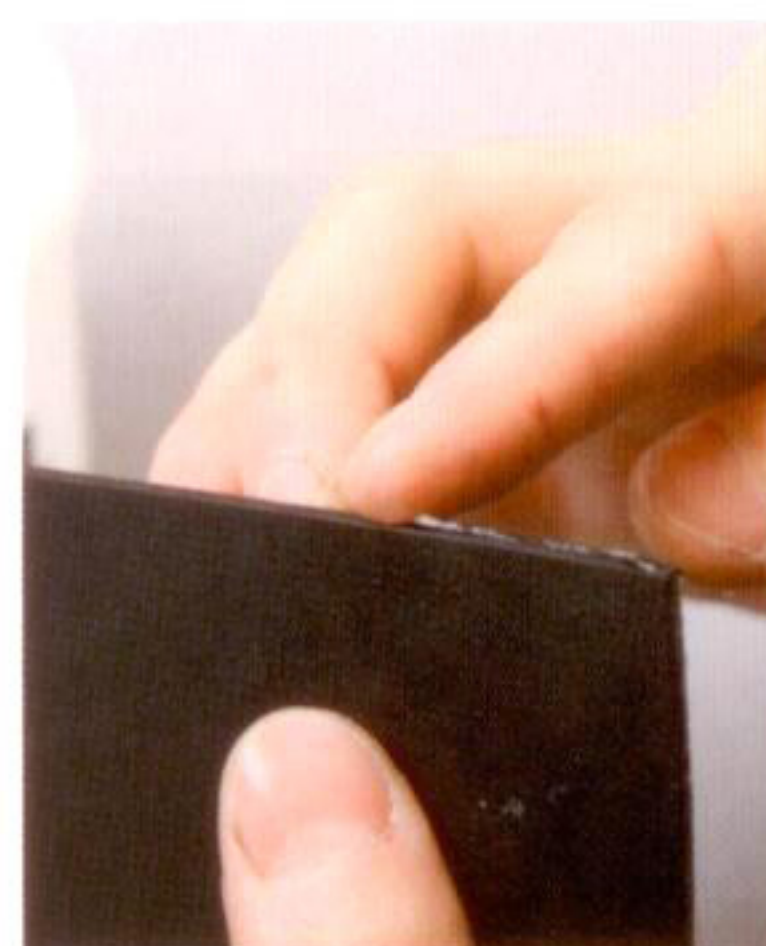
7 続いてパーツのヘリ落としと磨きの作業に入る。点線の部分のみヘリ进行处理する



8 ヘリ落としでパーツのヘリを落としていく。ここでは表は2番、裏は1番のヘリ落としを使用している



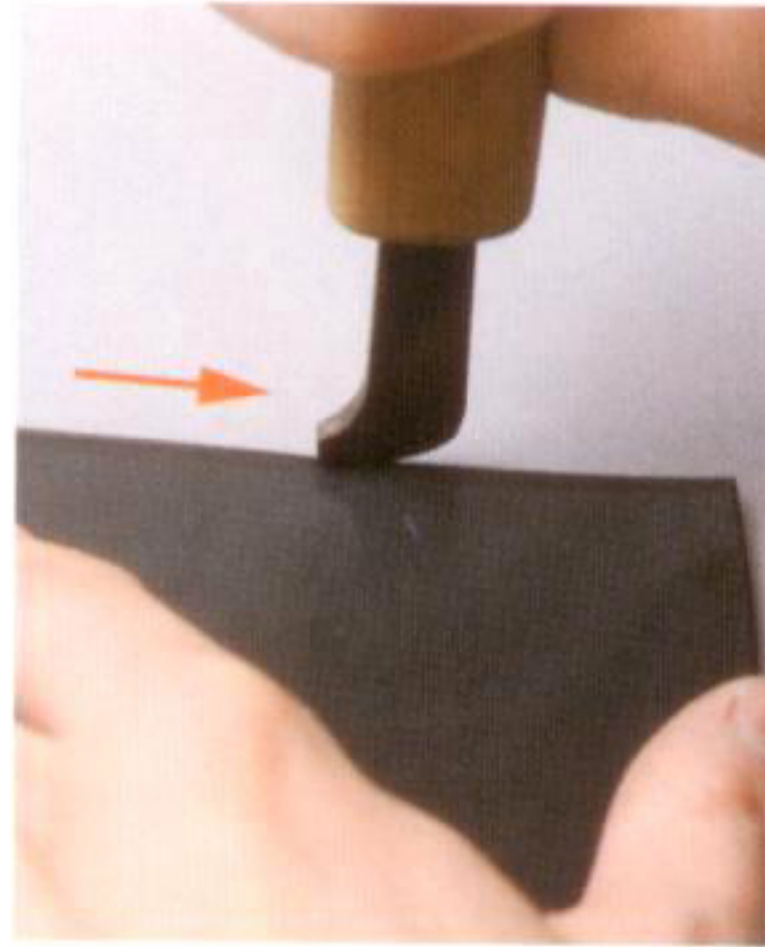
9 サンドスティックでコバを整え、染料を塗る。サンドスティックはストロークを長く使って磨くと良い



10 染料が乾いたらCMCを塗り、ウツスリッカーで擦って磨く。あまり力を入れすぎないように気をつける



11 アルコールランプに火を付け、飾り捻を熱する。
熱しすぎると革が焦げてしまうので注意



12 ネジ捻と同じようにラインに沿って引く。見た目以外に、
熱によって革の繊維が締まり、補強される効果がある



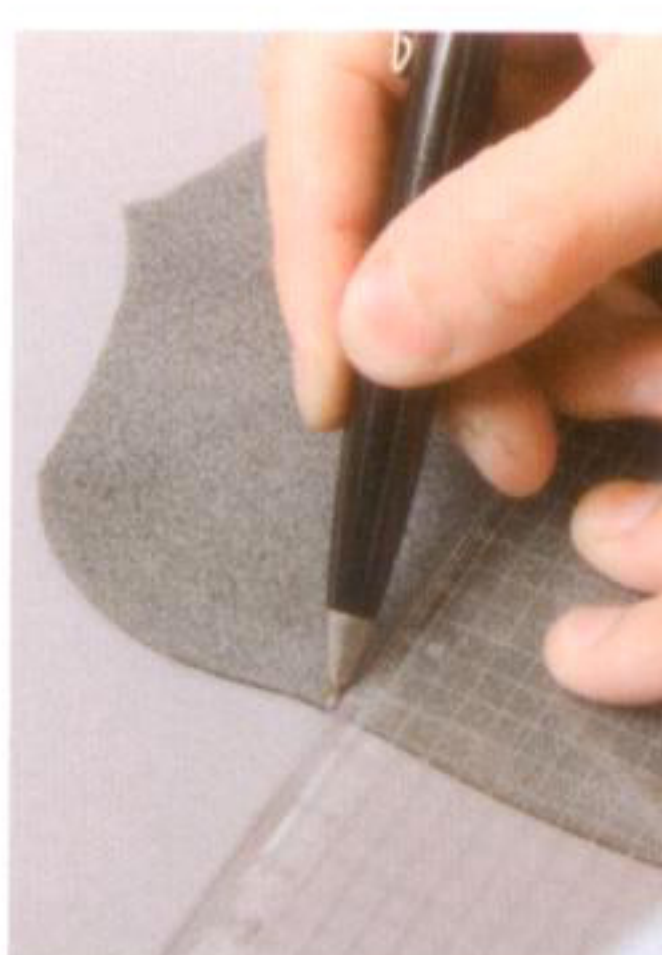
13 再びサンドスティックでヘリとコバを整え、染料を塗る。
染料はフェルトを使って塗っている



14 トコノールを塗ってウッドスリッカーで磨く。1回目は
CMC、2回目はトコノールを使用して磨く



15 磨き終わった状態のパーツ。カードケースとコ
インケースにも **8** ~ **14** の工程を行なう

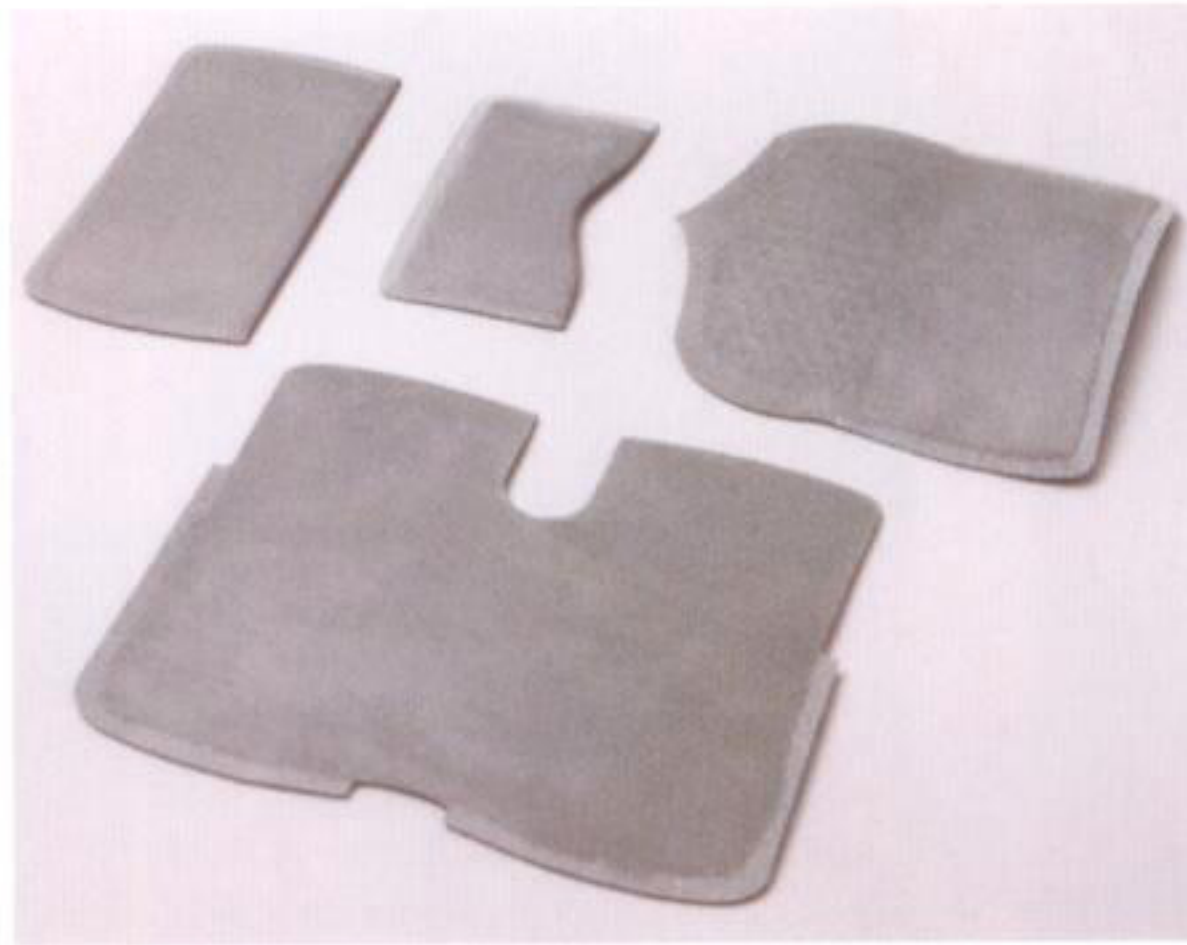


16 コインケースBにコインケースAの縫いしろ位置を印付
け、それ以外の部分にトコノールを塗る

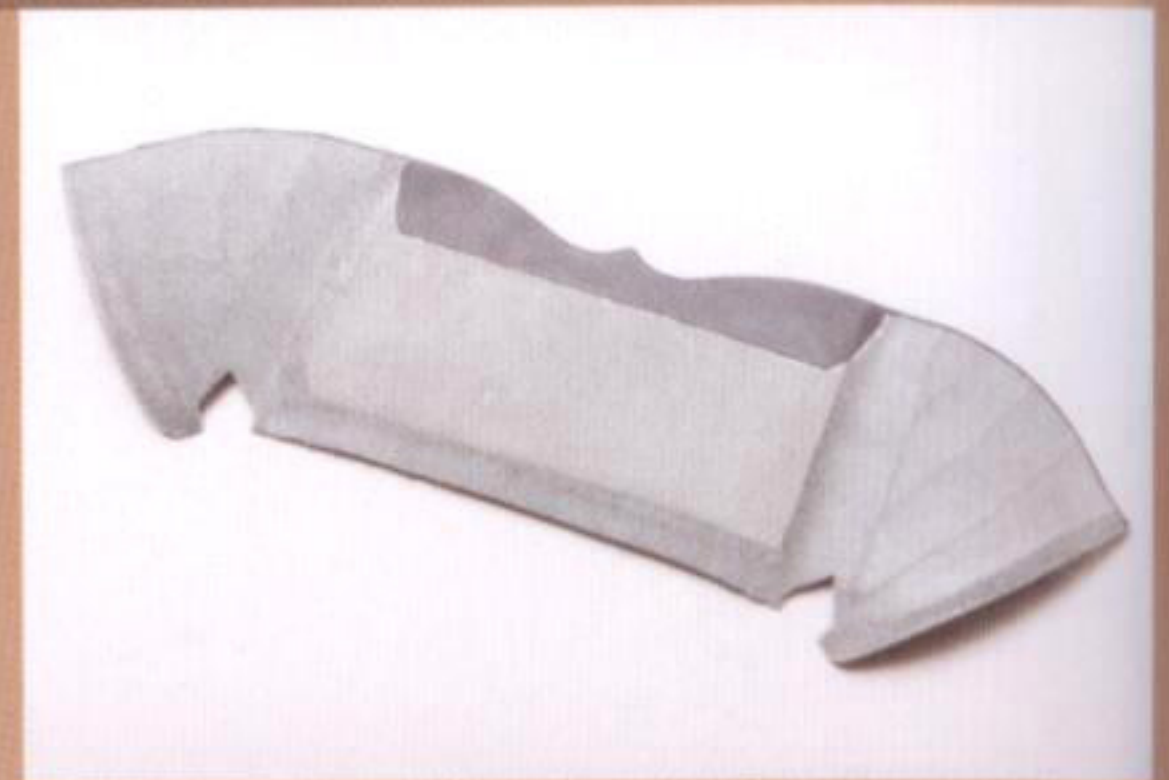




17 トコノールを塗ったら、革の目に沿ってガラス板で磨く。
右の写真のように、縫いしろ以外の床面を全て磨く



POINT



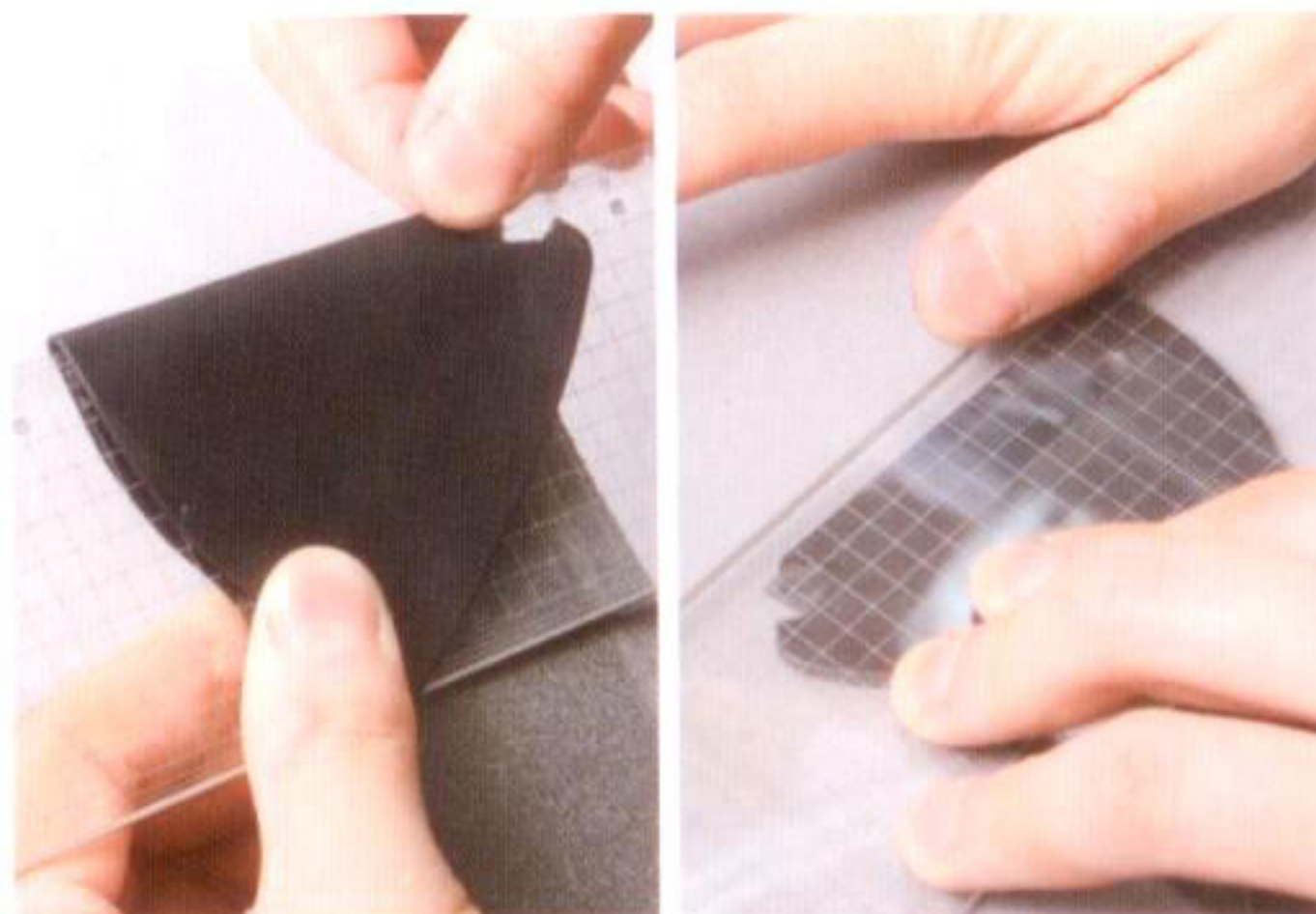
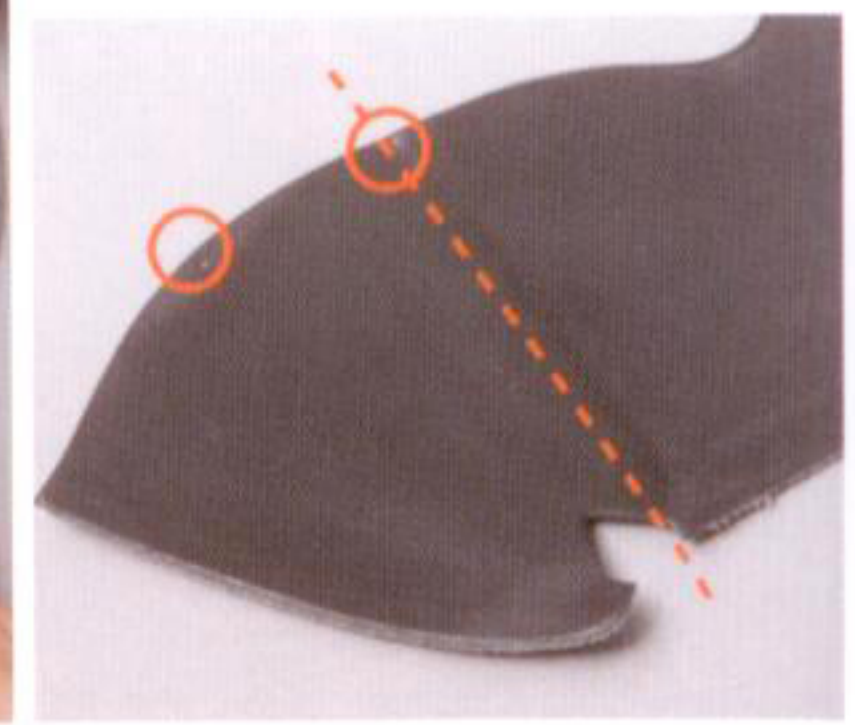
18 コインケースAは中央部分だけ磨く。マチと下部の縫いしろは磨かない



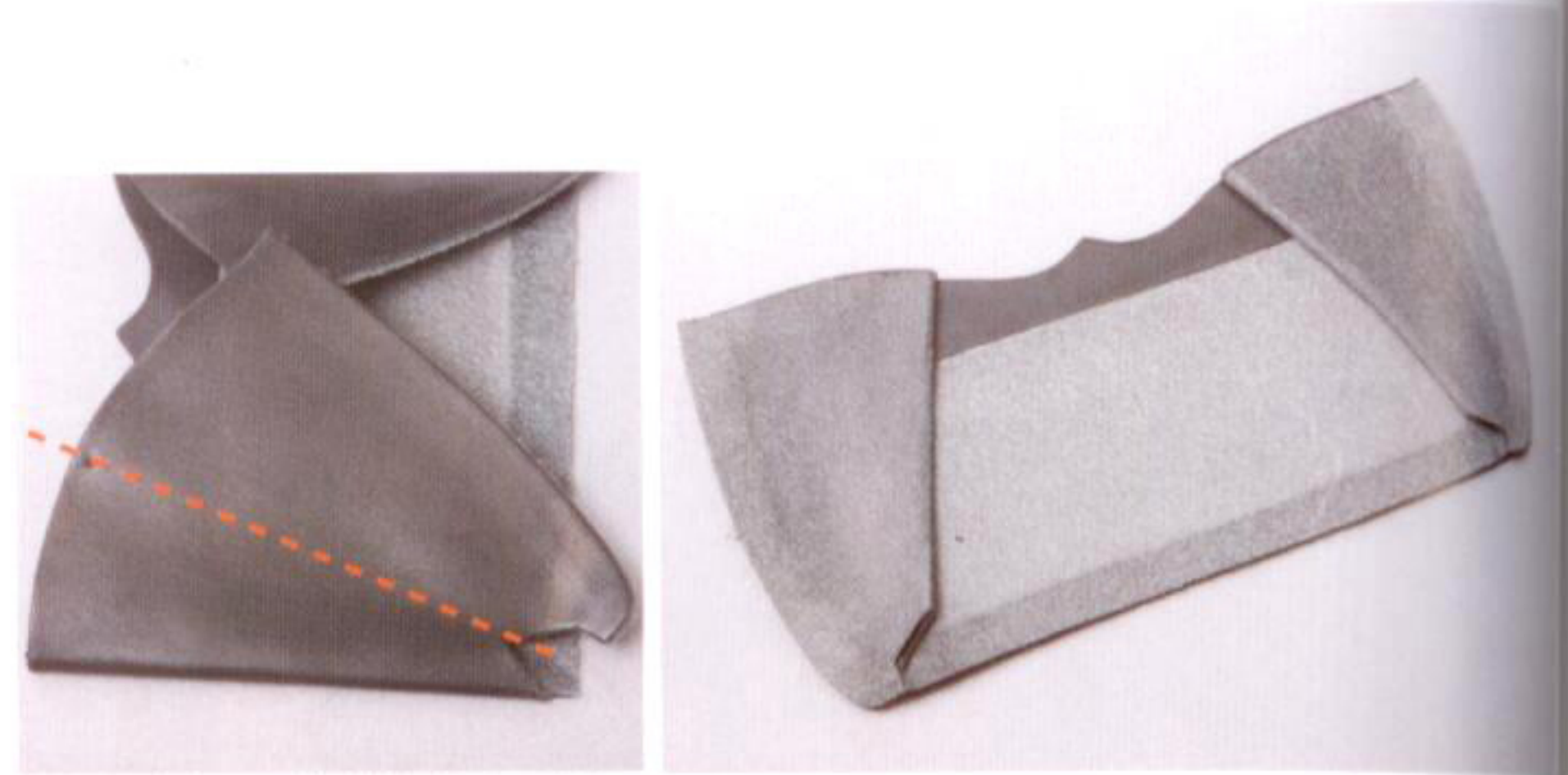
19 コインケースAのマチ部分に水を付ける。ウエスなどに染み込ませ、色が変わる程度含ませる



20 型紙を元にして、マチの折り目の基準となる点に丸ギリなどで印を付ける



21 定規をあててマチを折り、上から定規をあててしっかりと折り目を付ける



22 同じ要領で点線のラインで折り返す。乾燥すれば右の写真のようにしっかりと折り目が付く

カードケースの組み立て

ネジ捻で縫い線を付ける場合は、ネジ捻の巾を測るのではなく、革に付けた巾にネジ捻を合わせると良い。



型紙を元にして、カードケースAにカードケースBの取り付け位置を、点で印付ける

1



印付けた点を線で結び、カードケースBが取り付けられる位置をけがく

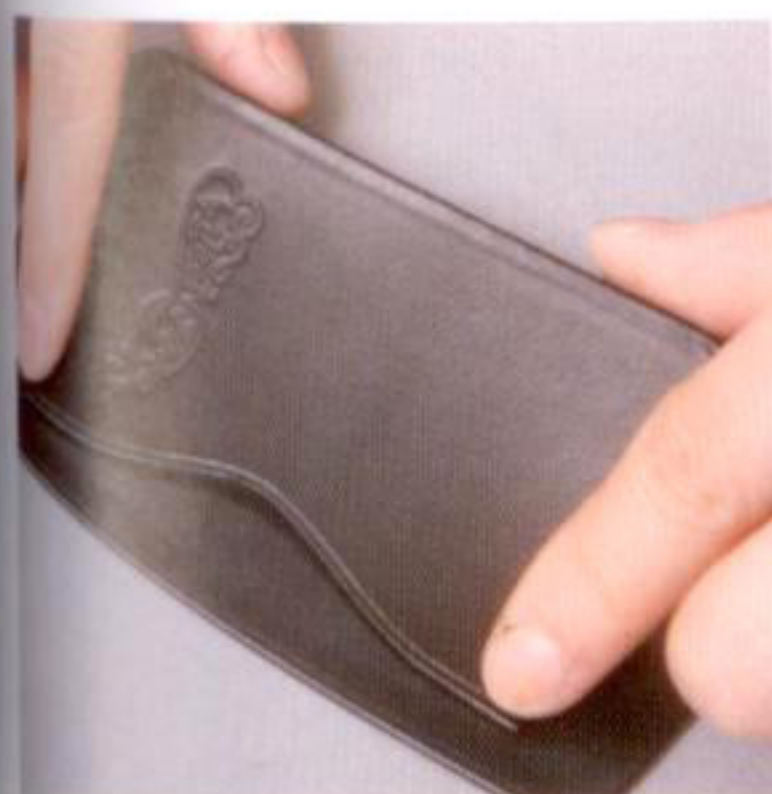
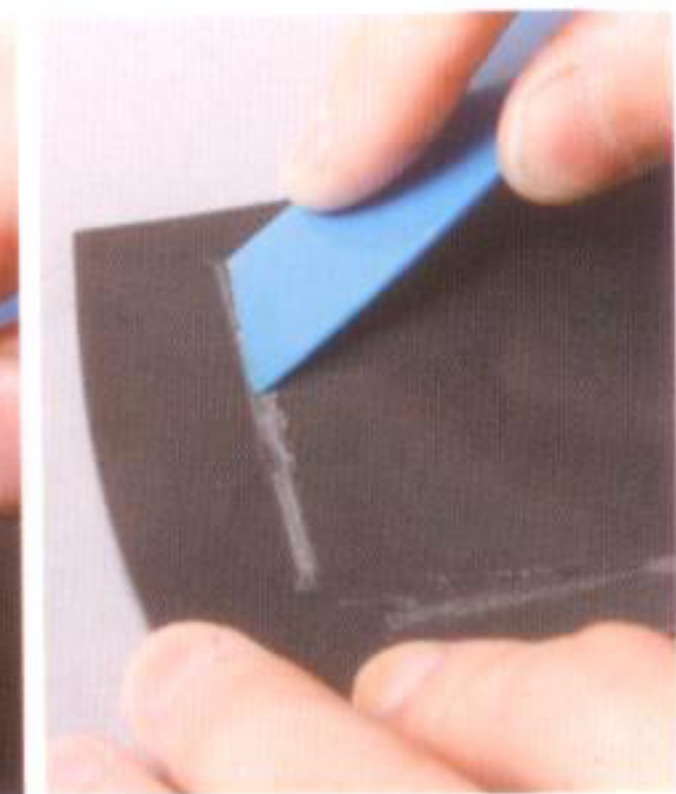
2



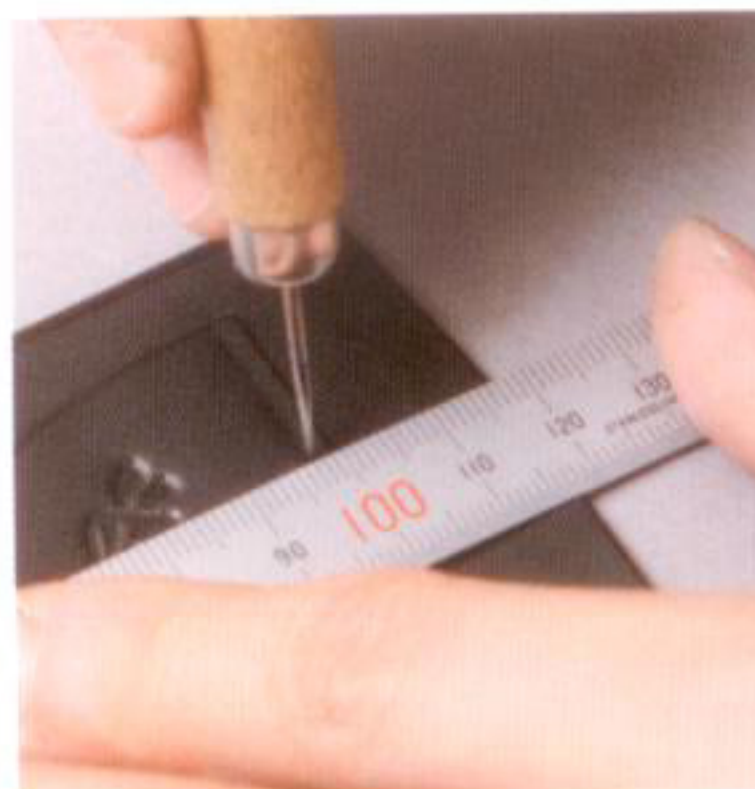
3 けがいた線の内側を3mm程度の巾でけがき、毛羽立たせる。カッターの背を使うときれいにけがける



4 カードケースBの縫いしろ(5mm巾程度)とカードケースAのけがいた部分にエルスーパーボンドを塗る



5 ボンドが半乾きになったら、まず上の点を合わせて貼り、その後下を貼っていく



6 カードケースBの端から2.5mmの所に点を付ける。その点にネジ捻の巾を合わせ、縫い線を引いていく



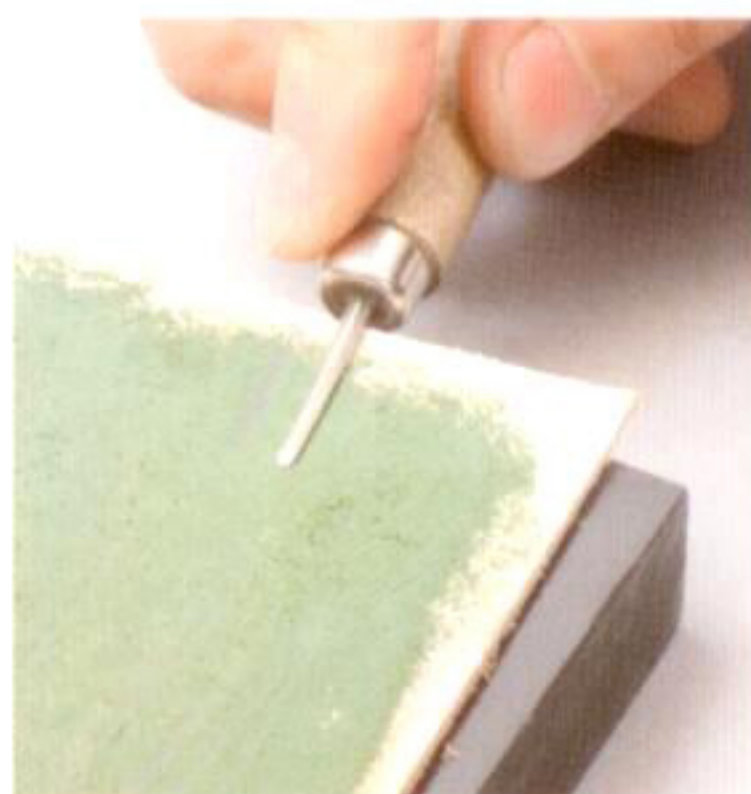
カードケースの作りかた



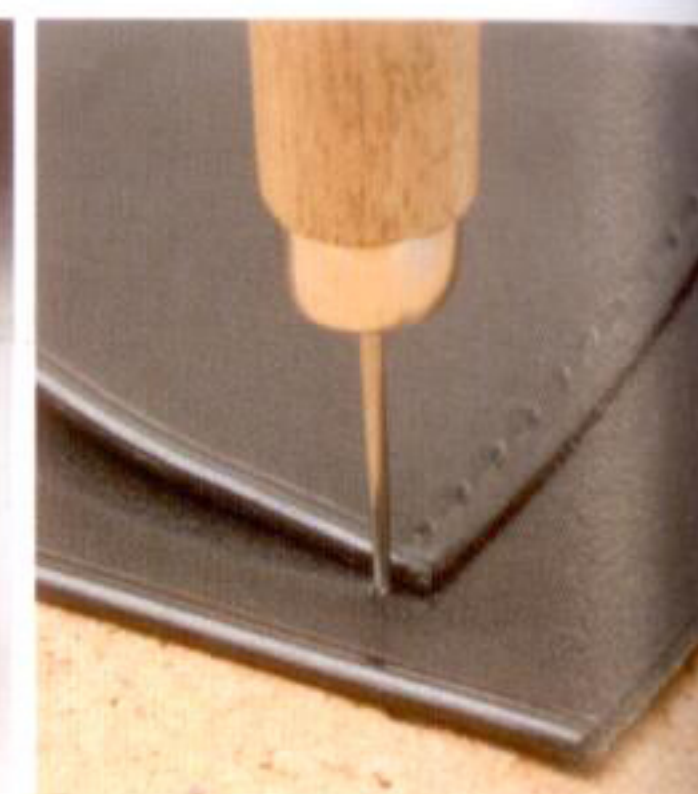
7 8号のヒシ目打ちを軽く打ち付けて、縫い穴の位置を印付けていく。カーブは2本ヒシ目打ちを使う



9 ヒシ目打ちは両側から打っていき、真ん中に近づいたら2本ヒシ目打ちで間隔を調整する



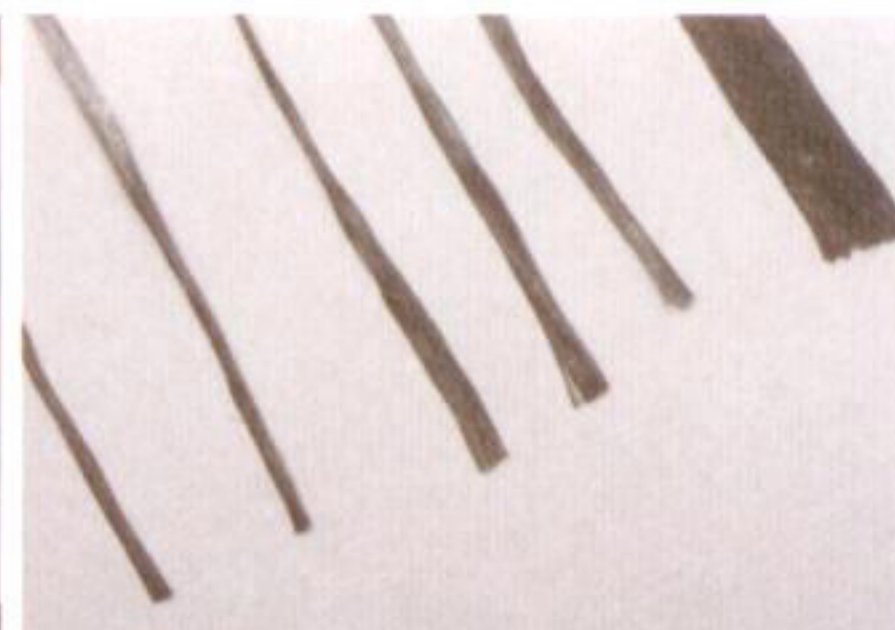
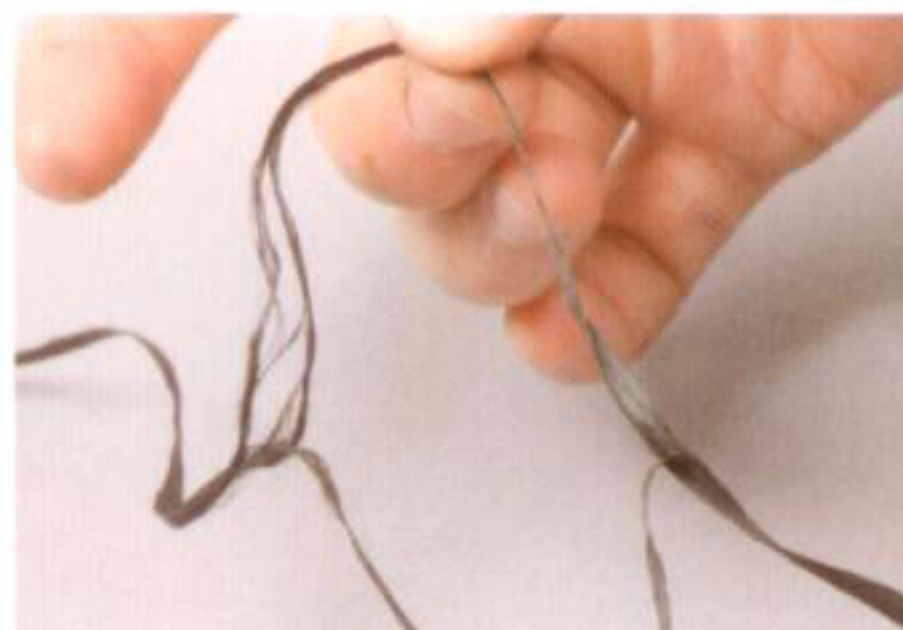
10 117ページと同じように、研いだ菱ギリで穴を貫通させる。カードケースBの両端にも1穴ずつ空ける



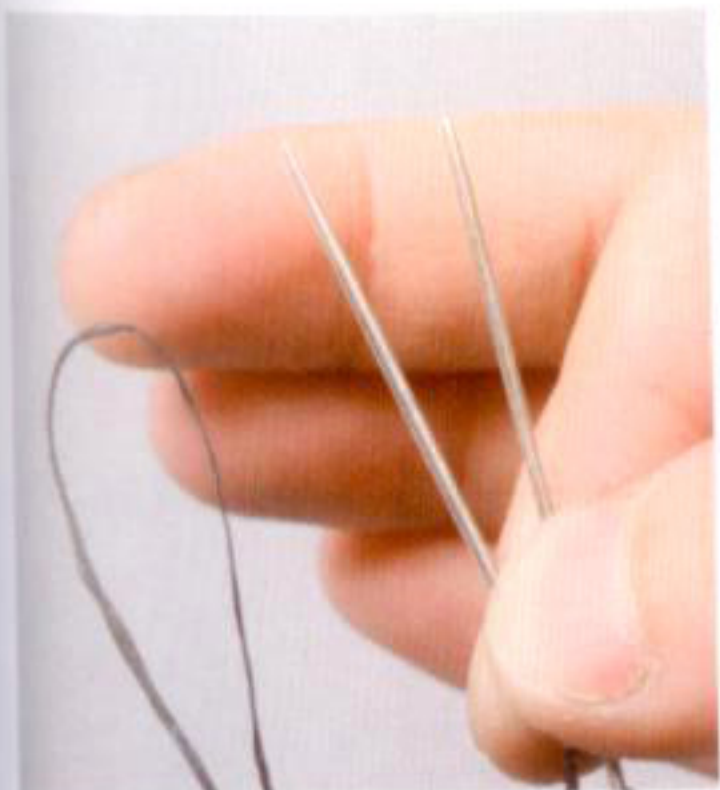
カードケースの縫製

ここではシニュー糸の使い方がポイントになる。また、縫製後に行なう飾り捻(焼き捻)が立体感あるデザインを生む。

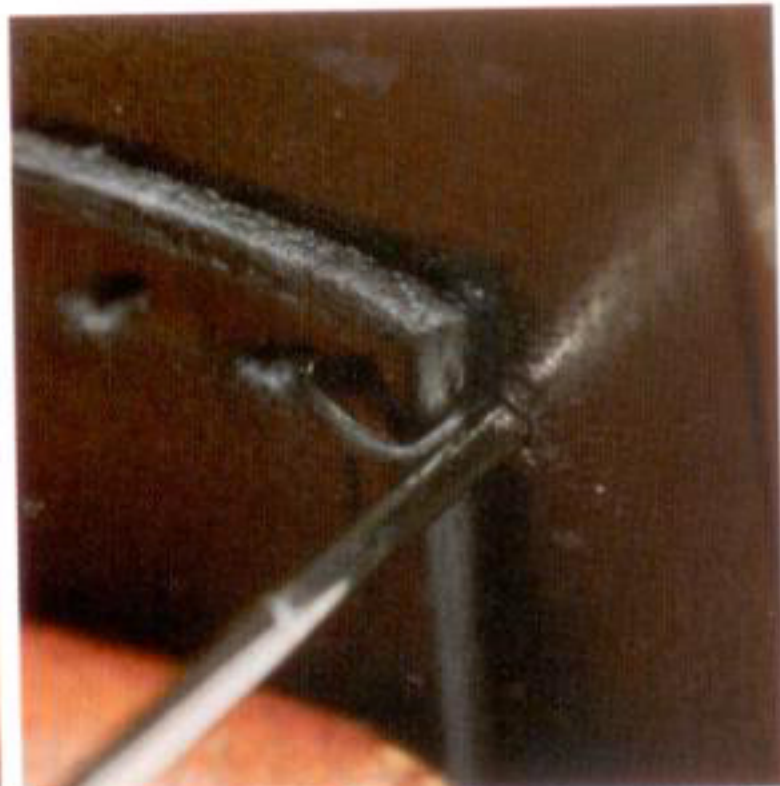
CHECK!



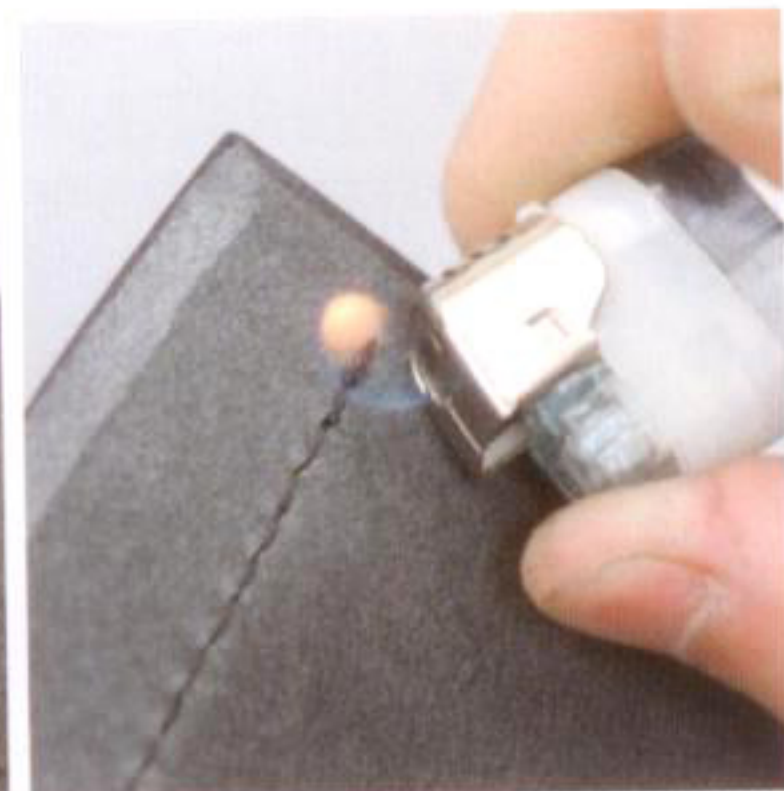
現在流通しているシニュー糸は何本かの糸が合わさって1本になっている。そのまま使う人もいるが、アウェイクではアイテムに応じて本数を調整している。手で裂いてみて、きれいに裂けるところから裂いていくと5本(4本の製品もある)に裂くことができる



11 5本に分かれるうちの1本分をひとひろ分(両手を横に広げた長さ)用意する。最初は2目目に通して二重にする



12 平縫いで縫い進めていく



13 最後まで縫ったら二重に縫い返し、2mm程余らせてカットする。余った糸はライターで溶かして留める



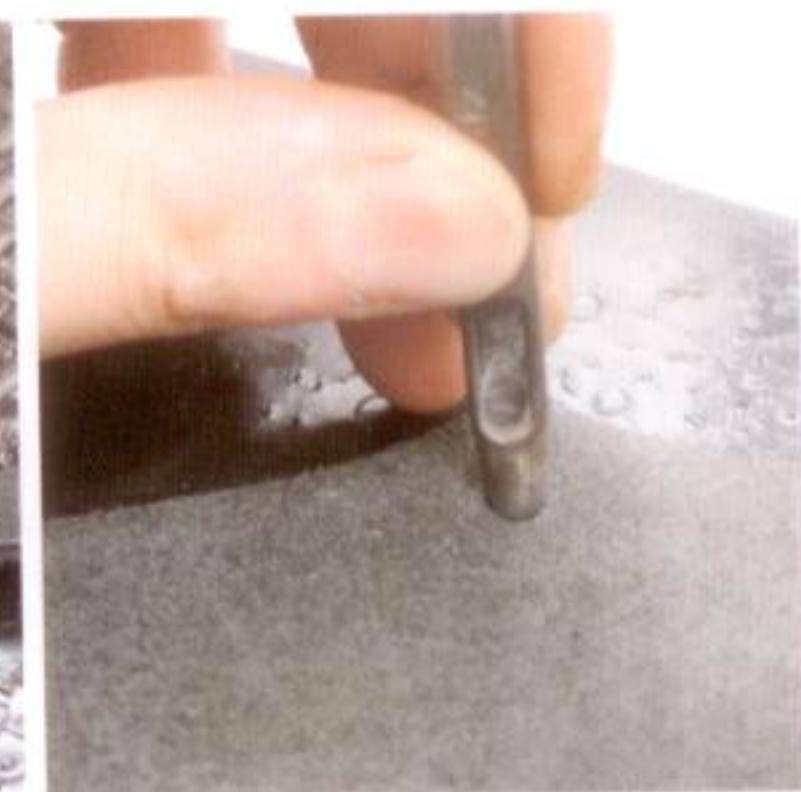
14 119ページと同じ要領で、飾り捻を引く。この飾り捻で外側を沈めることにより、立体感ある仕上がりとなる

コインケースの組み立て

コインケースAとBを貼り合わせる。ヘリ落としは、表(銀面)側と裏(床面)側で番手を変えるのがポイントだ。



1 型紙を元にして、コインケースAとBにホックの取り付け位置をけがき、ハトメ抜きで穴を開ける



2 コインケースAは8号、Bは12号で空ける。Bの12号は裏表両方から打ち、しっかりと穴を開けておく



3 オールマイティプレートとホック打ちを使って、ホックを取り付ける。一気に強く打つとずれてしまうので、少しずつ打っていく。オスとメスの取り付け位置を間違えないように気を付けること



4 コインケースAとBの縫いしろにボンドを塗り、貼り合わせる。圧着にはヤットコを使用すると良い

5 コインケースを本体Bに合わせ、縫いしろの最上部となる位置に印を付ける



6 蓋の部分と**5** でけがいた点よりも左(下)側を、表(銀面)側は2番、裏(床面)側は1番のヘリ落としとして落としていく



ヘリを落とした部分を、118～119ページと同じように磨いていく。点線の部分は本体Bと張り合わせてからヘリを処理するので、この時点ではヘリを落とさない。また、カードケースも同じように、本体Bと重なる部分を残し、ヘリを処理する

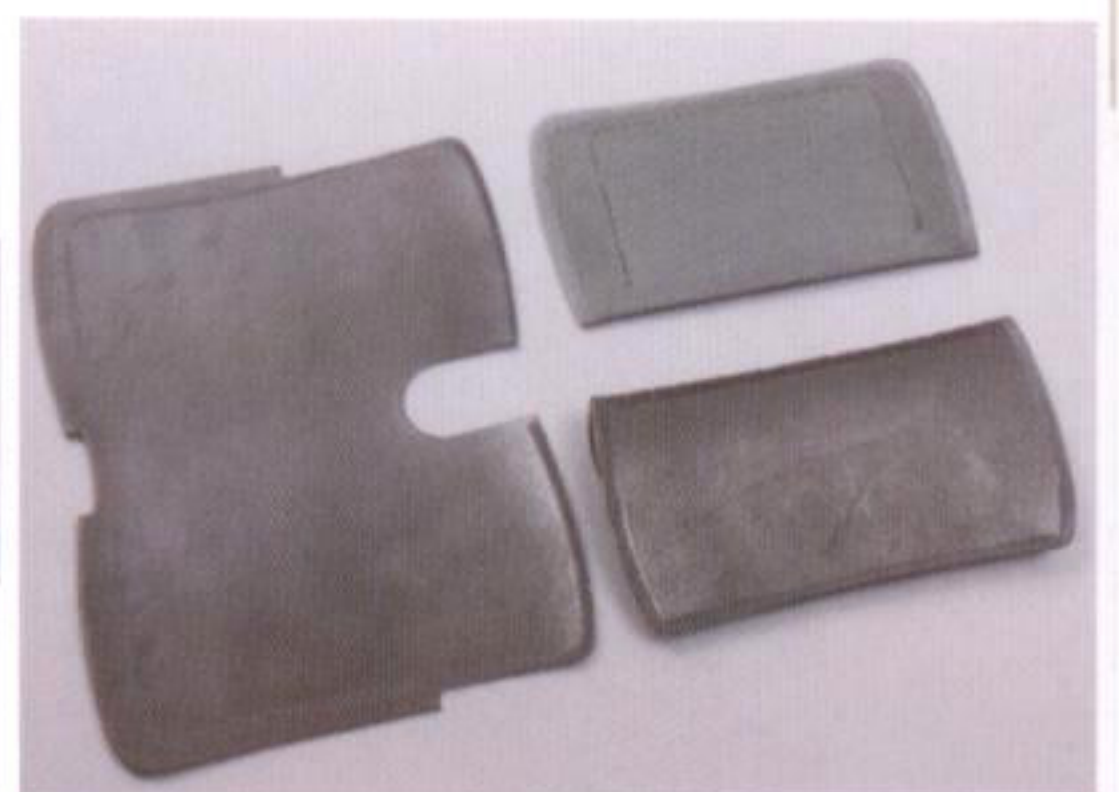
7

カードケースとコインケースの縫製

カードケースとコインケースを本体Bに縫い合わせる。縫いしろはしっかりとけがき、接着しやすいようにすること。



1 コインケースとカードケースを本体Bの上部にピッタリ合わせ、貼り合わせる位置を目立たない所にけがく



2 けがいた線の内側に、カッターで3mm巾程度のけがきを入れる。本体Bとケースの裏も同じようにけがく



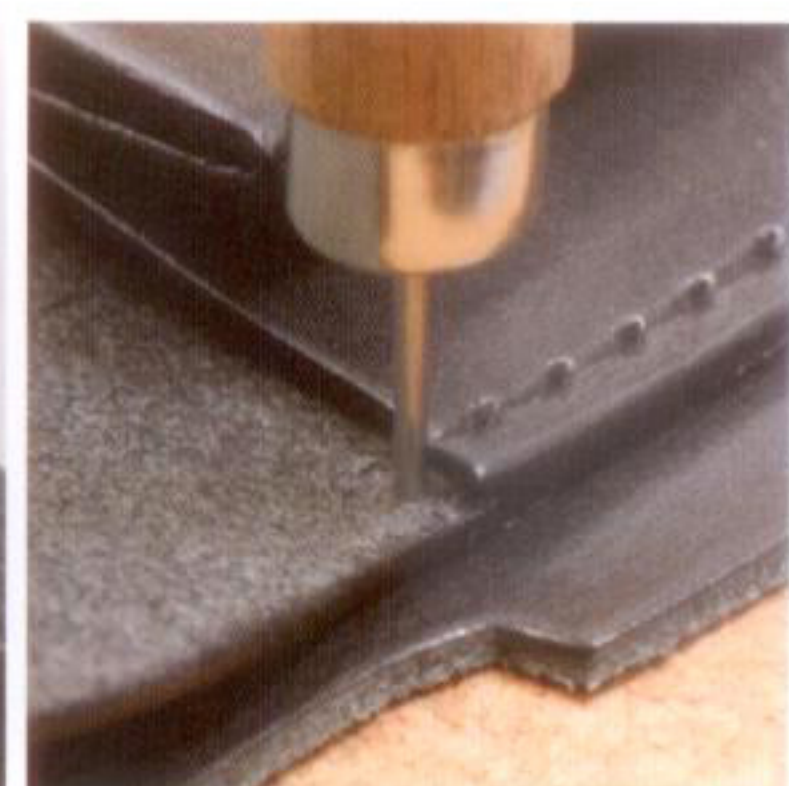
3 けがいた部分にボンドを塗り、本体Bとカードケース、コインケースを貼り付ける。圧着にはヤットコを使用



4 貼り合わせた部分に3mm巾のネジ捻を引き、縫い線を付ける。右は貼り合わせて縫い線を引いた状態



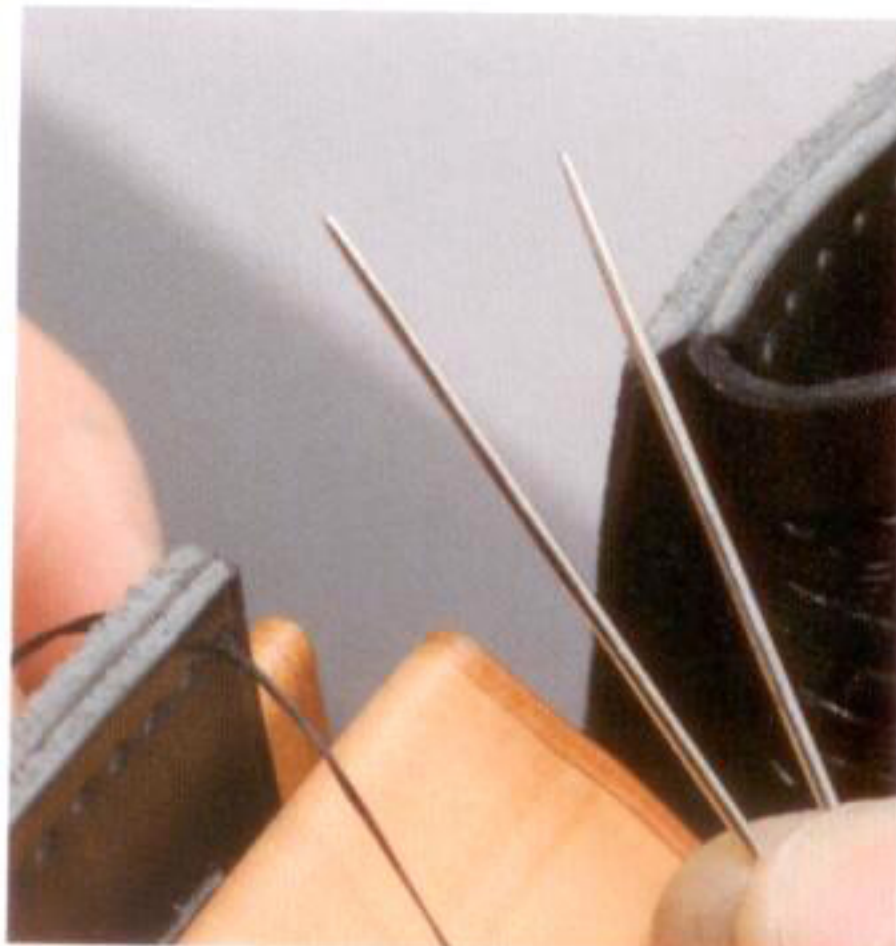
5 2本ヒシ目打ちを軽く打って、縫い穴の位置を付けていく。マチの折り目は、この時点で菱ギリで空けてしまう



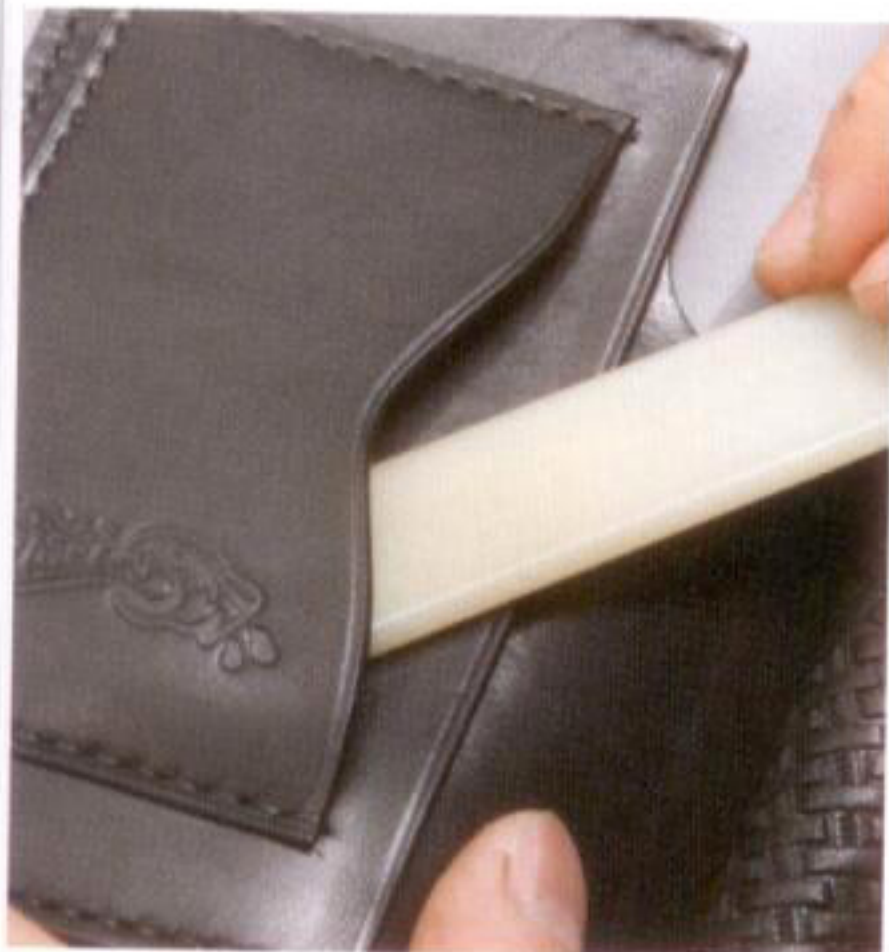
6 緩やかにカーブしているので、全て2本ヒシ目打ちを使用すると良い。コインケースの段差は菱ギリで空ける



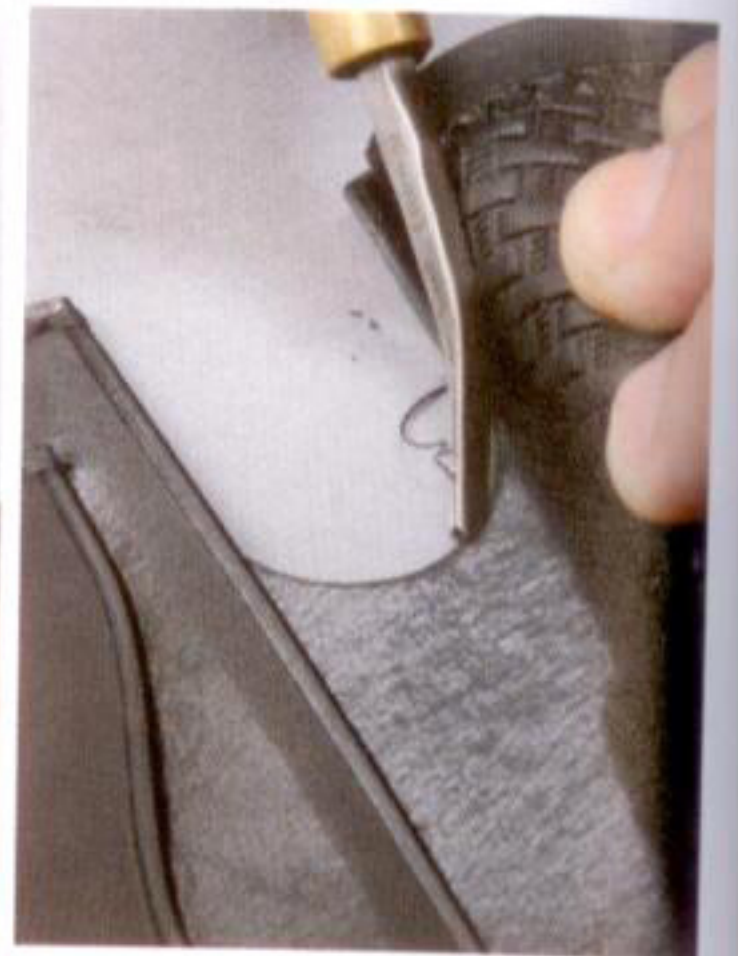
7 ヒシ目打ちで付けた目を元に、菱ギリを使って全ての穴を貫通させる



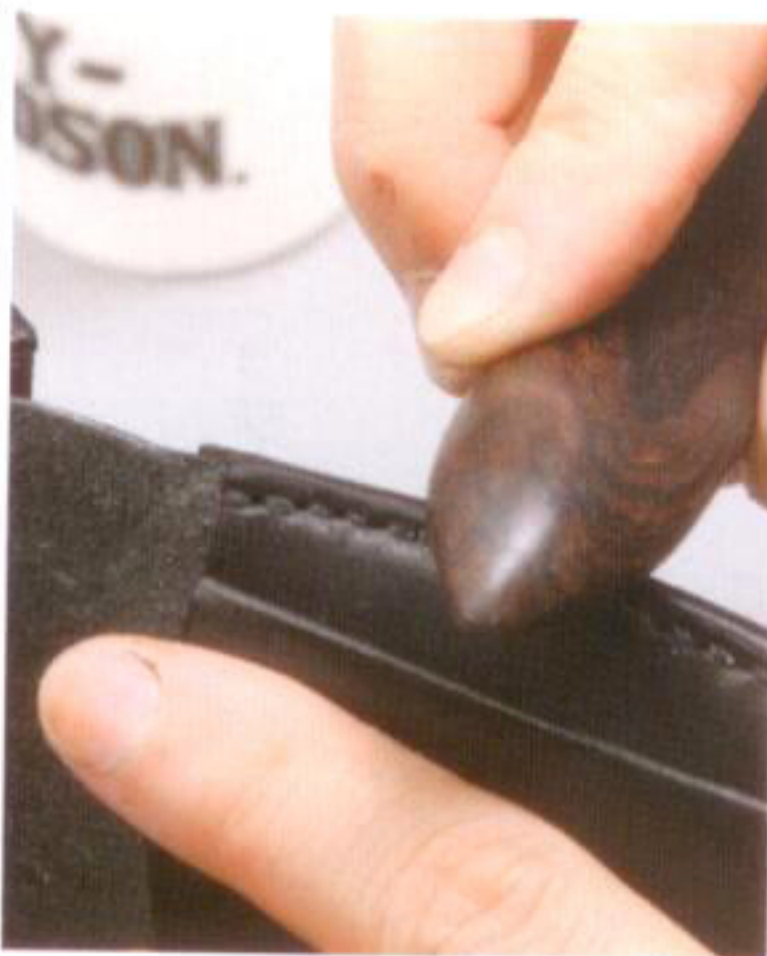
8 2/5のシニュー糸を使って、コインケースとカードケースを縫い合わせる。縫い方は123ページと同じ



9 袋状になっている縫い目部分は、接着剤が固まっている場合があるので、ヘラで剥がして広げておく



10 124ページで未処理の表部分は3番、それ以外の表と裏側は2番、カーブの強い部分は裏表1番でヘリを落とす



11 118~119ページと同じように、染料やCMCなどを塗ってヘリとコバの処理をする



12 巾の異なる飾り捻を縫い目に沿って引き、再びヤスリや染料、トコノールなどで磨き上げる

各パーツの組み立てと縫製

本体Aとケースを縫い合わせる。ひと目ずつ菱ギリで貫通させて縫うため時間がかかるが、仕上がりは美しくなる。



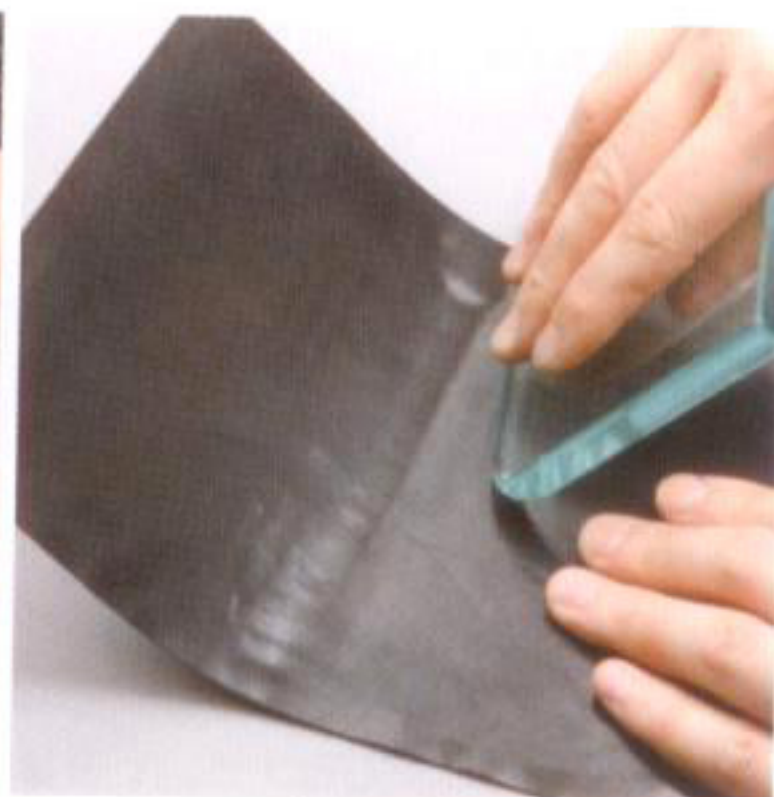
1 プレート型コンチョのツメを押しあて、跡が付いた場所につきのみで穴を開ける



2 コンチョを差し込み、プライヤーでツメを少しずつ曲げていく。最後はコルクを敷いて、ハンマーで曲げる



3 本体Aと裏革Bの裏側に接着剤を塗って貼り合わせる。真ん中は、机の角などを使って曲げながら貼っていく



4 端はヘラを使って圧着し、裏側からはガラス板を使ってしっかりと圧着して空気が入らないようにする



5 裏革の余分な革をカットする。本体を切らないように気を付けること



6 点線の部分は本体Aと接着する部分なので、縫いしろを決めるために本体と重ねて○の位置に印を付ける

2. 本体の裏面を縫う



7 本体の端から3mmの所に印を付け、その印にネジ捻の巾を合わせて縫い線を引く



8 ネジ捻で付けた縫い線に沿って、ヒシ目打ちで穴の位置を付ける。裏まで貫通しないように軽く打つこと



9 **6** で付けた縫いしろの範囲をカッターで切がく。ケース側もけがいて接着しやすくする

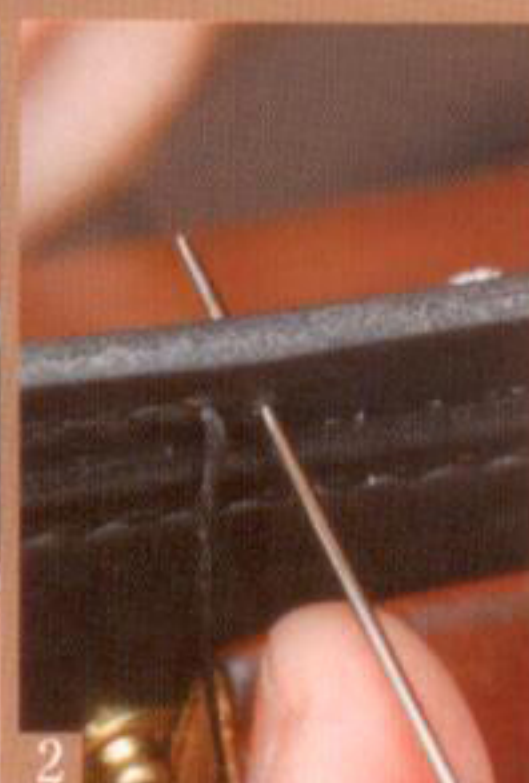


10 接着剤を付けて貼り合わせる。一度に両側を貼らず、片方縫ってからもう片方を貼って縫う

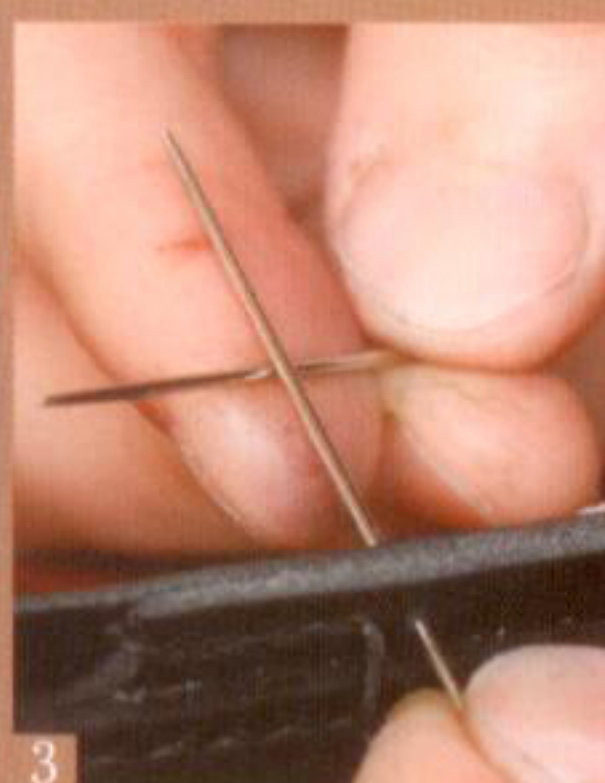
POINT



1



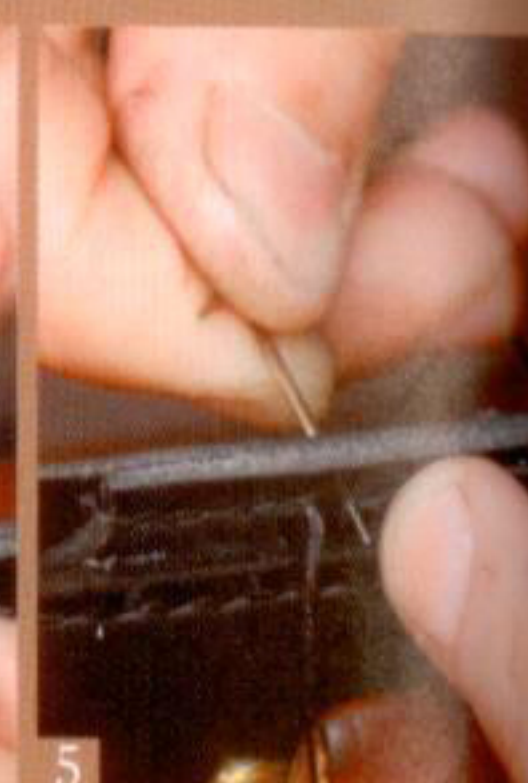
2



3



4

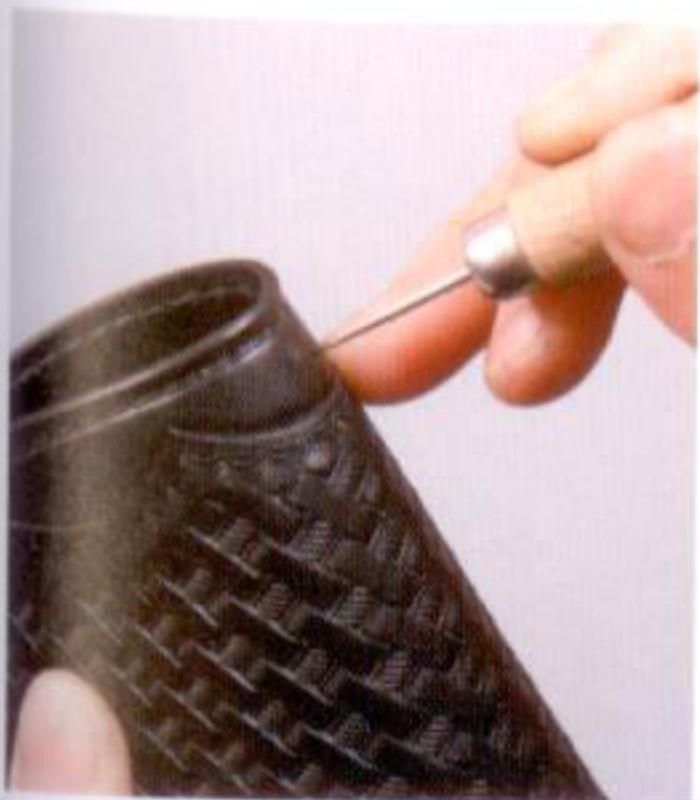


5

11 1ここでは菱ギリを使って穴を貫通させながら縫っていく。まずは菱ギリを差し込みその近くに針を持ってくる 2菱ギリを抜いて内側から針を入れる 3外側の針を下にしてクロスさせる 4クロスさせたまま針を抜いて糸を手前に引く 5糸を引いたまま外側の針を差し込む



12 菱ガリを使いながら縫い、一周したら最後ははじめの目から2目分縫い進み、ライターで糸を溶かして留める。その後ヤスリをかけ、外側と内側の厚い部分を2番、内側の薄い部分を1番ヘリ落としてヘリを落として、内側の外周に飾り捻を引く



13 本体を曲げ、ウォレットフックを付ける位置に印を付ける。ゴム板を敷き、20号のハトメ抜きで穴を開ける



14 ウォレットフックのネジ穴にサイビノールを入れ、マイナスドライバーでネジを締めて固定する

真鍮チェーンを繋ぐ

ここからはI☆N FACTORYのオリジナルウォレットチェーンを製作する。Sカンを繋いでいくだけの簡単な作業だ。



1 Sカン同士を繋ぎ、ペンチで口を閉める。傷が付かないように樹脂製のペンチを使うと良い



2 好みの長さになるまでSカン同士を繋いでいく。販売されているキットには、Sカンが22個付いている



3 今回は先端に別売りの回転カン(スカルタイプ)を付けて口を閉じる

CHECK!



真鍮チェーンのオプションとして、I☆N FACTORYが販売を予定している回転カン。マリア像、クロス、スカルの3タイプと、シンプルな回転カンのみの合計4タイプが揃う



4 回転カンとフックをリングで繋ぐ。回転カンを挟まない場合はSカンと繋ぐ



5 プライヤーを使ってリングの口を閉じる。回転カンなのでチェーンが回っても、常にスカルが見えるようにデザインされている



CHECK!



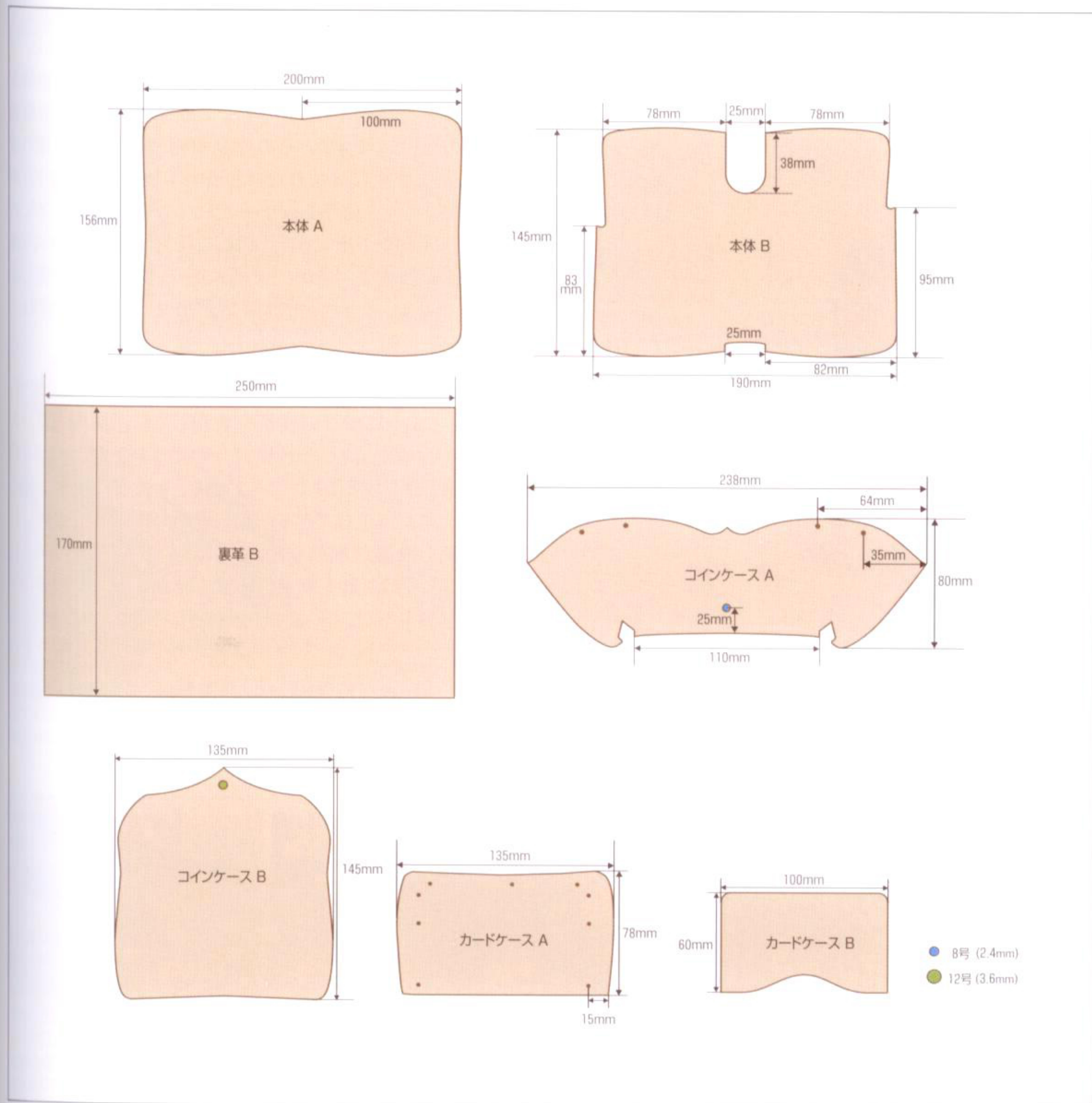
I☆N FACTORYで販売しているキットでは、好みのナスカンやフックをこの中から選ぶことができる



6 これでミドルウォレットと真鍮チェーンは完成。同じショップのアイテムだけあって相性は抜群

寸法図

この図は400%に拡大するとほぼ原寸大になる。ただし、あくまでも目安であり、革の厚みや質によって調整が必要。



OWNER'S INTERVIEW

職人になるのではなく
趣味としてレザークラフトを続けたい

NOBUSHIKA ITO



伊藤 信親氏

アウェイクとウェブショップI☆N FACTORYの代表。伊藤氏の言葉からは、レザークラフトに対する情熱とこだわり、最高の物を作りたいという熱意がひしひしと伝わってくる

—レザークラフトを始めたきっかけは？

昔買ったミシン縫いの財布が壊れて、それを自分で直したのがきっかけです。当時は手縫いというと高価なイメージがあり、手が出なかったんですが、時間をかければ自分で手縫いの物を作れることがわかったんです。そしてある時、革作家の本池秀夫さんの本を見たんですよ。その作品や言葉に感動し、憧れましたが、自分は作家にはなれないと思い本池さんとは違う方向性で進んできました。何年もレザークラフトをやっていますが、自分の作風というものが出来たのはここ数年です。バイクにも乗っていますが、無骨なバイカーというイメージより、上品で優しい感じが好きなので、そういった雰囲気が出せれば良いですね。

—レザークラフトに対するこだわりは？

職人ではなく、趣味としてレザークラフトを続けていきたいです。というのは、どんなにすごい技術を習得しても、どんなにコバの仕上げをきれいにしても、それは自分のこだわりでしかなく、そのために値段を上げることはできません。どんなに腕が上達しても、仕事である以上はできる作業の範囲が決まってしまう、こだわっていると採算が取れなくなってしまいます。そのため、私は工具、材料屋で生計を立て、商品は時間をかけて納得のいくものを作れるようにしています。趣味として考えれば時間もお金もかけることができ、物づくりの本来の楽しみである腕の上達や完成したときの喜びを味わえますからね。

SHOP INFORMATION



1 店先には伊藤氏のスポーツスターが置かれる 2 店内には小物からバッグまで様々なアイテムがディスプレイされる 3 カービングアーティスト大塚氏や、彫金師の富田氏、富士鞆工房の藤本氏など、一流アーティストの作品がズラリと並ぶ 4 伊藤氏の意志を受け継ぐスタッフの中村氏。革に対する技術と知識は、伊藤氏譲りの確かなものだ

アウェイク(I☆N FACTORY)

神奈川県横浜市中区曙町3-32 ワインプラザ1F

営業時間 11:00~22:00

定休日 不定休 Tel.045-241-8620

URL <http://www.kawazairyo.com/> e-mail kawazairyo@lake.ocn.ne.jp

Special tools

工具類の紹介

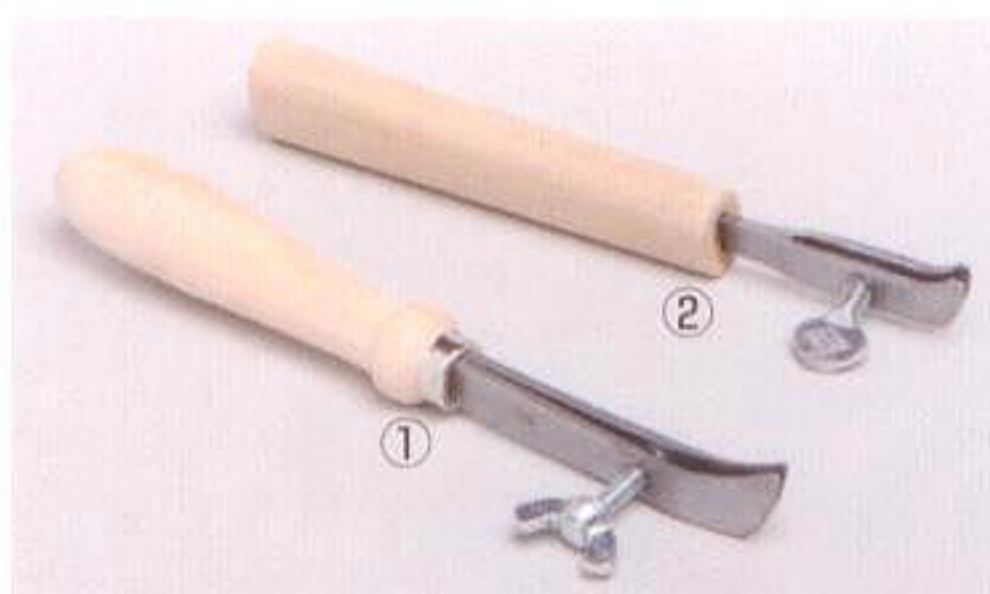
ミドルウォレットの製作で使用されていた工具の中には、通常の工具、材料店では手に入りにくい物もある。ここではI☆N FACTORYで販売されている、ひと味違ったスペシャルツールを紹介する。



レーシングボニー

革を挟んで固定するレーシングボニー。折り畳み式なので、使用後も場所をとらずに収納できる。挟む強度はダイヤルを回して調節する

¥15,540



① ネジ捻 ② ハイグレードネジ捻(価格未定)

縁飾りや縫い線を引くネジ捻。使いやすさを重視し、左右の長さや重さを変えられている。ハイグレードネジ捻は刃先の加工が可能

¥2,100~



替刃式菱切り

真鍮無垢のネジが付いているため、簡単に刃の交換ができる菱切り。刃は上質な鋼材を使用しているため、強度と切れ味は抜群

¥2,500



菱目打ち(7・8・9本目セット)

革製品屋での経験を元に、鋼材、強度、刃の形状など全てにこだわって作られた菱目打ち。それぞれ2本菱目打ちとのセットとなる

価格未定



プラネット・富田 靖 オリジナルベルトカッター

ベルトやレースを作るためのカッター。本体は樫の木製で壊れにくく、底部はウォールナットのため、滑りが良くスムーズに切れる

¥7,560



ジャンパードット打ち

打ち付ける時のブレや失敗が少ないジャンパードット打ち。大は15mmに対応し、小は12mm、13mmに対応している

各¥1,050



ホック打ち

ホック打ち自体に適度な重量感があるため、打ち付けるときにブレたり失敗することが少ない。サイズは2サイズで、小と中は兼用

¥1,575



カラーシニュー

1/3~1/4本に裂くことができる発色の良さを重視したカラーシニュー。パープルやオレンジ、エメラルド、ターコイズブルーなど全14色

¥3,600



ハイグレードカラーシニュー(大・小)6色

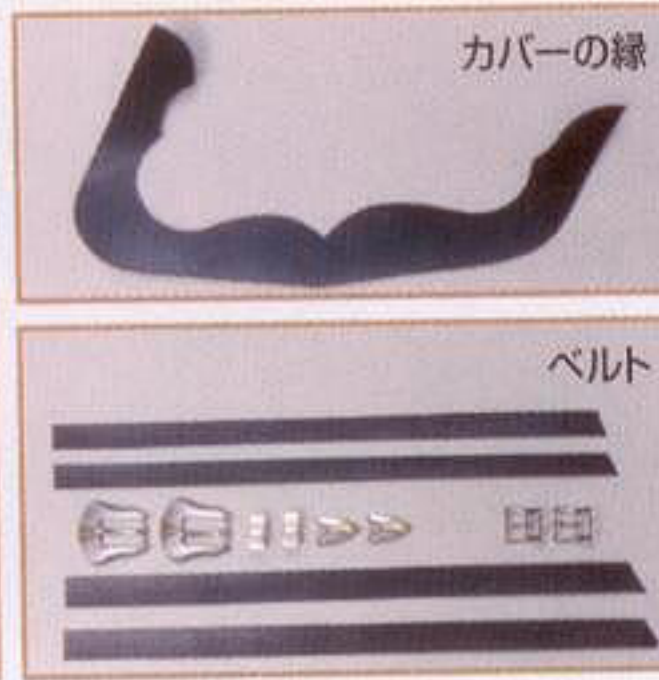
優れた強度を誇るカラーシニュー。必要に応じて5本に裂くことができる。クラフト社、協進エル、誠和社より販売中

小¥578 大¥2,940

SADDLE BAG [For HD SPORTSTER]

サドルバッグ [HDスポーツスター用]

クルーザータイプのバイクには必需品とも言えるサドルバッグも、手縫いで作ることができるアイテムだ。レザークラフトの基本をしっかり踏まえた上で、挑戦したいアイテムだ。



このサドルバッグの最大のポイントになるのがマチの芯として使用するアルミ板だ。車体に取り付けるサドルバッグは時には雨に濡れることもあるはずなので、この芯が入っていないとすぐに型くずれしてしまう

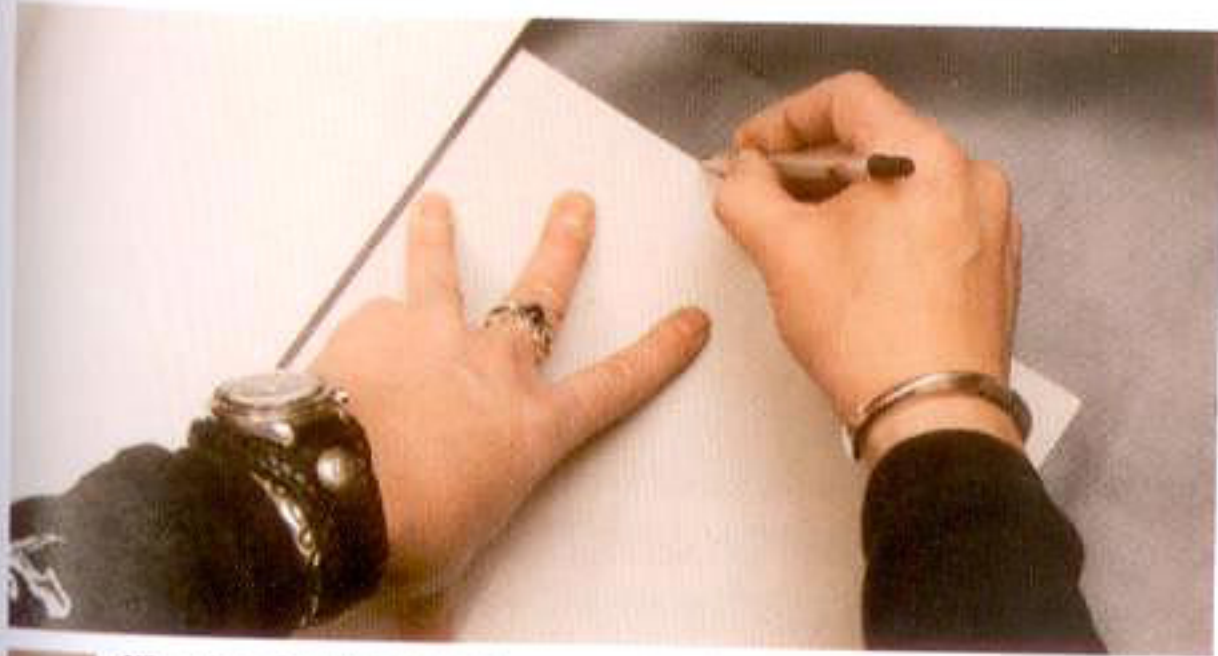
作りがいのある大物、サドルバッグ

クルーザータイプのバイクには欠かせないサドルバッグも、自分のバイクに合わせてオリジナルで作ることができる。パーツが大きいので作業は大変そうに思うだろうが、基本的には貼ったり縫ったりする距離が長いというだけで作業の

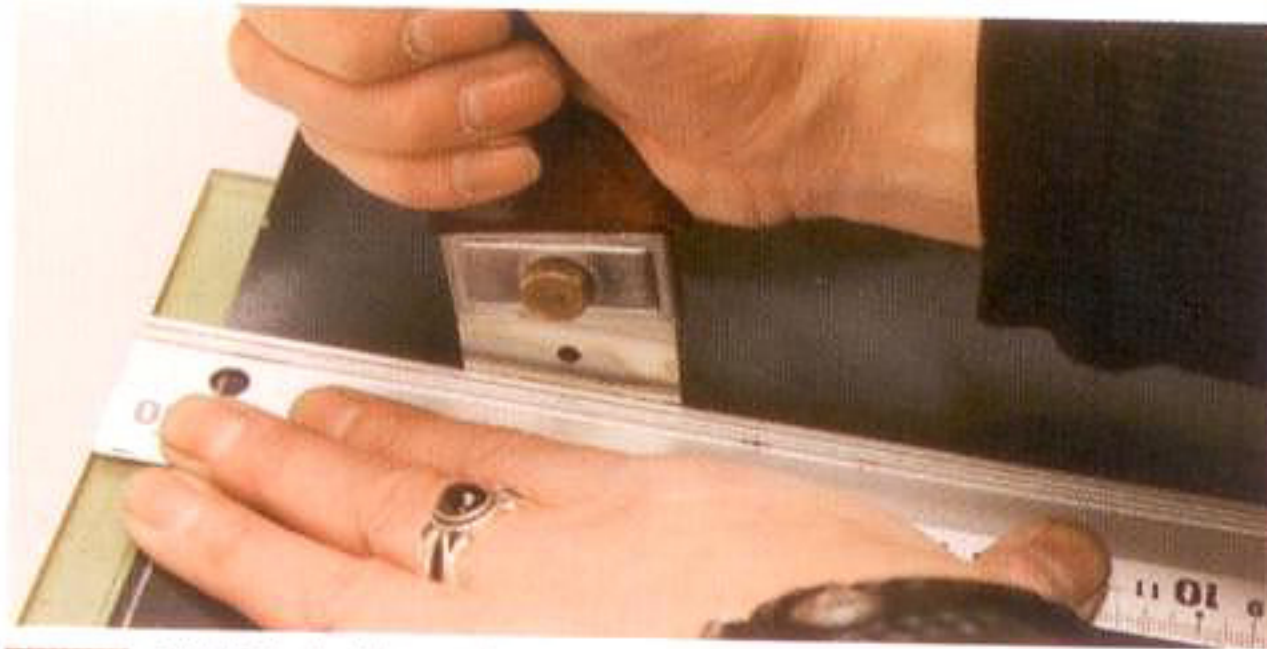
基本は小さな物を作るのとそう大きくは変わらない。もちろん立体なので簡単ではないが、基本をしっかりと押さえてじっくり組み立てれば完成させることができるはずだ。小物だけでは飽き足らなくなったら、ぜひ挑戦してみしてほしい。

各部パーツの製作

まずは各パーツを切り出し、必要な部分にすきを入れていく。革の向きに注意しながら切り出すこと。



1 銀ペンで型紙を写していく。革の伸び方向を確認してから取り分を決めること

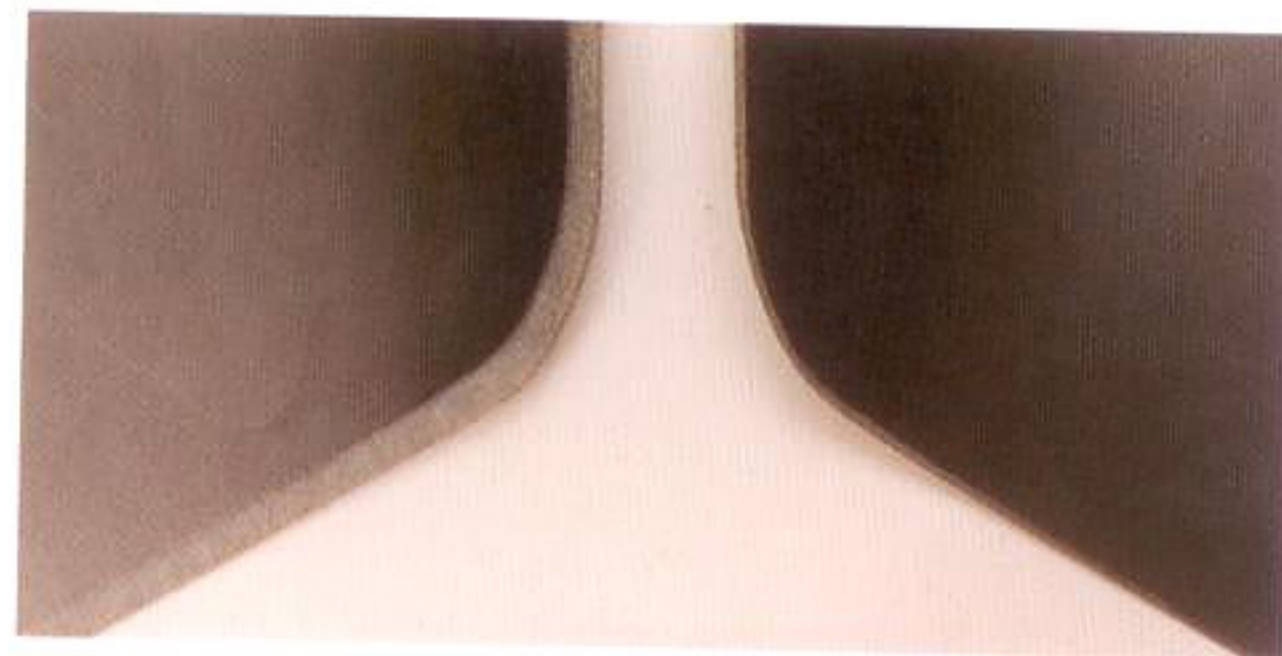


2 別断ちを使って革を切り出す。切れなくなってきたら刃を交換すれば良いので、初心者向き



貼り合わせる部分には5mm程すきを入れた。すかなくてもできるが、仕上がりが違う

3



4 左がすきを入れた状態。すいておくと貼り合わせた時に厚みが出ず、きれいに仕上がる

本体の製作 ①

まずは本体の外側になる部分を作っていく。内側になる革と貼り合わせ、口の部分を縫いつける。



1 合わせる革両方の裏全面にボンドを塗る。特に端の部分はしっかりと塗ること



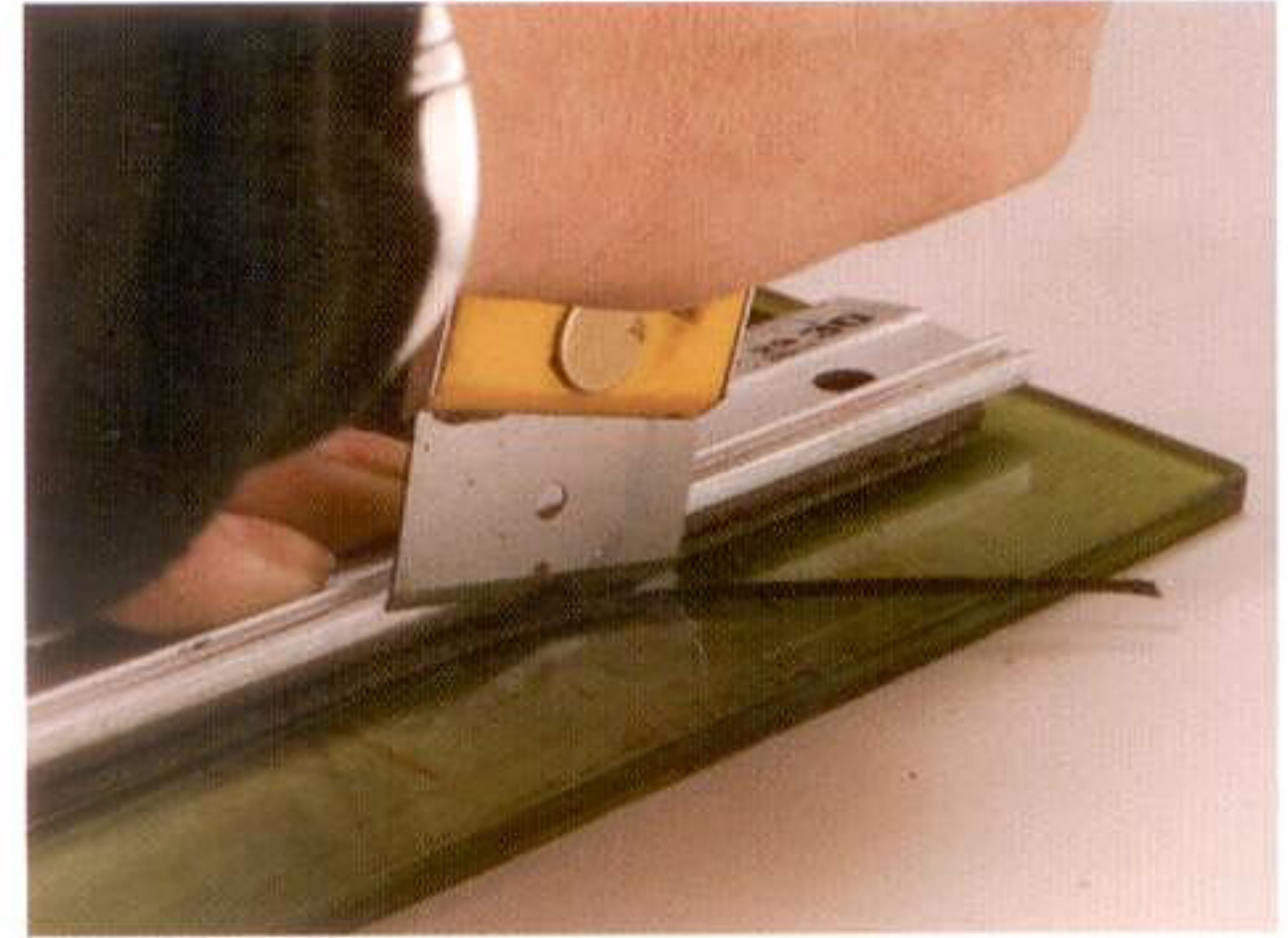
2 端をしっかりと合わせて、革を貼り合わせる。ずれないように慎重に合わせていく



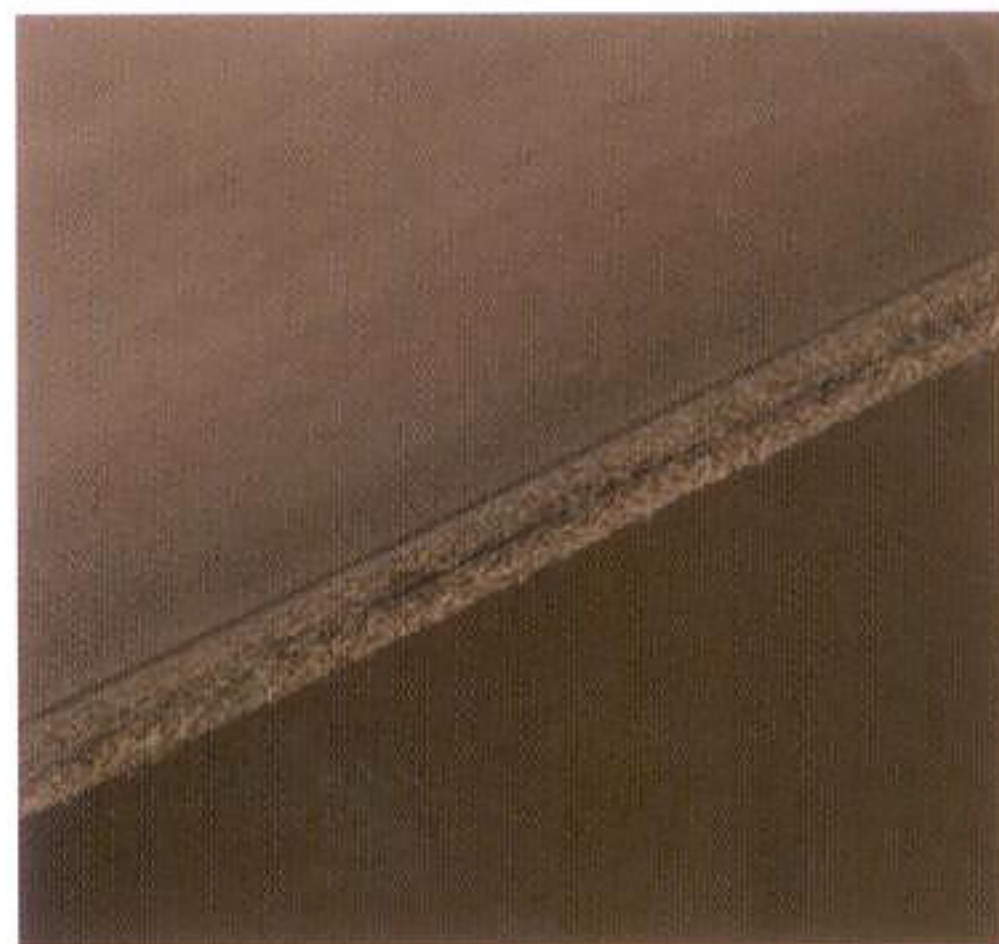
3 革を合わせたら、全面にローラーをかけて圧着する



4 貼り合わせた際には、ほとんどの場合このように多少の誤差が出る



5 はみ出している部分をカットし、揃えていく。切りすぎないように注意しながら進める



6 このように揃えればOK。全周をこのように仕上げる



7 ヘリを落としていく。ここでは豆カンナを使っているが、好みの道具で良い



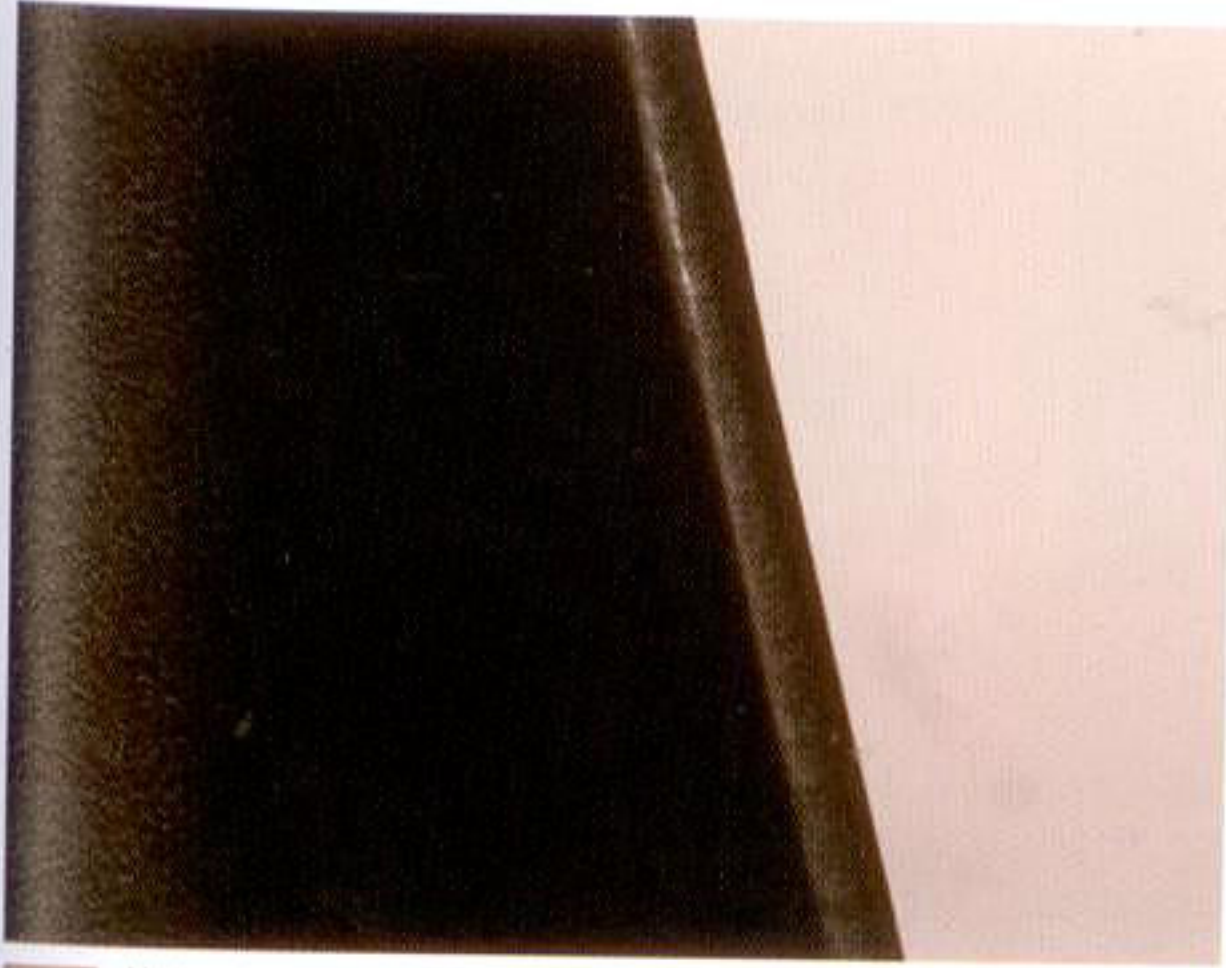
8 さらにヤスリやサンドスティックでヘリを落としたら、染料で染める



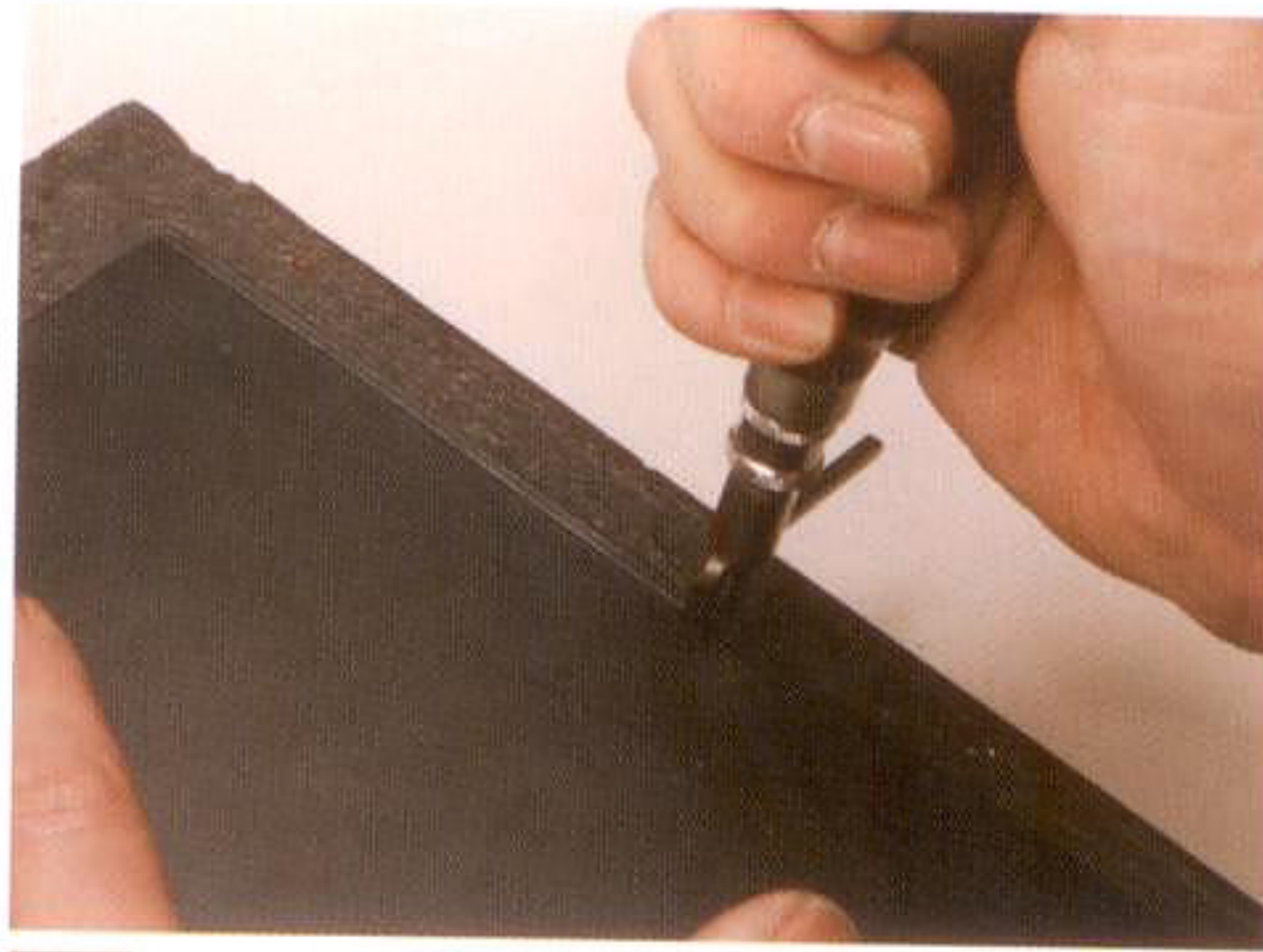
9 トコノールを付けたヘチマでコバを磨く。トコノールを付けすぎないように注意する



POINT
10 最後はガラスで磨く。磨きガラスでも良いが、萩原氏のお気に入りはこのショットグラス



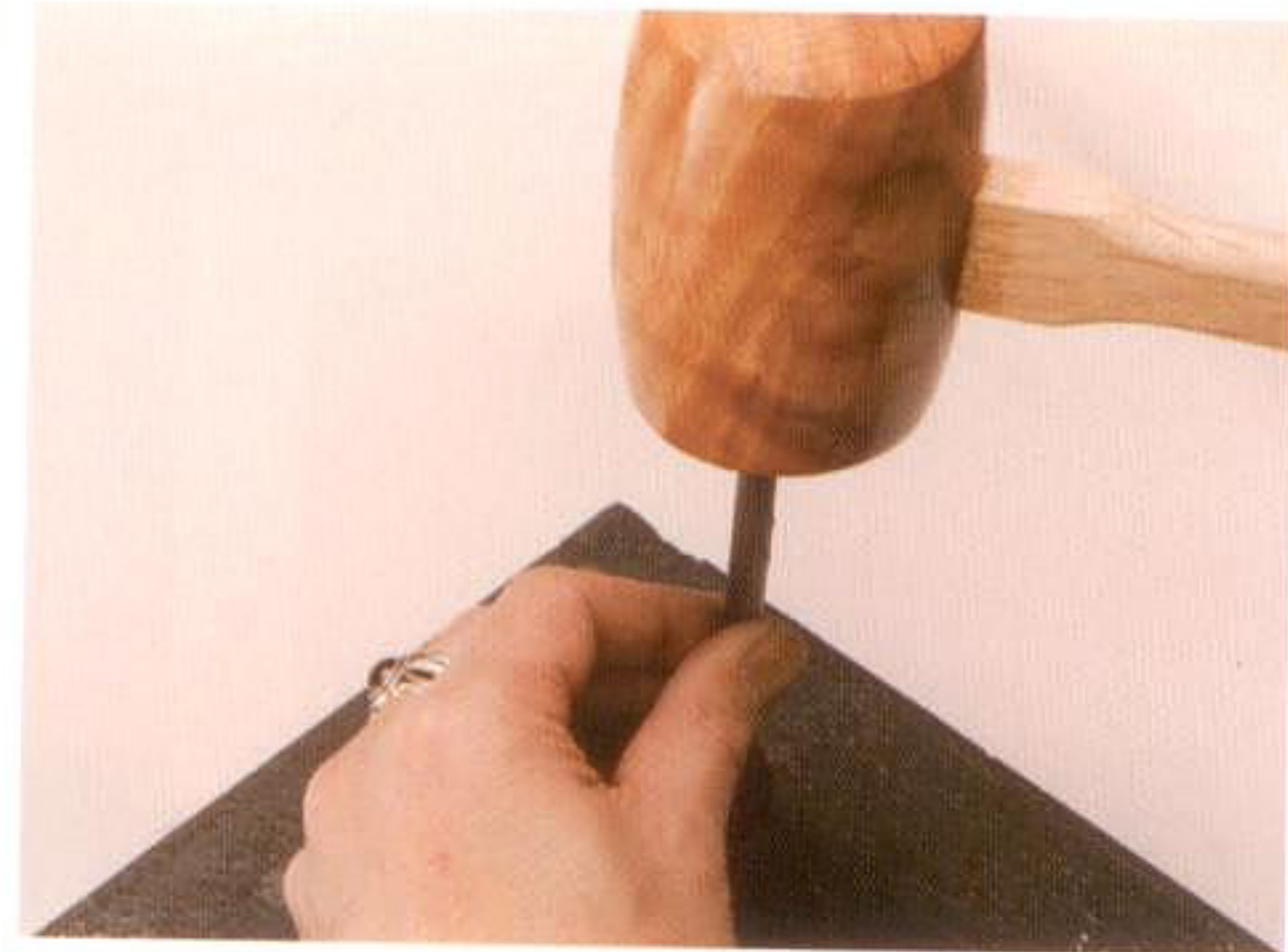
11 仕上がったコバの状態。合わせた跡も消え、銀面と同様のツヤに仕上がっている



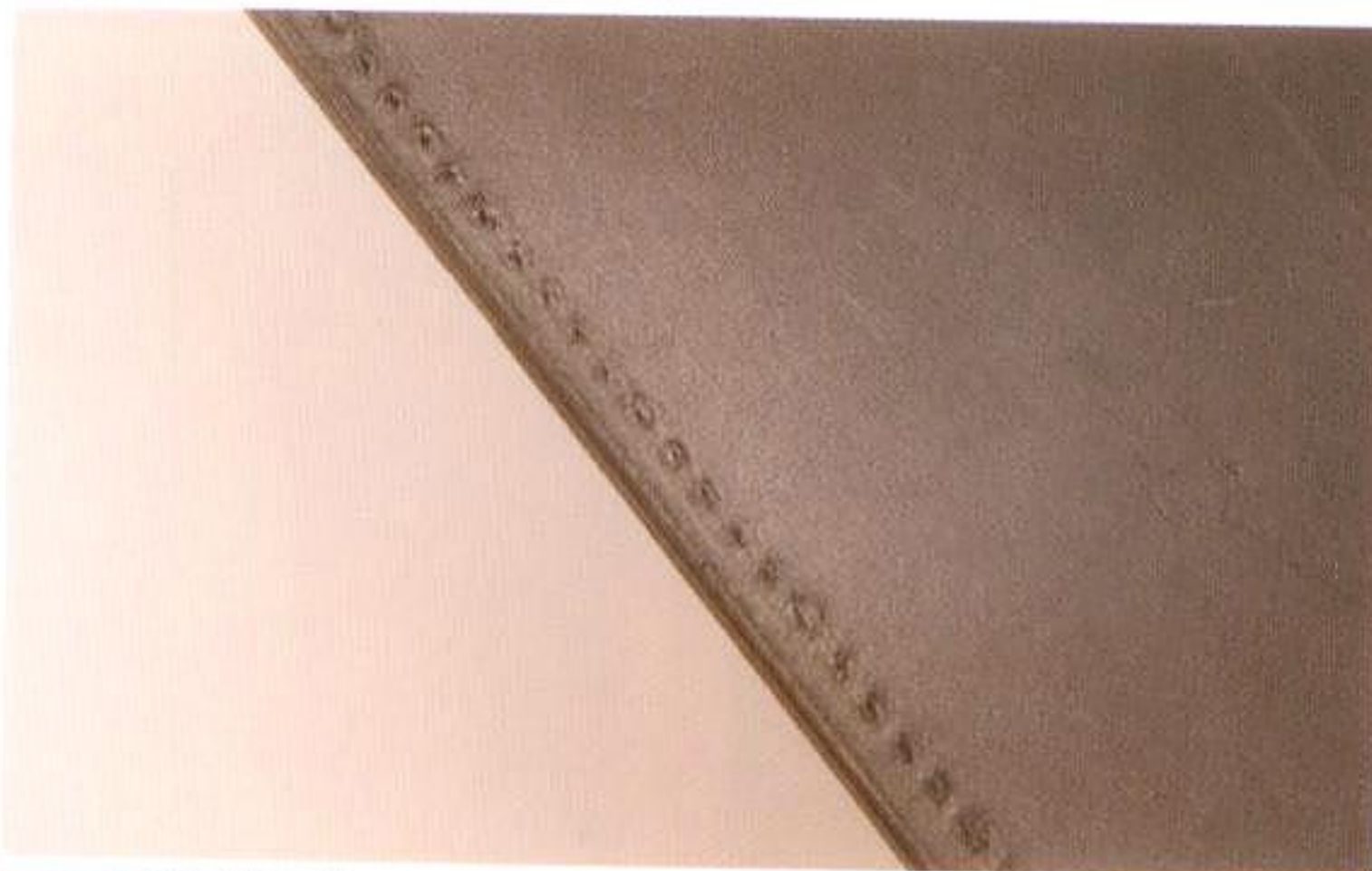
12 ステッチンググルーバーで、3mm幅の縫い線を付けていく。削らずに跡だけを付けていく



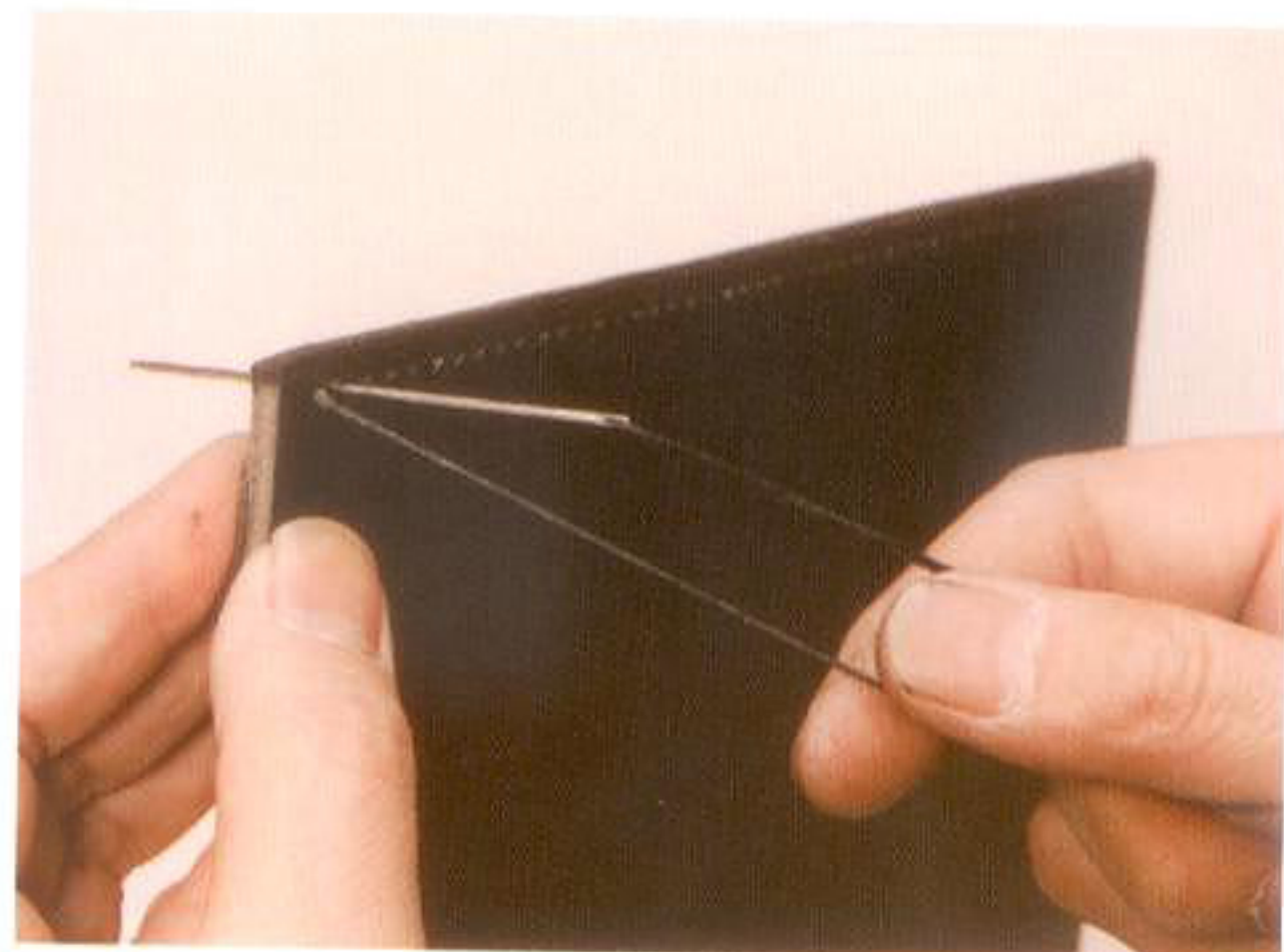
13 縫い線に合わせてヒシ目打ちを打っていく。まずはヒシ目打ちを縫い線に合わせてセット



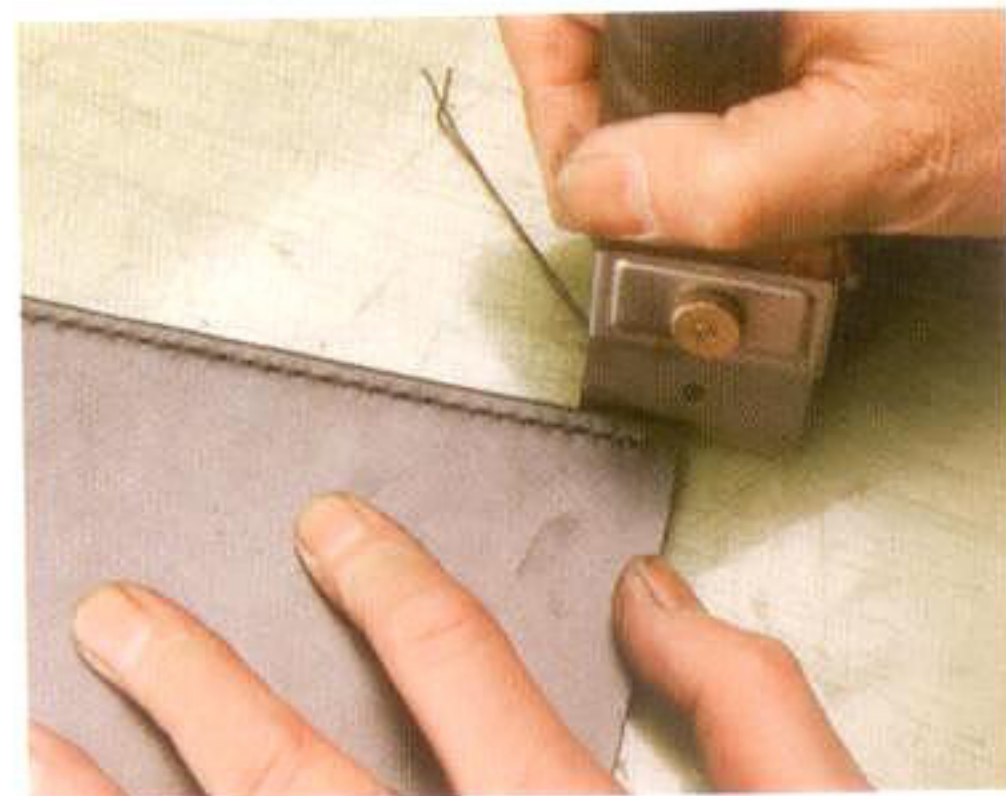
14 木槌でまっすぐにヒシ目打ちを打ち込む。斜めに入ってしまうと縫い目がまっすぐにならない



15 縫い線に沿ってヒシ目打ちを打ち込み、このように縫い穴を開けていく



16 2枚の革を縫い合わせていく。2目目から針を入れ、1回縫い返してから縫っていく



17 今回はナイロン糸を使って縫っている。焼き留めするため、2mm程残して切る



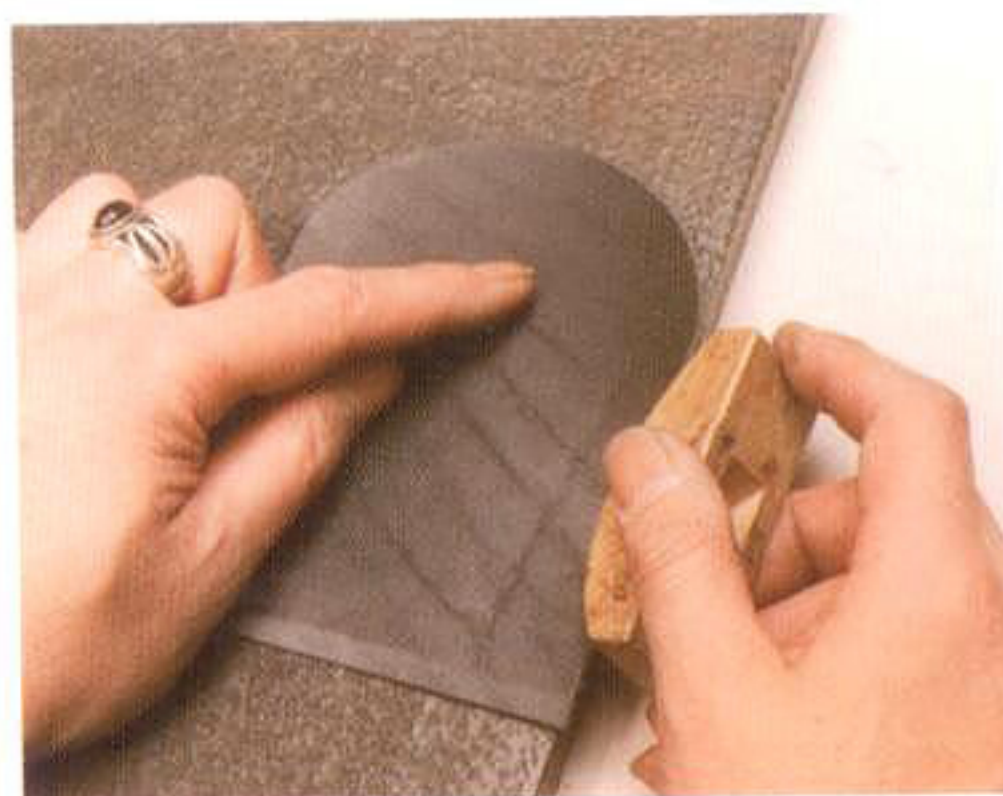
18 切った糸の端をライター等の火であぶって溶かし、縫い目に押しつけて留める



19 縫い合わせた部分のコバを仕上げる。ヘリを落として染色し、磨いて仕上げる

マチの製作

ここからはサドルバッグのマチを作っていく。水等の侵入を防ぐベロも付くので、意外とパーツ点数も多い。



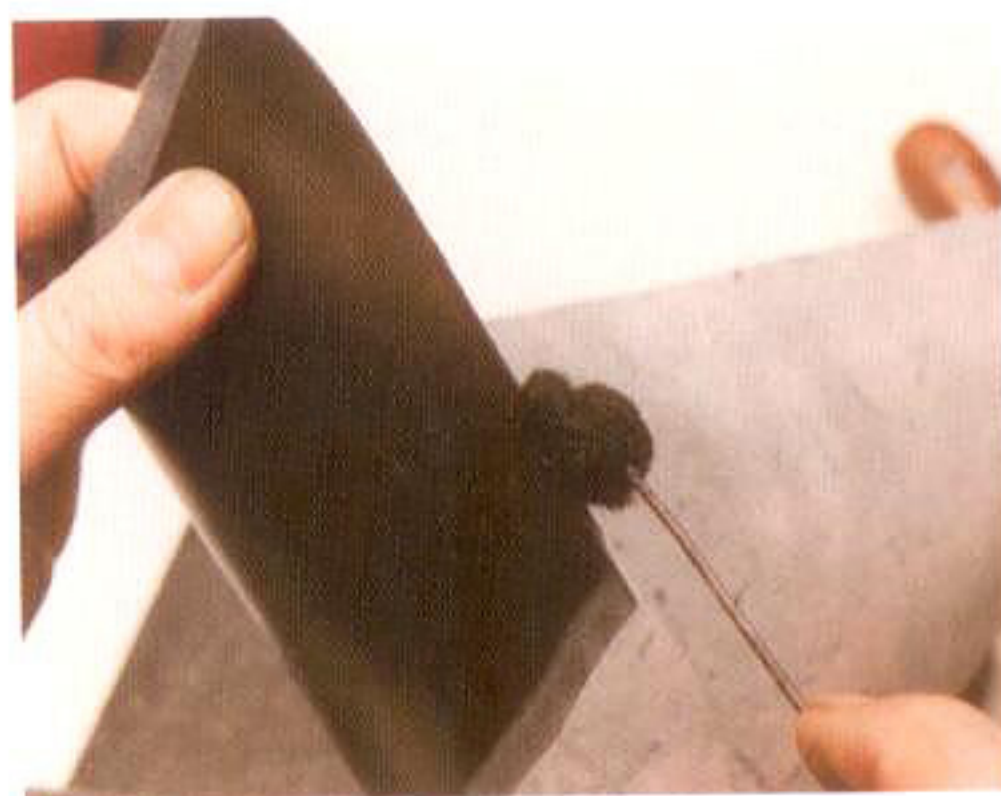
1 ベロの部分の面取りをし、染色と磨きを行なってコバを仕上げる



2 床面はマチに貼る部分を残して、トコフィニッシュで仕上げる



3 マチ部分の表側だけ面取りする。裏側は貼り合わせられるため面取りはしない



4 面取りをしたコバを染色する。面取りと染色は表の両側行なう



5 ベロを貼る部分にボンドを塗る。ここは3枚合わせになるのですいておく

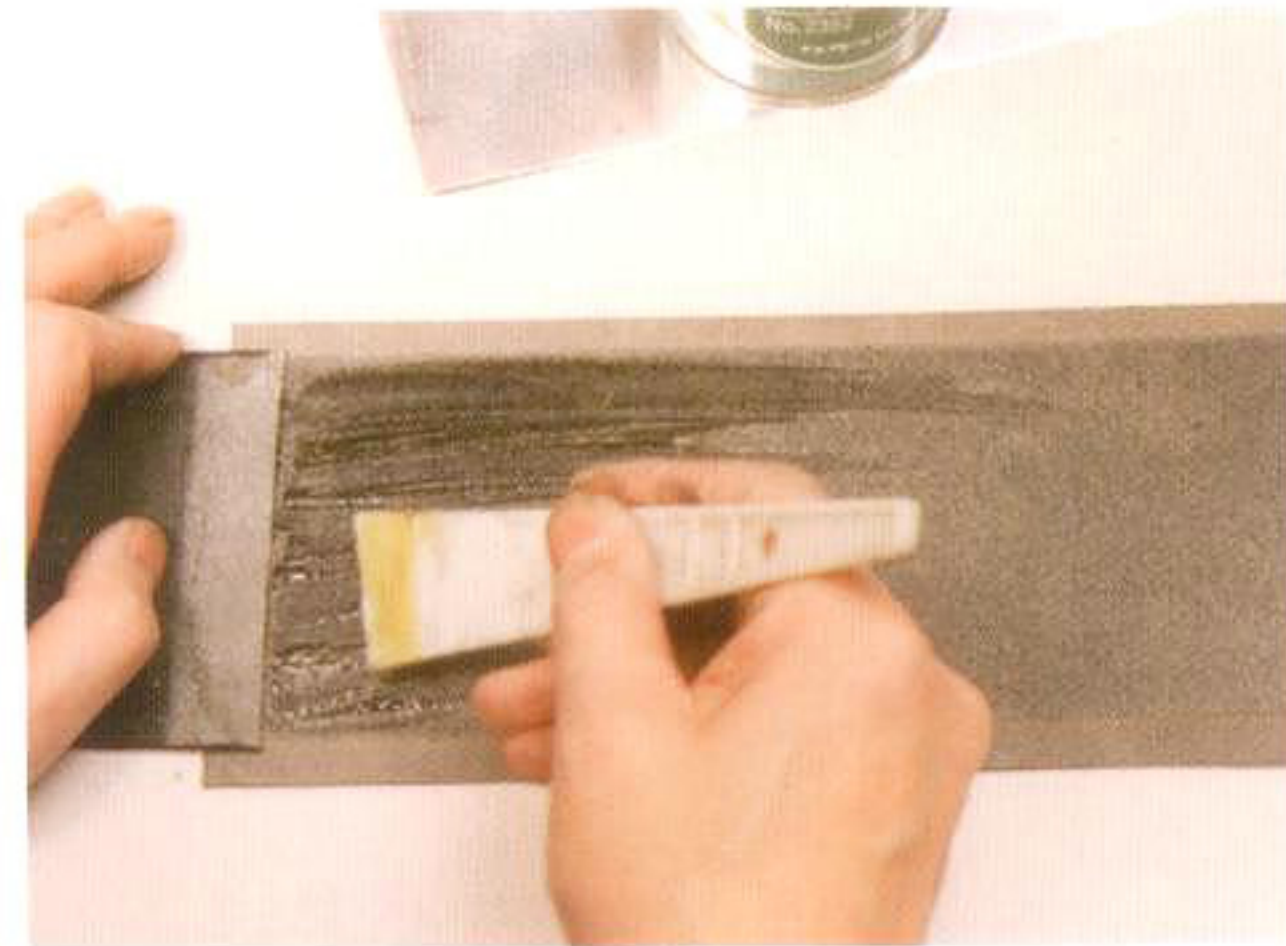


6 ベロの方にもボンドを塗り、マチと貼り合わせていく

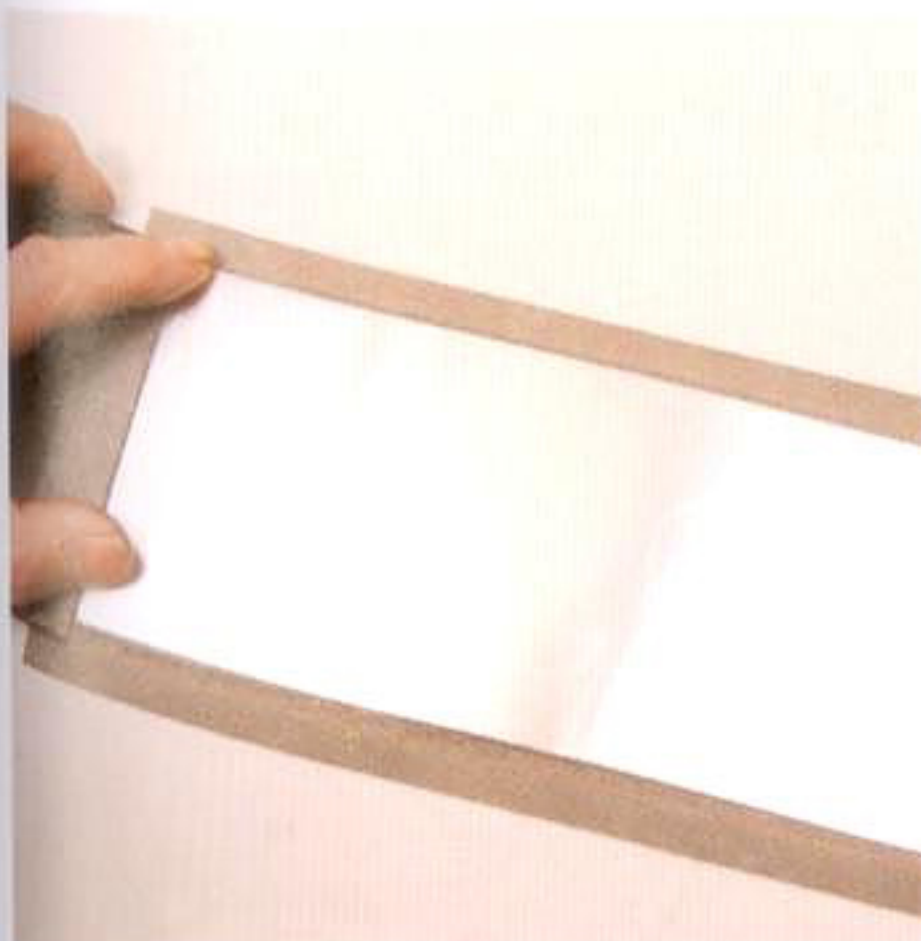
POINT



7 マチの芯になるアルミ板の位置を確認し、長さを実際の外周+5cmに調整する



8 マチの裏側の、アルミ板が貼られる部分にボンドを塗っていく



9 ペロの下の部分とアルミ板の端を合わせ、アルミ板とマチを貼り合わせていく



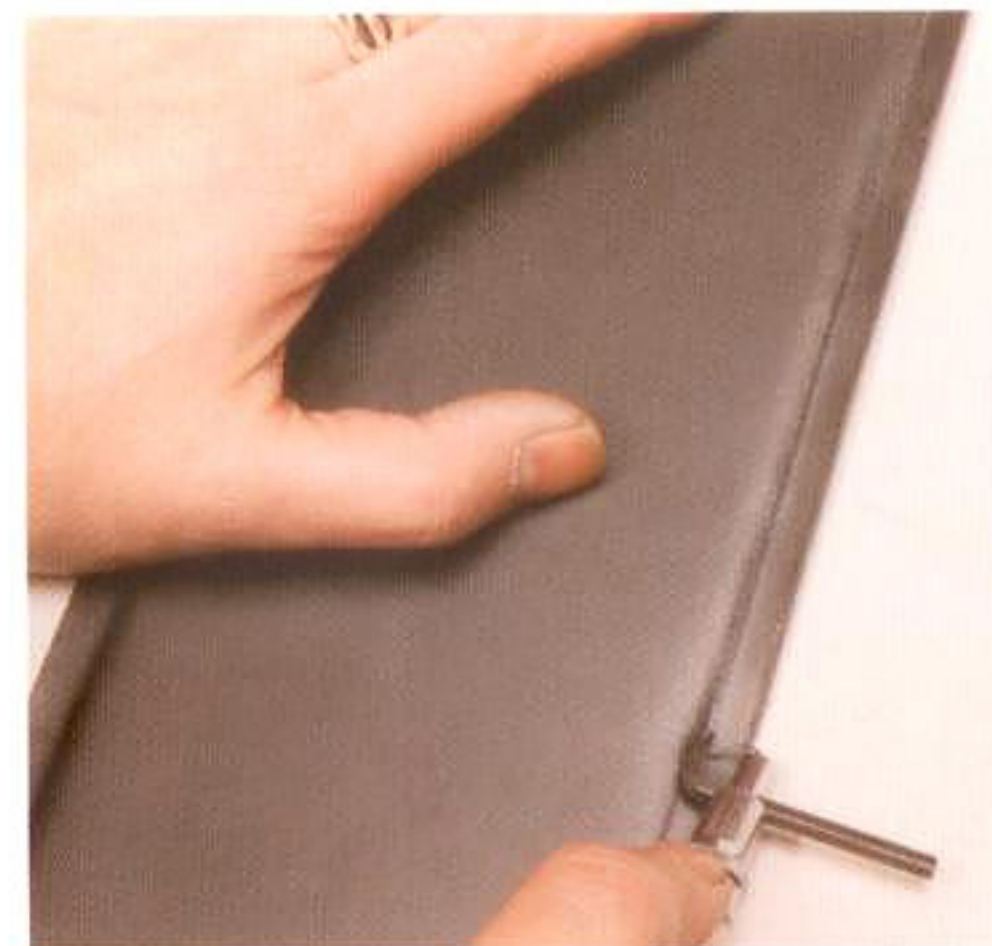
10 マチの裏側(内側)になるパーツに、ボンドを塗っていく



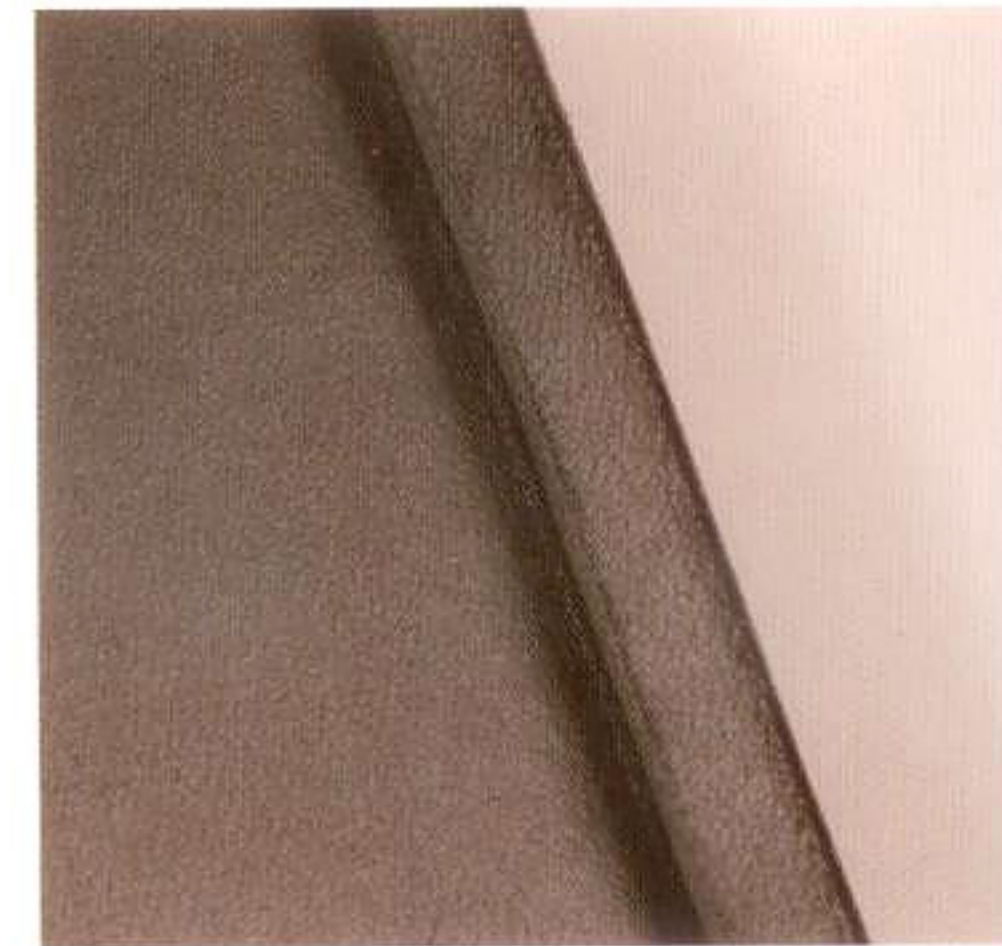
11 マチを貼り合わせたら、板の入っていない端の部分だけをローラーで圧着する



12 片側のペロの部分だけを、ここで先に縫い付けておく



13 ステッチンググルーバーを使い、5mm幅で裏側になる銀面に折れ線を付ける



14 折れ線はマチの両側に付ける。深く付けすぎないように注意すること



15 折れ線に沿ってマチの縁を折り曲げていく。この折り曲げた部分が本体との縫いしろになる

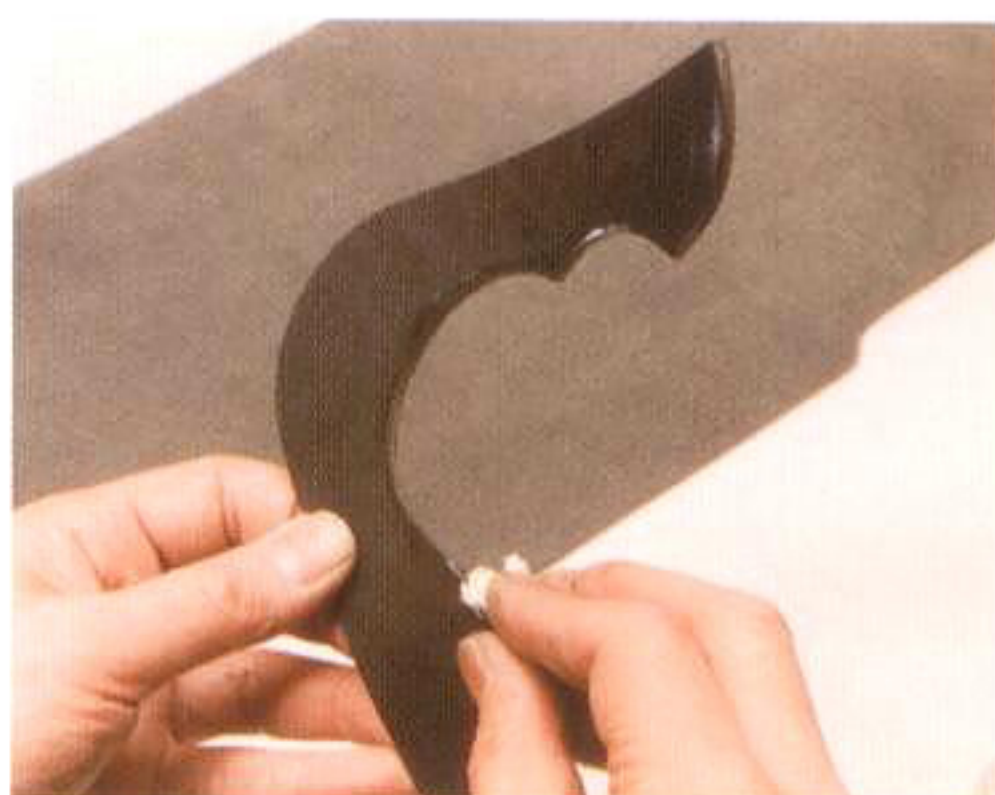
POINT



16 ここでしっかりと折り目を付けることで、本体との縫い合わせ時に差が出てくる

本体の製作 ②

ここからはこのバッグの中で最も大きなパーツとなる、本体の蓋と裏側になる部分の製作を見ていく。



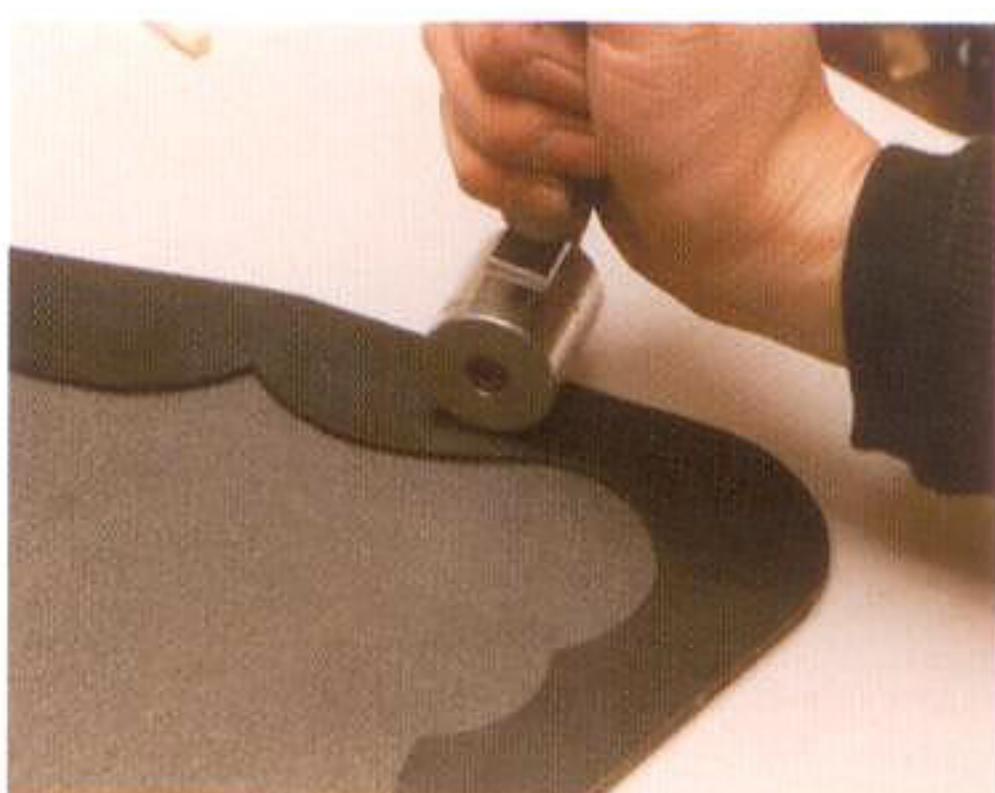
1 カバー部分の縁に付けられるパーツの、内側のコバを仕上げておく



2 縁にパーツを合わせ、床面に銀ペンで取り付けられる位置をマークする



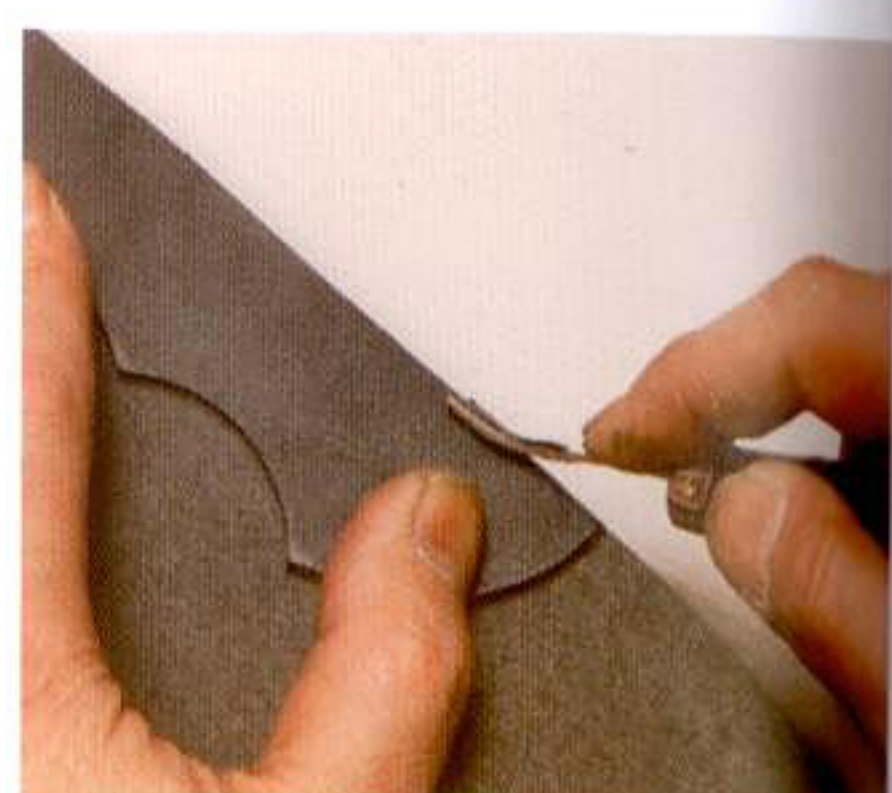
3 銀ペンのマーキングからはみ出さないように、ボンドを塗っていく



4 パーツ側にもボンドを塗り、蓋の縁に貼り合わせてローラーで圧着する



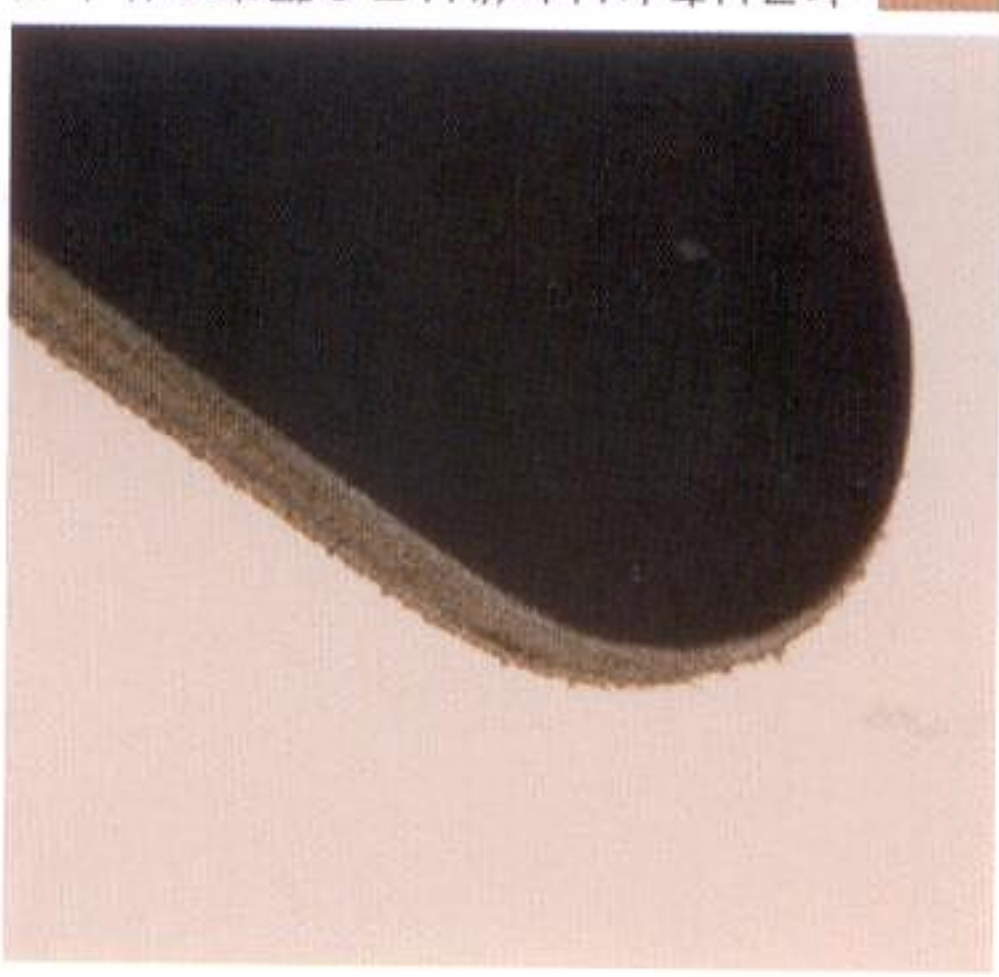
5 はみ出している部分を切り、形を補正する。切りすぎないように注意すること



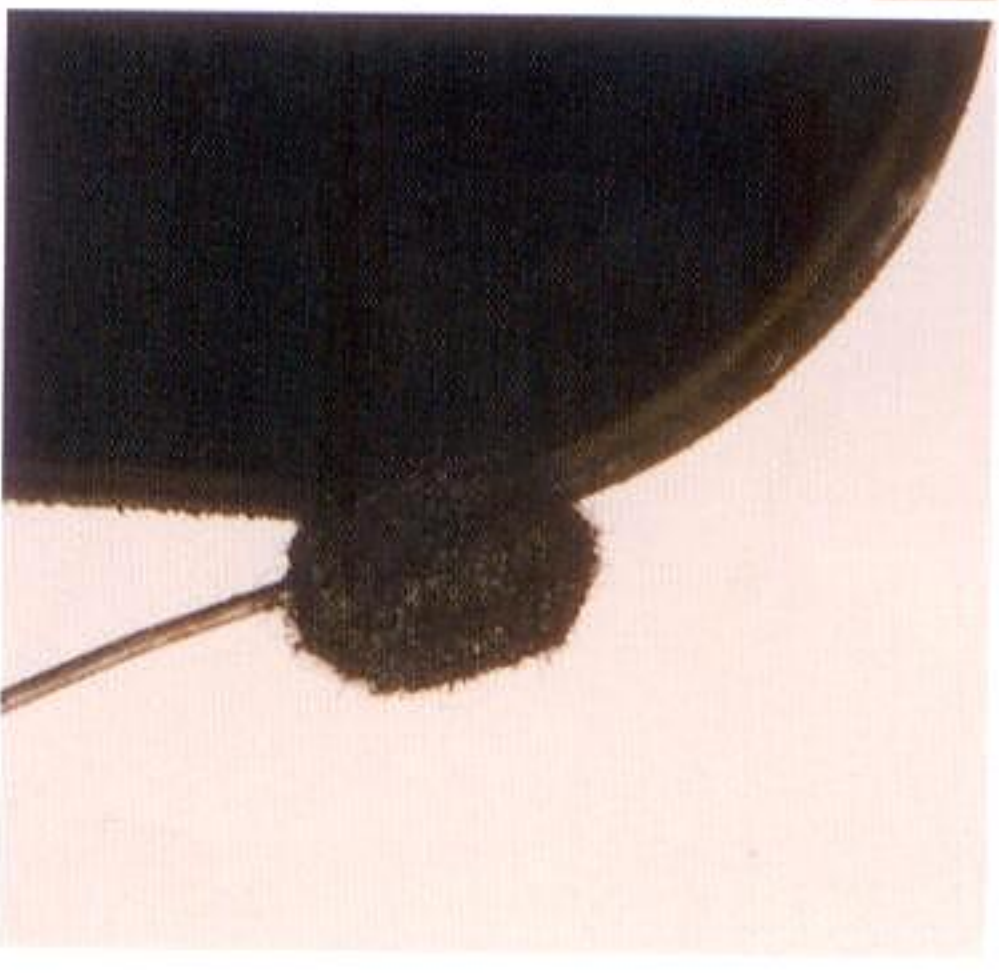
6 蓋部分のヘリを落としていく。ヘリ落としは順目で行わないと毛羽立ってしまう



7 ヤスリやドリッサー等を使って角を落として丸くしていき、コバを仕上げる。



8 ヤスリをかけた後はこの程度の仕上がりになればいいだろう



9 染色をし、トコノールで磨いてコバを仕上げる



10 トコノールを床面に塗り、床面を仕上げておく。ここでは蓋の裏側だけを磨いておく



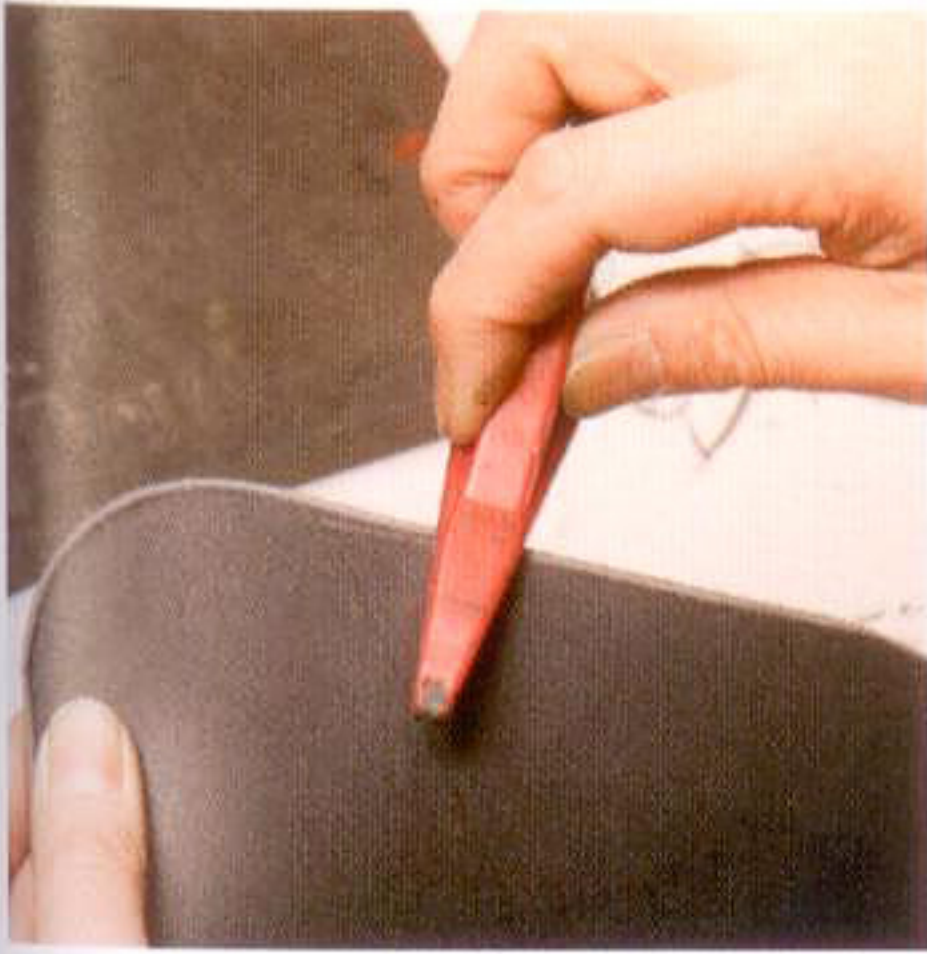
11 縫い穴を空けていく。カーブしている部分は2本ヒシ目打ちを使い、カーブに沿って穴を空けていく。間隔がずれないように注意すること



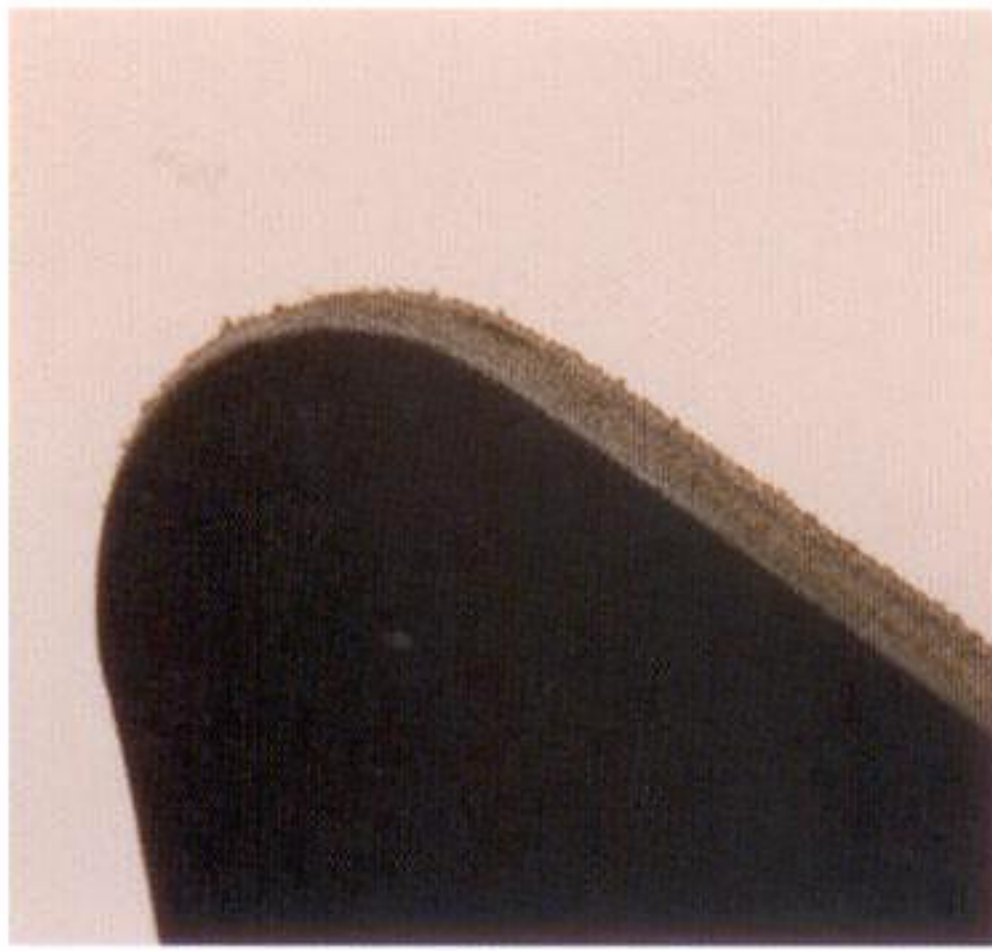
12 内側になるパーツを本体に貼り合わせるために、両方の床面にボンドを塗っていく



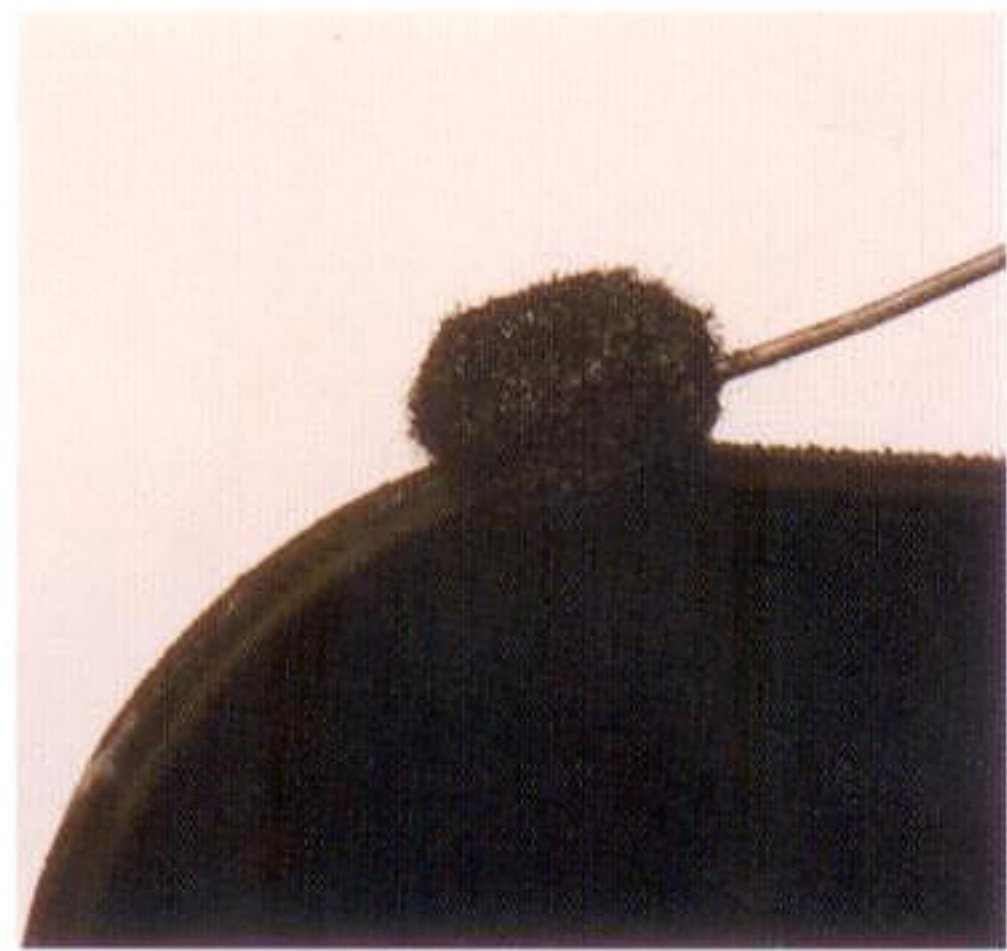
13 パーツを張り合わせたら、ローラーで圧着していく。端までしっかりとローラーをかける



7 ヤスリやドレッサー等を使って角を落として丸くしていき、コバを仕上げる。



8 ヤスリをかけた後はこの程度の仕上がりになればいだろう



9 染色をし、トコノールで磨いてコバを仕上げる



10 トコノールを床面に塗り、床面を仕上げておく。ここでは蓋の裏側だけを磨いておく



縫い穴を空けていく。カーブしている部分は2本ヒシ目打ちを使い、カーブに沿って穴を空けていく。間隔がずれないように注意すること

11



12 内側になるパーツを本体に貼り合わせるために、両方の床面にボンドを塗っていく



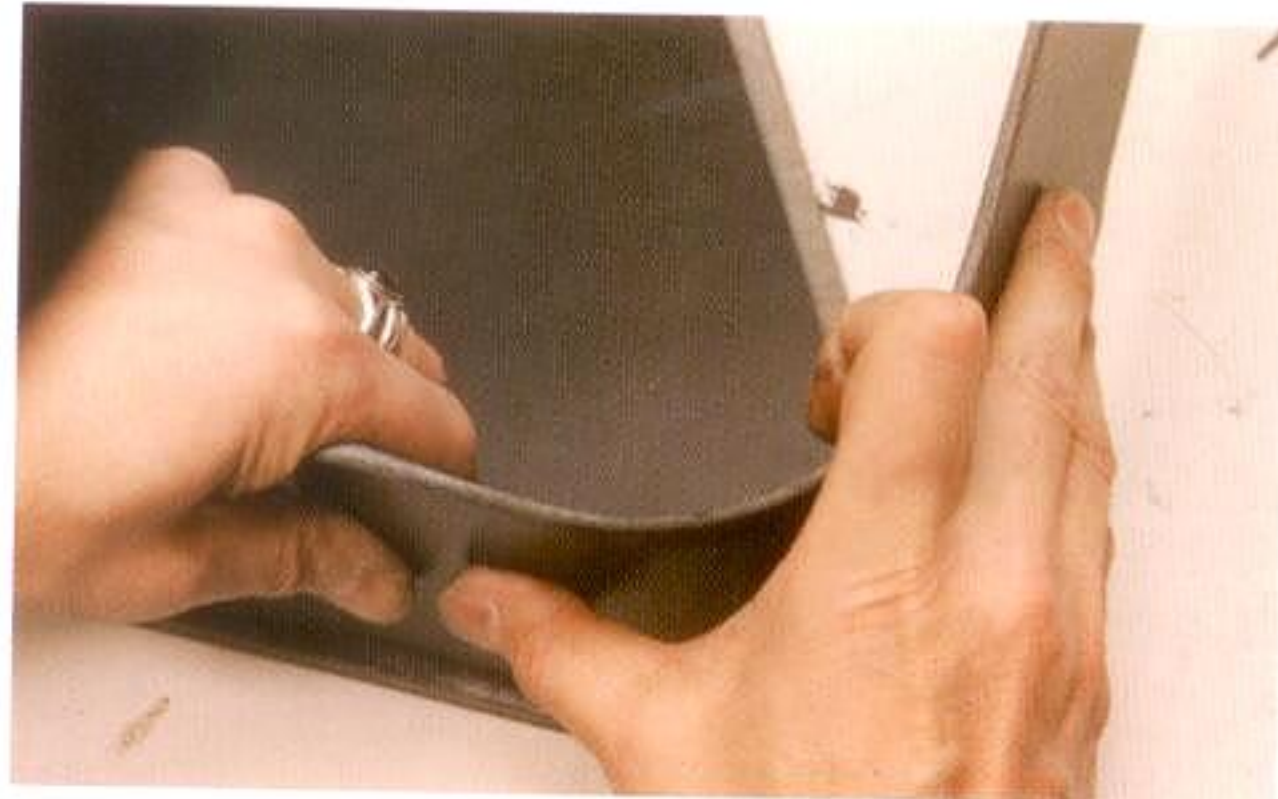
13 パーツを張り合わせたら、ローラーで圧着していく。端までしっかりとローラーをかける

本体とマチの縫い合わせ①

いよいよ本体とマチを合わせて、立体化していく。マチの中のアルミ板を曲げながら、形を合わせていく。



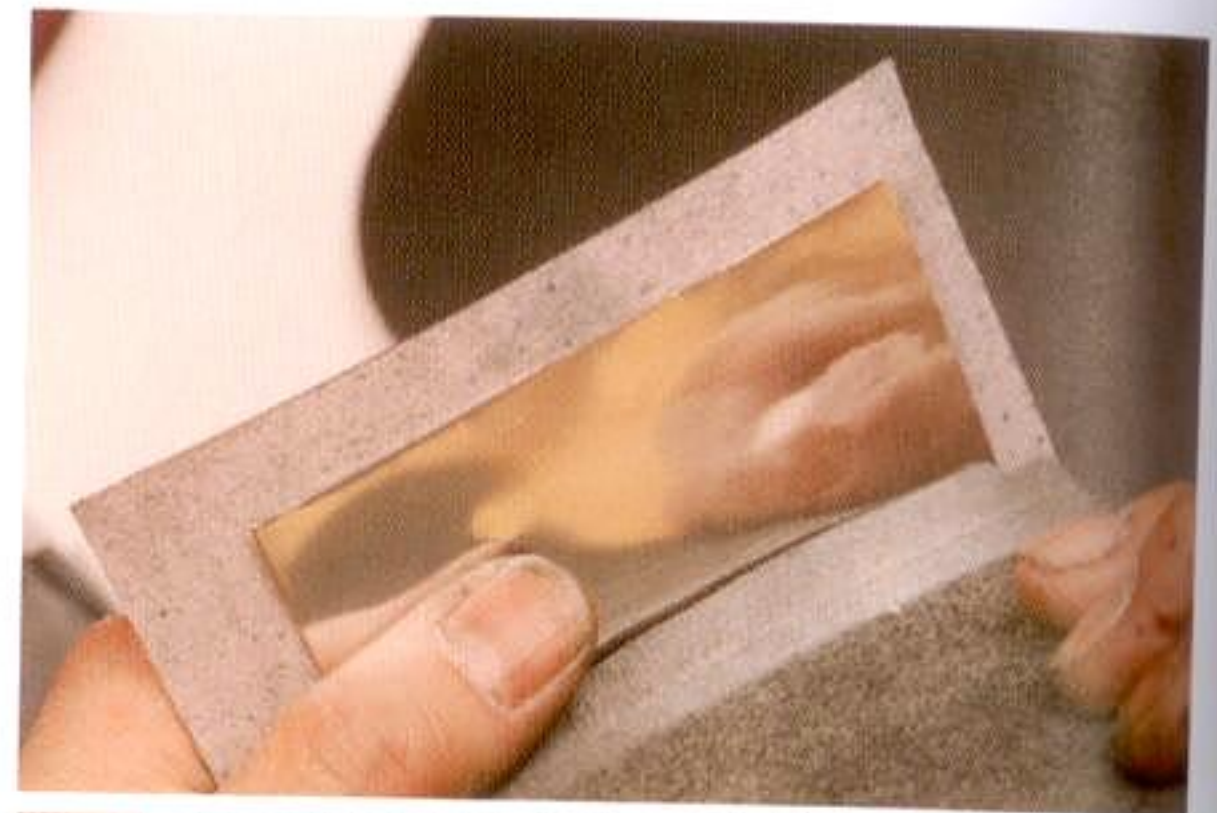
1 ベロを付けた側の端を基準にして、マチと本体の形を合わせていく



2 アルミ板を曲げて、カーブの形状を合わせる。しっかりと形をつけ、そのままキープする



3 形が決まれば必要な長さが決まるので、アルミ板を金切バサミで切って長さを整える



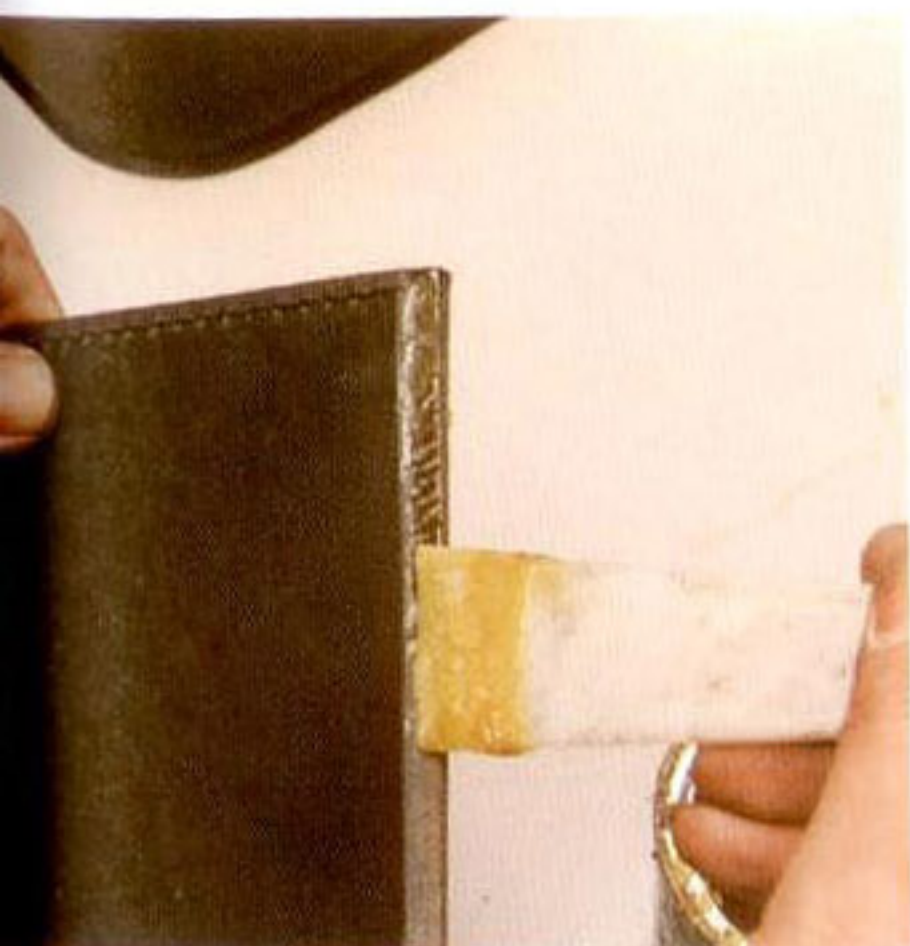
4 マチの革の方は、後から取り付けるベロの縫いしろ分だけ長く残すことになる



5 マチの表と裏の革の長さを整える。切りすぎないように注意する



6 ベロの縫いしろは残してボンドを塗り、マチを貼り合わせる。貼ったらベロを縫いつける



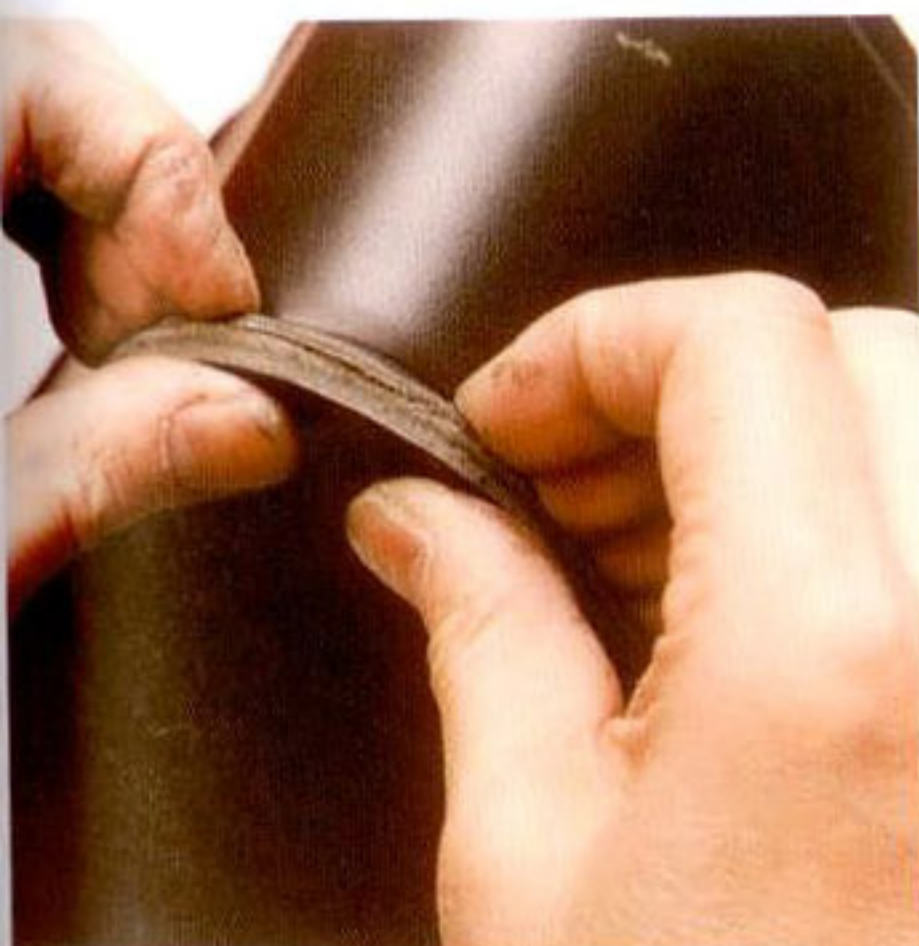
7 すいてある本体との縫いしろの部分にボンドを塗っていく



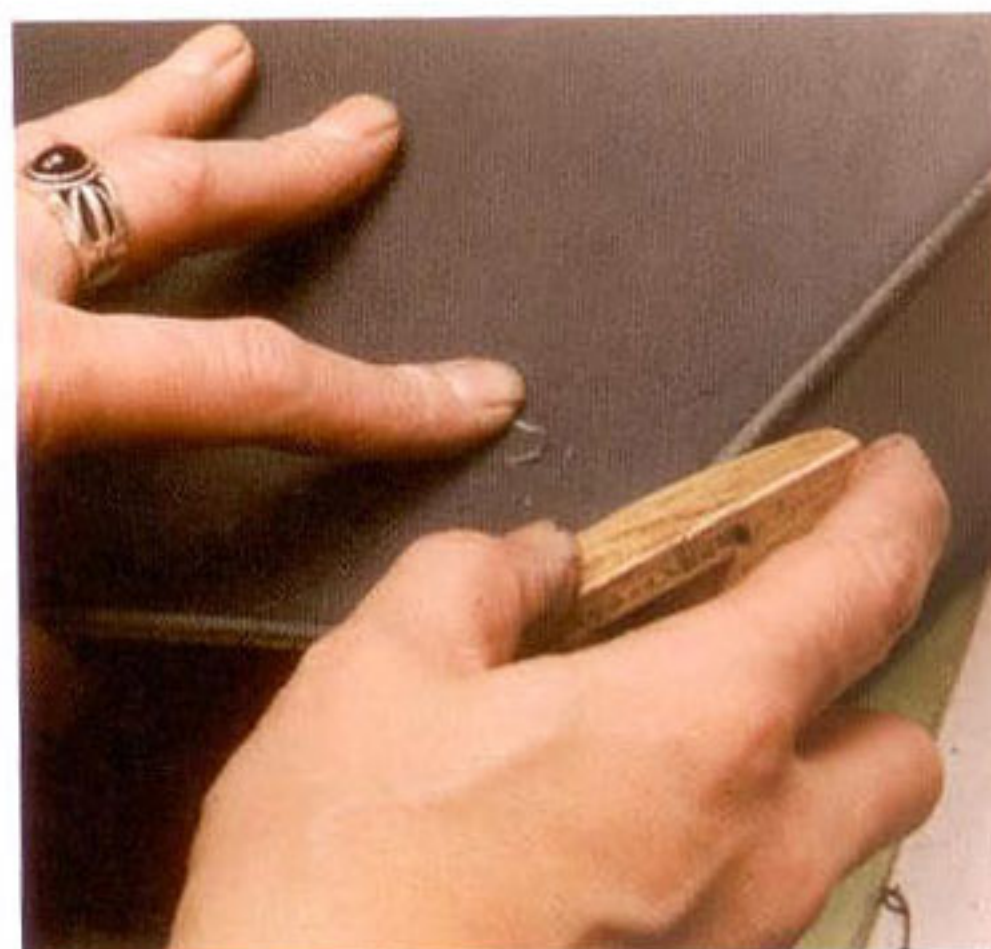
8 本体側の縫いしろにもボンドを塗っていく。厚く塗りすぎないように注意



9 きっちりと位置を合わせながら、マチと本体を貼り合わせていく



10 カーブの部分をしっかりと貼り合わせないと、マチの長さが狂うので注意する



11 本体とマチをしっかりと貼り合わせたら、ヘリを落としてコバを仕上げていく



12 ここでヤスリ掛けまで済ませておく。染色と磨きは縫い合わせた後で行なう

POINT



13 マチの高さに合わせた台を用意してから、ヒシ目打ちで縫い穴を空けていく



14 台から外れないように、サポートを頼んで押さえつけながらヒシ目を打っていく

ベルトの製作

本体を完全に組み上げる前にベルトは取り付けなければならないため、表側を取り付ける前にベルトを製作しておく。



1 バックルと留め具をセットしてベルトの長さを確認し、位置をけがしておく



2 長さが決まったらカットし、表側のヘリを落としておく



3 ベルトが厚くなりすぎないように、裏側になる半分をすいて薄くしておく



4 バックル用穴空けを使って、ベルトの中央部に穴を空ける



5 バックル用の穴はこのような状態で空く。位置がずれていないかを確認する



6 ベルトにバックルを通して二つ折りにし、長さや位置を確認する



7 裏側にボンドを塗り、貼り合わせる。バックルにボンドを付けないように注意



8 ベルトの間に留め具を挟み、位置を合わせたら貼り合わせる



9 バックル側はこのような状態で取り付けられる。2個製作しておく



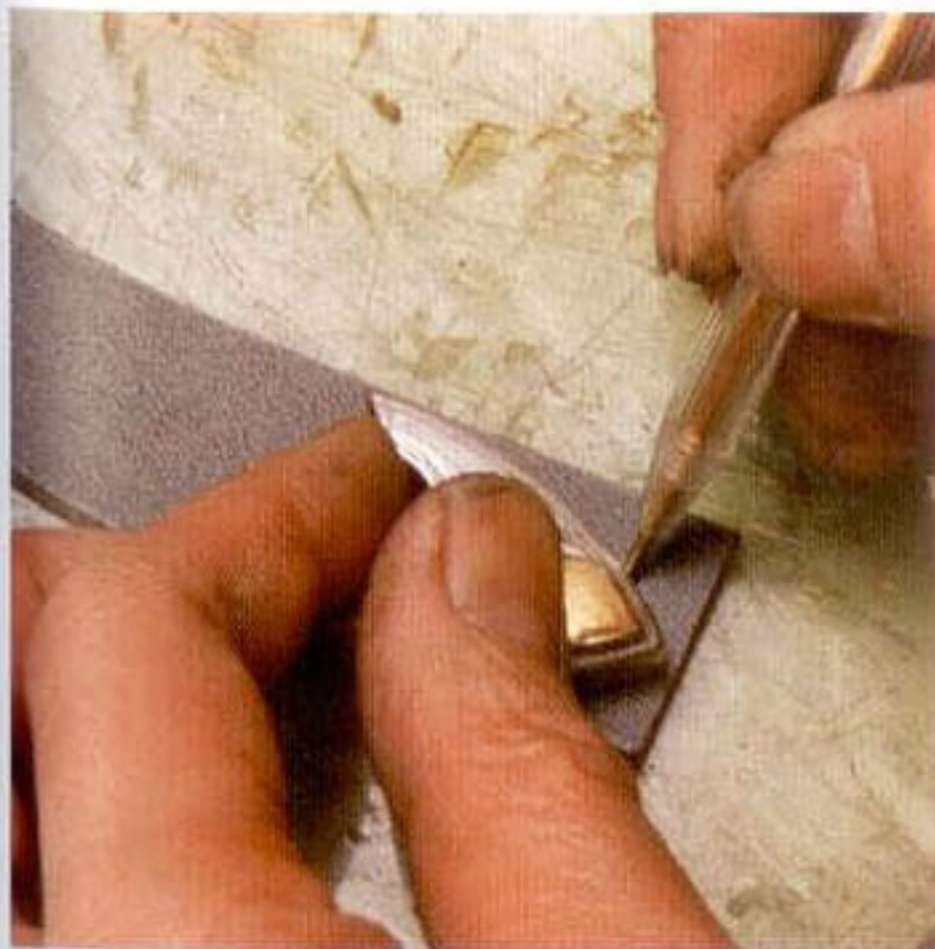
10 カシメを打って、バックルの位置を決める。きつすぎず、緩すぎずの位置を探す



11 バックル側はこれで一応完成。バックル部分の動きを確認しておく



12 続いてストラップ側を製作していく。先端のチップをベルトに合わせる



13 銀ペンを使って、チップの形状をベルトに写す



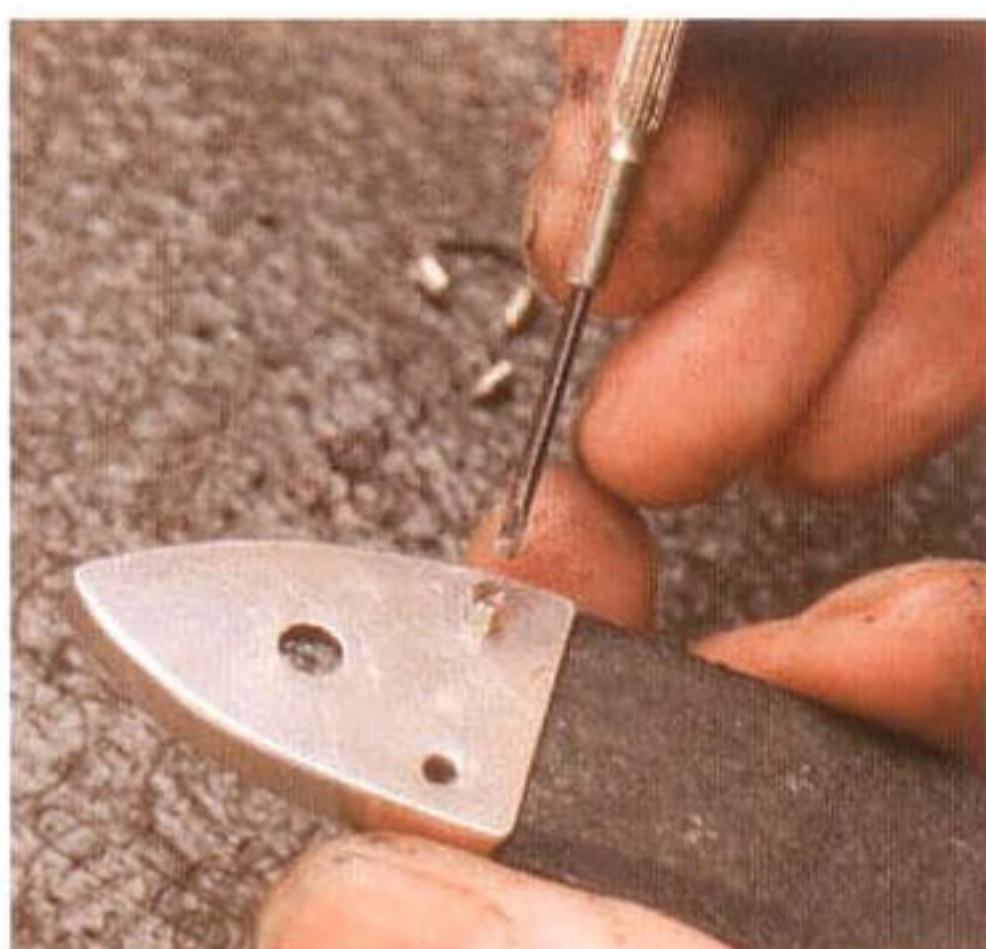
14 線に合わせてベルトの先端をカットする。先端部分はチップの中に入る



15 チップの中に入るように先端をカットしたら、セットしてネジ穴の印を付ける



16 穴を空けてベルトの面取りをしたら、チップの中に入る部分にボンドを塗る



17 ベルトにチップをセットしたら、ネジでチップを固定する



18 ストラップ側はここまで仕上げておく。穴空けは本体に取り付けてから行なう

ベルトの取り付け ①

ベルトのバックル側は本体の裏側を縫い付ける前に取り付けておく。位置決めをしっかりとしておくことが重要だ。



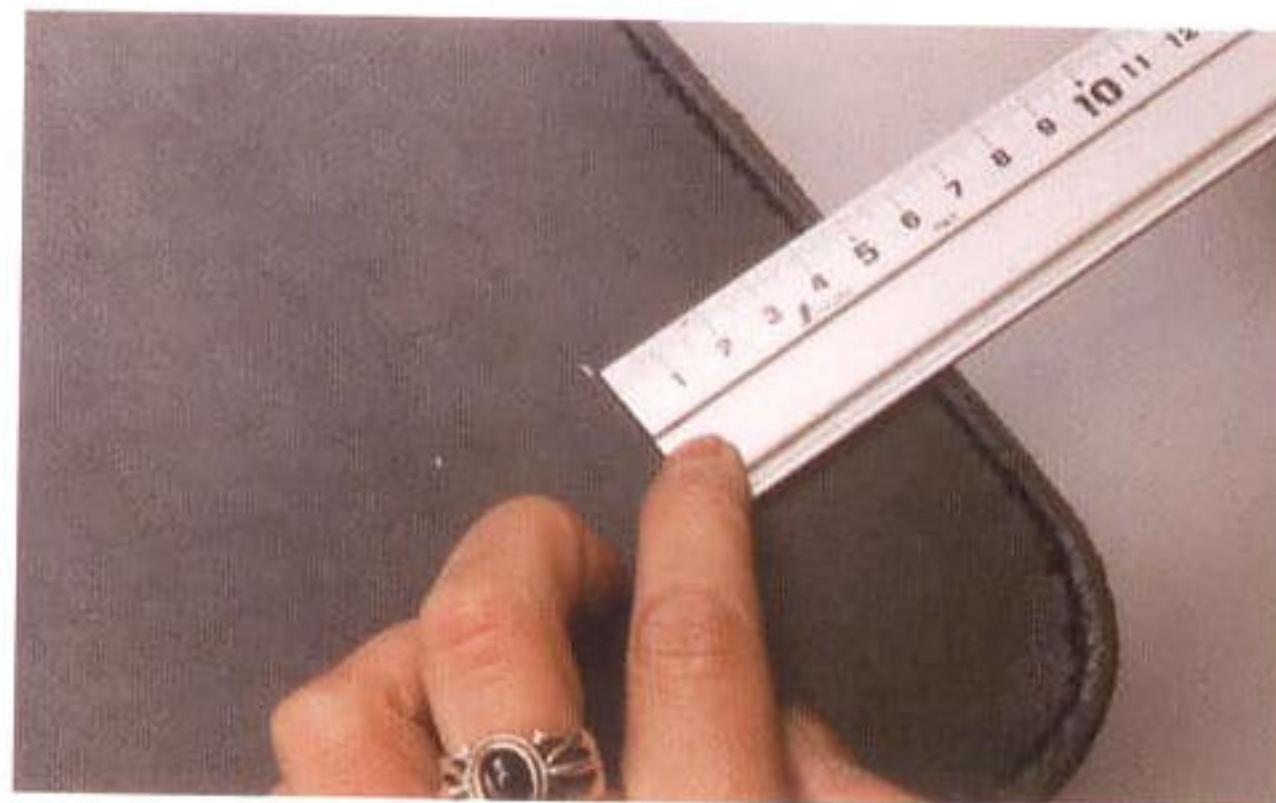
1 マチを縫い付けた本体の表側と、裏側を仮組みして蓋の位置を合わせる



2 蓋を閉めた状態にして、バックルの位置を決める。位置決めは慎重に行なうこと



3 バックルの位置を決めたら、取り付け位置に銀ペンで印を付ける



4 銀ペンで付けた印を元に、定規で正確な距離を計って左右の取り付け位置を決める



5 端からの距離を同じにすることで、左右のバックルの取り付け位置が均等になる

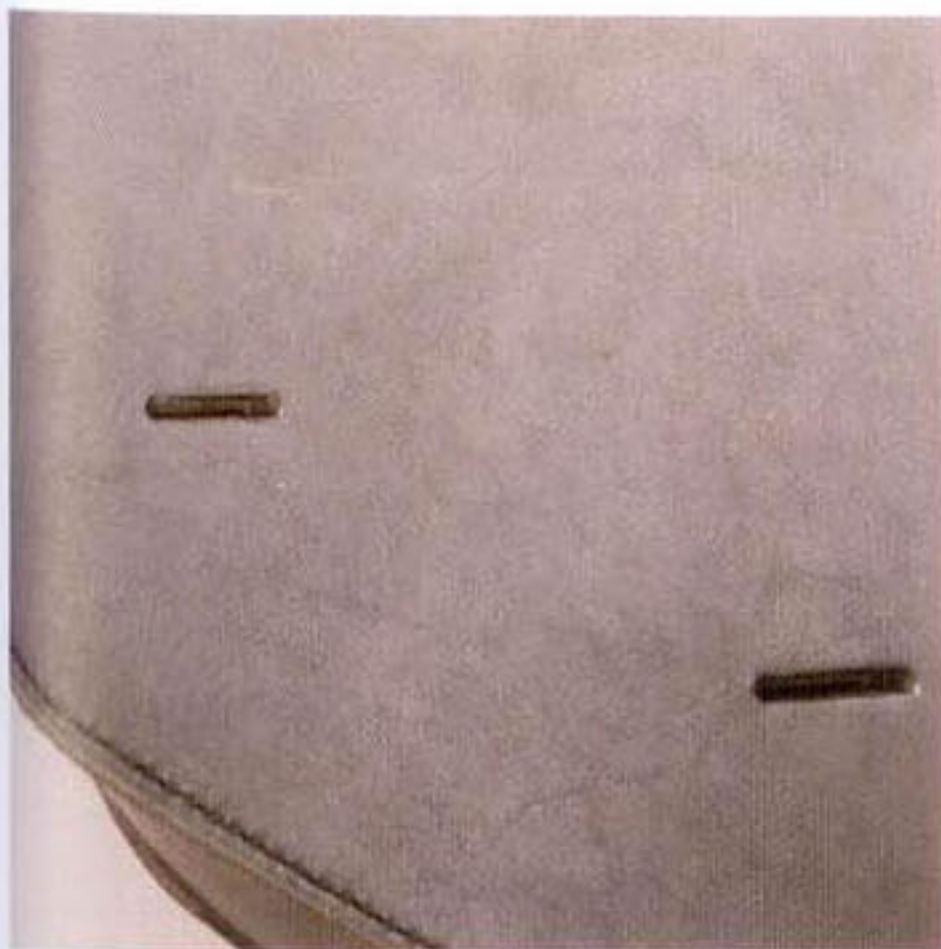
POINT



6 穴を空ける際には木材などで高さを調節し、ゴム板がしっかりと当たるようにする



7 ベルト部分の幅に合わせた長穴を空ける。位置がずれないように、線に合わせて空ける



8 バックルの取り付け穴は、このような状態で空ける



9 バックルのベルト部分の下側は斜めにすき、角を丸く落としておく



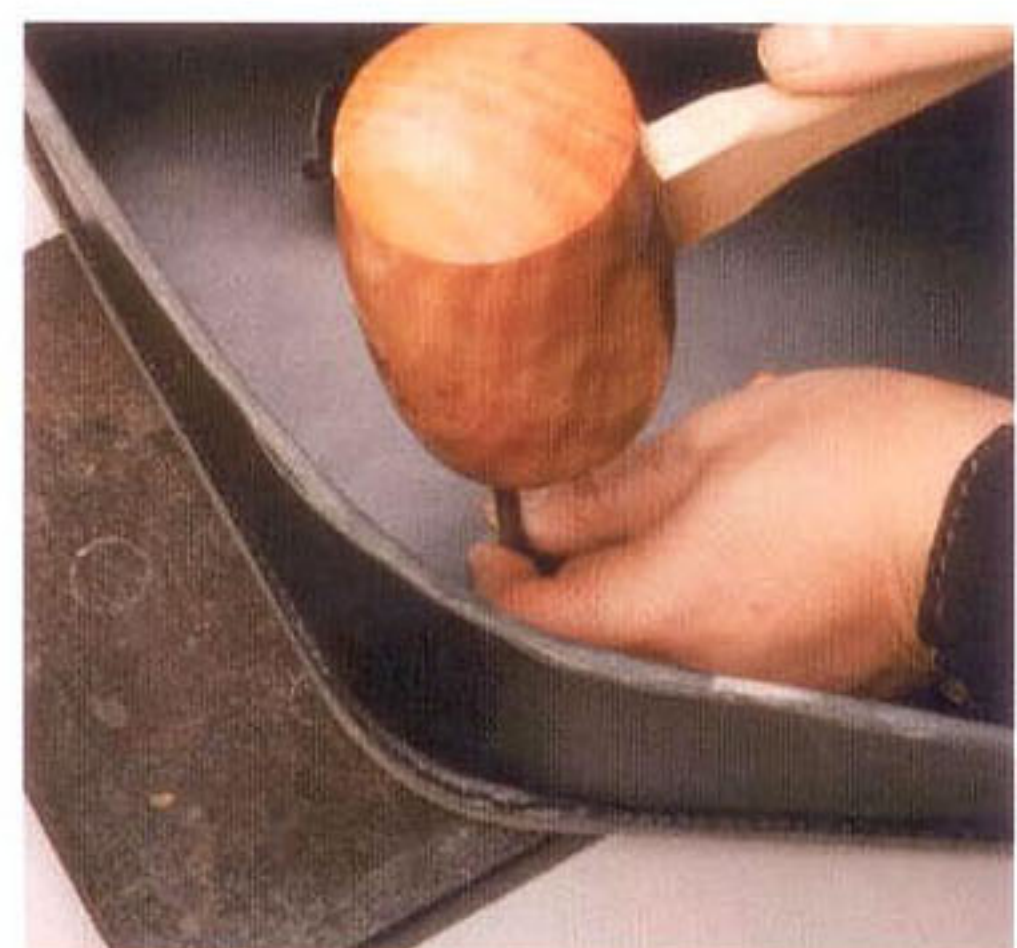
10 この状態まで仕上げたら、バックルを本体に取り付けていく



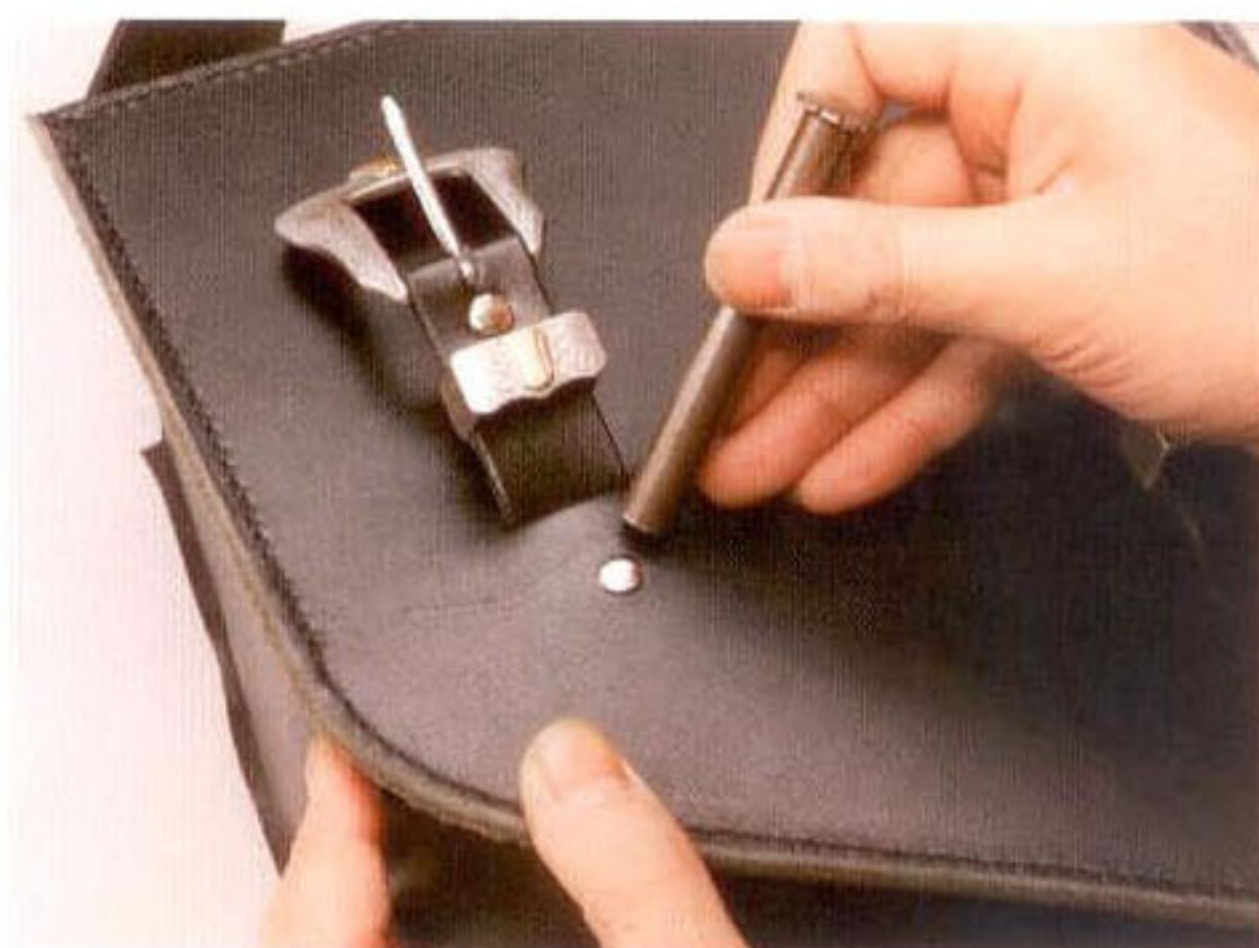
11 バックルのベルト部を表側から取り付け穴に差し込み、出す長さを決める



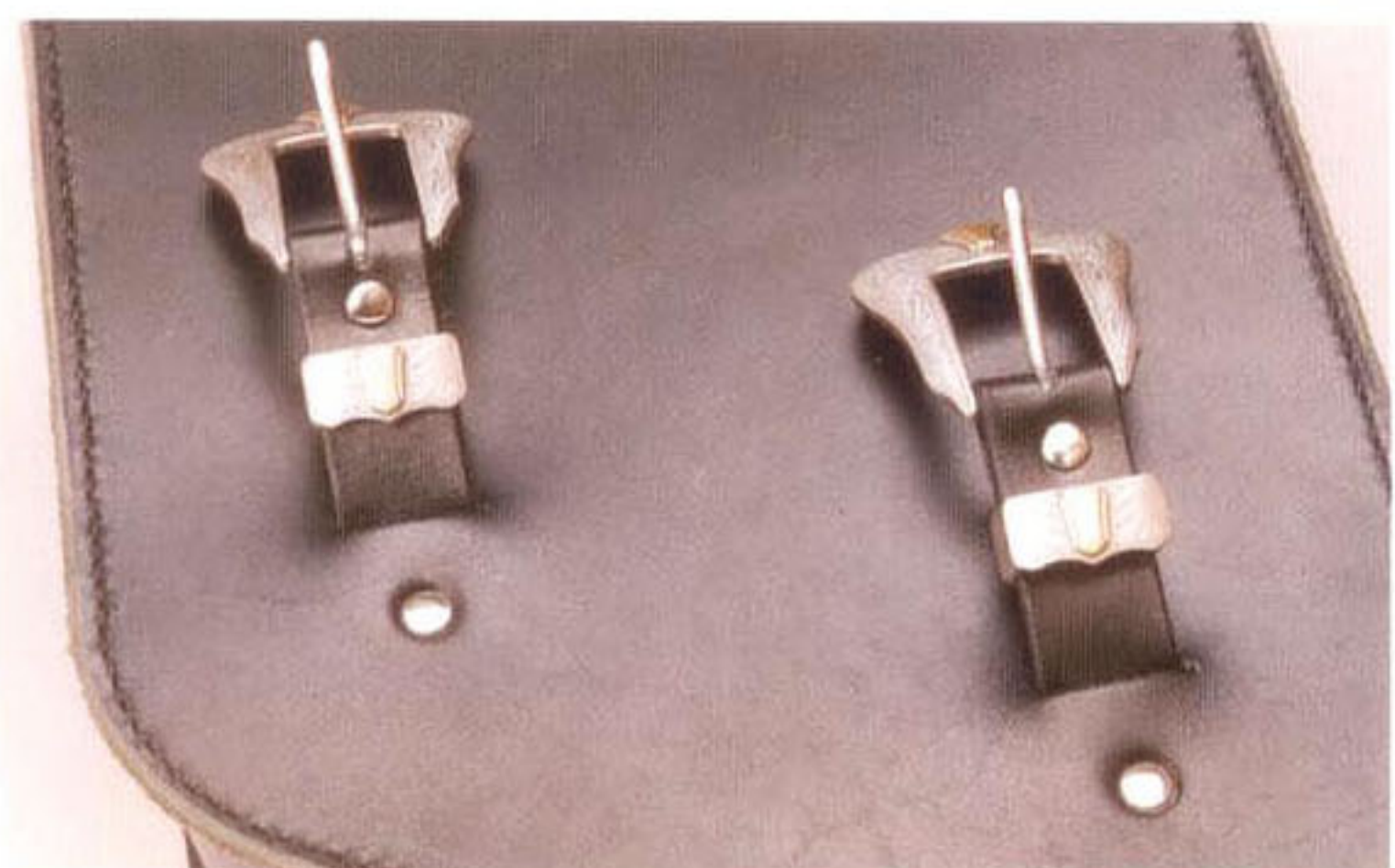
12 本体を裏返す。指で押さえている部分がベルト部の裏側に出る留めしろ部分



13 取り付け位置を確認したら、ベルトと本体にカシメ用の穴を開ける



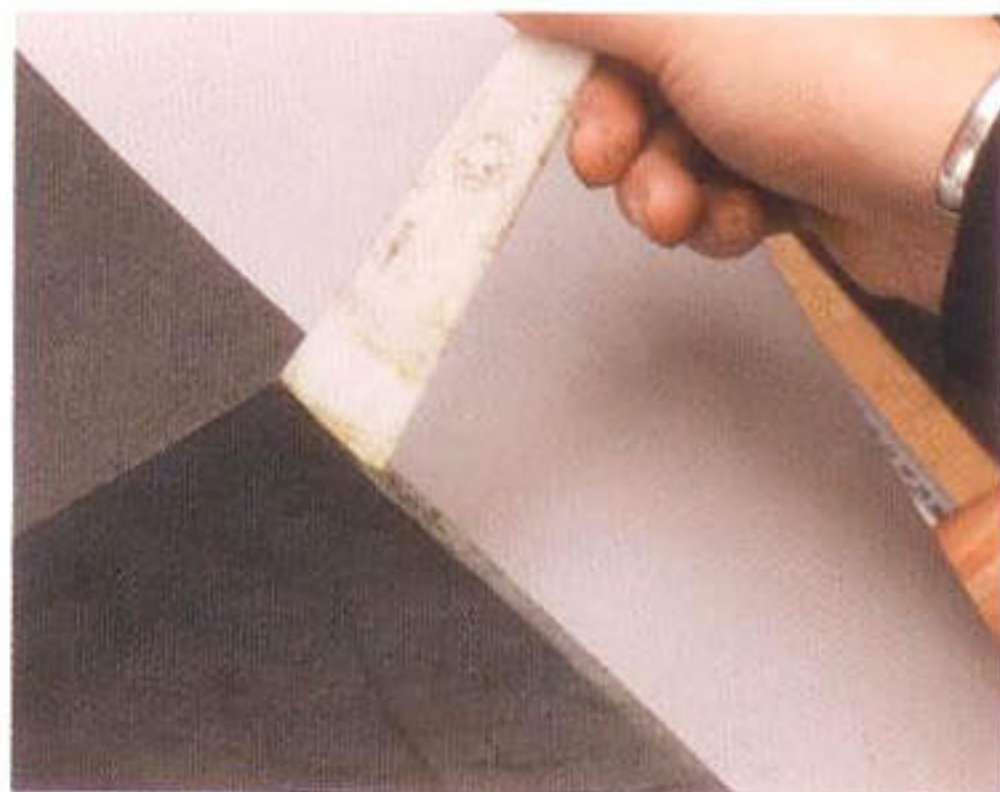
14 空けた穴にカシメをセットして、カシメ打ちで打って留める。台の高さは調整しておくこと



15 縫ってしまうと貼り付いて蓋が入れにくいので、バックルはカシメのみで取り付ける

本体とマチの縫い合わせ②

ここからはいよいよ本体を縫い合わせていく。作業の基本は表側とマチを縫いつけた際と同様だ。



1 すいてある縫いしろの部分に、ボンドを塗っていく。はみ出さないように注意



2 カーブの部分は力がかかって剥がれやすいので、しっかりと塗る



3 マチと本体を貼り合わせる。遅乾タイプのボンドの場合、クリップ等で固定する



4 モデラを使ってマチの折れ線の部分をしっかりと折り、面で接着されるようにする



5 ヘリを落として面取りしていく。まっすぐの部分はヘリ落としが作業しやすい

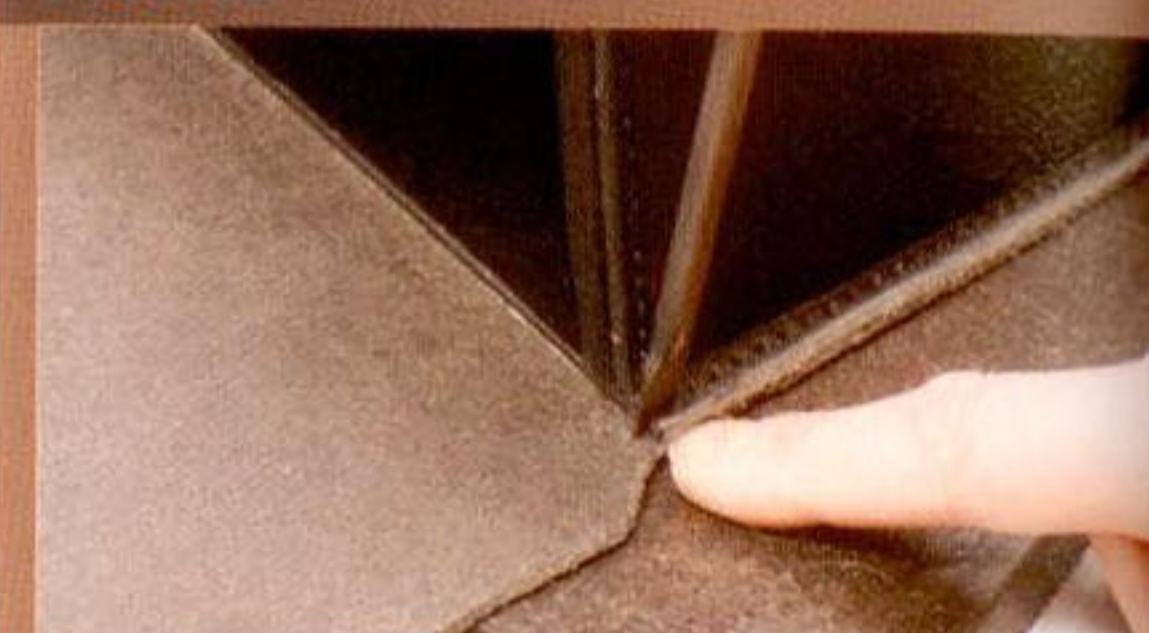


6 萩原氏はカーブの部分は豆カンナで落とす。もちろん好みの工具で構わない



7 ヒシ目が斜めに入らないように、手伝いを頼んで押さえつけながら打っていくと良いだろう

POINT



8 最初と最後は一目だけ蓋側(一枚革の部分)に縫い穴を空けておく



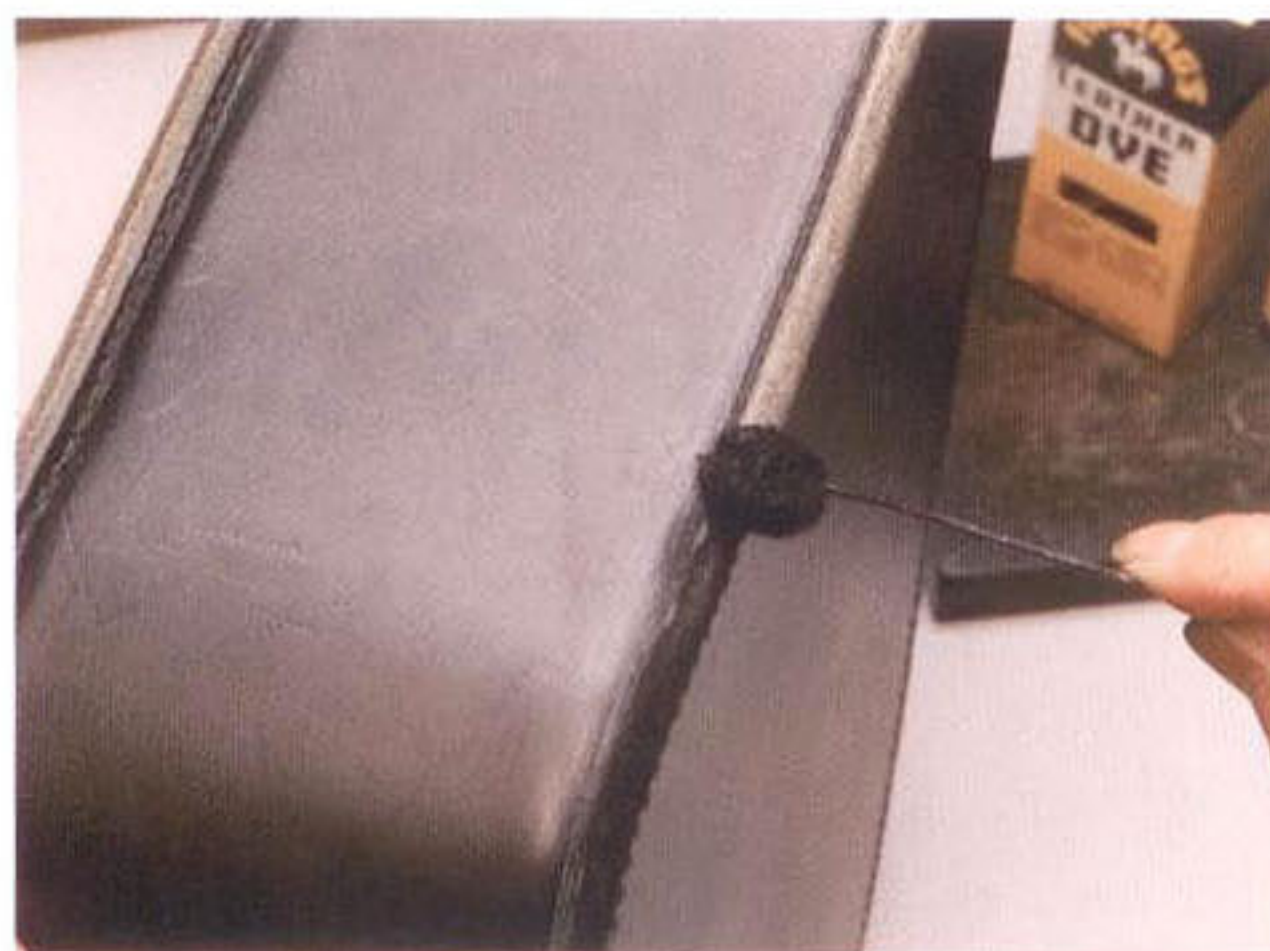
9 縫い始めの部分は、蓋側に2周回してから縫う。
縫う距離が長いので何回かに分けても良い



10 縫い終わりも始めと同じように、蓋側に2周回してから留める



11 縫い終わったら2mm程残して糸を切り、ライター等であぶって焼き留める



12 ヤスリやドレッサーを使って再度面取りをし、染色をする



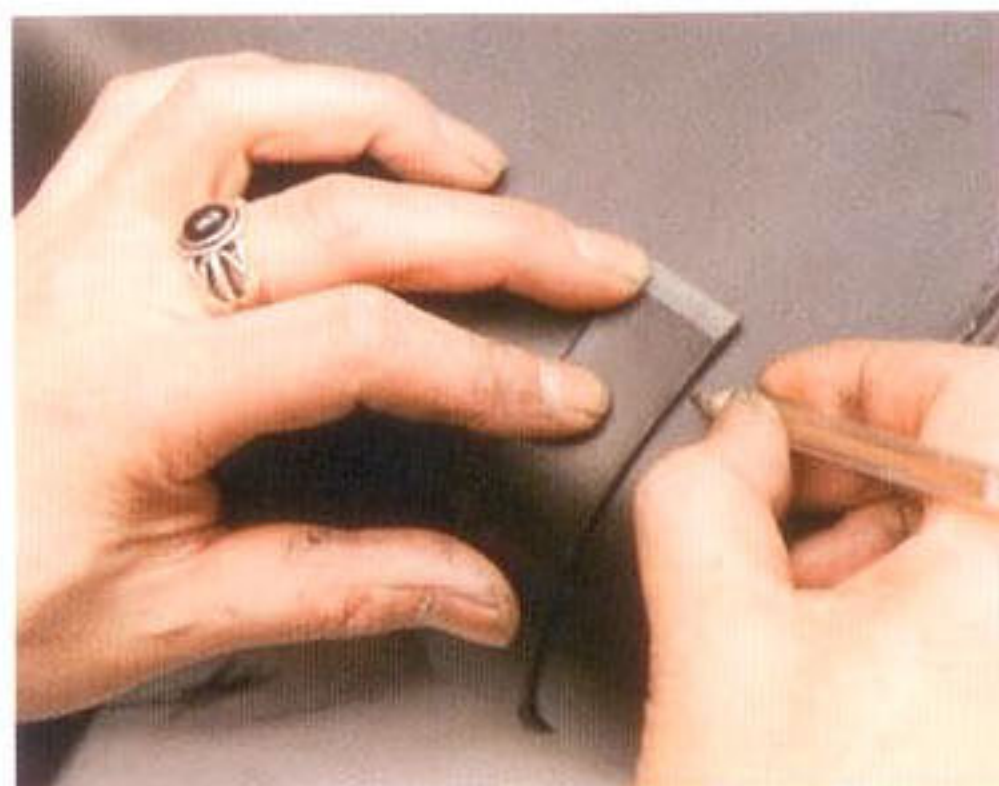
13 ヘチマにトコノールを付けて磨き、ガラスで磨いてコバを仕上げる



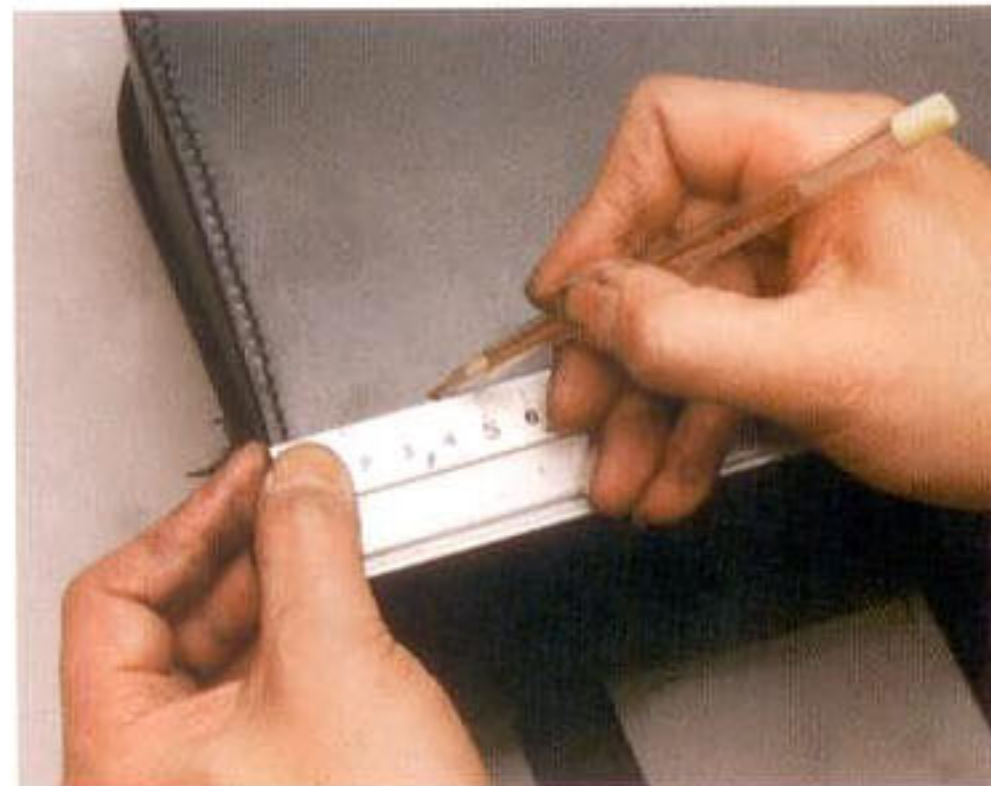
14 コバが仕上がった状態。これで本体は一応完成。
後は残りのベルト類を取り付けていく

ベルトの取り付け②

ベルトのストラップ側を蓋の部分に取り付けていく。バックルとの位置関係を見ながら、取り付け位置を決めていく。



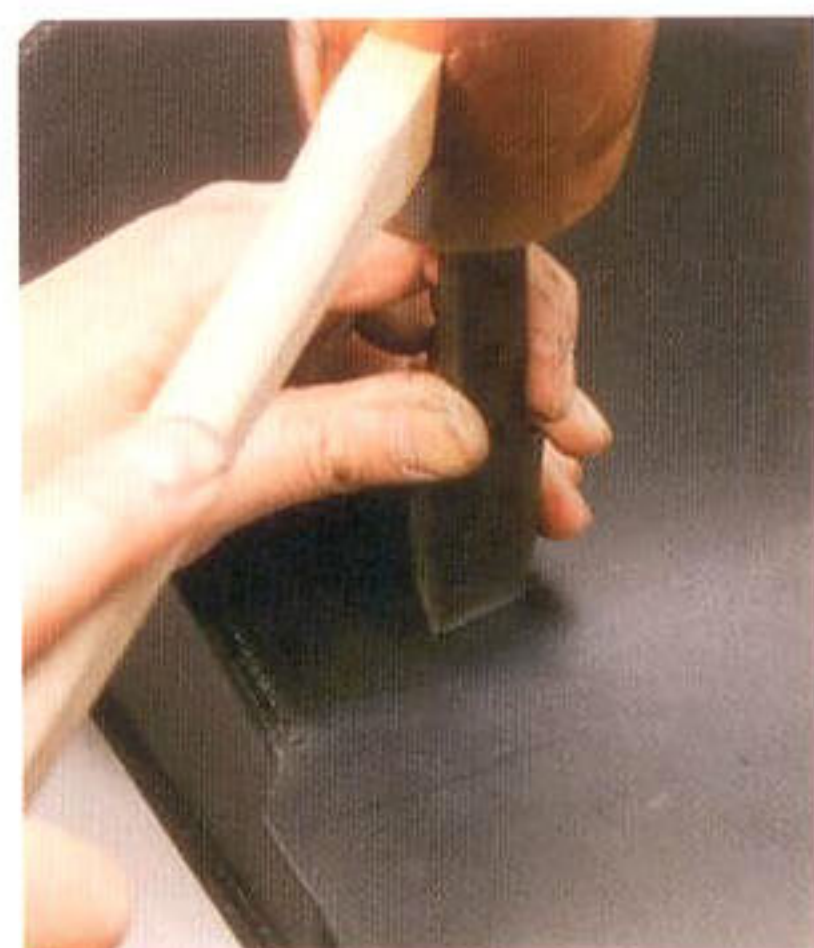
1 バックルと合わせてベルトの取り付け位置を決め、銀ペンで印を付ける



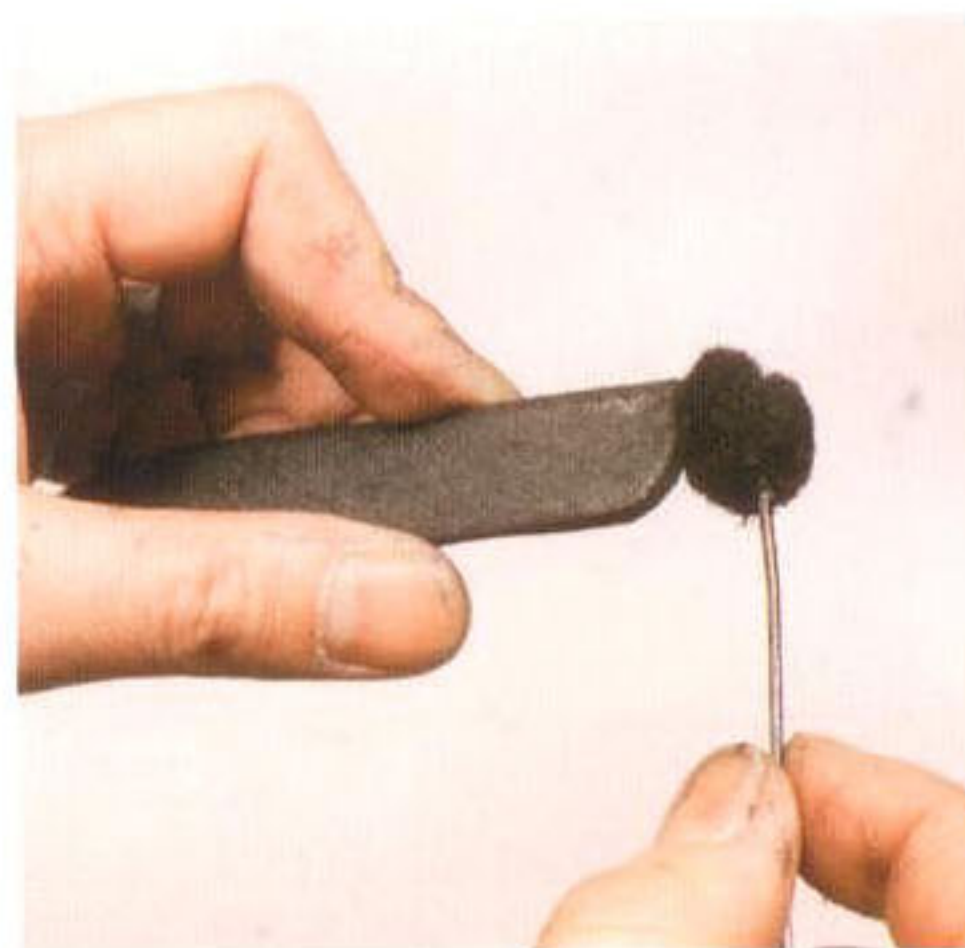
2 バックルの位置ときちんと合うように、定規を使って正確な位置を決める



3 穴を空ける位置、空ける距離をきちんと測り写真のように印を付けておく



4 中に台とゴム板を入れ、ベルト用穴空けを使って穴を空ける



5 ベルトのヘリを落として染色し、コバを磨いて仕上げる



6 穴に合わせてベルトをセットし、長さを決める



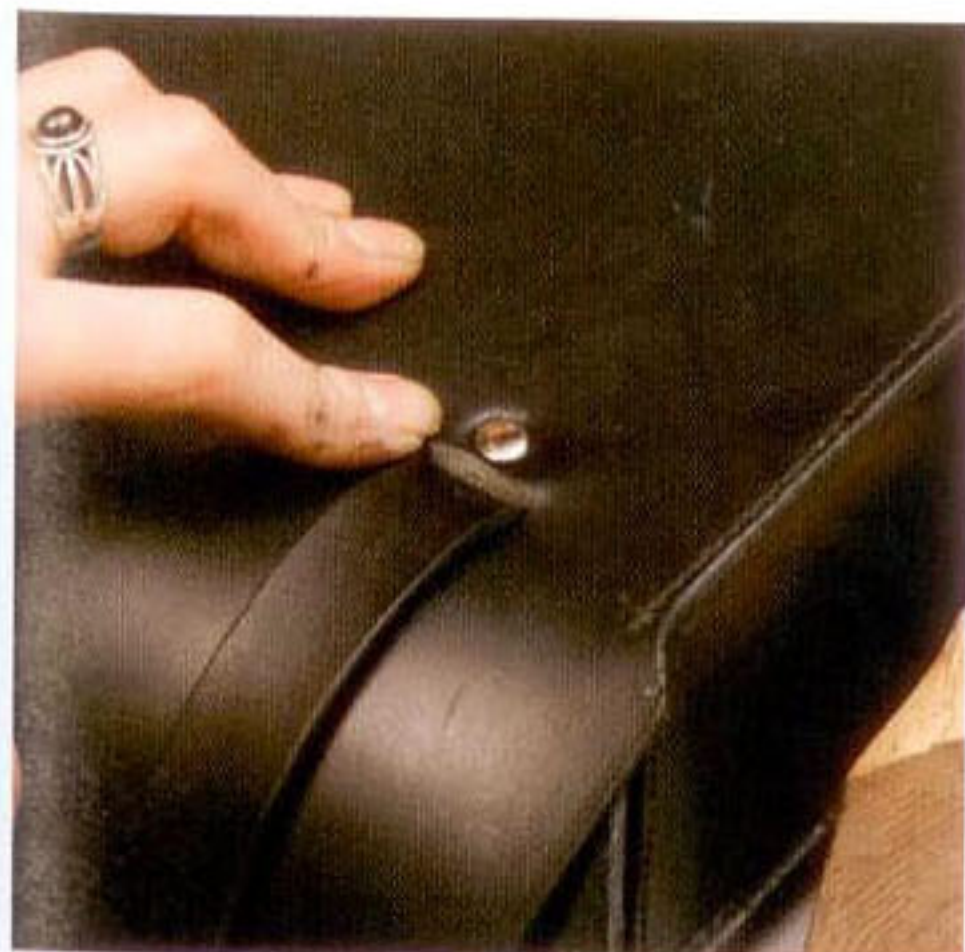
7 ベルトの長さが決まったら、バッグの中に残る部分を確認する



8 本体とベルトにカシメ用の穴を空ける。穴位置がずれないように注意する



9 カシメを打ってベルトを固定する。ベルトはこのカシメだけで固定される



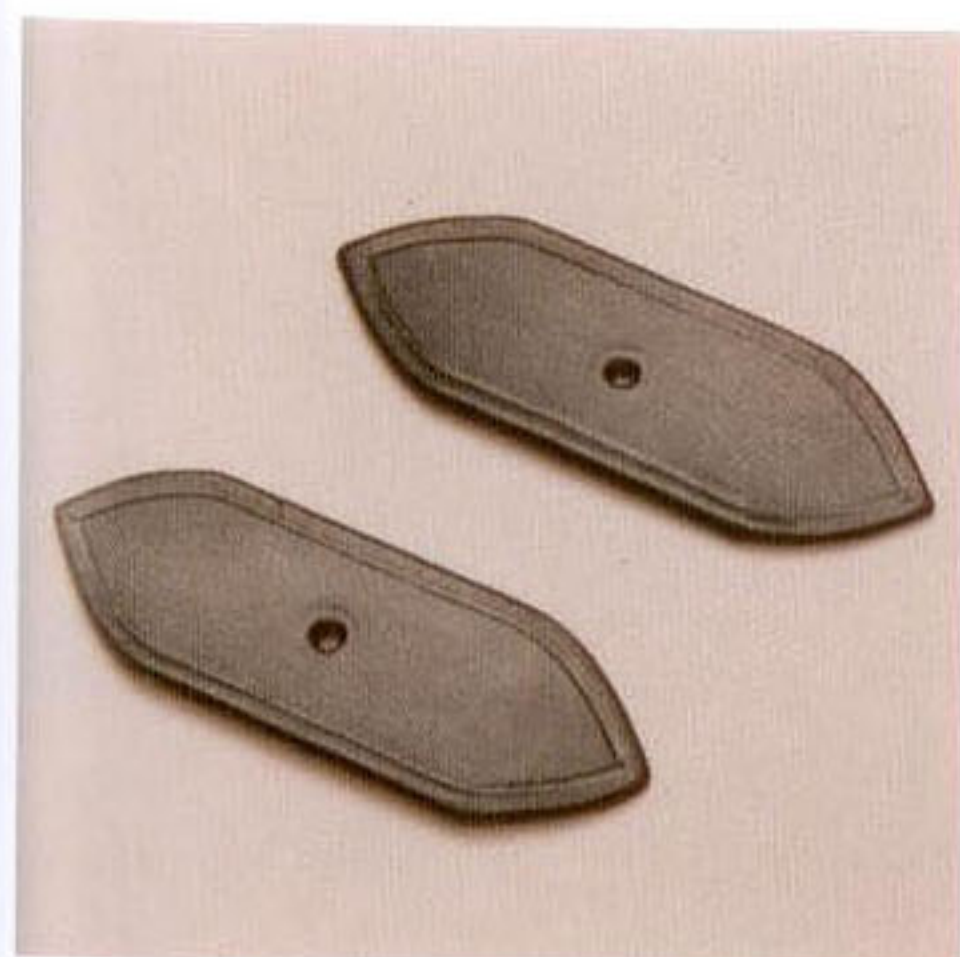
10 ここだけで固定されているので、しっかりとカシメられていることを確認する



11 取り付けたベルトとバックルの位置を確認。問題が無ければもう片側を付ける



12 両方のベルトの先端が、バッグの底から同じ距離に来るように調整する



13 ベルト留めを作る。形はある程度自由で良い。今回はコンチョを取り付ける



14 今回使用したコンチョはカシメ式なので、裏にカシメの受け側をセット



15 ゴム板の上に裏返して置き、カシメ打ちで打ってコンチョを留める



16 ベルト留めの位置を決める。位置を決めたら銀ペンで印を付けておく

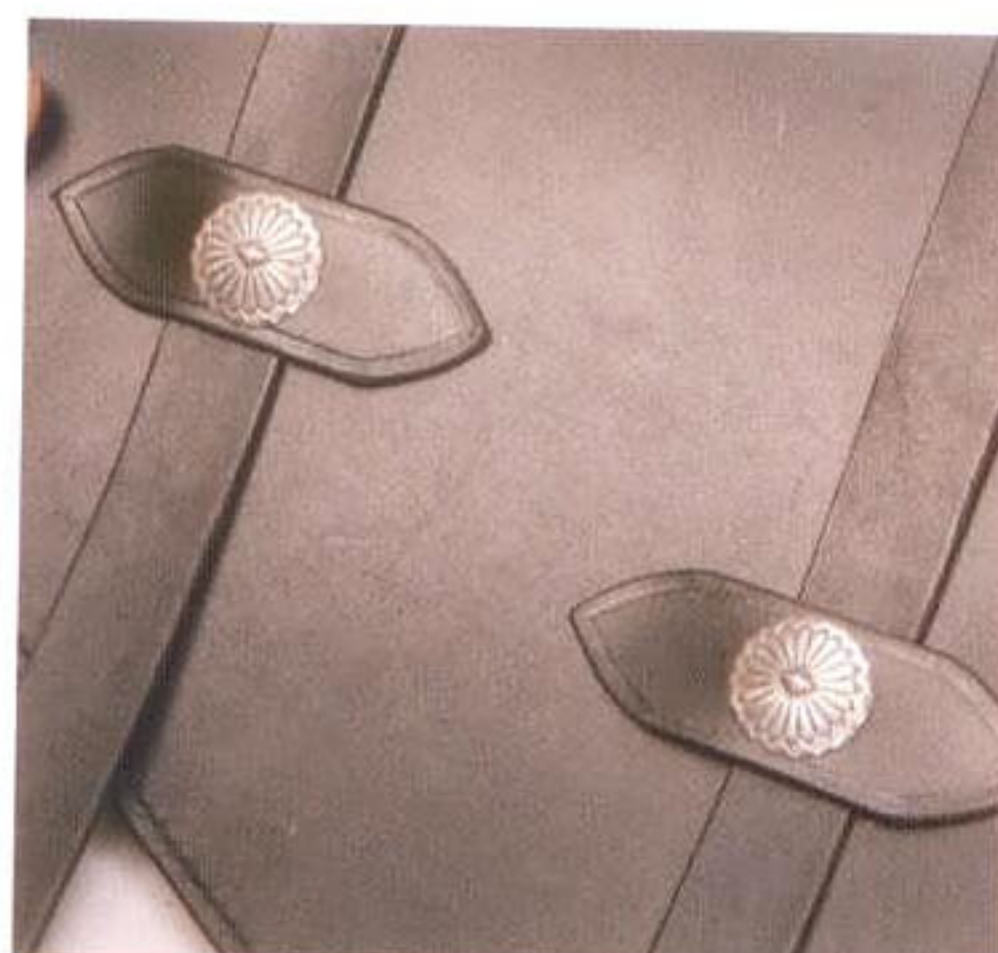
POINT



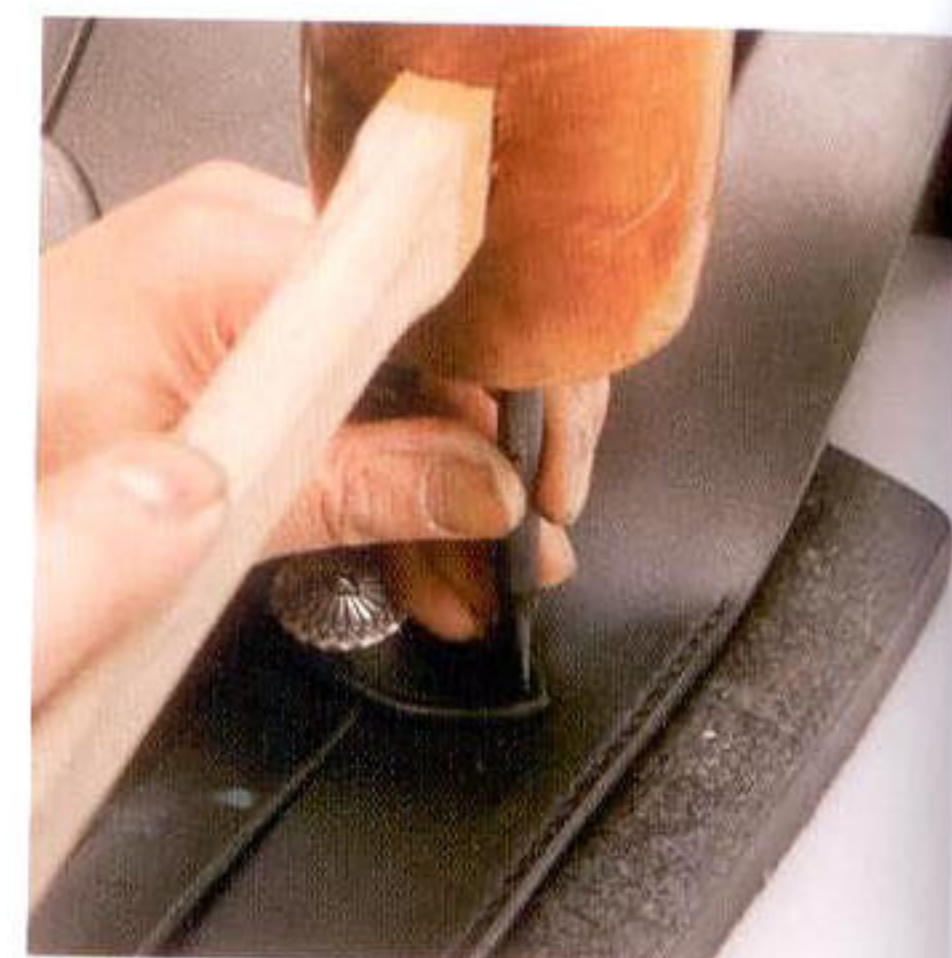
17 銀面には接着剤が付かないので、取り付け位置をドレッサー等で削っておく



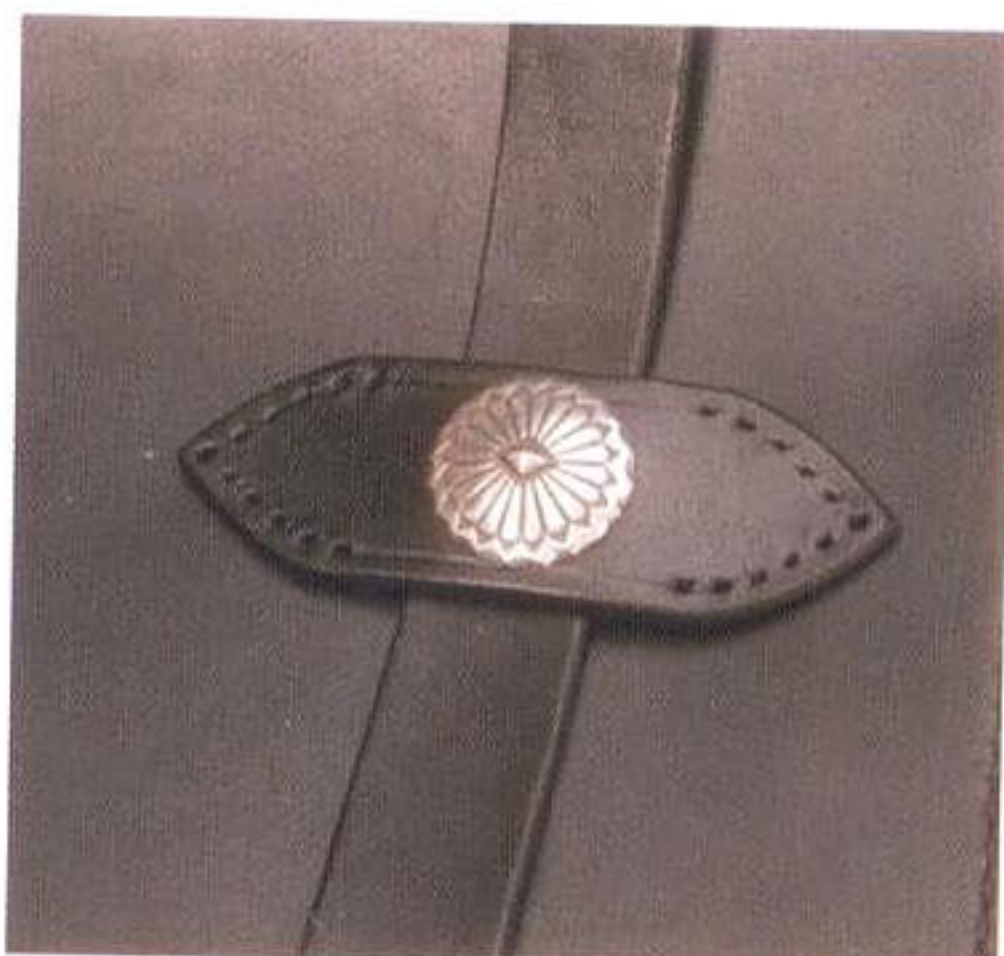
18 ベルト留めの位置を確認しながら銀面を削り、削りすぎないようにする



19 ベルトを通し、ベルト留めを接着。ボンドがベルトに付かないように注意する



20 2.5mmピッチの2本ヒシ目打ちを使い、縫い穴を空けていく



21 縫い穴が空いた状態。ベルトは縫いつけないので、穴を空けないように注意



22 ベルト留めを縫いつける。縫う距離は短い、縫い方は他の部分と同様だ



23 ストラップに空ける留め穴の位置を決める。最初に基準となる穴位置を決める



24 基準の穴から等間隔で穴を空ける印を付けていく



25 印に合わせて穴を空けていく。穴はまっすぐに空けること



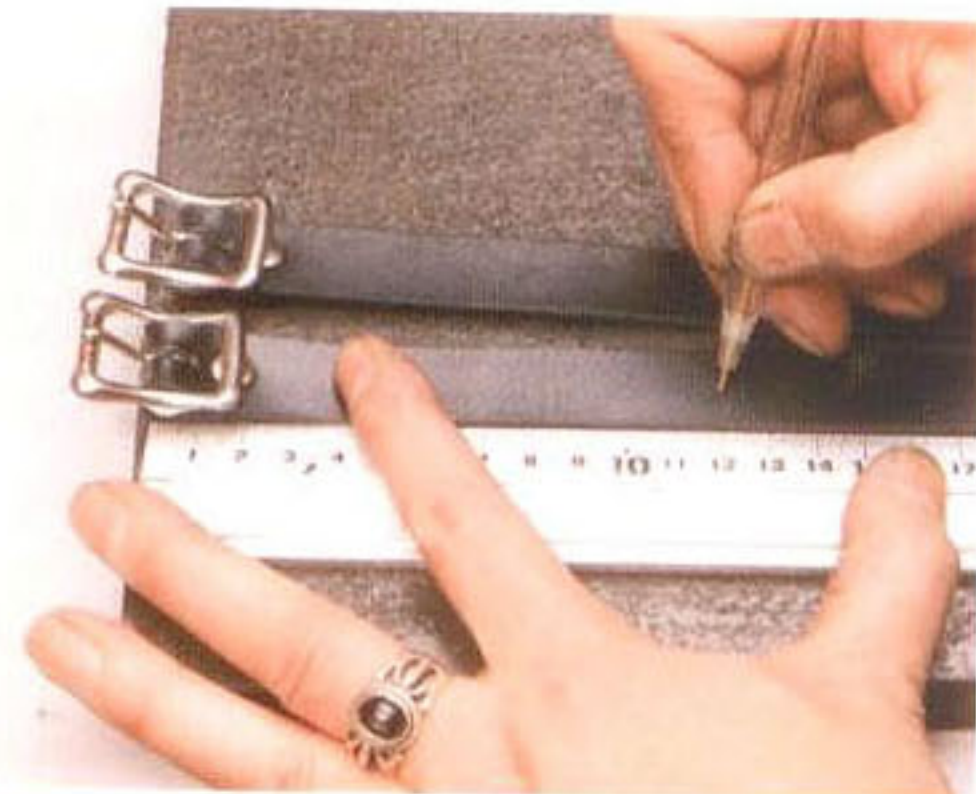
26 穴が空いたらバックルに通し、きちんと閉まることを確認

仕上げ

最後に車体に取り付けるためのベルトを付け、磨いて完成となる。ベルトの位置は車体との現物合わせで決める。



1 取り付け用のベルトを作る。コバを仕上げ、バックル用の穴を空ける



2 バックルをカシメで留めたら、穴を開ける位置に銀ペンで印を付けていく



3 ベルトはこのような状態になる。穴は均等に空けていくこと



4 ベルトを取り付ける位置を決める。位置は車体との現物合わせで決める



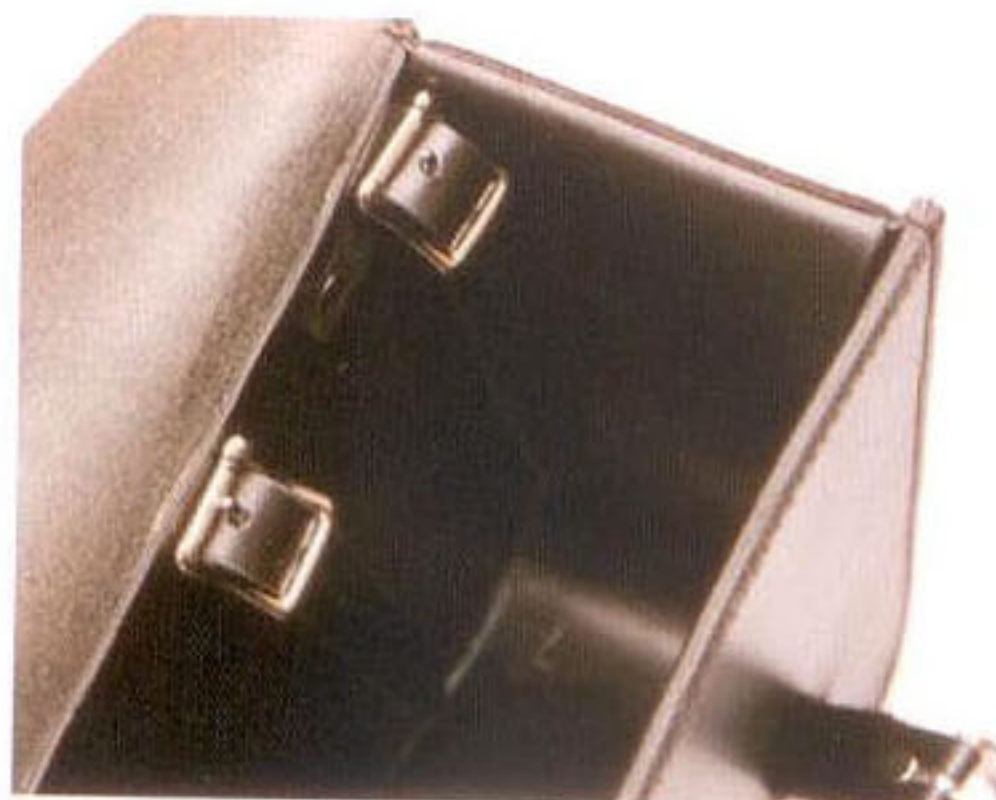
5 位置を決めたら、ベルトの幅に合わせた長穴を開ける



6 横向きのパイプ用の場合、このように縦に2つの穴を開ける



7 バックルがバッグの内側に入るようにベルトをセットする



8 ベルトを留めた状態。バックルを内側にすることで、車体に傷が付かない



9 最後に防水効果の高いミンクオイルを染みこませ、磨いて完成となる

が本場に欲しい物を作る
が原点



原敬士

は美容師だが、自分のために作
めたレザーアイテム製作が高じ、
究の横に「レザークラフトマック」
店。自身がバイカーであるため、
バイカー系アイテムを得意とする

IP INFORMATION



レザークラフトマック

東京都武蔵野市吉祥寺本町2-31-1
営業時間 11:00~20:00 定休日 毎週火曜日・第3水曜日
Tel&Fax 0422-22-4440 URL <http://www.ic-mack.com/>

—アイテムを制作する時に、大切にしていることは何ですか？

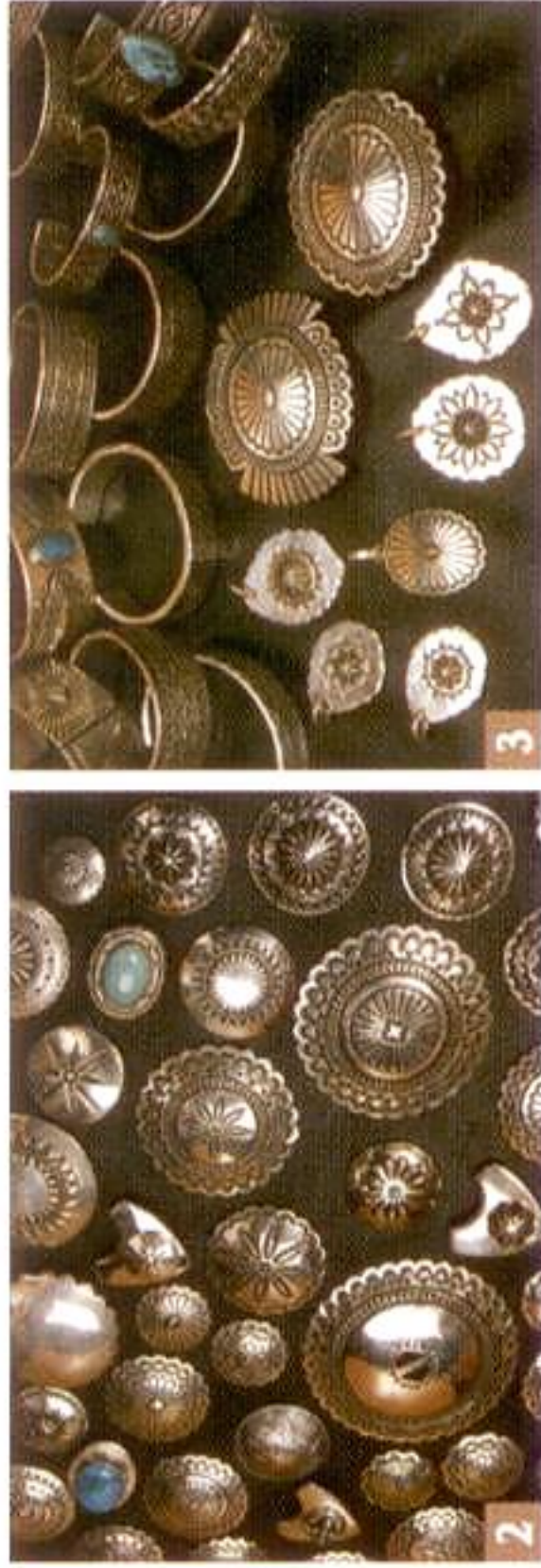
一番大切にしているのは、本場にその人が欲しい物がどんな
物かを理解することです。自分がレザークラフトを始めたきっか
けも、既製品の中に自分の本場に欲しい物が無かったからで
す。オーダーメイドでも作ってみましたが、どうしても自分の理
想通りの物はできあがって来なかったんです。それなら自分で
作ってしまおうということで、自分用の物を作り始めたんです。そ
の後に人から頼まれた物も作り始めて、今では結局お店になっ
てしまいました(笑)。だからウチのお店は基本は全てオーダー
メイドです。

—上達するためにはどうしたら良いのですか？

最初から上手にできる人なんていないと思いますよ。最初はうま
くできなくても、何回も作っているうちに段々うまくなってくるもの
だと思えます。まっすぐに夢目を打っていくのだから、きつと3年
位はかかると思いますよ。簡単な物からでもあせらずにじっくり
と作っていくこと、これが上達のコツだと思いますね。商品とし
て作るのではなく、自分のために作るのであれば時間はいくら
かけてもいいはずです。それが自分で作ることの最大のメリット
なんじゃないでしょうか。

—最後に読者に何かアドバイスをお願いします。

基本がしっかりとできていれば後は応用ですから、まずは基本
をしっかりと覚えてください。



3

2

工具・材料ショップリスト

SHOP

レザークラフトをはじめたいが、どこで工具や材料を買えば良いかわからないという人は、このシ
ョッピングガイドを参考に、数多くの信頼できる革関連製品のシ
ョッピングガイド。大型の大量販売店から個人経営のお店まで、数多くの信頼できる革関連製品のシ
ョッピングガイド。自宅近くにあるショップを見つけたら、早速次の休日にアクセスしてみても良いだろう。

And Leather浅草橋店

東京都台東区浅草橋1-27-3
TEL/FAX: 03-3865-8017 営業時間 10:00~18:30 定休日 日曜
URL: <http://www.l4.plala.or.jp/kutuya/> e-mail: d-west@mail.plala.or.jp
初心者でも気軽に買えるアットホームな革材料店。端切れ革を中心に取り扱い、手頃な価格で
レザークラフトを始めることができる。掘り出し物の珍しい革も格安で用意されている

浅草橋西口店

東京都台東区浅草橋1-24-5
TEL/FAX: 03-3851-8039 営業時間 10:00~19:00 定休日 日曜

日暮里店

東京都荒川区東日暮里5-3-11
TEL/FAX: 03-3805-8041 営業時間 9:30~18:30 定休日 なし

日暮里アネックス店

東京都荒川区東日暮里5-24-1
TEL/FAX: 03-3805-8014 営業時間 9:30~18:30 定休日 なし

ヴィンセス高崎店

群馬県高崎市中居町487番1
TEL: 027-310-6011 FAX: 027-321-2411 営業時間 10:00~20:00
定休日 元旦と年2回の棚卸(未定)の計3日のみ定休(以下の店舗も同じ)
URL: <http://www.vivahome.co.jp/vcs/default.htm>
アート&クラフト専門店のヴィンセスでは、牛・豚革から爬虫類・毛皮等の素材や道具・金具・バ
ーツ類・書籍や大切な作品のケア用品を豊富に揃える。詳しくはサイトを参照(「ヴィンセス」で
検索、もしくは上記URLから)

スーパービバホーム鴻巣店ヴィンセス館

埼玉県鴻巣市大字真田1771番地1
TEL: 048-595-2818 FAX: 048-595-2817 営業時間 9:00~20:00

スーパービバホーム埼玉大井店ヴィンセス館

埼玉県ふじみ野市西鶴ヶ岡1丁目3番15号
TEL: 049-278-7931 FAX: 049-278-7930 営業時間 9:00~20:00

スーパービバホーム三郷店ヴィンセス館

埼玉県三郷市夢倉2丁目111番地
TEL: 048-949-5631 FAX: 048-949-5630 営業時間 9:00~20:00

スーパービバホーム長津田店ヴィンセス館

神奈川県横浜市長津田みなみ台4丁目6番地1
TEL: 045-988-6331 FAX: 045-988-6330 営業時間 10:00~21:00

スーパービバホーム新習志野店ヴィンセス館

千葉県習志野市茜浜1丁目1番2号
TEL: 047-408-2731 FAX: 047-408-2730 営業時間 10:00~

唐澤商店

東京都千代田区外神田4-4-3
TEL: 03-3253-7921 FAX: 03-3253-7922 営業時間 10:00~19:00 定休日 なし
URL: <http://www.kawayu.co.jp/> e-mail: karasawa@as.airnet.ne.jp
日本一の電気街、東京の秋葉原に店を構える革屋。端切れ革から成
が売りのお店。工具やメンテナンス用品、靴の材料も一通り揃っている

株式会社東急ハンズ

URL: <http://www.tokyu-hands.co.jp>

札幌店

北海道札幌市中央区南1条西6-4-1
TEL: 011-218-6111 営業時間 10:00~20:00

渋谷店

東京都渋谷区宇田川町12-18
TEL: 03-5489-5111 営業時間 10:00~20:30

新宿店

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-2 タイムズスクエアビル2F
TEL: 03-5361-3111 営業時間 10:00~20:30

池袋店

東京都豊島区東池袋1-28-10
TEL: 03-3980-6111 営業時間 10:00~20:00

銀座店

東京都中央区銀座2-2-14 マロニエゲート5F~9F
TEL: 03-3538-0109 営業時間 11:00~21:00

横浜店

神奈川県横浜市中区南幸2-13
TEL: 045-320-0109 営業時間 10:00~20:00

名古屋店

愛知県名古屋市中村区名駅1-1-4 JR名古屋タカシマヤ4F
TEL: 052-566-0109 営業時間 10:00~20:00

株式会社東急ハンス

心斎橋店

大阪府大阪市中央区南船場3-4-12
TEL:06-6243-3111 営業時間 10:30～21:00

三宮店

兵庫県神戸市中央区下山手通2-10-1
TEL:078-321-6161 営業時間 10:30～20:30

広島店

広島県広島市中区八丁堀16-10
TEL:082-228-3011 営業時間 10:00～20:00

クラフト・オーケニ

広島県広島市西区天満町13-1 コムス天満1F 無料立体駐車場3台分あり

TEL/FAX:082-292-8941 TEL/FAX:082-292-8947 2回線あり 営業時間 9:00～17:00

定休日 第4土曜日以外の土曜日・日曜日・祝日 事前連絡により、遅くまで開けることも可

URL: <http://www3.ocn.ne.jp/~ookuni/> e-mail: ookuni8322@room.ocn.ne.jp

各種切り革や工具、材料の品揃えはもうろん、ほぼ1回単位で月謝かからないクラフト教室では、電気ペンや皮革染めなども習うことができる。店舗内に古布の専門店もあり

クラフト社 救産店

東京都杉並区救産5-16-15

TEL:03-3393-2229 FAX:03-3393-2228 営業時間 10:00～18:00 定休日 第1・3・5土曜日・日曜・祝日

工具や材料、書籍といったレザークラフトに関する物なら何でも揃うクラフト社。努めているスタッフは、材料、工具の知識はもうろん、技術的な知識も豊富に持っており、何を買えばいいのかわからない初心者にとっても大変親切になるショッパだ

クラフト社 受注センター

東京都葛飾区奥戸4-13-20

TEL:03-5698-5611 FAX:03-5698-5533 営業時間 9:00～17:30

定休日 土曜日・日曜・祝日

クラフトショッパ アイサン

愛知県名古屋市中区城西2-20-17

TEL:052-521-9567 FAX:052-521-9570 営業時間 9:00～18:00 定休日 土曜・日曜・祝日

URL: <http://www.aisan-shoukai.co.jp> e-mail: info@aisan-shoukai.co.jp

カシメやコソチヨ、キーホルダーなどの小物から、各種皮革、工具、染料など、革手芸材料を豊富に取り揃える。レベルに合わせた様々な講習会も開催。アトリエのレンタルも行なっている

クラフトハウス天神店

福岡県福岡市中央区天神2-3-10 天神バインクリスト201号

TEL:092-771-6886 FAX:092-771-6887 営業時間 10:00～18:30 定休日 日曜日・祝日

URL: <http://www.craftthouse.jp/> e-mail: craftman@craftthouse.jp

福岡市の中心地、天神にあるクラフト材料のショッパ。各種革や道具、材料と、併設するホビースタールでレザークラフト、革手縫い講座、革フアッシュリ物講座の3つの教室を開講

クラフトハウス小倉店

福岡県北九州市小倉北区浅野2-12-5

TEL:093-521-2532 FAX:093-521-2544 営業時間 10:00～18:30

定休日 第1・第3日曜日・祝日

クラム

静岡県沼津市高島町13-15

TEL:055-922-2023 FAX:055-922-2079 営業時間 10:00～18:30

定休日 水曜日・第2土曜と翌日曜日 URL: <http://www.shop-gram.com/>

長年の教室や製作のノウハウを活かした、スターターセットやキットなどのオリジナル商品と、アイテム数の多い在庫品をリーズナブルな価格で販売している

THE・MEXICO

URL: <http://www.cmcs.jp/32256/mexico> e-mail: mexico@cbiko.ne.jp

サトルレザー、爬虫類革、道具などを取り揃えているショッパ。KITカラーなど手作りをされるお客様の質問やご希望に対して、スタッフが柔軟に対応してくれる

岡崎店

愛知県岡崎市康生通西2-20-2 シビコ2F

TEL/FAX:0564-24-3493 営業時間 AM10:00～PM19:30

定休日 不定休(年8回)

豊橋店

愛知県豊橋市広小路3-56

TEL/FAX:0532-52-3702 営業時間 AM11:00～PM19:00 定休日 水曜日

seiwa 高田馬場店

東京都新宿区下落合1-1-1

TEL:03-3364-2112 FAX:03-3364-2115 営業時間 9:30～18:00 定休日 日曜・祝日

URL: <http://www.seiwa-net.jp>

昭和23年の創業以来、レザークラフト材料や染色材料の開発と販売、染色スタールを行なう。高品質のクラフトツールが人気で、仕上げ剤や染料等のケミカル商品の開発にも尽力している

seiwa 東急ハンス渋谷店6A

東京都渋谷区宇田川町12-18

TEL/FAX:03-3464-5668 営業時間 10:00～20:30 定休日 なし

総合レザークラフトすずらん

長野県松本市南松本1-2-2

TEL:0263-26-3311 FAX:0263-28-7887 営業時間 10:00～18:00 定休日 無休

URL: <http://www.leather-suzuran.jp/> e-mail: info@leather-suzuran.jp

レザークラフトショッパとして30数年の歴史を持つ老舗。材料、道具類の販売、教室の開催も行ない、インターネット上では工具や革の使い方、作り方のアトリエスをしている

NAKASEN (株式会社 中村千之助商店)

東京都台東区浅草7-2-16

TEL:03-3874-5311 FAX:03-3874-5348 営業時間 9:00～17:30

定休日 土曜・日曜・祭日・年末年始

URL: <http://www.nakasen.co.jp/> e-mail: info@nakasen.co.jp

大正時代よりなめし(製造)や、販売を行なってきた専門店。植物性タンニンなめし革を始め、衣料・袋物などにも用いられるカワリ革な革、環境にやさしいサステナブルレザーなどを揃える

ハンスたわおか福岡店

福岡県福岡市中央区大名1-5-2

TEL:092-713-5088 FAX:092-713-5124

営業時間 月曜～土曜は9:00～18:00/第2・第4日曜日は11:00～18:00

定休日 奇数日曜日・祭日 URL: <http://www.e-hands.jp/> e-mail: n.simo@e-hands.jp

福岡では革の「たわおかさん」と親しまれている老舗。ハッパ用などの金具やコソチヨ類の他に専門書なども取り扱っている。牛革はもうろん、は虫類革も豊富

ハンスたわおか大牟田店

福岡県大牟田市上町1-6-12

TEL:0944-52-4732 FAX:0944-53-4748 営業時間 9:00～18:00

定休日 日曜日・祭日

有限会社 アトリエゆうじん

栃木県小山市城山町3-16-5

TEL/FAX:0285-22-4074 営業時間 10:00～18:00 定休日 日曜・月曜・祝日

URL: <http://www.yuujin.com/> e-mail: chiflon-25-ya@image.ocn.ne.jp

レザークラフト材料店として31年間営業し、教室も併設している老舗のレザー用品店。金具、タンニンなめし革を豊富に取り揃えている

有限会社 いづみ恒商店(手芸部)

福岡県福岡市博多区奈良屋町9-20

TEL:092-281-4803 FAX:092-281-4190 営業時間 9:00～18:00 定休日 日曜日・祝日/第2・4土曜日

URL: <http://www.izumikou.com/> e-mail: syujie@izumikou.com

真鍮金具をはじめ、サドルレザーや爬虫類の皮革など、品揃えの多さにびくろ。革、工具、材料を一通り揃えることができるため、初心者からプロまで納得の老舗専門店

有限会社 浜松クラフト

静岡県浜松市中区早馬町2-7

TEL:053-452-2089 営業時間 月～土曜日 9:00～17:00/日曜日 10:00～17:00 定休日 祝祭日

URL: <http://www.hamamatsucraft.com/> e-mail: hanakura@cocoa.ocn.ne.jp

静岡県浜松市の老舗材料専門店。工具、材料類はもうろん、鞆の修理やオリジナルの烙印も製作してくれる。手縫いを始める人には、道具、縫針の使い方を店頭で説明してくれる

有限会社 レザーメイトさとう

東京都台東区柳橋2-8-5

TEL:03-3866-0166 FAX:03-3866-0167 営業時間 9:30～18:00/土曜9:30～17:30

定休日 日曜・祝日 URL: <http://www.w-up.com/sato/index.htm>

e-mail: leather-mate.sato@w6.dion.ne.jp

革素材の種類と在庫量はとにかく豊富。アルマシロや象などの珍しい革や、アサリヤラム、アラウヤなどの毛皮も揃う。可愛いオリジナルの革小物も人気

ユザワヤ蒲田店

東京都大田区西蒲田8-4-12

TEL:03-3734-4141(代表) FAX:03-3730-6666 営業時間 10:00～19:00

定休日 年中無休(糊印のため臨時休業あり・以下の店舗も同じ)

URL: <http://www.yuzawaya.co.jp/>

初心者にお勧めの手縫いレザーキットから、上級者まで幅広く取り揃えている。カシメやハトメなどの副資材も

ユザワヤ吉祥寺店

東京都武蔵野市吉祥寺南町2-1-25

TEL:0422-79-4141(代表) FAX:0422-41-8

営業時間 10:00～21:00(4～5月・10～12月)

定休日 年中無休

ユザワヤ蒲田店

埼玉県さいたま市浦和区高砂2-5-14

TEL:048-834-4141(代表) FAX:048-832-8

定休日 年中無休

ユザワヤ大和店

神奈川県大和市大和東1-2-1

TEL:046-264-4141(代表) FAX:046-261-8

定休日 年中無休

ユザワヤ津田沼店

千葉県習志野市谷津7-1

TEL:047-474-4141(代表) FAX:047-472-8

定休日 年中無休

ユザワヤ神戸店

兵庫県神戸市中央区三宮町1-3-26

TEL:078-393-4141(代表) FAX:078-321-5

定休日 年中無休

レザークラフト・タカタ(高田革工房)

広島県広島市中区鞆町12-20 鞆雷ビル2階

TEL:082-222-5340 FAX:082-222-5657 営業時間 10:00～

URL: <http://www.kawakobo-kt.com/> e-mail: kt-kobbo@

レザークラフト材料販売専門の店舗と、皮革工芸教室を工程・技術的なことについての相談にも丁寧に対応してく

レザークラフト ばれっと

愛知県名古屋市長区緑区池上台3-110-27

TEL/FAX:052-892-6075 営業時間 11:00～18:00 定休日 月

URL: <http://p-leather.net/> e-mail: palette@p-leather.net

オリジナルレザークラフトキットや革小物、工具、材料をに説明してくれる。バイカーグッズの製作にも対応してい

レザークラフト フェニックス

大阪府大阪市浪速区教津東1-4-17

TEL:06-5632-1327 FAX:06-5643-7391 営業時間 9:00～

URL: <http://www.l-phenix.jp/> e-mail: kaz@wonder.ocn

レザークラフト用革材料、道具類、パツクル、金具、アッリ揃えている。初心者からプロまで安心して来店できる

き加工。クラフト教室、カーヒンク教室などのイベントの